

あり ^ま 有 馬 遺 跡 I

奈良・平安時代編

おお ^く ^ほ 大 久 保 B 遺 跡

—関越自動車道(新潟線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第26集—

1989

群馬県教育委員会
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

あり^ま馬遺跡 I

奈良・平安時代編

おお^くほ^ほ大久保 B 遺跡

—関越自動車道(新潟線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第26集—

1989

群馬県教育委員会
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



天部形立像



出土陶磁器

序

関越自動車道新潟線は、太平洋側の首都東京と日本海側の新潟市を結ぶ高速自動車道として、昭和60年10月1日に開通いたしました。本道路の開通に際しては、数多くの埋蔵文化財が、事前の道路建設工事に先だって調査されました。本県でも58箇所の埋蔵文化財蔵地が発掘調査され、記録保存されています。

本報告による有馬遺跡は、渋川市有馬、また大久保B遺跡は北群馬郡吉岡村大久保に所在する埋蔵文化財蔵地であり、昭和57年1月から昭和59年1月にかけて、当事業団が調査しました。両遺跡は、弥生時代の墳墓・住居・古墳時代の畠、古墳時代から平安時代にかけて継続的に営まれた集落跡等が調査され、古代における本県の歴史を知る上での数々の貴重な資料が得られました。これら資料は昭和62年9月から、報告書作成のための整理作業が行われました。そして古墳時代後期に大爆発した榛名山二ツ岳の火山灰が、降下して堆積したFA層より上層にある遺構について整理が完了し、ここに有馬遺跡の第1分冊としての報告書を作成することができ、併せて大久保B遺跡も本報告書にて報告することになりました。

発掘調査から報告書の作成に至るまで、日本道路公団東京第二建設局、群馬県教育委員会、渋川市教育委員会、吉岡村教育委員会、地元関係者等から種々のご援助、ご指導、ご協力を賜りましたことに対し、深甚なる感謝の意を表し、併せて本報告書が広く県民各位、研究者、教育機関等に活用され、本県の歴史を解明するための資料として、役立てられることを願い序とします。

平成元年5月20日

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 清水一郎

例 言

1. 本書は関越自動車道（新潟線）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。本書は有馬遺跡Ⅰ・Ⅱ、全2冊の内、奈良・平安時代編、大久保B遺跡「有馬遺跡Ⅰ・大久保B遺跡」であり、有馬遺跡弥生時代編「有馬遺跡Ⅱ」とはF A降下以前、以後により分けてある。
2. 調査地域は有馬遺跡が群馬県渋川市有馬から八木原に至る地域であり、大久保B遺跡は北群馬郡吉岡村大久保字宮・十石塚である。
3. 発掘調査は有馬遺跡が昭和57年1月から昭和57年11月、昭和58年3月から59年1月までの二度にわたり実施され、大久保B遺跡は昭和57年12月から昭和58年2月まで実施された。
4. 事業主体者 日本道路公団
5. 調査主体者 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
6. 整理主体者 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
7. 発掘調査担当者
有馬遺跡
佐藤明人 関根慎二 神谷佳明 山口逸弘 大西雅広 友廣哲也
大久保B遺跡
佐藤明人 山口逸弘 友廣哲也
8. 発掘調査、整理事業に関わった財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団事務局職員
小林起久治 白石保三郎 邊見長雄 井上唯雄 松本浩一 大澤秋良 田口紀雄 上原啓己 神保侑史
近藤平志 定方隆史 住谷進 平野進一 真下高幸 国定均 笠原秀樹 小林昌嗣 須田朋子 吉田有光
柳岡良宏 並木綾子 野島のお江 吉田笑子 吉田恵子 今井もと子 松井美智子 角田みづほ
9. 本書作成の整理作業は昭和62年10月より平成元年5月まで行った。
10. 整理担当職員
調査研究員 友廣哲也
補 助 員 大友美代子 金子ひろ子 狩野君江 狩野フミ子 小林恵美子 藤原富子 下境マサ江
高柳哲子 南雲素子 茂木範子 吉田文子
11. 本書中の人骨鑑定及び原稿は森本岩太郎氏、吉田俊爾氏（聖マリアンナ医科大学）、石材鑑定は飯島静男氏（群馬地質学協会）に依頼し、金銅像は平尾良光氏（東京国立文化財研究所）、浅井和春氏（東京国立博物館）に鑑定及び原稿をお願いした。また、陶磁器については本事業団調査研究員大西雅広がこれにあたった。
12. 本書作成にあたっては次の方々から御助言、御指導をいただいた。
浅井和春 新井房雄 飯島静雄 早乙女雅博 十菱駿武 玉口時雄 平尾良光 本村豪章 森本岩太郎 吉田俊爾
13. 本書の執筆者
平尾良光
森本岩太郎
吉田俊爾

大西雅広

友廣哲也

14. 本書に使用した遺物写真は宇貫達男氏（タツミ写真スタジオ）に依頼した。また遺構写真撮影は調査担当者が行った。
15. 金属製品の保存処理は、関邦一技師、北爪健二嘱託員、小村浩一補助員がこれにあたった。
16. 本書に用いた地図は、国土地理院「前橋」「榛名山」1：50,000である。
17. 発掘調査・整理作業に関係する史・資料は総て群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。
18. 本書の編集は友廣哲也が行い、本文の執筆はことわりがない限り友廣哲也が行った。

凡 例

1. 本報告書は有馬遺跡奈良・平安時代を対象としている。弥生・古墳時代編とはFA降下以前、以後により分けてある。
2. 住居跡の番号は発掘調査の順番を示し、時代、時間を示さない。
3. 本書中の遺構の縮尺は住居跡が $\frac{1}{2}$ であり、竈図は $\frac{1}{4}$ である。遺構によってはその限りでない。その場合は図版中に縮尺を付してある。
4. 本書中の遺物の縮尺は土器は $\frac{1}{2}$ 、石は $\frac{1}{4}$ 、鉄製品は $\frac{1}{2}$ が基本であり、縮尺の異なる物については図版中に付してある。
5. 遺物図版中の土器番号は遺構図版の土器番号と同一である。
6. 土器の色調は「標準土色帳」農林省農林水産技術会議事務所・財団法人日本色彩研究所監修によった。
7. 遺構についての計測は以下、図に示したとおりである。

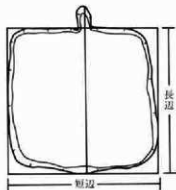


Fig.1 凡例

目 次

序
例 言
凡 例

有 馬 遺 跡

第1章 発掘調査の経緯と調査過程	3
第1節 発掘調査の経緯と調査過程	3
第2節 立地と周辺の遺跡	3
第3節 調査の方法	5
第4節 基本層序	6
第2章 検出された遺構と遺物	7
第1節 竪穴住居跡	7
1号住居跡	7
2・3号住居跡	8
4号住居跡	9
5号住居跡	10
6号住居跡	11
8号住居跡	12
9号住居跡	15
10号住居跡	16
11・12号住居跡	18
13号住居跡	21
14号住居跡	23
15号住居跡	23
16号住居跡	25
17号住居跡	27
18号住居跡	29
19号住居跡	30
20号住居跡	31
21号住居跡	33
22号住居跡	34
23号住居跡	37
24号住居跡	38
25・26号住居跡	39
27号住居跡	42
28号住居跡	42
29号住居跡	43
30号住居跡	45
31号住居跡	46
32号住居跡	47
33号住居跡	48
34号住居跡	49
35号住居跡	51
36号住居跡	53
37号住居跡	54
38号住居跡	56
40号住居跡	57
41号住居跡	59
42号住居跡	62
43号住居跡	63
44号住居跡	65
46号住居跡	66
47号住居跡	66
48号住居跡	66

50号住居跡	67	107号住居跡	125
51号住居跡	69	108号住居跡	129
52号住居跡	70	109号住居跡	131
53号住居跡	72	110号住居跡	132
55号住居跡	75	111号住居跡	134
56号住居跡	76	112・143号住居跡	135
57号住居跡	77	113号住居跡	138
58号住居跡	78	114号住居跡	139
59号住居跡	79	115号住居跡	141
60号住居跡	82	116号住居跡	144
61号住居跡	83	117号住居跡	145
62号住居跡	84	118号住居跡	146
63号住居跡	86	119号住居跡	148
64号住居跡	88	120号住居跡	150
65号住居跡	89	121号住居跡	152
67号住居跡	90	122号住居跡	155
68号住居跡	91	123号住居跡	155
69号住居跡	91	124号住居跡	157
70号住居跡	92	125号住居跡	158
71号住居跡	93	126号住居跡	159
79号住居跡	94	127号住居跡	160
80号住居跡	95	141号住居跡	161
81号住居跡	96	129号住居跡	164
92号住居跡	97	130号住居跡	165
93号住居跡	100	131号住居跡	167
94号住居跡	101	132・133号住居跡	168
95号住居跡	103	134号住居跡	170
96号住居跡	104	135号住居跡	172
97号住居跡	107	136号住居跡	174
98号住居跡	109	137号住居跡	176
99号住居跡	112	138号住居跡	177
100号住居跡	114	139号住居跡	180
101号住居跡	114	140号住居跡	181
102号住居跡	116	145号住居跡	183
103号住居跡	118	146号住居跡	185
104号住居跡	121	147号住居跡	187
105号住居跡	122	148・171号住居跡	188
106号住居跡	125	149号住居跡	191

150・184号住居跡	193	172号住居跡	231
151号住居跡	197	173号住居跡	232
152号住居跡	198	174号住居跡	233
153号住居跡	200	175号住居跡	234
154号住居跡	203	176号住居跡	236
155号住居跡	205	177号住居跡	238
156号住居跡	207	178号住居跡	240
157号住居跡	208	179号住居跡	241
159号住居跡	209	181号住居跡	242
160号住居跡	211	182号住居跡	243
161号住居跡	213	183号住居跡	244
162号住居跡	215	186号住居跡	245
163号住居跡	216	187号住居跡	246
164号住居跡	218	188号住居跡	247
165号住居跡	219	189号住居跡	248
166・167号住居跡	222	190・191号住居跡	249
168号住居跡	225	193号住居跡	253
169号住居跡	228	194号住居跡	254
170号住居跡	230		
第2節 土坑	257		
第3節 墓 塚	268		
第4節 溝	270		
第5節 井 戸	273		
第6節 掘立柱建物跡	288		
第3章 淡川市有馬遺跡出土の平安時代および中世人骨について (森本岩太郎・吉田俊爾)	289		
第4章 有馬遺跡出土天部形立像 非破壊蛍光X線分析法による有馬遺跡出土天部形立像	295 296		
第5章 有馬遺跡出土の陶磁器 (大西雅広)	298		

大久保 B 遺跡

第1章 検出された遺構と遺物	
第1節 竪穴住居跡	
1号住居跡	315
2号住居跡	317
3号住居跡	321
4号住居跡	323
5号住居跡	325
6号住居跡	326
第2節 土坑・溝・井戸	328
第3節 掘立柱建物跡	329
第2章 陶磁器（大西雅広）	330

有馬遺跡

第1章 発掘調査の経緯と調査過程

第1節 発掘調査の経緯と調査過程

有馬遺跡の発掘調査は昭和57年1月に開始された。関越自動車道開通昭和60年をめざし埋蔵文化財の発掘調査が開始された。群馬県下では藤岡市・多野郡新町・佐波郡玉村町・高崎市・前橋市・群馬郡群馬町・北群馬郡吉岡村・渋川市・勢多郡北横村・同郡赤城村・利根郡昭和村・沼田市・利根郡月夜野町・同郡水上町の14市町村が通過対象となった。この対象地の間55遺跡の存在を確認した。有馬遺跡は渋川市に所在し南から22番目の埋蔵文化財包蔵地で（KK22）と通称された。

当遺跡は4世紀の浅間山噴火（浅間山C軽石）に伴う火山災害を始め5世紀後葉から6世紀前半に2度の榛名山噴火に伴う火山災害（二ツ岳FA・FP）があり、また11世紀（天仁元年、1101）と考えられている浅間山の噴火（浅間山B軽石）等たび重なる火山災害により遺構確認面は多面に亙っている。この中でも特に奈良・平安時代の調査面は6世紀の泥流の上に構築されていた。この泥流はFPF1と呼ばれ、2mに近い堆積であった。

有馬遺跡は昭和57年に調査が開始され同年11月に中断し、58年3月から59年1月をもって終了した。有馬遺跡中断中57年12月から58年2月の間大久保遺跡の調査を終了した。調査の経過は以下に概要を記す。

昭和57年1月からトレンチをいれ同年3月までの終了をめどに調査対象面積28,000㎡のうち4,000㎡を対象としてF区の調査を開始した。先述した火山災害面を確認しながらの調査は奈良・平安時代住居跡の確認さらにFAに覆われる畠の面を確認した。

昭和57年4月から同年11月の間、F区の調査に加え調査区の東側に沿う制道部F区北側、G区北側のカルパートボックス部の調査を開始した。B軽石面の畠を確認さらに奈良・平安時代の住居跡を確認した。また、FAに覆われた畠、古墳・弥生時代の住居跡、礎床墓、浅間山C軽石が混入する畠等の遺構を確認した。

昭和58年から59年1月の間、関越自動車道本線部をさらに追加して調査を開始する。FPF1上面に奈良・平安時代の住居跡、井戸、溝、畠、土坑等の遺構を検出、またFAに覆われた畠、古墳・弥生時代住居跡、礎床墓等の遺構を検出した。

これにより有馬遺跡の発掘調査を終了する。

第2節 立地と周辺の遺跡

有馬遺跡はJR上越線八木原駅の西方約0.7kmの地点、榛名山の中腹を源とする小河川によって形成された扇状地に位置している。遺跡の東方約2kmには利根川が南流し、北方約0.5kmに午王川、南方約0.4kmに滝沢川が流れ、標高約177mを前後しながら東北に緩やかに傾斜している。

有馬遺跡周辺では縄文時代から中世に至る遺跡が調査され特に本報告書に報告のある奈良・平安時代の遺跡は北側に接して調査された有馬条里遺跡(1)、南西約0.5kmにある有馬庵寺遺跡(2)がある。有馬寺は奈良時代に建立されたとされ寺域内に推定されている。昭和62年に渋川市教育委員会によって調査され、多数の瓦が検出されている。寺は「日本書紀」「和名抄」に見られる阿利真君の本拠と考えられている。有馬条里遺跡では条里遺構は確認できなかったが奈良・平安時代における集落、墓跡等資料の報告がある。また有馬条里

第1章 発掘調査の経緯と調査過程

遺跡に北接して調査された中村遺跡(3)でも奈良・平安時代の好資料が認められた。とくに中村遺跡では天明3年に噴火した浅間山泥流により埋没した畠跡が検出された。また周辺地域では縄文時代からの遺跡も多数検出され空沢遺跡(4)では中期加曾利E期の敷石住居跡を含む数十軒の集落跡が検出されている。行幸田遺跡(5)でも中期集落跡の報告がある。弥生時代終末から古墳時代に至る資料としては、以上3遺跡に加え行幸田山遺跡(6)、空沢遺跡、愛宕塚遺跡(7)で墓跡、禪床墓、古式古墳等が検出され、集落遺跡としては中筋遺跡(8)が特筆される。古墳は榛名山系から東へ張り出した台地先端部には十数基の円墳よりなる行幸田古墳群や空沢遺跡で検出されている。

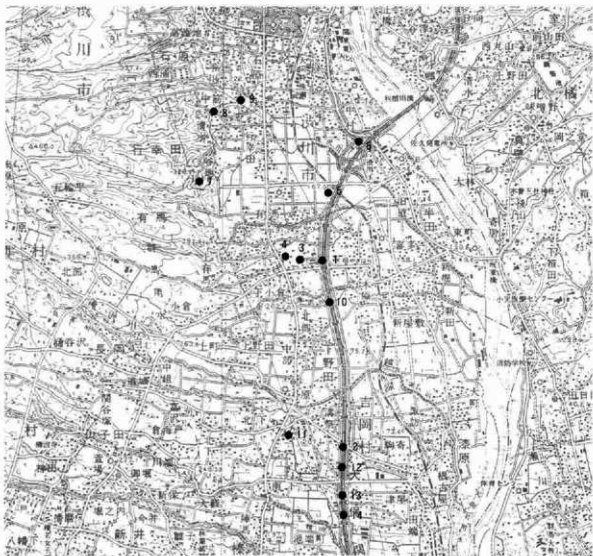


Fig. 2 有馬遺跡・大久保B遺跡周辺遺跡

No	遺跡名	遺跡の概要	文献
1	有馬遺跡	本報告の遺跡	
2	大久保B遺跡	本報告の遺跡	
3	愛宕塚遺跡	弥生～歴史時代集落址	S55、澁川市教育委員会調査
4	有馬院寺遺跡	有馬寺推定地	澁川市教育委員会1988、3

5	有馬桑里遺跡	弥生～歴史時代集落址、墓址、生産址	有馬桑里遺跡、澁川市教育委員会1983、S57～59、当事業団調査
6	中村遺跡	弥生～歴史時代集落址、墓址、生産址、江戸時代畑址	澁川市教育委員会、1986
7	行幸田山遺跡	縄文時代集落址、古墳、中世葬址	行幸田山遺跡、澁川市教育委員会1987、3

8	中筋遺跡	縄文～歴史時代集落址、墓址、生産址	S 50, 61, 渋川市教育委員会調査
9	空沢遺跡	縄文～歴史時代集落址、古墳	S 53～55, 58～60 渋川市教育委員会調査
10	滝沢古墳	古墳	七日市遺跡、滝沢古墳、女塚遺跡、吉岡村教育委員会、1986

11	南下古墳群	古墳	群馬県史、資料編3 群馬県
12	大久保A遺跡	歴史時代集落址	七日市遺跡、滝沢古墳、女塚遺跡、吉岡村教育委員会、1986
13	女塚遺跡	歴史時代集落址	七日市遺跡、滝沢古墳、女塚遺跡、吉岡村教育委員会、1986
14	七日市遺跡	歴史時代集落址	七日市遺跡、滝沢古墳、女塚遺跡、吉岡村教育委員会、1986

第3節 調査の方法

グリッド設定法 関越自動車道の建設予定区域は幅員約80mである。路線内中央には建設工用測量杭が設置されている。この杭の内 S T A 262～266の間が有馬遺跡の調査範囲である。遺跡は座標系第IX系に属している。このためグリッドの設定は国家座標第IX系東西+51.5をE区00ラインとし、2メートル間隔で西に向かうごとに1番づつ増えていく。南北もこれに習い北に向かうごとに番号が増えていく。南北はまた50mごとにアルファベットが進んで行くことになる。つまり30 E 00から30 E 49の次は30 F 00になるという具合である。

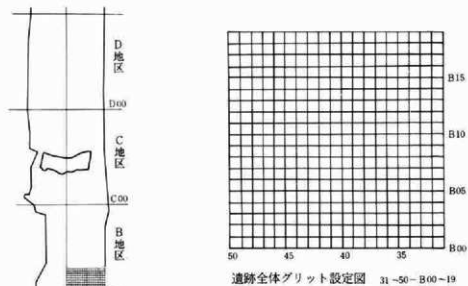


Fig. 3 グリッド設定法

第4節 基本層序

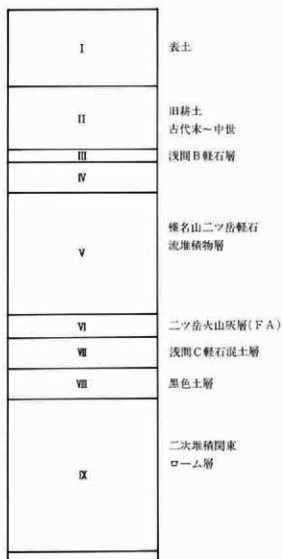


Fig. 4 有馬遺跡基本層序

有馬遺跡一帯は淡川市の中心部から南東に位置している。北に隣接する有馬条里遺跡では、ローム層が明確に認められず、砂礫層が広がっており、おそらく河川により浸蝕されているものと考えられる。当遺跡では河川の浸蝕は及ばなかったようでローム層が基盤層として確認されている。以下各層位を略述したい。

- I層 表土
- II層 古代末～中世期に及ぶ耕作面
- III層 浅間山B軽石層（天仁元年、1108年の噴出）
- IV層 黒色土層
- V層 榛名山二ツ岳泥流、当遺跡では2～3mの厚さで確認されている。
- VI層 榛名山二ツ岳噴出火山灰（FA）
- VII層 浅間C軽石と黒色土の混土層
- VIII層 黒色土層
- IX層 関東ローム層

第2章 検出された遺構と遺物

第1節 竪穴住居跡

1号住居跡 (Fig. 5・6, PL. 1・68)

F区南東部に位置し34F9・10の範囲にある。2・3号住居跡の南西にあり、北東部で4号住居跡、西半部で1号溝と重複する。新旧関係は4号住居跡より新しく1号溝より古い。このため長辺、短辺、また主軸方位も不明であるが東壁は約2.6mを測る。竈は検出されていない。床面は軟弱で壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。



Fig. 5 1号住居跡

1号住居跡

- 1 暗褐色土層 F Pを少量含み、粘性なくしりある
- 2 暗褐色土層 F Pを含み、粘性、しりなし
- 3 茶褐色土層 炭化物を微量含み、砂質土
- 4 暗褐色土層 F Pを多数に含み、粘性、しりなし

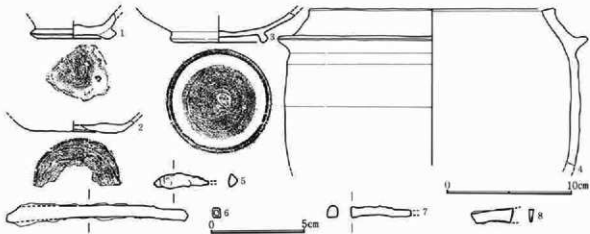


Fig. 6 1号住居跡出土遺物

第1号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計 測 値 (cm)	出土位置	成 形 及 び 調 整 の 特 徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
6-1 68	須形器 樽	底-5.2	床 面	付高台底部回転未切	①良好②褐色③細砂粒含む ④底部残存
6-2 68	須形器 杯	底-7.0	床 面 No 2	底部回転未切	①良好②灰色③細砂粒含む ④底部与残存
6-3 68	灰輪陶器 樽	底-7.0	床 面 No 3	付高台底部回転未切	①良好②灰白色③密④底部 残存
6-4 68	羽 釜	口-18.8	床 面 No 4	調やや上を向き口縁内湾する	①良好②よい藍色③1 ~2mm砂粒含む④口縁部破片
Fig. 6-5 PL. 68	鉄製品	長-3.6cm 厚-4mm			
Fig. 6-6 PL. 68	鉄製品	長-3.6cm 厚-5mm			
Fig. 6-7 PL. 68	鉄製品	長-3.2cm 厚-6mm		釘?	
Fig. 6-8 PL. 68	鉄製品	長-2.4cm 厚-2mm		刀子?	

第2章 検出された遺構と遺物

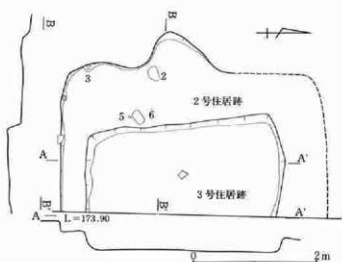


Fig. 7 2・3号住居跡

2・3号住居跡 (Fig. 7・8, PL. 1・68)
 F区南東部に位置し32・33F12~14の範囲にある。1号住居跡の北東にあり、2・3号住居跡は重複し2号住居跡の中に3号住居跡がある。両住居跡ともに東半部は調査区域外にあるためプランの確認はできなかった。新旧関係は2号住居跡が新しい。両住居跡ともに竈は検出されていないが2号住居跡西壁に竈状の張り出しが認められた。

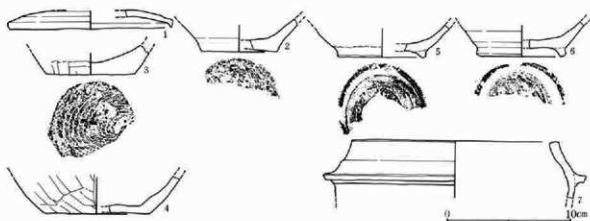


Fig. 8 2号住居跡出土遺物

第2号住居跡出土遺物観察表

Fig. No Pl. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
8-1 68	須恵器 蓋	径-13.0	覆土	返りをもたず外面回転ヘラ調整	①良好②灰色③準④破片
8-2 68	須恵器 坏	底-6.0	No 2	底部回転糸切	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含む④底部破片
8-3 68	土師器 甕	底-7.0	No 3	底部回転糸切	①良好②褐色③1~2mmの砂粒含む④底部破片
8-4 68	土師器 甕	底-8.3	覆土	外面ヘラケズリ内面ナゲ調整	①良好②褐色③細砂粒含む④底部破片
8-5 68	須恵器 坏	底-6.7	No 5	付高台	①良好②褐色③1~2mmの砂粒含む④底部破片
8-6 68	須恵器 埴	底-6.5	No 6	付高台底部回転糸切	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含む④底部破片
8-7 68	羽蓋	口-16.3	覆土	脚下を向く口縁部内傾する	①良好②褐色③細砂粒含む④口縁部破片

4号住居跡 (Fig. 9・10・11, PL. 1・68・69)

F区南東部に位置し33〜35F10〜12の範囲にある。2・3号住居跡の南西にあり、南西部を1号住居跡と重複する。新旧関係は1号住居跡より古い。規模は一辺4mを測り、平面形態は方形を呈する。主軸方位はN-86°-Eである。壁高は約10cm〜15cmを測る。床面には一面に炭化物が検出され木材の形状を遺しており焼失家屋である。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁や南寄りに検出された。規模は燃烧部幅約70cm、同長約40cmを測る。

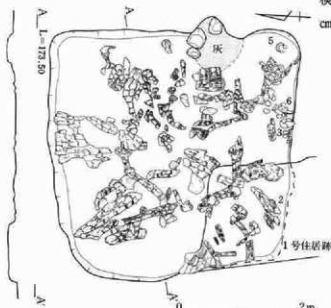


Fig. 9 4号住居跡

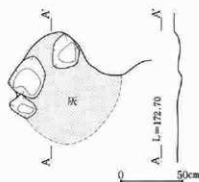


Fig.10 4号住居跡竈

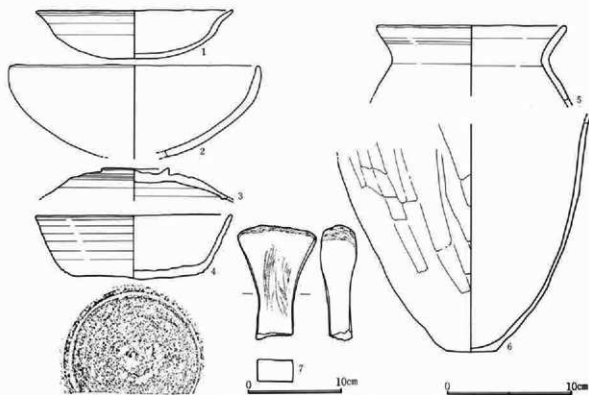


Fig.11 4号住居跡出土遺物

第4号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
11-1 68	土師器 坏	口-15.8	覆土	口縁部外湾して外傾する口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②よい橙色③細砂粒含む④%残存
11-2 68	土師器 坏	口-20.0	No 2	口縁部直状に立ち上がる口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ調整	①良好②よい橙色③細砂粒含む④%残存
11-3 68	須恵器 蓋		床面 No 3	外面ヘラ調整内面に返りをもつ外周欠損	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含む④ほぼ完形
11-4 68	須恵器 坏	口-15.6 高-5.0 底-10.5	床面	口縁部直状に外傾する底部削り出し高台	①良好②灰白色③細砂粒含む④%残存
11-5 69	土師器 甕	口-15.0	床面 No 5	口縁部くの字状に外傾する口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ調整	①良好②褐色③1~2mmの砂粒含む④%残存
11-6 68	土師器 甕	底-3.8	床面 No 6	外面ヘラケズリ内面ナデ調整	①良好②褐色③1~2mmの砂粒含む④%残存
Fig. 11-7 PL. 69 磁石 長-12.1cm 幅-8.4cm 厚-3.8cm 波紋岩					

5号住居跡 (Fig. 12・13・14, PL. 1・69)

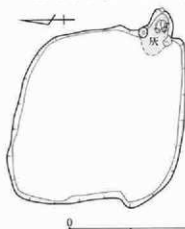
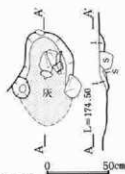


Fig. 12 5号住居跡

5号住居跡電
1 暗褐色土層 焼土粒、軽石を含む
50cm、同長約50cmを測る。
Fig. 13 5号住居跡電

F区中央に位置し42・43F25・26の範囲にある。3号溝の北にあり、他の遺構との重複はない。規模は長辺3m、短辺2.7mの歪んだ隅丸方形を呈する。主軸方位はN-96°-Eである。壁高は約5cm~10cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃烧部幅約

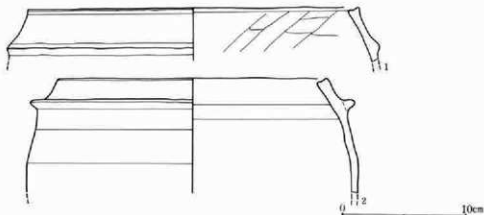


Fig. 14 5号住居跡出土遺物

第5号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
14-1 69	羽蓋	口-26.2	床面	脚短い口縁部内傾する内面ナデ調整	①良好②よい橙色③細砂粒含む④口縁部破片
14-2 69	羽蓋	口-21.3	床面	脚上を向く口縁部内傾する	①良好②褐色③細砂粒含む④口縁部破片

6号住居跡 (Fig. 15・16・17・18, PL. 1・69)

F区中央部に位置し39~41F33~36の範囲にある。5号住居跡の北にあり、他の遺構との重複はない。規模は長辺5.2m、短辺4.5mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-87-Eである。壁高は約20cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南コーナーに検出された。規模は燃焼部幅約50cm、同長約1mを測る。

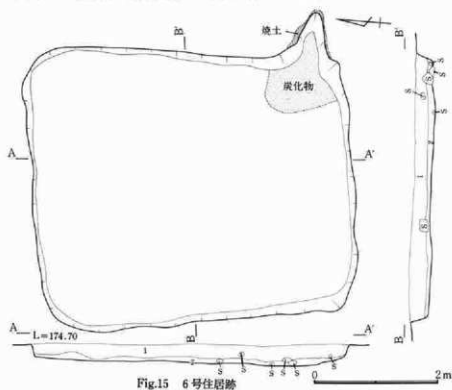


Fig.15 6号住居跡

- 6号住居跡
 1 暗褐色土層 FP多量に含む、炭化物を含む
 2 暗褐色土層

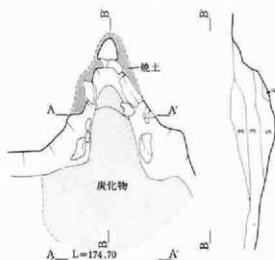


Fig.16 6号住居跡竈

- 6号住居跡竈
 1 褐色土層 炭土粒を多量に含む
 2 暗褐色土層
 3 暗褐色土層 炭土を含む
 4 炭土ブロック
 5 暗褐色土層 炭土粒、炭化物を含む
 6 黒褐色土層 黒色灰を多量に含む

Fig.16 6号住居跡竈

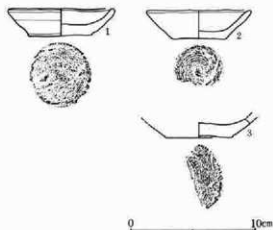


Fig.17 6号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物

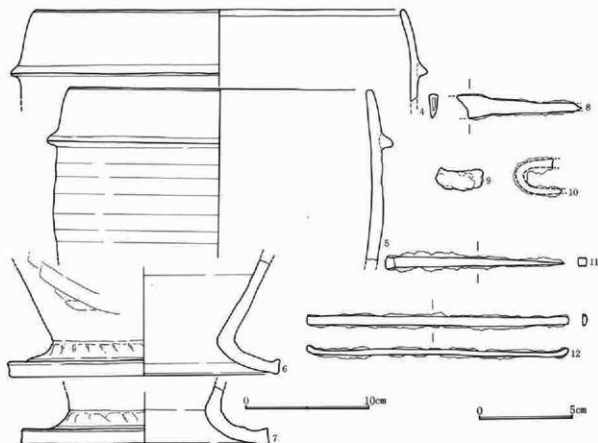


Fig.18 6号住居跡出土遺物2)

第6号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
17-1 69	須恵器 皿	口-8.4 高-2.2 底-4.9	覆土	器壁厚く口縁部やや内湾する底部回転糸切	①良好②灰黄褐色③細砂粒含む④互残存
17-2 69	須恵器 皿	口-8.2 高-2.3 底-4.0	覆土	底部口縁部に弱い稜をもつ底部回転糸切	①良好②灰褐色③細砂粒含む④互残存
17-3	須恵器 坏	底-4.0	床面	底部回転へら調整	①良好硬質②灰色③微④底部破片
18-4	羽釜	口-29.2	覆土	器薄く口縁部直立する	①良好②明褐色③2~3mmの砂粒含む④口縁部破片
18-5 69	羽釜	口-24.1	覆土	口縁部直状に立ち上がり器短く下を向く	①良好②明褐色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
18-6 69	甗	径-21.3	床面	胴下部へラケズリ屈曲部へラ押しえ痕	①良好②褐色③2~3mmの砂粒含む④胴下部互残存
18-7 69	甗	径-19.6	床面	屈曲部へラ押しえ痕	①良好②褐色③2~3mmの砂粒含む④破片
Fig. 18-8 PL. 69	鉄製品	長-6.4cm 厚-4mm	刀子?		
Fig. 18-9 PL. 69	鉄製品	長-2.2cm	釘?		
Fig. 18-10 PL. 69	鉄製品	長-2.0cm	釘?		
Fig. 18-11 PL. 69	鉄製品	長-10.0cm 厚-4mm	角釘?		
Fig. 18-12 PL. 69	鉄製品	長-14.0cm 厚-3mm	釘?		

8号住居跡 (Fig. 19・20・21・22, PL. 1・2・69・70)

F区北部に位置し42~44 F39~41の範囲にある。6号住居跡の北西にあり、他の遺構との重複はない。規

第1節 竪穴住居跡

横は長辺4m、短辺3mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-93°Eである。また南東部竪部に南北幅約2.5m、東西幅約50cmの張り出しをもち、張り出し部は約20cmの深さをもつ。壁高は約40cm~50cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、南東コーナーに貯蔵穴が検出された。規模は約80cm×70cm、深さ約15cmを測る。また貯蔵穴西に小穴が検出され、規模は約40cm×30cm、深さ約20cmを測る。竪は東壁南寄り張り出し部に検出された。規模は燃焼部幅約60cm、同長約70cmを測る。

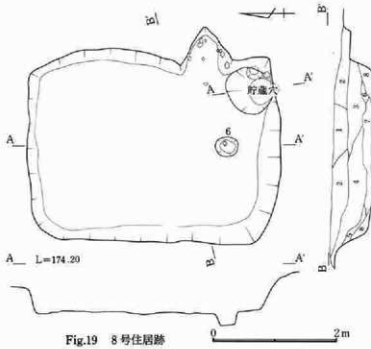


Fig.19 8号住居跡

- 8号住居跡
- 1 黒褐色土層 F Pを少量含む
 - 2 暗褐色土層 F Pを多量に含む
 - 3 暗褐色土層 F Pを多量に含む、焼土粒多量に炭化物を少量含む
 - 4 暗褐色土層 F Pを多量に含む
 - 5 暗褐色土層 F Pを少量含みしまっている
 - 6 暗褐色土層 F P、焼土粒を少量含む
 - 7 暗褐色土層 F Pを少量含む
 - 8 暗褐色土層 F Pを含む



- 8号住居跡竪
- 1 暗褐色土層 F Pを多量に含む
 - 2 褐色土層
 - 3 黒褐色土層 黒色灰を含む
 - 4 黒色灰層 焼土粒を多量に含む
 - 5 暗褐色土層
- 貯蔵穴
- 1 淡褐色土層
 - 2 淡褐色土層 焼土を含む
 - 3 淡褐色土層

Fig.20 8号住居跡竪

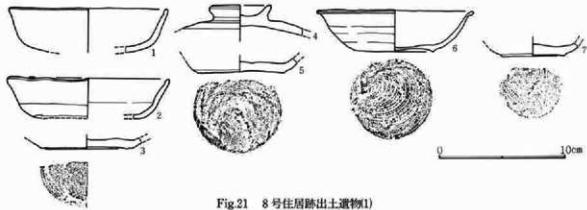


Fig.21 8号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物

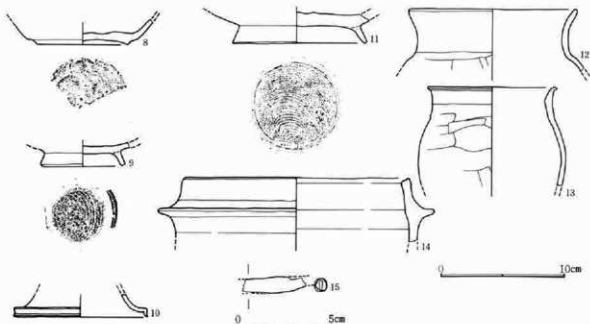


Fig.22 8号住居跡出土遺物(2)

第8号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②胎土 ③残存	④色調 ⑤残存
21-1 69	土器 罎	口-12.6	No 1	口縁部コナダ体部ヘラズリ口縁部内側に向かい厚くなる口縁ややゆがむ	①良好②褐色③細砂粒含む	④口縁部破片
21-2 69	土器 罎	口-12.9	覆土	口縁部コナダ体部ヘラズリ内面ナゲ調整口縁部内側に沈み入る	①良好②暗褐色③細砂粒含む	④口縁部破片
21-3 69	須恵器 罎	底-6.9	覆土	底部回転糸切	①良好②灰色③密④底部瓦残存	
21-4 69	須恵器 蓋	つまみ径-5.0	小穴 覆土	外面回転ヘラ調整つまみ部周辺ナゲ	①良好②灰色③密④つまみ部周辺	
21-5 69	須恵器 罎	底-6.9	覆土	底部回転糸切右廻り	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④底部破片	
21-6 69	須恵器 罎	口-13.5 底-6.3	No 6	底部回転糸切右廻り口縁部外側に屈曲する	①良好②暗灰色③2~3mmの砂粒含む④ほぼ完形	
21-7 69	須恵器 罎	底-4.9	覆土	底部回転糸切	①良好②淡褐色③細砂粒含む④底部瓦残存	
22-8 69	須恵器 罎	底-7.2	覆土	底部回転糸切底部中央に向かい盛り上がる	①良好②灰褐色③1~2mmの砂粒含む④底部瓦残存	
22-9 69	須恵器 罎	底-6.7	覆土	底部回転糸切付高台	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④底部残存	
22-10 69	須恵器 高罎	径-10.7	覆土	脚端部薄くなり屈曲する	①良好②灰白色③密④破片	
22-11 70	須恵器 罎	底-10.7	覆土	底部回転糸切付高台周辺ナゲ	①良好②灰褐色③密④底部残存	
22-12 70	土器 罎	口-13.3	覆土	口縁部緩やかに外湾する口縁部内外面コナダ調整ヘラズリ	①良好②赤褐色③1~2mmの砂粒含む④口縁部瓦残存	
22-13 70	土器 罎	口-10.3	覆土	口縁部外傾し端部屈曲する口縁部内外面ナゲ調整ヘラズリ	①良好②ふよい褐色③細砂粒含む④口縁部破片	
22-14 70	別 釜	口-13.8	覆土	胴やや上を向き薄く張り出す	①良好②灰褐色③2~3mmの砂粒含む④口縁部破片	

Fig. 22-15 PL. 70 鉄製品 長-2.4cm 厚-6mm 釘?

9号住居跡 (Fig. 23・24・25・26, PL. 2・70)

F区北部に位置し44~46F35~37の範囲にある。6号住居跡の西にあり、16号住居跡と重複する。新旧関係は16号住居跡より新しい。規模は長辺4.6m、短辺4.3mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-84°-Eである。壁高は約30cm~40cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴は検出されていない。南西部に小穴が2基(1号・2号)検出され各々の規模は1号が約80cm×70cm、深さ約40cm。2号は約80cm×60cm、深さ約40cmを測る。竈は南東コーナーに検出された。規模は袖幅約55cm、同長約70cmを測る。両袖部から構築材の石が検出された。

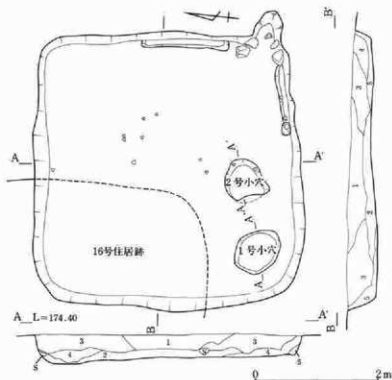
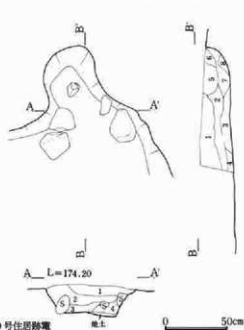


Fig.23 9号住居跡



- 9号住居跡竈
- 1 暗褐色土層 軽石を多量に含む
 - 2 淡褐色土層 黒色灰を含む
 - 3 淡褐色土層
 - 4 黒褐色土層
 - 5 暗褐色土層 焼土粒を含む
 - 6 暗褐色土層 焼土ブロック
 - 7 暗褐色土層 焼土粒、黒色灰を含む
 - 8 焼土層

Fig.24 9号住居跡竈

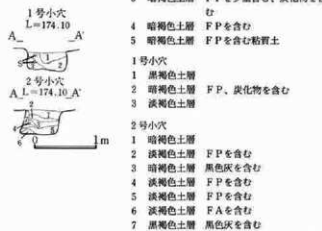


Fig.25 9号住居跡出土遺物(1)

9号住居跡

- 1 暗褐色土層 F Pを多量に含む、炭化物、焼土粒少量含む
- 2 暗褐色土層 F Pを含む
- 3 暗褐色土層 F Pを少量含む、炭化物を含む
- 4 暗褐色土層 F Pを含む
- 5 暗褐色土層 F Pを含む粘質土

1号小穴

- 1 黒褐色土層
- 2 暗褐色土層 F P、炭化物を含む
- 3 淡褐色土層

2号小穴

- 1 暗褐色土層
- 2 淡褐色土層 F Pを含む
- 3 暗褐色土層 黒色灰を含む
- 4 淡褐色土層 F Pを含む
- 5 淡褐色土層 F Pを含む
- 6 淡褐色土層 F Aを含む
- 7 黒褐色土層 黒色灰を含む

第2章 検出された遺構と遺物

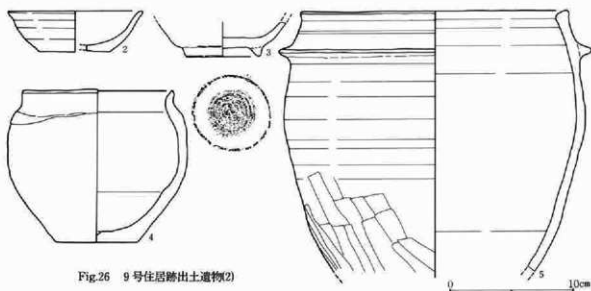


Fig.26 9号住居跡出土遺物(2)

第9号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
25-1 70	甔	底-20.6	覆土	外面底部周辺へう旗	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④残存
26-2 70	須恵器 坏	口-10.6 高-3.2 底-5.5	覆土	口縁部外湾する底部回転余切右廻り	①良好②にぶい褐色③1~2mmの砂粒含む④残存
26-3 70	須恵器 埴	底-5.9	覆土	高台部から腰部にかけて緩やかに外湾する底部回転余切付高台粗雑	①やや軟質②にぶい褐色③2~3mm砂粒含む④底面残存
26-4 70	土師器 甔	口-11.8 高-12.0 底-6.5	床面	口縁部直上に立ち上る口縁部コノナテ胴部ナテ	①良好②灰褐色③1~2mmの砂粒含む④残存
26-5 70	羽蓋	口-21.6	覆土	口縁部内湾する胴下部へラケズリ	①良好②にぶい褐色③1~2mmの砂粒含む④残存

10号住居跡 (Fig. 27・28, PL. 2・70・71)

F区北部に位置し48・49 F32・33の範囲にある。9号住居跡の南西にあり、他の遺構との重複はない。東

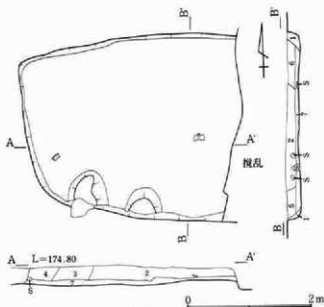


Fig.27 10号住居跡

部は攪乱により削平されているため長辺、短辺は不明である。西壁は約4.2mを測る。平面形態は長方形を呈するものと考えられる。壁高は約20cmを測る。床面は凹凸が多く不明瞭である。壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は検出されていない。

10号住居跡

- 1 暗褐色土層
- 2 暗褐色土層 炭化物を含む、F Pを含む
- 3 暗褐色土層 炭化物を含む
- 4 暗褐色土層 炭化物を少量含む
- 5 暗褐色土層
- 6 灰褐色土層 F P、炭化物を含む
- 7 灰褐色土層

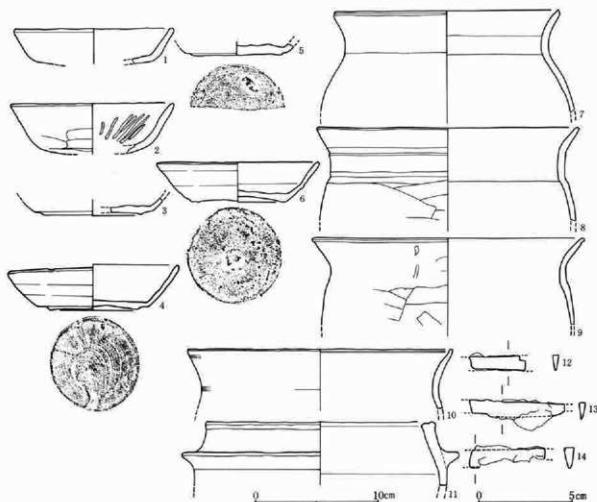


Fig.28 10号住居跡出土遺物

第10号住居跡出土遺物観察表

Fig. No Pl. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②胎土 ③残存	④色調 ⑤残存
28-1 71	土器 杯	口-12.7	床 面	腰部に弱い稜をもつ口縁部ヨコナゲ体部ヘラズリ	①良好②赤褐色③細砂粒含む④破片	
28-2 71	土器 杯	口-13.0	覆 土	腰部は弱いカーブをもつ口縁部ヨコナゲ体部ヘラズリ内面ナデ	①良好②橙色③細砂粒含む④破片	
28-3 71	須恵器 杯	底-7.7	床 面	底部腰部の境に稜をもつ底部回転余切	①良好②灰白色③細砂粒含む④底部破片	
28-4 71	須恵器 杯	口-13.5 高-3.4 底-7.0	小 穴 覆 土	底部腰部の境に稜をもつ底部回転余切右廻り	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含む④残存	
28-5 71	須恵器 杯	底-7.1	覆 土	底部腰部の境に稜をもつ底部回転余切	①良好②灰白色③密④底部残存	
28-6 71	須恵器 杯	口-13.0 底-7.4	小 穴 覆 土	口縁部直線状に外傾し底部中央部は盛り上がる底部ヘラ調整	①良好②灰白色③密④残存	
28-7 71	土器 壺	口-17.8	覆 土	口縁部に沈線が走る口縁部ヨコナゲ胴上部ヘラズリ	①良好②橙色③細砂粒含む④口縁部残存	
28-8 71	土器 壺	口-20.8	床 面	コの字状口縁を呈する口縁部ヨコナゲ胴上部ヘラズリ	①良好②赤褐色③1~2mmの砂粒含む④口縁部残存	
28-9 71	土器 壺	口-21.6	小 穴 覆 土	口縁部外傾し端部に向かい外傾する口縁部内外面ナゲ胴上部ヘラズリ	①良好②赤褐色③1~2mmの砂粒含む④口縁部残存	
28-10 71	土器 壺	口-21.0	覆 土	口縁部外傾し端部内側に屈曲する口縁部内外面ヨコナゲ	①良好②赤褐色③細砂粒含む④口縁部破片	

第2章 検出された遺構と遺物

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ③胎土	②色調 ④残存
28-11 71	羽蓋	口-18.2	覆土	胴や上を向き口縁部内傾する	①良好な灰白色	②5~6mmの砂粒を含む口縁部破片
Fig. 28-12 PL. 70	鉄製品	長-3.0cm 厚-3mm	釘?			
Fig. 28-13 PL. 70	鉄製品	長-5.0cm 厚-3mm	釘?			
Fig. 28-14 PL. 70	鉄製品	長-4.0cm 厚-3mm	釘?			

11号住居跡 (Fig. 29・30・32, PL. 2・71)

F区中央に位置し48・49F38・39の範囲にある。10号住居跡の北にあり、12号住居跡と重複する。新旧関係は11号住居跡が新しい。規模は長辺3.2m、短辺2.9mを測り、平面形態はほぼ隅丸方形を呈する。主軸方位はN-77-Eである。壁高は約20cm~30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は南東コーナーに検出された。規模は燃焼部幅約50cm、同長約80cmを測る。竈の袖部に構築材としてF Pが検出された。

12号住居跡 (Fig. 29・31・33・34, PL. 2・71・72)

F区中央部に位置し48・49F36・37の範囲にある。10号住居跡の北にあり、11号住居跡と重複する。新旧関係は11号住居跡が新しい。規模は長辺3.5m、短辺3.1mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-95-Eである。壁高は約20cm~30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁中央部に検出された。燃焼部幅約60cm、同長約30cmを測る。

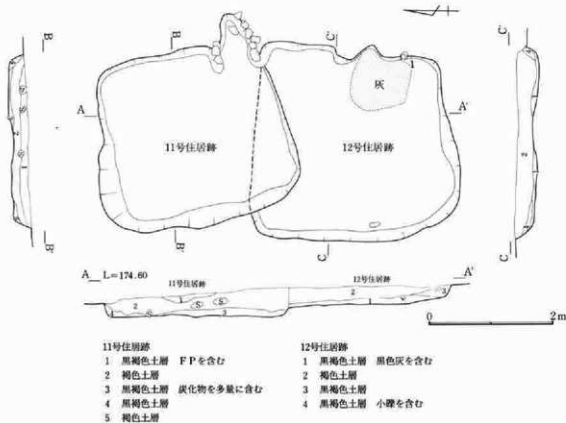
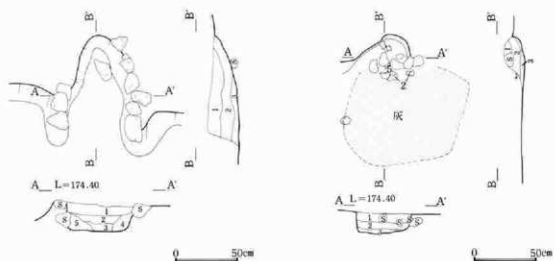


Fig.29 11・12号住居跡



11号住居跡電

- 1 灰褐色土層 FPを含む
- 2 暗褐色土層 焼土粒を含む
- 3 暗褐色土層 焼土粒、黒色灰を含む
- 4 暗褐色土層
- 5 灰褐色土層 黒色灰を含む

Fig.30 11号住居跡電

12号住居跡電

- 1 暗褐色土層 FPを含む
- 2 暗褐色土層 黒色灰を含む
- 3 黒色灰層

Fig.31 12号住居跡電

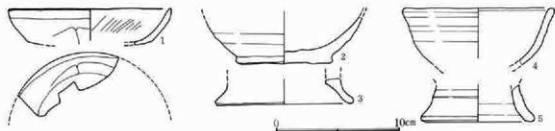


Fig.32 11号住居跡出土遺物

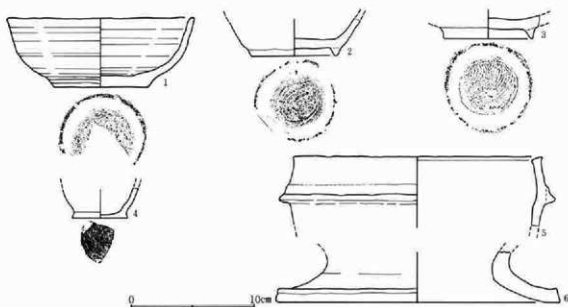


Fig.33 12号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物

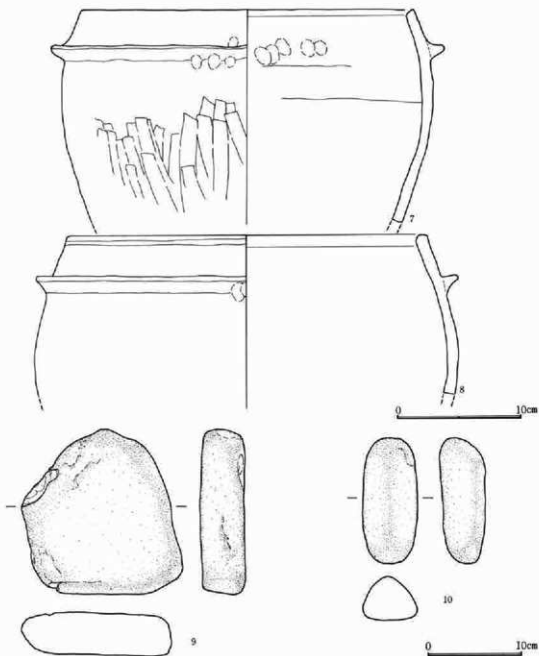


Fig.34 12号住居跡出土遺物(2)

第11号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
32-1 71	土器器 環	口-12.9	覆土	口縁部弱く内湾する口縁部ヨコナデ口縁下部体部 ヘラケズリ内面暗文が施される	①良好②灰色③細砂粒含む ④口縁部片残存
32-2 71	須恵器 環	底-7.7	床面	底部腹部の境に横をもつ	①良好②黒灰色③2~3mm の砂粒含む④底部残存
32-3 71	須恵器 環	底-11.0	覆土	欠落面は平坦をなし高台は直線状に開く	①良好②褐色③1~2mmの 砂粒含む④高台部破片
32-4 71	須恵器 環	口-12.0	覆土	口縁部弱く内湾して立ち上がる	①良好②によい褐色③細砂 粒含む④口縁部破片
32-5 71	須恵器 塊	底-9.0	床面	端部に向かい開く	①良好②灰白色③密④底部 片残存

第12号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
33-1 71	須恵器 埴	口—14.8 高—5.4 底—7.4	No.1	腰部から内湾しながら立ち上がる底部回転糸切り 期I	①軟質②赤褐色③2~3mm の砂粒含む④片残存
33-2 71	須恵器 埴	底—6.8	No.2	底部回転糸切付高台断面三角形を呈する	①良好②灰白色③3~4mm の砂粒含む④底部片残存
33-3 71	須恵器 埴	底—7.0	覆土	底部回転糸切高台部先端に向かい薄くなる	①やや軟質②灰白色③2~ 3mmの砂粒含む④底部残存
33-4 71	須恵器 埴	底—4.4	小穴 覆土	底部から腰部にかけて狭をもつ底部回転ヘラ調整	①良好②灰白色③軟④底部 破片
33-5 71	羽釜	口—19.6	No.5	口縁部は直立がみ跡短くやや下を向く	①良好②赤褐色③3~4mm の砂粒含む④片残存
33-6 71	甕	底—22.4	覆土	肩部は平根をなす	①良好②灰白色③2~3mm の砂粒含む④底部片残存
34-7 71	羽釜	口—26.0	覆土	跨上を向き口縁部やや内湾する胴部たて方向のヘ ラケズリ	①良好②褐色③3~4mmの 砂粒含む④口~胴部片残存
34-8 72	羽釜	口—28.4	覆土	口縁部丸みをもち内傾する跨上を向く	①良好②よい褐色③1 ~2mmの砂粒含む④片残存
Fig. 34-9 PL. 72		石 長—17.4cm 幅—17.2cm 厚—4.7cm		粗粒安山岩	
Fig. 34-10 PL. 72		石 長—13.3cm 幅—5.85cm 厚—4.8cm		粗粒安山岩	

13号住居跡 (Fig. 35・36・37, PL. 2・3・72)

F区北部に位置し45・46F42~44の範囲にある。8号住居跡の北西にあり、他の遺構との重複はない。規模は長辺4.2m、短辺3mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-94°-Eである。壁高は約10cm~20cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、床土にはFPが混入して検出され、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁やや南寄りに検出された。燃焼部幅約60cm、同長約60cmを測る。燃焼部南北壁に接し構築材と思われる石が検出された。

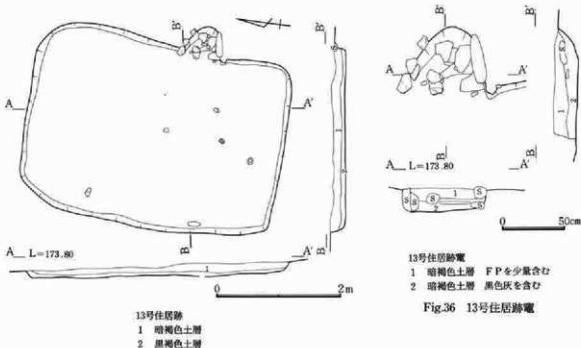


Fig.35 13号住居跡

Fig.36 13号住居跡電

第2章 検出された遺構と遺物

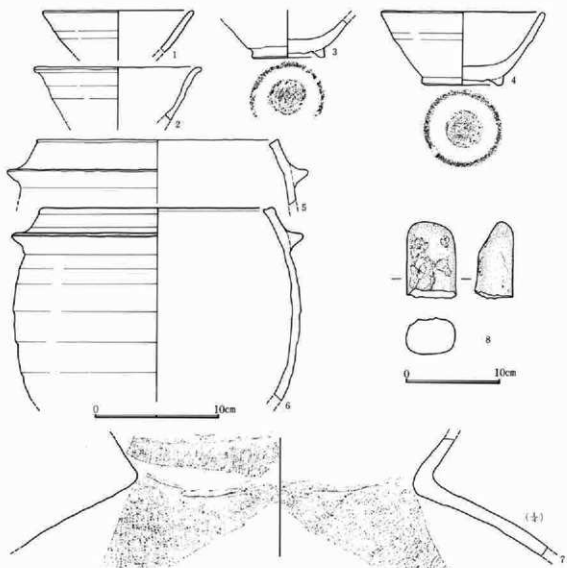


Fig.37 13号住居跡出土遺物

第13号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測額(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③出土 ④残存
37-1 72	須恵器 坏	□-11.8	覆土	口縁部直線状に外傾する	①良好②灰白色③細砂粒含む④口縁部破片
37-2 72	須恵器 坏	□-13.0	床面	口縁部やや外傾する	①良好②によい橙色③1~2mmの砂粒含む④片残存
37-3 72	須恵器 埴	底-5.8	床面	底部回転糸切付高台	①良好②灰白色③2~3mmの砂粒含む④底部残存
37-4 72	須恵器 埴	□-13.0 高-5.8 底-6.5	床面	口縁部弱く内湾して立ち上がる底部回転糸切付高台	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含む④片残存
37-5 72	羽釜	□-19.0	覆土	口縁部内傾する胴上を向く	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含む④片残存
37-6 72	羽釜	□-18.4	覆土	口縁部内傾する胴上を向き貼りつけ丁寧	①良好②によい橙色③1~2mmの砂粒含む④片残存
37-7 72	須恵器 甕	頸-32.4	覆土	頸部から口縁部に向かい外傾する外面印目内面あて目痕残る	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含む④胴部片残存

Fig. 37-8 PL. 72 石 長-8.0cm 幅-5.2cm 厚-4.0cm 粗粒安山岩

14号住居跡 (Fig. 38・39, PL. 3・72・73)

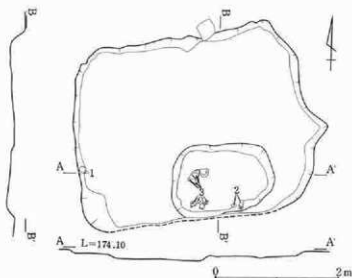


Fig.38 14号住居跡

F区北部に位置し43・44F44・45の範囲にある。13号住居跡の北西にあり、他の遺構との重複はない。規模は長辺3.9m、短辺2.9mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁の遺存状態は悪く高さは約5cm～6cmを測る。床面は堅く縮まっており、南部に約5cm～10cmの落ち込みが確認されている。規模は約1.7m×1.2mである。壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は検出されていない。

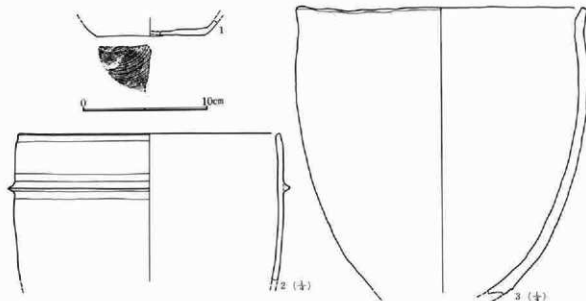


Fig.39 14号住居跡出土遺物

第14号住居跡出土遺物観察表

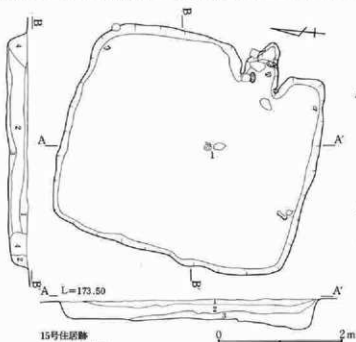
Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
39-1 72	須恵器 坏	底-8.4	No 1	底部回転糸切	①良好②灰白色③密④底部破片
39-2 72	羽蓋	口-27.7	No 2	脚短く口縁部直立する	①良好②赤褐色③1～2mmの砂粒含む④口縁部片残存
39-3 73	土蓋	口-31.7	No 3	口縁部外側へ屈曲する外面へラケズリ	①良好②赤褐色③3～4mmの砂粒含む④口縁-胴部片残存

15号住居跡 (Fig. 40・41・42・43, PL. 3・73)

F区北部に位置し44～46F45～47の範囲にある。14号住居跡の北西にあり、他の遺構との重複はない。規模は長辺4.2m、短辺3.6mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-106°-Eである。壁高は約

第2章 検出された遺構と遺物

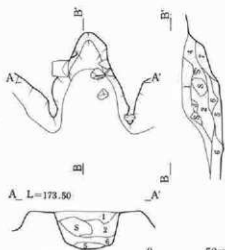
30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は袖幅約60cm、燃烧部長約60cmを測る。袖部は床面上に張り出して構築されている。



15号住居跡

- 1 黒褐色土層
- 2 黄褐色土層 FPを多量に含む
- 3 暗褐色土層
- 4 黒褐色土層

Fig.40 15号住居跡



15号住居跡竈

- 1 黒褐色土層 FPを含む
- 2 暗褐色土層
- 3 焼土ブロック
- 4 暗褐色土層 黒色灰を含む
- 5 黄褐色土層 FPを含む
- 6 黒褐色土層 黒色灰を含む
- 7 黒褐色土層 黒色灰、焼土粒を含む

Fig.41 15号住居跡竈

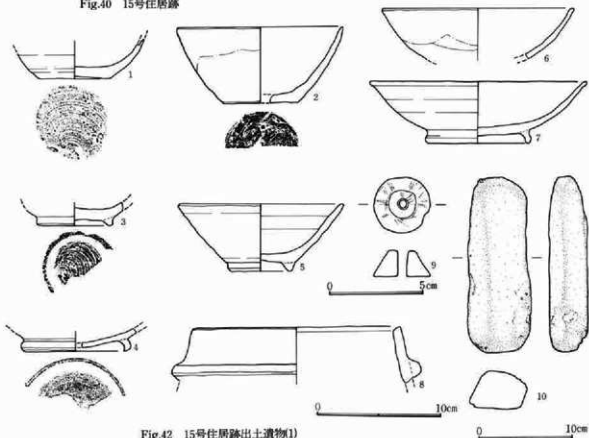
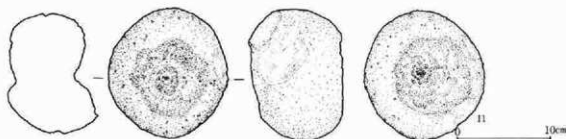


Fig.42 15号住居跡出土遺物(1)



第15号住居跡出土遺物観察表

Fig.43 15号住居跡出土遺物②

Fig. No. PL. No.	遺物 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ③胎土 ④残存
42-1 73	須恵器 坏	底-5.8	床 面 No 1	底部回転糸切右廻り底部やや盛り上がる	①良好②灰白色③1~2m の砂粒含む④底部残存
42-2 73	須恵器 坏	口-13.2 底-6.0	覆土	口縁部内湾ぎみに立ち上がる底部へラ調整	①良好②灰白色③密④互残 存
42-3 73	須恵器 埴	底-6.0	覆土	底部回転糸切付高台高台部外側へ開く	①良好②灰褐色③1~2m の砂粒含む④底部残存
42-4 73	灰輪陶器 埴	底-8.6	覆土	底部回転へラ調整付高台高台内側へ内湾する	①良好②灰白色③密④底部 互残存
42-5 73	須恵器 埴	口-13.1 高-5.3 底-5.1	覆土	付高台口縁部直線状に外傾する	①良好②灰白色③1~2m の砂粒含む④互残存
42-6 73	灰輪陶器 埴	口-15.2	覆土	口縁部部外側へ開く屈曲する内外面上部輪	①良好②灰白色(粉色褐色) ③密④互残存
42-7 73	灰輪陶器 埴	口-16.2 高-4.9 底-8.4	覆土	口縁部部外側へ屈曲する底部回転糸切付高台口縁 上部内外面輪胎	①良好②灰白色③密④互残 存
42-8 73	羽釜	口-16.6	覆土	口縁部内傾する頸頸を向き断面台形状を呈する	①良好②よい橙色③細砂 粒含む④口縁部破片
Fig. 42-9 PL. 73	紡織車	底-4.5cm×2.3cm 高-2.1cm			
Fig. 42-10 PL. 73	石	長-18.4cm 幅-6.8cm 厚-4.1cm			
Fig. 43-11 PL. 73	石	長-13.7cm 幅-12.7cm 厚-10.0cm			

16号住居跡 (Fig. 44・45, PL. 3・74・75)

F区北部に位置し46・47F36・37の範囲にある。6号住居跡の北西にあり、9号住居跡と重複している。

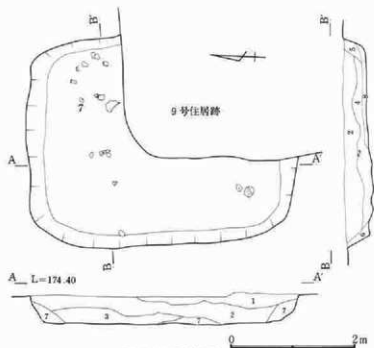


Fig.44 16号住居跡

新旧関係は9号住居跡が新しい。

規模は長辺4.4m、短辺3.2mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-86°-Eである。壁高は約40cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。電は東壁中央部9号住居跡床面下に検出された。規模は燃焼部幅約70cm、同長約70cmである。

16号住居跡

- 1 暗褐色土層
- 2 暗褐色土層 FPを含む
- 3 黒褐色土層
- 4 暗褐色土層 炭化物粒を含む
- 5 暗褐色土層 褐色土ブロックを含む
- 6 暗褐色土層
- 7 黄褐色土層 黄色土(泥炭) ブロックを含む
- 8 黒褐色土層 黒色灰を含む

第2章 検出された遺構と遺物

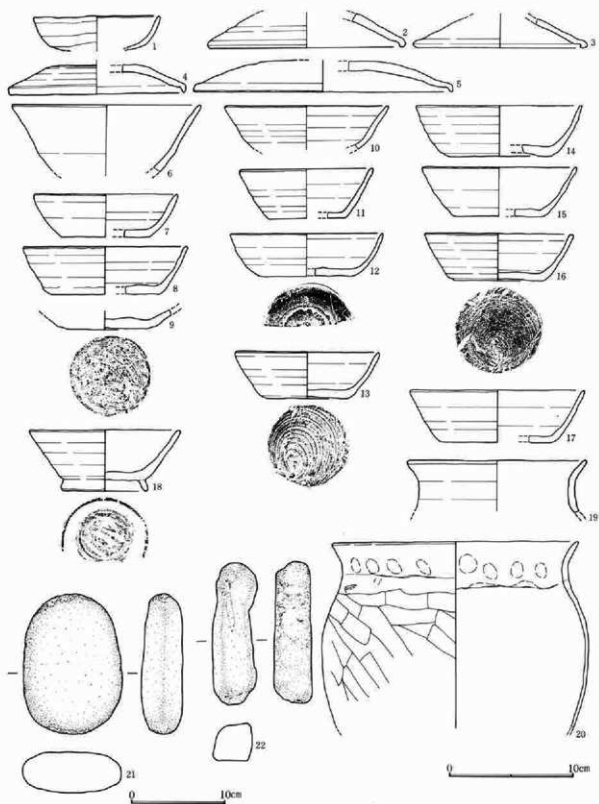


Fig.45 16号住居跡出土遺物

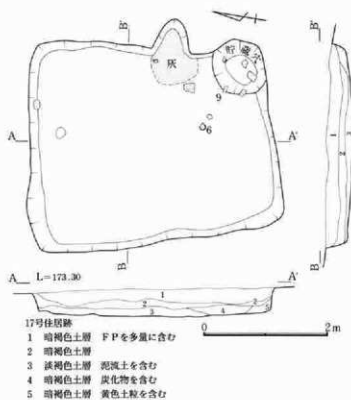
第16号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器 種 形	計 測 値 (cm)	出土位置	成 形 及 び 調 整 の 特 徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
45-1 74	土師器 坏	口-12.0	覆土	口縁部歪みややや内湾する口縁部ココナデ体部ヘラケズリ口縁部体部の開ナデ調整	①良好②褐色③細砂粒含む④残存
45-2 74	須恵器 蓋	口-15.6	覆土	外面回転ヘラ調整	①良好②灰白色③細砂粒含む④破片
45-3 74	須恵器 蓋	口-13.9	覆土	外面回転ヘラ調整	①良好②灰白色②2~3mmの砂粒含む④破片
45-4 74	須恵器 蓋	口-14.0	覆土	外面回転ヘラ調整	①良好②灰白色③細砂粒含む④破片
45-5 74	須恵器 蓋	口-20.4	覆土	外面回転ヘラ調整	①良好②灰白色③細砂粒含む④残存
45-6 74	須恵器 埴	口-15.4	覆土	口縁部直線状に外傾する	①良好②灰白色③密④口縁部破片
45-7 74	須恵器 坏	口-11.4 高-3.4 底-7.0	床面 No.7	底部平底口縁部直線状に外傾する底部手持ちヘラ調整	①良好(硬質)②灰色③細砂粒含む④残存
45-8 74	須恵器 坏	口-13.0 高-8.5	覆土	底部平底口縁部直線状に外傾する底部回転糸切	①良好(硬質)②灰色③1~2mmの砂粒含む④残存
45-9 74	須恵器 坏	底-6.4	覆土	底部回転糸切	①良好②暗灰色③3~4mmの砂粒含む④底部残存
45-10 74	須恵器 坏	口-12.8	覆土	口縁部直線状に外傾する	①良好②灰色③密④残存
45-11 74	須恵器 坏	口-10.5 高-6.1 底-6.1	覆土	底部平底口縁部直線状に外傾する底部手持ちヘラ調整	①良好(硬質)②灰色③密④残存
45-12 74	須恵器 坏	口-12.0 高-3.4 底-7.0	覆土	底部平底口縁部直線状に外傾する底部回転ヘラ調整	①良好②灰白色③密④残存
45-13 74	須恵器 坏	口-11.5 高-3.7 底-6.3	覆土	底部平底口縁部直線状に外傾する底部回転糸切右廻り	①良好(硬質)②灰色③1~2mmの砂粒含む④残存
45-14 74	須恵器 坏	口-13.2 高-4.0 底-8.1	覆土	口縁部直線状に外傾する底部回転糸切	①良好②灰白色③密④残存
45-15 74	須恵器 坏	口-12.3 高-3.9 底-7.0	覆土	口縁部薄手になり直線状に外傾する底部回転糸切	①良好②灰白色③密④残存
45-16 74	須恵器 坏	口-11.8 高-3.7 底-6.9	覆土	底部平底口縁部直線状に外傾する底部回転糸切右廻り	①良好②灰白色③密④残存
45-17 74	須恵器 坏	口-13.8 高-4.1 底-9.0	覆土	底部平底口縁部直線状に外傾する底部回転糸切	①良好②灰白色③密④残存
45-18 74	須恵器 埴	口-12.0 高-4.8 底-6.8	覆土	口縁部直線状に外傾する底部緩なヘラ調整付高台	①良好②灰色③密④残存
45-19 74	土師器 埴	口-14.2	覆土	口縁部ココナデ口縁部弱い稜を持ち外反する	①良好②淡褐色③細砂粒含む④口縁部破片
45-20 74	土師器 埴	口-19.4	覆土	口縁部ココナデ指調復調部ヘラケズリ口縁部緩く外反する	①良好②褐色③細砂粒含む④残存
Fig. 45-21 PL. 75		石 長-14.8cm 幅-10.5cm 厚-4.4cm	石英閃緑岩		
Fig. 45-22 PL. 75		石 長-15.0cm 幅-4.6cm 厚-4.1cm	黒色頁岩		

17号住居跡 (Fig. 46・47・48・49, PL. 3・75)

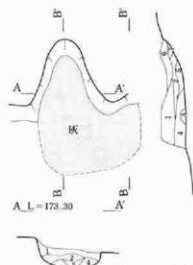
F区北東部に位置し29~31F38~40の範囲にある。18・20・47号住居跡の南にあり、他の遺構との重複はない。規模は長辺4.1m、短辺3.4mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-90°-Eである。壁高は約30cm~40cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝は幅約10cm、深さ約3cm~5cmを測り四周に検出された。貯蔵穴は南東コーナーに検出され規模は約1m×80cm、深さ約20cmを測る。竈は東壁や南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約60cm、同長約50cmを測る。

第2章 検出された遺構と遺物



- 17号住居跡
- 1 暗褐色土層 F Pを多量に含む
 - 2 暗褐色土層
 - 3 淡褐色土層 泥炭土を含む
 - 4 暗褐色土層 炭化物を含む
 - 5 暗褐色土層 黄色土粒を含む

Fig.46 17号住居跡



- 17号住居跡竈
- 1 暗褐色土層 焼土粒、炭化物を含む
 - 2 暗褐色土層 焼土粒を含む
 - 3 暗褐色土層
 - 4 暗褐色土層 焼土、炭化物を多量に含む
 - 5 暗褐色土層 焼土ブロック、炭化物を含む
 - 6 暗褐色土層 焼土粒を含む
 - 7 黄褐色土層

Fig.47 17号住居跡竈

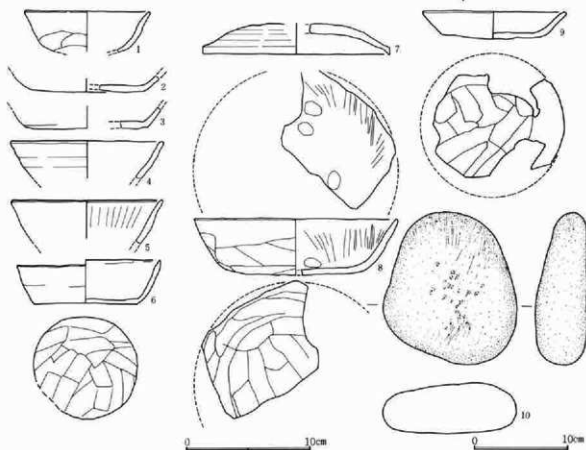


Fig.48 17号住居跡出土遺物(1)

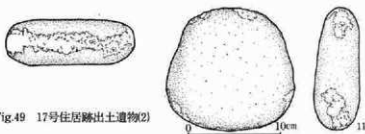


Fig.49 17号住居跡出土遺物②

第17号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①構成 ②色調 ③胎土 ④残存
48-1 75	土器器 坏	口-10.0	覆土	口縁部ココナダ体下部へラ調整内面ナゲ口縁部弱く外反する	①良好②赤褐色③細砂粒含む④口縁部破片
48-2 75	土器器 坏	底-8.5	覆土	底部手持へラケズリ	①良好②赤褐色③細砂粒含む④底部破片
48-3 75	須恵器 坏		覆土	底部へラ調整	①良好②灰白色③密④底部破片
48-4 75	須恵器 坏	口-12.0	覆土	口縁部直線状に外反する	①良好②灰白色③密④口縁部破片
48-5 75	土器器 坏	口-12.0	覆土	口縁部ココナダ内面放射状研磨	①良好②赤褐色③細砂粒含む④口縁部破片
48-6 75	土器器 坏	口-11.3 高-3.5	No 6	口縁部ココナダ体部下平弱いナゲ底部へラケズリ内面ナゲ	①良好②明赤褐色③細砂粒含む④外残存
48-7 75	須恵器 蓋	口-14.8	覆土	外面回転へラ調整	①良好②灰白色③密④破片
48-8 75	土器器 坏	口-16.1 高-4.4	覆土	口縁部ココナダ体部下平弱いナゲ内面放射状研磨(暗文)	①良好②褐色③細砂粒含む④外残存
48-9 75	土器器 坏	口-11.4 高-2.2	No 9	口縁部ココナダ底部へラケズリ内面ナゲ口縁部弱く外反する	①良好②明赤褐色③細砂粒含む④外残存
Fig. 48-10 PL. 75		石 長-15.9cm 幅-14.2cm 厚-5.4cm		粗粒安山岩	
Fig. 49-11 PL. 75		石 長-12.9cm 幅-13.6cm 厚-4.8cm		粗粒安山岩	

18号住居跡

(Fig. 50・51・52, PL. 4・75)

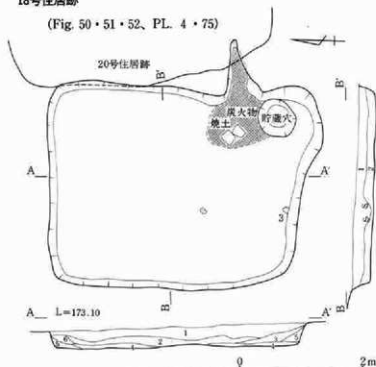


Fig.50 18号住居跡

F 区北東部に位置し30~32F 42~44の範囲にある。17号住居跡の北にあり、20号住居跡と東壁部を重複する。新旧関係は18号住居跡が新しい。規模は長辺4.5m、短辺3.3mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-90°-Eである。壁高は約20cm~40cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝は検出されていない。貯蔵穴は東南コーナーに検出され規模は約70cm×60cm、深さ約20cmを測る。竈は東壁南寄りに検出さ

18号住居跡

- 1 暗褐色土層 FPを含む
- 2 暗褐色土層
- 3 暗褐色土層 淡褐色泥炭ブロックを含む
- 4 淡褐色土層
- 5 黒褐色土層
- 6 暗褐色土層

第2章 検出された遺構と遺物

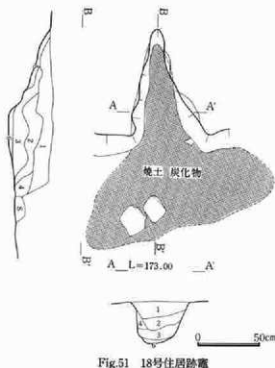


Fig.51 18号住居跡竈

れた。規模は燃焼部幅約70cm、同長約1mを測る。燃焼部と煙道部の境は明確には確認されていない。

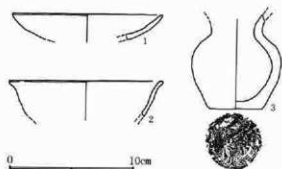


Fig.52 18号住居跡出土遺物

18号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 F Pブロックを含む
- 2 暗褐色土層
- 3 暗褐色土層 炭粒を含む
- 4 暗褐色土層
- 5 黒色灰層
- 6 黒褐色土層 黒色灰を含む

第18号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①構成 ②色調 ③胎土 ④残存
52-1 75	灰釉陶器 埴	口-12.0	覆土	口縁部弱く内湾ぎみに立ち上がる	①良好②灰白色③部④口縁部破片
52-2 75	須恵器 埴	口-12.2	覆土	口縁部外側へ屈曲する	①良好②灰色③2~3mmの砂粒含む④口縁部破片
52-3 75	須恵器 小壺	底-4.1	No 3	底部回転糸切り廻り後部分的にナデ調整底部は平底	①良好②灰色③細砂粒含む④残存

19号住居跡 (Fig. 53・54・55、PL. 4・75・76)

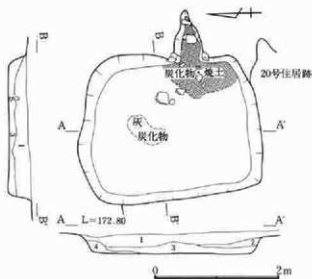
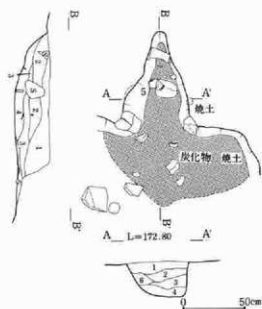


Fig.53 19号住居跡

F区北東部に位置し28~30 F43~45の範囲にある。18号住居跡の東にあり、南西部を20号住居跡と重複する。新旧関係は19号住居跡が新しい。規模は長辺3m、短辺2.6mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-93'Eである。壁高は約30cm~40cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁ほぼ中央に検出された。燃焼部幅約40cm、同長約70cmを測る。

19号住居跡

- 1 暗褐色土層 F Pを含む
- 2 暗褐色土層 F Pを含む
- 3 暗褐色土層 F Aを含む肥灰土
- 4 暗褐色土層



- 19号住居跡電
- 1 暗褐色土層 F P、焼土粒を含む
- 2 黄褐色土層
- 3 暗褐色土層 焼土粒を含む
- 4 褐色土層 焼土粒、炭化物、灰を含む
- 5 暗褐色土層 炭化物、黒色灰を含む
- 6 暗褐色土層 焼土粒を含む

Fig.54 19号住居跡電

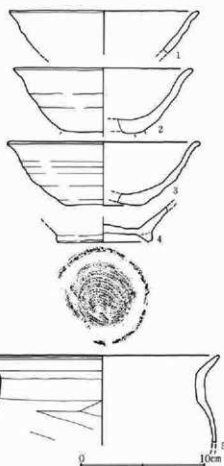


Fig.55 19号住居跡出土遺物

第19号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値 (cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ③胎土	②色調 ④残存
56-1 75	須恵器 埴	□-15.0	覆土	口縁部外側へ弱く屈曲する	①良好②灰褐色③2~3mmの砂粒含む④口縁部破片	
56-2 75	須恵器 埴	□-14.2	覆土	底部回転糸切付高台穴幕口縁部外側へ屈曲する	①良好②灰色③細砂粒含む④残存	
56-3 75	須恵器 埴	□-15.3 高-5.0 底-6.0	覆土	底部付高台口縁部外側へ屈曲する	①良好②灰褐色③細砂粒含む④残存	
56-4 76	須恵器 埴	底-7.6	覆土	底部回転糸切付高台高台断面台形を呈する	①良好②灰白色③3~4mmの砂粒含む④底部残存	
56-5 76	土師器 壺	□-18.3	No 5	口縁部ヨコナゲ胴上部ヘラケズリ内面ナゲ口縁部外側に沈線通る	①良好②赤褐色③2~3mmの砂粒含む④口縁部破片	

20号住居跡 (Fig. 56・57・58, PL. 4・76)

F区北東部に位置し30・31F41~43の範囲にある。18号住居跡の東にあり、北東部を19号住居跡と重複する。新旧関係は19号住居跡が新しい。規模は長辺4.3m、短辺2.9mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-78°Eである。壁高は約35cm~45cmを測る。床面はほぼ平坦をなすが、南東部に幅約1.4m×70cmで約2cm~10cmの落ち込みが検出された。壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約60cm、同長約90cmを測る。

第2章 検出された遺構と遺物

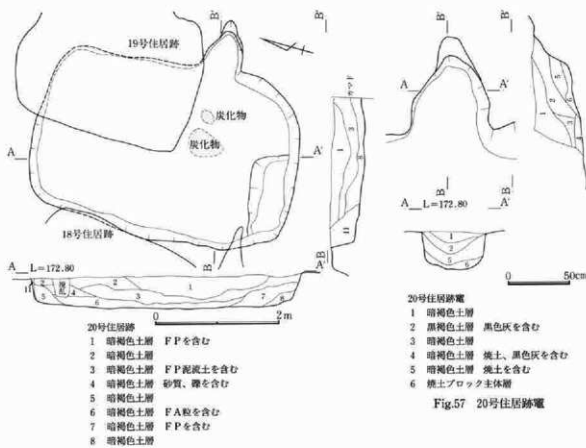


Fig.56 20号住居跡

Fig.57 20号住居跡電

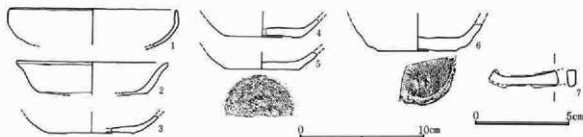


Fig.58 20号住居跡出土遺物

第20号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①構成 ②色調 ③胎土 ④残存
58-1 76	土師器 杯	口-13.0	覆土	口縁部ココナデ体部削いへら調整口縁部直立のみ	①良好②褐色③細砂粒含む ④口縁部破片
58-2 76	土師器 杯	口-12.0	覆土	口縁部外両する口縁部ココナデ体部ヘラズリ 口縁部外反する	①良好②赤褐色③2~3mm の砂粒含む④口縁部破片
58-3 76	須恵器 杯	底-6.5	覆土	底部回転糸切	①良好②灰色③1~2mmの 砂粒含む④底部破片
58-4 76	須恵器 杯	底-5.6	覆土	底部回転糸切右廻り	①良好②灰白色③2~3mm の砂粒含む④底部破片
58-5 76	須恵器 杯	底-5.7	覆土	底部回転糸切	①良好②灰色③2~3mmの 砂粒含む④底部破片残存
58-6 76	須恵器 杯	底-6.2	覆土	底部回転糸切右廻り	①良好②灰白色③④底部 片残存

Fig. 58-7 PL. 76 鉄製品 長-3.8cm 厚-8mm 釘

21号住居跡

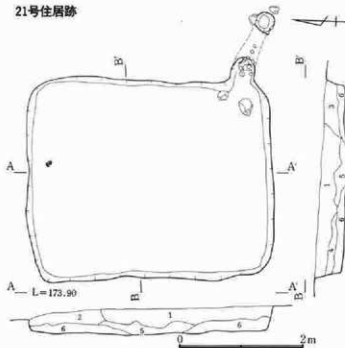


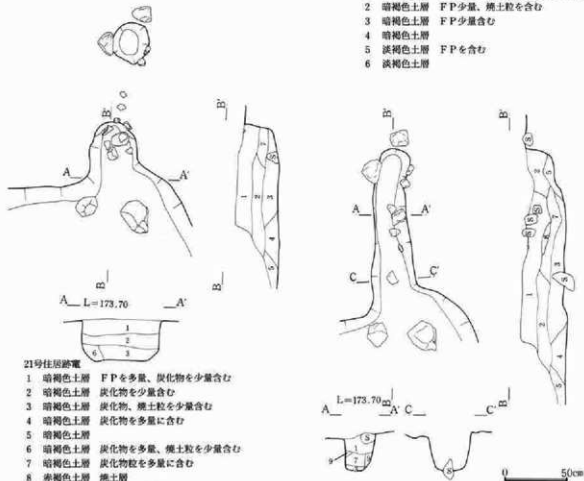
Fig.59 21号住居跡

(Fig. 59・60・61, PL. 4・5・76)

F区北東部に位置し36・37F37・38の範囲にある。17号住居跡の南西にあり、他の遺構との重複はない。規模は長辺4.1m、短辺3.8mを測り平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-91°-Eである。壁高は約30cm~40cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の随施設は検出されていない。竈は東壁南コーナー近くに検出され、遺存状態は良好で煙道天井部が確認された。竈の規模は燃烧部幅約40cm、同長約50cm、煙道部長約90cmを測る。竈手前より袖材と考えられる石が検出され、燃烧部中央に支脚と考えられる石が検出された。

21号住居跡

- 1 暗褐色土層 FP多量、炭土粒、炭化物少量含む
- 2 暗褐色土層 FP少量、焼土粒を含む
- 3 暗褐色土層 FP少量含む
- 4 暗褐色土層
- 5 淡褐色土層 FPを含む
- 6 淡褐色土層



21号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 FPを多量、炭化物を少量含む
- 2 暗褐色土層 炭化物を少量含む
- 3 暗褐色土層 炭化物、焼土粒を少量含む
- 4 暗褐色土層 炭化物を多量に含む
- 5 暗褐色土層
- 6 暗褐色土層 炭化物を多量、焼土粒を少量含む
- 7 暗褐色土層 炭化物粒を多量に含む
- 8 赤褐色土層 焼土層
- 9 褐色土層 焼土化した層

Fig.60 21号住居跡竈

第2章 検出された遺構と遺物



Fig.61 21号住居跡出土遺物

第21号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
61-1 76	須恵器 坏	底-5.8	覆土	底部回転糸切	①良好②灰色③赤④底部破片
61-2 76	須恵器 坏	底-7.2	覆土	底部回転糸切底部は平底	①良好酸化さみ②橙色③2~3mm砂粒含む④底部破片
61-3 76	土師器 壺	口-26.2	覆土	口縁部種々なデコ口縁部外湾する	①良好②赤褐色③1~2mmの砂粒含む④口縁部も残存

22号住居跡 (Fig. 62・63・64・65, PL. 5・76・77)

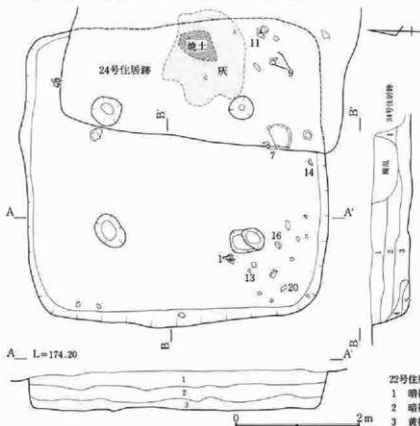


Fig. 62 22号住居跡

F区北東部に位置し33~35F39~41の範囲にある。21号住居跡の北東にあり、24号住居跡と重複する。新旧関係は24号住居跡が新しい。規模は一辺4.9mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-84°-Eである。壁高は約40cm~60cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁ほぼ中央に痕跡を検出した。灰・焼土の範囲は約1.5m×1.1mを確認した。

22号住居跡

- 1 暗褐色土層 FPを多量に含む
- 2 暗褐色土層 FP、灰土、炭化物を含む
- 3 黄褐色土層 炭化物、焼土粒を多量に含む
- 4 黄褐色土層 FAをブロック状に含む
- 5 黄褐色土層 FAを含む

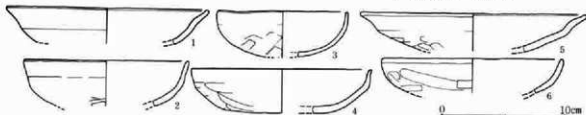


Fig.63 22号住居跡出土遺物(1)

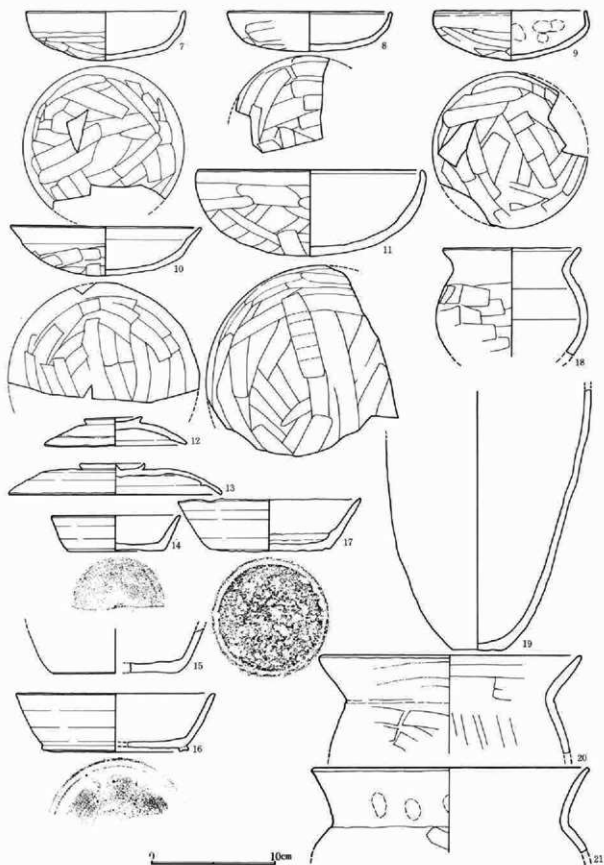


Fig.64 22号住居跡出土遺物2)

第2章 検出された遺構と遺物

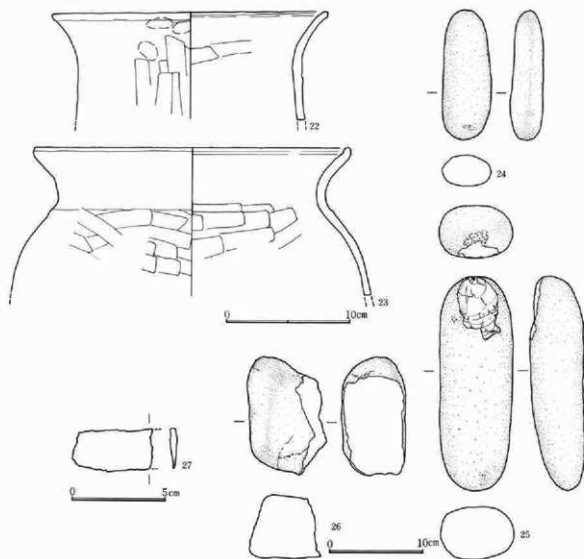


Fig.65 22号住居跡出土遺物(3)

第22号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
63-1 76	土器 器 環	口-16.0	No 1	口縁部体部の中間に弱い稜をもつ口縁部ヨコナデ 体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部外反する	①良好②褐色③細砂粒含む ④口縁部破片
63-2 76	土器 器 環	口-13.0	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ口縁部と体部の間 弱いナデ内面ナデ	①良好②よい褐色③細砂 粒含む④口縁部破片
63-3 76	土器 器 環	口-5.2 高-3.6	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部直 立きみ	①良好②褐色③細砂粒含む ④片残存
63-4 76	土器 器 環	口-14.2 高-3.4	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部直 立きみ	①良好②褐色③細砂粒含む ④口縁部片残存
63-5 76	土器 器 盤	口-19.0	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部は 弱く外反する	①良好②褐色③細砂粒含む ④破片
63-6 76	土器 器 環	口-14.4	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ口縁部と体部の間 弱いヘラナゲ内面ナデ口縁部内高して立ち上がる	①良好②赤褐色③細砂粒含 む④口縁部片残存
64-7 76	土器 器 環	口-12.6 高-3.9	No 7	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ口縁部と体部の間 に弱いナデ口縁部直立きみ	①良好②褐色③2~3mmの 砂粒含む④片残存

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
64-8 76	土師器 坏	口-13.0 高-3.1	覆土	口縁部ココナダ体部ヘラケズリ内面ナゲ口縁部弱く内湾ぎみに立ち上がる	①良好②褐色③1~2mmの砂粒含む④残存
64-9 76	土師器 坏	口-12.0 高-3.9	No9	口縁部ココナダ体部ヘラケズリ内面ナゲ口縁部体部の間に弱いヘラナゲあり口縁部内傾する	①良好②よい褐色③細砂粒含む④残存
64-10 77	土師器 坏	口-15.2 高-3.9	覆土	口縁部ココナダ体部ヘラケズリ内面ナゲ口縁部弱く外反する	①良好②褐色③細砂粒含む④残存
64-11 77	土師器 坏	口-18.0 高-6.8	No11	口縁部ココナダ体部ヘラケズリ口縁部と体部の間に弱いヘラナゲ内面ナゲ口縁部内湾する	①良好②よい褐色③細砂粒含む④残存
64-12 76	須恵器 蓋	口-11.4 高-2.3	覆土	外面回転ヘラ調整内面に返りをもつ	①良好②灰色③部④完形
64-13 77	須恵器 蓋	口-16.8	No13	外面回転ヘラ調整内面に返りをもつ	①良好②灰褐色③2~3mmの砂粒含む④残存
64-14 76	須恵器 坏	口-8.2 高-2.8 底-7.6	No14	底部回転ヘラ調整口縁部直線状に外傾する	①良好②灰色③部④残存
64-15 76	須恵器 坏	底-15.4	覆土	底部回転ヘラ調整底部は平底	①良好②灰白色③部④底部残存
64-16 76	須恵器 坏	口-15.6 高-4.6 底-11.6	床面 No16	付高台底部回転ヘラ調整口縁部直線状に外傾する	①良好②灰白色③部④残存
64-17 77	須恵器 坏	口-14.5 高-4.1 底-9.5	覆土	表面新落ひどい底部周辺にケズリ出し高台状の調整がある口縁部直線状に外傾する	①軟質②灰白色③細砂粒含む④完形
64-18	土師器 壺	口-10.8	覆土	口縁部ココナダ割部ヘラケズリ内面ナゲ口縁部弱く内湾をもち外傾する	①良好②よい褐色③1~2mmの砂粒含む④残存
64-19 77	土師器 長壺	底-4.0	覆土	胴下部タテ方向のヘラケズリ不明確	①良好②暗赤褐色③1~2mm砂粒含む④胴下半部残存
64-20 76	土師器 長壺	口-20.8	覆土 No20	口縁部ココナダ後ヘラナゲ割部ヘラケズリ内面口縁部ココナダ後ヘラナゲ割部ヘラナゲ	①良好②褐色③細砂粒含む④口縁部破片
64-21 77	土師器 壺	口-22.0	覆土	口縁部ココナダ割部ヘラケズリ内面ナゲ頸部弱く外傾する	①良好②よい褐色③1~2mm砂粒含む④口縁部残存
65-22 77	土師器 長壺	口-22.0	覆土	口縁部ココナダ割部ヘラケズリ内面弱いヘラナゲ口縁部弱く外湾する	①良好②赤褐色③2~3mmの砂粒含む④口縁部残存
65-23 77	土師器 壺	口-25.0	覆土	口縁部ココナダ割部ヘラケズリ内面弱いヘラナゲ口縁部内湾ぎみに外傾する	①良好②赤褐色③1~2mmの砂粒含む④残存
Fig. 65-24 PL. 77	石	長-13.7cm 幅-5.2cm 厚-3.5cm	石炭閃緑岩		
Fig. 65-25 PL. 77	石	長-22.6cm 幅-7.85cm 厚-5.7cm	粗粒安山岩		
Fig. 65-26 PL. 77	石	長-12.4cm 幅-8.45cm 厚-6.8cm	粗粒安山岩		
Fig. 65-27 PL. 77	鉄製品	長-4.3cm 厚-3mm	刀子		

23号住居跡 (Fig. 66・67・68, PL. 5・78)

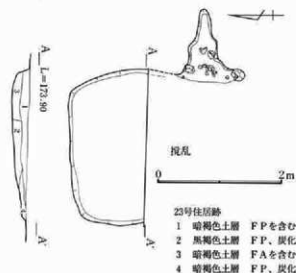


Fig.66 23号住居跡

F区中央に位置し36・37F31・32の範囲にある。他の遺構との重複はない。住居跡中央部は擾乱により検出されていないが、住居跡の北半部と東壁に竈が検出された。規模は北壁2.4mを測り、平面形態は不明である。主軸方位は竈長軸でN-85°-Eである。壁高は約10cm~15cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈の規模は燃焼部幅約80cm、同長約50cm、煙道部長約60cmを測る。

第2章 検出された遺構と遺物

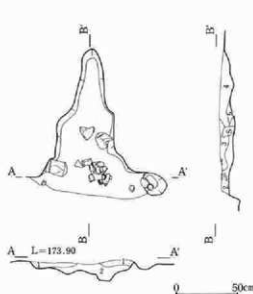


Fig.67 23号住居跡電

23号住居跡電

- 1 黒褐色土層 炭化物、黒色灰を多量に含む
- 2 黒褐色土層 焼土粒を多量に含む
- 3 暗褐色土層
- 4 暗褐色土層 F P、焼土粒、炭化物を含む
- 5 暗褐色土層 焼土粒、炭化物を多量に含む

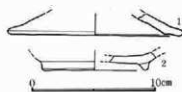


Fig.68 23号住居跡出土遺物

第23号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
68-1 78	須恵器 蓋	口-14.0	覆土	外面回転へ調整内面に返りをもつ	①良好②白灰色③細砂粒含む④破片
68-2 78	須恵器 埴	底-8.5	覆土	付高台底部回転へ調整	①良好②灰白色③密④底部破片

24号住居跡 (Fig. 69・70・71、PL. 5・78)

F区北東部に位置し32~34F39・40の範囲にある。21号住居跡の北東にあり、西部で22号住居跡と重複する。新旧関係は24号住居跡が新しい。規模は長辺4.7m、短辺3.4mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。

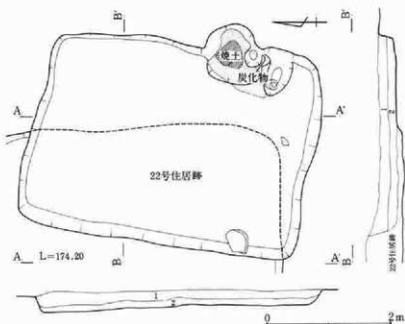
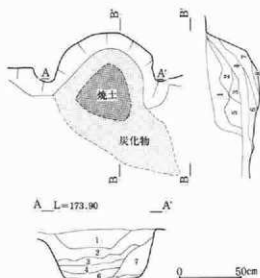


Fig.69 24号住居跡

主軸方位はN-90°-Eである。壁高は約30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等は検出されていない。南東コーナーに高まりが検出された。規模は約80cm×40cm、高さ約5cm~6cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約70cm、同長約60cmを測る。

24号住居跡

- 1 暗褐色土層 F Pを含む
- 2 暗褐色土層 F P、焼土、炭化物粒を含む



24号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 F P、焼土粒少量含む
- 2 暗褐色土層 炭化物を多量に含む
- 3 暗褐色土層 焼土粒、炭化物を多量に含む
- 4 暗褐色土層
- 5 暗褐色土層 焼土粒を含む
- 6 暗褐色土層 炭化物を含む
- 7 黄褐色土層
- 8 暗褐色土層 焼土粒を多量に含む

Fig.70 24号住居跡竈

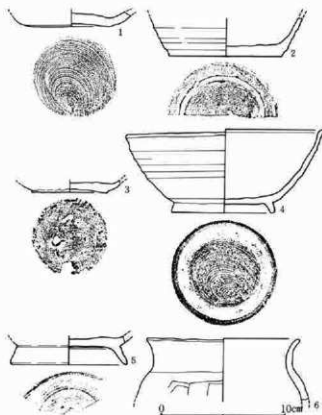


Fig.71 24号住居跡出土遺物

第24号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
71-1 78	須恵器 坏	底-6.4	覆土	底部回転糸切り廻り	①良好②灰白色③密④底部残存
71-2 78	須恵器 坏	底-9.0	覆土	高台穴落底部回転へラ調整底部平底で口縁部直線状に外挿する	①良好②灰白色③密④底部残存
71-3 78	須恵器 坏	底-6.0	覆土	底部回転糸切	①良好②灰白色③密④底部残存
71-4 78	須恵器 埴	口-15.6 高-6.4 底-8.2	床面	付高台底部回転糸切口縁端部外側へ屈曲する	①良好②灰色③2~3mmの砂粒含む④残存
71-5 78	須恵器 埴	底-9.2	覆土	付高台底部回転糸切高台先端薄く直線状に開く	①良好②灰色③密④底部残存
71-6 78	土師器 壺	口-12.0	覆土	口縁部コナガ胴部へラクスリ内面ナゴ口縁部緩いカーブをもつ	①良好②によい赤褐色③1~2mm砂粒含む④口縁部破片

25号住居跡 (Fig. 72・73、PL. 6・78)

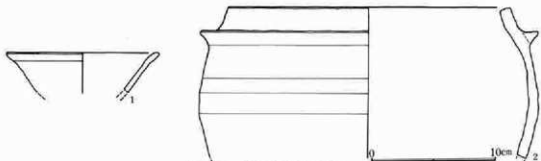
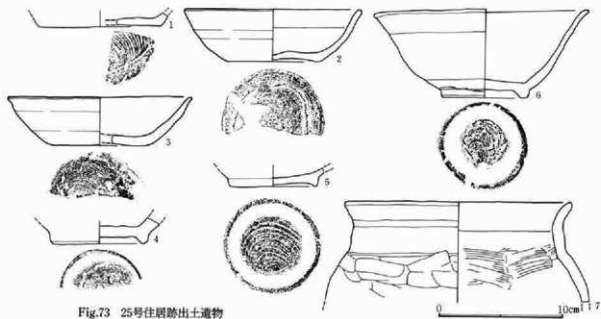
F区北東部に位置し29・30F48・49の範囲にある。20号住居跡の北にあり、北東部を26号住居跡と重複する。新旧関係は26号住居跡が新しい。規模は長辺3m、短辺2.9mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁の遺存状態は悪く壁高は約20cm~25cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は26号住居跡に切り崩されているが、南東コーナー部から構築材と思われる石が土器と共に検出された。

26号住居跡 (Fig. 72・74・75、PL. 6・78)

F区北東部に位置し28・29F48~G00の範囲にある。20号住居跡の北にあり、西南部を25号住居跡と重複する。新旧関係は26号住居跡が新しい。また東部は調査区域外へかかるためプランは確認されていない。



Fig.72 25・26号住居跡・8号土坑



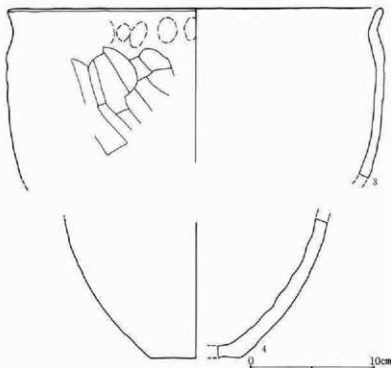


Fig.75 26号住居跡出土遺物(2)

第25号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ③胎土	②色調 ④残存
73-1	須恵器 坏	底-9.5	覆土	底部回転未切	①良好②灰白色③密④底部 片残存	
73-2	須恵器 埴	口-14.1	No 2	付高台穴落底部回転未切口縁部緩やかに内湾する	①良好②灰色③2~3mmの 砂粒含む④片残存	
73-3	須恵器 坏	口-14.6 高-3.8 底-7.8	No 3	底部回転未切口縁部弱く外反する	①良好②灰色③2~3mmの 砂粒含む④片残存	
73-4	灰釉陶器 坏	底-7.0	覆土	底部回転へ調整内開一部触	①良好②白灰色③密④底部 片残存	
73-5	須恵器 埴	底-7.6	No 5	付高台底部回転未切	①良好②灰色③1~2mmの 砂粒含む④底部残存	
73-6	須恵器 埴	口-17.0	No 6	口縁部弱く外湾する付高台底部回転未切口縁部弱く外反する	①良好②白灰色③1~2mm の砂粒含む④片残存	
73-7	土師器 甕	口-18.0	No 7	口縁部ヨコナゲ割部ヘラケズリ内面ヘラ状工具のナゲ割部弱いコ字状を呈する	①良好②赤褐色③2~3mm の砂粒含む④片残存	

第26号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ③胎土	②色調 ④残存
74-1	土師器 埴	口-12.0	覆土	口縁部外湾する	①良好②淡褐色③細砂粒含 む④口縁部片残存	
74-2	羽蓋	口-22.2	No 2	脚上を向く口縁部内湾する	①良好②赤褐色③2~3mm の砂粒含む④口縁部片残存	
75-3	土師器 甕	口-29.4	No 3	割部ヘラケズリ口縁部弱く外反する	①良好②ぶい褐色③2~3 mm砂粒含む④口縁部片残存	
75-4	土師器 甕	底-7.0	No 4		①良好②赤褐色③1~2mm の砂粒含む④底部片残存	

27号住居跡 (Fig. 76・77, PL. 6・79)

F区東部に位置し31・32 F 27・28の範囲にある。23号住居跡の南西にあり、南半部を3号溝と重複する。

新旧関係は3号溝が新しい。東半部は調査区域外へかかるためプランは確認されていない。床面はほぼ平坦をなす。平面形態、主軸方位は不明である。壁高は約10cm～15cmを測る。



Fig.76 27号住居跡

27号住居跡

- 1 暗褐色土層 F Pを多量、炭化物を少量含む
- 2 暗褐色土層 炭化物を多量に含む
- 3 黄褐色土層 F Pを少量含む
- 4 暗褐色土層
- 5 暗褐色土層 炭化物を少量含む
- 6 黄褐色土層 炭化物を含む

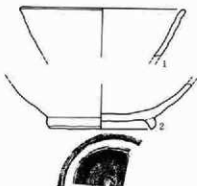


Fig.77 27号住居跡出土遺物

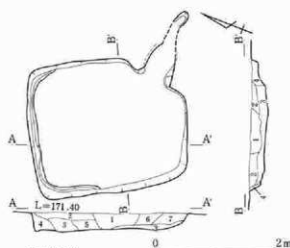
第27号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計面積 (cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②胎土 ③胎土 ④残存
77-1 79	須恵器 坏	口-13.1	覆土	口辺部直線状に外傾する	①良好②灰色③2～3mmの砂粒含む④口縁部破片
77-2 79	灰釉陶器 埴	底-8.1	覆土	内外面一部に釉	①良好②灰白色③密④底部片残存
77-3 79	羽 蓋	口-20.4	覆土	脚上を向く口縁部内傾する	①良好②によい褐色③1～2mmの砂粒含む④破片
77-4 79	土師器 台付壁	底-9.1	Ns4	内外面共にナデハの字状に開く	①良好②によい褐色③細砂粒含む④底部片残存

28号住居跡 (Fig. 78・79・80, PL. 6・79)

G区東部に位置し29～31 G 19・20の範囲にある。34号住居跡の西にあり、南東部を35号住居跡と重複する。新旧関係は28号住居跡が新しい。規模は長辺2.6m、短辺2.1mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-64°-Eである。壁高は約20cm～30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝は北・西壁に検出された。規模は幅約10cm、深さ約5cmを測る。貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈の遺存状態は良好で南東コーナーに煙道部の天井部を遺し検出された。長軸は南にふれN-97°-Eである。規模は袖幅約50cm、同長約50cm、煙道部長約70cmを測る。左袖部に構築材の石が検出された。

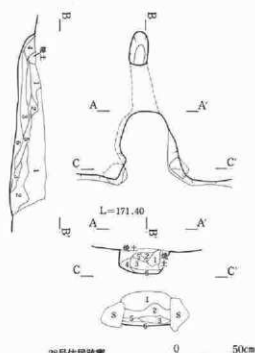
第1節 竪穴住居跡



28号住居跡

- 1 黒褐色土層 炭化物を少量含む
- 2 暗褐色土層 F Pを含む
- 3 暗褐色土層 F P、FAを含む
- 4 暗褐色土層 F Pを含む
- 5 暗褐色土層 FA凝縮土を含む
- 6 暗褐色土層 F Pを含み、FAブロックを含む
- 7 暗褐色土層 F Pを含む

Fig.78 28号住居跡



28号住居跡電

- 1 暗褐色土層 焼土を多量に含む、FAを含む
- 2 暗褐色土層 焼土を含む
- 3 暗褐色土層 焼土ブロックを含む
- 4 暗褐色土層 黒色灰を含む
- 5 暗褐色土層
- 6 暗褐色土層 黒色灰を多量に含む

Fig.79 28号住居跡電

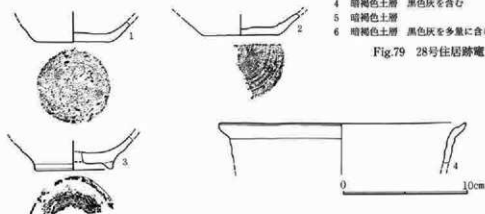


Fig.80 28号住居跡出土遺物

第28号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ③胎土	②色調 ④残存
80-1 79	須恵器 坏	底-5.9	覆土	底部回転糸切右廻り	①良好②灰色③赤	④底部残存
80-2 79	須恵器 坏	底-6.0	覆土	底部回転糸切	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含む④底部瓦残存	
80-3 79	須恵器 坏	底-6.0	覆土	付高台底部回転糸切	①やや軟質②灰色③1~2mmの砂粒含む④底部瓦残存	
80-4 79	土師器 壺	口-19.4	覆土	口縁部ココナデ口縁部外反する	①良好②赤褐色③細砂粒含む④口縁部破片	

29号住居跡 (Fig. 81・82・83, PL. 6・79・80)

G区南東部に位置し26~28G 5~7の範囲にある。30号住居跡の東にあり、他の遺構との重複はない。東



Fig.81 29号住居跡

側一部は調査区域外にあるためプランは確認できなかった。規模は長辺3.5m、短辺2.7mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約30cm~40cmを測る。壁周溝は北・西・南壁に検出された。規模は約10cm、深さ約5cm~10cmを測る。竈は検出されておらず、南東部に灰が検出され、調査区域外にあるものと思われる。

29号住居跡

- 1 暗褐色土層 F P、焼土粒を含む
- 2 暗褐色土層 焼土、炭化物を含む
- 3 暗褐色土層 F Pを含む
- 4 暗褐色土層
- 5 暗褐色土層 F P、焼土粒を含む
- 6 暗褐色土層 F Pを含む
- 7 暗褐色土層 F Pを多量に含む
- 8 暗褐色土層
- 9 暗褐色土層 黒色灰、焼土、炭化物を含む

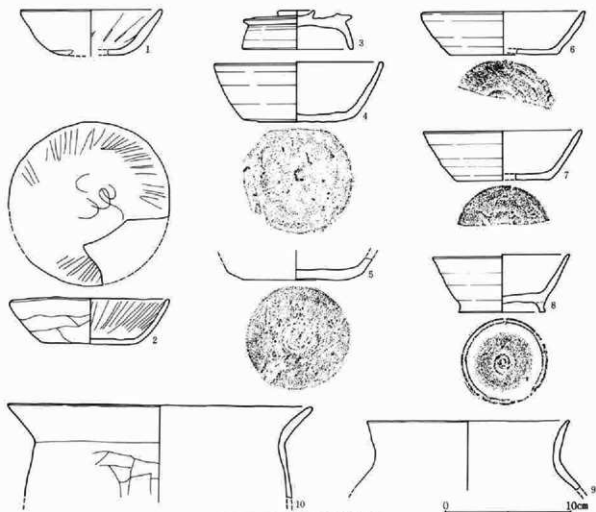


Fig.82 29号住居跡出土遺物(1)

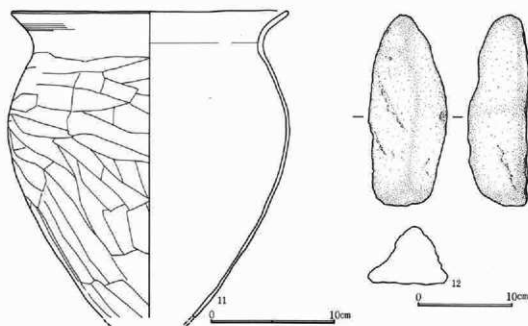


Fig.83 29号住居跡出土遺物(2)

第29号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値 (cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②胎土 ③色調 ④残存
82-1 79	土師器 坏	口-11.0	覆土	口縁部ヨコナダ体部ヘラケズリ内面暗文器内厚く 底部と腹部の境不明瞭	①良好②よい黄色③細砂 粒含む④残存
82-2 79	土師器 坏	口-22.6 高-3.6 底-7.0	No.2	口縁部ヨコナダ体部底部ヘラケズリ内面暗文口縁 部から底部の境不明瞭	①良好②褐色③細砂粒含む ④残存
82-3 79	須恵器 蓋	口-8.6 高-3.1	No.3	腹部に向かい内向きに開く上面外側へ水平に開く	①良好②灰色③密④完形
82-4 79	須恵器 坏	口-13.2 高-4.7 底-8.5	No.4	底部へ切後へ調整口縁部直線状に外傾する	①良好②灰色③1~2mmの 砂粒含む④残存
82-5 79	須恵器 坏	口-8.6 高-3.1 底-8.2	覆土	底部回転へ調整	①良好②灰色③3~4mmの 砂粒含む④底部残存
82-6 79	須恵器 坏	口-12.7 高-3.4 底-8.4	No.6	底部へ調整底部は平底で口縁部は直線状に外傾 する	①良好②灰色③密④残存
82-7 79	須恵器 坏	口-12.4 高-3.9 底-7.4	No.7	底部回転へ調整口縁部直線状に外傾する	①良好②白灰色③細砂粒含む ④残存
82-8 79	須恵器 坏	口-10.6 高-4.5 底-6.7	No.8	付高台底部回転へ調整高台部先端平直をなし口 縁部直線状に外傾する	①良好②灰色③2~3mmの 砂粒含む④完形
82-9 79	土師器 壺	口-16.0	覆土	口縁部ヨコナダ口縁部外再する	①良好②赤褐色③細砂粒含む ④口縁部残存
82-10 79	土師器 壺	口-23.8	覆土	口縁部ヨコナダ腹部ヘラケズリ口縁部外反する	①良好②赤褐色③細砂粒含む ④口縁部残存
83-11 80	土師器 壺	口-22.0	No.11	口縁部ヨコナダ腹部ヘラケズリ内面ナダ	①良好②褐色③細砂粒含む ④残存

Fig. 83-12 PL. 80 石 長-20.1cm 幅-8.35cm 厚-6.15cm 粗粒安山岩

30号住居跡 (Fig. 84・85・86, PL. 7・79・80)

G区南東部に位置し28・29G 6~8の範囲にある。29号住居跡の西にあり、31号住居跡と重複する。新旧関係は30号住居跡が新しい。規模は長辺3.3m、短辺2.2mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-87°-Eである。壁高は約10cm~20cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は袖幅約40cm、燃焼部長約50cmを測る。両袖部に構築材の石が検出された。

第2章 検出された遺構と遺物

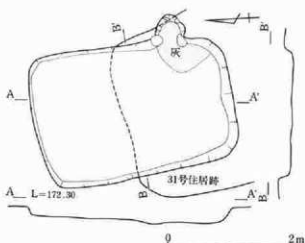
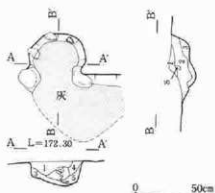


Fig.84 30号住居跡



- 30号住居跡竈
- 1 淡褐色土層 F Aブロックを多量に含む
 - 2 暗褐色土層 F Pを含む
 - 3 暗褐色土層 黒色灰を含む
 - 4 黄褐色土層 F A泥流土を含む
 - 5 淡褐色土層

Fig.85 30号住居跡竈

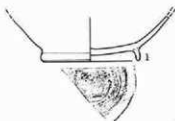
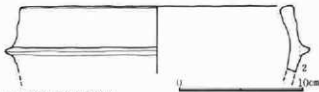


Fig.86 30号住居跡出土遺物



第30号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値 (cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
86-1 79	灰輪肉部 椀	底-9.5	覆土	底部回転へう調整	①良好②白灰色③赤④底部 残存
86-2 80	羽蓋	口-21.8	覆土	口縁部ヨコナア口縁部内高し脚短く下を向く	①良好②ふい・橙色③細砂 粒含む④口縁部破片

31号住居跡 (Fig. 87・88, PL. 7・80)

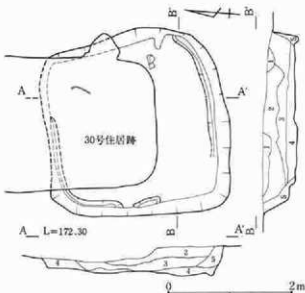


Fig.87 31号住居跡

G区南東部に位置し28・29G 6・7の範囲にある。29号住居跡の西にあり、30号住居跡と重複する。新旧関係は30号住居跡が新しい。規模は一辺3mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約40cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝は南・西・北壁に検出された。規模は幅約10cm、深さ約5cmを測る。貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は検出されていない。

- 31号住居跡
- 1 暗褐色土層 F Pを含む
 - 2 黄褐色土層 F Pを少量含む
 - 3 黄褐色土層
 - 4 暗褐色土層 泥流土を含む
 - 5 暗褐色土層



Fig.88 31号住居跡出土遺物

第31号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
88-1 80	土師器 杯	□-12.1	覆土	口縁部ヨコナゲ体部ヘラズリ内面ナド口縁部外反する	①良好②明棕色③細砂粒含む④口縁部反残存
88-2 80	土師器 壺	□-12.6	覆土	口縁部内外面ヨコナゲ胴部ヘラズリ口縁部直線状に外傾し頸部に稜をもつ	①良好②におい橙色③細砂粒含む④口縁部反残存

32号住居跡 (Fig. 89・90・91, PL. 7・80)

G区南東部に位置し26・27G 8～10の範囲にある。29号住居跡の北にあり、他の遺構との重複はない。規模は長辺3.7m、短辺2.5mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-90°-Eである。壁高は約10cm～20cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁ほぼ中央に検出された。袖幅約70cm、燃焼部長約40cmを測る。両袖部に構築材の石が検出された。燃焼部中央部に支脚が検出された。また南東コーナーから竈構築材と思われる石が集中して検出された。

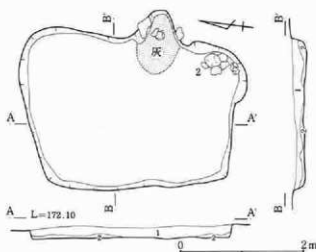


Fig.89 32号住居跡

32号住居跡

- 1 暗褐色土層 F Pを含む
- 2 黄褐色土層

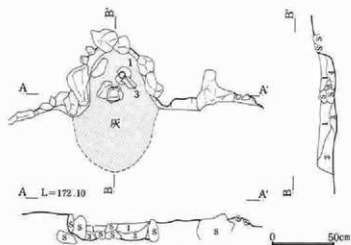


Fig.90 32号住居跡竈

32号住居跡竈

- 1 黄褐色土層
- 2 暗褐色土層 黒色灰を含む
- 3 黒色灰層
- 4 淡褐色土層 雑土を含む
- 5 暗褐色土層 黒色灰を少量含む

第2章 検出された遺構と遺物

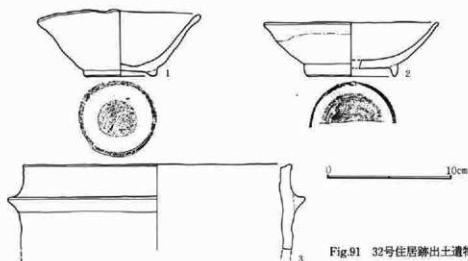


Fig.91 32号住居跡出土遺物

第32号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②胎土	③色調 ④残存
91-1 80	須恵器 坏	口-12.9 高-5.2 底-5.8	No.1	口縁部ゆがみが大きい付高台底部回転糸切	①良好②灰色③5~6mmの砂粒含む④完形	
91-2 80	灰釉陶器 碗	口-13.8 高-4.2 底-6.9	No.2	付高台底部ナデ調整口縁部に軸口縁端部弱く外側へ屈曲する	①良好②白灰色③2~3mmの砂粒含む④片残存	
91-3 80	羽蓋	口-21.2	No.3	筒やや上を向く口縁部直立ぎみ	①良好②褐色③2~3mmの砂粒含む④口縁部片残存	

33号住居跡 (Fig. 92・93・94, PL. 7・80・81)

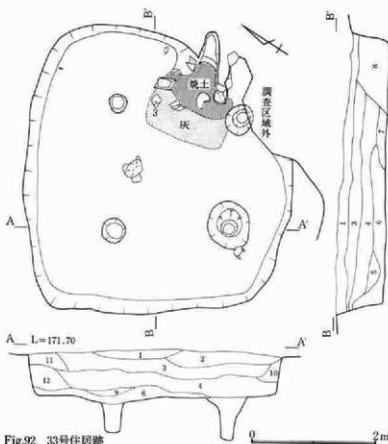


Fig.92 33号住居跡

G区南東部に位置し25~28G 14~16の範囲にある。32号住居跡の北にあり、他の遺構との重複関係はない。南東コーナーは調査区域外に延びるためプランは確認されていない。規模は長辺4.6m、短辺4.4mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-66°-Eである。壁高は約60cm~70cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は

33号住居跡

- 1 黒褐色土層 FPを少量含む
- 2 暗褐色土層 砂粒を含む
- 3 暗褐色土層
- 4 黒褐色土層 FP、炭化物を少量含む
- 5 淡褐色土層 FP、FAを含む
- 6 淡褐色土層 炭化物を含む
- 7 灰褐色土層 大形FPを含む
- 8 暗褐色土層
- 9 暗褐色土層 FPを少量含む
- 10 黒褐色土層 FAブロックを含む
- 11 黒褐色土層 FA粒を含む
- 12 暗褐色土層 FA粒を含む

第1節 竪穴住居跡

検出されていない。竈は東壁に検出された。
 焼部幅約60cm、同長約90cmを測る。

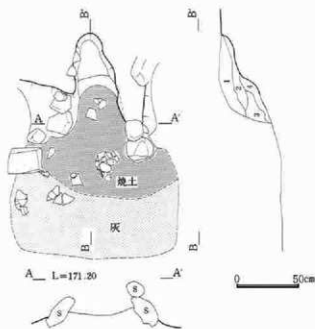


Fig.93 33号住居跡竈

- 33号住居跡竈
 1 暗褐色土層
 2 暗褐色土層 焼土を含む
 3 暗褐色土層 焼土少量含む
 4 暗褐色土層 焼土主体層

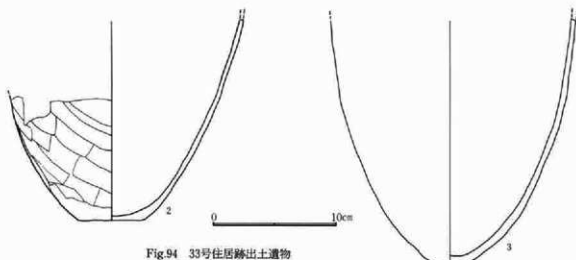
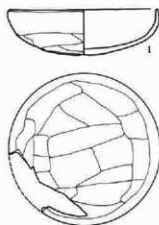


Fig.94 33号住居跡出土遺物

第33号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器 種 形	計 測 値 (cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
94-1 80	土器器 坏	口-11.8 高-3.6	小 穴 覆 土	口縁部ココナダ体部ヘラケズリ口縁部と体部の間 弱いナゲ内面ナゲ口縁部直立ぎみ	①良好②ぶい橙色③1 ~2mm砂粒含む④ほぼ完形
94-2 80	土器器 壺	底-5.0	覆 土	外面ヘラケズリ	①良好②ぶい橙色③1~2 mm砂粒含む④下割部残存
94-3 81	土器器 壺	底-3.0	No.3	外面ヘラケズリ磨減して不明瞭	①軟質②褐色③2~3mmの 砂粒含む④下割部残存

34号住居跡 (Fig. 95・96・97・98, PL. 7・8・80・81)

G区東部に位置し26~28G19~21の範囲にある。33号住居跡の北にあり、西部を35号住居跡と重複する。
 新旧関係は35号住居跡が新しい。規模は長辺3.8m、短辺3mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位

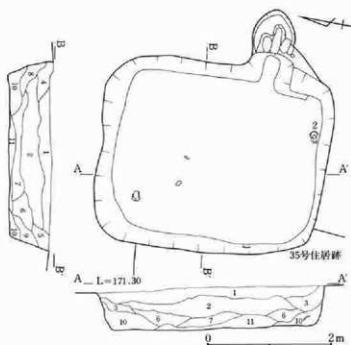


Fig.95 34号住居跡

はN-84°-Eである。壁高は約50cm～60cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。竈の形態は燃焼部から煙道部との境目に約30cmの段差をもち上面から石が検出された。規模は燃焼部幅約50cm、同長約40cm、煙道部長約70cmを測る。

34号住居跡

- 1 暗褐色土層 F P、焼土粒を含む
- 2 暗褐色土層 F P、炭化物ブロックを含む
- 3 暗褐色土層 炭化物を含む
- 4 暗褐色土層 F Pを含む
- 5 暗褐色土層
- 6 暗褐色土層 粘土泥炭を少量含む
- 7 暗褐色土層
- 8 黄褐色土層
- 9 暗褐色土層
- 10 暗褐色土層 砂礫を含む
- 11 暗褐色土層 炭化物を多量に含む

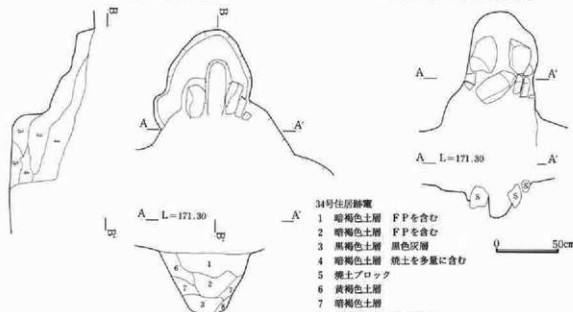


Fig.96 34号住居跡竈

34号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 F Pを含む
- 2 暗褐色土層 F Pを含む
- 3 黒褐色土層 黒色炭層
- 4 暗褐色土層 焼土を多量に含む
- 5 焼土ブロック
- 6 黄褐色土層
- 7 暗褐色土層
- 8 暗褐色土層 焼土を含む

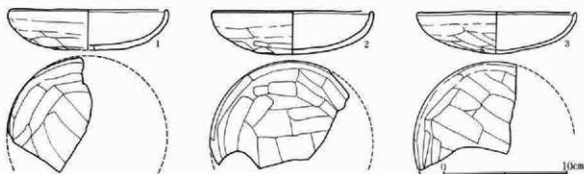


Fig.97 34号住居跡出土遺物(1)



Fig.98 34号住居跡出土遺物(2)

第34号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ③断土	②色調 ④残存
97-1 80	土器 器形	口-12.6 高-3.2	覆土	口縁部ココナダ体部ヘラケズリ口縁部体部の間割 いナダ内面ナダ口縁部直立み	①良好②よい	③1 ~2mmの砂粒含む④残存
97-2 80	土器 器形	口-12.8 高-3.4	No.2	口縁部ココナダ体部ヘラケズリ口縁部体部の間割 いナダ内面ナダ口縁部直立み	①良好②褐色	③1~2mmの 砂粒含む④残存
97-3 81	土器 器形	口-12.7 高-3.3	覆土	口縁部ココナダ体部ヘラケズリ口縁部体部の間割 いナダ内面ナダ口縁部直立み	①良好②よい	③1 ~2mmの砂粒含む④残存
98-4 81	土器 器形	口-22.2	覆土	口縁部ココナダ口縁部外反する	①良好②褐色	③細砂粒含む ④口縁部破片

Fig. 98-5 PL. 81 鉄製品 長-6.3cm 厚-1.1cm

35号住居跡 (Fig. 99・100・101, PL. 8・81)

G区東部に位置し28~30G18~20の範囲にある。30号住居跡の北西にあり、東部を34号住居跡、北西部を28号住居跡と重複する。新旧関係は28号住居跡が旧く、34号住居跡が新しい。規模は長辺4.4m、短辺3.9mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-76°-Eである。壁高は約50cm~60cmである。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていないが、南東コーナーに約10cmの不定形の落ち込みが確認された。竈は東壁に検出された。規模は燃焼部幅約90cmを測る。竈の先端は34号住居跡により切り崩されているが、約50cmを遺している。

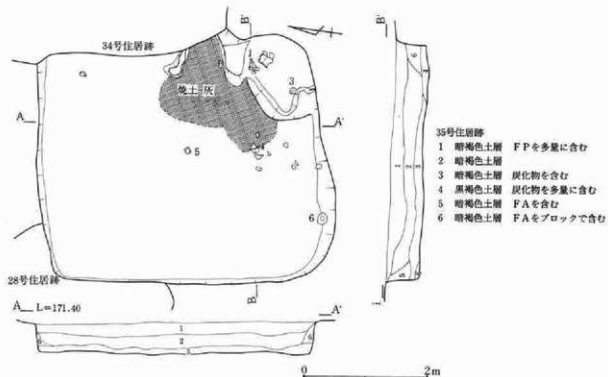
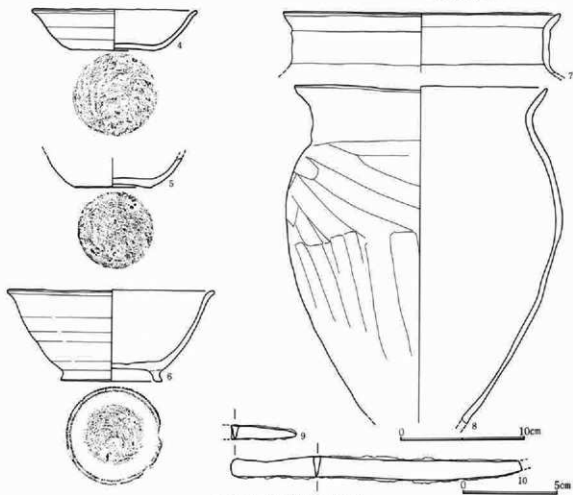
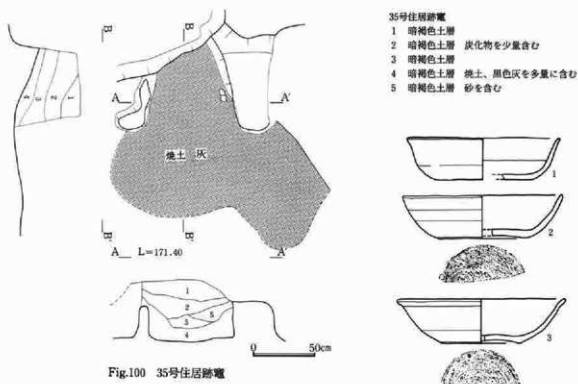


Fig.99 35号住居跡

第2章 検出された遺構と遺物

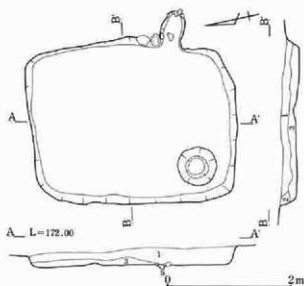


第35号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器 種 形	計 測 値 (cm)	出土位置	成 形 及 び 調 整 の 特 徴	①構成 ②色調 ③胎土 ④残存
101-1 81	土師器 杯	口-12.2 高-3.3 底-7.2	No.1	口縁部ココナダ体部弱いなデ内面ナゲ	①良好②よい・橙色③細砂粒含む④写残存
101-2 81	須恵器 杯	口-12.8 高-3.4 底-7.0	覆土	底部回転糸切口縁部弱く内湾して立ち上がる	①良好②灰色③塵④写残存
101-3 81	須恵器 杯	口-13.4 高-3.5 底-6.2	No.3	底部回転糸切口縁部外側へ屈曲する	①良好②灰色③2~3mmの砂粒含む④写残存
101-4 81	須恵器 杯	口-13.1 高-3.2 底-6.8	No.4	底部回転糸切口縁部外側へ弱く屈曲する	①良好②灰色③3~4mmの砂粒含む④写残存
101-5 81	須恵器 杯	底-6.1	No.5	底部回転糸切口縁部	①良好②灰色③3~4mmの砂粒含む④底面残存
101-6 81	須恵器 塊	口-16.4 高-7.2 底-8.0	No.6	付高台底部回転糸切口縁部外側へ屈曲する	①良好②灰白色③2~3mmの砂粒含む④ほぼ完形
101-7	土師器 壺	口-22.0	覆土	口縁部ココナダコの字状を呈する	①良好②褐色③細砂粒含む④口縁部写残存
101-8 81	土師器 壺	口-20.0	覆土	口縁部ココナダ割部ヘラクスリ内面ナゲ口縁部だれたコの字状を呈する	①良好②赤褐色③1~2mmの砂粒含む④写残存
Fig. 101-9 PL. 81		鉄製品 長-3.4cm 厚-4mm	刀子?		
Fig. 101-10 PL. 81		鉄製品 長-15.6cm 厚-4mm	刀子		

36号住居跡 (Fig. 102・103・104, PL. 8・81)

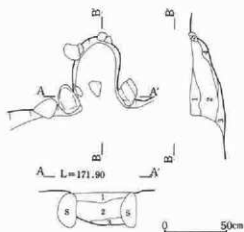
G区東部に位置し30・31G13~15の範囲にある。30号住居跡の南西にあり、他の遺構との重複はない。規模は長辺3.4m、短辺2.9mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-91°-Eである。壁高は約20cm~30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。竈長軸の方位は住居跡の方位とずれ、N-119°-Eである。規模は燃焼部幅約40cm、同長約70cmを測る。



36号住居跡

- 1 暗褐色土層 F Pを含む
- 2 暗褐色土層 黄褐色土を含む
- 3 暗褐色土層

Fig.102 36号住居跡



36号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 F Pを含む
- 2 暗褐色土層 炭化物を含む
- 3 暗褐色土層 灰土、炭化物、灰を含む
- 4 黒褐色土層 黒色灰を含む

Fig.103 36号住居跡竈

第2章 検出された遺構と遺物

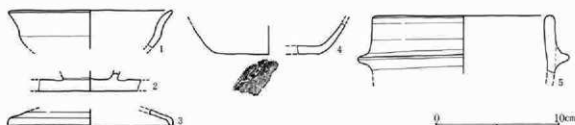


Fig.104 36号住居跡出土遺物

第36号住居跡出土遺物観察表

Fig. No Pl. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②胎土 ③土 ④残存
104-1 81	土器器 杯	口-13.0	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラズリ内面ナド口縁部弱く外反する	①良好②灰白色③泥砂粒含む④口縁部残存
104-2 81	須恵器 蓋		覆土		①良好②灰白色③泥④つまみ部残存
104-3 81	須恵器 蓋	口-13.0	覆土	外面回転ヘラ調整	①良好②灰白色③泥④残存
104-4 81	須恵器 杯	底-8.0	覆土	底部回転糸切	①良好②灰白色③2~3mmの砂粒含む④底部残存
104-5 81	羽蓋	口-14.4	覆土	口縁部直立する鈍短く横を向く	①良好②灰褐色③2~3mmの砂粒含む④口縁部残存

37号住居跡 (Fig. 105・106・107, Pl. 8・82)

G区東部に位置し30~32G9~11の範囲にある。36号住居跡の南にあり、他の遺構との重複はない。規模は長辺3.4m、短辺2.9mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-64°-Eである。壁高は約60cm~70cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁はほぼ中央に上面を攪乱された状態で検出された。規模は燃焼部幅約90cm、同長約60cmを測る。

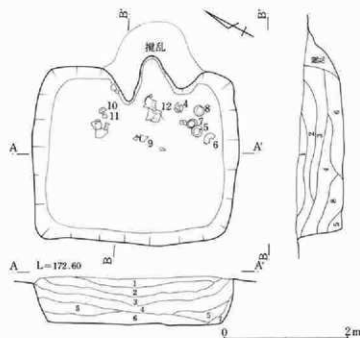


Fig.105 37号住居跡

37号住居跡

- 1 暗褐色土層
- 2 暗褐色土層 FA 泥流土を含む
- 3 暗褐色土層 FA 小ブロックを含む
- 4 暗褐色土層 黒色土を含む
- 5 暗褐色土層 FA を含む
- 6 暗褐色土層 泥炭土を含む
- 7 暗褐色土層 黄褐色土を含む
- 8 暗褐色土層 FA を含む

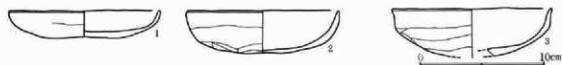


Fig.106 37号住居跡出土遺物(1)

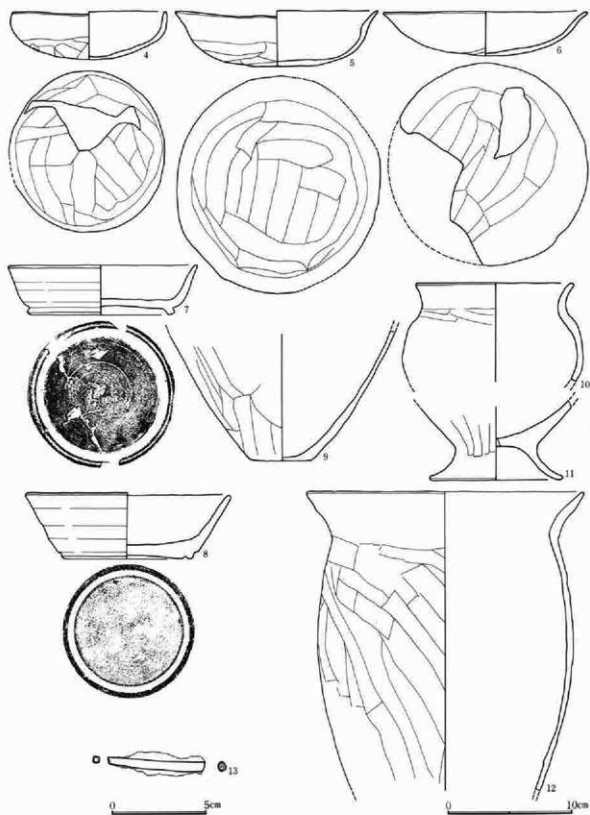


Fig.107 37号住居跡出土遺物(2)

第37号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	遺構 形態	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
106-1 82	土器器 坏	口-12.0 高-2.0	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラズリ口縁部体部の間隔 いナデ内面ナデ口縁部直立ぎみ	①良好②明赤褐色③細砂粒含む④残存
106-2 82	土器器 坏	口-12.0 高-3.3	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラズリ口縁部体部の間隔 いナデ口縁部直立ぎみ	①良好②褐色③細砂粒含む④残存
106-3 82	土器器 坏	口-12.7	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラズリ内面ナデ口縁部外 反する	①良好②に、よい褐色③1 ~2mmの砂粒含む④残存
107-4 82	土器器 坏	口-12.2 高-3.7	No.4	口縁部ヨコナデ体部ヘラズリ口縁部体部の間隔 いナデ内面ナデ口縁部直立ぎみ	①良好②褐色③細砂粒含む ④完形
107-5 82	土器器 坏	口-16.1 高-4.4	No.5	口縁部ヨコナデ体部ヘラズリ内面ナデ口縁部外 反する	①良好②褐色③1~2mmの 砂粒含む④完形
107-6 82	土器器 坏	口-16.1 底-3.5	No.6	口縁部ヨコナデ体部ヘラズリ内面ナデ口縁部外 反する	①軟質②褐色③1~2mmの 砂粒含む④残存
107-7 82	須恵器 埴	口-14.9 高-3.9 底-11.0	No.7	底部回転ヘラ調整付高台口縁部直線状に外傾する	①良好②灰色③砂粒含むが 密④完形
107-8 82	須恵器 埴	口-16.0 高-5.2 底-10.0	No.8	底部未切後回転ヘラ調整ケズリ出し高台口縁部直 線状に外傾する	①良好②褐色③細砂粒含む ④底部残存
107-9 82	土器器 壺	底-4.8	No.9	外面ヘラズリ内面ナデ	①良好②褐色③細砂粒含む ④完形
107-10 82	土器器 壺	口-12.5	No.10	口縁部ヨコナデ割部ヘラズリ内面ナデ口縁部外 湾する	①良好②褐色③1~2mmの 砂粒含む④残存
107-11 82	土器器 台付壺	口-16.0 底-10.0	No.11	割下部ヘラズリ脚部ヨコナデ内面ナデ脚部ハの 字状に開き短部外湾する	①良好②明赤褐色③細砂粒 含む④底部残存
107-12 82	土器器 壺	口-22.0	No.12	口縁部ヨコナデ割部ヘラズリ内面ナデ口縁部外 反する	①良好②褐色③細砂粒含む ④残存
Fig. 107-13	鉄製品	長-5.1cm 厚-4mm	釘		

38号住居跡 (Fig. 108・109・110, PL. 9・82・83)

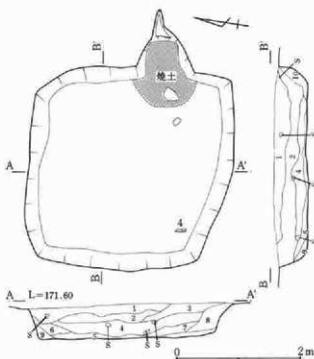
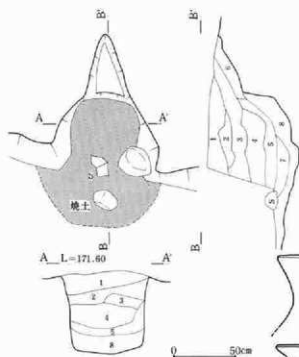


Fig.108 38号住居跡

G区東部に位置し31~33G17~19の範囲にある。35号住居跡の南西にあり、他の遺構との重複はない。規模は長辺3.3m、短辺3.2mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-85°-Eである。壁高は約45cm~50cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁や南寄りに検出された。規模は焼坑部幅約80cm、同長約60cm、煙道部長約40cmを測る。

38号住居跡

- 1 暗褐色土層 F P、焼土粒を含む
- 2 暗褐色土層 F P、炭化物を含む
- 3 暗褐色土層 F P、炭化物を含む
- 4 暗褐色土層 F Pを含む
- 5 暗褐色土層 F Pを多量に含む
- 6 暗褐色土層
- 7 黄褐色土層 焼土、炭化物を含む
- 8 黄褐色土層 焼土を多量に含む
- 9 暗褐色土層
- 10 暗褐色土層 焼土粒を含む、砂質土



38号住居跡竈

- 1 暗褐色土層
- 2 暗褐色土層 FAを含む
- 3 暗褐色土層
- 4 淡褐色土層
- 5 淡褐色土層 黒色灰、焼土を含む
- 6 淡褐色土層 焼土粒を含む
- 7 淡褐色土層 焼土、黒色灰を多量に含む
- 8 淡褐色土層 焼土、黒色灰を含む

Fig.109 38号住居跡竈

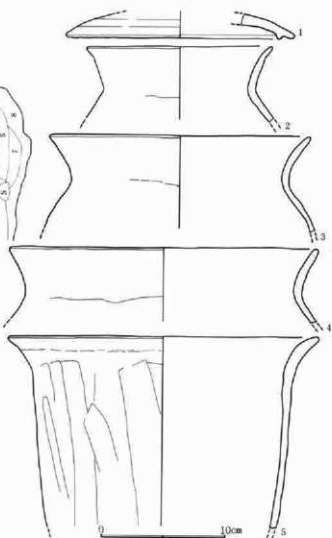


Fig.110 38号住居跡出土遺物

第38号住居跡出土遺物観察表

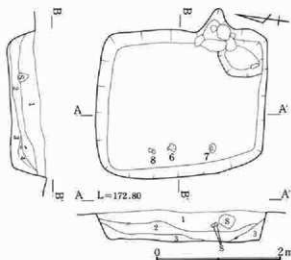
Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ③胎土 ④残存	②色調 ④残存
110-1 82	須置 蓋	□-18.2	覆土	内面に返りをもつ外面回転ヘラ調整	①良好②灰色③密④片残存	
110-2 82	土器器 甕	□-15.7	覆土	口縁部ヨコナゲ割部ヘラケズリ内面ナゲ口縁部外反する	①良好②褐色③細砂粒含む④口縁部片残存	
110-3 83	土器器 甕	□-20.7	覆土	口縁部ヨコナゲ割部ヘラケズリ内面ナゲ口縁部外反する	①良好②褐色③細砂粒含む④口縁部片残存	
110-4 83	土器器 甕	□-24.6	No.4	口縁部ヨコナゲ割部ヘラケズリ内面ヨコナゲ口縁部外反する	①良好②褐色③細砂粒含む④口縁部片残存	
110-5 83	土器器 甕	□-24.6	No.5	口縁部ヨコナゲ割部ヘラケズリ内面ナゲ口縁部外反する	①良好②ぶい褐色③3~4mm砂粒含む④口縁部片残存	

40号住居跡 (Fig. 111・112・113・114, PL. 9・83)

G区南東部に位置し33・34G 3・4の範囲にある。30号住居跡の南西にあり、他の遺構との重複はない。規模は長辺2.8m、短辺2.4mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-80°-Eである。壁高は約30cm~50cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南

第2章 検出された遺構と遺物

寄りに検出された。竈両袖部に構架材の石が検出され、さらに袖石の上に長い天井石が確認された。規模は袖幅約60cm、燃焼部長約60cmを測る。



40号住居跡

- 1 暗褐色土層 F Pを含む
- 2 暗褐色土層 F Pを含む
- 3 暗褐色土層 炭化物を含む
- 4 暗褐色土層 炭化物を含む

40号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 焼土、炭化物を含む
- 2 暗褐色土層 F Pを含む
- 3 暗褐色土層 F P、炭化物を含む
- 4 暗褐色土層 炭化物を含む
- 5 暗褐色土層 焼土、炭化物を含む

Fig.111 40号住居跡

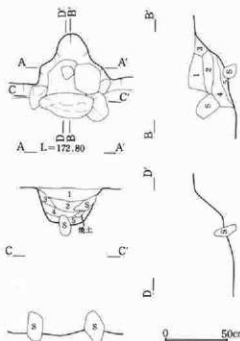


Fig.112 40号住居跡竈

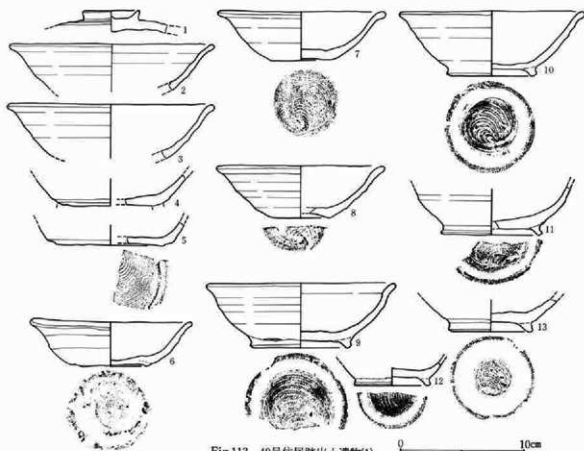


Fig.113 40号住居跡出土遺物(1)

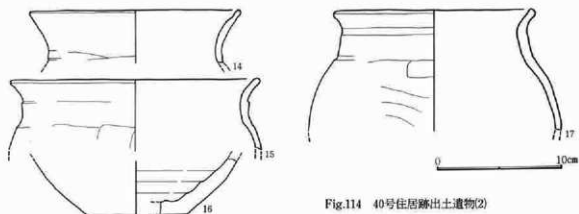


Fig.114 40号住居跡出土遺物(2)

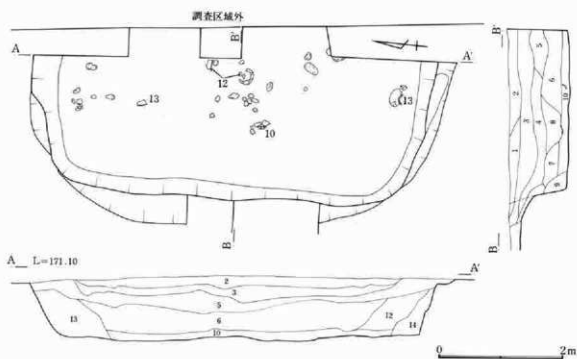
第40号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ③胎土	②色調 ④残存
113-1 83	須恵器 蓋	つまみ径-4.5	覆土	外面回転ヘラ調整	①良好②明茶灰色③密④つまみ部残存	
113-2 83	須恵器 坏	口-16.3	覆土	口縁部外側へ屈曲する	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含む④口縁部片残存	
113-3 83	須恵器 坏	口-16.4	覆土	口縁部外側へ屈曲する	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含む④口縁部片残存	
113-4 83	須恵器 埴		覆土	付高台欠落	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含む④底部片残存	
113-5 83	須恵器 坏	底-8.4	覆土	底部回転糸切	①良好②赤褐色③密④底部片残存	
113-6 83	須恵器 坏	口-12.8 底-5.9	No 6	底部回転糸切口縁部外側へ屈曲する	①良好②灰白色③細砂粒含む④ほぼ完形	
113-7 83	須恵器 坏	口-13.3 底-4.3	No 7	底部回転糸切右廻り口縁部外側へ屈曲する	①良好②灰白色③密④片残存	
113-8 83	須恵器 坏	口-13.3 底-4.5	No 8	底部回転糸切右廻り口縁部外側へ弱く屈曲する	①良好②灰白色③細砂粒含む④片残存	
113-9 83	須恵器 埴	口-15.0 底-7.3	覆土	底部回転糸切付高台口縁部外側へ屈曲する	①良好②灰白色③2~3mmの砂粒含む④片残存	
113-10 83	須恵器 埴	口-14.7 底-6.4	覆土	底部回転糸切付高台口縁部外側へ屈曲する	①良好②よい黄色③2~3mmの砂粒含む④片残存	
113-11 83	須恵器 埴	底-7.0	覆土	底部回転糸切付高台	①良好②灰白色③細砂粒含む④底部片残存	
113-12 83	須恵器 埴	底-6.0	覆土	底部回転糸切付高台	①良好②灰白色③密④底部片残存	
113-13 83	須恵器 埴	底-6.7	覆土	底部回転糸切付高台	①良好②灰白色③2~3mmの砂粒含む④底部残存	
114-14 83	土師器 甕	口-16.6	覆土	口縁部ヨコナゲ胴上部へラ直残る口縁部外反する	①良好②黄色③細砂粒含む④口縁部片残存	
114-15 83	土師器 甕	口-19.6	覆土	口縁部コの字状を呈する	①良好②明赤褐色③1~2mm砂粒含む④口縁部片残存	
114-16 83	土師器 甕	底-7.9	覆土		①良好②褐色③細砂粒含む④底部片残存	
114-17 83	土師器 甕	口-16.0	覆土	口縁部ヨコナゲ胴部へラケズリ内面ナゲ胴部コの字状を呈し口縁部外反する	①良好②赤褐色③2~3mmの砂粒含む④口縁部片残存	

41号住居跡 (Fig. 115・116・117, PL. 10・84・85)

G区東部に位置し27・28G23~26の範囲にある。24号住居跡の北にあり、確認されたのは住居跡の一部であり、東部の大半は調査区域外にあるためプランの確認はされていない。検出されたのは西側の一部である。規模は西壁で6.8mを測る。竈・主軸方位等は不明である。壁高は約70cm~80cmを測り、高い所では約1mを測る。

第2章 検出された遺構と遺物



A_L=171.10

- | | | |
|----------------------|------------------|----------------|
| 41号住居跡 | 6 黒褐色土層 炭化物を含む | 11 灰褐色土層 |
| 1 黒褐色土層 FPを多量に含む | 7 暗褐色土層 炭化物を含む | 12 暗褐色土層 雑土を含む |
| 2 暗褐色土層 FAを含む | 8 暗褐色土層 FPを少量含む | 13 暗褐色土層 FPを含む |
| 3 黒褐色土層 FPを含む、FA殻を含む | 9 灰褐色土層 FP、FAを含む | 14 暗褐色土層 |
| 4 暗褐色土層 FPを多量に含む | 10 黒褐色土層 | |
| 5 黒褐色土層 FP、炭化物を含む | | |

Fig.115 41号住居跡

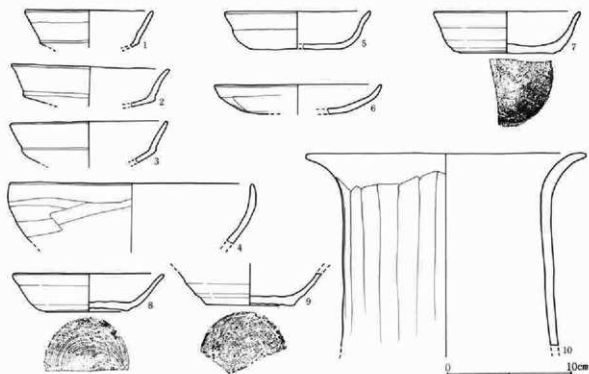


Fig.116 41号住居跡出土遺物(1)

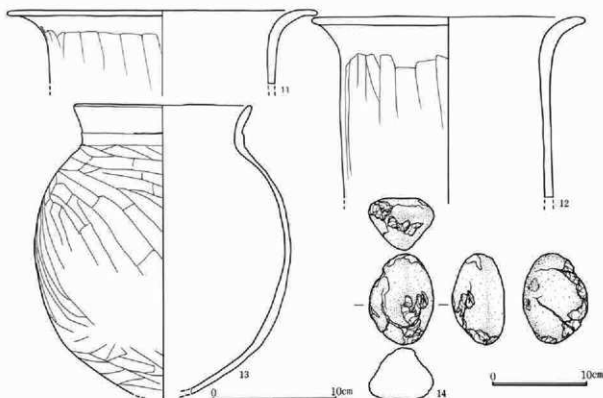


Fig.117 41号住居跡出土遺物(2)

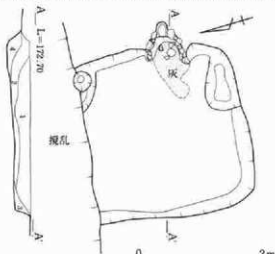
第41号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No	器種 器形	計測 値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ③胎土	②色調 ④残存
116-1 84	土師器 環	口-10.2	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナゲ口縁部縁をもち外積する	①良好②明褐色③細砂粒含む④口縁部破片	
116-2 84	土師器 環	口-12.6	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ口縁部縁をもち外反する	①良好②明褐色③2~3mmの砂粒含む④口縁部残存	
116-3 84	土師器 環	口-12.5	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナゲ口縁部縁をもち外積する	①良好②明褐色③細砂粒含む④口縁部残存	
116-4 84	土師器 環	口-19.3	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナゲ	①良好②褐色③密④口縁部残存	
116-5 84	土師器 環	口-11.6 高-3.0 底-7.0	覆土	口縁部ヨコナデ体部弱いナゲ底部ヘラケズリ内面ナゲ口縁部外反し腹部内面する	①良好②よい褐色③密④残存	
116-6 84	土師器 環	口-13.2	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナゲ口縁部内側へ立ち上げる	①良好②よい褐色③細砂粒含む④口縁部残存	
116-7 84	須恵器 環	口-11.6 高-3.3 底-7.4	覆土	底部手持ヘラ調整口縁部直線状に外積する	①良好②灰色③密④残存	
116-8 84	須恵器 環	口-12.1 高-2.8 底-6.7	覆土	底部回転糸切口縁部直線状に外積する	①良好②灰色③密④残存	
116-9 84	須恵器 環	底-7.0	覆土	底部回転糸切	①良好②黄灰色③3~4mmの砂粒含む④底部残存	
116-10 84	土師器 壺	口-22.2	No10	口縁部ヨコナゲ割部ヘラケズリ内面ナゲ口縁部外反する	①良好②よい褐色③2~3mm砂粒含む④口縁-胴部残存	
117-11 84	土師器 壺	口-24.6	覆土	口縁部ヨコナゲ割部ヘラケズリ内面ナゲ口縁部外反する	①良好②灰褐色③3~4mmの砂粒含む④口縁部残存	
117-12 84	土師器 壺	口-21.6 高-14.2	No12	口縁部ヨコナゲ割部ヘラケズリ内面ナゲ口縁部外反する	①良好③よい褐色⑤2~3mm砂粒含む④口縁全周	
117-13 85	土師器 壺	口-19.0	No13 覆土	口縁部沈線状の線をもちヨコナゲ割部ヘラケズリ内面ナゲ	①良好③よい褐色⑤3~4mmの砂粒含む④残存	

Fig. 117-14 PL. 84 石 長-9.5cm 幅-6.8cm 厚-5.5cm 相模安山岩

42号住居跡 (Fig. 118・119・120, PL. 10・84・85)

G区南東部に位置し32・33G 3・4の範囲にある。40号住居跡の南東にあり、他の遺構との重複はない。北壁は攪乱を受けて検出されていない。規模は南壁で2.8mを測る。主軸方位は竪長軸でN-96°-Eである。壁高は約20cm~30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約50cm、同長約50cmを測る。



- 42号住居跡
- 1 暗褐色土層 F Pを含む
 - 2 暗褐色土層 F Pを多量に含む
 - 3 黄褐色土層
 - 4 黄褐色土層 糞土粒、黒色灰を含む

Fig.118 42号住居跡

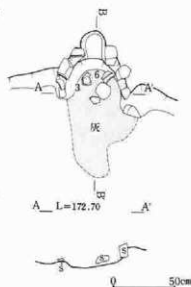


Fig.119 42号住居跡竈

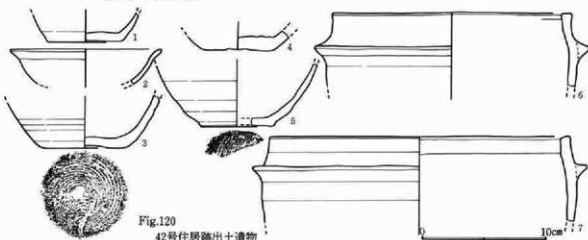


Fig.120
42号住居跡出土遺物

第42号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
120-1 85	須恵器 坏	底-5.8	覆土	底部回転糸切り確り	①良好②灰白色③密④底部 %残存
120-2 84	須恵器 坏	口-12.0	覆土	口縁端部外側へ屈曲する	①良好酸化②によい體色③ 細砂粒含む④口縁部%残存
120-3 84	須恵器 坏	底-6.5	No 3	底部回転糸切口縁部直線状に外傾する	①良好酸化きざみ②によい體色 ③2~3mm砂粒含む④底部残存
120-4 85	須恵器 坏	底-5.0	覆土		①良好②褐色③1~2mm の砂粒含む④底部破片

Fig. No PL. No	遺物 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①構成 ②色調 ③胎土 ④残存
120-5 84	須恵器 坏	底-5.5	覆土	底部回転糸切口辺部内湾ぎみに立ち上がる	①良好酸化②よい橙色③ 細砂粒含む④底部%残存
120-6 85	羽釜	口-19.0	No.6	胴上を向く口縁部外湾ぎみに直立する	①良好②灰白色③密④口縁 部%残存
120-7 85	羽釜	口-23.6	覆土	口縁部直立ぎみで跨短く上を向く	①良好②橙色③2~3mmの 砂粒含む④口縁部%残存

43号住居跡 (Fig. 121・122・123, PL. 10・85・86)

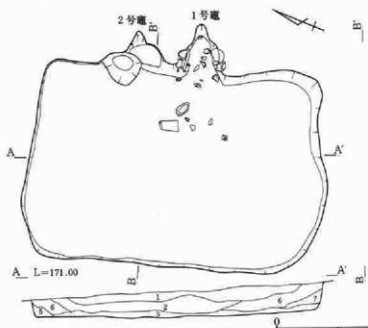


Fig.121 43号住居跡

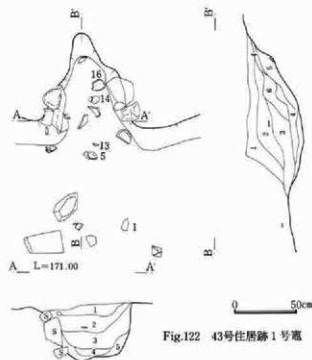


Fig.122 43号住居跡1号竈

G区東部に位置し30~32G 25~27の範囲にある。39号住居跡の北東にあり、他の遺構との重複はない。規模は長辺4.9m、短辺3.3mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-70°-Eである。壁高は約30cm~45cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁中央部(1号)とやや北側(2号)の2基が検出された。

1号は焼部幅約70cm、同長約90cmを測る。2号は形状ははっきりせず規模は焼部幅約90cm、同長約50cmを測る。2号は使用面から遺物は検出されておらず1号に先行するものと考えられる。

43号住居跡

- 1 暗褐色土層 FPを含む
- 2 暗褐色土層 炭化物を含む
- 3 暗褐色土層 黒色土を含む
- 4 暗褐色土層
- 5 黒褐色土層 FAを含む
- 6 暗褐色土層 黒色土を含む
- 7 暗褐色土層

43号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 FPを含む
- 2 暗褐色土層 黄色土粒を含む
- 3 暗褐色土層
- 4 暗褐色土層 焼土、灰を含む
- 5 暗褐色土層 焼土粒を含む
- 6 黄褐色土層 焼土ブロックを含む

第2章 検出された遺構と遺物

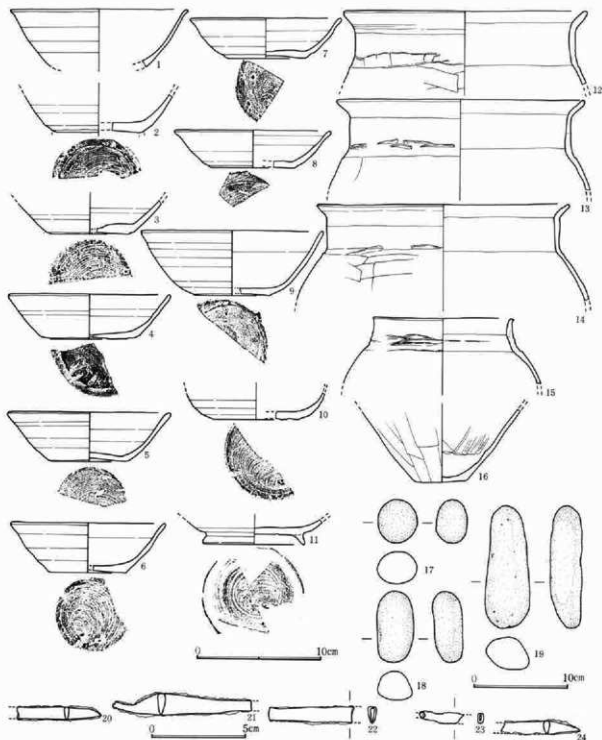


Fig.123 43号住居跡出土遺物

第43号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計 測 値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①構成 ②色調 ③胎土 ④残存
123-1 85	須恵器 坏	口-14.0	No.1	口縁部外側へ屈曲する	①良好②灰色③2~3mmの 砂粒含む④口縁部に残存
123-2 85	須恵器 坏	底-7.3	覆土	底部回転糸切高台部欠落	①良好②灰色③1~2mmの 砂粒含む④底部に残存

Fig. No PL. No	器 種 器 形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①構成 ③胎土 ②色調 ④残存
123-3 85	須恵器 坏	底-6.4	覆土	底部回転糸切	①良好や中酸化さみ②灰白色③2~3mm砂粒含む④底部片残存
123-4 85	須恵器 坏	口-12.6 高-3.5 底-6.0	覆土	底部回転糸切右廻り口縁部直線状に外傾する	①良好②灰白色③密④片残存
123-5 85	須恵器 坏	口-12.8 高-3.9 底-6.0	No.5	底部回転糸切右廻り口縁部直線状に外傾する	①良好酸化さみ②灰白色③2~3mm砂粒含む④片残存
123-6 85	須恵器 坏	口-12.2 高-3.9 底-6.1	覆置土	底部回転糸切口縁部直線状に外傾する	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含む④片残存
123-7 85	須恵器 坏	口-12.0 高-3.2 底-6.2	覆土	底部回転糸切口縁部弱く外傾する	①良好②灰白色③密④片残存
123-8	須恵器 坏	口-12.3 高-2.9 底-6.5	覆土	底部回転糸切口縁部弱く外側へ屈曲する	①良好②灰白色③密④片残存
123-9 85	須恵器 坏	口-14.2 高-5.1 底-6.0	覆土	底部回転糸切口縁部弱く内湾ぎみに立ち上がる	①良好②灰白色③密④片残存
123-10 85	須恵器 坏	底-7.0	覆土	底部回転糸切	①良好②灰白色③密④底部片残存
123-11 85	須恵器 坏	底-8.0	覆土	底部回転糸切付高台部貼付の痕が断面に確認	①良好②灰白色③密④底部片残存
123-12 85	土師器 甕	口-19.0	覆土	口縁部ヨコナゲ胴部ヘラケズリ内面ナデ口縁部コの字状を呈する	①良好②褐色③1~2mmの砂粒含む④口縁部片残存
123-13 86	土師器 甕	口-19.5	No.13	口縁部ヨコナゲ胴部ヘラケズリ内面ナデ胴部ヘラケズリ口縁部コの字状を呈する	①良好②にぶい褐色③細砂粒含む④口縁部片残存
123-14 85	土師器 甕	口-20.0	No.14	口縁部ヨコナゲ胴部ヘラケズリ内面ナデ口縁部コの字状を呈する	①良好②にぶい赤褐色③細砂粒含む④口縁部破片
123-15 86	土師器 甕	口-11.0	覆土	口縁部ヨコナゲ胴部ヘラケズリ口縁部弱く外湾しながら内傾する	①良好②にぶい褐色③細砂粒含む④口縁部破片
123-16 86	土師器 甕	底-4.1	No.16	外面ヘラケズリ内面ヘラナデ	①良好②にぶい褐色③細砂粒含む④底部残存
Fig. 123-17 PL. 86	石	長-4.1cm 幅-4.25cm 厚-3.5cm	粗粒安山岩		
Fig. 123-18 PL. 86	石	長-7.6cm 幅-3.9cm 厚-3.1cm	粗粒安山岩		
Fig. 123-19 PL. 86	石	長-12.9cm 幅-4.8cm 厚-3.35cm	砂岩		
Fig. 123-20 PL. 86	鉄製品	長-4.5cm 厚-2mm	刀子		
Fig. 123-21 PL. 86	鉄製品	長-7.4cm 厚-5mm	刀子		
Fig. 123-22 PL. 86	鉄製品	長-4.5cm 厚-2mm	刀子		
Fig. 123-23 PL. 86	鉄製品	長-2.4cm 厚-2mm	刀子		
Fig. 123-24 PL. 86	鉄製品	長-4.1cm 厚-3mm	刀子		

44号住居跡 (Fig. 124・125・126, PL. 10・86)

F区東部に位置し35・36F28・29の範囲にある。23号住居跡の南にあり、南半部を5号溝と重複し切り崩されている。新旧関係は5号溝が新しい。このため規模は不明であるが北壁長は2.8mを測る。主軸方位も不明である。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈も検出されていない。



Fig.124 44号住居跡

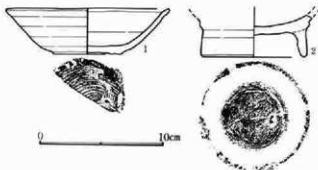


Fig.125 44号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物

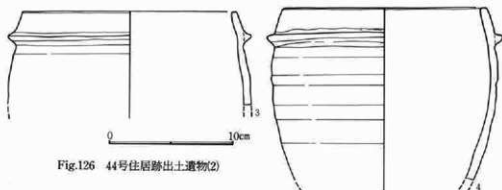


Fig.126 44号住居跡出土遺物(2)

第44号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②胎土	③色調 ④焼存
125-1 86	須恵器 坏	口-13.0 底-5.3	No.1	底部回転糸切口縁部部弱く外湾する	①良好②灰色③細砂粒含む	④焼存
125-2 86	須恵器 埴	底-8.0	No.2	底部回転糸切口付高台	①良好②ぶい藍色③3~4mm砂粒含む④高台部残存	
126-3 86	羽蓋	口-23.0	No.3	脚線を向く口縁部内傾する	①良好②灰褐色③細砂粒含む④口縁部残存	
126-4 86	羽蓋	口-21.5	覆土	脚線を向く口縁部内傾する	①良好②褐灰色③5~6mm砂粒含む④口縁部残存	

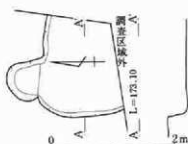


Fig.127 46号住居跡

46号住居跡 (Fig. 127)

F区北東部に位置し28・29F46・47の範囲にある。20号住居跡の北にあり、他の遺構との重複はないが北部で土坑状の遺構と重複する。新旧関係は住居跡が新しい。また南部は水道管により壊されている。東部は調査区域外へ延びるため住居跡の一部のみを検出するに止まる。床面は平坦をなし、壁高は約20cm~30cmを測る。

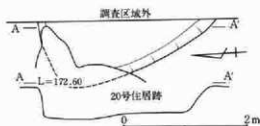


Fig.128 47号住居跡

47号住居跡 (Fig. 128)

F区北東部に位置し29F42・43の範囲にある。20号住居跡の南東にあり、東部は調査区域外へ延びるため住居跡の一部を検出するのみである。壁高は約30cm~40cmを測る。

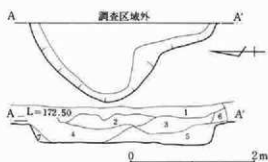


Fig.129 48号住居跡

48号住居跡 (Fig. 129, PL. 11)

G区南東に位置し28G1・2の範囲にある。29号住居跡の南にあり、東半部は調査区域外に延びるため一部を検出したのみである。壁高は約20cm~30cmを測る。

48号住居跡

- 1 暗褐色土層 FA、FPを含む
- 2 暗褐色土層 FPを多量に含む
- 3 灰褐色土層 FPを含む砂質土
- 4 淡褐色土層 FPを少量含む
- 5 淡褐色土層 FPを少量含む砂質土
- 6 淡褐色土層 FAを含む
- 7 淡褐色土層 FAを多量に含む

50号住居跡

(Fig. 130・131・132・133, PL. 11・86・87)

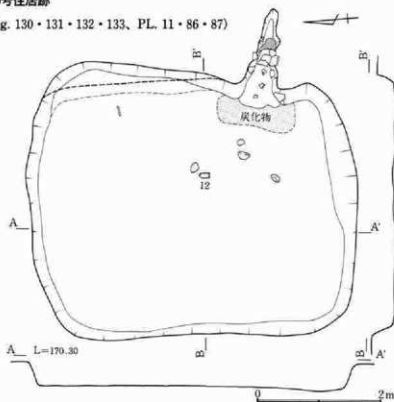


Fig.130 50号住居跡

G区東部に位置し30~32G34~37の範囲にある。51号住居跡の西にあり、他の遺構との重複はない。規模は長辺5.5m、短辺4.4mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-100'Eである。壁高は約30cm~40cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。また北東部分に拡張の後と思われる部分がある。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃烧部幅約60cm、同長約90cmを測る。

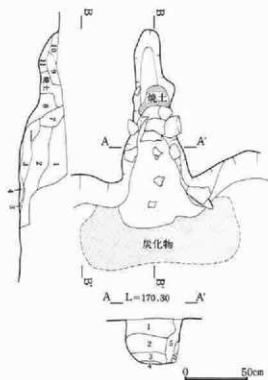


Fig.131 50号住居跡竈

50号住居跡竈

- | | |
|--------------|------------|
| 1 暗褐色土層 | FPを少量含む |
| 2 暗褐色土層 | 黒色灰を多量に含む |
| 3 黒褐色土層 | 焼土ブロックを含む |
| 4 焼土塊 | |
| 5 暗褐色土層 | 焼土粒を含む |
| 6 焼土塊、天井部の崩落 | |
| 7 黒褐色土層 | 焼土粒、炭化物を含む |
| 8 黒褐色土層 | 黒色灰を含む |
| 9 暗褐色土層 | 焼土粒少量含む |
| 10 暗褐色土層 | 焼土粒多量に含む |
| 11 黒褐色土層 | 焼土粒を含む |

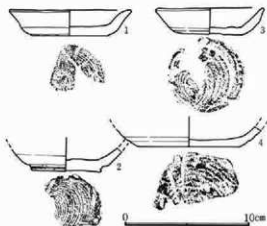


Fig.132 50号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物

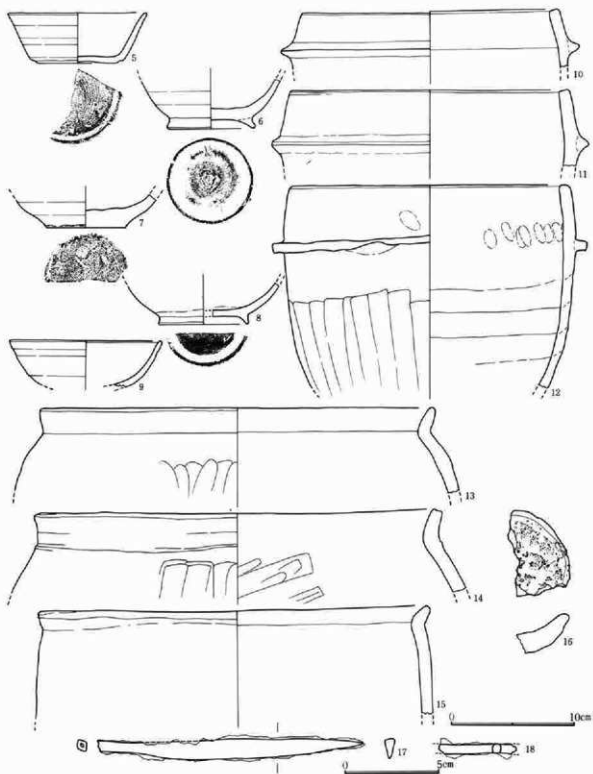


Fig.133 50号住居跡出土遺物(2)

第50号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②胎土 ③胎土 ④残存
132-1 86	須恵器 小 杯	口-9.8 高-2.0 底-6.0	覆 土	底部回転糸切口縁部外潤する	①良好②黄褐色③2~3mmの砂粒含む④残存
132-2 86	須恵器 杯	底-5.4	覆 土	底部回転糸切	①良好②灰色③密④底部外残存
132-3 86	須恵器 小 皿	口-8.6 高-2.1 底-4.7	覆 土	底部回転糸切右廻り器内厚い	①良好②淡褐色③細砂粒含む④ほぼ完成
132-4 86	須恵器 杯	底-8.0	覆 土		①良好②褐色③1~2mmの砂粒含む④底部破片
133-5 86	須恵器 杯	口-11.0 高-4.0 底-6.3	覆 土	底部回転糸切右廻り	①良好②灰白色③密④底部外残存
133-6 86	須恵器 埴	底-6.8	覆 土	底部回転調整付高台内黒土器高台外へ開く	①良好②明赤褐色内面黒色③細砂粒含む④底部残存
133-7 86	須恵器 杯	口-6.2	覆 土	底部回転糸切	①良好②灰褐色③細砂粒含む④底部外残存
133-8 86	須恵器 埴	底-7.0	覆 土	付高台底部回転調整	①良好②灰白色③密④底部外残存
133-9 87	灰釉陶器 杯	口-12.0	覆 土		①良好②灰白色③密④口縁部破片
133-10 87	羽蓋	口-20.2	覆 土	側壁を向く口縁部内傾する	①良好②灰白色③細砂粒含む④口縁部外残存
133-11 87	羽蓋	口-22.0	覆 土	脚低く横を向く口縁部直線状に内傾する	①やや軟質②内面赤褐色③2~3mm砂粒含む④口縁部外残存
133-12 87	羽蓋	口-22.0	No.12	両貼付ややゆがむ	①良好②内面赤褐色③5~6mmの砂粒含む④口縁部外残存
133-13 87	土師器 壺	口-31.0	覆 土	口縁部短く外反する	①良好②赤褐色③2~3mmの砂粒含む④口縁部破片
133-14 87	土師器 壺	口-32.3	覆 土	口縁部ココナデ胴部ヘラケズリ内面ヘラナデ口縁部外反する	①良好②内面赤褐色③細砂粒含む④口縁部外残存
133-15 87	土師器 壺	口-31.0	覆 土	口縁部短く外反する	①良好②内面赤褐色③3~4mm砂粒含む④口縁部破片
133-16 87	埴	口-4.7	覆 土	手捏器器内厚く消解物付着	①良好②還元③黄褐色④細砂粒含む⑤破片
Fig. 133-17 PL. 87	鉄製品	長-14.0cm 厚-5mm	刀子		
Fig. 133-18 PL. 87	鉄製品	長-4.1cm 厚-5mm	釘?		

51号住居跡 (Fig. 134・135, PL. 11・87)

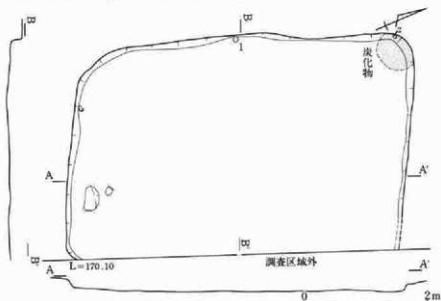


Fig.134 51号住居跡

G区東部に位置し28~30G34~37の範囲にある。50号住居跡の東にあり、他の遺構との重複はない。東半部は調査区域外へ延びるためにプランは確認されていないが西壁は5.6mを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていな

第2章 検出された遺構と遺物

い。竈は検出されていない。

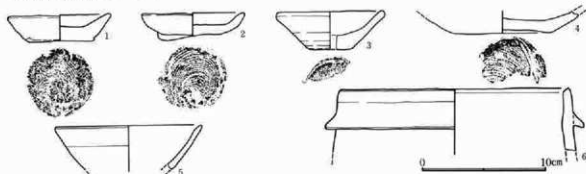


Fig.135 51号住居跡出土遺物

第51号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①構成 胎土	②色調 ③胎土 ④残存
135-1 87	須恵器 皿	口-8.2 底-5.2	No 1	底部回転糸切右廻り	①良好②に よい橙色③2 ~3mmの砂粒含む④完形	
135-2 87	須恵器 皿	口-8.15 底-5.0	覆土	底部回転糸切右廻り底部糸切面突出している	①良好②に よい橙色③細砂 粒含む④完形	
135-3 87	須恵器 杯	口-8.4 底-3.0	覆土	底部回転糸切右廻り	①良好②に よい橙色③細砂 粒含む④片残存	
135-4 87	須恵器 杯	口-7.6 底-3.0	覆土	底部回転糸切	①良好②明褐色③1~2mm の砂粒含む④底部片残存	
135-5 87	灰釉陶器 埴	口-11.7	覆土	灰釉	①良好②白灰色③密④口縁 部破片	
135-6 87	羽釜	口-18.2	覆土	胴下を向く口縁部直立する	①良好②に よい橙色③細砂 粒含む④口縁部破片	

52号住居跡 (Fig. 136・137・138, PL. 11・87・88)

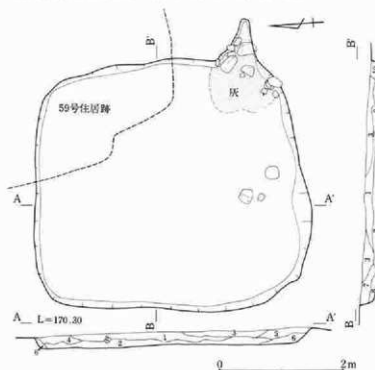


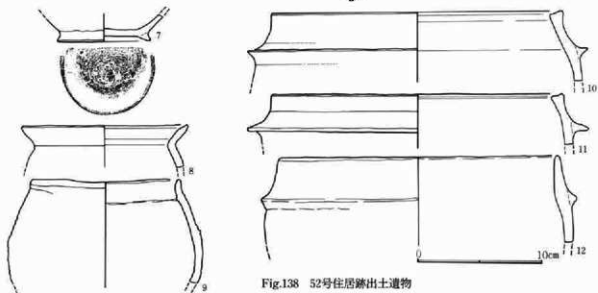
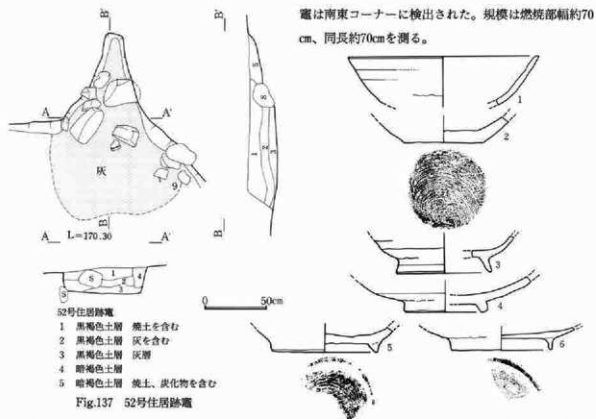
Fig.136 52号住居跡

G区東部に位置し38~40G37~39の範囲にある。50号住居跡の北にあり、北東部を59号住居跡と重複する。新旧関係は52号住居跡が新しい。規模は長辺4.5m、短辺4mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-90°-Eである。壁高は約20cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。

52号住居跡

- 1 暗褐色土層 FPを含む
- 2 暗褐色土層 焼土を含む
- 3 暗褐色土層 炭化物を含む
- 4 暗褐色土層 FAを含む
- 5 暗褐色土層 FA、炭化物を含む
- 6 暗褐色土層 FAを含む、黒色土を含む
- 7 暗褐色土層 FAを少量含む
- 8 暗褐色土層 FPを含む
- 9 暗褐色土層
- 10 暗褐色土層 FPを少量含む

竈は南東コーナーに検出された。規模は燃焼部幅約70cm、同長約70cmを測る。



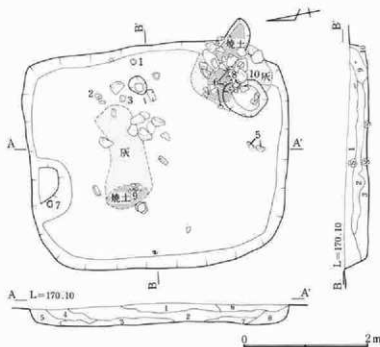
第52号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. Pl. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
138-1 87	灰釉陶器 坏	口-15.0	覆土	輪洪縁	①良好②灰色③密④口縁部破片
138-2 87	須恵器 坏	底-3.2	覆土	底部回転糸切右廻り	①良好②よい③黄色④1~2mm砂粒含む④底部残存
138-3 87	灰釉陶器 坏	底-7.4	覆覆土	付高台	①良好②灰白色③密④底部破片
138-4 87	須恵器 坏	底-6.4	覆土	付高台底部回転調整	①良好②灰白色③密④底部破片

第2章 検出された遺構と遺物

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①構成 ②胎土 ③灰土 ④残存
138-5 87	須恵器 埴	底-8.4	覆土	付高台底部回転糸切	①良好酸化②に黄褐色③ 3~4mm砂粒含④底部に残存
138-6 87	緑釉陶器 坏	底-8.0	覆土	付高台底部回転調整内面緑釉	①良好②灰白色③密④底部 破片
138-7 87	須恵器 埴	底-7.4	覆土	底部回転糸切付高台	①良好②灰色③1~2mmの 砂粒含④底部に残存
138-8 88	土師器 罎	口-13.2	覆土	口縁部鋭く外反する	①良好②褐色③1~2mmの 砂粒含④口縁部破片
138-9 88	土師器 罎	口-11.4	No.9	口縁部直立きみ内面に稜をもつ	①軟質②に赤褐色③3 ~4mm砂粒含④口縁部に残存
138-10 88	羽蓋	口-23.0	覆土	脚やや下を向く口縁部内傾する	①良好②赤褐色③細砂粒含 ④口縁部破片
138-11 88	羽蓋	口-23.0	覆土	脚やや上を向く口縁部内傾する	①良好②に赤褐色③1 ~2mm砂粒含④口縁部破片
138-12 88	羽蓋	口-22.0	覆土	脚短く下を向く口縁部内傾する	①軟質②に赤褐色③3 ~4mm砂粒含④口縁部破片

53号住居跡 (Fig. 139・140・141・142, PL. 11・88・89)



53号住居跡

- 1 暗褐色土層 FA、炭化物を含む
- 2 暗褐色土層 焼土粒を含む
- 3 暗褐色土層 FP少量含む
- 4 暗褐色土層 炭化物を含む
- 5 暗褐色土層 焼土、炭化物を含む
- 6 暗褐色土層
- 7 暗褐色土層 FAを少量含む
- 8 暗褐色土層 FA粒を含む
- 9 暗褐色土層 FPを含む
- 10 暗褐色土層

Fig.139 53号住居跡

G区東部に位置し29~31G42~44の範囲にある。51号住居跡の北にあり、他の遺構との重複はない。規模は長辺4.3m、短辺3.6mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-93°-Eである。壁高は約20cm~25cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。北壁に接し壁から約60cm、幅約1mの規模で約5cm~10cmの高さを持つ部分が検出された。住居跡中央部からは焼土・灰が確認された。竈は南東コーナーに検出された。規模は袖幅約50cm、燃焼部長約80cmを測る。両袖部からは電構築材と思われる石が検出されている。竈長軸は住居跡主軸からさらに南へふれ、N-118°-Eである。

第1節 竪穴住居跡

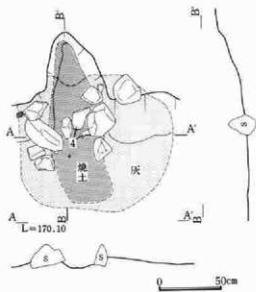


Fig.140 53号住居跡電

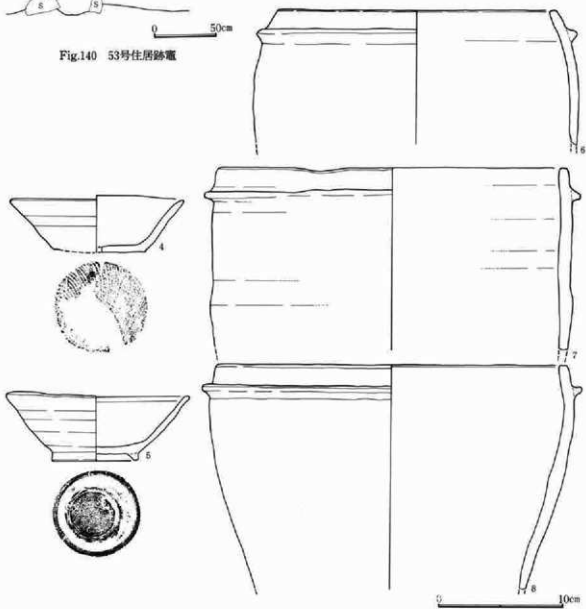
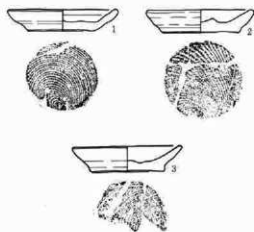


Fig.141 53号住居跡出土遺物(1)

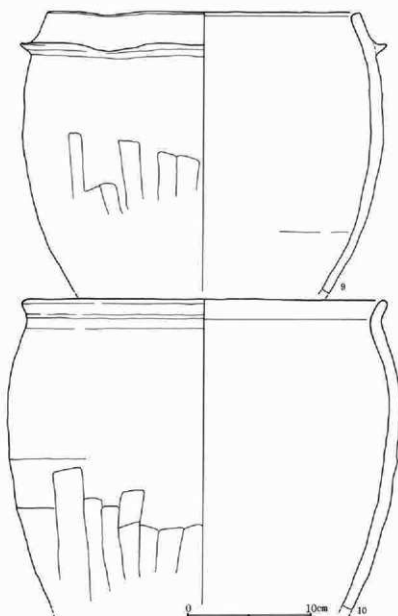


Fig.142 53号住居跡出土遺物②

第53号住居跡出土遺物観察表

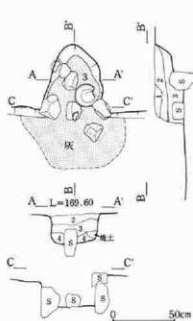
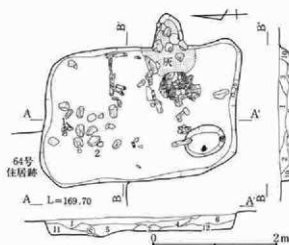
Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
141-1 88	須恵器 皿	口-8.8 高-1.7 底-5.3	No 1	底部回転糸切右廻り	①良好②褐色③細砂粒含む ④片残存
141-2 88	須恵器 皿	口-8.5 高-1.7 底-6.0	No 2	底部回転糸切右廻り内面指ナゲ突起あり	①良好②にぶい赤褐色③細 砂粒含む④ほぼ整形
141-3 88	須恵器 皿	口-8.7 高-2.0 底-5.7	No 3	底部回転糸切右廻り	①良好②にぶい赤褐色③細 砂粒含む④片残存
141-4 88	須恵器 坏	口-13.7 高-4.5	No 4	底部回転糸切口縁端部弱く外反する	①良好②化③にぶい褐色③ 細砂粒含む④片残存
141-5 88	須恵器 坏	口-14.5 高-5.6 底-7.0	貯7QNo 5	底部回転糸切口高台口縁端部弱く外側へ屈曲する	①良好②灰白色③1~2mm の砂粒含む④片残存
141-6 88	羽蓋	口-22.0	No 6	脚短くやや上を向く口縁部内傾する	①軟質②にぶい褐色③2~ 3mm砂粒含む④口縁部片残存
141-7 88	羽蓋	口-28.0	No 7	脚長く貼付縁外面ナゲ口縁部直立さみ	①良好軟質②褐色③3~4 mm砂粒含む④口縁部片残存

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
141-8 88	羽蓋	□-27.5	No.8	筒底く貼付部内外面ナデ口縁部短く内傾する	①軟質②褐色③3~4mmの砂粒含む④口縁部片残存
142-9 88	羽蓋	□-24.5	No.9	筒短くゆがんで上を向く口縁部内傾する	①良好②赤褐色③2~3mmの砂粒含む④片残存
142-10 89	土蓋	□-29.0	No.10	口縁部ヨコナデ割部ヘラケズリ口縁部短く外反する	①良好②明赤褐色③2~3mm砂粒含む④口縁部片残存

55号住居跡 (Fig. 143・144・145・146, PL. 12・89)

H区南東に位置し31・32G49H1の範囲にある。69号住居跡の北西にあり、北西部を64号住居跡と重複する。新旧関係は55号住居跡が新しい。規模は長辺3.4m、短辺2.2mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-86°-Eである。壁高は約20cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出さ

れていない。床面上には炭化材・炭化物等が分布した状態で検出され、焼失家屋である。北半部からは石が多数検出されている。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は袖幅約40cm、燃燒部長約50cmを測る。両袖部、燃燒部中央より電構築材、支脚等と思われる石が検出された。



55号住居跡

- 1 暗褐色土層 FPを多量に含む
- 2 暗褐色土層 炭化物を多量に含む
- 3 暗褐色土層 FA、FP、炭化物を含む
- 4 暗褐色土層 FA、炭化物を含む
- 5 暗褐色土層 FA、FPを含む
- 6 暗褐色土層 FP、FAブロックを含む
- 7 暗褐色土層 炭化物を含む
- 8 暗褐色土層 FPを少量含む
- 9 暗褐色土層 炭化物を少量含む
- 10 暗褐色土層 FPを少量含む
- 11 暗褐色土層
- 12 黒褐色土層 FA、炭化物を多量に含む

Fig.143 55号住居跡

55号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 FAブロックを含む
- 2 灰褐色土層 炭化物を含む
- 3 暗褐色土層 炭化物、黒色灰を含む
- 4 黒褐色土層

Fig.144 55号住居跡竈

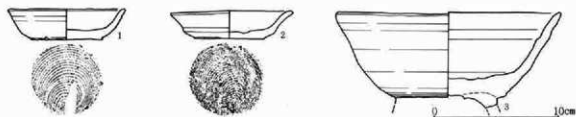


Fig.145 55号住居跡出土遺物(1)



Fig.146 55号住居跡出土遺物(2)

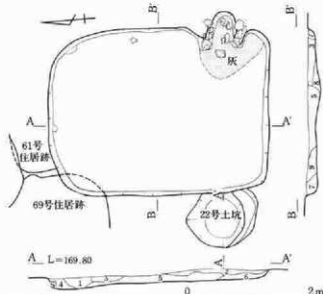
第55号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②胎土	③色調 ④残存
145-1 89	須恵器 坏	口-9.3 高-2.4 底-5.4	No.1	底部回転糸切右廻り	①良好②よい	③褐色④細砂粒含む⑤残存
145-2 89	須恵器 罎	口-9.7 高-2.2 底-5.5	No.2	底部回転糸切右廻り	①良好②赤褐色③	④1~2mmの砂粒含む⑤残存
145-3 89	須恵器 埴	口-17.7	No.3	付高台底部回転ナゲ調整	①良好②明褐色③	④断⑤残存

Fig. 146-4 PL. 89 鉄製品 長-7.9cm 厚-9mm 鐵

56号住居跡 (Fig. 147・148・149, PL. 12・89)

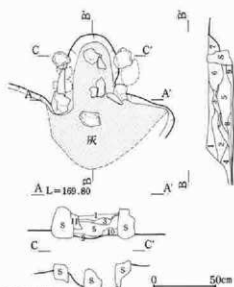
G区北東部に位置し27~29G47・48の範囲にある。55号住居跡の南東にあり、北東部を61号住居跡、北西コーナーの一部を69号住居跡と重複する。新旧関係は61・69号住居跡よりも新しい。規模は長辺3.6m、短辺2.8mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-99°-Eである。壁高は約15cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は袖幅約50cm、燃焼部長約50cmを測る。両袖部より石が検出された。



56号住居跡

- 1 暗褐色土層 砂粒を含む
- 2 暗褐色土層
- 3 暗褐色土層 礫を含む
- 4 暗褐色土層 大礫の礫を含む
- 5 暗褐色土層 FAブロックを含む
- 6 暗褐色土層 礫を少量含む
- 7 暗褐色土層 赤色粒を含む
- 8 暗褐色土層
- 9 暗褐色土層 FAを含む

Fig.147 56号住居跡・22号土坑



56号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 焼土ブロック、炭化物を少量含む
- 2 褐色土層 FAブロックを少量含む
- 3 褐色土層 焼土ブロック、炭化物、黒色灰を含む
- 4 暗褐色土層 砂礫を多量に含む
- 5 暗褐色土層 焼土粒、黒・白色灰を含む
- 6 暗褐色土層 焼土粒、少量の黒色灰を含む
- 7 暗褐色土層 焼土粒、炭化物を含む
- 8 黒色灰層 黒色灰に焼土、炭化物を含む
- 9 黒褐色土層
- 10 黒褐色土層 黒・白色灰を含む
- 11 黒褐色土層 黒色

Fig.148 56号住居跡竈

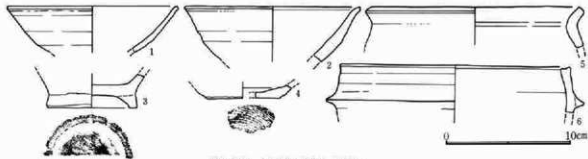


Fig.149 56号住居跡出土遺物

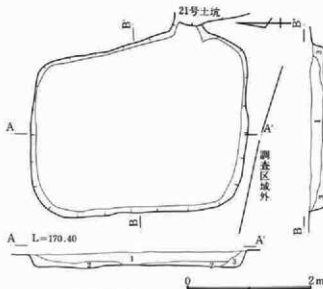
第56号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②胎土 ③胎色 ④残存
149-1 89	灰釉陶器 坏	口-13.4	覆土	口縁部胎口縁部外側へ屈曲する	①良好②灰白色③胎④口縁部破片
149-2 89	須恵器 埴	口-14.0	覆土	口縁部外側へ屈曲する	①良好②灰褐色③細砂粒含む④口縁部破片
149-3 89	須恵器 埴	底-7.0	覆土	付高台	①良好②灰褐色③1~2mm砂粒含む④底面片残存
149-4 89	須恵器 坏	底-5.8	覆土	底部回転糸切	①良好②褐色③細砂粒含む④底面破片
149-5 89	土師器 甕	口-16.6	覆土	口縁部短く外反する	①良好②明赤褐色③3~4mmの砂粒含む④口縁部破片
149-6 89	羽釜	口-18.0	覆土	胴横を向く口縁部内傾する	①良好②灰色③細砂粒含む④口縁部破片

57号住居跡 (Fig. 150・151, PL. 12・89)

G区東部に位置し31・32G32・33の範囲にある。50号住居跡の南にあり、竈の一部を21号土坑と重複する。新旧関係は土坑が新しく竈が切り崩されている。規模は長辺3.8m、短辺2.9mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-75°-Eである。壁高は約15cm~20cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵

穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。燃烧部幅約60cm、燃烧部東部は21号土坑に切り崩され、約20cmの長さを測る。



57号住居跡

- 1 暗褐色土層 炭化物を含む
- 2 暗褐色土層 炭化物多量を含む
- 3 暗褐色土層

Fig.150 57号住居跡

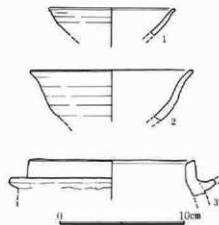


Fig.151 57号住居跡出土遺物

第57号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
151-1	灰釉陶器 埴	□-12.0	覆土	口縁外部側へ弱く屈曲する	①良好②灰白色③破片
151-2 89	須恵器 埴	□-13.0	覆土	口縁部弱く外湾する	①良好②におい橙色③細砂粒含む④口縁部破片
151-3 89	羽蓋	□-13.0	覆土	口縁部やや内湾し唇上を向く	①良好②におい赤褐色③2~3mm砂粒含む④口縁部破片

58号住居跡 (Fig. 152・153・154, PL. 12・89)

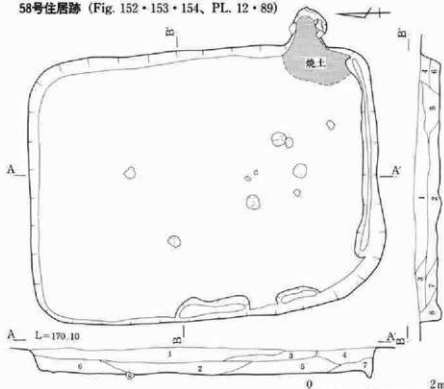


Fig.152 58号住居跡

G区北東部に位置し30~32G41~43の範囲にある。56号住居跡の南西にあり、他の遺構との重複はない。規模は長辺5.7m、短辺4.2mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-87°-Eである。壁高は約30cm~35cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、南・西壁に幅約10cm~35cm、深さ約5cm~10cmを測る周溝が確認された。貯蔵穴は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約60cm、同長約70cmを測る。

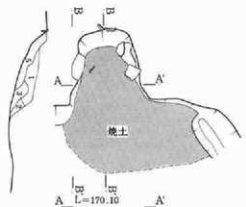


Fig.153 58号住居跡竈

58号住居跡

- 1 暗褐色土層 FPを含む
- 2 暗褐色土層 FP、焼土、炭化物を含む
- 3 暗褐色土層 小礫を含む
- 4 暗褐色土層 FAを含む
- 5 暗褐色土層 炭化物を含む
- 6 暗褐色土層 FPブロックを含む
- 7 暗褐色土層 FP、FAを含む
- 8 暗褐色土層 FAブロックを含む

58号住居跡竈

- 1 黒褐色土層 焼土を含む
- 2 黒褐色土層 黒色灰を含む
- 3 褐色土層 灰を含む
- 4 暗褐色土層 焼土を多量に含む
- 5 暗褐色土層 焼土、灰を含む

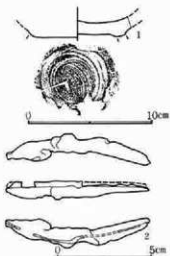
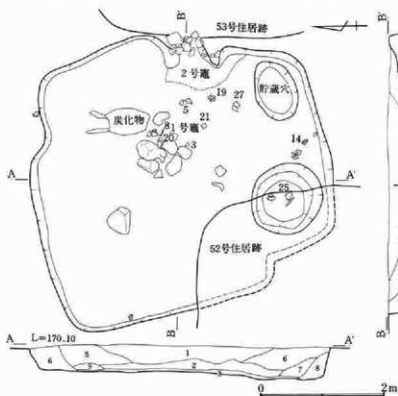


Fig.154 58号住居跡出土遺物

第58号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②胎土 ③胎土 ④胎土	⑤胎土 ⑥胎土 ⑦胎土 ⑧胎土
154-1 89	須恵器 杯		覆土	付高台穴落底部回転未切	①良好②灰色③細砂粒含む	④底部に残存
Fig. 154-2 PL. 89	銅製品	長-7.6cm 厚-3mm	不明			

59号住居跡 (Fig. 155・156・157・158・159, PL. 13・89・90)



59号住居跡

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1 暗褐色土層 小型のFPを少量含む | 6 暗褐色土層 FPを少量含む |
| 2 暗褐色土層 FPを多量に含む | 7 暗褐色土層 FP、炭化物を含む |
| 3 暗褐色土層 FP、円礫を含む | 8 暗褐色土層 砂礫を含む |
| 4 暗褐色土層 FP、焼土、炭化物を含む | 9 暗褐色土層 FP、焼土、炭化物を含む |
| 5 暗褐色土層 焼土、炭化物を少量含む | |

Fig.155 59号住居跡

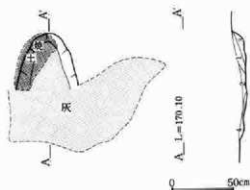


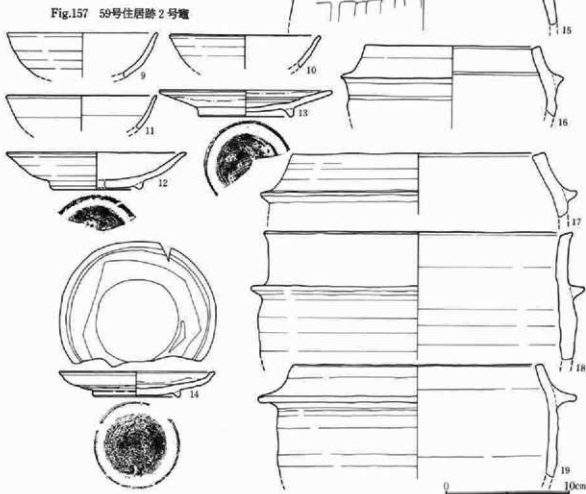
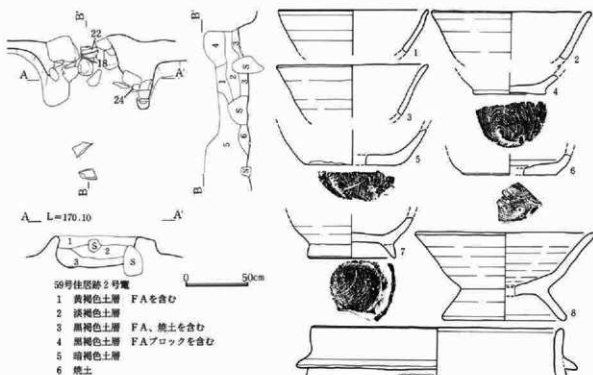
Fig.156 59号住居跡1号竈

G区北東部に位置し30~32G 38~41の範囲にある。58号住居跡の南にあり、西部、東部でそれぞれ52号住居跡、53号住居跡と重複する。新旧関係は52・53号住居跡が新しい。当住居跡は2軒の重複が考えられ、それぞれA・Bと付した。新旧関係は不明である。床面はほぼ平坦をなす。貯蔵穴は南東部に検出され規模は約1m×0.6m、深さ約50cmを測る。竈は東壁ほぼ中央と床面中央の2基が検出された。規模は東側が燃焼部幅約50cm、同長約40cmを測り煙道の先端部は53号住居跡により壊されている。西側の竈は燃焼部幅約40cm、同長約40cmを測る。

59号住居跡1号竈

- | |
|------------------|
| 1 暗褐色土層 焼土を多量に含む |
| 2 暗褐色土層 焼土、灰を含む |
| 3 黒褐色土層 焼土を含む |
| 4 黒褐色土層 灰を含む |

第2章 検出された遺構と遺物



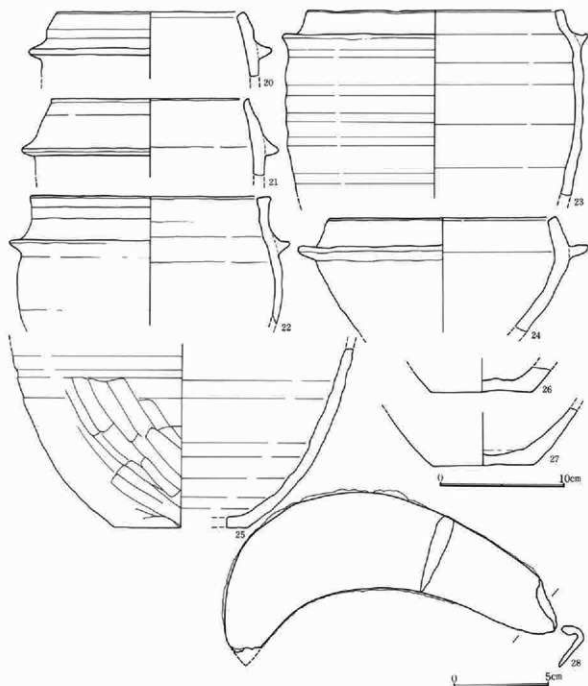


Fig.159 59号住居跡出土遺物(2)

第59号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
158-1 89	須恵器 埴	口-12.0	覆土	口縁端部弱く外反する	①良好②灰色③粗砂粒含む ④口縁部破片
158-2 89	土師器 坏	口-12.6	覆土	口縁部直線状に外傾する	①良好②赤褐色③1~2mm の砂粒含む④口縁部破片
158-3 89	須恵器 埴	口-12.0	No.3	口縁端部弱く外反する	①良好②よい赤褐色③粗 砂粒含む④口縁部破片
158-4 89	須恵器 坏	底-5.7	覆土	底部回転糸切り廻り	①良好②よい橙色③粗砂 粒含む④底部片残存

第2章 検出された遺構と遺物

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
158-5 89	須恵器 坏	底-7.0	No5	底部回転糸切	①良好②にぶい黄褐色③細砂粒含む④底部残存
158-6 89	須恵器 坏	底-7.4	覆土	底部回転糸切	①良好②灰白色③細砂粒含む④底部破片
158-7 89	須恵器 埴	底-6.6	覆土	付高台底部回転糸切	①良好②灰色③細砂粒含む④底部残存
158-8 89	須恵器 埴	口-14.3 底-9.4 高-6.9	No8	高台高くハの字状に開く口縁部は弱く外湾する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④残存
158-9 89	灰釉陶器 埴	口-12.0	覆土	口縁部外側へ屈曲する	①良好②灰白色③密④口縁部破片
158-10 89	灰釉陶器 坏	口-10.8	覆土	口縁部軸	①良好②灰白色③密④口縁部破片
158-11 89	灰釉陶器 坏	口-12.0	覆土		①良好②灰白色③密④口縁部破片
158-12 89	灰釉陶器 皿	口-14.3 底-6.8 高-2.9	覆土	底部回転調整口縁部内外面施釉口縁部弱く外反する	①良好②灰白色③密④残存
158-13 89	灰釉陶器 皿	口-13.8 底-7.6 高-2.1	覆土	口縁部内外面施釉口縁部直線状に外傾する	①良好②灰色③密④残存
158-14 90	須恵器 皿	口-12.3 底-6.8 高-2.0	No14	口縁部内外面施釉つけがけ底部回転糸切	①良好②灰白色③密④残存
158-15 90	羽釜	口-20.0	覆土	脚低く下を向く器から下へラケズリ	①良好②灰褐色③細砂粒含む④口縁部残存
158-16 90	羽釜	口-13.8	覆土	脚低く横を向く口縁部内傾する	①良好②にぶい橙色③1~2mm砂粒含む④口縁部破片
158-17 90	羽釜	口-10.0	覆土	脚低く横を向く口縁部内傾する	①良好②褐色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
158-18 90	羽釜	口-24.4	No18	脚やや上を向く脚下位で外へふくらむ口縁部弱く外反する	①良好②灰色③細砂粒含む④口縁部残存
158-19 90	羽釜	口-19.8	No19	脚やや長く横を向く口縁部内傾する	①良好②灰色③細砂粒含む④口縁部残存
159-20 90	羽釜	口-14.8	No20	脚横を向く口縁部内傾する	①良好②褐色③細砂粒含む④口縁部破片
159-21 90	羽釜	口-15.7	No21	脚短く下を向く口縁部薄く内傾する	①良好②にぶい橙色③1~2mm砂粒含む④口縁部残存
159-22 90	羽釜	口-19.0	No22	脚上を向く口縁部直立きみ	①良好②にぶい橙色③1~2mm砂粒含む④口縁部破片
159-23 90	羽釜	口-20.2	覆土	口縁部内湾し脚上を向く口縁部内傾する	①良好②褐色③細砂粒含む④口縁部残存
159-24 90	羽釜	口-18.0	No24	脚上を向き脚から下内湾する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部残存
159-25 90	土師器 甕	底-10.6	No25	胴下位へラケズリ	①良好②にぶい褐色③1~2mm砂粒含む④口縁部残存
159-26 90	土師器 甕	底-8.0	覆土		①良好②灰色③2~3mmの砂粒含む④底部残存
159-27 90	土師器 甕	底-8.0	No27		①良好②黄褐色③1~2mmの砂粒含む④底部残存

Fig. 159-28 PL. 90 鉄製品 品-17.5cm 厚-9mm 鏝

60号住居跡 (Fig. 160・161, PL. 90)

遺跡地内ほぼ中央に位置し39・40G48・49の範囲にある。94号住居跡の東にある。他の遺構との重複はない。住居跡は北半部のみ検出され平面形態、主軸方位は不明であるが北辺は約3mを測る。壁高は約40cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は検出されていない。

第1節 竪穴住居跡

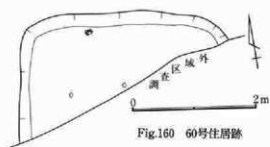


Fig.160 60号住居跡

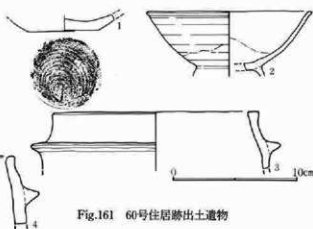
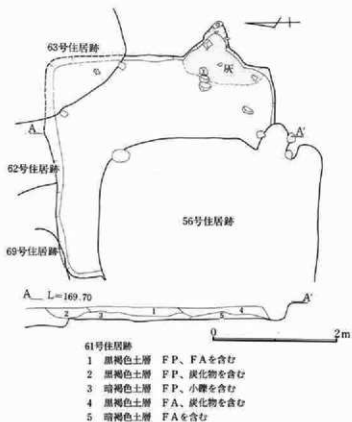


Fig.161 60号住居跡出土遺物

第60号住居跡出土遺物観察表

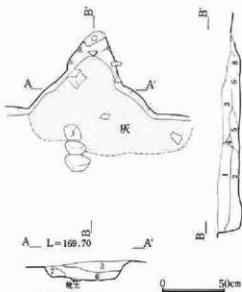
Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
161-1 90	須恵器 坏	底-5.4	覆土	底部回転糸切り廻り	①良好②によい棕色③細砂粒含む④底部残存
161-2 90	灰釉陶器 埴	口-13.1	覆土	口縁部内外面施釉口縁部外側へ屈曲する	①良好②灰白色③密④片残存
161-3 90	羽釜	口-16.4	覆土	胴低く横を向く口縁部内傾する	①良好②によい赤褐色③細砂粒含む④口縁部破片
161-4 90	羽釜	口-20.0	覆土	胴低く横を向く口縁部内傾する	①良好②灰色③細砂粒含む④口縁部破片

61号住居跡 (Fig. 162・163・164, PL. 13・90・91)



- 61号住居跡
- 1 黒褐色土層 F P、FAを含む
 - 2 黒褐色土層 F P、炭化物を含む
 - 3 暗褐色土層 F P、小礫を含む
 - 4 黒褐色土層 F A、炭化物を含む
 - 5 暗褐色土層 F Aを含む

Fig.162 61号住居跡



61号住居跡電

- 1 黒褐色土層 F Pを含む
- 2 黒褐色土層 F P、炭化物を含む
- 3 暗褐色土層 F A、焼土、炭化物を含む
- 4 暗褐色土層 焼土を含む
- 5 淡褐色土層 焼土、炭化物を含む
- 6 暗褐色土層 F A、焼土を含む
- 7 淡褐色土層 F A、灰を含む
- 8 焼土、灰層

Fig.163 61号住居跡電

第2章 検出された遺構と遺物

G区北東部に位置し27G47・48の範囲にある。北東部、西部をそれぞれ62・63号住居跡、56号住居跡と重複している。新旧関係は他の住居跡に壊されている。住居跡は東部を一部検出したのみで規模、平面形態、主軸方位は不明である。壁高は約10cm～15cmを測り、床面はほぼ平坦をなし、貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁に検出された。規模は燃焼部幅約80cm、同長約70cmを測る。竈長軸の方位はN-96°-Eである。

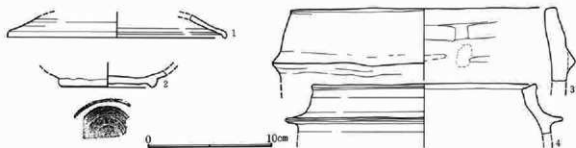


Fig.164 61号住居跡出土遺物

第61号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計面積(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ③胎土	②色調 ④残存
164-1 90	須恵器 蓋	口-17.4	覆土	器内薄い		①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④破片
164-2	灰釉陶器 皿	底-7.2	覆土	付高台底部回転ヘラ調整		①良好②灰白色③密④底部破片
164-3 91	羽蓋	口-18.0	竈覆土	器長く横を向く口縁部内傾する		①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部破片
164-4 91	羽蓋	口-21.0	覆土	筒低くややゆがむ		①良好②暗赤褐色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片

62号住居跡 (Fig. 165・166・167, PL. 13・91)

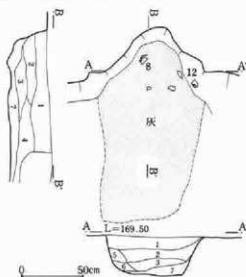
G区北東部に位置し26～28G49H00の範囲にある。南部を61・63号住居跡と重複している。新旧関係は61・



62号住居跡

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1 黒褐色土層 F Pを含む | 5 灰褐色土層 FAを含む |
| 2 暗褐色土層 炭化物を含む | 6 暗褐色土層 F P、炭化物を含む |
| 3 暗褐色土層 F P、FAを含む | 7 暗褐色土層 F Pを少量含む |
| 4 黒褐色土層 FA、炭化物を含む | |

Fig.165 62号住居跡



62号住居跡竈

- | |
|------------------------|
| 1 暗褐色土層 F Pを含む |
| 2 暗褐色土層 灰を含む |
| 3 暗褐色土層 焼土、炭化物、灰を含む |
| 4 暗褐色土層 焼土、灰を含む |
| 5 暗褐色土層 |
| 6 暗褐色土層 FA、灰を含む |
| 7 暗褐色土層 焼土、炭化物、灰を多量を含む |

Fig.166 62号住居跡竈

63号住居跡より古い。規模は長辺3.5m、短辺3.4mである。平面形は隅丸方形を呈する。壁高は約20cmを測る。主軸方位はN-81°-Eである。床面は平坦をなし、貯蔵穴・壁周溝等の灌施設は検出されていない。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約80cm、同長約40cmを測る。

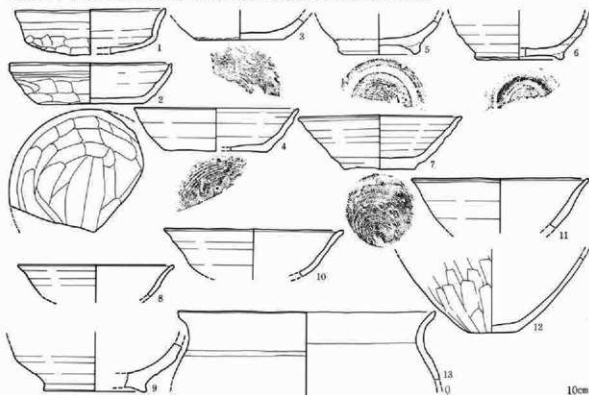


Fig.167 62号住居跡出土遺物

第62号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ③胎土	②色調 ④残存
167-1 91	土師器 坏	口-12.0 高-3.5	No.1	口縁部コナデ体部底部ヘラズリ内面ナデ口縁部壁をもち外筒ぎみに外傾する	①真好②	①赤褐色③細砂粒含む④残存
167-2 91	土師器 坏	口-12.8 高-3.3 底-8.4	No.2	口縁部コナデ体部ヘラズリ底部ヘラズリ口縁部内傾する	①真好②	①赤褐色③細砂粒含む④残存
167-3 91	須恵器 坏	底-6.8	覆土	底部回転糸切	①真好②	①灰白色③細砂粒含む④底部片残存
167-4 91	須恵器 坏	口-13.0 高-3.4 底-8.0	覆土	底部回転糸切口縁部扇形直状に外傾する	①真好②	①褐色③1~2mmの砂粒含む④残存
167-5 91	須恵器 塊	底-5.6	覆土		①真好②	①灰色③1~2mmの砂粒含む④底部片残存
167-6 91	須恵器 塊	底-7.1	覆土	付高台底部回転糸切	①真好②	①灰色③細砂粒含む④残存
167-7 91	須恵器 坏	口-13.0 高-4.3 底-5.7	覆土	底部回転糸切右廻り口縁部外側へ屈曲し外面成形残存	①真好②	①灰色③細砂粒含む④残存
167-8 91	須恵器 坏	口-12.4	No.8	口縁部外側へ深く屈曲する	①真好②	①褐色③細砂粒含む④口縁部破片
167-9 91	土師器 塊	底-6.0	覆土	付高台内黒	①真好②	①褐色③細砂粒含む④残存
167-10 91	土師器 塊	口-14.2	覆土	口縁部外側へ深く屈曲する	①真好②	①褐色③細砂粒含む④口縁部破片
167-11 91	土師器 坏	口-14.0	覆土	口縁部深く外湾する	①真好②	①明褐色③細砂粒含む④口縁部破片
167-12 91	土師器 壁	底-3.6	No.12	外面ヘラズリ内面ナデ	①真好②	①赤褐色③細砂粒含む④底部片残存
167-13 91	土師器 壁	口-20.4	覆土	口縁部コナデ割上部ヘラズリ口縁部外湾する	①真好②	①赤褐色③細砂粒含む④口縁部破片

63号住居跡 (Fig. 168・169・170・171, PL. 13・91・92)

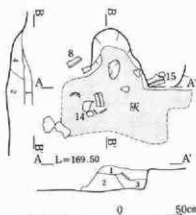
G区北東部に位置し26・27G48・49の範囲にある。北半部を62号住居跡と重複している。新旧関係は62号



63号住居跡

- 1 黒褐色土層 FPを含む
- 2 暗褐色土層 FP、炭化物を含む
- 3 暗褐色土層 FAを含む
- 4 暗褐色土層 FA、FPを含む

Fig.168 63号住居跡



63号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 FA、炭化物を含む
- 2 暗褐色土層 炭化物を多量を含む
- 3 黒褐色土層 炭化物、灰を含む
- 4 黒褐色土層 焼土、炭化物を含む

Fig.169 63号住居跡竈

住居跡が古い。規模は長辺2.4m、短辺1.9mである。平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約10cmを測り、主軸方位はN-78°-Eである。床面は平坦をなし、貯蔵穴・壁周溝等の諸施設は検出されていない。竈は東壁に検出された。規模は燃焼部幅約50cm、同長約40cmを測る。

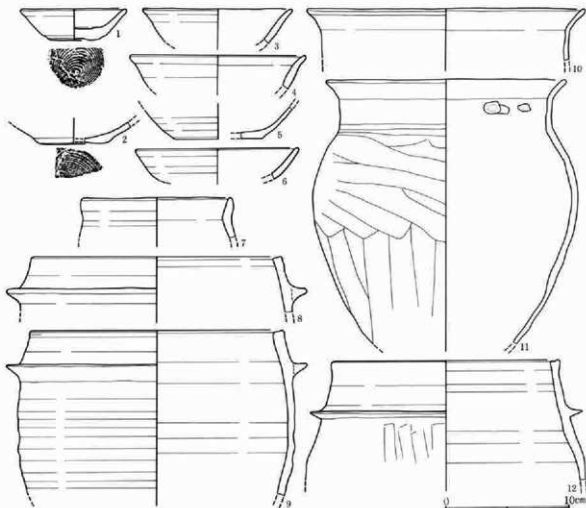


Fig.170 63号住居跡出土遺物(1)

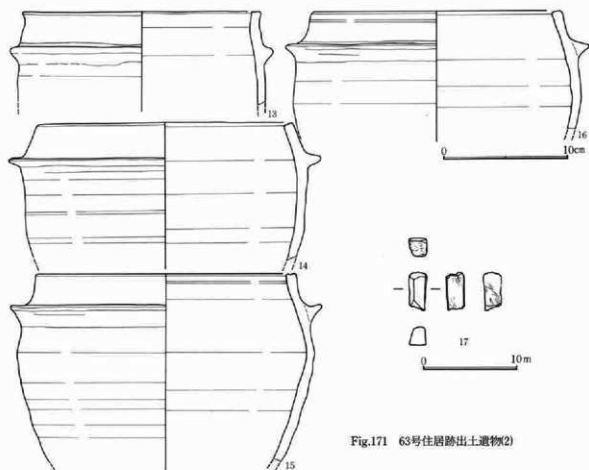


Fig.171 63号住居跡出土遺物(2)

第63号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②胎土 ③色調 ④残存
170-1 91	須恵器 坏	口-10.4 底-6.0	高-2.4	覆土 底部回転糸切右廻り	①良好②褐色③細砂粒含む ④片残存
170-2 91	須恵器 坏	底-5.5	覆土	底部回転糸切	①良好②によい褐色③1 ~2mm砂粒含む④底部片残存
170-3 91	須恵器 坏	口-12.0	覆土	口縁部弱く外反する	①良好②赤褐色③細砂粒含む ④口縁部破片
170-4 91	須恵器 坏	口-14.0	覆土	口縁部弱く外反する	①良好②淡褐色③細砂粒含む ④口縁部破片
170-5 91	須恵器 坏	底-7.0	覆土	底部回転糸切	①良好②灰白色③1~2mm の砂粒含む④底部破片
170-6 91	灰輪陶器 皿	口-13.0	覆土	口縁部内面一部輪口縁部内湾さみ	①良好②灰白色③密④口縁 部破片
170-7 91	土師器 壺	口-12.0	覆土	口縁部ヨコナデ口縁部直立さみ	①良好②灰褐色③細砂粒含む ④口縁部破片
170-8 91	羽蓋	口-20.0	No.8	鉦上を向く口縁部内傾する	①良好②灰色③細砂粒含む ④片残存
170-9 91	羽蓋	口-20.0	覆土	鉦上を向く口縁部内傾する	①良好②褐色③細砂粒含む ④片残存
170-10 91	土師器 壺	口-22.0	覆土	口縁部内外面ヨコナデ口縁部コの字状を呈する	①良好②によい赤褐色③細 砂粒含む④口縁部破片
170-11 92	土師器 壺	口-19.0	覆土	口縁部ヨコナデ割部ヘラケズリ内面ナデ口縁部コ の字状を呈する	①良好②によい褐色③細砂 粒含む④片残存
170-12 92	羽蓋	口-18.0	覆土	鉦薄く横を向く口縁部内傾する	①良好②灰褐色③細砂粒含む ④片残存

第2章 検出された遺構と遺物

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②胎土	③色調 ④残存
171-13 92	羽蓋	口-18.9	覆土	脚低く横を向く口縁部直立きみ	①良好②淡黄褐色	③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
171-14 92	羽蓋	口-21.0	No14	脚横を向く口縁部内湾する	①良好②明褐色	③細砂粒含む④片残存
171-15 92	羽蓋	口-20.6	No15	口縁部内湾し脚上を向く口縁部内傾する	①良好②灰色	③細砂粒含む④片残存
171-16 92	羽蓋	口-19.5	覆土	脚上を向く口縁部内傾する	①良好②灰色	③細砂粒含む④片残存

Fig. 171-17 PL-92 石 長-4.0cm 幅-1.9cm 厚-1.9cm 砥石 流紋岩(砥沢)

64号住居跡 (Fig. 172・173, PL. 92)

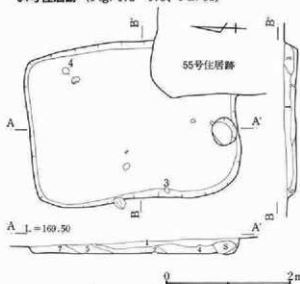


Fig.172 64号住居跡

H区南東部に位置し32・33H 0~2の範囲にある。69号住居跡の北東にあり、南東部で55号住居跡と重複している。新旧関係は64号住居跡が古い。規模は長辺3.4m、短辺2.6mである。平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約10cm~15cmを測る。床面は北に向い約10cmの比高差をもち高くなる。竈は検出されていない。

64号住居跡

- 1 暗褐色土層 FPを含む
- 2 暗褐色土層 炭化物を含む
- 3 暗褐色土層
- 4 褐色土層 砂層を含む
- 5 暗褐色土層 炭化物を多量を含む
- 6 黒褐色土層 FAブロックを含む
- 7 暗褐色土層 礫を含む

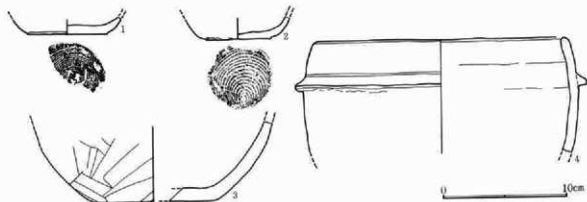


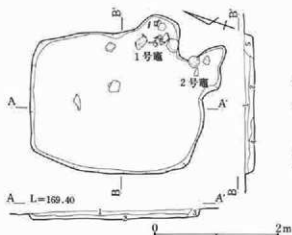
Fig.173 64号住居跡出土遺物

第64号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②胎土	③色調 ④残存
173-1 92	須恵器 坏	底-6.2	覆土	底部回転糸切	①良好②にぶい褐色	③細砂粒含む④底部片残存
173-2 92	須恵器 坏	底-5.0	覆土	底部回転糸切	①良好②にぶい褐色	③1~2mm砂粒含む④底部残存
173-3 92	土師器 壺	底-9.4	No 3		①良好②暗褐色	③2~3mmの砂粒含む④底部片残存
173-4 92	羽蓋	口-20.0	No 4	脚低く横を向く脚下にヘラケズリ状痕跡がみられる口縁部内湾する	①良好②淡褐色	③細砂粒含む④口縁部破片

65号住居跡 (Fig. 174・175・176・177・178, PL. 13・14・92)

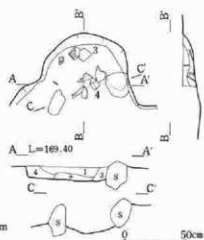
H区南東部に位置し30〜32H 3・4の範囲にある。64号住居跡の北東にあり、他の遺構との重複はない。規模は長辺3.3m、短辺2.3mである。平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約5cm〜6cmを測り、主軸方位はN-69°-Eである。床面は平坦をなし、貯蔵穴・壁周溝等の諸施設は検出されていない。竈は南東コーナー



65号住居跡

- 1 暗褐色土層 F P、炭化物を含む
- 2 黒褐色土層 炭化物を含む
- 3 黒褐色土層 F Pを含む
- 4 黒褐色土層 F P、FAを含む
- 5 暗褐色土層 FAブロックを含む

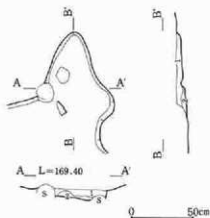
Fig.174 65号住居跡



65号住居跡1号竈

- 1 黒褐色土層 F P、炭化物を含む
- 2 暗褐色土層 炭化物を含む
- 3 暗褐色土層 F Pを含む
- 4 黒褐色土層 FAブロックを含む

Fig.175 65号住居跡1号竈



65号住居跡2号竈

- 1 暗褐色土層
- 2 暗褐色土層 炭化物、横土を含む

Fig.176 65号住居跡2号竈

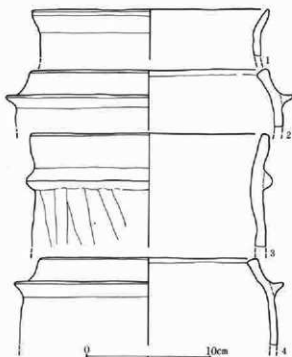


Fig.177 65号住居跡出土遺物(1)

に2基検出された。1号竈は燃焼部幅約80cm、同長約40cmを測る。2号竈は燃焼部幅約40cm、同長約70cmを測る。竈長軸方位は北側がN-93°-E、南側がN-116°-Eである。

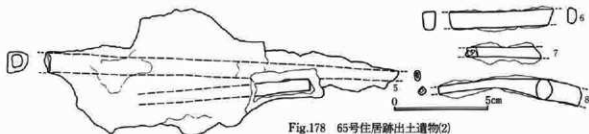


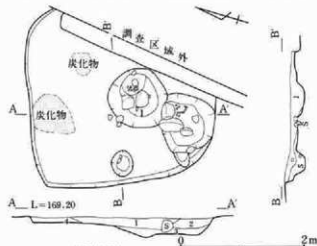
Fig.178 65号住居跡出土遺物(2)

第65号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	遺物 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②胎土 ③胎色 ④残存
177-1 92	土師器 壺	口-18.4	覆土	口縁部外反する	①良好②褐色③細砂粒含む ④口縁部破片
177-2 92	羽蓋	口-19.0	覆土	胴上を向く口縁部内湾する	①良好②褐色③細砂粒含む ④口縁部破片
177-3 92	羽蓋	口-19.0	No.3	胴断面丸みをもち胴下ややふくらみをもち下から上方へのヘラズリ口縁部弱く外傾する	①良好②灰色③2~3mmの砂粒含む④口縁部残存
177-4 92	羽蓋	口-17.2	No.4	胴上を向く口縁部内湾する	①良好②灰色③細砂粒含む ④口縁部破片
Fig. 178-5	PL. 92	鉄製品	長-18.5cm 厚-6mm	棒状	
Fig. 178-6	PL. 92	鉄製品	長-5.5cm 厚-7mm	釘?	
Fig. 178-7	PL. 92	鉄製品	長-3.9cm 厚-6mm	釘?	
Fig. 178-8	PL. 92	鉄製品	長-7.6cm 厚-9mm	釘?	

67号住居跡 (Fig. 179・180, PL. 14・93)

H区南西部に位置し25・26H 4・5の範囲にある。68号住居跡の北にあり、東部は調査区域外にある。このためプラン・規模・主軸方位等は不明であるが、西壁は約3mを測る。壁高は約10cmを測り、床面はほぼ平坦をなし、床面上2カ所から炭化物が集中して検出された。南西コーナーに2カ所の落ち込みが確認された。規模は南側は約90cm×80cm、北側は約1m×1m、深さは2基共に約10cm~15cmを測る。2基共に小穴から大型の石を検出し覆土内から多量の鉄滓を出土した。また西壁に沿う床面に小穴が検出され規模は約40cm×35



- 67号住居跡
- 1 暗褐色土層 炭化物、黒色灰を含む
 - 2 暗褐色土層 鉄滓を含む
 - 3 暗褐色土層 鉄滓を少量含む
 - 4 暗褐色土層 炭化物を多量に含む
 - 5 暗褐色土層 炭化物、灰を含む

Fig.179 67号住居跡

cm、深さ約10cmを測る。この小穴覆土内から羽口の破片が2点検出された。他の住居跡からも類の羽口が検出されているが当住居跡のような多量の鉄滓は検出されておらず、当遺跡内の小鍛冶跡と考えられる。竈は検出されていない。

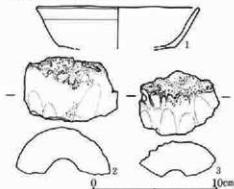


Fig.180 67号住居跡出土遺物

第67号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
180-1 93	須恵器 坏	□-13.0	No.1	底部回転糸切2度切の可能性あり	①良好②灰色③密④縁部 片残存
180-2 93	羽口		覆土	先端部溶解物付着	①良好②明褐色③細砂粒含 む④破片
180-3 93	羽口		覆土	先端部溶解物付着	①良好②明褐色③細砂粒含 む④破片

68号住居跡 (Fig. 181, PL. 14)

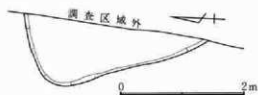
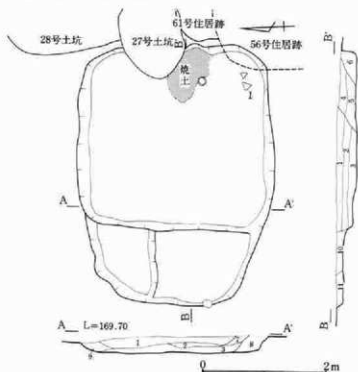


Fig.181 68号住居跡

H区南東に位置し25・26H 2～4の範囲にある。67号住居跡の南にあり、東半部の大部分は調査区域外にあるためプラン・規模等は確認されていない。西壁は約2.7mを測る。壁高は約10cmを測り、床面はほぼ平坦をなす。貯蔵穴・壁周溝等の諸施設は検出されていない。竈は検出されていない。

69号住居跡 (Fig. 182・183・184, PL. 14・93)

G区北東部に位置し28～30G 48・49の範囲にある。56号住居跡の北西にあり、新旧関係は56号住居が古い。規模は長辺4.2m、短辺3.2mであり、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約10cm～30cmを測る。床面は西側がやや高くなり東半部は約3.2m×3mの範囲でほぼ平坦をなす。西部は約1.2mの幅で張り出しが確認され、北半部、南半部に分けられ北は東部より約10cm高く、南はさらに約10cm高くなる。竈は検出されていない。

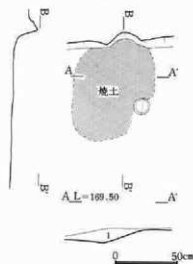


69号住居跡

- 1 黒褐色土層 FAブロック、FP、鉄分を含む
2 淡褐色土層 FAを多量に含む

- 3 暗褐色土層 FAを含む、鉄分を多量に含む
4 暗褐色土層 鉄分を含む
5 暗褐色土層 FA、鉄分を含む
6 暗褐色土層 FAを少量、鉄分を含む

Fig.182 69号住居跡



69号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 焼土ブロック、灰を含む

Fig.183 69号住居跡竈

- 7 暗褐色土層 FP、鉄分を少量含む
8 暗褐色土層 FA、FPを含む
9 暗褐色土層 FPを少量含む
10 黄褐色土層 FAを多量に含む
11 暗褐色土層 FPを含む

第2章 検出された遺構と遺物

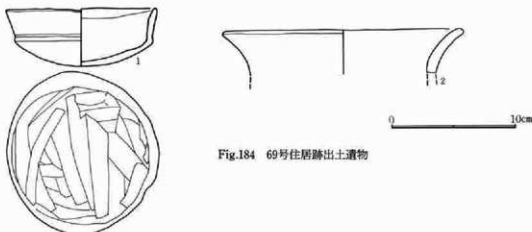


Fig.184 69号住居跡出土遺物

第69号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②胎土	③色調 ④残存
184-1 93	土器 器形	口-12.0 高-4.5	No.1	外面口縁部ヨコナデ体部ヘラズリ内面ナデ口縁部隈をもち外傾する	①良好②明褐色③細砂粒含む④完形	
184-2 93	土器 器形	口-19.2	覆土	口縁部内外面ヨコナデ口縁部外反する	①良好②淡黄褐色③細砂粒含む④口縁部%残存	

70号住居跡 (Fig. 185・186・187, PL. 15・93)

E区に位置し34~36E 41~43の範囲にある。当住居跡は71号住居跡とともに2軒のみ遺跡地内の南東部に

位置し、他の遺構との重複はない。規模は長辺5.1m、短辺3.6mである。平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約20cm~30cmを測り、主軸方位はN-84°-Eである。床面はほぼ平坦をなすが、南北で約10cmの比高差をもち北側が高くなる。貯蔵穴・壁周溝等の諸施設は検出されていない。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は焼焼部幅約90cm、同長50cmである。

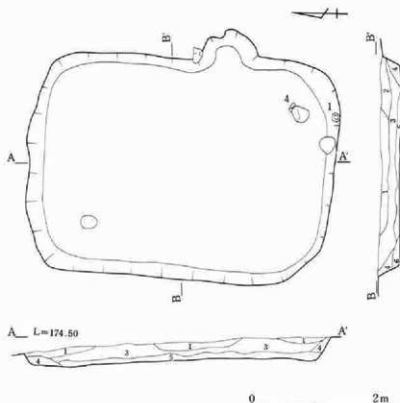
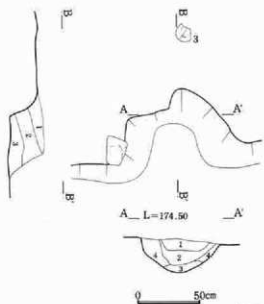


Fig.185 70号住居跡



- 70号住居跡竈
 1 暗褐色土層
 2 淡褐色土層 泥炭土を含む
 3 暗褐色土層 炭化物を含む
 4 暗褐色土層 焼土を含む

Fig.186 70号住居跡竈

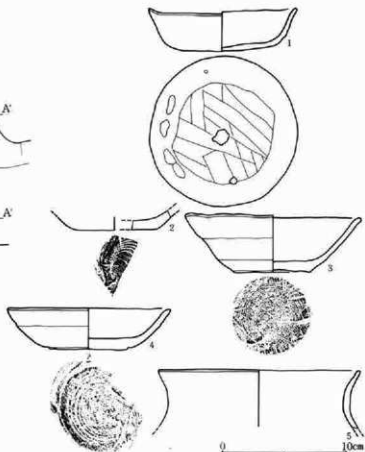


Fig.187 70号住居跡出土遺物

第70号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	遺物 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②胎土 ③胎土 ④残存
187-1 93	土師器 杯	口—11.8 高—3.4 底—8.0	No 1	外面口縁部ココナデ底部ヘラケズリ内面ナデ3箇所 に孔がある口縁部ゆがみ外開する	①良好②赤褐色③細砂粒含む ④丸形
187-2 93	須恵器 杯	底—6.1	覆土	底部回転糸切り廻り	①良好②灰白色③細砂粒含む が密④底部破片
187-3 93	須恵器 杯	口—12.0 高—4.7 底—6.1	覆土	底部回転糸切り廻り糸切痕上へフ痕あり口縁部弱 く外開する	①良好②灰白色③2~3mm の砂粒含む④残存
187-4 93	須恵器 杯	口—13.0 高—3.2 底—6.2	No 4	底部回転糸切り廻り口縁部内開ぎみに立ち上がる	①良好②灰褐色③細砂粒含む ④残存
187-5 93	土師器 甕	口—16.0	覆土	口縁部ココナデ口縁部外開する	①良好②赤褐色③細砂粒含む ④口縁部破片

71号住居跡 (Fig. 188, PL. 15)



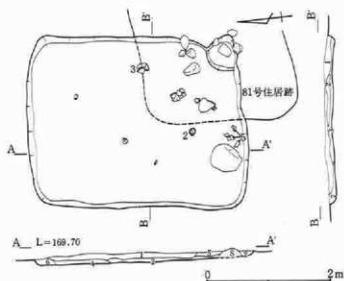
- 71号住居跡
 1 淡褐色土層 F Pを含む
 2 暗褐色土層 F P、炭化物を含む
 3 褐色土層 F Aを含む

Fig.188 71号住居跡

E区に位置し32E 43~46の範囲にある。70号住居跡の北西にあり、住居跡の大半は調査区域外にあるため規模・主軸方位等は不明である。床面はほぼ平坦をなし北西部に小穴を検出した。東半部は調査区域外にあるが規模は約1.6m×1mを測り、深さ約10cmである。竈は検出されていない。

79号住居跡 (Fig. 189・190・191, PL. 15・93)

G区の北東に位置し32～34G 47～49の範囲にある。80号住居跡の北にある。南東部で81号住居跡と重複している。新旧関係は79号住居跡が新しい。規模は長辺3.6m、短辺2.7mである。平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約10cmを測り、主軸方位はN-99°-Eである。床面は平坦をなし、貯蔵穴・壁周溝等の諸施設は検出されていない。床面上からは大型の石が検出されている。竈は南東コーナーに検出された。規模は燃焼部幅約70cm、同長約40cmを測る。竈燃焼部中央より支脚と考えられる石を検出した。また竈覆土中より構築材と考えられる石を検出した。

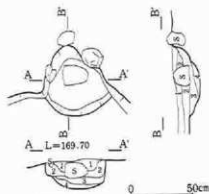


79号住居跡

- 1 黒褐色土層 F Pを含む
- 2 黒褐色土層 炭化物を含む
- 3 暗褐色土層 F P、炭化物を含む
- 4 暗褐色土層 炭化物を少量含む
- 5 暗褐色土層 F P、炭化物を少量含む
- 6 黒褐色土層 炭化物を含む
- 7 黒褐色土層 小礫、F Pを含む

Fig.189 79号住居跡

約70cm、同長約40cmを測る。竈燃焼部中央より支脚と考えられる石を検出した。また竈覆土中より構築材と考えられる石を検出した。



79号住居跡竈

- 1 灰褐色土層 焼土ブロックを含む
- 2 灰褐色土層 炭化物を含む
- 3 黒褐色土層 黒色灰を含む
- 4 黒褐色土層 炭化物を多量を含む

Fig.190 79号住居跡竈



Fig.191 79号住居跡出土遺物

第79号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
191-1 93	須恵器 坏	口-6.0 高-2.2 底-2.4	覆土	底部回転糸切	①良好②よい橙色③1~2mm砂粒含む④ほぼ壳形
191-2 93	須恵器 皿	口-8.4 高-2.0 底-5.6	No.2	底部回転糸切右廻り内面保付着	①良好②よい橙色③細砂粒含む④壳形
191-3 93	須恵器 埴	口-15.9 高-6.1 底-7.0	No.3	付高台口縁部内湾ぎみに立ち上がる高台部への字状に開く	①良好②橙色③1~2mmの砂粒含む④壳形
191-4 93	須恵器 埴	口-15.4 高-6.25 底-7.2	覆土	内周土層内面研重口縁部弱く外反する	①良好②橙色③細砂粒含むが密④片残存
191-5 93	羽釜	口-24.8	No.5	脚低く粘付開口縁部直立ぎみ	①良好②黒褐色③2~3mmの砂粒含む④口縁部片残存
Fig. 191-6 PL. 93	石 長-5.9cm 幅-3.05cm 厚-2.9cm 磁石 流紋岩(磁沢?)				
Fig. 191-7 PL. 93	石 長-4.7cm 幅-5.2cm 厚-4.0cm 磁石 流紋岩(磁沢?)				

80号住居跡 (Fig. 192・193・194, PL. 15・93)

G区北東部に位置し31・32G44~46の範囲にある。58号住居跡の北にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺3.4m、短辺2.5mである。平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約5cm~10cmを測り、主軸方位はN-77-Eである。床面は平坦をなし、貯蔵穴・壁周溝等の諸施設は検出されていない。竈は東壁ほぼ中央に検出された。竈の北側には張り出し部をもつ。規模は燃焼部幅約80cm、同長約50cmを測る。燃焼部中央より支脚の跡と考えられる小穴が検出された。

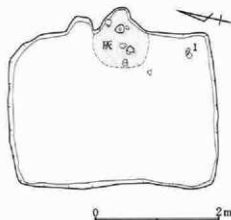


Fig.192 80号住居跡

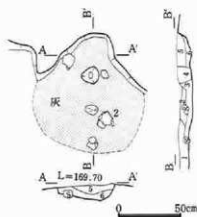


Fig.193 80号住居跡竈

80号住居跡竈

- 1 黒褐色土層 F P、FAを含む
- 2 淡褐色土層 FAを含む
- 3 黒褐色土層 F Pを少量含む
- 4 淡褐色土層 FA、FPを少量含む
- 5 淡褐色土層 炭化物を多量に含む
- 6 黒褐色土層 焼土、灰を含む

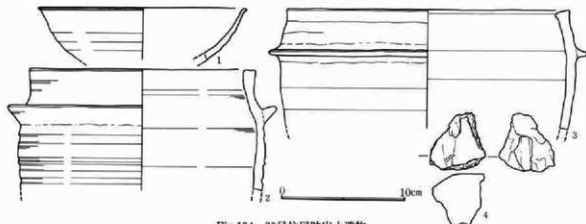


Fig.194 80号住居跡出土遺物

第2章 検出された遺構と遺物

第80号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②胎土 ③胎土 ④残存
194-1 93	灰釉陶器 塊	□-16.6	No. 1	内外面釉口縁端部外側へ屈曲する	①良好②灰白色③密④口縁部破片
194-2 93	羽蓋	□-18.0	No. 2	脚上を向く口縁部外湾ぎみに内傾する	①良好②よい橙色③細砂粒含む④口縁部片残存
194-3 93	羽蓋	□-22.4	覆土	脚短く横を向く口縁部内傾する	①良好②褐色③細砂粒含む④口縁部片残存
194-4 93	羽口		覆土	外側ナデ	①良好②褐色③細砂粒含む④破片

81号住居跡 (Fig. 195・196・197, PL. 15・93・94)

G区北東に位置し33・34G47・48の範囲にある。80号住居跡の北にある。北西部で79号住居跡と重複している。新旧関係は81号住居跡が古い。規模は長辺3.2m、短辺2.4mである。平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約10cmを測り、主軸方位はN-175°-Eである。床面は平坦をなし、貯蔵穴・壁周溝等の諸施設は検出されていない。竈は南壁東寄り検出された。規模は燃焼部幅約50cm、同長約40cmを測る。

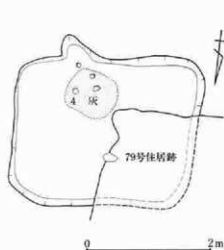


Fig.195 81号住居跡

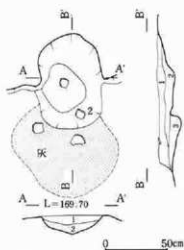


Fig.196 81号住居跡竈

- 81号住居跡竈
- 1 黒褐色土層 焼土を含む
 - 2 暗褐色土層 焼土を多量に含む
 - 3 暗褐色土層 灰、横土層

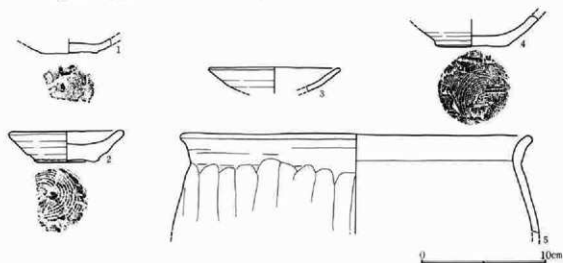


Fig.197 81号住居跡出土遺物

第81号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ③胎土 ④残存
197-1 93	須恵器 坏	底-4.2	覆土	底部回転糸切右廻り	①良好②褐色③細砂粒含む ④底部片残存
197-2 93	須恵器 皿	口-9.0 高-2.5 底-4.4	No 2	底部回転糸切右廻り器内厚い	①良好②いり褐色③① ~2mmの砂粒含む④片残存
197-3 93	灰釉陶器 残	口-10.4	覆土	口縁部内外面に釉	①良好②灰白色③密④口縁 部破片
197-4 94	須恵器 坏	底-5.6	No 4	底部回転糸切右廻り	①良好②いり褐色③細砂 粒含む④底部残存
197-5 94	土師器 壺	口-27.8	覆土	口縁部ヨコナゲ割部ヘラケズリ内面ナゲ口縁部 短く外湾する	①良好②いり赤褐色③ ~4mm砂粒含む④口縁部片残存

92号住居跡 (Fig. 198・199・200・201, PL. 16・94・95)

F区南西に位置し66~68F2~5の範囲にある。93号住居跡の北にある。他の遺構との重複はない。規模は

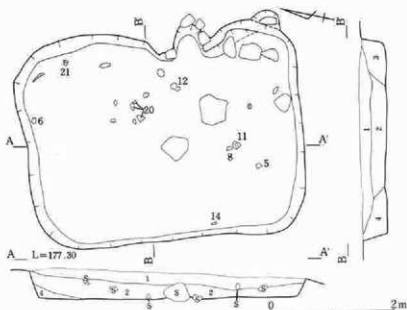


Fig.198 92号住居跡

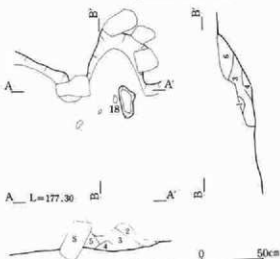


Fig.199 92号住居跡竈

長辺4.5m、短辺3.5mである。平面形態は隅丸方形を呈し、主軸方位はN-70°-Eである。壁高は約30cm~40cmを測る。床面は平坦をなし貯蔵穴・壁周溝等の諸施設は検出されていない。床面上には人頭より大型の軽石が散布しており埋没の状況がうかがえる。また南東コーナーには人頭より大型の石が一列に並び床に密着あるいは3cm程浮いた状態で検出された。竈は東壁やや南寄りに検出された。

竈手前に黒色の灰が散布している。竈の規模は袖幅約60cm、燃烧部長約50cmを測る。両袖部には構築材として石が検出され左袖部には切り石が使用されている。床面直上から鉄製鋸先が検出された。

92号住居跡

- 1 黒褐色土層 F Pを多量を含む
- 2 暗褐色土層 F Pを少量含む
- 3 暗褐色土層 黒色土を含む
- 4 暗褐色土層 黄褐色土を含む

92号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 焼土を含む
- 2 暗褐色土層
- 3 黒褐色土層 焼土を少量含む
- 4 黒褐色土層 炭化物を含む
- 5 黒褐色土層 F Pを含む
- 6 暗褐色土層 焼土を含む

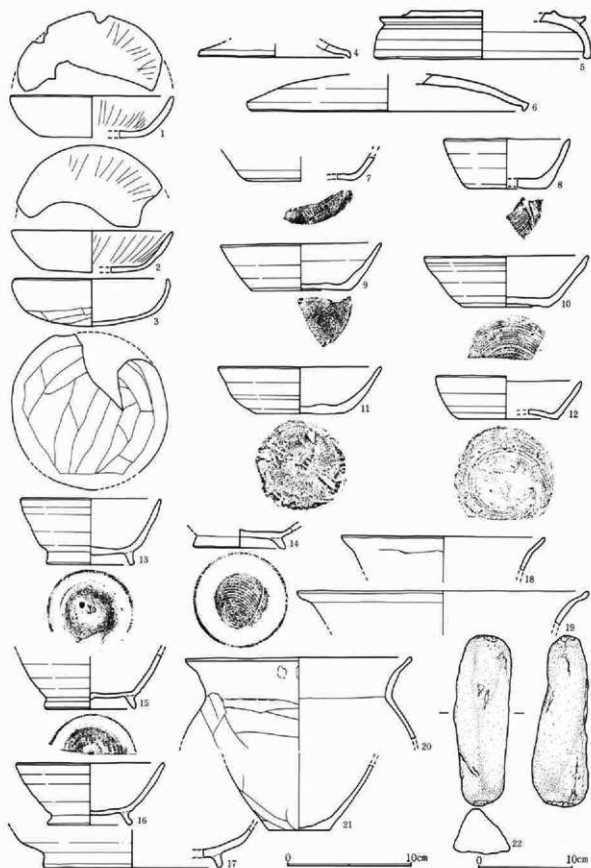


Fig.200 92号住居跡出土遺物(1)

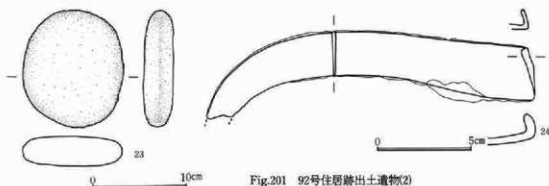


Fig.201 92号住居跡出土遺物(2)

第92号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
200-1 94	土部器 坏	口-13.4	貯穴壁土	口縁部ヨコナデ内面増文口縁部弱く内湾する	①良好②褐色③細砂粒含む ④残存
200-2 94	土部器 坏	口-12.8 底-8.0	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラズリ内面ナデ内面方射状増文口縁部直線状に外傾する	①良好②褐色③細砂粒含む ④残存
200-3 94	土部器 坏	口-12.3 高-3.7	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラズリ内面ナデ口縁部内湾する	①良好②よい褐色③細砂粒含む④残存
200-4 94	須恵器 蓋	口-12.0	覆土	外面回転ヘラ調整	①良好②灰白色③細砂粒含む④破片
200-5 94	須恵器 蓋	口-16.8	No 5		①良好②灰白色③密④破片
200-6 94	須恵器 蓋	口-22.4	No 6	外面回転ヘラ調整	①良好②灰白色③細砂粒含む ④残存
200-7 94	須恵器 坏	底-8.4	覆土	底部回転ヘラ調整	①良好②灰白色③密④底部破片
200-8 94	須恵器 坏	口-10.0 高-3.9 底-6.0	No 8	底部回転糸切右廻り口縁部直線状に外傾する	①良好②灰白色③細砂粒含む ④残存
200-9 94	須恵器 坏	口-12.7 高-3.6 底-7.6	覆土	底部手持ヘラ調整口縁部直線状に外傾する	①良好②灰白色③密④残存
200-10 94	須恵器 坏	口-13.0 高-9.0 底-7.0	覆土	底部回転糸切口縁部直線状に外傾する	①良好②灰白色③密④残存
200-11 94	須恵器 坏	口-12.8 高-4.2 底-7.8	No 11	底部ヘラ切口縁部直線状に外傾する	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含むが密④残存
200-12 94	須恵器 坏	口-11.6 高-3.4 底-7.5	No 12	底部回転糸切右廻り底部中心もり上がる口縁部直線状に外傾する	①良好②灰白色③密④残存
200-13 94	須恵器 塊	口-11.1 高-5.2 底-6.7	覆土	付高台底部ヘラ切り口縁部弱く内湾する	①良好②灰白色③細砂粒含む④残存
200-14 94	須恵器 塊	底-7.2	No 14	付高台底部回転糸切	①良好②灰白色③細砂粒含む③底部残存
200-15 94	須恵器 塊	底-7.0	覆土	付高台底部ヘラ切	①良好②灰白色③密④残存
200-16 94	須恵器 塊	口-11.7 高-4.9 底-6.4	覆土	付高台底部回転糸切回転調整口縁部弱く内湾する	①良好②灰白色③密④残存
200-17 94	須恵器 塊	底-13.8	覆土	付高台	①良好②灰白色③密④底部破片
200-18 94	土部器 甕	口-16.0	No 18	口縁部ヨコナデ口縁部外反する	①良好②赤褐色③細砂粒含む④口縁部破片
200-19 94	土部器 甕	口-23.0	覆土	口縁部ヨコナデ端部屈曲する口縁部外反する	①良好②褐色③細砂粒含む ④口縁部破片
200-20 94	土部器 甕	口-18.0	No 20	口縁部ヨコナデ側部ヘラズリ内面ナデ口縁部外反する	①良好②褐色③細砂粒含む ④口縁部残存
200-21 95	土部器 甕	底-5.0	No 21	外面ヘラズリ	①良好②暗赤褐色③細砂粒含む④底部破片
Fig. 200-22 PL. 94	石	長-18.1cm 幅-6.1cm 厚-5.8cm	実質安山岩		
Fig. 201-23 PL. 95	石	長-12.4cm 幅-10.8cm 厚-3.2cm	粗粒安山岩		
Fig. 201-24 PL. 95	鉄製品	長-17.5cm 厚-4mm	鏝		

第2章 検出された遺構と遺物

93号住居跡 (Fig. 202・203・204・205, PL. 16・95)

E区北西部に位置し65~68E44~47の範囲にある。92号住居跡の南にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺4.3mである。平面形態は隅丸方形を呈し、主軸方位はN-75°-Eである。東・北壁はゆがみがあるが床面の状況から崩れたものと思われる。壁高は約30cm~40cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、竈付近を除き四周を周溝が巡る。周溝幅は約10cm~15cm、深さ約数cmを測る。南西コーナーに小穴が検出された。規模は約80cm×70cm、深さ約30cmを測る。この小穴から大型の石が6点検出された。竈は南東コーナーに検出された。規模は燃焼部幅約70cm、同長約80cm、煙道部約40cmを測る。燃焼部内からは人頭大の石が検出され、竈の構築材と考えられる。

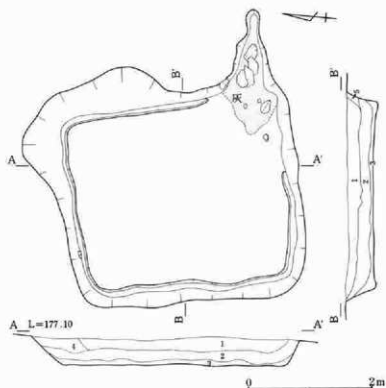


Fig.202 93号住居跡

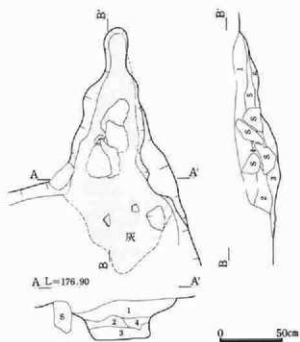


Fig.203 93号住居跡竈

93号住居跡

- 1 黒褐色土層 F Pを含む
- 2 暗褐色土層
- 3 黄褐色土層 黄色土板を含む
- 4 褐色土層
- 5 暗褐色土層

93号住居跡竈

- 1 黒褐色土層 F Pを含む
- 2 暗褐色土層 F P、焼土を含む
- 3 暗褐色土層 F P、焼土、炭化物を含む
- 4 暗褐色土層 焼土を少量含む
- 5 黒褐色土層 焼土を多量に含む
- 6 黒褐色土層 焼土、炭化物を含む

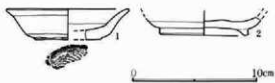


Fig.204 93号住居跡出土遺物(1)

第1節 竪穴住居跡

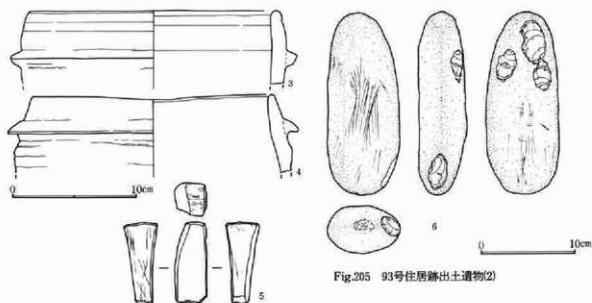


Fig.205 93号住居跡出土遺物(2)

第93号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計 画 値 (cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ③胎土 ④残存
204-1 95	須恵器 小皿	口-9.7 高-2.4 底-5.3	小穴覆土	底部回転糸切口縁部外反する	①良好②よい橙色③細砂粒含む④欠残存
204-2 95	須恵器 埴	底-6.5	覆土	付高台底部回転糸切	①良好②褐色③細砂粒含む④底部破片
205-3 95	羽釜	口-20.0	覆土	脚低く横を向く口縁部直立ガミ	①やや軟質②よい赤褐色③5~6mm砂粒含む④口縁部破片
205-4 95	羽釜	口-19.1	覆土	脚下を向く口縁部内傾する	①良好②暗赤褐色③1~2mm砂粒含む④口縁部破片
Fig. 205-5 PL. 95		石 長-4.5cm 幅-3.5cm 厚-3.5cm	磁石		
Fig. 205-6 PL. 95		石 長-19.2cm 幅-7.7cm 厚-5.0cm	粗粒安山岩		

94号住居跡 (Fig. 206・207・208, PL. 16・95)

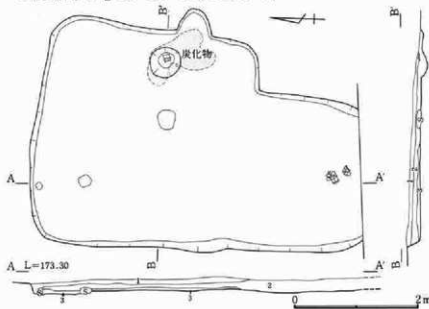


Fig.206 94号住居跡

G区北部に位置し43~45G 0・1の範囲にある。95号住居跡の南にある。他の遺構との重複はない。西壁の延長上に約2m、東西約2.6mの規模で張り出し部がある。張り出し部の床面は住居跡床面と同レベルで平坦をなす。重複の可能性は床面のレベル差がないことと

94号住居跡

- 1 褐色土層 F P多量を含む
- 2 黄褐色土層 F Pを含む
- 3 黄褐色土層 F P大量を含む

第2章 検出された遺構と遺物

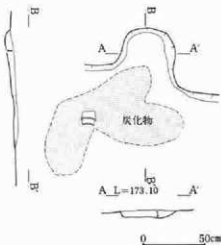


Fig.207 94号住居跡竈

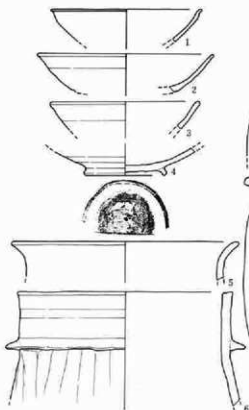


Fig.208 94号住居跡出土遺物

覆土の差が見られないことからないものと思われる。壁高は約15cm~20cmを測り、主軸方位はN-97°-Eである。床面からは密着した状態で平石が検出されている。竈手前から小穴が検出され規模は約50cm×50cm、深さ約11cmを測る。小穴内からは羽釜口縁部の破片が検出された。竈は東壁やや南寄りに検出された。遺存状態は悪く数cmの壁高しか残っていない。規模は燃焼部幅約60cm、同長約40cmを測る。

94号住居跡竈

1 黒褐色土層 F.P.、炭化物を含む

第94号住居跡出土遺物観察表

Fig. No Pl. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②土質 ③底面 ④残存
208-1 95	灰輪陶器 碗	口-12.0	覆土	内外面輪口縁端部外側へ屈曲する	①良好②灰白色③底④口縁部破片
208-2 95	灰輪陶器 埴	口-13.8	覆土	口縁部内外面輪	①良好②よい橙色③底④口縁部破片
208-3 95	須恵系 坏	口-14.8	覆土	口縁部直線状に外傾する	①良好②灰色③底④口縁部破片
208-4 95	灰輪陶器 皿	底-6.3	覆土	付高台	①良好②灰色③底④底面写残存

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
208-5 95	土師器 壺	□-18.0	覆土	口縁部ヨコナゲ口縁部外反する	①良好②褐色③細砂粒含む ④口縁部破片
208-6 95	羽蓋	□-17.0	覆土	器薄く横を向く鉤から下は下から上へヘラケズリ	①良好②灰白色③3~4mm の砂粒含む④口縁部残存
208-7 95	羽蓋	□-20.2	覆土	鉤上を向く口縁部内傾する	①良好②灰褐色③細砂粒 含む④口縁部残存
208-8 95	土蓋	□-24.7	覆土	全面ナゲ口縁部短く外反する	①軟質②灰褐色③2~3mm の砂粒含む④口縁部破片
208-9 95	土蓋	□-26.4	覆土	内外面ともに難なナゲ調整口縁部短く外反する	①軟質②によい赤褐色③ ~6mm砂粒含む④口縁部残存

95号住居跡 (Fig. 209・210・211, PL. 16・17・95・96)

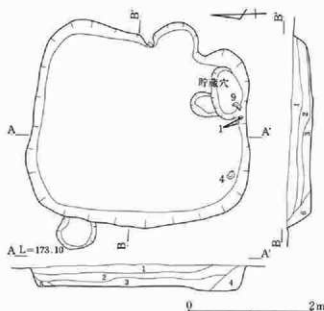


Fig.209 95号住居跡

G区南部に位置し42・43G 1~3の範囲にある。94号住居跡の北にあり、他の遺構との重複はない。規模は長辺3.6m、短辺3.1mである。壁高は約30cm~40cmを測り、主軸方位はN-103°-Eである。床面は平坦をなし、南東コーナーに2基重複して貯蔵穴を検出した。壁際のものが新しく旧いものは幅約40cmを測り長径は切られている。新しい貯蔵穴の規模は約90cm×50cm、深さ約30cmを測る。また南西コーナー壁際から床面に密着した状態で内面に字を刻んだ塊が検出された。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約70cm、同長約40cmを測る。

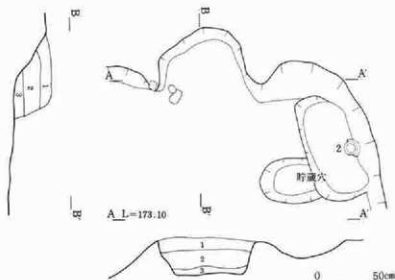


Fig.210 95号住居跡竈

95号住居跡

- 1 暗褐色土層 F Pを多量に含む
- 2 暗褐色土層
- 3 暗褐色土層 F P、炭化物を含む
- 4 暗褐色土層 F Pを含む
- 5 褐色土層
- 6 暗褐色土層

95号住居跡竈

- 1 黄褐色土層 F P、焼土を含む
- 2 黄褐色土層 炭化物を多量に含む
- 3 黄褐色土層 焼土、炭化物を含む

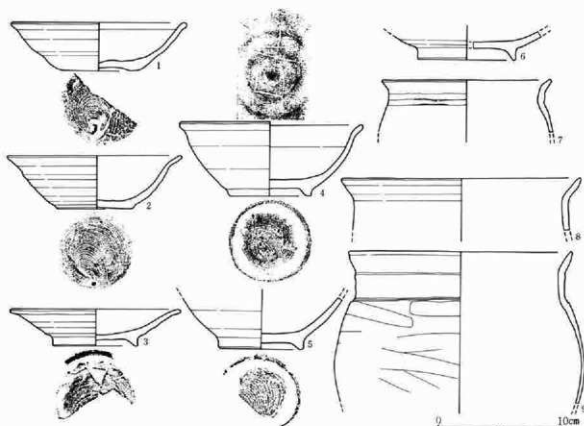


Fig.211 95号住居跡出土遺物

第95号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	遺物 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②胎土 ③色調 ④残存
211-1 95	須恵器 坏	口-14.0 底-5.0 高-3.8	No 1	底部回転糸切右廻り口縁外部側へ弱く屈曲する	①良好②によい黄褐色③細砂粒含む④片残存
211-2 95	須恵器 坏	口-13.8 底-6.0 高-4.2	No 2	底部回転糸切右廻り口縁外部反する	①良好②によい橙色③細砂粒含むが密④ほぼ完形
211-3 95	須恵器 皿	口-13.5 底-6.7 高-2.9	覆土	付高台底部回転糸切口縁外部反する	①良好②灰色③細砂粒含むが密④片残存
211-4 96	須恵器 坏	口-14.5 底-6.5 高-5.9	No 4	付高台底部回転糸切内面にへうによる字口縁外部側へ外跨する	①良好②灰色③細砂粒含む④片残存
211-5 96	須恵器 埴	口-14.5 底-6.8 高-5.9	覆土	付高台底部回転糸切	①良好②褐色③1~2mmの砂粒含む④片残存
211-6	須恵器 埴	口-14.5 底-7.8 高-5.9	覆土	付高台底部回転糸切	①良好②灰色③密④底部片残存
211-7 96	土師器 甕	口-13.6	覆土	口縁部ココナダ口縁部弱いコ字状を呈する	①良好②によい橙色③細砂粒含む④口縁部破片
211-8 96	土師器 甕	口-19.0	覆土	口縁部ココナダ口縁部外反する	①良好②赤褐色③細砂粒含む④口縁部片残存
211-9 96	土師器 甕	口-17.8	No 9	口縁部ココナダ胴部ヘラケズリ内面ナダ口縁部コ字状を呈する	①良好②によい橙色③細砂粒含む④片残存

96号住居跡 (Fig. 212・213・215・216, PL. 17・96・97)

G区南部に位置し46~49G 3~5の範囲にある。95号住居跡の北西にある。他の遺構との関係は北東コーナーで145号住居跡と167号土坑が重複している。東壁に接し168号土坑がある。新旧関係は96号住居跡、167号土坑が新しい。規模は長辺4.7m、短辺4.4mであり、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約50cm~60cmを

第1節 竪穴住居跡

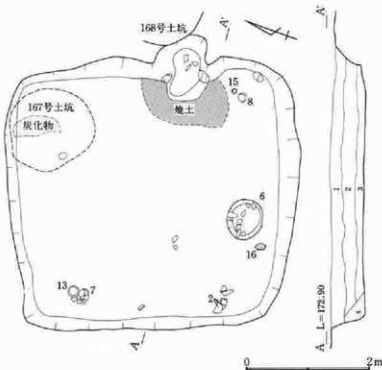


Fig.212 96号住居跡

測り、主軸方位はN-69°-Eである。床面は平坦をなし、南壁やや西寄りに小穴が検出された。規模は約70cm×60cm、深さ約30cmを測る。竈は東壁やや南寄りに検出された。袖は床面にやや張り出し、両袖部には袖材として石が検出された。北側袖石には加工の痕跡が認められた。燃焼部前面には灰が散布している。規模は袖幅約60cm、燃焼部長約80cmを測る。煙道部は168号土坑により切り崩されている。

96号住居跡

- 1 暗褐色土層 F Pを多量に含む
- 2 暗褐色土層
- 3 暗褐色土層 炭化物、FAを含む
- 4 黄褐色土層

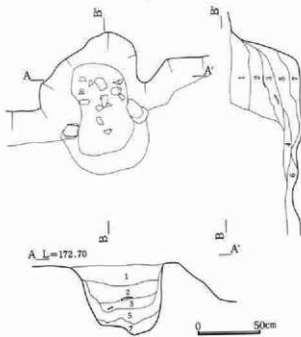


Fig.213 96号住居跡竈

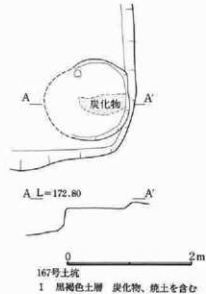


Fig.214 167号土坑

96号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 F P、焼土、炭化物を含む
- 2 黒褐色土層 FA、焼土を含む
- 3 褐色土層 焼土、炭化物を多量に含む
- 4 黒褐色土層 焼土少量、炭化物を多量に含む
- 5 暗褐色土層 焼土、灰を多量に含む
- 6 暗褐色土層 FAを含む
- 7 暗褐色土層 焼土、灰を含む

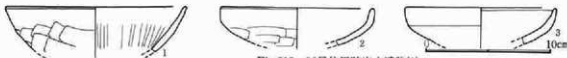


Fig.215 96号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物

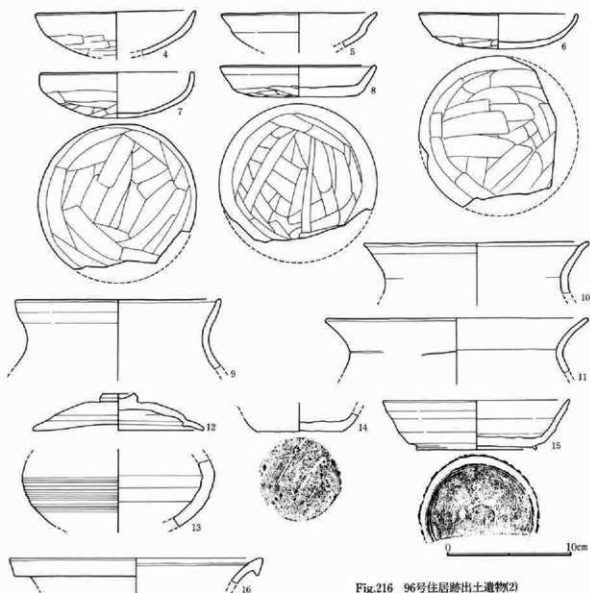


Fig.216 96号住居跡出土遺物(2)

第96号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器 器形	計測 値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①構成 ②胎土 ③残存 ④残存
215-1 96	土師器 杯	口-14.4	覆土	口縁部ヨコナダ体部ヘラナダ内面ナダ放射状暗文	①良好②にぶい褐色③細砂粒含む④口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存
215-2 96	土師器 杯	口-6.2	No.2	口縁部ヨコナダ体部ヘラズリ内面ナダ	①良好②にぶい褐色③細砂粒含む④口縁部破片
215-3 96	土師器 杯	口-12.0	覆土	口縁部ヨコナダ	①良好②褐色③細砂粒含む④口縁部破片
216-4 96	土師器 杯	口-12.8	覆土	口縁部ヨコナダ体部ヘラズリ内面ナダ	①良好②褐色③細砂粒含む④ $\frac{1}{2}$ 残存
216-5 96	土師器 杯	口-12.4	覆土	口縁部外湾する口縁部ヨコナダ	①良好②褐色③細砂粒含む④口縁部破片
216-6 96	土師器 杯	口-12.6 高-2.8	No.6	口縁部ヨコナダ体部弱いナダ底部ヘラズリ内面ナダ	①良好②にぶい褐色③細砂粒含む④ $\frac{1}{2}$ 残存
216-7 96	土師器 杯	口-11.8 高-3.6	No.7	口縁部ヨコナダ体部ヘラズリ内面ナダ	①良好②褐色③1~2mmの砂粒含む④ $\frac{1}{2}$ 残存
216-8 96	須恵器 杯	口-12.3 高-2.4 底-7.0	No.8	底部回転ヘラズリ底部手持ヘラ調整	①良好②灰色③密④ $\frac{1}{2}$ 残存

Fig. No PL. No	器 種 形	計 測 値(cm)	出土位置	成 形 及 び 調 整 の 特 徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
216-9 96	土師器 壺	口-16.4	覆土	口縁部ココナデ	①良好②にぶい赤褐色③細砂粒含む④口縁部破片
216-10 96	土師器 壺	口-17.8	覆土	口縁部ココナデ	①良好②にぶい赤褐色③細砂粒含む④口縁部破片
216-11 96	土師器 壺	口-21.0	覆土	口縁部ココナデ	①良好②にぶい赤褐色③細砂粒含む④口縁部破片
216-12 96	須恵器 壺	口-13.6 高-2.9	覆土	外面回転へラ調整内面返りをもつ	①良好②灰白色③細砂粒含む④底形
216-13 96	須恵器 壺		No13	体部回転調整痕	①良好②褐色③密④胴部破片
216-14 96	須恵器 坏	底-6.7	覆土	底部手持へラケズリ	①良好②褐色③細砂粒含む④密⑤底部残存
216-15 97	須恵器 坏	口-14.8 高-3.9 底-9.5	No15	ケズリ出し高台底部回転へラ調整一部不定方向へラ調整	①良好②褐色③密④汚残存
216-16	須恵器 壺	口-20.0	No16		①良好②褐色③1-2mm砂粒含む④密⑤口縁部破片

97号住居跡 (Fig. 217・218・219・220, PL. 17・97)

G区中央に位置し49～51G15～18の範囲にある。140号住居跡の南にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺5.4m、短辺5.15mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約30cm～50cmを測り、主軸方位はN-86°-Eである。床面は南に向い低く傾斜している。南壁は崩れている。竈は南東コーナーに検出され、竈

長軸方位はやや南に傾きN-104°-Eを指す。燃烧部内からは構築材の石が検出され両袖部、支脚、さらに天井部に大型の石が2個検出された。竈の規模は袖幅約60cm、燃烧部長約110cmを測り、煙道部は明確ではない。

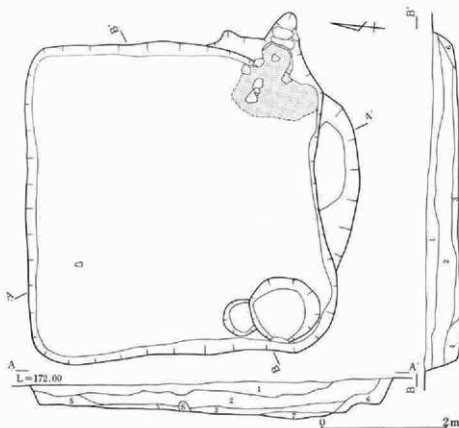
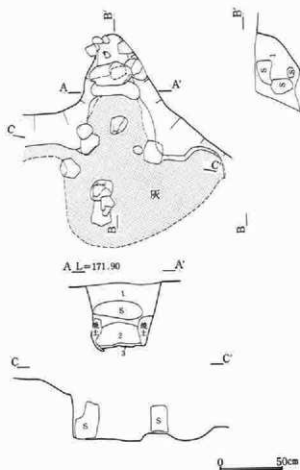


Fig.217 97号住居跡

97号住居跡

- 1 黒褐色土層 F Pを少量含む
- 2 暗褐色土層 F Pを含む
- 3 褐色土層 F P、F Aを少量含む
- 4 暗褐色土層 炭化物を少量含む
- 5 暗褐色土層
- 6 灰褐色土層 黄色土を含む
- 7 黒褐色土層 F Aを含む

第2章 検出された遺構と遺物



97号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 FPを多量に含む
- 2 暗褐色土層 灰土、炭化物を含む
- 3 暗褐色土層 灰土、炭化物を多量に含む

Fig.218 97号住居跡竈

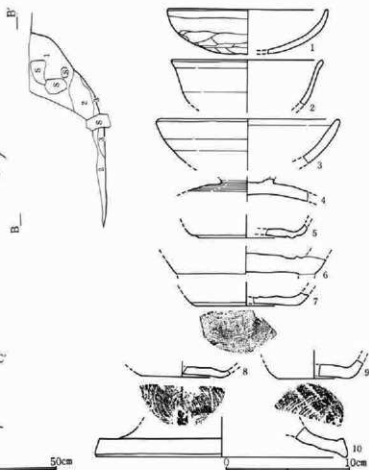


Fig.219 97号住居跡出土遺物(1)

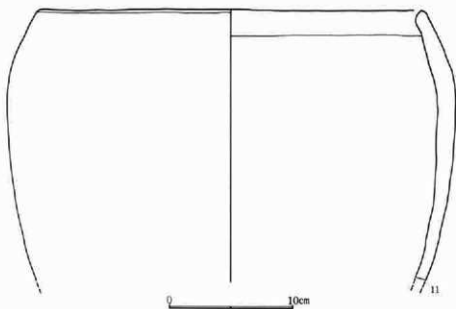


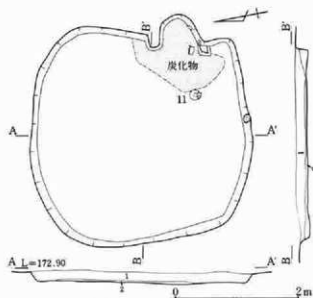
Fig.220 97号住居跡出土遺物(2)

第97号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②胎土 ③色調 ④残存
219-1 97	土節器 坏	口-12.65	覆土	口縁部ヨコナガ体部弱いナダ底部ヘラズリ内面ナダ口縁端部直立ぎみ	①良好②灰色③密④残存
219-2 97	須恵器 坏	口-12.0	覆土	口縁端部外側へ弱く屈曲する	①良好②灰色③密④口縁部破片
219-3 97	土節器 埴	口-14.0	覆土	口縁部弱く内湾する	①良好②灰白色③密④細砂粒含む⑤口縁部破片
219-4 97	須恵器 蓋		覆土	外面回転ヘラ調整	①良好②灰色③密④つまみ部破片
219-5 97	須恵器 坏	底-7.3	覆土	底部回転糸切右廻り	①良好②灰褐色③密④底部破片
219-6 97	須恵器 長頸壺		覆土	高台欠落底部回転ヘラ調整	①良好②灰白色③密④底部片残存
219-7 97	須恵器 坏	底-8.0	覆土	底部回転糸切	①良好②灰色③密④底部片残存
219-8 97	須恵器 坏	底-6.1	覆土	底部回転糸切右廻り	①良好②灰色③密④底部片残存
219-9 97	須恵器 坏	底-5.5	覆土	底部回転糸切	①良好②灰白色③細砂粒含む④底部片残存
219-10 97	甌	口-20.0	覆土		①良好②灰白色③細砂粒含む④底部破片
220-11 97	土釜	口-39.0	覆覆土	内外面磨面荒れている	①軟質②灰白色③褐色④2~5mmの砂粒含む⑤片残存

98号住居跡 (Fig. 221・222・223, PL. 17・97・98)

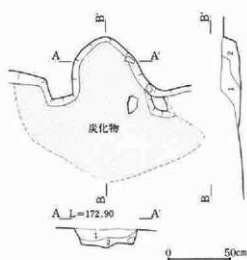
G区南部に位置し38・39G 2・3の範囲にある。95号住居跡の東にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺3.6m、短辺3.45mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約15cm~20cmを測り、主軸方位はN-105°-Eである。床面は平坦をなし、貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁や南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約80cm、同長約50cmである。



98号住居跡

- 1 暗褐色土層
- 2 灰褐色土層 F Pを含む

Fig.221 98号住居跡



98号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 F Pを含む
- 2 暗褐色土層 焼土、灰を含む

Fig.222 98号住居跡竈

第2章 検出された遺構と遺物

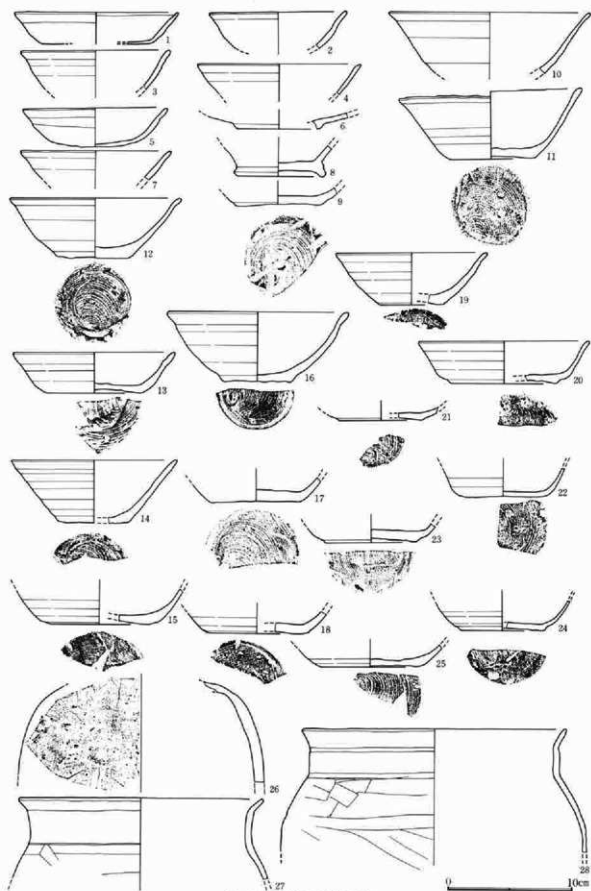


Fig.223 98号住居跡出土遺物

第98号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
223-1 97	土師器 坏	口-14.0	覆土	口縁部ヨコナゲ体部弱いナゲ底部ヘラケズリ内面ナゲ口縁部内側に比線通る	①良好②灰色③細砂粒含む④口縁部破片
223-2 97	須恵器 坏	口-11.0	覆土	口縁部ヨコナゲ体部弱いヘラナゲ口縁部弱く外反する	①良好②におい褐色③細砂粒含む④口縁部破片
223-3 97	須恵器 坏	口-11.8	覆土	口縁部弱く外反する	①良好②灰色③細砂粒含む④口縁部破片
223-4 97	灰釉陶器 埴	口-14.0	覆土	口縁部軸	①良好②灰白色③密④口縁部破片
223-5 97	土師器 坏	口-11.4 高-3.1	覆土	口縁部ヨコナゲ体部ヘラケズリ内面ナゲ口縁部弱く外反する	①良好②におい褐色③細砂粒含む④残存
223-6 97	灰釉陶器 皿	高-6.5	覆土	内面に軸	①良好②灰白色③密④底部破片
223-7 97	須恵器 坏	口-12.0	覆土	口縁部弱く外反する	①良好②灰白色③細砂粒含む④口縁部破片
223-8 97	須恵器 埴	底-6.8	覆土	付高台	①良好②褐色③1-2mmの砂粒含む④密⑤底部残存
223-9 97	須恵器 坏	底-6.8	覆土	底部回転糸切	①良好②灰白色③細砂粒含む④底部残存
223-10 97	須恵器 坏	口-16.0	覆土	口縁部弱く外反する	①良好②灰白色③細砂粒含む④口縁部破片
223-11 97	須恵器 坏	口-14.6 高-5.5 底-6.7	No.11	底部回転糸切口縁部弱く外反する	①良好②褐色③1-2mmの砂粒含む④残存
223-12 97	須恵器 坏	口-13.6 高-4.75	覆土	付高台大落底部回転糸切口縁部外反する	①良好②灰白色③細砂粒含む④残存
223-13 98	須恵器 坏	口-12.8 高-3.2 底-7.6	覆土	底部回転糸切口縁部直線状に外傾する	①良好②灰白色③細砂粒含む④底部破片
223-14 97	須恵器 坏	口-13.2	覆土	底部回転糸切口縁部直線状に外傾する	①良好②灰白色③細砂粒含む④残存
223-15 98	須恵器 坏	底-6.8	覆土	底部回転糸切	①良好②灰白色③細砂粒含む④底部破片
223-16 98	須恵器 坏	口-14.4 高-5.5 底-5.4	覆土	底部回転糸切口縁部外反する	①良好②灰白色③細砂粒含む④残存
223-17 98	須恵器 坏	底-7.0	覆土	底部回転糸切	①良好②灰色③細砂粒含む④底部残存
223-18 98	須恵器 坏	底-13.6	覆土	底部回転糸切	①良好②灰白色③細砂粒含む④底部破片
223-19 98	須恵器 坏	口-12.0 高-4.05 底-4.8	覆土	底部回転糸切口縁部直線状に外傾する	①良好②灰白色③細砂粒含む④残存
223-20 98	須恵器 坏	口-13.6 高-3.3 底-8.6	覆土	底部回転糸切口縁部直線状に外傾する	①良好②褐色③密④底部破片
223-21 98	須恵器 坏	底-6.6	覆土	底部回転糸切右廻り	①良好②灰色③細砂粒含む④底部破片
223-22 98	須恵器 坏	底-6.1	覆土	底部回転糸切	①良好②灰色③密④底部残存
223-23 98	須恵器 坏	底-7.4	覆土	底部回転糸切	①良好②灰白色③細砂粒含む④底部残存
223-24 98	須恵器 坏	底-6.6	覆土	底部回転糸切右廻り	①良好②灰色③密④残存
223-25 98	須恵器 坏	底-7.8	覆土	底部回転糸切	①良好②灰色③密④底部破片
223-26 98	須恵器 埴		覆土		①良好②灰色③密④前部破片
223-27 98	土師器 埴	口-19.4	覆土	口縁部ヨコナゲ胴部ヘラケズリ内面ナゲ口縁部コの字状を呈する	①良好②灰黄色③細砂粒含む④残存
223-28 98	土師器 埴	口-21.0	覆土	口縁部ヨコナゲ胴部ヘラケズリ内面ナゲ口縁部コの字状を呈する	①良好②におい褐色③細砂粒含む④残存

99号住居跡

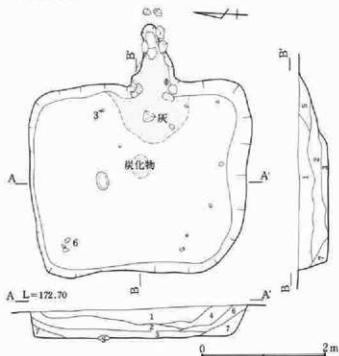


Fig.224 99号住居跡

(Fig. 224・225・226・227, PL. 18・98)

G区南部に位置し45・46G 6・7の範囲にある。96号住居跡の北西にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺3.6m、短辺3.05mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約40cm~50cmを測り、主軸方位はN-86°-Eである。床面は平坦をなし、貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁ほぼ中央に検出された。竈は両袖部および壁に沿い石が壁材として補強されたと考えられる。また袖材・補強材とともに燃焼部前面に石が検出され支脚になるかは不明である。規模は袖幅約60cm、燃焼部長約60cm、煙道部長約50cmを測る。

99号住居跡

- 1 黒褐色土層 FPを多量に含む
- 2 暗褐色土層 FP、FAを含む
- 3 暗褐色土層 FAを含む
- 4 暗褐色土層
- 5 褐色土層
- 6 暗褐色土層 FAを含む
- 7 暗褐色土層 FAブロックを含む

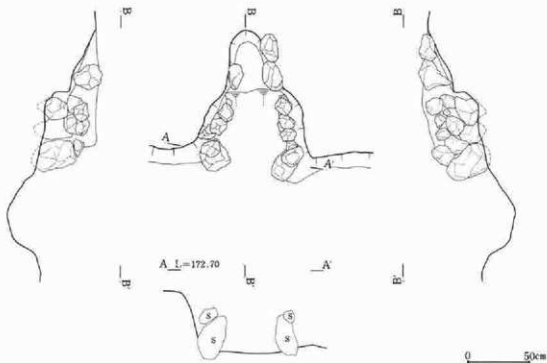


Fig.225 99号住居跡竈(1)

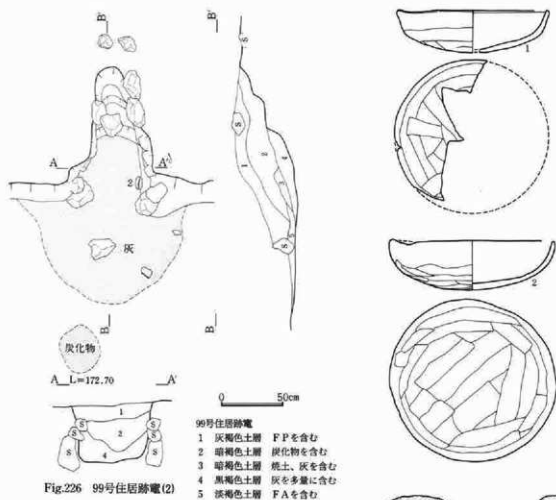


Fig.226 99号住居跡電(2)

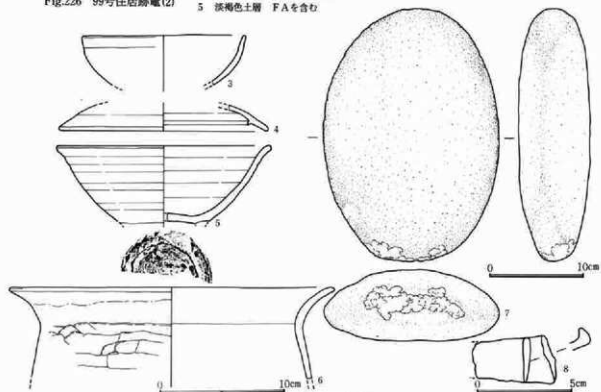


Fig.227 99号住居跡出土遺物

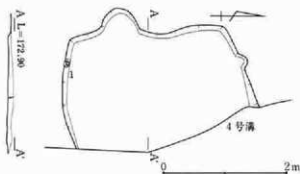
第2章 検出された遺構と遺物

第99号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②胎土 ③胎土 ④残存
227-1 98	土師器 環	口-12.0	覆土	口縁部ヨコナデ口縁部間の弱いナデ部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②明赤褐色③細砂粒含む④瓦残存
227-2 98	土師器 環	口-12.6 高-4.0	No 2	口縁部ヨコナデ口縁部部間の弱いナデ内面ナデ口縁部直立ぎみ	①良好②よい褐色③細砂粒含む④ほぼ完形
227-3 98	土師器 環	口-13.0	No 3	口縁部ヨコナデ部弱いナデ内面ナデ	①良好②よい赤褐色③細砂粒含む④瓦残存
227-4 98	須恵器 蓋	口-16.6	覆土	外面回転ヘラ調整内面に返りをもつ	①良好②灰白色③細砂粒含む④破片
227-5 98	須恵器 壺	口-17.0	貯穴覆土	付高台欠落底部回転糸切口縁部外側に屈曲する	①良好②褐色③細砂粒含む④破片
227-6 98	土師器 壺	口-25.6	No 6	口縁部ヨコナデ側部ヘラケズリ内面ナデ口縁部外反する	①良好②褐色③細砂粒含む④口縁部破片
Fig. 227-7 PL. 98		石 長-26.6cm 幅-18.9cm 厚-7.6cm	石灰閃緑岩		
Fig. 227-8 PL. 98		鉄製品 長-4.5cm 厚-7mm	鋼		

100号住居跡 (Fig. 228・229, PL. 18・99)

G区南部に位置し36・37G 2・3の範囲にある。98号住居跡の東にある。他の遺構との重複は東半部で4号溝と重複し、東半部は削平されている。新旧関係は住居跡が古い。竈は検出されていない。このため規模・主軸方位等は不明である。西壁は3mを測る。壁高は約4cm～5cmを測り、床面はほぼ平坦をなす。



100号住居跡
1 黒褐色土層 FPを含む

Fig.228 100号住居跡

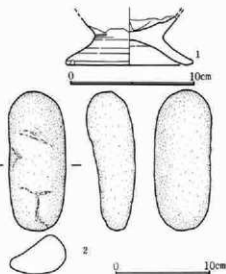


Fig.229 100号住居跡出土遺物

第100号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②胎土 ③胎土 ④残存
229-1 99	土師器 壺	底-10.0	No 1	台部への字状に開く	①良好②よい褐色③細砂粒含む④脚のみ残存
Fig. 229-2 PL. 99		石 長-14.8cm 幅-6.0cm 厚-4.8cm	粗粒安山岩		

101号住居跡 (Fig. 230・231・232・233, PL. 18・99)

G区南部に位置し41～43G 4～6の範囲にある。95号住居跡の北西にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺4.75m、短辺3.6mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約10cm～20cmを測り、主軸方位はN-90°-Eである。床面は約10cmの比高をもち南側が高くなる。貯蔵穴は不明であるが床面上には計6基の

第1節 竪穴住居跡

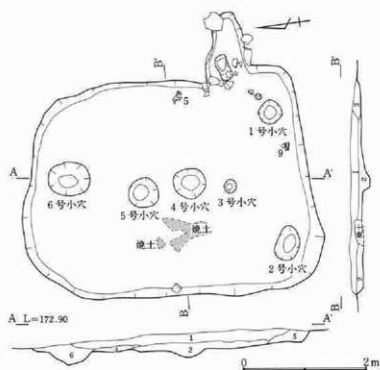
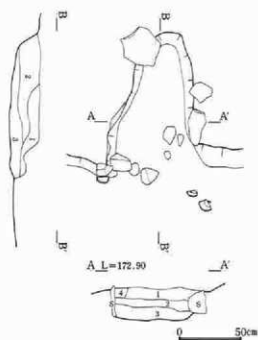


Fig.230 101号住居跡

小穴が検出された。南東コーナー、南西コーナーの小穴をそれぞれ1号・2号さらに南から3号～6号小穴とした。それぞれの規模は1号は径約40cm、深さ約6cm、2号は径約55cm×40cm、深さ約15cm、3号は径約20cm、深さ約10cm、4号は径約50cm、深さ約10cm、5号は径約50cm、深さ約10cm、6号は径約70cm×50cm、深さ約20cmを測る。竈は東壁南寄りに検出され、規模は燃焼部幅約80cm、同長約1mを測る。

101号住居跡

- 1 黒褐色土層 FPを多量に含む
- 2 暗褐色土層
- 3 暗褐色土層 FPを少量含む砂質土
- 4 黄褐色土層 黄土を含む
- 5 暗褐色土層 FPを含む
- 6 暗褐色土層 砂質土



101号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 FPを多量に含む
- 2 暗褐色土層 焼土、炭化物を含む
- 3 暗褐色土層 焼土を含む
- 4 暗褐色土層 焼土、炭化物を多量に含む

Fig.231 101号住居跡竈

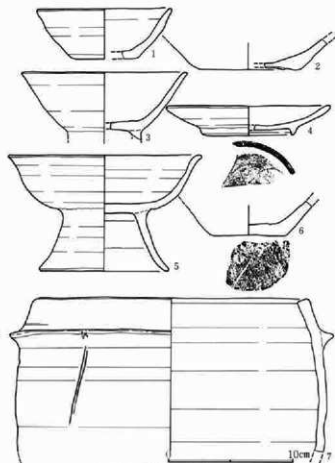
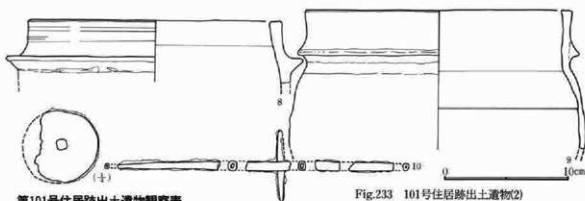


Fig.232 101号住居跡出土遺物(1)



第101号住居跡出土遺物観察表

Fig.233 101号住居跡出土遺物(2)

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
232-1 99	須恵器 坏	口-10.6 高-4.0 底-5.2	覆土	底部回転糸切口縁部弱く内湾して立ち上がる	①良好②ふい・褐色③細砂粒含む④口縁部破片
232-2 99	須恵器 坏	底-7.8	覆土	底部回転糸切2度切の可能性あり	①良好②ふい・黄褐色③細砂粒含む④底部与残存
232-3 99	須恵器 坏	口-13.1	覆覆土	付高台欠損口縁部弱く外反する	①良好②明褐色③1~2mmの砂粒含む④与残存
232-4 99	灰胎陶器 皿	口-6.5 高-2.33 底-6.9	覆土	口縁部内外面輪口縁部弱く内湾して外積する付高台	①良好②灰白色③密④与残存
232-5 99	須恵器 高台付埴	口-15.3 高-9.2 底-10.0	No 5	高台部高くハの字状を呈する	①良好②ふい・褐色③細砂粒含む④与残存
232-6 99	土師器 壺	底-6.0	覆覆土	底部にへらによる×印	①良好②灰色③細砂粒含む④底部与残存
232-7 99	羽釜	口-21.5	覆覆土	胴がみ横を向く口縁部内湾する胴部にへら板	①良好②明褐色③細砂粒含む④与残存
233-8 99	羽釜	口-20.0	覆土	胴上を向く胴下貼付口縁部内傾する	①良好②ふい・褐色③細砂粒含む④口縁部破片
233-9 99	羽釜	口-21.1	No 9	胴底く下を向く胴下弱いナゲ口縁部直立さみ	①良好②灰白色③2~3mmの砂粒含む④口縁部与残存
Fig. 233-10 PL. 99 鉄製品 長-13.8cm 厚-4mm 紡錘車					

102号住居跡 (Fig. 234・235・236, PL. 18・19・99・100)

G区南部に位置し46・47G 9の範囲にある。99号住居跡の北にある。他の遺構との重複は107号住居跡と重



102号住居跡竈¹
1 暗褐色土層 炭化物を含む
2 暗褐色土層 焼土、炭化物を含む
3 暗褐色土層 焼土を多量に含む

Fig. 234 102号住居跡

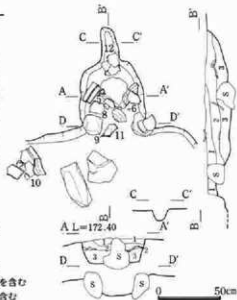


Fig. 235 102号住居跡竈

複し、新旧関係は102号住居跡が新しい。南壁以外は明瞭に検出はできなかった。壁高は約10cmを測り、床面は平坦をなしやや軟弱である。竈は東壁に検出され、主軸方位はN-97°-Eである。規模は袖幅約50cm、同長約55cm、煙道部約30cmを測る。両袖部には構築材の石が検出され左袖部前面には天井石と思われる切り石が検出された。

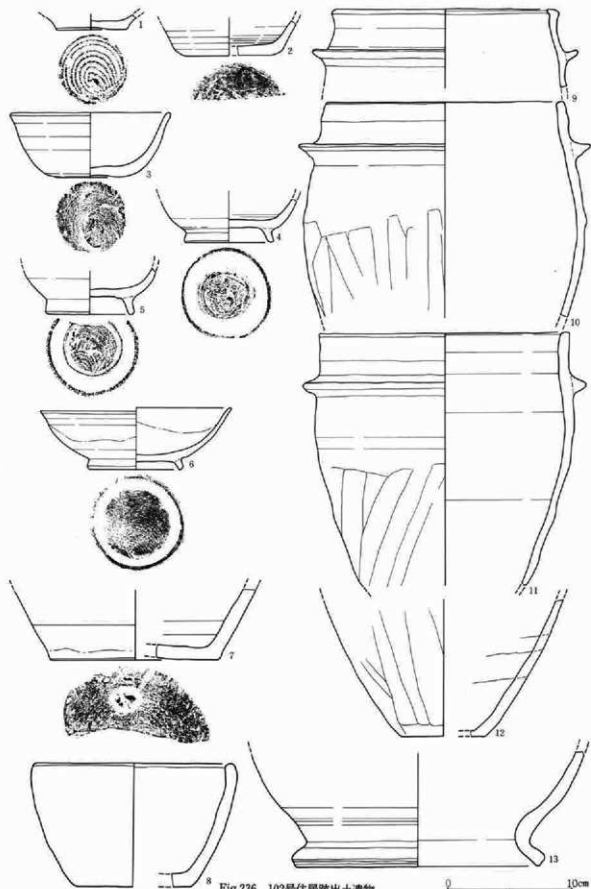


Fig.236 102号住居跡出土遺物

第102号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
236-1 99	須恵器 坏	底-5.5	覆土	底部回転糸切り廻り	①良好②灰白色③細砂粒含む④底部残存
236-2 99	須恵器 坏	底-7.0	覆土	底部手持ヘラ調整	①良好②灰白色③密④底部片残存
236-3 99	須恵器 坏	口-12.7 高-5.1 底-5.3	覆土	底部回転糸切口縁部内湾ぎみに立ち上がり端部弱く外湾する	①良好②にぶい褐色③1~2mmの砂粒含む④片残存
236-4 99	須恵器 埴	底-7.0	覆土	付高台底部回転糸切	①良好②にぶい褐色③密④底部残存
236-5 99	須恵器 埴	底-7.0	No.5	付高台底部回転糸切	①良好②にぶい褐色③細砂粒含む④底部残存
236-6 99	灰釉陶器 坏	口-15.0 高-4.9 底-7.5	No.6	付高台底部回転糸切り廻り口縁部内外面軸口縁部弱く外反する	①良好②灰白色③密④片残存
236-7 99	須恵器 壺	底-13.3	覆土	底部ヘラ調整	①良好②灰白色③密④底部破片
236-8 100	土師器 鉢	口-16.4 高-9.7 底-9.0	No.8	内外面ヘラ状ナゲ口縁部内湾する	①良好②にぶい赤褐色③3~4mmの砂粒含む④破片
236-9 100	羽釜	口-18.0	No.9	胴上を向く口縁部外湾ぎみに内挿する	①良好②にぶい褐色③2~3mm砂粒含む④口縁部破片
236-10 100	羽釜	口-18.6	No.10	胴上を向く胴下位ヘラズリ口縁部内湾する	①良好②にぶい赤褐色③細砂粒含む④片残存
236-11 100	羽釜	口-20.0	No.11	胴横を向く胴下位ヘラズリ口縁部直立ぎみ	①良好②赤褐色③1~2mmの砂粒含む④片残存
236-12 100	土師器 壺	底-6.6	No.12	外面ヘラズリ内面ナゲ輪痕残す	①良好②にぶい褐色③3~4mmの砂粒含む④片残存
236-13 100	甌	底-19.2	覆土	底部から下部へ外に向かいカーブする底部端部に欠損が起る	①良好②明褐色③細砂粒含む④底部破片

103号住居跡 (Fig. 237・238・239・240, PL. 19・100・101)

G区南部に位置し50~52G2~4の範囲にある。96号住居跡の南西にある。他の遺構との重複はないが南壁

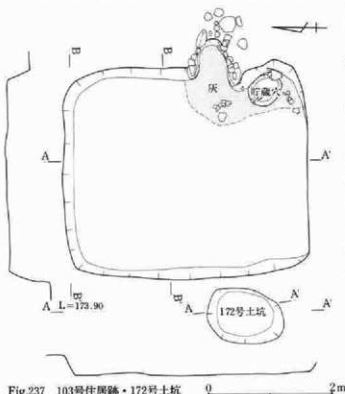
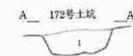


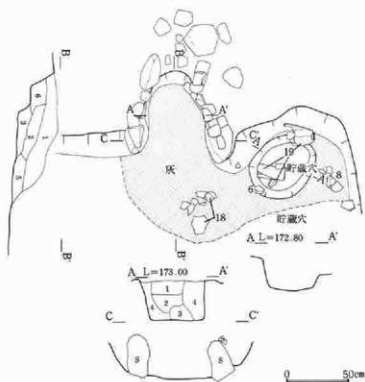
Fig.237 103号住居跡・172号土坑

は最近の擾乱を受け削平されており、検出されていない。規模は長辺推定で3.95m、短辺3.4mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約30cmを測り、西壁は高く約60cm~70cmを測る。主軸方位はN-86°-Eである。床面は平坦をなし、南東コーナーに貯蔵穴が検出された。規模は約70cm×50cm、深さ約10cmを測る。竈は東壁やや南寄りに検出された。袖幅約60cm、同長約70cmを測る。竈壁は石で補強されており、煙道部は確認されていないが燃焼部の先端部上に石が散乱した状態で検出された。



172号土坑

1 暗褐色土層 F A、焼土粒を含む



103号住居跡電

- | | | | |
|---------|--------------|---------|----------|
| 1 黒褐色土層 | FP、焼土を含む | 4 暗褐色土層 | 焼土を多量に含む |
| 2 暗褐色土層 | 焼土、炭化物を多量に含む | 5 暗褐色土層 | FP、FAを含む |
| 3 暗褐色土層 | 焼土、灰を多量に含む | 6 暗褐色土層 | 焼土を含む |

Fig.238 103号住居跡電

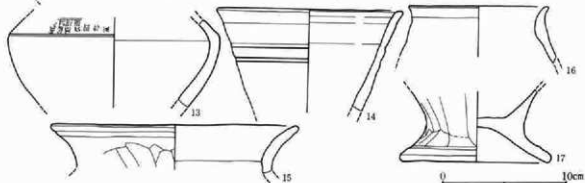
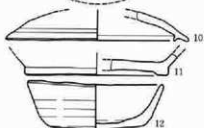
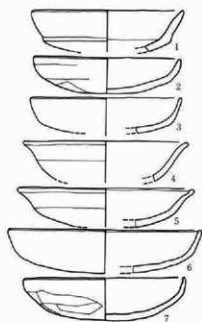


Fig.239 103号住居跡出土遺物1)

第2章 検出された遺構と遺物

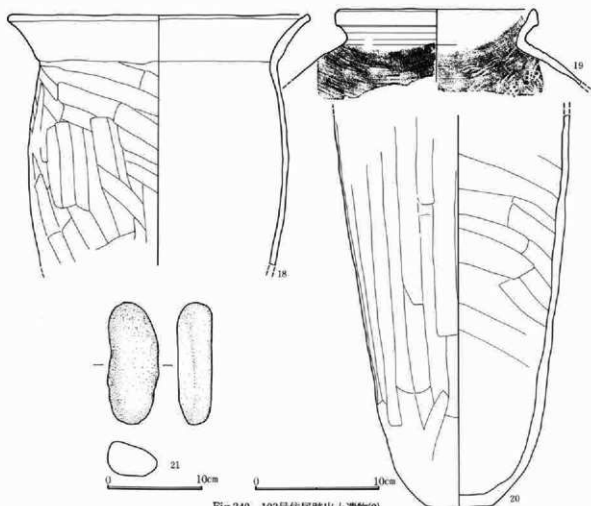


Fig.240 103号住居跡出土遺物(2)

第103号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器 種 器 形	計 測 値(cm)	出土位置	成 形 及 び 調 整 の 特 徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
239-1 100	土 師 器 坏	口-12.0	覆 土	口縁部ヨコナゲ体部ヘラケズリ口縁部稜をもち外傾する	①良好②褐色③細砂粒含む④破片
239-2 100	土 師 器 坏	口-11.6	覆 土	口縁部ヨコナゲ口縁部体部の間隔いナゲ体部ヘラケズリ内面ナゲ口縁部直立きみ	①良好②褐色③細砂粒含む④%残存
239-3 100	土 師 器 坏	口-12.0	覆 土	口縁部ヨコナゲ体部ヘラケズリ内面ナゲ口縁部弱く内湾する	①良好②褐色③細砂粒含む④破片
239-4 100	土 師 器 坏	口-13.0	覆 土	口縁部緩やかに外湾する	①良好②によい褐色③1~2mm砂粒含む④口縁部破片
239-5 100	土 師 器 坏	口-14.0	覆 土	口縁部ヨコナゲ体部ヘラケズリ内面ナゲ口縁部稜をもち外傾し端部内屈する	①良好②によい褐色③細砂粒含む④%残存
239-6 100	土 師 器 坏	口-15.2	No.6	口縁部ヨコナゲ口縁部体部の間隔いナゲ内面ナゲ	①良好②によい褐色③細砂粒含む④%残存
239-7 100	土 師 器 坏	口-12.8 高-3.35	覆 土	口縁部ヨコナゲ口縁部体部の間隔いナゲ体部ヘラケズリ内面ナゲ口縁部直立きみ	①良好②褐色③細砂粒含む④%残存
239-8 100	土 師 器 坏	口-12.6 高-3.6	No.8	口縁部ヨコナゲ体部ヘラケズリ内面ナゲ口縁部直立きみ	①良好②赤褐色③細砂粒含む④%残存
239-9 100	土 師 器 坏	口-12.0	覆 土	口縁部ヨコナゲ体部ヘラケズリ内面ナゲ口縁部直立きみ	①良好②褐色③細砂粒含む④%残存
239-10	須 恵 器 蓋	口-14.4	覆 土	外面回転ヘラ調整内面返りをもつ	①良好②灰色③密④底部破片
239-11 100	須 恵 器 坏		覆 土	付高台底部回転ヘラ調整	①良好②灰色③密④底部破片

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
239-12 100	須恵器 坏	口-10.7 高-4.25 底-7.6	覆土	底部回転ヘラ調整内外面自然軸口縁部直線状に外傾する	①良好②灰白色③密④片残存
239-13 160	須恵器 長頸壺		覆土	刺突文	①良好②灰色③密④破片
239-14 101	須恵器 長頸壺	口-14.8	覆土	外面沈線状の線が入る直線状に外傾し端部弱く外屈する	①良好②灰白色③密④片残存
239-15	土師器 壺	口-19.6	覆土	口縁部ココナデ割部ヘラズリ内面ナゲ口縁部外反する	①良好②灰褐色③細砂粒含む④口縁部破片
239-16 160	土師器 壺	口-11.0	覆土	外面ナゲ口縁部短く外傾する	①良好②褐色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
239-17 101	土師器 台付壺	脚底-11.5	覆土	外面ヘラズリ内面ナゲ台部への字状に開く	①良好②濃い赤褐色③細砂粒含む④底部残存
240-18 101	土師器 壺	口-23.6	No.18	口縁部ココナデ割部ヘラズリ内面ナゲ口縁部外反する	①良好②に濃い褐色③細砂粒含む④片残存
240-19 101	須恵器 壺	口-15.6	No.19	口縁部外反し端部直立ぎみ	①良好②灰白色③細砂粒含む④密⑤口縁部破片
240-20 101	土師器 長壺	底-5.0	覆土	外面ヘラズリ内面ヘラナゲ	①良好②濃い褐色③2~3mm砂粒含む④下半部残存

Fig. 240-21 PL. 101 石 長-13.0cm 幅-3.6cm 厚-3.4cm 粗粒安山岩

104号住居跡 (Fig. 241・242・243, PL. 19・101)

G区西部に位置し54~57G26~28の範囲にある。111号住居跡の北にある。他の遺構との重複は北東部で113号住居跡と重複し、新旧関係は104号住居跡が新しい。規模は長辺5.3m、短辺3.8mを測り、平面形態は隅丸

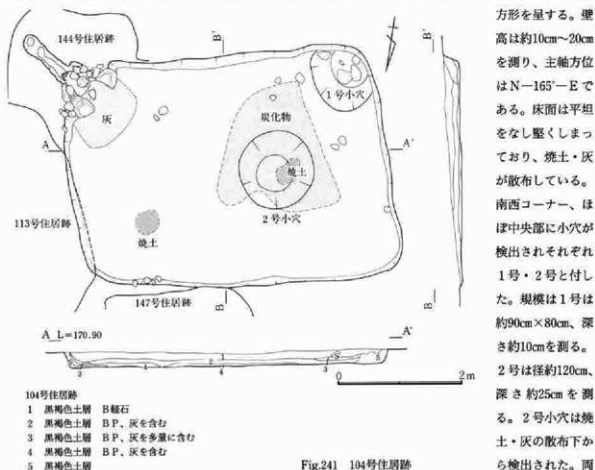


Fig.241 104号住居跡

第2章 検出された遺構と遺物

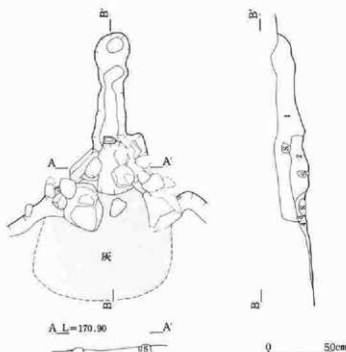


Fig. 242 104号住居跡遺構

第104号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器物 器形	計測 規模(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④灰存
243-1 101	須恵器 埴	底-9.1	覆土	高台部への字状に開く	①良好②によい③褐色④細砂 灰を含む⑤高台部破片

105号住居跡

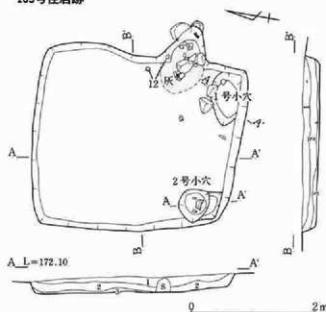


Fig. 244 105号住居跡

小穴覆土内から浅間山B軽石が検出されている。また当住居跡覆土は床面上まで浅間山B軽石層に覆われ、軽石層間には純堆積層に見られるピンクの灰層が確認されている。竈は南東コーナーに検出された。規模は袖幅約80cm、燃焼部長約40cm、煙道部長約110cmを測る。袖部には石が検出された。

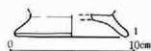


Fig. 243 104号住居跡出土遺物

104号住居跡遺

- 1 黒褐色土層 B軽石、焼土を少量含む
- 2 黒褐色土層 B軽石、焼土、炭化物を含む
- 3 黒褐色土層 B軽石 灰を含む
- 4 黒褐色土層 B軽石、焼土、灰を含む

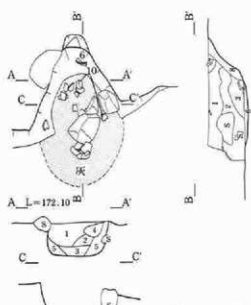
(Fig. 244・245・246・247, PL. 20・101・102)

G区西部に位置し57・58G15・16の範囲にある。97号住居跡の西にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺3.35m、短辺3mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約20cm~25cmを測り、主軸方位はN-87°-Eである。床面は平坦をなし、南西コーナーに小穴が検出された。規模は約70cm×60cm、深さ約30cm~40cmを測る。竈手前に貯蔵穴と思われる小穴が検出され、規模は約70cm×60cm、深さ約10cmを測る。壁周溝等の諸施設は検出されていない。竈は東壁やや南寄りに検出さ

105号住居跡

- 1 暗褐色土層 FPを含む
- 2 暗褐色土層 FP、FAを含む
- 3 暗褐色土層 FAブロックを含む

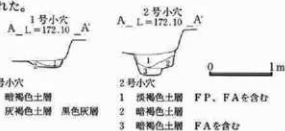
れた。規模は燃焼部幅約60cm、同長約70cmである。竪の右袖部には構築材の石が検出され、燃焼部中央からも石が検出された。



105号住居跡竪

- 1 暗褐色土層 FP少量含む
- 2 暗褐色土層
- 3 暗褐色土層 焼土、FAを含む
- 4 暗褐色土層
- 5 暗褐色土層 焼土を多量に含む
- 6 灰層
- 7 焼土ブロック
- 8 暗褐色土層 焼土を含む

Fig.245 105号住居跡竪・小穴



1号小穴

- 1 暗褐色土層
- 2 灰褐色土層 黒色灰層

2号小穴

- 1 淡褐色土層 FP、FAを含む
- 2 暗褐色土層
- 3 暗褐色土層 FAを含む

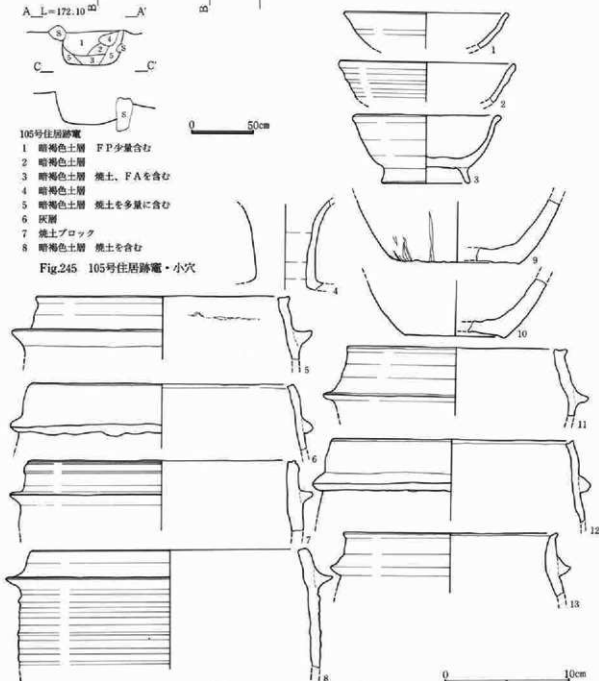


Fig.246 105号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物

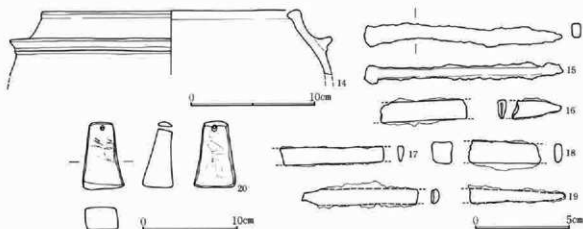


Fig.247 105号住居跡出土遺物(2)

第105号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器 形 名	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①構成 ②色調 ③胎土 ④残存
246-1 101	須恵器 埴	口-13.0	覆土	口縁部内湾ぎみに立ち上がる	①良好②灰白色③密④破片
246-2	須恵器 埴	口-14.0	覆土	口縁部直線状に外傾する	①良好②灰白色③密④破片
246-3 101	土師器 埴	口-11.8 高-5.4 底-7.0	覆土	付高台口縁部内湾して立ち上がり端部外傾し屈曲する	①良好②褐色③細砂粒含む ④底部残存
246-4 101	須恵器 壺		小穴覆土	内外面軸口縁部緩やかに外反して開く	①良好②灰白色③細砂粒含む ④密④破片
246-5 101	羽蓋	口-20.2	覆覆土	脚上を向く内面接合痕残す口縁部内傾する	①良好②褐色③1~2mmの 砂粒含む④口縁部破片
246-6 101	羽蓋	口-20.8	No.6	脚ゆがみ下を向く口縁部内傾する	①良好②浅黄色③1~2mm の砂粒含む④口縁部破片
246-7 101	羽蓋	口-21.1	覆覆土	脚横を向く口縁部直立ちみ外面端部に沈線状返る	①良好②浅黄色③1~2 mmの砂粒含む④口縁部破片
246-8 101	羽蓋	口-21.6	小穴覆土	脚上を向く口縁部内傾する	①良好②灰色③2~3mmの 砂粒含む④口縁部残存
246-9 101	土師器 壺	高-9.9	覆覆土		①良好②にぶい褐色③細砂 粒含む④底部破片
246-10 101	土師器 壺	高-7.8	No.10		①良好②にぶい褐色③1 ~2mm砂粒含む④底部破片
246-11 102	羽蓋	口-17.3	覆覆土	脚横を向く口縁部内傾する	①良好②浅黄褐色③細砂粒 含む④口縁部残存
246-12 102	羽蓋	口-19.0	No.12	脚低く下を向く口縁部内湾する	①良好②にぶい褐色③細砂 粒含む④口縁部破片
246-13 102	羽蓋	口-17.0	覆土	脚低く下を向く脚から下は外湾する口縁部直立ちみ端部外反する	①良好②にぶい褐色③細砂 粒含む④口縁部破片
247-14 102	羽蓋	口-20.5	覆土	脚上を向く口縁部内傾する	①良好②にぶい赤褐色③1 ~2mm砂粒含む④口縁部破片
Fig. 247-15 PL. 102	鉄製品	長-10.4cm 厚-5mm	角釘		
Fig. 247-16 PL. 102	鉄製品	長-8.0cm 厚-1mm	刀子		
Fig. 247-17 PL. 102	鉄製品	長-5.5cm 厚-3mm	刀子		
Fig. 247-18 PL. 102	鉄製品	長-3.9cm 厚-11mm	不明		
Fig. 247-19 PL. 102	鉄製品	長-11.1cm 厚-4mm	刀子?		
Fig. 247-20 PL. 102	石	長-7.0cm 幅-4.4cm 厚-3.2cm	砥石	流紋岩(砥石)	

106号住居跡 (Fig. 248・249, PL. 20・102)

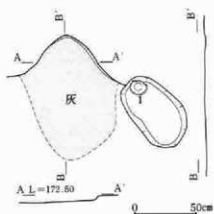
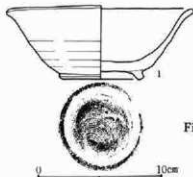


Fig.248 106号住居跡竈

G区南部に位置し42G 7・8の範囲にある。101号住居跡の北西にある。他の遺構との重複はなく、住居跡のプラン等は不明である。竈のみが検出された。規模は燃焼幅約80cm、同長約50cmを測る。竈右手前に小穴が検出され須恵器が出土した。

Fig.249 106号住居跡
出土遺物

第106号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
249-1 102	須恵器 埴	口-14.7 高-5.8 底-6.7	No.1	付高台底部回転切削口縁端部外反する	①良好②灰白色③2~3mm の砂粒含む④残存

107号住居跡 (Fig. 250・251・252・253・254, PL. 20・102・103・104)

G区南部に位置し44~47G 9~11の範囲にある。99号住居跡の北にある。他の遺構との重複は南西部を102号住居跡と重複する。新旧関係は102号住居跡が新しい。規模は長辺4.9m、短辺4.1mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約40cm~45cmを測り、主軸方位はN-14°-Wである。床面は平坦をなし、石・炭化物

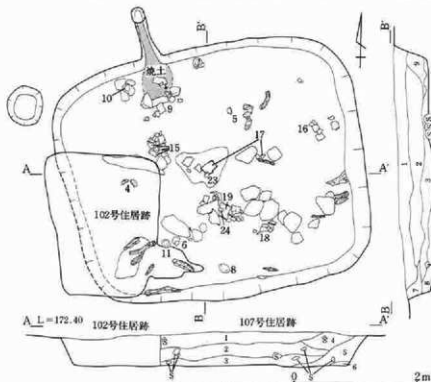


Fig.250 107号住居跡

物等が散乱した状態で検出された。貯蔵穴・壁周溝等の諸施設は検出されていない。竈は北壁西寄りに検出された。規模は袖幅約50cm、燃焼部長約20cmを測り、煙道部長は約90cmを測る。竈の燃焼部は壁から床内に構築さ

107号住居跡

- 1 黒褐色土層 FP多量に含む
- 2 黒褐色土層 FAを含む
- 3 暗褐色土層 炭化物、FAを含む
- 4 暗褐色土層
- 5 淡褐色土層 FAを含む
- 6 淡褐色土層 炭化物を多量に含む
- 7 暗褐色土層 FP、FAを含む
- 8 暗褐色土層 FP、FA、炭化物を含む
- 9 淡褐色土層 炭化物を含む

第2章 検出された遺構と遺物

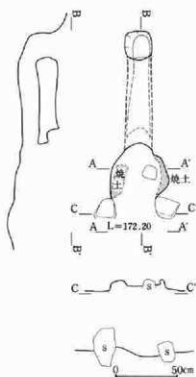


Fig.251 107号住居跡竈

れ、両袖部には石が検出された。また燃焼部の先の煙道部には天井部が遺存した状態で検出された。

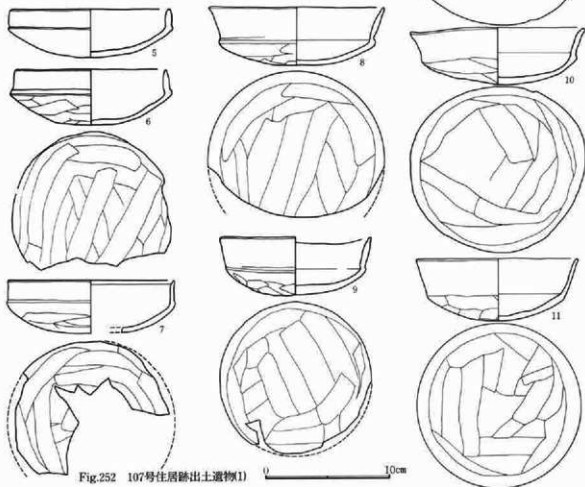
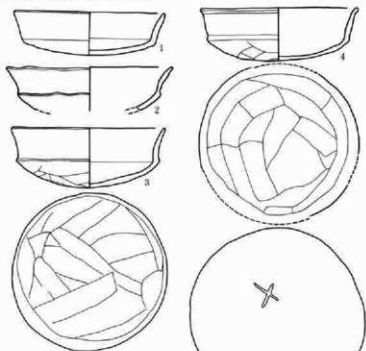


Fig.252 107号住居跡出土遺物(1)

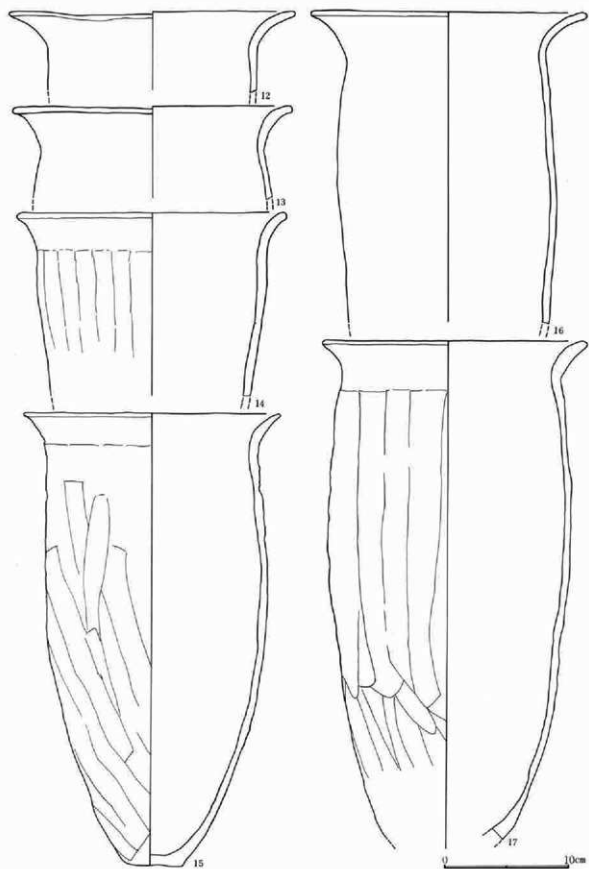


Fig.253 107号住居跡出土遺物(2)

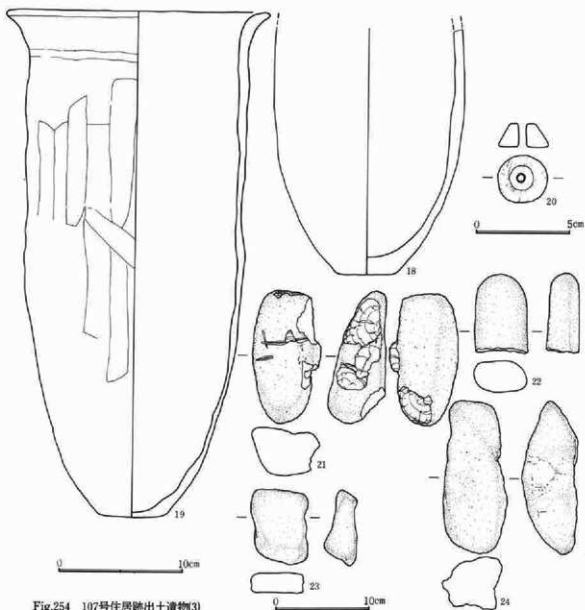


Fig.254 107号住居跡出土遺物(3)

第107号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②胎土	③色調 ④残存
252-1 102	土師器 坏	口-11.8 高-3.4	覆土	口縁部ココナダ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部稜をもち外傾する	①良好	②明褐色③細砂粒含む④片残存
252-2 102	土師器 坏	口-13.2	覆土	口縁部ココナダ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部稜をもち外反する	①良好	②褐色③細砂粒含む④口縁部片残存
252-3 102	土師器 坏	口-12.2	覆土	口縁部ココナダ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部稜をもち外傾する	①良好	②明褐色③細砂粒含む④完形
252-4 102	土師器 坏	口-12.6 高-4.1	No 4	口縁部ココナダ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部稜をもち外傾する端部外傾する	①良好	②明褐色③細砂粒含む④ほぼ完形
252-5 102	土師器 坏	口-12.5	No 5	口縁部ココナダ体部ヘラケズリ表面磨減して不明瞭内面ナデ口縁部稜をもち直立のみ	①良好	②にぶい赤褐色③細砂粒含む④片残存
252-6 102	土師器 坏	口-12.0	No 6	口縁部ココナダ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部稜をもち内傾する	①良好	②にぶい褐色③細砂粒含む④片残存
252-7 102	土師器 坏	口-13.2	覆土	口縁部ココナダ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部稜をもち直立する	①良好	②褐色③細砂粒含む④片残存

Fig. No PL. No	器 種 形	計 測 値(cm)	出土位置	成 形 及 び 調 整 の 特 徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
252-8 102	土 師 器 杯	口-14.0 高-4.6 底-4.0	No.8	口縁部ヨコナガ体部ヘラケズリ内面ナゲ口縁部横 をもち外傾する	①良好②明褐色③細砂粒含 む④残存
252-9 102	土 師 器 杯	口-12.0 高-4.5	No.9	口縁部ヨコナガ体部ヘラケズリ内面ナゲ口縁部横 をもち外傾する	①良好②明褐色③細砂粒含 む④残存
252-10 102	土 師 器 杯	口-13.7 高-4.2	No.10	口縁部ヨコナガ体部ヘラケズリ内面ナゲ内面に× 印へら痕あり	①良好②明褐色③細砂粒含 む④成形
252-11 102	土 師 器 杯	口-12.8 高-4.9 底-2.0	No.11	口縁部ヨコナガ体部ヘラケズリ内面ナゲ口縁部横 をもち外傾する	①良好②褐色③細砂粒含 む④成形
253-12 104	土 師 器 壺	口-22.6	覆 土	口縁部ヨコナガ胴部ヘラケズリ内面ナゲ口縁部外 反する	①良好②にぶい褐色③1 ~2mmの砂粒含む④残存
253-13 103	土 師 器 壺	口-22.0	覆 土	口縁部ヨコナガ胴部ヘラケズリ内面ナゲ口縁部外 反する	①良好②にぶい褐色③1 ~2mmの砂粒含む④破片
253-14 103	土 師 器 壺	口-21.4	覆 土	口縁部ヨコナガ胴部ヘラケズリ内面ナゲ口縁部外 反する	①良好②にぶい褐色③2 ~3mmの砂粒含む④破片
253-15 103	土 師 器 壺	口-20.3 高-35.6 底-4.5	No.15	口縁部ヨコナガ胴部ヘラケズリ内面ナゲ	①良好②褐色③2~3mmの 砂粒含む④ほぼ成形
253-16 103	土 師 器 壺	口-21.8	No.16	口縁部ヨコナガ胴部ヘラケズリ磨滅して不明瞭 内面ナゲ口縁部外反する	①やや軟質②にぶい褐色③1 ~2mm砂粒含む④上部部残存
253-17 103	土 師 器 壺	口-21.0	No.17	口縁部ヨコナガ胴部ヘラケズリ内面ナゲ	①良好②赤褐色③1~2mm の砂粒含む④残存
254-18 104	土 師 器 壺	底-4.0	No.18	外面ヘラケズリ磨滅して不明瞭	①良好②にぶい褐色③2 ~3mm砂粒含む④底部破片
254-19 104	土 師 器 壺	口-20.7 高-50.0 底-5.0	No.19	口縁部ヨコナガ胴部ヘラケズリ内面ナゲ	①良好②赤褐色③2~3mm の砂粒含む④底部欠損
Fig. 254-20 PL. 103		石 長-3.9cm 高-1.9cm	破 断 車		
Fig. 254-21 PL. 103		石 長-14.6cm 幅-7.25cm 厚-5.8cm	粗粒安山岩		
Fig. 254-22 PL. 103		石 長-1.6cm 幅-6.8cm 厚-5.6cm	粗粒安山岩		
Fig. 254-23 PL. 103		石 長-7.9cm 幅-6.1cm 厚-3.45cm	粗粒安山岩		
Fig. 254-24 PL. 103		石 長-8.0cm 幅-3.2cm 厚-4.0cm	石英閃緑岩		

108号住居跡 (Fig. 255・256・257, PL. 20・21・104)

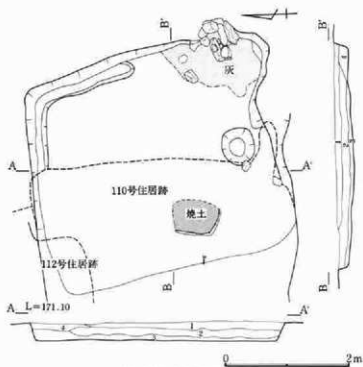


Fig.255 108号住居跡

G区北西部に位置し51・52G24~26の範囲にある。114号住居跡の北にある。他の遺構との重複は東部を109号、西部を110号住居跡と重複している。新旧関係はこの2住居跡より新しい。規模は長辺4.1m、短辺3.5mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約20cm~30cmを測り、主軸方位はN-83°-Eである。床面は平坦をなし、西南部には床面より約5cmの厚さで焼土・灰が集中して検出された。貯蔵穴は検出されていないが北東コーナーに周溝

108号住居跡

- 1 暗褐色土層 F.A.を含む
- 2 黒褐色土層 F.A.、焼土、炭化物を含む
- 3 黒褐色土層 炭化物、灰を含む
- 4 暗褐色土層

第2章 検出された遺構と遺物

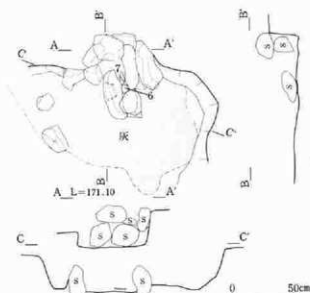


Fig.256 108号住居跡電

が検出された。幅約20cm、深さは床面から約5cm～6cmを測る。南壁際に小穴が検出され、規模は約60cm×50cm、深さ約20cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。袖幅約80cm、燃焼部長約50cmを測る。竈は輪郭を囲むように大型の石が配されており、火を受けた痕跡がみられ壁材の可能性もある。

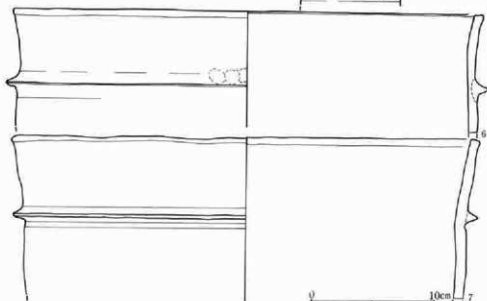
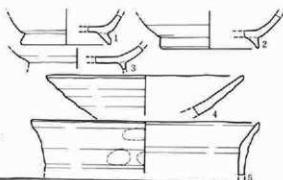


Fig.257 108号住居跡出土遺物

第108号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②胎土 ③胎色 ④残存
257-1 104	須恵器 埴 埴	口-7.0	覆土	付高台	①良好②灰色③磨④破片
257-2 104	須恵器 埴 埴	底-7.6	覆土	付高台	①良好②灰白色③細砂粒含む④破片
257-3 104	須恵器 埴 埴		小穴覆土	付高台底部回転糸切	①良好②灰白色③細砂粒含む④破片
257-4 104	須恵器 埴 埴	口-15.6	覆土	口縁部直縁状に外傾する	①良好②によい褐色③細砂粒含む④口縁部破片
257-5 104	土師器 甕	口-18.0	覆土	口縁部ヨコナデ指頭痕口縁部外反する	①良好②赤褐色③細砂粒含む④口縁部破片
257-6 104	瓶	口-36.9	No.6	やや薄く外傾する	①良好②によい赤褐色③1～2mm砂粒含む④口縁部破片
257-7 104	瓶	口-37.0	No.7	口縁部外傾する	①良好②黒褐色③1～2mmの砂粒含む④口縁部破片

109号住居跡 (Fig. 258・259, PL. 21・104・105)

G区北西部に位置し49~51G24・25の範囲にある。114号住居跡の北にある。他の遺構との重複は西部で108号住居跡と重複している。新旧関係は109号住居跡が古い。規模は長辺3.2m、短辺2.9mを測り、平面形態は

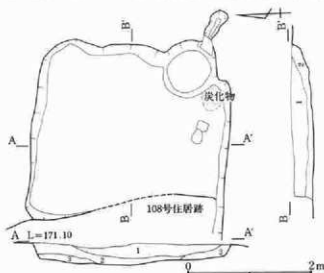


Fig.258 109号住居跡

隅丸方形を呈する。壁高は約20cm~30cmを測り、主軸方位はN-90°-Eである。床面は平坦をなし、貯蔵穴・壁周溝等の諸施設は検出されていない。竈は南東コーナーに検出された。竈の主軸は住居跡の主軸方位からやや南にずれN-122°-Eである。規模は燃焼部幅約110cm、同長約50cm、煙道部長約70cmを測る。燃焼部から煙道部にかけて段を有し天井部が一部残存し人頭大の石が天井部に検出された。

- 109号住居跡
 1 暗褐色土層
 2 暗褐色土層 炭化物を含む
 3 暗褐色土層 FAを含む

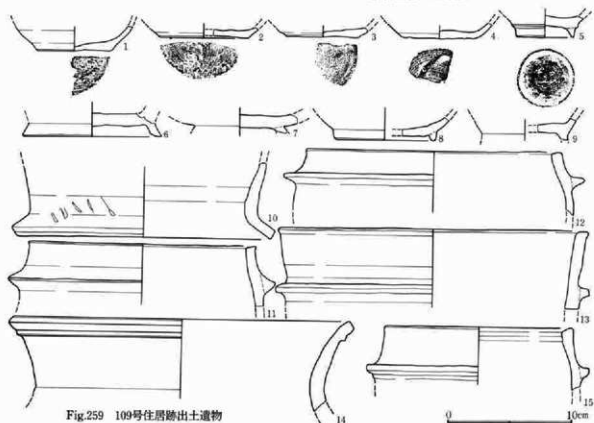


Fig.259 109号住居跡出土遺物

第109号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ③胎土 ④残存
259-1 104	須恵器 坏	底-6.0	覆土	底部回転糸切	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④底部破片

第2章 検出された遺構と遺物

Fig. No PL. No	器 種 器 形	計 画 値 (cm)	出土位置	成 形 及 び 調 整 の 特 徴	①構成 ②色調 ③胎土 ④残存
259-2 104	須恵器 坏	底-7.0	覆土	底部回転糸切右廻り	①良好②灰白色③細砂粒含むが密④底部破片
259-3 104	須恵器 坏	底-6.0	覆土	底部回転糸切	①良好②灰色③密④底部破片
259-4 104	須恵器 坏	底-5.5	覆土	底部回転糸切	①良好②灰白色③細砂粒含む④底部破片
259-5 104	須恵器 埴	底-4.5	覆土	付高台内面中心に突起が残る	①良好②淡褐色③1~2mmの砂粒含む④底部残存
259-6 104	須恵器 兵・短頸壺	底-11.0	覆土	付高台	①良好②灰色③密④高台部破片
259-7 104	須恵器 兵・短頸壺	底-7.4	覆土	付高台	①良好②灰色③密④底部破片
259-8 104	灰釉陶器 坏	底-8.0	覆土	付高台底部回転調整	①良好②灰白色③密④底部破片
259-9 104	須恵器 坏		覆土	付高台	①良好②灰白色③細砂粒含む④底部破片
259-10 105	甗	底-20.0	覆土	底部周辺へう痕底部くの字状に外反する	①良好②赤褐色③2~3mmの砂粒含む④底部破片
259-11 104	羽釜	口-18.0	覆土	脚低く横を向く口縁部内傾する	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
259-12 104	羽釜	口-20.0	覆土	脚低くやや上を向く口縁部内傾する	①良好②よい白色③1~2mm砂粒含む④口縁部破片
259-13 105	羽釜	口-25.0	覆土	脚横を向く口縁部やや外傾し甗の可能性あり	①良好②灰白色③細砂粒含む④口縁部破片
259-14 105	須恵器 壺	口-27.2	覆土	口縁部折り返し縁を持ち外湾する	①良好②灰白色③2~3mmの砂粒含む④口縁部破片
259-15 105	羽釜	口-15.0	覆土	脚低くやや上を向く口縁部内傾する	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片

110号住居跡 (Fig. 260・261・262, PL. 21・105)

G区北西部に位置し51~53G24~26の範囲にある。114号住居跡の北にある。他の遺構との重複関係は東部で108号住居跡、西部で111号住居跡、北部を112号住居跡と重複している。新旧関係は108号住居跡より旧く、111・112号住居跡より新しい。規模は長辺4.2m、短辺3.7mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約



Fig.260 110号住居跡

第1節 竪穴住居跡

石が検出された。竪
長軸は住居跡主軸方
位からやや南にふ
れ、N-108°-Eで
ある。

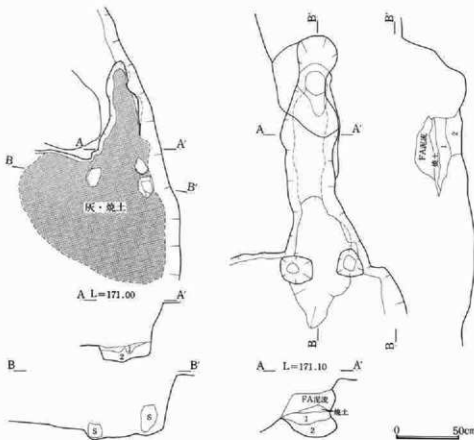


Fig.261 110号住居跡竪

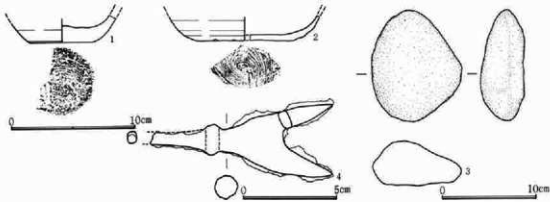


Fig.262 110号住居跡出土遺物

第110号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器 影	計 測 値(cm)	出土位置	成 形 及 び 測 量 の 特 徴	①焼成 ③胎土	②色調 ④残存
262-1 105	須置器 坏	底-4.8	覆土	底部回転糸切	①良好②灰色③1~2mmの 砂粒含む④底部残存	
262-2 105	須置器 坏	底-7.5	覆土	底部回転糸切右廻り	①良好②灰色③④底部残存	
Fig. 262-3	PL. 105	石 長-11.8cm	幅-4.7cm	厚-4.6cm	粗粒安山岩	
Fig. 262-4	PL. 105	鉄製品 長-9.8cm	厚-5~10mm	鉄		

第2章 検出された遺構と遺物

111号住居跡 (Fig. 263・264, PL. 21・105)

G区北西部に位置し53・54G24～26の範囲にある。121号住居跡の北西にある。他の遺構との関係は東半部を110・112号住居跡と重複している。新旧関係は両住居跡より古い。また北西部で当住居跡より新しい216号土坑と重複している。壁高は約20

cm～30cmを測る。このため明確なプランは確認されていない。床面は平坦をなし、人頭大の石が多数散乱した状態で検出された。壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は検出されていない。

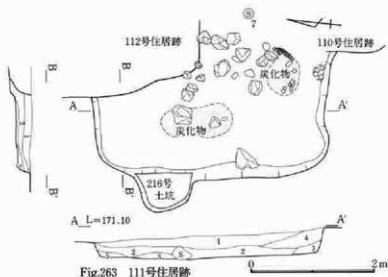


Fig.263 111号住居跡

111号住居跡

- 1 暗褐色土層 FFを含む
- 2 暗褐色土層 FA、灰化物を含む
- 3 暗褐色土層
- 4 暗褐色土層 FAを含む
- 5 暗褐色土層 FA多量を含む



Fig.264 111号住居跡出土遺物

第111号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	遺物 形態	計測値(m)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ③胎土	②色調 ④残存
264-1 105	須恵器 坏	底-7.8	覆土	底部回転糸切右廻り		①良好②灰白色③密④底部 片残存
264-2 105	須恵器 坏	底-6.0	覆土	底部回転糸切		①良好②灰白色③密砂粒含む ④破片
264-3 105	須恵器 坏	口-12.9 高-3.2 底-3.6	覆土	底部回転糸切口縁部内湾ぎみに立ちあがる		①良好②にぶい黄褐色③細 砂粒含む④破片
264-4 105	須恵器 坏	底-5.9	覆土	付高台底部回転糸切		①良好②灰白色③密砂粒含む ④片残存
264-5 105	須恵器 坏	底-7.9	覆土	付高台底部回転糸切		①良好②灰白色③密④底部 片残存
264-6 105	須恵器 坏	口-12.0	覆土	口縁部外反する		①良好②灰白色③密砂粒含む ④破片
264-7 105	須恵器 坏	口-15.4 高-5.6 底-8.5	No.7	付高台底部糸切高台付回転調整沈状に残る		①良好②にぶい褐色③1 ~2mm砂粒含む④ほぼ完形
264-8 105	須恵器 坏	口-13.3 高-4.5 底-6.8	覆土	付高台口縁部弱く内湾ぎみに立ちあがる		①良好②にぶい褐色③2 ~3mmの砂粒含む④片残存
264-9 105	須恵器 罍	底-6.5	覆土	外面へラ痕		①良好②にぶい褐色③1 ~2mm砂粒含む④底部破片
264-10 105	灰釉陶器 皿	口-19.0	覆土	内外面輪口縁部外側へ曲する		①良好②灰白色③密④口縁 部片残存
264-11 105	土師器 钵	口-13.0	覆土	口縁部内外面ココナデ口縁部外反する		①良好②にぶい赤褐色③細 砂粒含む④口縁部破片
264-12 105	須恵器 罍	口-14.9	覆土	縦線成形胴上部ヘラケズリ口縁部外反する		①良好②灰白色③2~3mm の砂粒含む④口縁部片残存
264-13 105	土師器 罍	口-21.0	覆土	口縁部ココナデ胴上部ヘラケズリ内面ナデ口縁部 外反する		①良好②にぶい赤褐色③細 砂粒含む④口縁部破片
264-14 105	土師器 罍	口-20.0	覆土	口縁部ココナデ胴上部ヘラケズリ内面ナデ口縁部 外反する		①良好②赤褐色③1~2mm の砂粒含む④口縁部片残存
264-15 105	羽釜	口-20.8	覆土	筒長くやや上を向く口縁部内湾する		①良好②灰色③1~2mm の砂粒含む④口縁部破片

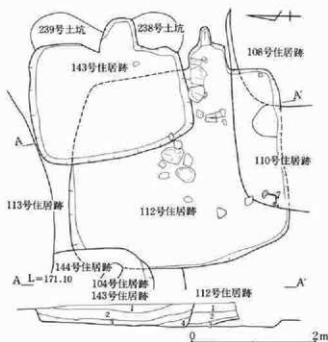
112号住居跡 (Fig. 265・266・268・269, PL. 21・22・105・106)

G区北西部に位置し52~54G25~27の範囲にある。108号住居跡の北にある。他の遺構との関係は南部で110・111号住居跡、北東部で143号住居跡、北西部で144号住居跡と重複している。新旧関係は110・111・144・143号住居跡より古い。住居跡のプランは明確ではないが規模は東西長約3.1m、南北長約3.5mを測る。縦長軸方位はN-82°-Eである。壁高は約5cm~10cmを測る。床面は平坦をなし壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約60cm、同長約50cm、煙道部長約20cmを測る。床面上には人頭大の石が散乱した状態で検出された。

143号住居跡 (Fig. 265・267・270, PL. 22・28・119)

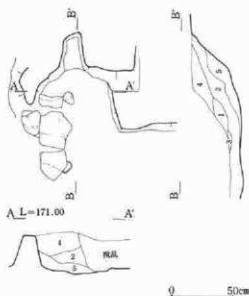
G区北西部に位置し52・53G26・27の範囲にある。108号住居跡の北にあり、他の遺構との関係は南西部を112号住居跡と重複している。新旧関係は143号住居跡が新しい。また238・239号土坑と重複し当住居跡が新しい。規模は長辺2.65m、短辺1.9mを測り、主軸方位はN-88°-Eである。壁高は北壁で約20cmを測る。床面は平坦をなし、貯蔵穴・壁周溝等の諸施設は検出されていない。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約50cm、同長約60cmを測る。

第2章 検出された遺構と遺物



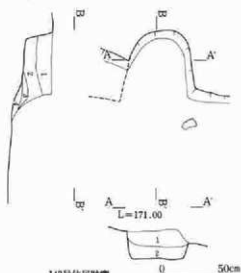
- 112号住居跡
- 1 暗褐色土層 F Pを少量含む
 - 2 暗褐色土層 F Pを少量含む
 - 3 暗褐色土層 炭化物を含む
- 143号住居跡
- 1 暗褐色土層 F P、FAブロックを含む
 - 2 暗褐色土層 FAブロックを多量に含む
 - 3 暗褐色土層 FAブロックを少量含む
 - 4 暗褐色土層 黒色土を含む

Fig.265 112・143号住居跡



- 112号住居跡竈
- 1 暗褐色土層 炭化物を少量含む
 - 2 暗褐色土層 焼土、炭化物を含む
 - 3 黒色灰層 珪酸体を含む
 - 4 黒褐色土層
 - 5 暗褐色土層 焼土、炭化物を多量に含む

Fig.266 112号住居跡竈



- 143号住居跡竈
- 1 暗褐色土層 FA、FPを含む
 - 2 暗褐色土層
 - 3 暗褐色土層 FAを含む
 - 4 暗褐色土層 FA、焼土を含む

Fig.267 143号住居跡竈

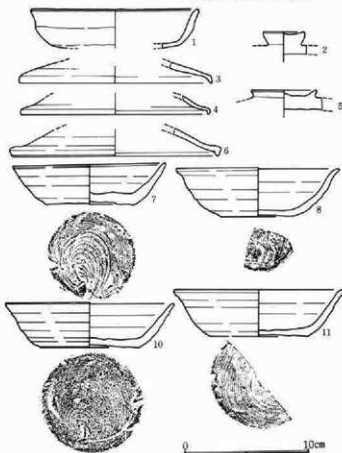


Fig.268 112号住居跡出土遺物(1)

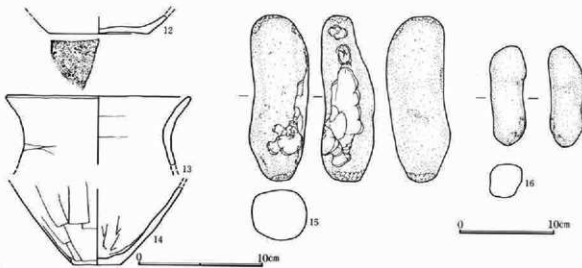


Fig.269 112号住居跡出土遺物(2)

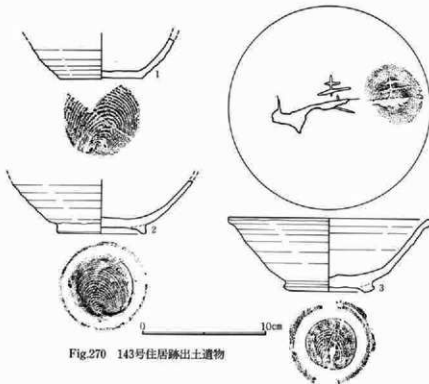


Fig.270 143号住居跡出土遺物

第112号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
268-1 105	土師器 坏	口-13.2	覆土	口縁部ココナダ体部弱いナダ底部ヘラケズリ内面 ナダ口縁部縁をもち外湾する	①良好②赤褐色③細砂粒含 む④口縁部破片
268-2 105	須恵器 蓋	つまみ径-3.4	覆土		①良好②灰白色③細砂粒含 む④つまみ部残存
268-3 105	須恵器 蓋	口-15.2	覆土		①良好②灰色③密④破片
268-4 105	須恵器 蓋	口-15.0	覆土		①良好②灰色③密④破片
268-5 105	須恵器 蓋	つまみ径-5.2	覆土		①良好②灰白色③細砂粒含 む④つまみ部残存

第2章 検出された遺構と遺物

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②胎土	③色調 ④残存
268-6 105	須恵器 蓋	口-16.4	覆土	外面回転ヘラ調整	①良好②灰色③	①1~2mmの 砂粒含む④破片
268-7 106	須恵器 坏	口-12.2 高-3.2 底-7.0	No.7	底部回転糸切口縁部直線状に外傾する	①良好②灰色③	①細砂粒含む ④瓦残存
268-8 106	須恵器 坏	口-12.9 高-3.8 底-5.8	覆土	底部回転糸切口縁部内湾して立ちあがり端部外反する	①良好②灰色③	①1~2mmの 砂粒含む④瓦残存
268-9 106	須恵器 坏	底-8.0	覆土	底部回転糸切	①良好②灰白色③	①細砂粒含む ④底部破片
268-10 106	須恵器 坏	口-13.5 高-3.5 底-8.0	小穴覆土	底部回転糸切口右側り口縁部直線状に外傾する	①良好②灰色③	①1~2mmの 砂粒含む④瓦残存
268-11 106	須恵器 坏	口-13.6 高-3.65 底-7.8	覆土	底部回転糸切口縁部外反する	①良好②灰白色③	①細砂粒含む ④瓦残存
269-12 106	須恵器 坏	底-7.8	覆土	底部回転糸切	①良好②灰色③	①3~4mmの 砂粒含む④底部破片
269-13 106	土部器 壁	口-14.6	覆土	口縁部内外面ヨコナゲ口縁部外反する	①良好②赤褐色③	①細砂粒含む ④口縁部破片
269-14 106	土部器 片鏝	底-3.8	覆土	外面ヘラケズリ内面ナデ底部ヘラ痕	①良好②黒褐色③	①細砂粒含む ④底部瓦残存
Fig. 269-15 PL. 106	石	長-17.5cm 幅-6.4cm 厚-5.35cm	輝綠岩			
Fig. 269-16 PL. 106	石	長-10.6cm 幅-3.4cm 厚-3.6cm				

第143号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②胎土	③色調 ④残存
270-1 119	須恵器 坏	底-6.6	覆土	底部回転糸切	①良好②灰色③	①細砂粒含む ④底部残存
270-2 119	須恵器 埴	底-7.0	覆土	付高台底部回転糸切	①良好②灰色③	①細砂粒含む ④瓦残存
270-3 119	須恵器 埴	口-16.2 高-5.8 底-5.8	覆土	付高台底部回転糸切内外面煤等により黒色	①良好②胎土灰色③	①細砂粒含む ④瓦残存

113号住居跡 (Fig. 271・272, PL. 22・106)

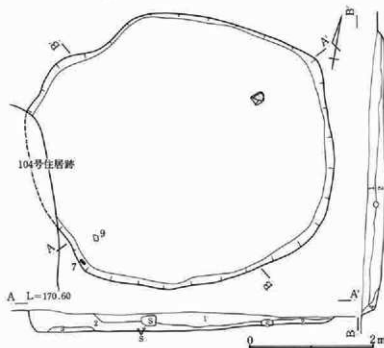


Fig.271 113号住居跡

G区北西部に位置し52~55G 27~29の範囲にある。108号住居跡の北にあり、他の遺構との関係は南西部で104号住居跡と重複している。新旧関係は104号住居跡が新しい。規模は東西約5m、南北約4.3mを測り平面形態は楕円形を呈する。壁高は約20cmを測り、床面は西に向い約20cm高くなる。壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は検出されていない。

113号住居跡

- 1 暗褐色土層 FP、FAを含む
- 2 暗褐色土層 FA、炭化物を含む
- 3 黒褐色土層 FAブロックを含む
- 4 暗褐色土層 FAブロックを多量に含む

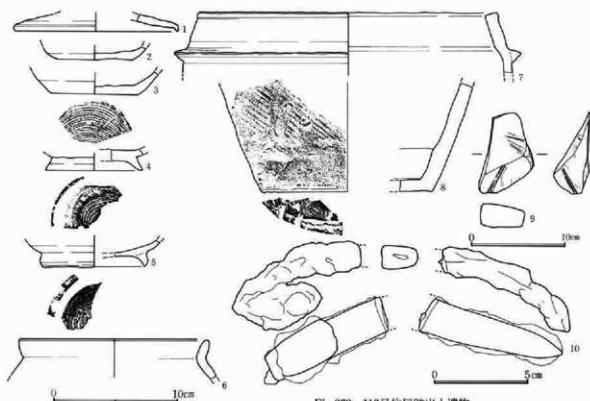


Fig.272 113号住居跡出土遺物

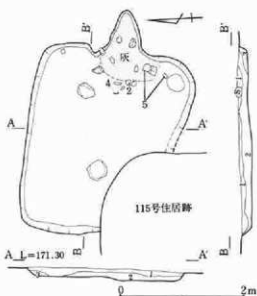
第113号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①構成 ②胎土 ③底土 ④残存
272-1 106	須恵器 蓋	口-13.0	覆土	外面回転へラ調整	①良好②灰白色③細砂粒含む④破片
272-2 106	須恵器 坏	底-6.0	覆土	底部回転糸切	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④底部破片
272-3 106	須恵器 坏	底-7.0	覆土	底部回転糸切	①良好②灰白色③滑④底部 ×残存
272-4 106	須恵器 埴	底-7.5	覆土	付高台底部回転糸切	①良好②褐色③細砂粒含む④底部破片
272-5 106	灰輪陶器 埴	底-8.0	覆土	付高台底部回転調整内外面輪	①良好②灰色③滑④底部破片
272-6 106	須恵器 甕	口-15.0	覆土	口縁部短く外反する	①良好②褐色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
272-7 106	羽釜	口-23.6	No.7	脚横を向く口縁部横を向く	①良好②褐色③細砂粒含む④口縁部破片
272-8 106	須恵器 甕	底-13.6	覆土	外面印目	①良好②灰色③滑④底部破片
Fig. 272-9 PL.106	石	長-8.6cm 幅-3.0cm 厚-2.5cm	砥石	波紋付(砥沢)	
Fig. 272-10 PL.106	鉄製品	長-18.6cm 厚-12mm	(大型品)	不明	

114号住居跡 (Fig. 273・274・275・276, PL. 22・106・107)

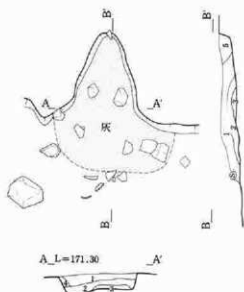
G区北西部に位置し51~53G22・23の範囲にある。108号住居跡の北にある。他の遺構との関係は南西部で115号住居跡と重複している。新旧関係は115号住居跡が新しい。規模は長辺3m、短辺2.6mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約5cm~10cmを測り、主軸方位はN-97°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁中央に検出された。規模は燃焼部幅約70cm、同長約70cmを測る。

第2章 検出された遺構と遺物



114号住居跡
 1 暗褐色土層
 2 暗褐色土層 泥炭土を含む
 3 洪褐色土層

Fig.273 114号住居跡



114号住居跡竈
 1 暗褐色土層 FPを少量含む
 2 暗褐色土層 FP、FAを含む
 3 暗褐色土層 焼土、灰を含む
 4 暗褐色土層 焼土、灰を少量含む
 5 暗褐色土層 FP、焼土を含む

Fig.274 114号住居跡竈

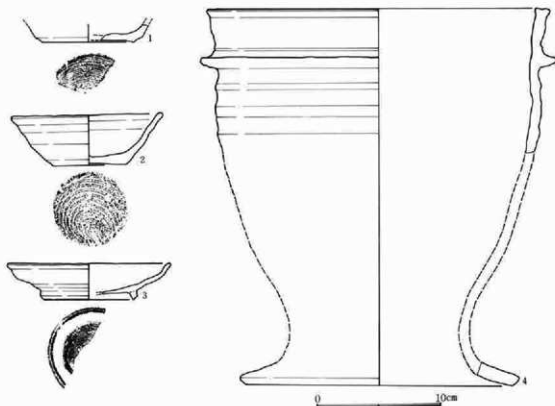


Fig.275 114号住居跡出土遺物(1)

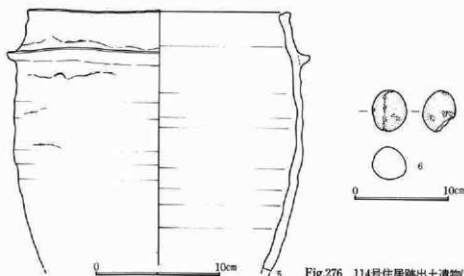


Fig.276 114号住居跡出土遺物(2)

第114号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
275-1 106	須恵器 坏	底-7.1	覆土	底部回転糸切	①良好②灰白色③細砂粒含む④底部破片
275-2 106	須恵器 坏	口-11.9 高-4.0 底-5.5	№2	底部回転糸切右廻り口縁部弱く外反する	①良好②淡黄褐色③1~2mmの砂粒含む④片残存
275-3 107	灰釉陶器 皿	口-13.0 高-3.85 底-7.2	覆土	付高台内面口縁部軸外面施軸なし口縁部内曲する	①良好②灰白色③密④片残存
275-4 107	甗	口-27.1	№4	脚横を向く口縁外傾する	①良好②灰白色③1~2mm砂粒含む④口縁部底部破片
276-5 106	羽釜	口-20.8	№5	脚やや上を向きやがむ口縁部内傾する	①良好②褐色③2~3mmの砂粒含む④片残存

Fig. 276-6 PL. 106 石 長-4.3cm 幅-3.6cm 厚-3.45cm 粗粒安山岩

115号住居跡 (Fig. 277・278・279・280・281、PL. 22・107)

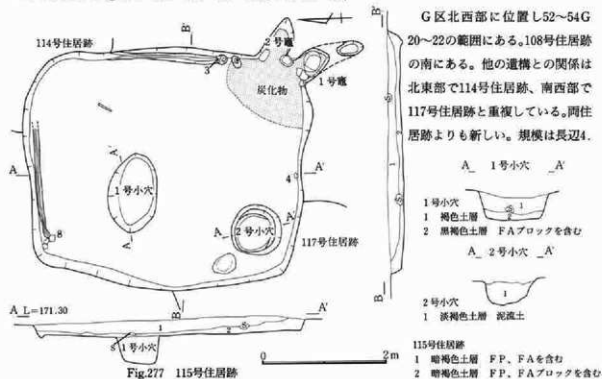


Fig.277 115号住居跡

第2章 検出された遺構と遺物

65m、短辺3.95mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約10cm~20cmを測る。床面は平坦をなし、中央やや北西寄りに小穴が検出された。規模は約120cm×80cm、深さ約40cmを測り、平面形態は楕円形を呈する。壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は南東コーナーに2基が検出され、南から1号竈、2号竈とした。1号竈の規模は袖幅約40cm、燃燒部長約60cm、煙道部長約60cmを測る。両袖部には石が配されている。また燃燒部中央には大型の石が検出された。2号竈は北側に隣接して検出され、規模は袖幅約40cm、燃燒部長約70cmを測る。右側袖部石材は1号と共有した形である。竈長軸の主軸方位は1号がN-160°-E、2号竈はN-110°-Eである。

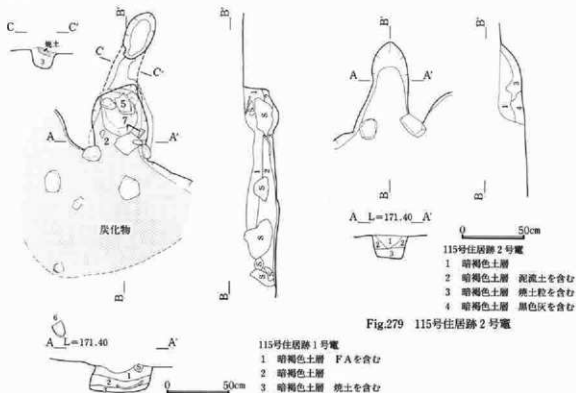


Fig.278 115号住居跡1号竈

Fig.279 115号住居跡2号竈

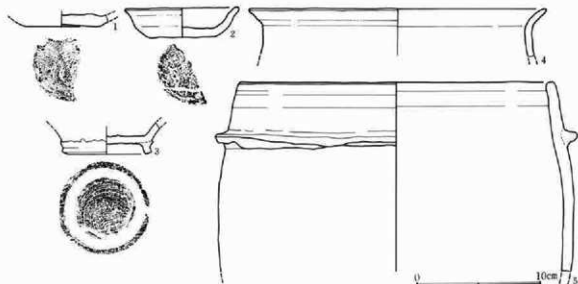


Fig.280 115号住居跡出土遺物(1)

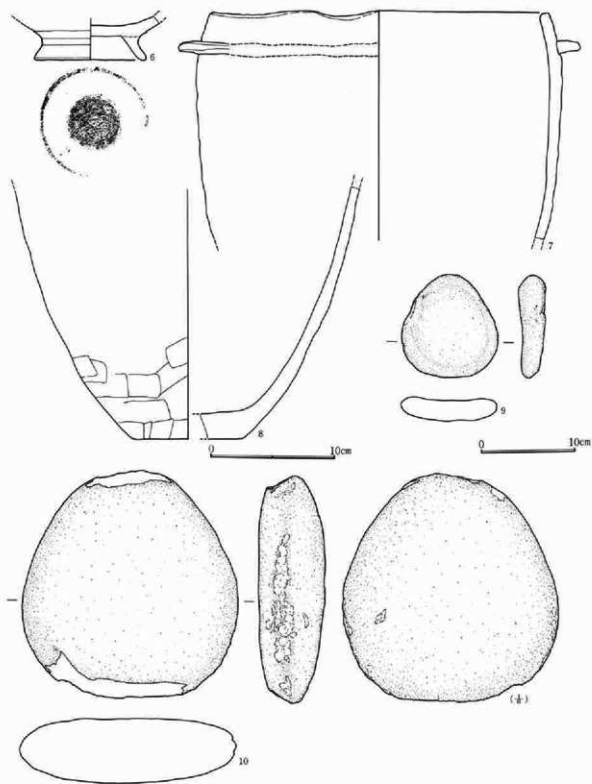


Fig.281 115号住居跡出土遺物(2)

第115号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計 測 値 (cm)	出土位置	成 形 及 び 調 整 の 特 徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
280-1 107	須恵器 坏	底-6.0	覆土	底部回転糸切	①良好②灰褐色③④底部破片
280-2 107	須恵器 小皿	口-9.0 高-2.3 底-5.0	No.2	底部回転糸切口縁端部外反する	①良好②赤褐色③3~4mmの砂粒含む④瓦残存
280-3 107	須恵器 埴	底-6.0	No.3	付高台底部回転糸切	①良好②灰褐色③2~3mmの砂粒含む④底部残存
280-4 107	土師器 罌	口-23.6	No.4	口縁部内外面ヨコナデ口縁部外反する	①良好②褐色③細砂粒含む④口縁部破片
280-5 107	羽蓋	口-25.0	No.5	口縁部直立きみ脚ゆがみが大きい	①やや軟質②によい赤褐色③3~4mm砂粒含む④瓦残存
281-6 107	須恵器 埴	底-8.6	No.6	付高台底部回転調整高台高くハの字状に開く	①良好②褐色③細砂粒含む④底部残存
281-7 107	羽蓋	口-27.0	No.7	口縁部ゆがみ脚横を向きゆがむ	①やや軟質②灰褐色③3~4mmの砂粒含む④瓦残存
281-8 107	羽蓋	底-8.4	No.8	外面脚下部ヘラケズリ	①やや軟質②によい赤褐色③3~4mm砂粒含む④瓦残存
Fig. 281-9 PL. 107		石 長-35.8cm 幅-34.1cm	厚-10.6cm	粗粒安山岩	
Fig. 281-10 PL. 107		石 長-16.2cm 幅-15.1cm	厚-4.3cm	すり石 粗粒安山岩	

116号住居跡 (Fig. 282・283・284・285, PL. 22・23・107・108)

G区北西部に位置し51~53G19・20の範囲にある。他の遺構との重複関係は北壁の一部を115号住居跡の竈と重複している。新旧関係は115号住居跡が新しい。規模は長辺3.05m、短辺2.3mを測り、主軸方位はN-96°-Eである。壁高は約10cm~20cmを測る。床面は平坦をなし南東・南西コーナーに小穴が2基検出された。

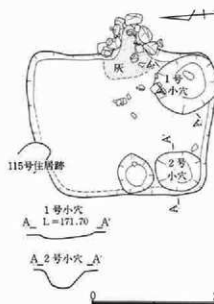


Fig. 282 116号住居跡



Fig. 283 116号住居跡竈

南東コーナーが1号、南西コーナーを2号とした。1号の規模は約70cm×60cm、深さ約15cm、2号の規模は約60cm×55cm、深さ約25cmを測る。竈は東壁中央に検出された。規模は燃焼部幅約50cm、同長約50cmを測る。竈内からは石が壁の輪郭に沿って石組が見られる。

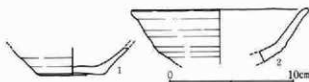
116号住居跡竈
1 灰褐色土層 焼土を含む

Fig. 284 116号住居跡出土遺物(1)

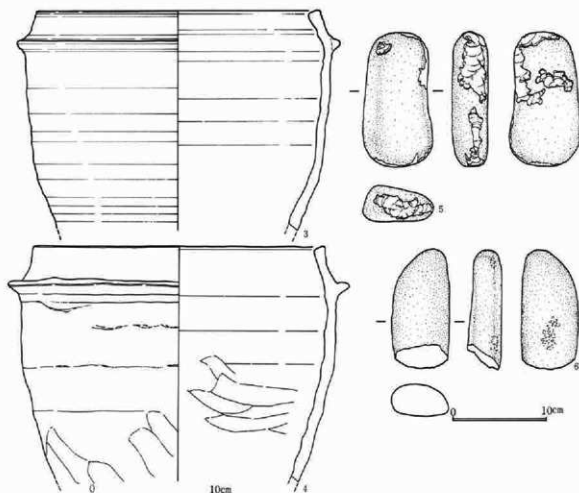


Fig.285 116号住居跡出土遺物(2)

第116号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ③胎土	②色調 ④残存
284-1 107	須恵器 坏	底-15.3	No 1	底部回転余切	①良好③淡褐色③1~2mm の砂粒含む④底部残存	
284-2 108	須恵器 坏	口-14.0	No 2	口縁部部弱く外反する	①良好③にふい黄褐色③1 ~2mm砂粒含む④口縁部破片	
285-3 107	羽釜	口-22.4	No 3	脚低く横を向く口縁部内傾する	①良好③黒褐色③1~2mm の砂粒含む④破片	
285-4 107	羽釜	口-22.9	No 4	脚やや上を向く輪痕残り下部ヘラケズリ内面 ヘラ状工具のナデ口縁部内傾する	①良好③にふい褐色③2 ~3mmの砂粒含む④残存	
Fig. 285-5 PL. 108		石 長-14.2cm 幅-7.4cm		厚-3.8cm 石英閃緑岩		
Fig. 285-6 PL. 108		石 長-12.6cm 幅-6.0cm		厚-3.6cm 石英閃緑岩		

117号住居跡 (Fig. 286・287, PL. 108)

G区北西部に位置し54・55G20・21の範囲にある。116号住居跡の西にある。他の遺構との重複関係は北東部に115号住居跡、南部で118号住居跡と重複している。新旧関係は両住居跡より古い。重複により竈は検出されていない。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。

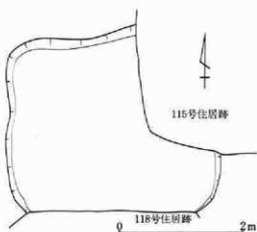


Fig.286 117号住居跡

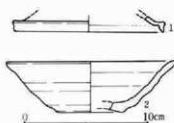


Fig.287 117号住居跡出土遺物

第117号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②胎土 ③給土 ④残存
287-1 108	須恵器 蓋	口-12.0	覆土		①良好②灰色③④破片
287-2 108	須恵器 環	口-13.4 高-4.0 底-5.4	覆土		①良好②灰色③1~2mmの 砂粒含む④破片

118号住居跡 (Fig. 288・289・290, PL. 23・108)

G区北西部に位置し53~55G18~20の範囲にある。116号住居跡の西にある。他の遺構との重複関係は北壁で117号住居跡と重複している。新旧関係は118号住居跡が新しい。規模は長辺4.1m、短辺3.45mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約25cm~30cmを測り、主軸方位はN-85°-Eである。床面は平坦をなし、貯蔵穴・壁周溝等の諸施設は検出されていない。竈は南東コーナーに検出された。規模は袖幅約50cm、燃焼部長約60cm、煙道部長約40cmを測る。両袖部には石が検出され竈前面から多数の石が散乱した状態で検出さ

れた。竈の長軸は住居跡の主軸方位からやや南に振れN-108°-Eである。

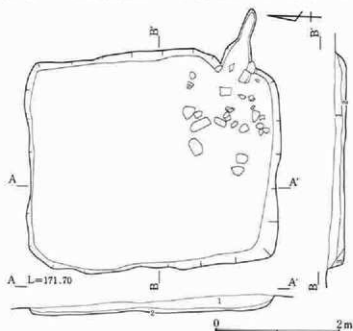
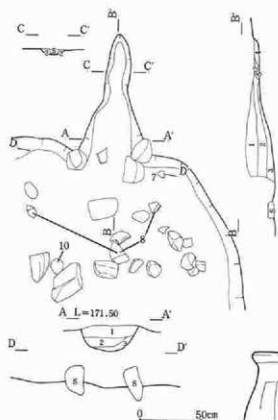


Fig.288 118号住居跡

118号住居跡

- 1 黒褐色土層 FPを含む
- 2 暗褐色土層 FP、炭化物を含む
- 3 黒褐色土層



118号住居跡電

- 1 暗褐色土層 泥炭土
- 2 暗褐色土層 焼土、炭化物を含む
- 3 暗褐色土層 焼土、炭化物を少量含む
- 4 暗褐色土層 焼土、灰を多量に含む
- 5 焼土ブロック

Fig.289 118号住居跡電

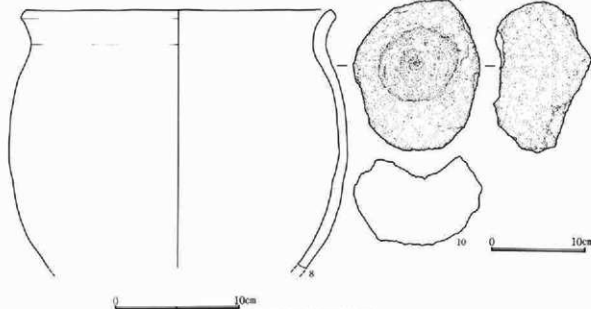
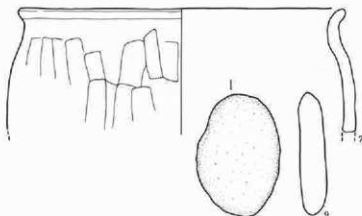
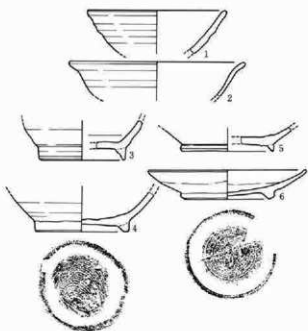


Fig.290 118号住居跡出土遺物

第118号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
290-1 108	須恵器 坏	口-11.0	覆土	口縁部弱く内湾して立ち上がる	①良好②灰白色③細砂粒含む④口縁部破片
290-2 108	須恵器 坏	口-14.0	小穴覆土	口縁部外反する	①良好②灰白色③細砂粒含む④口縁部破片
290-3 108	須恵器 埴	底-6.6	覆土	付高台底部回転糸切	①良好②灰白色③密④底部破片
290-4 108	須恵器 埴	底-7.4	覆土	付高台底部回転糸切	①良好②よい橙色③細砂粒含む④底部残存
290-5 108	灰釉陶器 埴	底-7.3	覆土	内面施釉付高台	①良好②灰白色③密④底部破片
290-6 108	灰釉陶器 皿	口-12.4 高-2.3 底-6.6	覆土	口縁部内陷する	①良好②灰白色③密④口縁部破片
290-7 108	土師器 壺	口-25.8	No.7	口縁部ヨコナゲ割部ヘラケズリ内面ナゲ口縁部短く外屈する	①良好②よい赤褐色③2~3mm砂粒含む④口縁部残存
290-8 108	土師器 壺	口-25.0	No.8	口縁部ヨコナゲ割部ヘラケズリナゲ表面剥落不明瞭口縁部外湾する	①やや軟質②よい橙色③2~3mm砂粒含む④片残存
Fig. 290-9 PL. 108	石	長-12.9cm 幅-9cm 厚-2.8cm	粗粒安山岩		
Fig. 290-10 PL. 108	石	長-15.8cm 幅-13.5cm 厚-7.4cm	くぼみ石		

119号住居跡 (Fig. 291・292・293・294, PL. 23・108・109)

G区北西部に位置し57~59G19~21の範囲にある。117号住居跡の西にある。他の遺構との重複関係は152号土坑が住居跡覆土内にある。規模は長辺5.1m、短辺4.8mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約

25cm~45cmをはかる。床面は平坦をなし、四周を周溝が巡る。幅は約10cm、深さ約2cm~3cmを測る。また小穴が5基検出された。各々図上に1号~5号とした。規模は1号が径約70cm、深さ約35cm、2号が径約70cm、深さ約40cm、3号が径

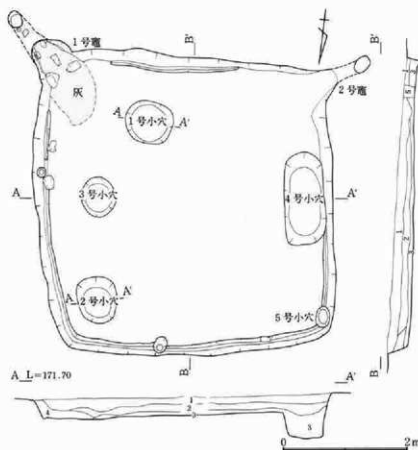


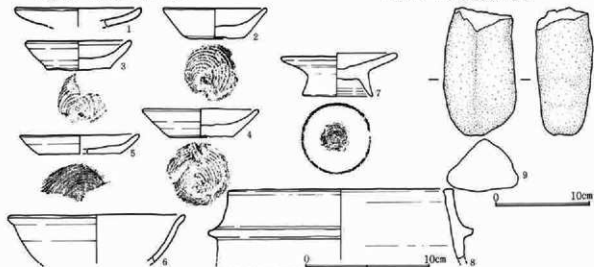
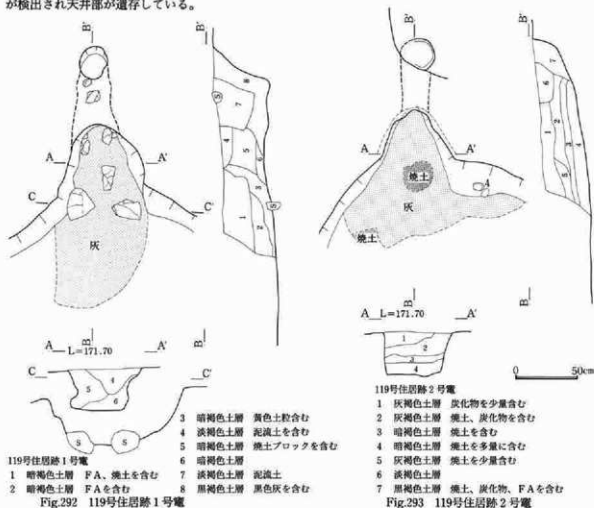
Fig.291 119号住居跡



119号住居跡

- 暗褐色土層 F Pを含む
- 暗褐色土層 F Aブロックを含む
- 暗褐色土層 F Aブロックを多量に含む
- 暗褐色土層 F Aを含む
- 暗褐色土層 B Pが混じる

約60cm、深さ約6cm、4号が約150cm×70cm、深さ約45cm、5号が径約20cm、深さ約10cmを測る。竈は南東コーナー、南西コーナーに2基が検出された。東から1号竈・2号竈とした。1号竈は袖幅約60cm、燃焼部長約80cm、煙道部長約60cmを測る。2号竈は燃焼部幅約70cm、同長約60cm、煙道部長約50cmを測る。1号竈には両袖部、燃焼部中央から石が検出された。2号竈からは石材は検出されていない。1・2号竈ともに煙道部が検出され天井部が遺存している。



第119号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ③胎土	②色調 ④残存
294-1 108	須恵器 皿	□-10.0	覆土		①良好②灰黄色③細砂粒含む④口縁部破片	
294-2 108	須恵器 皿	□-8.2 高-2.4 底-3.8	覆土	底部回転糸切	①良好②よい赤褐色③1~2mmの砂粒含む④残存	
294-3 108	須恵器 皿	□-8.4 高-2.3 底-3.8	覆土	底部回転糸切	①良好②よい橙色③細砂粒含む④残存	
294-4 108	須恵器 皿	□-9.2 高-2.2 底-5.1	No.4	底部回転糸切右廻り	①良好②灰褐色③細砂粒含む④残存	
294-5 108	須恵器 皿	□-9.4 高-1.5 底-6.3	覆土	底部回転糸切	①良好②赤褐色③1~2mmの砂粒含む④残存	
294-6 109	須恵器 坏	□-14.0	覆土	口縁端部外反する	①良好②灰褐色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片	
294-7 108	須恵器 高台付皿	□-9.2 高-3.4 底-5.5	覆土	付高台底部回転調整高台部への字状に開く	①良好②よい橙褐色③細砂粒含む④ほぼ完形	
294-8 109	羽釜	□-17.8	覆土	胴やや下を向く口縁部内傾する	①良好②よい黄褐色③1~2mm砂粒含む④口縁部破片	

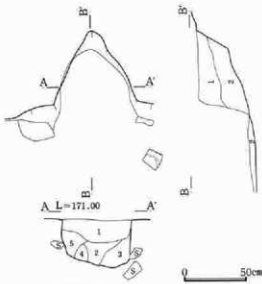
120号住居跡 (Fig. 295・296・297・298, PL. 23・24・109・110)

G区北西部に位置し57~59G22~24の範囲にある。119号住居跡の北にある。他の遺構との重複関係は南西部で122号住居跡、北壁で123号住居跡と重複している。新旧関係は122号住居跡より新しく、123号住居跡より古い。規模は長辺5.4m、短辺4mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約40cm~50cmを測り、主軸方位はN-92°-Eである。床面は平坦をなし、ほぼ中央部に焼土・炭化物が床面から数cmの厚さで堆積して検出された。貯藏穴・壁周溝は検出されていない。南東コーナーで237号土坑と重複しており住居跡に伴う

遺構なのか不明である。また237号土坑に接する住居跡の壁側から壁の補強のように石が多数検出されている。甌は東壁やや南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約90cm、同長約70cmを測る。



Fig.295 120号住居跡・237号土坑



120号住居跡電

- 1 淡褐色土層 焼土、炭化物、FPを含む
- 2 淡褐色土層 焼土、FPを少量含む
- 3 淡褐色土層 焼土を含む
- 4 淡褐色土層 焼土多量を含む
- 5 淡褐色土層 焼土ブロックを含む

Fig.296 120号住居跡電

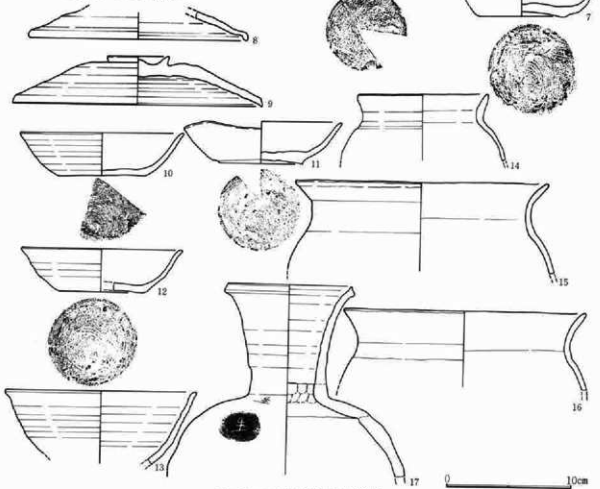


Fig.297 120号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物

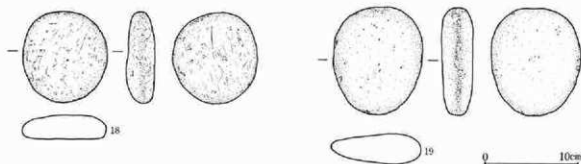


Fig.298 120号住居跡出土遺物(2)

第120号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①構成 ②胎土 ③残存
297-1 109	土師器 坏	口-12.2 高-3.4 底-4.7	覆土	口縁部コナダ体部弱い指頭状底部ヘラクスリ内面ナダ口縁部内湾ぎみに立ち上がる	①良好②よい赤褐色③細砂粒含む④多残存
297-2 109	須恵器 坏	底-6.7	覆土	底部回転糸切	①良好②灰白色③細砂粒含む④底部残存
297-3 109	須恵器 坏	底-6.4	覆土	底部回転糸切	①良好②灰色③3~4mmの砂粒含む④底部残存
297-4 109	須恵器 坏	底-7.8	No.4	底部周辺回転ヘラ調整	①良好②灰色③密④底部残存
297-5 109	須恵器 坏	底-7.0	覆土	底部回転糸切	①良好②灰白色③密④底部残存
297-6 109	須恵器 坏	口-13.4 高-4.15 底-6.4	覆土	底部回転糸切口縁部内湾して立ち上がり端部外湾する	①良好②灰色③密④残存
297-7 109	須恵器 坏	底-6.8	覆土	底部回転糸切	①良好②灰色③密④底部残存
297-8 109	須恵器 蓋	口-17.2	覆土	外面回転調整	①良好②灰色③密④破片
297-9 109	須恵器 蓋	口-19.8 高-3.8 径-4.9	No.9	外面回転調整	①良好②灰白色③密④残存
297-10	須恵器 坏	口-12.8 高-3.4 底-6.6	覆土	口縁部内湾して立ち上がり端部外反する	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④底部残存
297-11 109	須恵器 坏	口-12.5 高-3.3 底-6.6	覆土	底部回転糸切右回り口縁部内湾して立ち上がる	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④残存
297-12 109	須恵器 坏	口-15.0 高-3.4 底-7.0	No.12	底部回転糸切右回り口縁部内湾ぎみに立ち上がる	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含む④残存
297-13 109	須恵器 埴	口-15.2	覆土	口縁部内湾して立ち上がり端部外反する	①良好②灰色③2~3mmの砂粒含む④残存
297-14 109	土師器 台付壺	口-10.3	覆土	口縁部外反する	①良好②よい褐色③細砂粒含む④口縁部破片
297-15 109	土師器 壺	口-20.0	No.15	口縁部コナダ胴部ヘラクスリ内面ナダ口縁部外反する	①良好②褐色③1~2mmの砂粒含む④口縁部残存
297-16 109	土師器 壺	口-19.1	No.16	口縁部コナダ胴部ヘラクスリ内面ナダ口縁部外反する	①良好②よい褐色③細砂粒含む④口縁部残存
297-17 109	甗	口-9.8	No.17	内面に頸部貼付痕口縁部外反ぎみに立ち上がる	①良好②灰白色③密④上半部残存
Fig. 298-18	PL. 110	石 長-9.65cm 幅-8.95cm 厚-2.95cm	粗粒安山岩		
Fig. 298-19	PL. 110	石 長-10.3cm 幅-9.55cm 厚-3.3cm	粗粒安山岩		

121号住居跡 (Fig. 299・300・301・302, PL. 24・110)

G区北西部に位置し54~56G23~25の範囲にある。111号住居跡の南西にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺4m、短辺2.5mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約30cm~40cmを測り、主軸方位はN-95°-Eである。床面は平坦をなし、北東部に東西1.5m、南北1.6mの範囲で約10cm高くなっている。壁

周溝・貯蔵穴等の諸施設が検出された。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約60cm、同長約60cmを測る。竈右袖部からは石が検出されている。

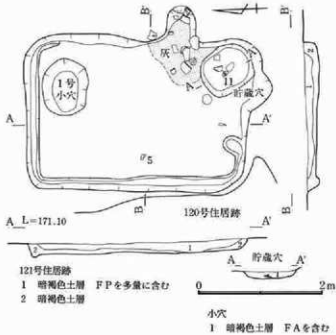


Fig.299 121号住居跡

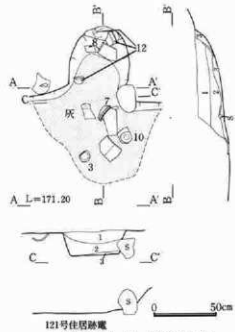
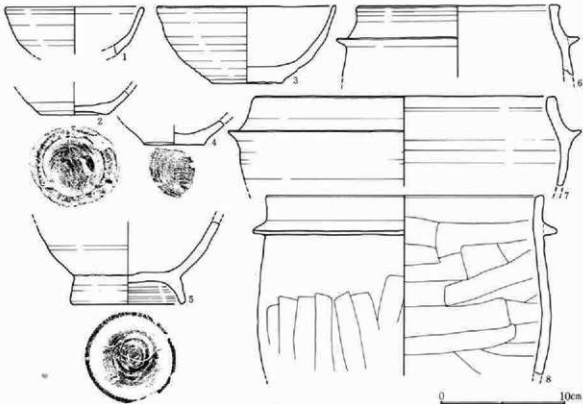


Fig.300 121号住居跡竈



第2章 検出された遺構と遺物

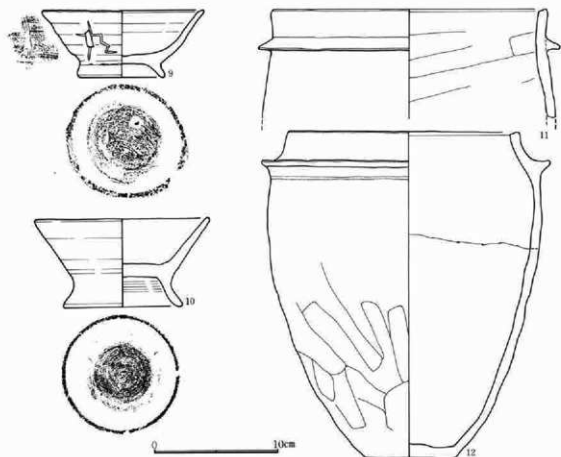


Fig.302 121号住居跡出土遺物(2)

第121号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①構成 ②色調 ③胎土 ④残存
301-1 110	須恵器 坏	口-11.0	覆土	口縁部内高して立ち上がる	①良好②灰白色③細砂粒含む ④口縁部破片
301-2	須恵器 埴	底-7.2	覆土	底部回転糸切高台部欠落	①良好②褐色③細砂粒含む ④底部残存
301-3 110	須恵器 坏	口-14.1 高-6.1	No.3	底部調整磨減して不明瞭口縁部内高して立ち上がる	①良好②および褐色③1 ~2mmの砂粒含む④劣残存
301-4 110	須恵器 坏	底-5.4	覆土	底部回転糸切	①良好②および褐色③細砂 粒含む④底部破片
301-5 110	須恵器 埴	底-9.1	No.5	付高台底部回転糸切	①良好②および褐色③3 ~4mm砂粒含む④底部残存
301-6 110	羽蓋	口-16.0	覆土	踵上を向く口縁部内傾する	①良好②および褐色③細砂 粒含む④口縁部破片
301-7 110	羽蓋	口-23.7	No.7	踵薄く上を向く口縁部内傾する	①良好②および褐色③細砂 粒含む④口縁部片残存
301-8 110	羽蓋	口-22.0	No.8	踵下を向く踵下からヘラケズリ内面ヘラ状工具によるナデ口縁部直立ぎみ	①良好②灰白色③細砂粒含む ④口縁部片残存
302-9 110	須恵器 埴	口-12.8 高-5.2 底-6.6	覆土	付高台底部回転糸切内面煤付着外面にヘラによる記号	①良好②および褐色③細砂 粒含む④劣残存
302-10 110	須恵器 高台埴	口-13.9 高-6.9 底-9.3	No.10	付高台底部回転調整高台部内面煤による黒色高台高くへの字状に開く	①良好②褐色③細砂粒含む ④劣残存
302-11 110	羽蓋	口-21.8	No.11	踵下を向く内面ヘラ状工具によるナデ口縁部弱く外傾する	①良好②褐色③2~3mmの 砂粒含む④口縁部片残存
302-12 110	羽蓋	口-18.2 高-25.8 底-6.8	覆土	踵上を向く下割部ヘラケズリ口縁部内傾する	①良好②灰褐色③3~4mm の砂粒含む④劣残存

122号住居跡 (Fig. 303, PL. 24)



Fig.303 122号住居跡

G区北西部に位置し58・59G21～23の範囲にある。111号住居跡の南西にある。他の遺構との重複は東部で120号住居跡と重複する。新旧関係は120号住居跡が新しい。規模は長辺3.6m、短辺3.1mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約10cm～20cmを測り、主軸方位はN-86°-Eである。床面は約20cmの比高をもち南側に向かい傾斜している。貯蔵穴・壁周溝等の諸施設は検出されていない。竈は120号住居跡により壊されているが、南東部に竈があったと思われる床上には灰が散布した状態で検出された。

122号住居跡

- 1 暗褐色土層 FP、FAを少量含む
- 2 暗褐色土層 FAを含む
- 3 暗褐色土層
- 4 暗褐色土層 FAを多量に含む

123号住居跡 (Fig. 304・305・306, PL. 24・111)

G区北西部に位置し57～59G24～26の範囲にある。111号住居跡の西にある。他の遺構との関係は西大部分を124号住居跡と南一部を120号住居跡と重複している。新旧関係は120号住居跡より新しく、124号住居跡より古い。規模は長辺4.3m、短辺3.95mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は北東部では約10cm、東

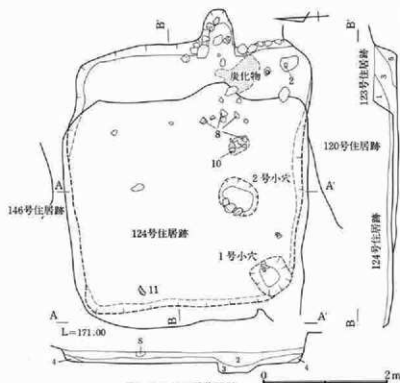
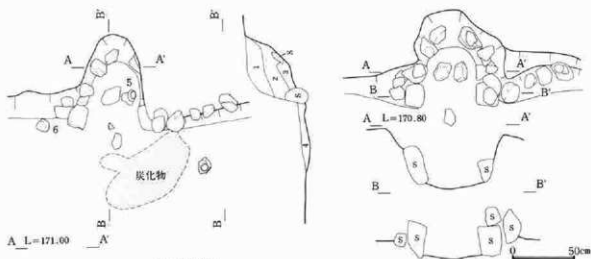


Fig.304 123号住居跡

壁で約40cm～50cm、南壁では約60cm～70cmを測り、主軸方位はN-92°-Eである。床面は平坦をなし南西コーナーと東隣に2基の小穴が検出された。1号は規模約70cm×55cm、深さ約15cm、2号は規模約65cm×55cm、深さ約10cmである。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は袖幅約50cm、燃焼部幅約70cmを測り、両袖部には構築材の石が配されている。

123号住居跡

- 1 暗褐色砂質土層
- 2 暗褐色砂質土層 FAを少量含む
- 3 暗褐色砂質土層 FA、FPを少量含む
- 4 黒褐色砂質土層 FAを含む
- 5 暗褐色土層 FAを含む



123号住居跡

- 1 暗褐色土層 FPを多量に含む、FAを含む
 2 黒褐色土層 FAブロックを含む
 3 黒褐色土層 焼土、炭化物を多量に含む
 4 暗褐色土層 焼土を含む

Fig.305 123号住居跡

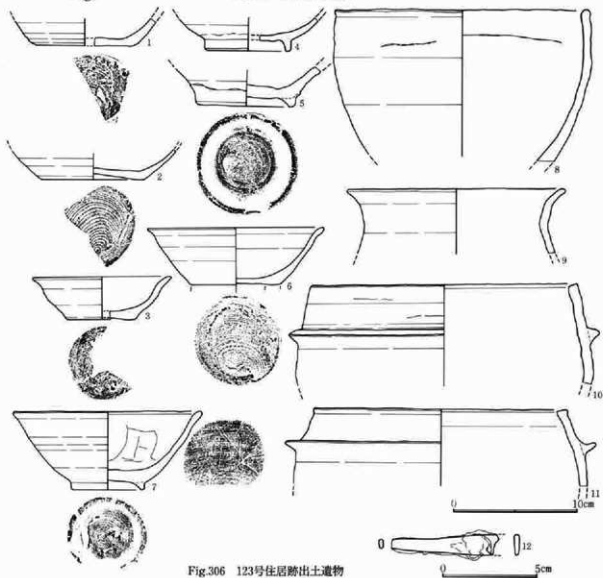


Fig.306 123号住居跡出土遺物

第123号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①構成 ②胎土 ③胎土 ④残存
306-1	須恵器 坏	底-7.5	覆土	底部回転未切	①良好②灰色③細砂粒含む ④底部破片
306-2 111	須恵器 坏	底-8.0	No 2	底部回転未切右廻り	①良好②灰色③細砂粒含む ④底部片残存
306-3 111	須恵器 坏	口-10.9 底-5.3	覆土	底部回転未切右廻り口縁部外反する	①良好②灰色③1~2mmの 砂粒含む④片残存
306-4 111	灰輪陶器 碗	底-6.5	覆土	付高台	①良好②灰白色③底 破片
306-5 111	須恵器 坏	底-7.3	No 5	付高台底部回転調整	①良好②灰白色③2~3mm の砂粒含む④底部破片
306-6 111	須恵器 坏	口-14.0 底-7.0	No 6	付高台穴落底部回転未切口縁部外反する	①良好②灰色③細砂粒含む ④片残存
306-7 111	須恵器 埴	口-14.9 底-5.5	覆土	付高台底部回転未切内面へラ文字	①良好②褐色灰色③細砂粒含む ④片残存
306-8 111	土師器 埴	口-20.0	No 8	片口部が一部残存している	①良好②褐色③細砂粒含む ④口縁部片残存
306-9 111	土師器 埴	口-17.2	覆土	口縁部外反する	①良好②にぶい褐色③1 ~2mm砂粒含む④口縁部破片
306-10 111	羽蓋	口-21.0	No 10	脚痕を向く口縁部内傾する	①良好②灰白色③2~3mm の砂粒含む④口縁部片残存
306-11 111	羽蓋	口-20.0	No 11	脚痕上を向く口縁部内傾する	①良好②灰黄色③細砂粒含む ④口縁部片残存

Fig. 306-12 PL. 111 鉄製品 長-5.7cm 厚-3mm 刀子?

124号住居跡 (Fig. 307・308・309, PL. 24・25・111)

G区北西部に位置し58~60G24~26の範囲にある。111号住居跡の西にある。他の遺構との関係は住居跡の大部分を123号住居跡、南部の一部を120号住居跡と重複している。新旧関係は120・123号住居跡より新しい。規模は長辺4m、短辺3.9mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は北壁で約5cm~10cm、南壁約20cm

~40cmを測り、主軸方位はN-260°-Eである。床面は平坦をなし貯蔵穴・壁周溝等の諸施設は検出されていない。東壁やや南寄りの部分に灰が検出されている。竈は南西コーナーに検出された。規模は袖幅約70cm、燃焼部長約120cmを測る。竈両袖部からは構築材の石が検出されている。

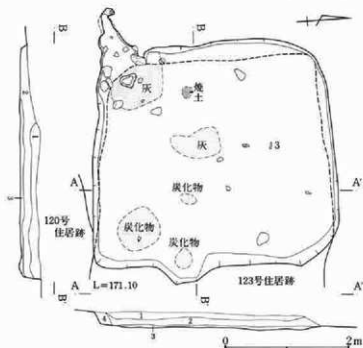


Fig.307 124号住居跡

124号住居跡

- 1 暗褐色土層 F P 多量を含む
- 2 暗褐色土層 F P、FAブロックを含む
- 3 黒褐色土層 FAを含む
- 4 暗褐色土層 F P 少量、FAブロックを含む

第2章 検出された遺構と遺物

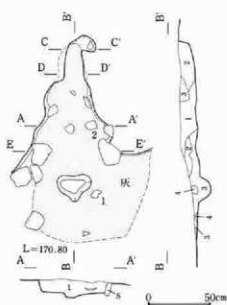


Fig.308 124号住居跡電

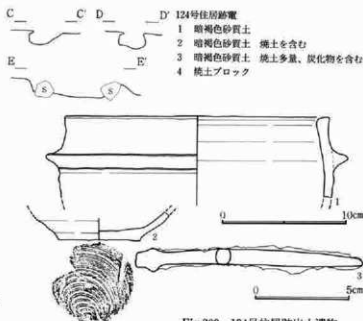


Fig.309 124号住居跡出土遺物

第124号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②胎土 ③残存 ④残存
309-1 111	羽釜	口-21.0	No 1	唇縁を向く口縁部内傾する	①良好②残黄褐色③細砂粒含む④口縁部破片
309-2 111	酒壺 坏	底-6.5	No 2	底部回転糸切	①良好②にぶい褐色③1~2mm砂粒含む④底部残存
Fig. 309-3 PL. 111	鉄製品	長-12.0cm 厚-8mm	釘?		

125号住居跡 (Fig. 310・311・312, PL. 25・111)

G区北西部に位置し48~50G20~22の範囲にある。169号住居跡の東にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺4.5m、短辺3.7mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は5cm~6cmを測るのみで遺存は悪い。

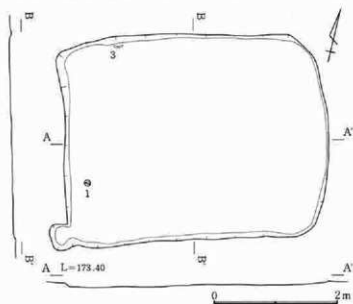


Fig.310 125号住居跡

床面は平坦をなし、貯蔵穴・壁周溝等の諸施設は検出されていない。竈は検出されていない。

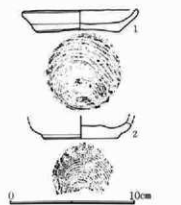


Fig.311 125号住居跡出土遺物(1)



Fig. 312 125号住居跡出土遺物(2)

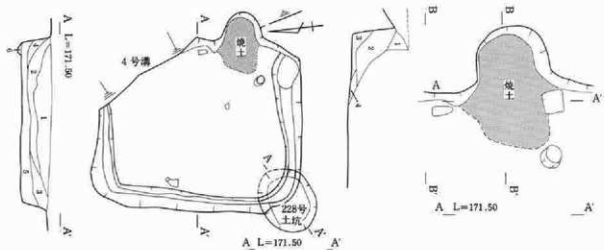
第125号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③部土 ④残存
311-1 111	酒罎 坏	口-9.2 高-1.5 底-6.5	No 1	底部回転糸切り廻り	①良好②淡褐色③2~3mm の砂粒含む④実形
311-2 111	酒罎 坏	底-5.8	覆土	底部回転糸切	①良好②淡色③1~2mmの 砂粒含む④底部破片

Fig. 312-3 PL. 111 鉄製品 長-11.5cm 厚-9mm 不明

126号住居跡 (Fig. 313・314・315・316, PL. 25・111・112)

G区中央に位置し46・47G20～22の範囲にある。125号住居跡の東にある。他の遺構との関係は北東部に4号溝、南西コーナーで228号土坑と重複している。新旧関係は土坑より新しく、溝より古い。規模は長辺3.4m、短辺2.7mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約40cmを測り、主軸方位はN-97°-Eである。床面は平坦をなし、4号溝によって壊されている。東部を除く壁には幅約30cm～40cm、深さ約5cmの周溝が巡っている。貯蔵穴は検出されていない。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約80cm、同長約60cmを測る。竈からは石は検出されていないが、袖部下より袖材がおかれた痕跡が認められた。



126号住居跡
 1 暗褐色土層 FPを含む
 2 暗褐色土層 FAブロックを含む
 3 暗褐色土層 黒色土を含む
 4 淡褐色土層 FAブロック多量を含む
 5 暗褐色土層 FAブロックを少量含む
 6 淡褐色土層 FAを少量含む

228号土坑
 1 暗褐色土層
 FP、FAブロック
 多量を含む

Fig. 313 126号住居跡・228号土坑

Fig. 314 126号住居跡竈

126号住居跡竈
 1 暗褐色土層 焼土を少量含む
 2 暗褐色土層 焼土、炭化物を含む
 3 暗褐色土層 焼土、灰を多量を含む
 4 暗褐色土層 焼土、灰を多量を含む

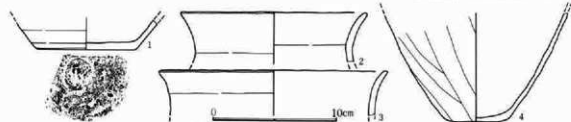


Fig. 315 126号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物

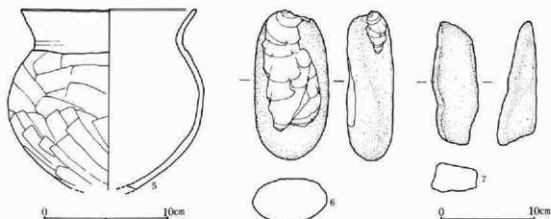


Fig.316 126号住居跡出土遺物(2)

第126号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①構成 ②色調 ③胎土 ④残存
315-1 111	須恵器 坏	高-7.6	覆土	底部回転ヘラ切り	①良好②灰色③部④底部破片
315-2 111	土師器 壺	口-14.6	覆土	口縁部ヨコナデ口縁部外反する	①良好②にぶい褐色③細砂粒含む④口縁部破片
315-3 111	土師器 壺	口-18.0	覆土	口縁部内外面ヨコナデ口縁部外反する	①良好②にぶい赤褐色③細砂粒含む④口縁部破片
315-4 111	土師器 壺	底-3.6	覆土	外面ヘラケズリ	①良好②暗赤褐色③2~3mmの砂粒含む④底部残存
316-5 112	土師器 台付壺	口-13.8	覆土	口縁部ヨコナデ脚部ヘラケズリ内面ナデ口縁部外反する	①良好②にぶい赤褐色③細砂粒含む④台部欠落
Fig. 316-6 PL. 112	石	長-15.8cm 幅-7.95cm 厚-5.0cm	石炭四角岩		
Fig. 316-7 PL. 112	石	長-13.1cm 幅-5.0cm 厚-4.1cm	粗粒安山岩		

127号住居跡 (Fig. 317・318・319・320, PL. 25・112・113)

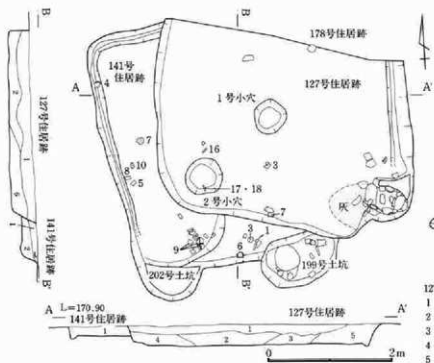
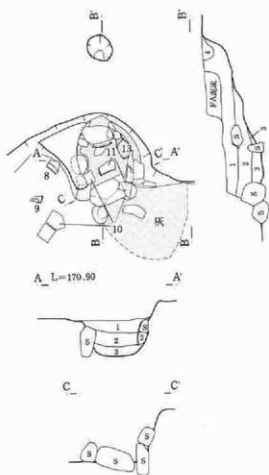


Fig.317 127・141号住居跡

G区中央部に位置し46~48G27~29の範囲にある。109号住居跡の北西にある。他の遺構との関係は西部で141号住居跡、北部で178号住居跡と南壁を199号土坑と重複している。新旧関係は141号住居跡より新しく、178号住居跡、199号土坑より古い。規模は不明だが壁高は約10cm~20cmを測る。

127号・141号住居跡

- 1 黒褐色土層 FPを多量に含む
- 2 黒褐色土層 FAブロックを含む
- 3 暗褐色土層 FAを含む
- 4 暗褐色土層 FAブロック少量含む
- 5 暗褐色土層 FAを含む
- 6 暗褐色土層 FAを多量に含む

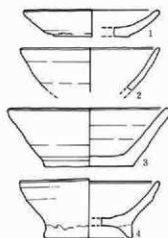


A_L=170.90

127号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 FP、FAを少量含む
- 2 暗褐色土層 FAブロックを含む
- 3 暗褐色土層 FA、焼土、炭化物を含む
- 4 暗褐色土層 FA、焼土を含む

Fig.318 127号住居跡竈



0 50cm

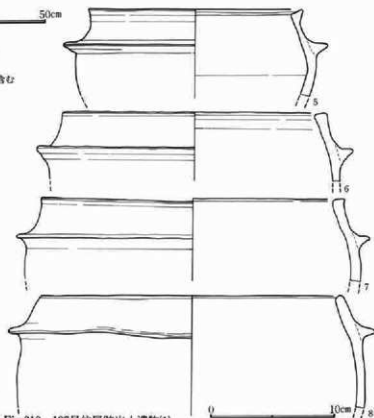


Fig.319 127号住居跡出土遺物(1)

床面は平坦をなし住居跡中央部と南西コーナーに2基の小穴が検出され各々1号・2号とした。1号は径約55cmの円形で深さ約20cm、2号は径約60cmの円形で深さ約15cmを測る。竈は南東コーナーに検出された。竈の長軸方位はN-113°-Eである。規模は袖幅約60cm、燃燒部幅約60cm、煙道部長約60cmを測る。煙道部先端には煙り出しの小穴が検出され天井部が認められた。袖部には石が検出され燃燒部前面には天井の石と思われる長めの石が検出された。

141号住居跡 (Fig. 317・321, PL. 25・118・119)

G区中央部に位置し47・48G27~29の範囲にある。109号住居跡の北西にある。他の遺構との関係は東半部の大半を127号住居跡と、南西コーナーで202号土坑と重複している。新旧関係は202号土坑より新しく127号住居跡より古い。このため141号住居跡の大半は127号住居跡により壊されている。規模は不明であるが西壁長は約3.7mを測る。西・北壁で幅約10cm、深さ数cmの壁溝が認められた。床面は平坦をなし他の諸施設は検出されていない。竈は検出されていない。



Fig.320 127号住居跡出土遺物(2)

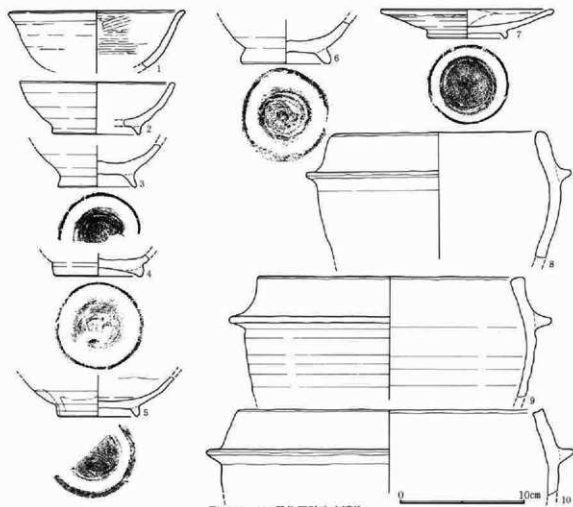


Fig.321 141号住居跡出土遺物

第127号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
319-1 112	須恵器 小皿	口-10.6 底-5.7	覆土	器壁やや厚く器高低い底部回転糸切	①良好②褐色③1~2mmの砂粒含む④口縁~底部破片
319-2 112	須恵器 杯	口-11.0	覆土	内周黒色ミガキ口縁部内湾し立ち上がる	①良好②淡褐色③細砂粒含む④破片
319-3 112	須恵器 杯	口-12.7 底-7.0	No.3	器壁厚く直線状に外傾する底部回転糸切	①良好②によい褐色③1~2mmの砂粒含む④片残存
319-4 112	須恵器 埴	口-11.0 底-7.0	覆土	口縁部に向い内湾する醸し金色付高台	①良好②灰褐色③細砂粒含む④片残存
319-5 112	羽蓋	口-17.0	覆土	口縁部薄く内傾し肩下内湾する筒状を向く	①良好②によい黄褐色③細砂粒含む④破片
319-6 112	羽蓋	口-21.0	覆土	口縁部器壁厚く内傾する筒上を向く丁寧な調整口縁部内傾する	①良好②褐色③細砂粒含む④口縁部破片
319-7 112	羽蓋	口-24.0	No.7	口縁先端部器壁厚く筒上を向く丁寧な調整	①良好②明褐色③細砂粒含む④口縁部破片
319-8 112	羽蓋	口-24.0	No.8	器壁下を向く口縁部内湾し肩下から内湾する口縁部内傾する	①良好②によい褐色③1~2mm砂粒含む④口縁部破片
320-9 113	須恵器 杯	口-14.9 底-6.2	No.9	器壁やや厚く直状に外傾する底部回転糸切口縁部直線状に外傾する	①良好②によい褐色③1~2mmの砂粒含む④片残存
320-10 112	羽蓋	口-28.2	No.10	筒ゆがみ大きい口縁部弱く内傾する内面ヘラナデ	①良好②によい赤褐色③1~2mm砂粒含む④口縁部片残存
320-11 112	羽蓋	口-19.1	No.11	口縁部筒ゆがみ筒先にヘラによるキズがある割部弱いヘラナデ内面ナデ口縁部内湾する	①良好②によい赤褐色③1~2mm砂粒含む④口縁部片残存

第2章 検出された遺構と遺物

Fig. No. PL. No.	器 種 器 形	計 測 値(cm)	出土位置	成 形 及 び 調 整 の 特 徴	①焼 成 ②胎 土	③色 調 ④残 存
320-12 113	土 師 器 壺	口-18.8	窠 覆 土	口縁部弱く外傾する口縁部ヨコナデ割部ヘラケズリ後ナデ内面ナデ	①良好②にぶい赤褐色③1~2mm砂粒含む④口へ割部互残存	
320-13 112	土 師 器 壺	口-29.0	No.13	口縁部弱く外側器壁厚い口縁部ヨコナデ割部ナデ内面ヘラケズリ残る口縁部外反する	①良好②にぶい褐色③2~3mm砂粒含む④口縁部互残存	
Fig. 320-14	PL. 113	石 長-19.3cm 幅-13.3cm 厚-9.2cm	粗粒安山岩			
Fig. 320-15	PL. 113	石 長-不明 幅-7.6cm 厚-4.9cm	頁岩			
Fig. 320-16	PL. 113	鉄製品 長-7.4cm 厚-11mm	不明			
Fig. 320-17	PL. 113	鉄製品 長-9.3cm 厚-7mm	不明			
Fig. 320-18		鉄製品 長-9.3cm 厚-12mm	不明			

第141号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器 種 器 形	計 測 値(cm)	出土位置	成 形 及 び 調 整 の 特 徴	①焼 成 ②胎 土	③色 調 ④残 存
321-1 118	土 師 器 壺	口-14.0	No.1	内面黒色研磨(内黒土器)口縁部外反する	①良好②にぶい黄褐色③細砂粒含む④口縁部破片	
321-2 118	須 恵 器 壺	口-7.0 高-4.15	覆 土	付高台口縁部内湾して立ち上がる	①良好②にぶい黄褐色③細砂粒含む④互残存	
321-3 118	須 恵 器 壺	底-6.2	No.3	付高台底部回転糸切	①良好②にぶい黄褐色③1~2mm砂粒含む④底部互残存	
321-4 118	須 恵 器 壺	底-7.0	No.4	付高台底部回転糸切内外面煤等により黒色	①良好②胎土灰色③細砂粒含む④底部残存	
321-5 118	反輪陶器 壺	底-6.2	No.5	付高台底部回転糸切	①良好②灰白色③密④底部互残存	
321-6 118	須 恵 器 壺	底-7.0	No.6	付高台底部回転糸切	①良好②淡褐色③細砂粒含む④底部残存	
321-7 118	反輪陶器 壺	口-13.7 高-2.3 底-6.4	No.7	付高台口縁部直線状に外傾する	①良好②灰白色③密④先形	
321-8 118	羽 釜	口-17.0	No.8	鉶やや低く上を向く口縁部内傾する	①良好②にぶい褐色③細砂粒含む④口縁部破片	
321-9 119	羽 釜	口-21.2	No.9	鉶横を向く口縁部内傾する	①良好②褐色③1~2mmの砂粒含む④口縁部互残存	
321-10 118	羽 釜	口-24.0	No.10	鉶やや上を向く口縁部内傾する	①良好②褐色③細砂粒含む④口縁部破片	

129号住居跡 (Fig. 322・323, PL. 25・26・113)

G区中央部に位置し44G20・21の範囲にある。126号住居跡の東にある。他の遺構との関係は4号溝、226号土坑と重複している。土坑は東部に隣接して検出された。4号溝は129号住居跡より新しく住居跡の大半を覆われている。規模、主軸方位等は不明である。壁高は約20cm~30cmを測る。

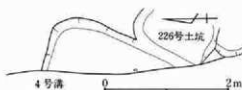


Fig. 322 129号住居跡

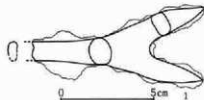


Fig. 323 129号住居跡出土遺物

第129号住居跡出土遺物観察表

Fig. 323-1	PL. 113	鉄製品 長-9.2cm 厚-5~14mm	鉶
------------	---------	----------------------	---

130号住居跡 (Fig. 324・325・326・327, PL. 26・113)

G区中央部に位置し38~40G25~27の範囲にある。他の遺構との関係は西部を131号住居跡と重複している。新旧関係は130号住居跡が新しく131号住居跡の竈は壊されている。規模は長辺4.6m、短辺3.7mを測り、

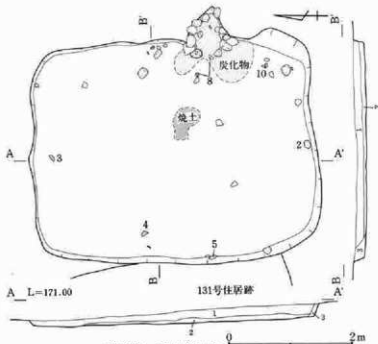
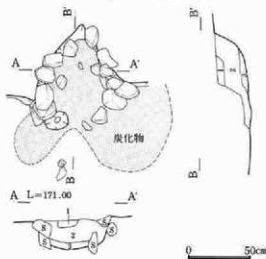


Fig.324 130号住居跡

平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約20cm~30cmを測り、主軸方位はN-75°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約70cm、同長約60cmを測る。竈は両袖部に石が配されており、壁の部分にも燃焼部を囲むように石が検出された。

130号住居跡

- 1 暗褐色土層 FPを含む
- 2 暗褐色土層
- 3 暗褐色土層 黄褐色土ブロックを含む



130号住居跡竈

- 1 淡褐色土層 FAを多量に含む
- 2 暗褐色土層
- 3 暗褐色土層 黒色灰を含む

Fig.325 130号住居跡竈

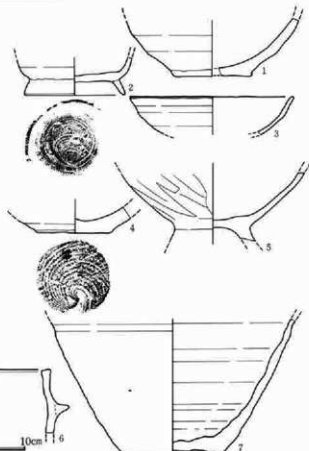


Fig.326 130号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物

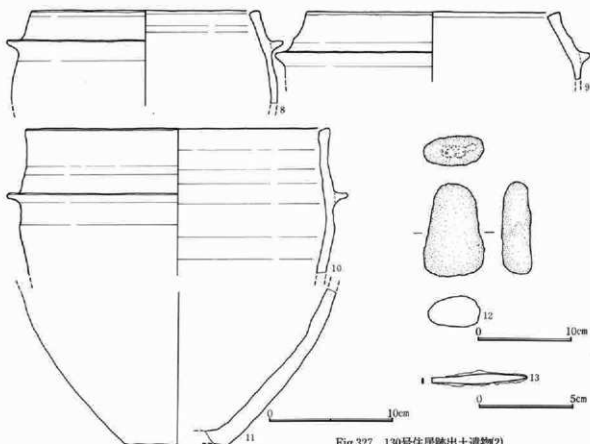


Fig.327 130号住居跡出土遺物(2)

第130号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②胎土	③残存 ④破片
326-1 113	須恵器 坪	底6.0	覆土	底部から口縁部に向かい内湾して立ち上がる	①良好②褐色③細砂粒含む	④破片
326-2 113	須恵器 埴	底-8.0	No 2	付高台底部回転糸切	①良好②灰色③密④底部残存	
326-3 113	灰釉陶器 埴	口-13.0	No 3	口縁部内外面軸口縁部内湾ぎみに立ち上がり肩部弱く外反する	①良好②灰色③密④口縁部残存	
326-4 113	須恵器 坪	底-6.1	No 4	底部回転糸切右廻り	①良好②にぶい黄褐色③4~5mm砂粒含む④底部残存	
326-5 113	土師器 台付壺		No 5	外面ヘラケズリ内面ナデ	①良好②にぶい赤褐色③1~2mm砂粒含む④胴部破片	
326-6 113	羽釜	口-24.0	覆土	胴横を向く口縁部直立ぎみ	①良好②褐色③細砂粒含む④口縁部破片	
326-7 113	羽釜	底-7.9	覆土	外面ヘラ状工具による弱いナデ	①良好②褐色③2~3mmの砂粒含む④底部残存	
327-8 113	羽釜	口-18.0	No 8	踵上を向く口縁部内傾する	①良好②灰色③2~3mmの砂粒含む④口縁部破片	
327-9 113	羽釜	口-20.1	覆土	胴低く横を向く口縁部内傾する	①良好②灰黄色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片	
327-10 113	羽釜	口-24.0	No 10	胴薄くやや上を向く口縁部直立ぎみ	①良好②褐色③3~4mmの砂粒含む④口縁部破片	
327-11 113	土師器 壺	底-8.2	覆土	外面ヘラ状工具による弱いナデ	①良好②にぶい褐色③1~2mm砂粒含む④底部破片	
Fig. 327-12		石 長-9.7cm 幅-3.0cm 厚-3.2cm				
Fig. 327-13 PL. 113		鉄製品 長-5.2cm 厚-1mm 刀子?				

131号住居跡 (Fig. 328・329・330, PL. 26・113・114)

G区中央部に位置し39〜42G25〜27の範囲にある。133号住居跡の北にある。他の遺構との関係は東部で当該住居跡より新しい130号住居跡と重複しており、竪を切り崩されている。また南西コーナーで133号住居跡と

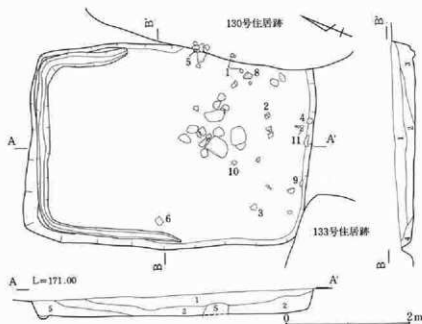


Fig.328 131号住居跡

壁を接している。規模は長辺4.7m、短辺3.3mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約30cm〜40cmを測り、主軸方位はN-72°-Eである。床面は平坦をなす。竪は130号住居跡に壊されるが全床面には石が散布して検出された。床面は灰の散布が見られる。

131号住居跡

- 1 褐色土層 FP、FAを少量含む
- 2 黄褐色土層 FAブロック、炭化物を含む
- 3 黄褐色土層 FAを多量に含む
- 4 灰褐色土層 FAブロックFPを少量含む
- 5 黄褐色土層 FAブロックを少量含む

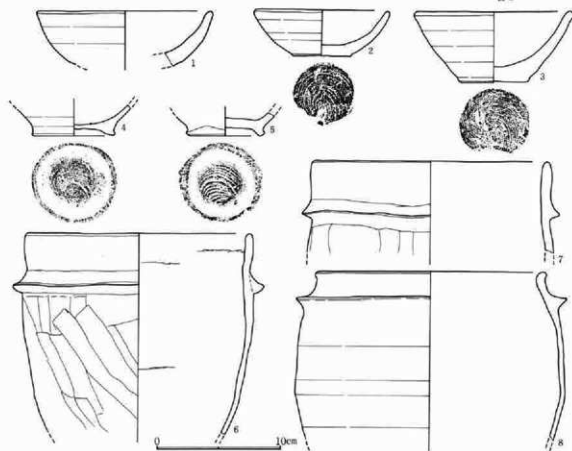


Fig.329 131号住居跡出土遺物1)

第2章 検出された遺構と遺物

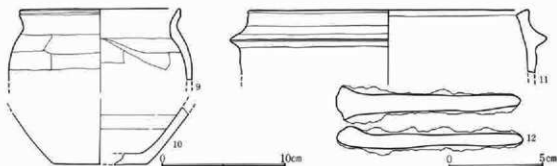


Fig.330 131号住居跡出土遺物(2)

第131号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
329-1 113	須恵器 坏	口-13.8	No.1	口縁部内湾して立ち上がる	①良好②よい褐色③2~3mm砂粒含む④口縁部残存
329-2 113	須恵器 坏	口-14.0 底-4.6	No.2	底部回転糸切り口縁部内湾して立ち上がる	①良好②よい黄褐色③細砂粒含む④残存
329-3 114	須恵器 坏	口-12.4 底-5.2	No.3	底部回転糸切り口縁部内湾ぎみに立ち上がり端部弱く外反する	①良好②淡褐色③2~3mmの砂粒含む④残存
329-4 114	須恵器 埴	底-6.4	No.4	付高台底部回転糸切り	①良好②灰褐色③1~2mmの砂粒含む④底部残存
329-5 114	須恵器 坏	底-5.6	No.5	付高台胎付部のみがむ	①良好②よい褐色③細砂粒含む④底部残存
329-6 114	羽蓋	口-17.7	No.6	踵のみ口縁部直立ぎみ	①良好②よい褐色③1~2mm砂粒含む④口縁部残存
329-7 114	羽蓋	口-18.4	覆土	踵低くゆがむ踵下ヘラケズリ口縁部直立ぎみ	①良好②灰褐色③細砂粒含む④口縁部残存
329-8 114	羽蓋	口-17.8	No.8	踵厚くやや上を向く口縁部内湾する	①良好②赤褐色③3~4mmの砂粒含む④口縁部破片
330-9 114	土師器 壺	口-13.2	No.9	口縁部ココナテ割部ヘラケズリ内側ヘラナデ口縁部外反し端部外面沈み流る	①良好②よい赤褐色③細砂粒含む④口縁部残存
330-10 114	土師器 壺	底-7.2	No.10		①良好②よい赤褐色③細砂粒含む④底部破片
330-11 114	羽蓋	口-21.9	No.11	口縁部内湾し踵横を向く	①良好②灰褐色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片

Fig. 330-12 PL. 113 鉄製品 長-9.9cm 厚-8mm 釘?

132号住居跡 (Fig. 331・332, PL. 26・114)

G区中央部に位置し41~43G22~24の範囲にある。他の遺構との関係は北東部で133・134号住居跡と重複している。新旧関係は133号住居跡が新しく、さらに134号住居跡が新しい。規模、平面形態は不明だが西壁は4.7mを測る。床面は平坦をなし、中央部東壁に近い部分から鉄滓が検出されている。

133号住居跡 (Fig. 331・333・334, PL. 26・114・115)

G区中央部に位置し40~42G23~25の範囲にある。他の遺構との関係は南西部の大半を132号住居跡、南東部を134号住居跡と重複している。新旧関係は132号住居跡より新しく134号住居跡より古い。規模、平面形態は不明であるが北壁は3.6mを測る。北東部で131号住居跡と壁を接している。壁高は約30cmを測る。床面は平坦をなし、貯蔵穴・壁周溝等の諸施設は検出されていない。

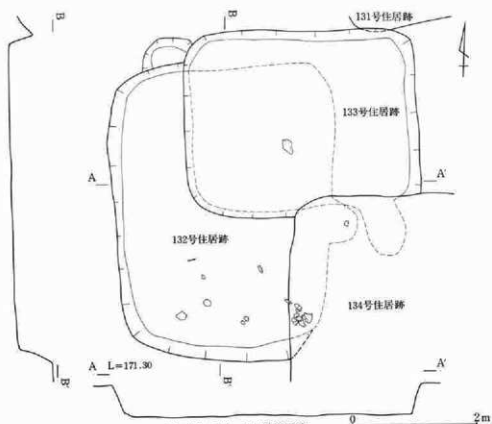


Fig.331 132・133号住居跡

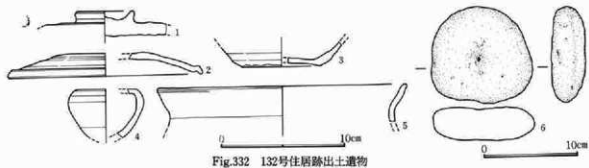


Fig.332 132号住居跡出土遺物

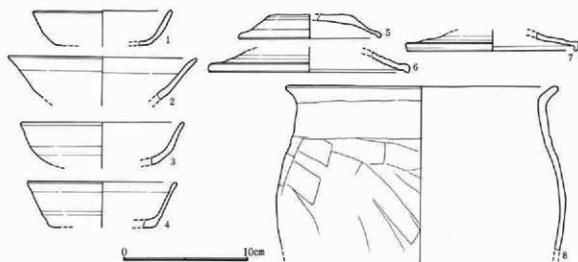


Fig.333 133号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物

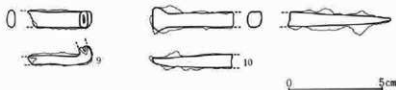


Fig.334 133号住居跡出土遺物(2)

第132号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
332-1 114	須恵器 蓋	径-4.7	覆土	外面回転ヘラ調整	①良好②灰色③密④つまみ部残存
332-2 114	須恵器 坏	口-15.4	覆土	外面回転ヘラ調整	①良好②灰色③細砂粒含む④破片
332-3 114	須恵器 坏	底-6.2	覆土	底部回転糸切	①良好②灰白色③細砂粒含む④底部破片
332-4 114	須恵器 小壺		覆土	胴部内脣する	①良好②灰色③密④破片
332-5 114	土師器 甕	口-19.8	覆土	口縁部内外面コナデ口縁部外反する	①良好②赤褐色③細砂粒含む④口縁部破片
Fig. 332-6 PL. 114 石 長-10.4cm 幅-10.8cm 厚-3.2cm 粗粒安山岩					

第133号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
333-1 114	須恵器 坏	口-11.0	覆土	口縁部から底部へ弱く曲がる	①良好②褐色③細砂粒含む④口縁-底部と残存
333-2 114	須恵器 坏	口-14.8	覆土	口縁部弱く外反する	①良好②灰白色③密④破片
333-3 114	須恵器 坏	口-12.8	覆土	口縁部弱く外脣する	①良好②灰白色③細砂粒含む④口縁部破片
333-4 114	須恵器 坏	口-11.6 高-3.6 底-7.8	覆土	口縁部弱く外脣し轆轤底残る	①良好②灰白色③細砂粒含む④密⑤口縁部破片
333-5 115	須恵器 蓋	口-11.2	覆土	つまみ部に向かい厚くなり平坦面をもつ	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④破片
333-6 115	須恵器 蓋	口-15.8	覆土	端部でやや厚くなり外面にくぼみができる	①良好②灰褐色③1~2mmの砂粒含む④破片
333-7 114	須恵器 蓋	口-13.4	覆土	端部下へ屈曲する外面回転ヘラ調整	①良好②灰白色③密④破片
333-8 114	土師器 甕	口-21.2	覆土	口縁部コの字状を呈し口縁端部外へ屈曲する口縁部コナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②赤褐色③細砂粒含む④口縁部残存
Fig. 334-9 PL. 115 鉄製品 長-3.5cm 厚-4mm 不明					
Fig. 334-10 PL. 115 鉄製品 長-9.8cm 厚-8mm 刀子?					

134号住居跡 (Fig. 335・336・337・338, PL. 26・115)

G区中央部に位置し39~41G21~24の範囲にある。他の遺構との関係は北西部で132・133号住居跡と重複している。新旧関係は他の2住居跡より新しい。規模は長辺4.8m、短辺3.3mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約40cm~50cmを測り、主軸方位はN-84°-Eである。床面は平坦をなし、西壁、南壁の一部に幅約20cm~30cm、深さ約2cm~3cmの周溝が検出された。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約70cm、同長約70cmを測る。

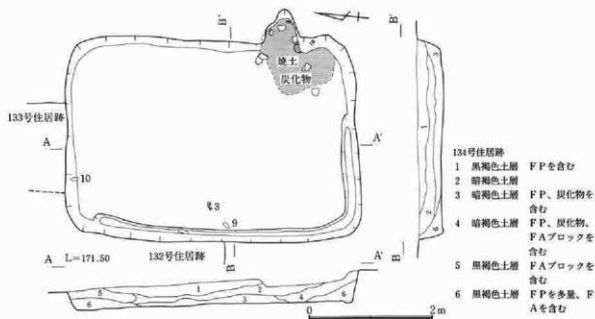


Fig.335 134号住居跡

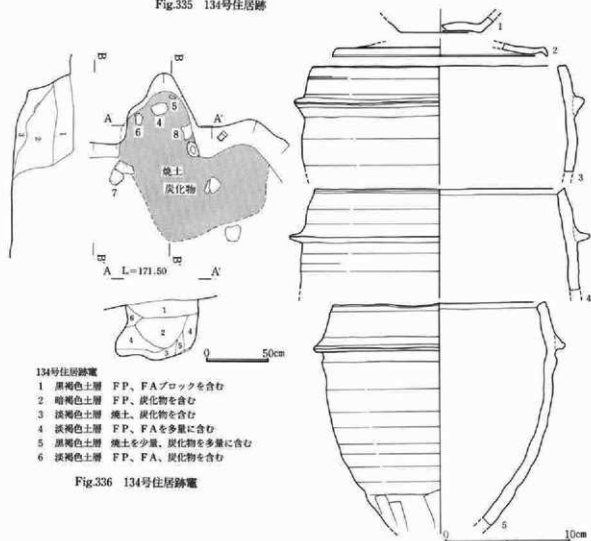


Fig.336 134号住居跡電

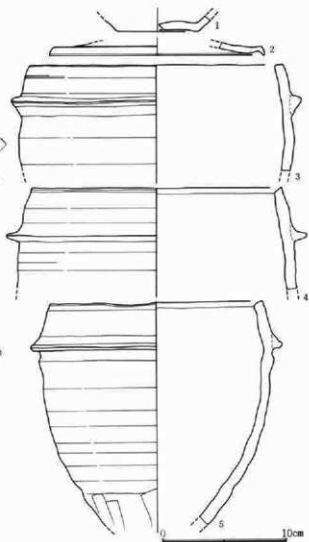


Fig.337 134号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物

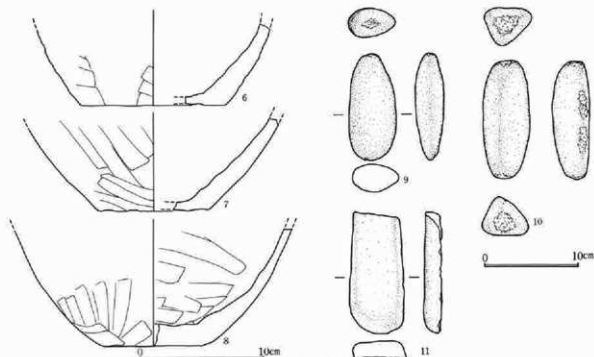


Fig.338 134号住居跡出土遺物(2)

第134号住居跡出土遺物観察表

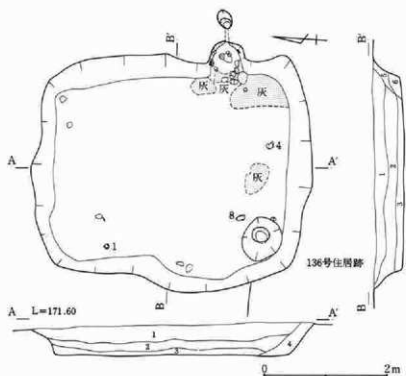
Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
337-1 115	須恵器 坏	底-6.4	覆土	底部回転糸切	①良好②褐色③細砂粒含む④底部破片
337-2 115	須恵器 蓋	口-17.0	覆土	外面回転ヘラ調整	①良好②灰色③細砂粒含む④破片
337-3 115	羽釜	口-20.0	No 3	肩低く上を向く口縁部内傾する	①良好②にぶい橙色③1~2mm砂粒含む④口縁部破片
337-4 115	羽釜	口-19.7	No 4	肩薄く横を向く口縁部内傾する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部破片
337-5 115	羽釜	口-16.7	No 5	肩低く下を向く下割部ヘラケズリ口縁部内傾する	①良好②褐色③細砂粒含む④口縁-割部破片
338-6 115	土師器 甕	底-11.3	No 6	外面ヘラケズリ	①良好②褐色③3~4mmの砂粒含む④底部破片
338-7 115	土師器 甕	口-8.7	No 7	外面ヘラケズリ内面ナデ	①良好②にぶい赤褐色③3~4mm砂粒含む④底部破片
338-8 115	土師器 甕	底-7.8	No 8	外面ヘラケズリ内面ヘラナデ	①良好②淡褐色③細砂粒含む④底部破片
Fig. 338-9 PL. 115	石	長-11.4cm 幅-3.0cm 厚-3.0cm	先端部に使用痕	粗粒安山岩	
Fig. 338-10 PL. 115	石	長-12.4cm 幅-5.0cm 厚-4.0cm		粗粒安山岩	
Fig. 338-11 PL. 115	石	長-12.8cm 幅-5.8cm 厚-1.9cm		粗粒安山岩	

135号住居跡 (Fig. 339・340・341・342, PL. 26・27・115・116)

G区中央部に位置し39~42G19~21の範囲にある。他の遺構との関係は南西部で136号住居跡と重複している。新旧関係は136号住居跡より新しい。規模は長辺4.55m、短辺3.8mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約40cm~50cmを測り、主軸方位はN-88°-Eである。床面は平坦をなし壁周溝等の諸施設は検出されていない。南西コーナーに約70cm×60cm、深さ約35cmの小穴が検出された。北東コーナーにも小穴が検出され規模は約30cm×20cm、深さ約20cmを測る。また北西コーナーに約20cmの落ち込みが検出された。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約50cm、同長約60cm、煙道部長約50cmを測る。煙道部は煙り出しの小

第1節 竪穴住居跡

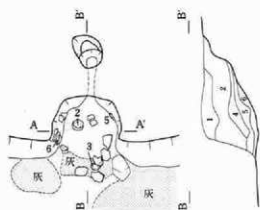
穴が検出されている。右側袖部に石が検出されている。



135号住居跡

- 1 黒褐色土層 F Pを少量に含む
- 2 暗褐色土層 F Pを少量含む
- 3 褐色土層
- 4 黄褐色土層 砂質土
- 5 暗褐色土層 F Pを少量含む
- 6 黄褐色土層

Fig.339 135号住居跡



A L=171.60 A'



135号住居跡竈

- 1 淡褐色土層 F Pを多量に含む
- 2 淡褐色土層 F Pを少量含む
- 3 淡褐色土層 焼土を含む
- 4 淡褐色土層 FAを含む
- 5 淡褐色土層 F Pを少量含む
- 6 淡褐色土層 FA、焼土を含む

Fig.340 135号住居跡竈

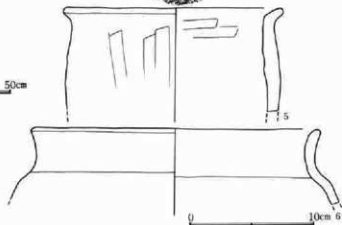
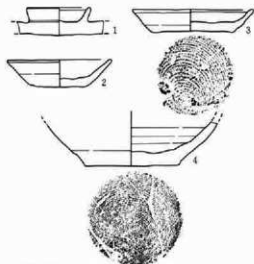


Fig.341 135号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物

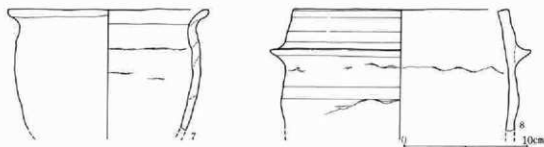


Fig.342 135号住居跡出土遺物(2)

第135号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②胎土 ③底 ④残存
341-1 115	須恵器 蓋	径-5.2	No.1		①良好②灰色③密④つまみ部残存
341-2 115	須恵器 坏	口-8.3	No.2	底部ナゲ調整糸切痕見えず	①良好②よい橙色③細砂粒含む④残存
341-3 115	須恵器 皿	口-9.6	No.3	底部回転糸切右廻り	①良好②よい橙色③細砂粒含む④残存
341-4 116	須恵器 坏	底-7.4	No.4	底部回転糸切右廻り	①良好②よい黄橙色③細砂粒含む④底部残存
341-5 116	土師器 壺	口-17.5	No.5	外面ヘラケズリ内面ナゲ口縁部短く外側へ屈曲する	①良好②褐色③2~3mmの砂粒含む④口縁部破片
341-6 115	土師器 壺	口-23.0	No.6	口縁部内外面ヨコナゲ口縁部外反する	①良好②褐色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
342-7 115	土師器 壺	口-16.0	No.7	外面ヘラケズリ磨滅ひどく不明瞭内面輪横口縁部外反する	①軟質②よい赤褐色③2~3mm砂粒含む④口縁部破片
342-8 115	羽釜	口-17.0	No.8	口縁部やや内傾し内外面に輪横残る	①良好②褐色③細砂粒含む④口縁部残存

136号住居跡 (Fig. 343・344・PL. 27・116)

G区中央部に位置し40~42G17~19の範囲にある。他の遺構との関係は北東部に135号住居跡と重複している。新旧関係は135号住居跡が新しい。規模は長辺3.4m、短辺2.85mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約10cm~15cmを測り、主軸方位はN-88°-Eである。床面は平坦をなし、南東コーナーに約60cm×50cm、深さ約15cmの小穴が検出された。竈は東壁南寄りに検出された。規模は袖幅約50cm、燃焼部長約50cmを測る。竈の両袖部に袖材の石が検出された。



Fig.343 136号住居跡

136号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 F P、焼土を少量含む
- 2 黒褐色土層 焼土、炭化物を含む
- 3 暗褐色土層 F P、F Aを含む
- 4 暗褐色土層 焼土、炭化物、F Aブロックを含む

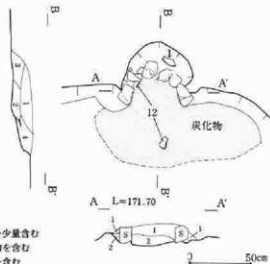


Fig.344 136号住居跡竈

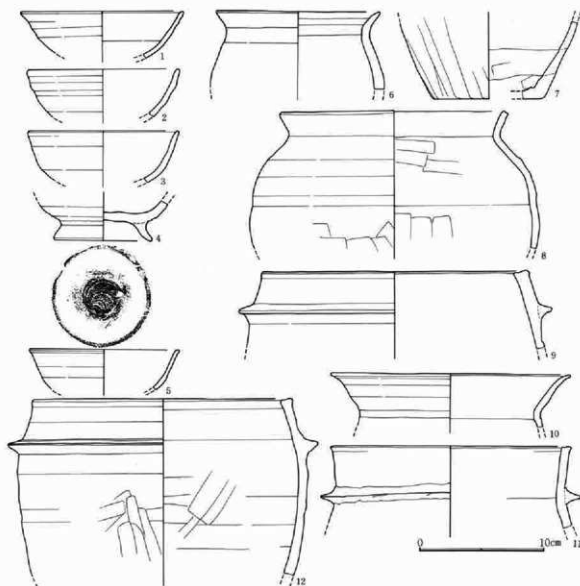


Fig.345 136号住居跡出土遺物

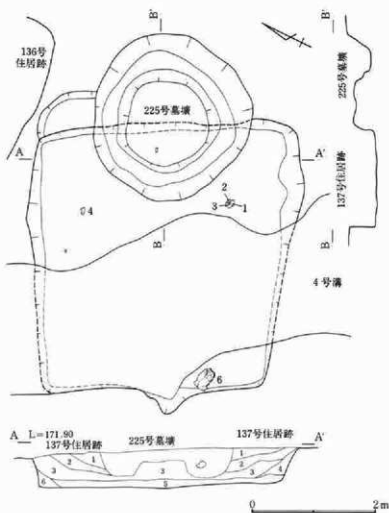
第136号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ③胎土 ④残存	②色調 ④残存
345-1 116	須恵器 坏	口-12.8	No.1	外面轆轤成形痕残る口縁部内湾して立ち上がる	①良好②褐色③2~3mmの砂粒含む④口縁部残存	
345-2 116	須恵器 坏	口-12.6	覆土	口縁部内湾して立ち上がる	①良好②褐色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片	
345-3 116	須恵器 坏	口-16.0	覆土	腹やかに内湾する	①良好②灰色③2~3mmの砂粒含む④口縁部破片	
345-4 116	須恵器 埴	底-7.6	覆土	やや足高台底部回転糸切	①良好②褐色③1~2mmの砂粒含む④底部残存	
345-5 115	灰物陶器 埴	口-12.0	覆土	口縁端部短く屈曲する	①良好②灰白色③密④口縁部破片	
345-6 116	土師器 壺	口-13.0	覆土	口縁部外傾し胴部に向かい器壁厚くなる口縁部ヨコナゲ内面ナデ	①良好②におい褐色③細砂粒含む④口縁部破片	
345-7 116	羽釜	底-8.6	覆土	外面ヘラケズリ内面ヘラナデ	①良好②明褐色③2~3mmの砂粒含む④底部残存	
345-8 116	土師器 壺	口-17.7	覆土	口縁先端部沈線入る口縁部ヨコナゲ裏下部ヘラケズリ内面ヘラナデ後ナゲ口縁部外反する	①良好②におい褐色③細砂粒含む④口縁部残存	

第2章 検出された遺構と遺物

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
345-9 116	羽蓋	口-21.0	覆土	口縁部内傾する脚儀を向き丁寧な調整	①良好②褐色③細砂粒含む④口縁部破片
345-10 116	土部器 壺	口-19.0	覆土	口縁先端部弱く屈曲する口縁部ココナデ	①良好②褐色③細砂粒含む④口縁部破片
345-11 116	羽蓋	口-19.0	覆土	口縁部弱く外傾し脚儀を跨下からやや割部膨らむ 口縁部ココナデ割部ヘラズリ内面ナデ	①良好②褐色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
345-12 116	羽蓋	口-20.6	No12	口縁部内傾し脚儀を向く割部ヘラズリ内面ヘラ ナデ	①良好②褐色③2~3mmの砂粒含む④破片

137号住居跡 (Fig. 346・347, PL. 27・116・117)



- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 137号住居跡 | 225号墓墳 (P 269) |
| 1 暗褐色土層 FP、FAを少量含む | 1 暗褐色土層 炭化物を多量に含む |
| 2 灰褐色土層 FAを含む | 2 暗褐色土層 炭化物を少量含む |
| 3 暗褐色土層 FPを含む、FAを少量含む | 3 暗褐色土層 |
| 4 灰褐色土層 FAを多量に含む | |
| 5 灰褐色土層 FA、FPを含む | |
| 6 暗褐色土層 FAブロックを含む | |

Fig.346 137号住居跡・225号墓墳

G区中央部に位置し40~42G 15~17の範囲にある。136号住居跡の南にある。他の遺構との関係は東部で154号土坑、225号墓墳と重複している。新旧関係は154号土坑より新しく225号墓墳より古い。また中央の大半を住居跡より新しい4号溝により壊されている。規模、平面形態は不明であるが東壁は4.5mを測る。壁高は約40cmを測り、床面は平坦をなし、貯蔵穴・壁周溝等の諸施設は検出されていない。

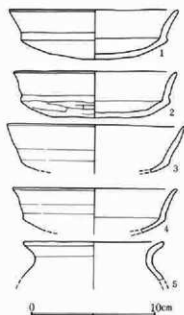


Fig.347 137号住居跡出土遺物(1)

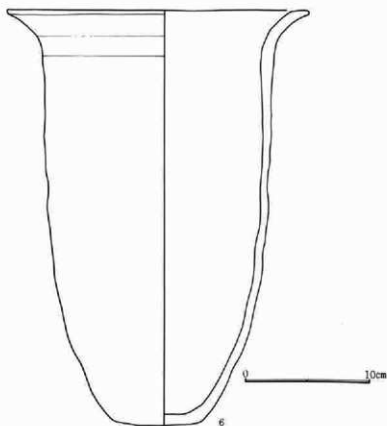


Fig.348 137号住居跡出土遺物(2)

第137号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ③胎土	②色調 ④残存
347-1 116	土師器 坏	口-13.4	No.1	口縁部ヨコナゲ体部ヘラケズリ内面ナゲ口縁部壁をもち外反する	①良好	②明褐色③細砂粒含む④残存
347-2 116	土師器 坏	口-13.0	No.2	口縁部ヨコナゲ体部ヘラケズリ内面ナゲ口縁部壁をもち外反する	①良好	②明褐色③細砂粒含む④残存
347-3 116	土師器 坏	口-14.0	No.3	口縁部ヨコナゲ体部ヘラケズリ内面ナゲ口縁部壁をもち外傾する	①良好	②にぶい褐色③細砂粒含む④口縁部破片
347-4 116	土師器 坏	口-13.0	No.4	口縁部ヨコナゲ体部ヘラケズリ内面ナゲ口縁部壁をもち外反する	①良好	②明褐色③細砂粒含む④口縁部破片
347-5 116	土師器 壺	口-11.0	覆土	口縁部外湾する	①良好	②にぶい赤褐色③細砂粒含む④口縁部破片
348-6 117	土師器 壺	口-24.0 底-6.9	No.6	口縁先端部やや厚く外湾する口縁部ヨコナゲ胴部ヘラケズリ後全面ナゲが入る内面ナゲ	①やや軟質②褐色③1~2mmの砂粒含む④残存	

138号住居跡 (Fig. 349・350・351、PL. 27・28・116・117・118)

G区東部に位置し36~38G15・16の範囲にある。137号住居跡の南西にある。他の遺構との重複関係はない。規模は長辺3.8m、短辺3.4mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約40cm~50cmを測り、主軸方位はN-82°-Eである。床面は平坦をなし、貯蔵穴・壁周溝等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は袖幅約60cm、燃焼部長約40cm、煙道部長約40cmを測る。

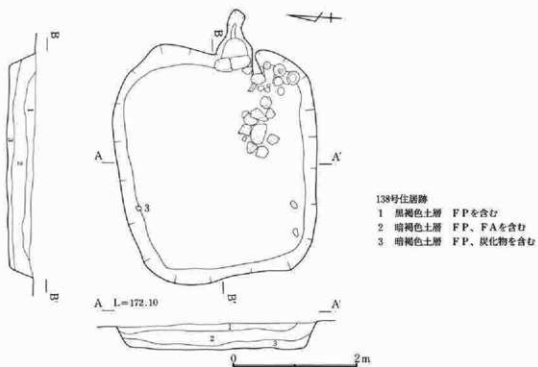


Fig.349 138号住居跡

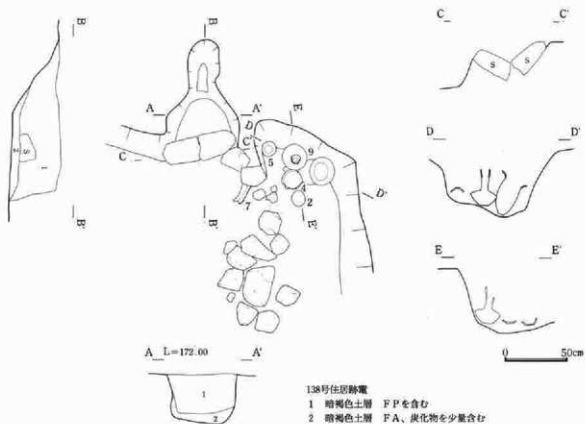


Fig.350 138号住居跡竈

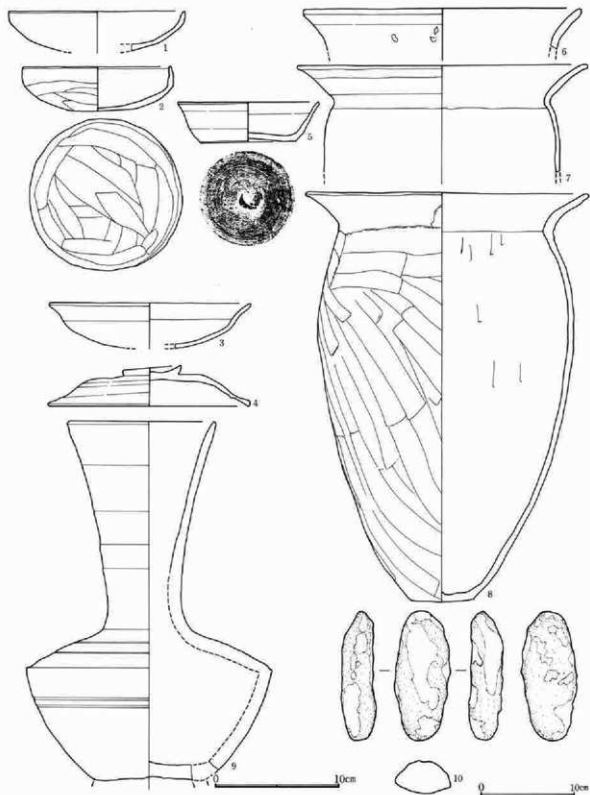


Fig.351 138号住居跡出土遺物

第138号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No	器 種 器 形	計 測 値 (cm)	出土位置	成 形 及 び 調 整 の 特 徴	①焼成 ②色調 ③治土 ④残存
351-1 116	土 師 器 環	口-14.0	覆 土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部直 立きみ	①良好②濃い褐色③細砂 粒含む④破片
351-2 116	土 師 器 環	口-11.7 高-3.5	No 2	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部直 立きみ	①良好②褐色③細砂粒含む ④完形
351-3 117	土 師 器 環	口-16.0	No 3	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部様 をもち外反する	①良好②灰色③細砂粒含む ④写残存
351-4 117	須 恵 器 蓋	口-15.8 高-4.0	No 4	内面返りがある外面回転ヘラ調整	①良好②灰色③細砂粒含む ④ほぼ完形
351-5 116	須 恵 器 環	口-11.2 高-3.1 底-7.5	No 5	底部回転ヘラ切換回転ヘラ調整口縁部直線状に外 傾する	①良好②灰色③細砂粒含む が密④ほぼ完形
351-6 116	土 師 器 壺	口-22.0	覆 土	口縁部ヨコナデ口縁部外反する	①良好②褐色③細砂粒含む ④口縁部破片
351-7 118	土 師 器 壺	口-23.0	No 7	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ口縁部外 反する	①良好②褐色③細砂粒含む ④口縁部写残存
351-8 117	土 師 器 壺	口-22.4 高-32.4 底-5.0	覆 土	口縁部やや厚く外傾する口縁部ヨコナデ胴部ヘラ ケズリ内面ナデヘラ直残る	①良好②赤褐色③1-2mm の砂粒含む④完形
351-9 117	須 恵 器 長 頸 壺	口-11.8	No 9	口縁部緩やかに外傾する体部上下段2本の沈線が 入る底部付着台穴落	①良好②灰色③細砂粒含む が密④口縁部高台部欠損

Fig. 351-10 PL. 117 石 長-13.7cm 幅-3.3cm 厚-3.4cm 石英閃緑岩

139号住居跡 (Fig. 352・353・354, PL. 28・117・118)

G区中央部に位置し50・51G20～22の範囲にある。他の遺構との関係は北東コーナーで242号土坑、北壁で246号土坑、南壁で140号住居跡と重複している。新旧関係は土坑より139号住居跡が新しい。規模は長辺3.3m、短辺3mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約20cmを測り、主軸方位はN-91°-Eである。床面は平坦をなし、幅約10cm、深さ約5cm～6cmの壁周溝が検出された。南西コーナー、北東コーナーに小穴が検出され各々1号・2号とした。1号は径約80cm、深さ約20cmを測り、2号は径約50cm、深さ約20cmを測る。1号小穴覆土内からは大型の石が検出されている。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約50cm、同長約60cmを測る。

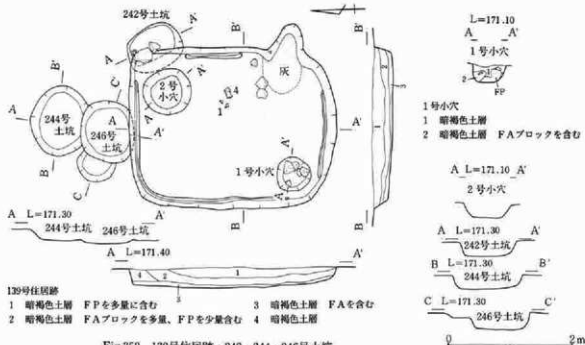


Fig.352 139号住居跡・242・244・246号土坑

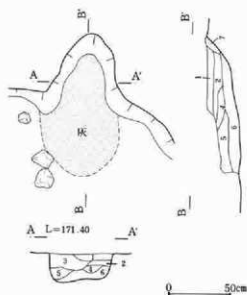


Fig.353 139号住居跡電

139号住居跡電

- 1 淡褐色土層 FAを含む
- 2 暗褐色土層 焼土、炭化物を含む
- 3 暗褐色土層 焼土、炭化物を多量に含む
- 4 暗褐色土層 FA、焼土を少量含む
- 5 淡褐色土層 FAブロックを含む
- 6 淡褐色土層 FAブロック、焼土、炭化物を含む
- 7 淡褐色土層 焼土、炭化物を多量に含む

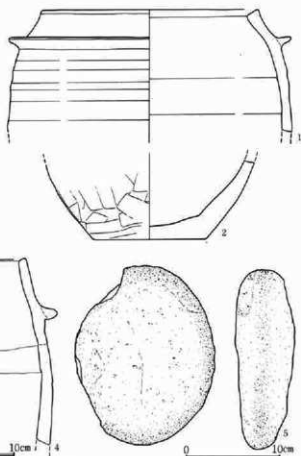


Fig.354 139号住居跡出土遺物

第139号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
354-1 118	羽釜	口-17.2	No.1	口縁部内湾する脚上を向く胴部輪襷調整痕跡	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含む④口縁部残存
354-2 117	須恵器 椀	底-8.8	覆土	外面ヘラケズリ内面ナデ	①良好②褐色③1~2mmの砂粒含む④底部破片
354-3 118	須恵器 坏	口-14.8	覆土	口縁部に向い特く外湾する	①良好②よい黄褐色③細砂粒含む④口縁部破片
354-4 118	羽釜	口-22.4	No.4	口縁部腰やかに内傾する脚断面丸みをもち下を向く胴部ヘラケズリ	①良好②鈍い赤褐色③1~2mm砂粒含む④口縁-胴部破片
Fig. 354-5 PL. 117 石長-19.2cm 幅-6.4cm 厚-6.4cm 石英閃緑岩					

140号住居跡 (Fig. 355・356・357・358, PL. 28・118)

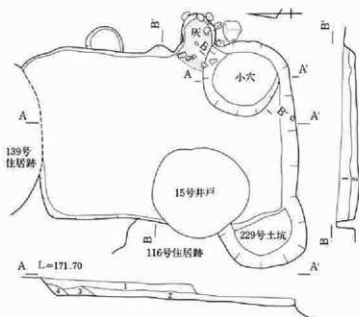
G区中央部に位置し50・51G18~20の範囲にある。97号住居跡の北にある。他の遺構との関係は北壁で139号住居跡、南西コーナーで229号土坑と重複している。新旧関係は139号住居跡より旧く、土坑より新しい。

第2章 検出された遺構と遺物

また住居跡より新しい15号井戸が床を壊している。規模は長辺4.4m、短辺2.8mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は南壁で約30cm、他の壁は約10cmを測る。主軸方位はN-89°-Eである。南東コーナー竈脇に小穴が検出された。規模は径約120cmの円形を呈し深さ約25cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。規模

は燃焼部幅約55cm、同長約60cmを測る。

竈の壁に沿って石が検出された。



A L=171.70 小穴 A'



B L=171.40 小穴 B'



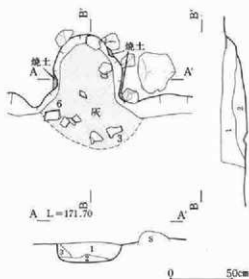
小穴

- 1 淡褐色土層 炭化物を少量含む
- 2 淡褐色土層 FAブロックを含む
- 3 灰褐色土層 焼土、FAを含む

140号住居跡

- 1 黒褐色土層 FPを多量に含む
- 2 暗褐色土層 FAを含む
- 3 褐色土層 FAブロックを含む
- 4 褐色土層 FAを多量に含む

Fig.355 140号住居跡



140号住居跡竈

- 1 灰褐色土層 FPを含む
- 2 暗褐色土層 焼土、炭化物を含む
- 3 暗褐色土層 焼土、炭化物を多量に含む

Fig.356 140号住居跡竈

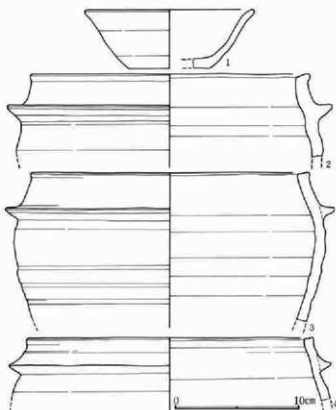


Fig.357 140号住居跡出土遺物(1)

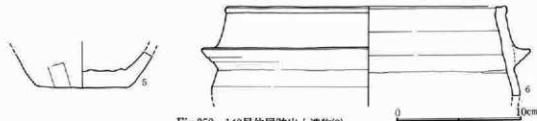


Fig.358 140号住居跡出土遺物(2)

第140号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①構成 ②胎土	③色調 ④残存
357-1 118	須恵器 坏	口-13.4 高-4.6 底-6.2	覆土	口縁部でやや外湾する	①良好②灰色③1~2mmの 砂粒含む④口縁~底部破片	
357-2 118	羽蓋	口-22.0	覆土	口縁端部外側へ屈曲する跡を向く	①良好②褐色③1~2mmの 砂粒含む④口縁部破片	
357-3 118	羽蓋	口-22.0	No.3	口縁部内傾する内外両面に難離調整痕明瞭跡を向く	①良好②褐色③細砂粒含む ④口縁部破片	
357-4 118	羽蓋	口-22.6	覆土	鋭三角形で横を向く口縁部内傾する	①良好②褐色③2~3mmの 砂粒含む④口縁部破片	
358-5 118	土師器 甕	底-7.4	覆土	内外面へウナダ痕	①良好②褐色③1~2mmの 砂粒含む④底部残存	
358-6 118	羽蓋	口-23.0	No.6	口縁端部で外側へやや外湾する跡を向く内面へウナダ	①良好②褐色③細砂粒含む ④口縁部残存	

145号住居跡 (Fig. 359・360・361, PL. 28・29・119)

G区南部に位置し45°47'G 2~4の範囲にある。95号住居跡の西にある。他の遺構との関係は北西部で96号住居跡と重複している。新旧関係は96号住居跡が新しい。また住居跡内南に145号住居跡より新しい13号井戸があり床面を壊されている。規模は長辺4.9m、短辺4.7mを測り、平面形態は隅丸方形を呈するものと思わ

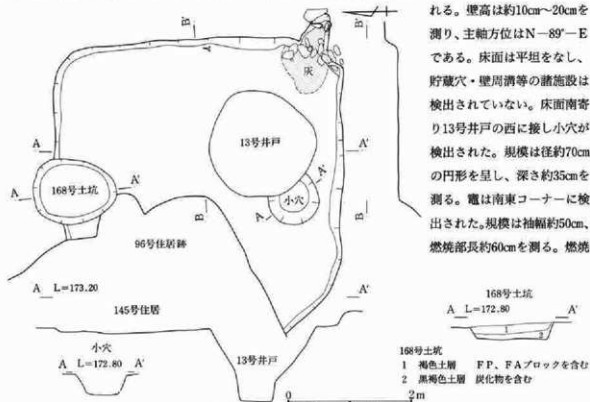
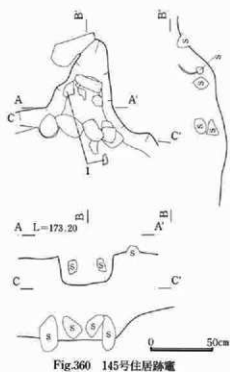


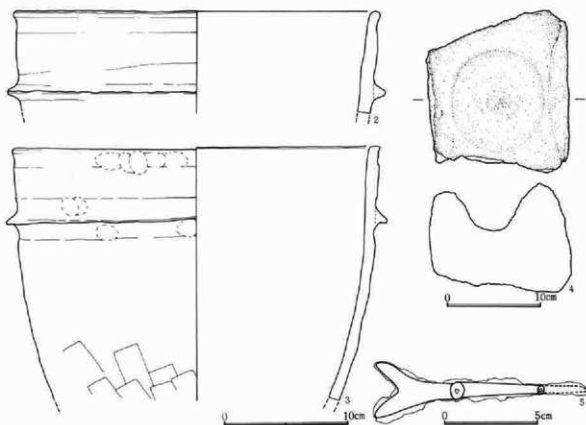
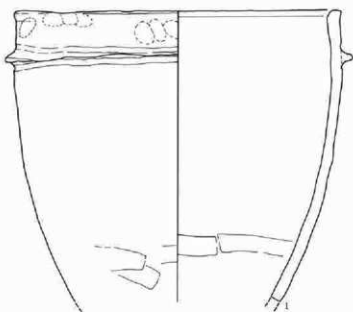
Fig.359 145号住居跡・168号土坑

れる。壁高は約10cm~20cmを測り、主軸方位はN-89°Eである。床面は平坦をなし、貯蔵穴・壁周溝等の諸施設は検出されていない。床面南寄り13号井戸の西に接し小穴が検出された。規模は径約70cmの円形を呈し、深さ約35cmを測る。甕は南東コーナーに検出された。規模は袖幅約50cm、燃焼部長約60cmを測る。燃焼

- 168号土坑
1 褐色土層 F.P.、F.Aブロックを含む
2 黒褐色土層 炭化物を含む



部両袖部には袖石が検出され燃焼部内にも石が検出された。

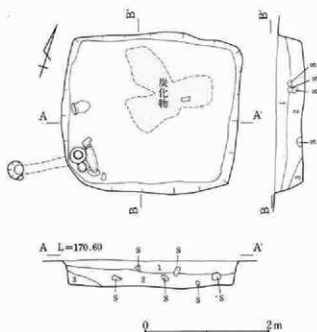


第145号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. Pl. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ③胎土	②色調 ④残存
361-1 119	甕	口-25.8	No.1	口縁部指頭状低く口縁部直線状に立ち上がる。胴下部へラナダ内面へラナダ	①良好②赤褐色③1~2mm砂粒含む④口縁~胴部に残存	
361-2 119	甕	口-28.5	覆土	口縁部直線状に立ち上がる。筒状の横を向く	①良好②ふいね色③1~2mm砂粒含む④口縁部に残存	
361-3 119	甕	口-29.0	覆土	口縁部指頭状胴下部へラケズリ口縁部直立する	①良好②ふいね色③細砂粒含む④口縁~胴部に残存	
Fig. 361-4	PL. 119	石 長-17.1cm 幅-14.9cm 厚-13.2cm	くほみ石 角閃石安山岩			
Fig. 361-5	PL. 119	鉄製品 長-11.5cm 厚-3~9mm	鏃			

146号住居跡 (Fig. 362・363・364, PL. 29・119・120)

G区北西部に位置し57~59G26~28の範囲にある。104号住居跡の西にある。他の遺構との重複関係はない。規模は長辺3m、短辺2.6m、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約30cm~40cmを測り、主軸方位はN-106°-Wである。床面は平坦をなし、中央部に広い範囲で炭化物が散布している。竈は西壁南西コーナーに近い位置に検出された。長軸の方向は住居跡の主軸方位にほぼ平行している。規模は袖幅約50cm、燃焼部長約20cm、煙道部長約90cmを測り、煙出しの小穴が検出された。両袖部には石が検出され、燃焼部前面からも石が検出された。



146号住居跡

- 1 暗褐色土層 FAを含む
- 2 暗褐色土層 FA、FPを含む
- 3 淡褐色土層

146号住居跡竈

- 1 黒褐色土層 FAブロックを含む
- 2 塊土ブロック
- 3 暗褐色土層 FAを含む
- 4 暗褐色土層 FAを多量に含む
- 5 暗褐色土層 FA、FPを含む
- 6 暗褐色土層 FAブロックを多量に含む

Fig.362 146号住居跡

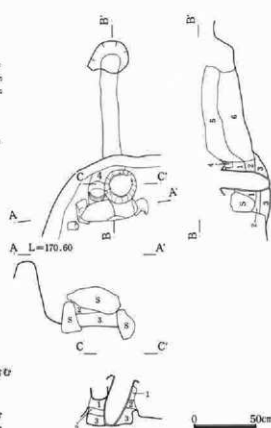


Fig.363 146号住居跡竈

第2章 検出された遺構と遺物

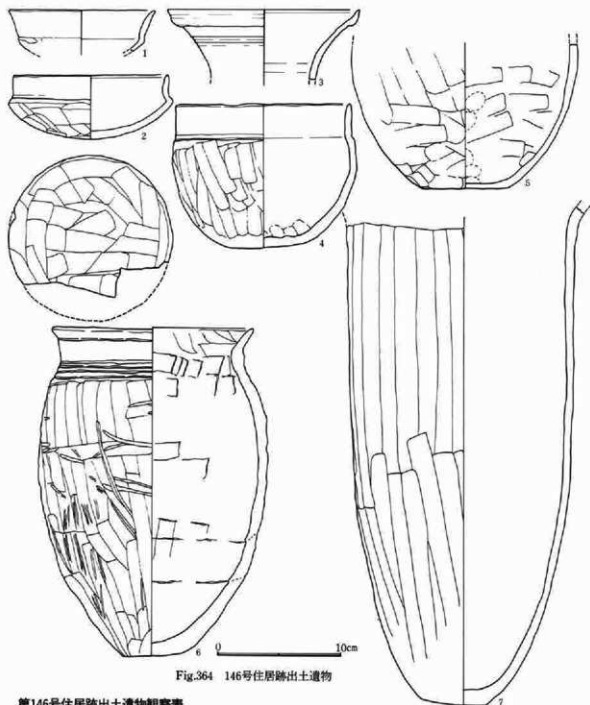


Fig.364 146号住居跡出土遺物

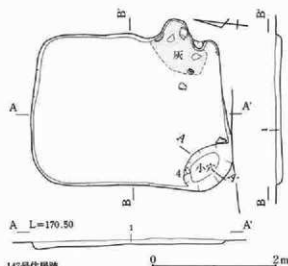
第146号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②土質 ③胎土 ④残存
364-1 119	土師器 坏	口-11.5	覆土	口縁部弱く外傾する口縁部ヨコナゲ体部ヘラケズリ内面ナゲ	①良好②明褐色③細砂粒含むが密④口縁部破片
364-2 119	土師器 坏	口-12.1 高-5.1	覆土	口縁部やや内湾ぎみに立ち上がる口縁部ヨコナゲ体部ヘラケズリ内面ナゲ	①良好②にぶい褐色③細砂粒含む④片残存
364-3 119	須恵器 甕	口-15.2	覆土	口縁部折返し段をもつ口縁部下に2本の沈線	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
364-4 120	土師器 甕	口-13.8 高-11.3	No 4	口縁部直立する底部は丸底を呈する口縁部ヨコナゲ胴部ヘラケズリ内面ナゲ底部ヘラナゲ底	①良好②褐色③1~2mmの砂粒含む④完形
364-5 120	土師器 甕	底-6.6	覆土	胴部やや丸みをもつ外面ヘラケズリ内面ヘラナゲ指頭痕	①良好②にぶい褐色③1~2mm砂粒含む④胴部残存

Fig. No. Pl. No.	器種 器形	計測 値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①構成 ②胎土 ③胎土 ④残存
364-6 120	土師器 甕	口-15.8 底-4.7	覆土	口縁部コナデ割部ヘラケズリ内面ヘラナデヘラ 痕残る口縁部外反する	①良好②によい橙色③3 ~4mmの砂粒含む④完形
364-7 120	土師器 長甕	底-5.2	覆土	口縁部下から直線状に下がる外面ヘラケズリ内面 ナデ内外面厚付き	①良好②によい橙色③2 ~3mm砂粒含む④口縁部欠損

147号住居跡 (Fig. 365・366・367, PL. 29・120)

G区北西部に位置し55・56G28~30の範囲にある。104号住居跡の北にあり、南壁を104号住居跡と接している。規模は長辺3.25m、短辺2.5mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約10cmを測り、主軸方位はN-82'-Eである。床面は平坦をなし、南西コーナーに小穴が検出された。規模は約100cm×60cm、深さ約15cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約80cm、同長約50cmを測る。



147号住居跡

1 暗褐色土層 FAを含む

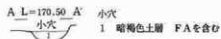
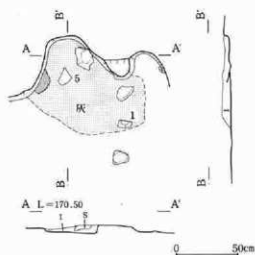


Fig.365 147号住居跡



147号住居跡竈

1 暗褐色土層

Fig.366 147号住居跡竈

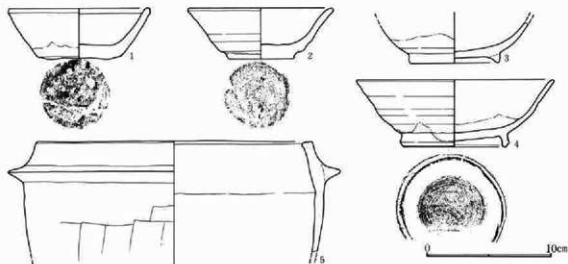


Fig.367 147号住居跡出土遺物

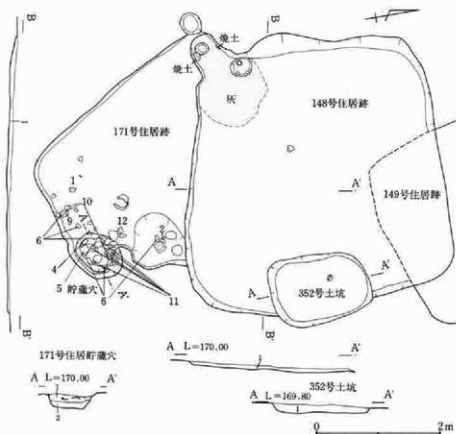
第147号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No	器種 器形	計測 径(cm)	出土位置	成 形 及 び 調 整 の 特 徴	①構成 ②胎土 ③胎土 ④残存
367-1 120	須恵器 杯	口-11.0 高-3.9 底-5.0	No 1	細く内湾ぎみに立ち上がり底部凹凸が多い	①良好②残黄褐色③細砂粒 含む④残存
367-2 121	須恵器 杯	口-11.4 高-4.0 底-5.2	覆土	底部厚くなる口縁部やや外湾する底部回転糸切右 廻り	①良好②灰白色③細砂粒 含む④残存
367-3 120	灰釉陶器 埴	底-7.0	覆土	付高台底部回転糸切外面軸	①良好②灰白色③密④底部 破片
367-4 120	灰釉陶器 埴	口-15.6 高-5.3 底-8.0	No 4	付高台底部回転調整内外面軸内側底輪の切れ目に トチンコン	①良好②灰白色③密④残 存
367-5 120	羽蓋	口-21.8	No 5	口縁部内湾する脚機を向き踏下内湾する	①良好②赤褐色③2-3mm の砂粒含む④口縁部破片

148号住居跡 (Fig. 368・369・370, PL. 29・30・119・120・121)

G区北西部に位置し57-59G34-37の範囲にある。184号住居跡の西にある。他の遺構との関係は南部で171号住居跡、北部で149号住居跡と重複しており、東壁で352号土坑と重複している。新旧関係は149・171号住居跡より新しく、352号土坑より新しい。規模は長辺4.6m、短辺3.9mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約5cm-10cmを測り、主軸方位はN-165°-Wである。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。電は南西コーナーに検出された。規模は燃焼部幅約60cm、同長約70cm、煙道部長約40cmを測る。住居跡コーナーに検出された電長軸方位は住居跡長軸より西にずれその方位はN-113°-Wである。

171号住居跡 (Fig. 368・371・372, PL. 36・132・133)



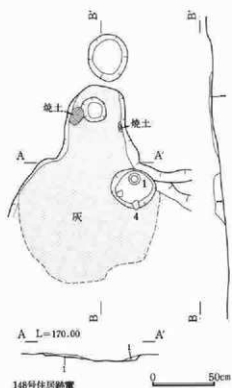
G区北西部に位置し56・57G33-35の範囲にある。184号住居跡の西にある。規模、平面形態は不明であるが、南壁は4mを測る。床面は平坦をなし、北東コーナーに貯蔵穴を検出した。電は検出されておらず148号住居跡に切り崩されている。右袖部には痕跡と思われる地山の掘り残しが確認された。

148号住居跡
1 暗褐色土層

352号土坑
1 暗褐色土層

171号住居跡貯蔵穴
1 暗褐色土層
2 暗褐色土層 F Aを含む

Fig.368 148・171号住居跡・352号土坑



148号住居跡電

1 暗褐色土層 焼土を含む

Fig.369 148号住居跡電

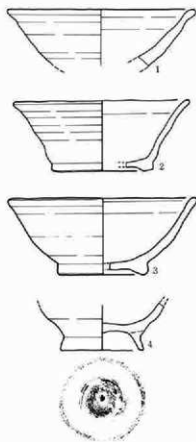


Fig.371 171号住居跡出土遺物(1)

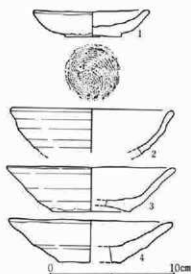
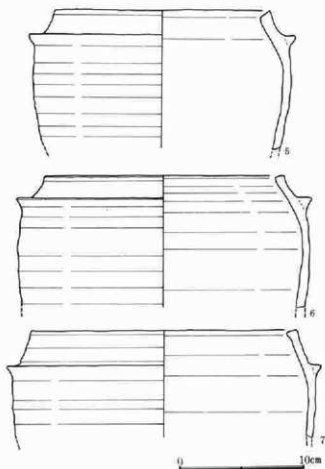


Fig.370 148号住居跡出土遺物



第2章 検出された遺構と遺物

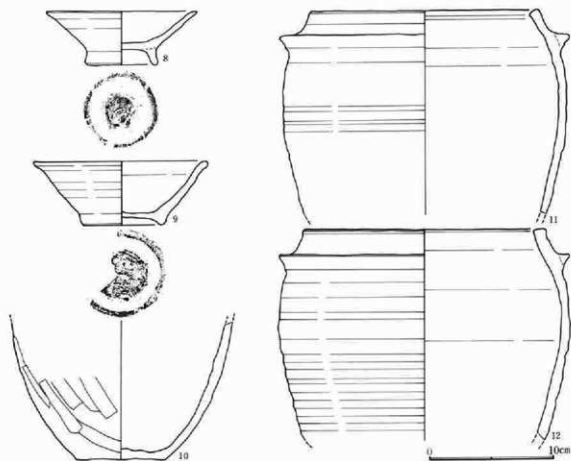


Fig.372 171号住居跡出土遺物(2)

第148号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
370-1 121	須恵器 坏	口-9.15 底-4.4	高-2.1 No 1	底部回転糸切り廻り口縁部写程度煤により黒色	①良好②褐色③3~4mmの 砂粒含む④突起
370-2 119	須恵器 坏	口-13.0	覆土	口縁部内湾して立ち上がる	①良好②灰白色③細砂粒含 む④破片
370-3 121	須恵器 坏	口-13.4 底-6.4	高-3.5 覆土	底部回転糸切り口縁部弱く外湾する	①良好②にぶい褐色③細砂 粒含む④残存
370-4 120	須恵器 坏	口-13.0 底-4.9	高-3.3 No 4	口縁部直線状に外傾する	①良好②にぶい褐色③1 ~2mmの砂粒含む④破片

第171号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
371-1 132	須恵器 埴	口-15.0	No 1	口縁部弱く外湾する	①良好②にぶい褐色③細砂 粒含む④口縁部破片
371-2 132	須恵器 坏	口-14.0	高-5.5 No 2	口縁部弱く外傾する付高台	①良好②にぶい赤褐色③2 ~3mmの砂粒含む④残存
371-3 132	須恵器 埴	口-15.0 底-6.7	高-6.0 覆土	口縁部弱く外傾する付高台	①良好②にぶい黄褐色③1 ~2mmの砂粒含む④残存
371-4 132	須恵器 埴	底-6.5	No 4	付高台	①良好②にぶい褐色③2 ~3mm砂粒含む④底部残存
371-5 132	羽釜	口-17.0	No 5	口縁部内湾する肩上を向く	①良好②褐色③2~3mm の砂粒含む④口縁部残存

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
371-6 132	羽蓋	口-19.0	No.6	口縁部内湾する脚上を向く	①良好②において黄色③細砂粒含む④口縁部残存
371-7 132	羽蓋	口-21.2	覆土	口縁部内傾し脚上を向く	①良好②褐色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
372-8 132	須恵器 埴	口-12.0 高-4.2 底-5.3	覆土	口縁部直線状に外傾する付高台底部回転糸切	①良好②において黄褐色③細砂粒含む④残存
372-9 132	須恵器 埴	口-13.8 高-5.0 底-6.0	No.9	口縁部深く外湾する付高台底部回転糸切	①良好②褐色③1~2mmの砂粒含む④残存
372-10 132	土師器 甕	底-7.2	No.10	外面ヘラケズリ内面ナデ	①良好②において褐色③3~4mm砂粒含む④底部残存
372-11 132	羽蓋	口-18.0	No.11	口縁部内湾する脚上を向く	①良好②褐色③2~3mmの砂粒含む④口縁部残存
372-12 133	羽蓋	口-19.3	No.12	口縁部内湾する脚上を向く内外面磨製成形板張る	①良好②において黄色③2~3mm砂粒含む④口縁部残存

149号住居跡 (Fig. 373・374・375・376, PL. 30・120・121)

G区北西部に位置し56~58G36~38の範囲にある。184号住居跡の西にある。他の遺構との関係は南部で148号住居跡と重複している。新旧関係は149号住居跡が新しい。規模は長辺3.3m、短辺3mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約40cm~50cmを測り、主軸方位はN-73°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は袖幅約40cm、燃烧部長約60cm、煙道部長約120cmを測る。両袖部、燃烧部中央に石が検出されている。燃烧部前面より構築材と思われる石が検出されている。燃烧部内からは甕が検出されている。煙道部先端には煙り出しの小穴が検出され、天井部は良好な遺存を示している。

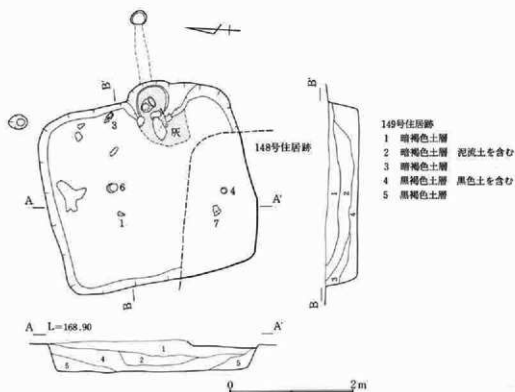


Fig.373 149号住居跡

第2章 検出された遺構と遺物

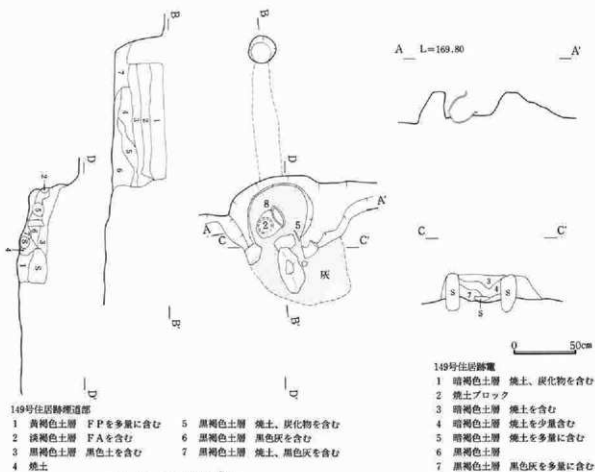
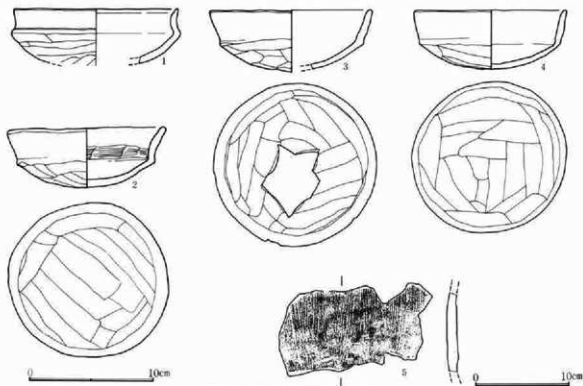


Fig.374 149号住居跡遺部



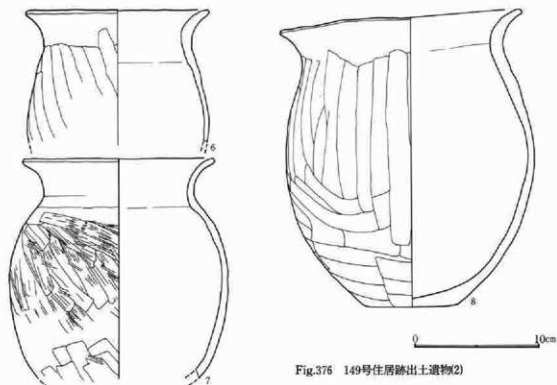


Fig.376 149号住居跡出土遺物(2)

第149号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②胎土 ③破片	④色調 ⑤残存
375-1 120	土器 器形	口-15.4	No.1	口縁部ヨコナダ体部ヘラケズリ内面ナゲ口縁部横をもち直立する内面端部比縁面	①良好②赤褐色③細砂粒含む④破片	
375-2 121	土器 器形	口-12.6 高-4.65	No.2	口縁部ヨコナダ体部ヘラケズリ内面ナゲ内面後部にヘラ状工具によるナゲ内面底部にもヘラ当て直	①良好②ふい橙色③細砂粒含む④完形	
375-3 121	土器 器形	口-12.9	No.3	口縁部ヨコナダ体部ヘラケズリ内面ナゲ口縁部横をもち外傾する	①良好②明褐色③細砂粒含む④ほぼ完形	
375-4 121	土器 器形	口-12.1 高-4.65	No.4	口縁部ヨコナダ体部ヘラケズリ内面ナゲ口縁部横をもち外傾する	①良好②明褐色③1~2mmの砂粒含む④完形	
375-5 121	埴輪		No.5	円筒埴輪	①良好②赤褐色③細砂粒含む④破片	
376-6 121	土器 器形	口-14.5	No.6	口縁部ヨコナダ胴部ヘラケズリ内面ナゲ口縁部外反する	①良好②淡褐色③細砂粒含む④口縁部残存	
376-7 121	土器 器形	口-15.3	No.7	口縁部ヨコナダ胴部刷毛目後磨き状の弱いナゲ内面ヘラ状工具による弱いナゲ口縁部外傾する	①良好②ふい橙色③2~3mmの砂粒含む④片残存	
376-8 121	土器 器形	口-19.2 高-22.8 底-7.0	No.8	口縁部ヨコナダ胴部ヘラケズリ内面ヘラ状工具による弱いナゲ口縁部外反する	①良好②淡褐色③2~3mmの砂粒含む④完形	

150号住居跡 (Fig. 377・378・379・380, PL. 30・121・122)

G区北西部に位置し54~56G35~37の範囲にある。166号住居跡の西に接して検出された。他の遺構との関係は西部で151号住居跡、住居跡内全体で184号住居跡、南西部で169号住居跡と重複している。新旧関係は151・169・184号住居跡より新しい。規模は長辺4.2m、短辺3.75mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約20cm~30cmを測り、主軸方位はN-80°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁に検出された。規模は袖幅約80cm、燃焼部長約60cm、煙道部長約50cmを測る。右袖部に石が検出された。

184号住居跡 (Fig. 377・381・382, PL. 39・136)

G区北西部に位置し54~56G35~37の範囲にある。166号住居跡の北に接して検出された。他の遺構との関

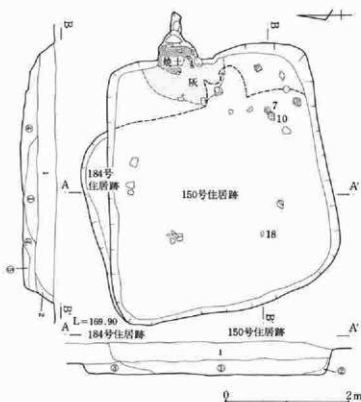


Fig.377 150・184号住居跡

係は住居跡の大半を150号住居跡、南西部を169号住居跡、北部を151号住居跡と重複している。新旧関係は150号住居跡より旧く151号住居跡より新しい。169号住居跡との関係は不明である。規模は長辺3.9m、短辺3.3mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約10cmを測り、主軸方位はN-76°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁にその痕跡を認めるのみである。

150号住居跡

- 1 淡褐色土層 FP、焼土、炭化物を含む
- 2 黄褐色土層

184号住居跡

- ① 淡褐色土層 FPを含む
- ② 黒褐色土層 FAブロックを含む
- ③ 黒褐色土層 FAブロック多量を含む
- ④ 淡褐色土層 FA細粒を含む
- ⑤ 黒褐色土層 黒色土を含む

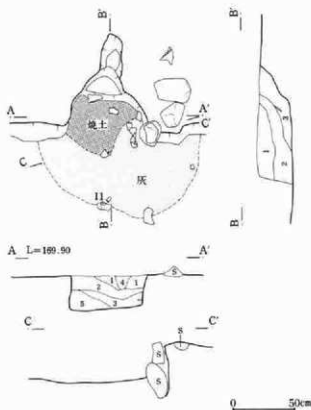


Fig.378 150号住居跡竈

150号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 FPを含む
- 2 暗褐色土層 FAを含む
- 3 暗褐色土層 焼土を含む
- 4 暗褐色土層 焼土ブロックを含む
- 5 焼土、灰層

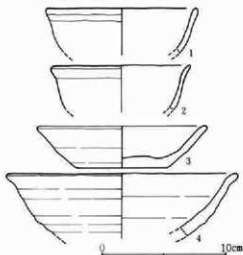


Fig.379 150号住居跡出土遺物(1)

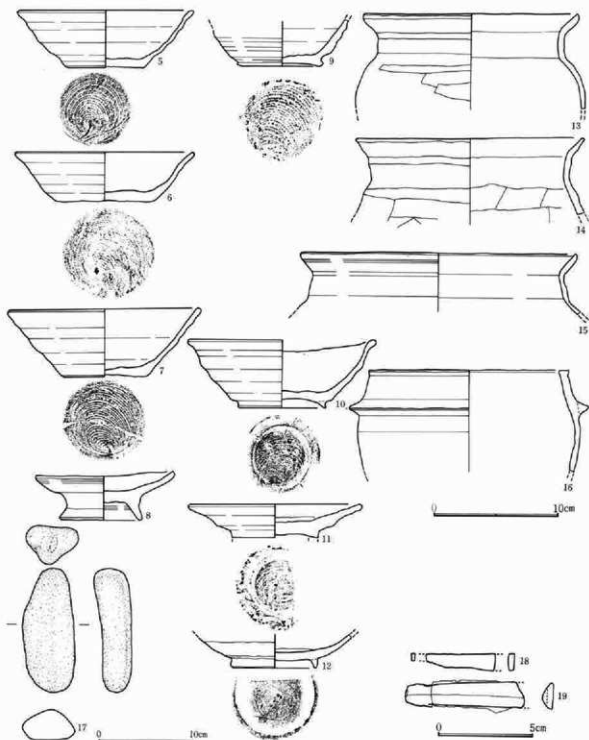


Fig.380 150号住居跡出土遺物(2)



Fig.381 184号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物

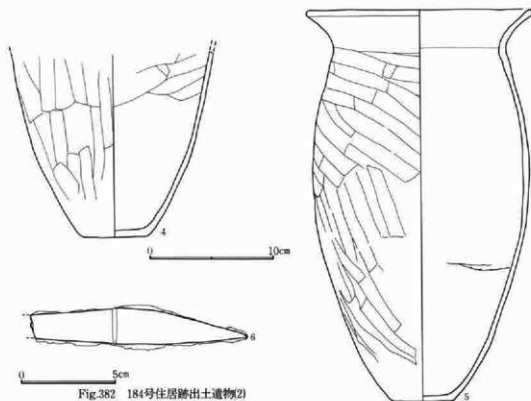


Fig.382 184号住居跡出土遺物(2)

第150号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器 形	計 測 値(cm)	出土位置	成 形 及 び 調 整 の 特 徴	①焼成 ②胎土 ③胎土 ④残存
379-1 121	内黒 環	口-11.6	覆土	内黒色ミガキ	①良好②褐色③1~2mmの 砂粒含む④口縁部破片
379-2 120	内黒 環	口-10.8	覆土	内黒色ミガキ	①良好②よい褐色③細砂 粒含む④口縁部破片
379-3 121	須恵器 環	口-13.2 高-3.3 底-7.0	覆土	器壁厚く口縁部やや外湾する底部調整不明瞭	①良好②褐色③2~3 mmの砂粒含む④残存
379-4 121	須恵器 環	口-18.9	覆土	口縁部弱く外湾する轆轤成形残る	①良好②よい褐色③細砂 粒含むが密④口縁部片残存
380-5 122	須恵器 環	口-13.8 高-4.5 底-5.8	覆土	外面轆轤成形残る内面底部轆轤成形狭くぼけ底部 回転糸切右廻り	①良好②灰色③1~2mmの 砂粒含む④残存
380-6 122	須恵器 環	口-14.0 高-3.9 底-7.2	覆土	外面轆轤成形による凹凸あり口縁部に向かいやや 外湾する底部回転糸切右廻り	①良好②灰白色③1~2mm の砂粒含む④残存
380-7 121	須恵器 環	口-15.0 高-5.3 底-6.4	No7	底部へ口縁部へ直線上に外傾する直部回転糸切右 廻り	①良好②灰色③細砂粒含む ④残存
380-8 122	須恵器 皿	口-11.0 高-3.9 底-6.5	電燈道土	口縁部弱く内湾する高台高ハの字状に開く	①良好②褐色③細砂粒 含む④残存
380-9 122	須恵器 環	底-6.8	覆土	底部肥厚する回転糸切	①良好②灰色③細砂粒含む ④底部残存
380-10 122	須恵器 環	口-14.8 高-5.35 底-6.8	No10	外面成形の轆轤成形残る口縁部外湾する付高台底部 回転糸切	①良好②灰白色③1~2mm の砂粒含む④残存
380-11 122	須恵器 皿	口-13.6	No11	外面に段をもつ付高台欠落	①良好②褐色③細砂粒 含む④残存
380-12 122	灰釉陶器 環	底-6.6	覆土	内面軸付高台	①良好②灰白色③密④底部 片残存
380-13 122	土師器 壺	口-16.8	覆土	口縁部内湾ぐみに開く口縁部ヨコナデ胴部ヘラケ ズリ内面ナデ	①良好②よい褐色③1~ 2mmの砂粒含む④口縁部破片
380-14 122	土師器 壺	口-17.8	覆土	口縁部コの字状を呈する口縁部ヨコナデ胴部ヘ ラケズリ内面ヘラナデ	①良好②よい褐色③1~ 2mmの砂粒含む④口縁部片残存

Fig. No. PL. No.	器 種 器 形	計 測 値 (cm)	出土位置	成 形 及 び 調 整 の 特 徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
380-15 122	土師器 甕	口-22.0	覆土	口縁部コの字状を呈する口縁部ヨコナデ内面ナデ	①良好②よい橙色③細砂粒含む④口縁部破片
380-16 122	明 釜	口-15.6	覆土	口縁部やや内湾する脚模を向く	①良好②灰白色③細砂粒含む④口縁部破片
Fig. 380-17 PL. 122		石 長-13.2cm 幅-5.6cm 厚-4.0cm		粗粒安山岩	
Fig. 380-18 PL. 122		鉄製品 長-3.7cm 厚-3mm		不明	
Fig. 380-19 PL. 122		鉄製品 長-6.3cm 厚-6mm		刀子?	

第184号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器 種 器 形	計 測 値 (cm)	出土位置	成 形 及 び 調 整 の 特 徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
381-1 136	土師器 坏	口-10.4	覆土	口縁部やや直立ぎみになる口縁部ヨコナデ体部ヘラクスリ内面ナデ	①良好②橙色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
381-2 136	土師器 坏	口-11.8	覆土	口縁部薄くなるやや外湾する	①良好②橙色③細砂粒含む④口縁部破片
381-3 136	土師器 甕	口-19.4	覆土	器壁薄く口縁部くの字を呈する	①良好②赤褐色③細砂粒含む④口縁部破片
382-4 136	土師器 甕	高-5.0	貯穴覆土	外面ヘラクスリ内面ヘラナデ	①良好②橙色③細砂粒含む④割下半部残存
382-5 136	土師器 甕	口-18.0 高-31.0 底-5.0	覆土	口縁部くの字状に曲がり胴上位に最大径がくる口縁部ヨコナデ胴部ヘラクスリ内面ナデ	①良好②よい橙色③細砂粒含む④残存
Fig. 382-6 PL. 136		鉄製品 長-11.6cm 厚-2mm		刀子	

151号住居跡 (Fig. 383・384・385, PL. 30・122)

G区北西部に位置し54~56G36~38の範囲にある。166号住居跡の西にある。他の遺構との関係は東部で150・184号住居跡、北東部で153号住居跡、北西部で152号住居跡と重複している。新旧関係は184号住居跡より新しく、150・152・153号住居跡より古い。規模は重複が激しいため推定では長辺3.5m、短辺3mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約20cmを測り、主軸方位はN-88°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁に検出された。竈南部を150号住居跡に切り崩されている。規模は燃焼部幅約80cm、同長約50cmを測る。

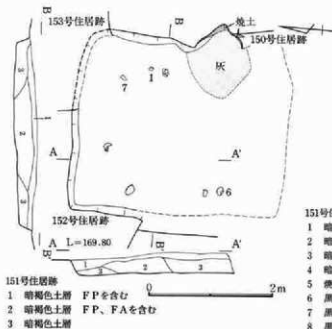


Fig.383 151号住居跡

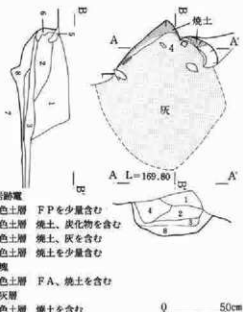


Fig.384 151号住居跡竈

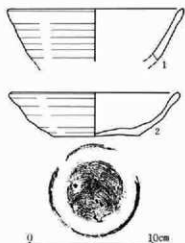
151号住居跡

- 1 暗褐色土層 F P を含む
- 2 暗褐色土層 F P, F A を含む
- 3 暗褐色土層

151号住居跡竈

- 1 F P を少量含む
- 2 暗褐色土層 焼土、灰化物を含む
- 3 暗褐色土層 焼土、灰を含む
- 4 暗褐色土層 焼土を少量含む
- 5 焼土塊
- 6 黒褐色土層 F A, 焼土を含む
- 7 黒色灰層
- 8 暗褐色土層 焼土を含む

第2章 検出された遺構と遺物



第151号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②土質 ③胎土 ④残存
385-1 122	須恵器 坏	口-14.0	No 1	外面輪轆成形残れる	①良好②灰色③細砂粒含む ④口縁部破片
385-2 122	須恵器 坏	口-13.5 高-3.5 底-6.7	覆土	口縁部厚くなり輪轆調整痕残る底部中心部薄くなる 底部回転糸切	①良好②灰色③1~2mmの 砂粒含む④片残存
385-3 122	須恵器 坏	底-6.3	覆土	内面底部にミガキ底部回転糸切	①良好②にぶい褐色③1 ~2mm砂粒含む④底部片残存
385-4 122	須恵器 坏	口-13.0 高-5.5 底-5.0	No 4	口縁部外湾する体部へウ状工具によるナデ	①良好②灰白色③1~2mm 砂粒含む④口縁-底部片残存
385-5 122	須恵器 坏	底-7.7	覆土	付高台高台薄く外側へ開く	①良好②灰色③2~3mmの 砂粒含む④底部片残存
385-6 122	須恵器 甕	口-14.0 高-2.7 底-7.0	No 6	付高台貼付痕残る底部回転糸切	①良好②灰色③細砂粒含む ④片残存
385-7 122	須恵器 坏	底-6.0	No 7	付高台高台部外周は外側へ広がる	①良好②褐色③細砂粒含む ④底部残存
385-8 122	土師器 甕	口-12.0	覆土	口縁部薄くなり外湾する口縁部コノナデ	①良好②にぶい褐色③細砂 粒含む④口縁部破片

Fig.385 151号住居跡出土遺物

152号住居跡 (Fig. 386・387, PL. 30・31・122・123)

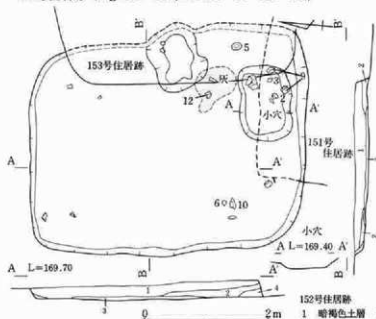


Fig.386 152号住居跡

G区北西部に位置し55・56G 38~40の範囲にある。150号住居跡の西にある。他の遺構との関係は東部で153号住居跡、南部で151号住居跡と重複している。新旧関係は151号住居跡より新しく、153号住居跡より古い。規模は東壁の大半がないため推定であるが長辺4.4m、短辺3.2mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約15cm~20cmを測り、主軸方位はN-86°-Eである。床面は平坦

152号住居跡

- 1 暗褐色土層 F Pを多量に含む 3 暗褐色土層
2 暗褐色土層 F Pを少量含む 4 暗褐色土層 黒色土を含む

をなし、南東部竪前面と思われる部分に炭が散布した状態で検出された。壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は検出されていない。

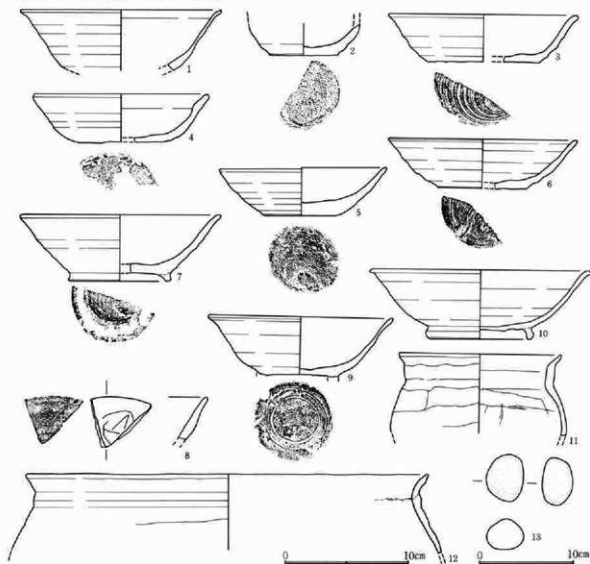


Fig.387 152号住居跡出土遺物

第152号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
387-1 122	須恵器 杯	口-16.0	覆土	口縁部屈曲する外面轆轤痕残る	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
387-2 123	須恵器 杯	底-5.5	No.2	底部回転糸切内面底部中心もり上がる	①良好②褐色③1~2mmの砂粒含む④底部片残存
387-3 123	須恵器 杯	口-15.0 高-3.8	No.3	外面轆轤痕残る口縁部外湾する底部回転糸切	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含むが密④片残存
387-4 123	須恵器 杯	口-14.0 高-3.8	覆土	口縁部厚く緩やかに外湾する外面轆轤痕残る底部回転糸切	①良好②灰白色③細砂粒含む④片残存
387-5 123	須恵器 杯	口-13.3 高-3.8	No.5	底部厚くなる外面轆轤成形底部回転糸切	①良好②灰白色③2~3mmの砂粒含む④完形
387-6 123	須恵器 杯	口-15.0 高-3.9	No.6	内外面ともに轆轤成形痕残る底部回転糸切	①良好②灰白色③2~3mmの砂粒含む④片残存
387-7 123	須恵器 杯	口-16.0 高-5.2	覆土	外面轆轤成形痕付高台底部回転糸切	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含む④片残存

第2章 検出された遺構と遺物

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
387-8 123	須恵器 坏		覆土	内外面いよし黒色内面に罫字状の刻線	①良好②黒褐色③細砂粒含む④口縁部破片
387-9 123	須恵器 坏	口-14.7 高-4.6	No.9	付高台欠落口縁部弱く外湾する	①良好②灰色③2~3mmの砂粒含む④内残存
387-10 123	灰釉陶器 瓿	口-17.5 高-5.5	No.10	付高台高台部に一段壁をもつ口縁部は外へ屈曲する	①良好②灰白色③密④内残存
387-11 123	土師器 壺	口-12.8	覆土	口縁部薄く外湾する口縁部ヨコナゲ割部ヘラケズリ内面ヘラナデ	①良好②によい褐色③細砂粒含む④口縁部内残存
387-12 123	土師器 壺	口-32.0	No.12	口縁部弱く外湾する口縁部ヨコナゲ割部ヘラケズリ内面ナデ輪痕残る	①良好②によい褐色③細砂粒含む④口縁部破片
Fig. 387-13 PL. 123		石 長-4.9cm 幅-3.2cm 厚-3.4cm	頁岩		

153号住居跡 (Fig. 388・389・390・391, PL. 31・123・124)

G区北西部に位置し54・55G38~40の範囲にある。150号住居跡の西にある。他の遺構との関係は西部で152号住居跡、南部で151号住居跡と重複している。新旧関係は151・152号住居跡より新しい。規模は長辺4.2m、短辺3mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約15cm~20cmを測り、主軸方位はN-78°-Eである。床面は平坦をなし、南東部に貯蔵穴と思われる小穴が検出された。規模は約80cm×70cm、深さ約5cm~6cmを測る。小穴内から石が検出されている。壁周溝は検出されていない。竈は東壁中央部に検出された。規模は燃焼部幅約90cm、同長約60cmを測る。

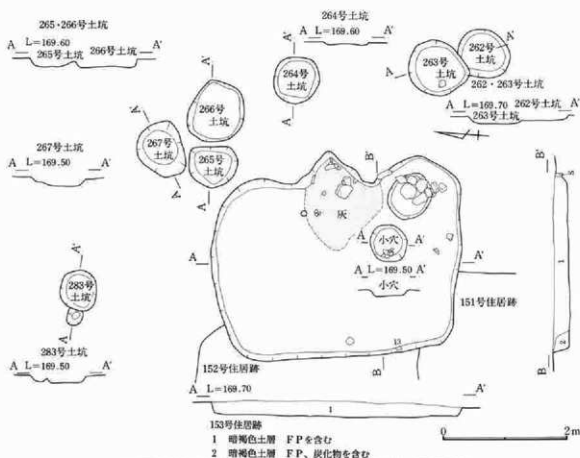
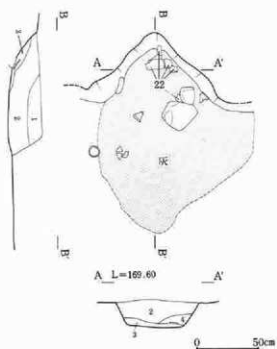


Fig.388 153号住居跡・262・263・264・265・266・267・283号土坑



153号住居跡概

- 1 暗褐色土層 FPを含む
- 2 暗褐色土層
- 3 暗褐色土層 焼土を含む
- 4 暗褐色土層 炭化物、灰を含む

Fig.389 153号住居跡概

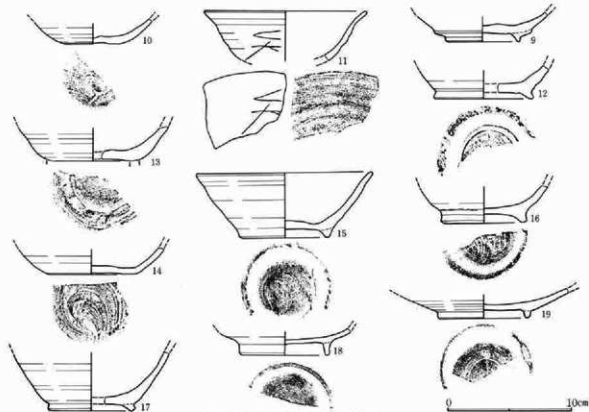
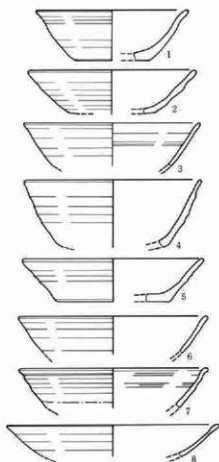


Fig.390 153号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物

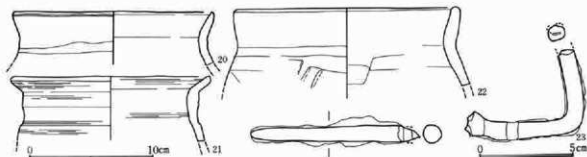


Fig.391 153号住居跡出土遺物(2)

第153号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①構成 ②色調 ③胎土 ④残存
390-1 123	須恵器 坏	口-12.0 高-4.0 底-5.6	覆土	口縁部薄く弱く外湾する底部回転糸切	①良好②灰色③細砂粒含む ④残存
390-2 123	須恵器 坏	口-13.2	覆土	外面轆轤痕残る口縁部直線状に外傾する	①良好②灰色③1~2mmの 砂粒含む④口縁部破片
390-3	灰輪陶器 埴	口-13.9	覆土	内外面施釉	①良好②灰白色③密④口縁 部破片
390-4 123	須恵器 坏	口-13.9	覆土	外面轆轤成形痕残る	①良好②灰色③1~2mmの 砂粒含む④口縁部破片
390-5 123	須恵器 坏	口-14.2 高-3.4 底-8.8	覆土	外面轆轤痕底部回転糸切口縁部直線状に外傾する	①良好②灰白色③1~2mmの 砂粒含む④残存
390-6 123	灰輪陶器 皿	口-15.0	覆土	口縁部外部へ屈曲する内外面施釉	①良好②灰白色③密④口縁 部破片
390-7 123	灰輪陶器 埴	口-14.9	覆土	内外面施釉	①良好②灰白色③密④口縁 部破片
390-8 123	灰輪陶器 皿	口-17.0	覆土	口縁部弱く内湾して立ち上がる	①良好②灰白色③密④口縁 部破片
390-9	須恵器 埴	底-5.6	覆土	付高台貼付段をもつ底部回転糸切	①良好②灰白色③細砂粒含む ④底部破片
390-10 123	須恵器 坏	底-4.6	覆土	底部回転糸切	①良好②灰白色③細砂粒含む ④底部破片
390-11 123	須恵器 坏	口-12.9	覆土	口縁部弱く外湾する外面に刻線	①良好②灰色③1~2mmの 砂粒含む④口縁部破片
390-12 123	須恵器 埴	底-7.6	覆土	表面刺離著しい付高台	①軟質②再灰色③2~3mmの 砂粒含む④底部破片
390-13 123	須恵器 坏	底-6.4	No.13	外面轆轤痕底部回転糸切付高台欠落	①良好②灰白色③1~2mmの 砂粒含む④底部破片
390-14 123	須恵器 坏	底-6.8	覆土	底部回転糸切	①良好②灰白色③2~3mmの 砂粒含む④底部残存
390-15 123	須恵器 埴	口-14.0 高-5.1 底-6.8	覆土	付高台底部回転糸切口縁部直線状に外傾する	①良好②灰白色③3~4mmの 砂粒含む④残存
390-16 123	須恵器 埴	底-6.2	覆土	付高台貼付痕残る底部回転糸切	①良好②よい橙色③1~ 2mm砂粒含む④底部残存
390-17	須恵器 埴	底-6.4	覆土	底部から緩やかに内湾して立ち上る付高台底部回転糸切	①良好②灰色③細砂粒含む ④底部残存
390-18 124	灰輪陶器 埴	底-6.7	覆土	付高台	①良好②灰白色③密④底部 残存
390-19 124	灰輪陶器 皿	底-6.9	覆土	内面底部施釉付高台	①良好②灰白色③密④底部 残存
391-20 124	土師器 壺	口-16.0	覆土	口縁部外反する	①良好②よい橙色③1~ 2mm砂粒含む④口縁部破片
391-21 124	土師器 壺	口-16.0	覆土	口縁部コナダ痕が残る口縁部外反する	①良好②赤褐色③細砂粒含む ④口縁部破片
391-22 124	土師器 壺	口-18.0	No.22	口縁部屈曲弱く立ち上がる口縁部コナダ割部ヘラクスリ内面ヘラナダ	①良好②赤褐色③2~3mmの 砂粒含む④口縁部残存

Fig. 391-23 PL. 124 製品品 長-9.2cm 厚-10mm 不明

154号住居跡 (Fig. 392・393・394・395・396, PL. 31・124)

G区北西部に位置し51〜53G 35〜38の範囲にある。150号住居跡の西にある。他の遺構との重複関係はない。規模は長辺4.7m、短辺3.1mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約20cm〜30cmを測り、主軸方位は

N-82°-Eである。床面は平坦をなし住居跡中央部に炭化物の散布が見られる。また、南東部に貯蔵穴と思われる小穴が検出された。規模は約120cm×70cm、深さ約20cmを測り、覆土内から石が検出された。壁周溝は検出されていない。竈は東壁中央部に検出された。規模は燃烧部幅約80cm、同長約60cmを測る。

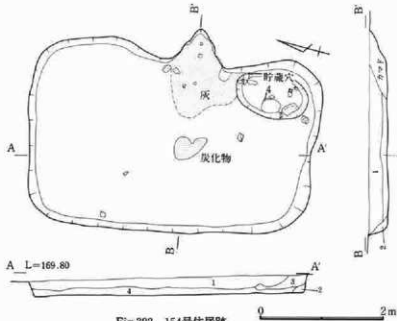


Fig.392 154号住居跡

- 154号住居跡
- 1 淡褐色土層 F P、FAを含む
 - 2 淡褐色土層
 - 3 淡褐色土層 炭土を含む
 - 4 淡褐色土層 F Pを少量含む

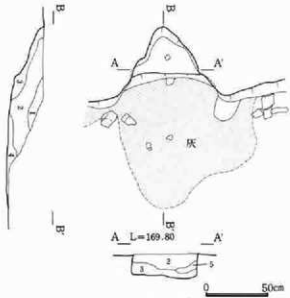


Fig.393 154号住居跡竈

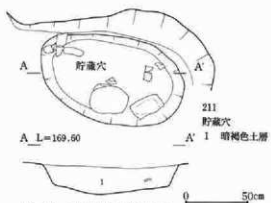


Fig.394 154号住居跡貯蔵穴

- 154号住居跡竈
- 1 暗褐色土層
 - 2 暗褐色土層 泥炭土を含む
 - 3 暗褐色土層 炭土を含む
 - 4 暗褐色土層
 - 5 暗褐色土層 FAを含む

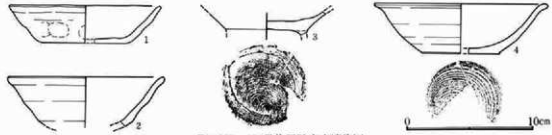


Fig.395 154号住居跡出土遺物(1)

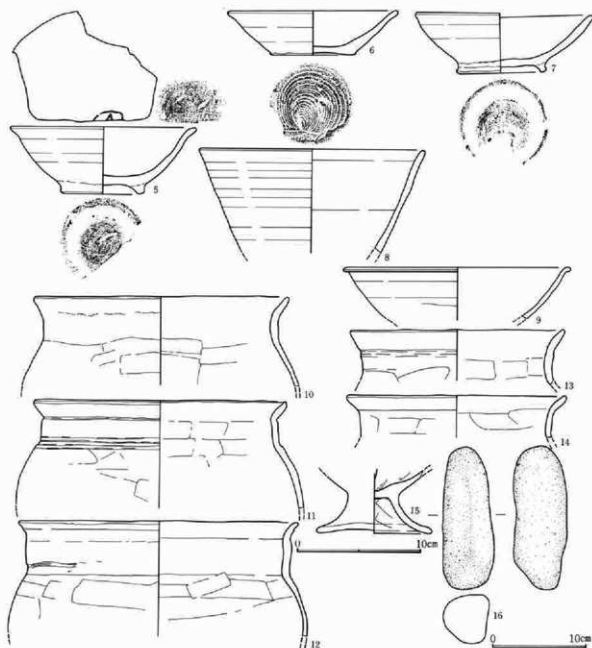


Fig.396 154号住居跡出土遺物(2)

第154号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①構成 ②色調 ③胎土 ④残存
395-1 124	土師器 坏	口-12.0 高-3.0 底-6.7	覆土	口縁部ヨコナデ体部指頭状底部へラズリ口縁部直線状に外傾する	①良好②ふい③細砂粒含む④口縁-底部破片
395-2 124	須恵器 坏	口-12.4	覆土	外面輪轆成形痕2段	①良好②灰白色③細砂粒含む④口縁部欠残存
395-3 124	須恵器 埴		覆土	付高台欠落底部回転糸切	①良好②灰白色③細砂粒含む④底部残存
395-4 124	須恵器 埴	口-13.7 高-3.95 底-6.1	No 4	口縁部部外反する底部回転糸切	①良好②灰白色③細砂粒含む④劣残存
395-5 124	須恵器 埴	口-14.8 高-5.35 底-6.7	覆土	付高台底部回転調整内外面傾口縁部部外反する	①良好②褐色③細砂粒含む④劣残存
396-6 124	須恵器 坏	口-13.45 高-3.5 底-6.8	覆土	器高浅く底径をせばまる底部回転糸切右廻り口縁部部外反する	①良好②灰白色③2~3mmの砂粒含む④劣残存

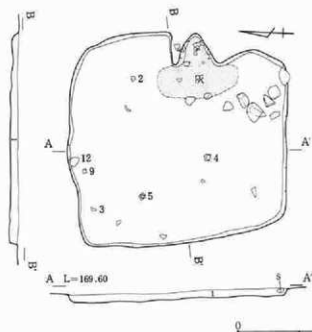
Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
396-7 124	須恵器 埴	口-14.65 高-4.75	覆土	緩やかに内湾する付高底部回転未切	①良好②灰白色③2~3mmの砂粒含む④残存
396-8 124	須恵器 鉢	口-18.0	覆土	外沿縁破残る	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
396-9 124	灰釉陶器 埴	口-18.0	覆土	口縁部外側へ屈曲する	①良好②灰白色③密④口縁部破片
396-10 124	土師器 壺	口-20.4	覆土	口縁部斜いコの字状を呈する口縁部輪破残る口縁部ヨコナデ割部ヘラケズリ内面ヘラナデ	①良好②にぶい褐色③1~2mm砂粒含む④口縁部残存
396-11 124	土師器 壺	口-20.0	覆土	口縁部コの字状を呈し沈線状にナデ口縁部ヨコナデ割部ヘラケズリ内面ヘラナデ	①良好②にぶい褐色③1~2mm砂粒含む④口縁部破片
396-12 124	土師器 壺	口-22.2	覆土	口縁部コの字状を呈する口縁部ヨコナデ割部ヘラケズリ内面ヘラナデ頸部にヘラ痕	①良好②にぶい褐色③1~2mm砂粒含む④口縁部残存
396-13 124	土師器 壺	口-17.0	覆土	口縁部向く外湾する口縁部ヨコナデ割部ヘラケズリ内面ヘラナデ	①良好②にぶい褐色③細砂粒含む④口縁部残存
396-14 124	土師器 壺	口-17.4	覆土	口縁部向く内湾ぎみに外傾する口縁部ヘラナデ内面ヘラナデ	①良好②にぶい褐色③細砂粒含む④口縁部破片
396-15 124	土師器 付壺	脚-9.2	覆土	台部ややゆがむヨコナデ内面ヘラナデ割部ヨコナデ底部ヘラ痕残る	①良好②にぶい褐色③細砂粒含む④台部残存

Fig. 396-16 PL. 124

石長-15.6cm 幅-5.6cm 厚-5.6cm 石英閃緑岩

155住居跡 (Fig. 397・398・399, PL. 31・125)

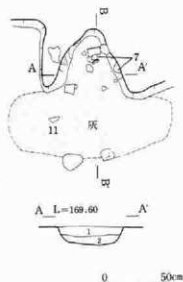
G区北西部に位置し50~52G39・40の範囲にある。151号住居跡の東にある。他の遺構との重複関係はない。規模は長辺3.7m、短辺3.4mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約10cm~15cmを測り、主軸方位はN-81°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁に検出された。規模は焼焼部幅約70cm、同長約50cmを測る。



155号住居跡

1 灰褐色土層 F Aを少量含む

Fig. 397 155号住居跡



155号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 F Pを多量に含む
- 2 暗褐色土層 焼土、炭化角、灰を含む
- 3 暗褐色土層 焼土を多量に含む

Fig. 398 155号住居跡竈

第2章 検出された遺構と遺物

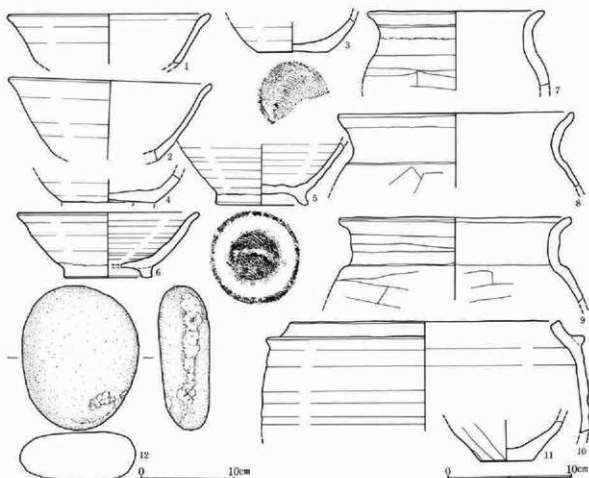


Fig.399 155号住居跡出土遺物

第155号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①構成 ②胎土 ③胎色 ④残存
399-1 125	須恵器 坏	口-15.8	覆土	口縁部外側へ屈曲する	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
399-2 125	須恵器 坏	口-15.8	No 2	口縁部弱く外反する外面轆轤痕残る	①良好②褐色③細砂粒含む④口縁部破片
399-3 125	須恵器 坏	底-5.4	No 3	底部回転糸切	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含む④底部片残存
399-4 125	須恵器 埴		No 4	付高台欠落底部回転糸切	①良好②灰白色③2~3mmの砂粒含む④底部残存
399-5 125	須恵器 坏	底-7.0	No 5	付高台内外面轆轤成形痕残る底部回転糸切	①良好②褐色③3~4mmの砂粒含む④底部残存
399-6 125	須恵器 坏	口-14.2 高-5.15 底-6.8	覆土	内面轆轤成形痕残る付高台口縁部外反する	①良好②灰白色③2~3mmの砂粒含む④口縁-底部片残存
399-7 125	土師器 埴	口-13.8	No 7	口縁部緩やかに外反する口縁部ココナゲ胴部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②赤褐色③1~2mm砂粒含む④口縁部破片
399-8 125	土師器 埴	口-18.4	覆土	口縁部緩やかに外反する口縁部ココナゲ胴部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②赤褐色③細砂粒含む④口縁部片残存
399-9 125	土師器 埴	口-18.2	No 9	口縁部コの字状を呈する口縁部ココナゲ胴部ヘラケズリ内面ヘラナデ	①良好②赤褐色③細砂粒含む④口縁部破片
399-10 125	羽釜	口-21.4	覆土	口縁部短く内傾する肩短く上を向く外面轆轤成形痕残る	①良好②灰白色③2~3mmの砂粒含む④口縁部片残存
399-11 125	土師器 埴	底-4.0	No11	外面ヘラケズリ	①良好②赤褐色③1~2mm砂粒含む④底部破片

Fig. 399-12 PL. 125 石 長-16.1cm 幅-5.6cm 厚-6.2cm 石突四角形

156号住居跡 (Fig. 400・401・402, PL. 31・32・125)

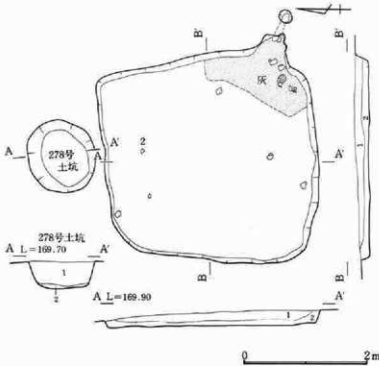


Fig.400 156号住居跡・278号土坑

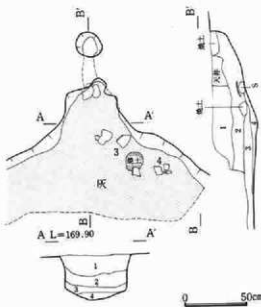
G区北部に位置し43~45G38~40の範囲にある。159号住居跡の西に接して検出された。他の遺構との重複関係はない。規模は一辺3.5mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約10cm~20cmを測り、主軸方位はN-76°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は南東コーナーに検出された。規模は燃焼部幅約80cm、同長約40cm、煙道部長約50cmを測る。竈の長軸方位は住居跡方位よりさらに南にずれN-110°-Eである。

156号住居跡

- 1 淡褐色土層
- 2 淡褐色土層 黄褐色土粒を含む

278号土坑

- 1 淡褐色土層 炭化物を含む
- 2 淡褐色土層 炭化物を多量に含む



156号住居跡竈

- 1 淡褐色土層 FA、FP、焼土、炭化物を含む
- 2 淡褐色土層 焼土、炭化物を少量含む
- 3 淡褐色土層 FAを含む
- 4 黒褐色土層 黒色灰を含む

Fig.401 156号住居跡竈

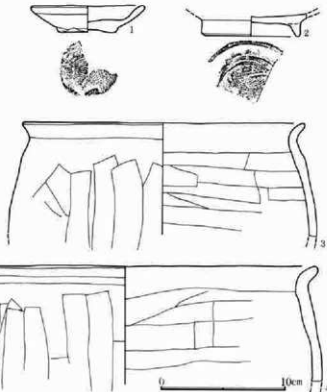


Fig.402 156号住居跡出土遺物

第156号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計 測 値 (cm)	出土位置	成 形 及 び 調 整 の 特 徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
402-1 125	須恵器 皿	口-8.8 高-2.1 底-4.4	覆土	底部切れ段を持つ底部回転糸切廻り	①良好②ふい黄褐色③1 ~2mmの砂粒含む④%残存
402-2 125	灰釉陶器 杯	底-7.4	No 2	付高台底部糸切	①良好②灰白色③密④底部 反残存
402-3 125	土師器 甕	口-22.2	No 3	口縁部短く屈曲する外面ヘラケズリ内面ヘラナダ	①良好②灰褐色③4~5mm の砂粒含む④口縁部破片
402-4	土師器 甕	口-30.0	No 4	口縁部屈曲する器壁厚く外面ヘラケズリ内面ヘラ ナダ	①良好②ふい赤褐色③3 ~4mm砂粒含む④口縁部破片

157号住居跡 (Fig. 403・404・405, PL. 32・125)

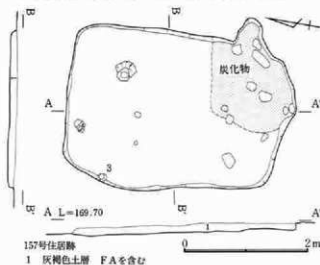


Fig.403 157号住居跡

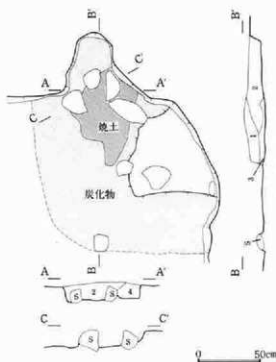


Fig.404 157号住居跡竈

G区北部に位置し42~44G41~43の範囲にある。159号住居跡の北に接して検出された。他の遺構との重複関係はない。規模は長辺3.7m、短辺2.6mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約5cm~10cmを測り、主軸方位はN-82°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は焼土部幅約60cm、同長約40cmを測る。竈前面から石が検出された。

- 157号住居跡竈
 1 暗褐色土層
 2 暗褐色土層
 焼土、炭化物を含む
 3 暗褐色土層
 灰を含む
 4 暗褐色土層
 焼土、炭化物を多量
 を含む

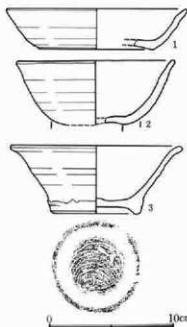


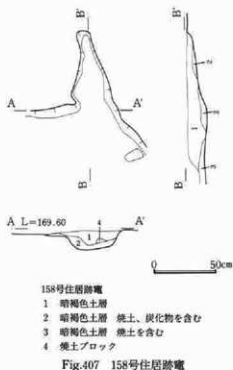
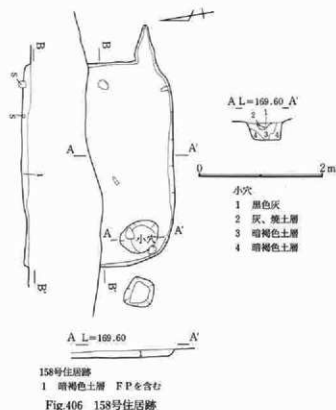
Fig.405 157号住居跡出土遺物

第157号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測 値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
405-1 125	須恵器 坏	口-14.3 高-3.2 底-9.0	覆土	底部手持ヘラケズリ	①良好②灰色③密④破片
405-2 125	須恵器 埴	口-12.6	覆土	付高台穴落	①良好②ぶい橙色③1~2mmの砂粒含む④破片
405-3 125	須恵器 埴	口-13.5 高-5.4 底-7.2	No.3	付高台底部回転糸切口縁端部外反する	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④残存

158号住居跡 (Fig. 406・407, PL. 32)

G区北部に位置し39~41G45・46の範囲にある。157号住居跡の北西にある。他の遺構との重複はない。調査が2次に別れていたため北半部は不明である。南壁は3.3mを測る。壁高は約5cm~10cmを測り、主軸方位はN-97°-Eである。床面は平坦をなし、南西部に小穴が検出された。規模は約70cm×50cm、深さ約20cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約30cm、同長約70cmを測る。



159号住居跡 (Fig. 408・409・410・411, PL. 32・125・126)

G区北部に位置し41~43G39~41の範囲にある。156号住居跡の北東に接して検出された。他の遺構との重複関係はない。規模は長辺4.35m、短辺3.75mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約10cm~25cmを測り、主軸方位はN-93°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約90cm、同長約50cm、煙道部長約70cmを測る。煙道部先端には煙り出しの小穴が検出された。

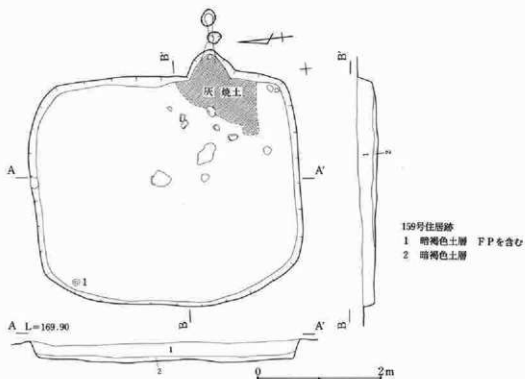


Fig.408 159号住居跡

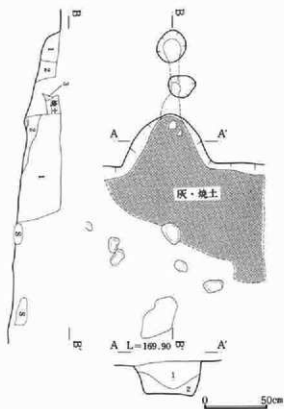


Fig.409 159号住居跡電

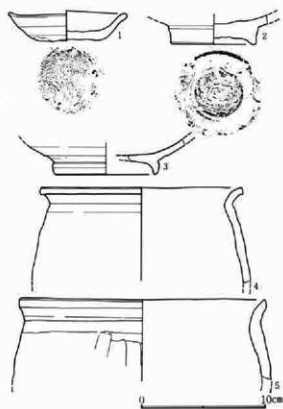


Fig.410 159号住居跡出土遺物(1)

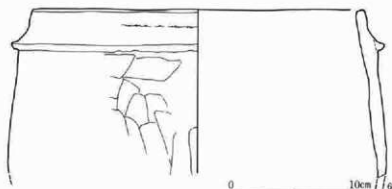
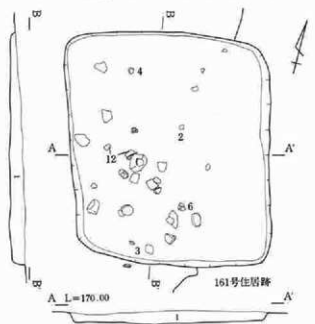


Fig.411 159号住居跡出土遺物(2)

第159号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
410-1 125	須恵器 皿	口-9.4 高-2.4 底-4.4	No.1	口縁部ゆがみ大きい底部回転糸切	①良好②褐色③2~3mmの 砂粒含む④完形
410-2 125	須恵器 埴	底-6.8	覆土	付高台底部剝落ひどく調整不明瞭	①良好②灰白色③細砂粒含む ④底部残存
410-3 125	灰輪陶器 埴	底-7.8	覆土	付高台	①良好②灰色③密④底部破片
410-4 126	土師器 埴	口-16.0	覆土	口縁部屈曲する	①良好②褐色③細砂粒含む ④口縁部破片
410-5 126	土師器 埴	口-19.5	覆土	口縁部弱く屈曲する外面ヘラズリ内面ナデ	①良好②にぶい褐色③1 ~2mm砂粒含む④口縁部破片
411-6 126	羽釜	口-26.4	覆土	脚低く下を向く胴部ヘラズリ内面ナデ	①良好②にぶい褐色③2 ~3mm砂粒含む④口縁部破片

160号住居跡 (Fig. 412・413・414, PL. 33・126)



160号住居跡
1 暗褐色土層 黄褐色土粒、炭化物粒を含む

Fig.412 160号住居跡

G区北部に位置し44~46G35~37の範囲にある。156号住居跡の南にある。他の遺構との関係は東部で161号住居跡と重複している。新旧関係は160号住居跡が新しい。規模は長辺3.8m、短辺3.3mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約20cm~25cmを測り、北壁は浅く約10cmである。主軸方位は甕が検出されていないため不明である。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。床面上には人頭大の石が多数散布した状態で検出された。

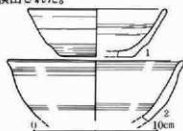


Fig.413 160号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物

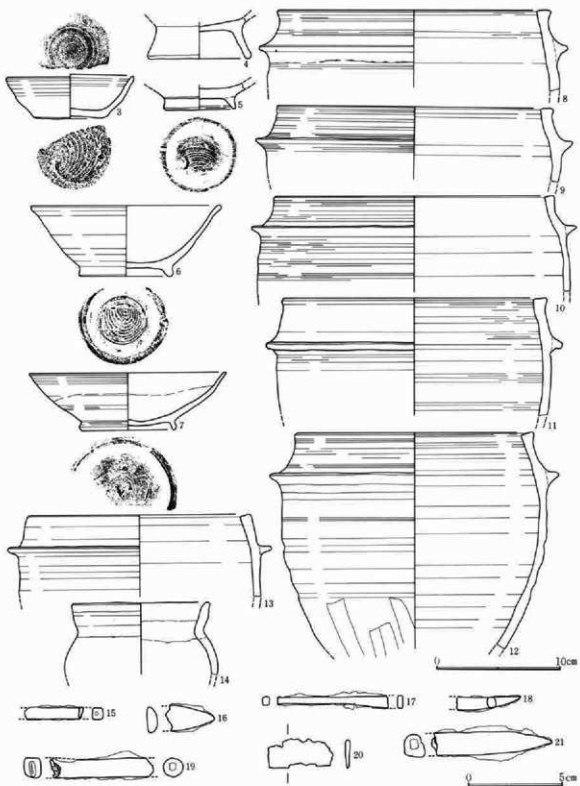


Fig.414 160号住居跡出土遺物(2)

第160号住居跡出土土物観察表

Fig. No PL. No	器 種 形	計 測 値(cm)	出土位置	成 形 及 び 調 整 の 特 徴	①焼成 ②胎土 ③胎土 ④残存
413-1 126	須恵器 坏	口-10.9 高-3.8 底-6.0	覆 土	腰部に弱い稜をもち底部に向い内湾する底部回転 糸切	①良好②にぶい褐色③細砂 粒含む④片残存
413-2 126	須恵器 埴	口-14.0	No.2	口縁部弱く内湾する	①良好②にぶい褐色③細砂 粒含む④口縁部破片
414-3 126	須恵器 坏	口-10.2 高-3.5 底-5.0	No.3	腰部に弱い稜をもち底部へ内湾する底部回転糸切 右廻り	①良好②にぶい褐色③1 ~2mmの砂粒含む④片残存
414-4 126	須恵器 埴	底-8.0	No.4	足高高台付高台蓋部はナデによる調整	①良好②にぶい褐色③2 ~3mm砂粒含む④高台部残存
414-5 126	須恵器 埴	底-5.3	覆 土	付高台底部回転糸切	①良好②にぶい褐色③細 砂粒含む④高台部残存
414-6 126	須恵器 埴	口-15.0 高-5.6 底-7.0	No.6	口縁部弱く外湾する付高台底部回転糸切	①良好②灰白色③1~2mm の砂粒含む④片残存
414-7 126	扶輪陶器 埴	口-15.6 高-4.5 底-7.4	覆 土	口縁部で弱く外側へ屈曲付高台底部回転調整	①良好②灰白色③密④片残 存
414-8 126	羽 釜	口-21.8	覆 土	口縁部弱く内湾し肩横を向く脚下に貼付板が残る	①良好②にぶい褐色③2 ~3mm砂粒含む④口縁部破片
414-9 126	羽 釜	口-22.0	覆 土	口縁部やや内湾する	①良好②灰色③2~3mmの 砂粒含む④口縁部破片
414-10 126	羽 釜	口-22.2	覆 土	口縁部弱く内湾する肩横やや上を向く	①良好②褐色③1~2mm の砂粒含む④口縁部破片
414-11 126	羽 釜	口-21.0	覆 土	口縁部直立ぎみで肩横を向く	①良好②灰色③細砂粒含む ④口縁部破片
414-12 126	羽 釜	口-19.0	No.12	口縁部内湾する肩を上を向く肩下半へラケズリ	①良好②にぶい褐色③5~6 mm砂粒含む④口縁-肩部片残 存
414-13 126	羽 釜	口-17.4	覆 土	肩横を向く口縁部弱く内湾する	①良好②にぶい褐色③1 ~2mm砂粒含む④口縁部破片
414-14 126	土 師 器 壺	口-11.0	覆 土	口縁部やや直立ぎみに外湾する	①良好②にぶい褐色③1 ~2mm砂粒含む④口縁部破片
Fig. 414-15 PL. 126	鉄製品	長-3.5cm 厚-2mm	不明		
Fig. 414-16 PL. 126	鉄製品	長-2.5cm 厚-6mm	刀子		
Fig. 414-17 PL. 126	鉄製品	長-5.8cm 厚-3mm	刀子		
Fig. 414-18 PL. 126	鉄製品	長-3.4cm 厚-5mm	刀子		
Fig. 414-19 PL. 126	鉄製品	長-5.3cm 厚-3mm	不明		
Fig. 414-20 PL. 126	鉄製品	長-3.2cm 厚-2mm	刀子		
Fig. 414-21 PL. 126	鉄製品	長-6.2cm 厚-5mm	不明		

161号住居跡 (Fig. 415・416・417, PL. 33・127)

G区北部に位置し42~45G34~38の範囲にある。156号住居跡の南にある。他の遺構との関係は西部で160号住居跡と重複している。新旧関係は160号住居跡が新しい。規模は長辺6.6m、短辺5.2mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約20cm~30cmを測り、主軸方位はN-80°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄り、南西コーナーの2カ所に検出された。各々1号・2号とした。規模は、1号が燃焼部幅約80cm、同長約60cm、煙道部長約110cmを測る。煙道部先端には煙り出しの小穴が検出され天井部が遺存した状態で検出された。竈長軸は住居跡主軸方位よりやや東へずれN-91°-Eである。2号は竈右袖部の一部を160号住居跡に壊されている。規模は燃焼部幅約70cm、同長約110cmを測る。竈長軸の主軸方位は住居跡主軸より西へずれN-121°-Wである。

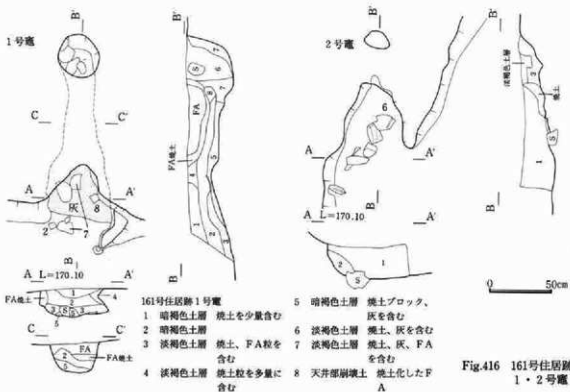
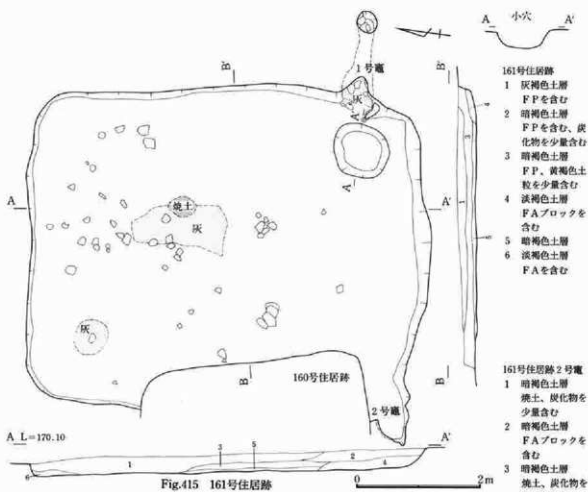


Fig.416 161号住居跡
1・2号竈

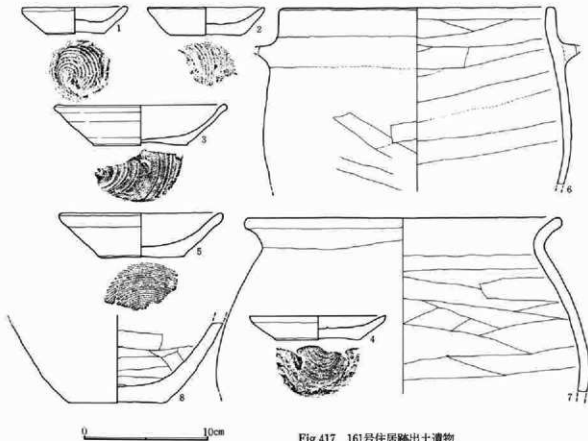


Fig.417 161号住居跡出土遺物

第161号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値 (cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
417-1 127	須恵器 皿	口-8.0 高-2.1 底-4.4	覆土	筒高低く口縁部直線的に外傾する底部回転糸切右廻り	①良好②にぶい赤褐色③2~3mmの砂粒含む④定形
417-2 127	須恵器 皿	口-9.0 高-2.2 底-5.6	No 2	口縁部直線的に外傾する底部回転糸切	①良好②灰色③5~6mmの砂粒含む④残存
417-3 127	須恵器 坏	口-13.4 高-3.15 底-7.4	覆土	口縁部開く底部中心部薄くなる底部回転糸切	①良好②灰色③2~3mmの砂粒含む④残存
417-4 127	須恵器 皿	口-12.6 高-3.5 底-6.4	覆土	口縁部やや肥厚する底部回転糸切	①良好②にぶい藍色③2~3mmの砂粒含む④残存
417-5 127	須恵器 皿	口-10.8 高-1.9 底-6.6	覆土	口縁部直立する底部内面輪縁残れる底部回転糸切	①良好②灰色③細砂粒含む④残存
417-6 127	別蓋	口-21.6	No 6	口縁部直立ぎみで側先端部欠損する割下半部ヘラケズリ内面ヘラナゲ	①良好②にぶい赤褐色③3~4mm砂粒含む④口縁部破片
417-7 127	土師器 甕	口-24.8	No 7	口縁部開く屈曲する外部不定方向ナゲ内面ヘラナゲ	①良好②にぶい褐色③5~6mm砂粒含む④口縁部残存
417-8 127	土師器 甕	底-7.6	No 8	外面ナゲ内面ヘラナゲ	①良好②にぶい赤褐色③3~4mm砂粒含む④底部残存

162号住居跡 (Fig. 418・419・420, PL. 33・127)

G区北部に位置し37・38G44~46の範囲にある。158号住居跡の東にある。他の遺構との重複関係はない。竪穴に接して傘よりやや小型の集石が検出されたが性格等は不明である。規模は長辺3.2m、短辺2.3mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約20cm~30cmを測り、主軸方位はN-81°-Eである。床面は平坦をなし、南壁に接して楕円形の落ち込みが検出された。規模は約150cm×80cm、深さ約10cmを測る。壁周溝は検出されていない。竪は東壁に検出された。規模は燃燒部幅約90cm、同長約40cmを測る。

第2章 検出された遺構と遺物

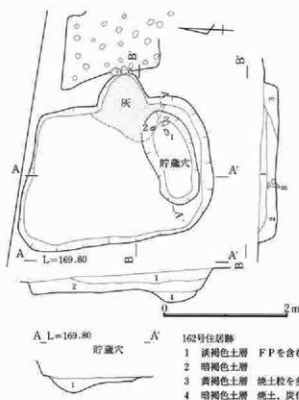


Fig.418 162号住居跡

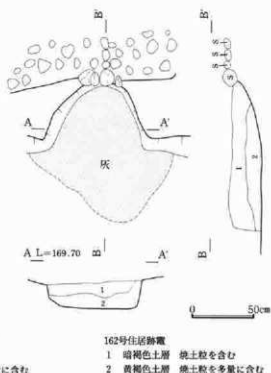


Fig.419 162号住居跡竈

貯蔵穴

1 暗褐色土層 焼土、炭化物を含む

162号住居跡
1 淡褐色土層 F Pを含む
2 暗褐色土層
3 黄褐色土層 焼土粒を多量に含む
4 暗褐色土層 焼土、炭化物を含む

162号住居跡竈
1 暗褐色土層 焼土粒を含む
2 黄褐色土層 焼土粒を多量に含む

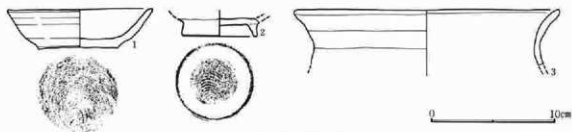


Fig.420 162号住居跡出土遺物

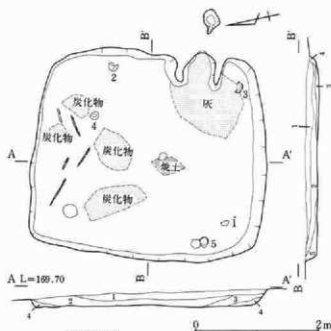
第162号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測 値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①構成 ②色調 ③土質 ④残存
420-1 127	須恵器 坏	口-11.5 高-2.9 底-6.4	No 1	口縁部直線状に外傾する底部回転糸切右廻り	①良好②にぶい赤褐色③1 ~2mmの砂粒含む④残存
420-2 127	須恵器 坏	底-6.0	No 2	付高台底部回転糸切	①良好②灰色③密④高台部 残存
420-3 127	土師器 甕	口-21.0	竈覆土	口縁部緩やかにカーブする口縁部ココナデ	①良好②褐色③細砂粒含む ④口縁部破片

163号住居跡 (Fig. 421・422・423, PL. 33・34・127)

G区北西部に位置し59~61G40~42の範囲にある。152号住居跡の北西部にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺3.8m、短辺3.35mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約20cm~30cmを測り、主軸方位はN-108°-Eである。床面は平坦をなし、床上には焼土、炭化物、炭等が散布した状態で検出された。また木片と思われる炭化材も検出されている。住居跡覆土の状況からは焼失家屋の可能性は薄い。壁周溝・貯蔵

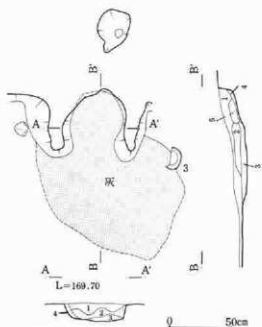
穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。形状は住居跡床面上に両袖が張り出している。規模は袖幅約60cm、燃焼部長約60cm、煙道部長約70cmを測る。煙道部先端には煙り出しの小穴が検出され天井部の一部も検出された。



163号住居跡

- 1 淡褐色土層
- 2 淡褐色土層 黄褐色土ブロックを少量含む
- 3 淡褐色土層 焼土ブロック多量を含む
- 4 淡褐色土層 黄褐色土を含む
- 5 淡褐色土層 黒色土を含む

Fig.421 163号住居跡



163号住居跡竈

- 1 黒褐色土層 炭化物、黒色灰を含む
- 2 黒褐色土層 焼土粒、炭化物、黒色灰を含む
- 3 黒褐色土層 黒色灰、炭化物を多量に含む
- 4 黒褐色土層 炭化物、黒色灰を少量含む
- 5 焼土層

Fig.422 163号住居跡竈

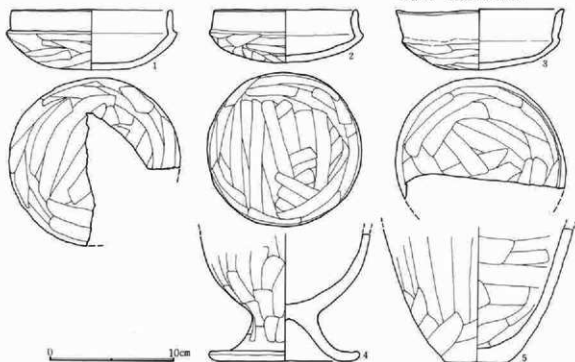


Fig.423 163号住居跡出土遺物

第163号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②胎土 ③胎土 ④残存
423-1 127	土師器 罎	口-12.8 高-4.75	No.1	口縁部稜をもち弱く内傾する口縁部ヨコナゲ体部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②赤褐色③細砂粒含む④良好残存
423-2 127	土師器 罎	口-11.5 高-4.15	No.2	口縁部稜をもちやや内傾する口縁部ヨコナゲ体部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②赤褐色③細砂粒含む④良好残存
423-3 127	土師器 罎	口-13.25 高-4.85	No.3	口縁部稜をもち弱く外傾する口縁部ヨコナゲ体部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②明褐色③細砂粒含む④良好残存
423-4 127	土師器 台付罎	底-12.0	No.4	外面ヘラケズリ裾部ヨコナゲ内面ナデ台ハの字状に開き端部外潤する	①良好②よい褐色③細砂粒含む④下部部台部残存
423-5 127	土師器 罎	底-4.9	No.5	外面ヘラケズリ内面ヘラナデ	①良好②淡黄褐色③1~2mmの砂粒含む④底部残存

164号住居跡 (Fig. 424・425・426, PL. 34・127・128)



164号住居跡

- 1 暗褐色土層
- 2 暗褐色土層 F Pを含む
- 3 暗褐色土層 焼土、炭化物を多量に含む
- 4 暗褐色土層
- 5 暗褐色土層 焼土を含む
- 6 暗褐色土層 焼土、炭化物を含む

Fig.424 164号住居跡・324号土坑

G区北西部に位置し61~63G27・28の範囲にある。124号住居跡の北西部にある。他の遺構との重複はないが北西コーナーで324号土坑と接している。規模は長辺3.2m、短辺2.7mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約10cm~15cmを測り、主軸方位はN-87-Eである。床面は平坦をなし、西壁と北・南壁の一部に周溝が検出された。幅約10cm~15cm、深さ約5cm~6cmを測る。南東部に小穴が検出された。規模は径約60cm、深さ約20cmを測る。竈は東壁に検出された。規模は燃焼部幅約80cm、同長約60cmを測る。

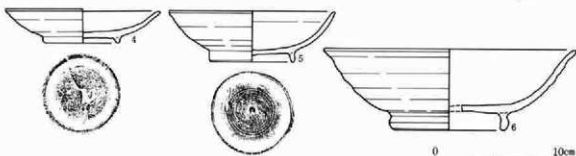


Fig.425 164号住居跡出土遺物(1)

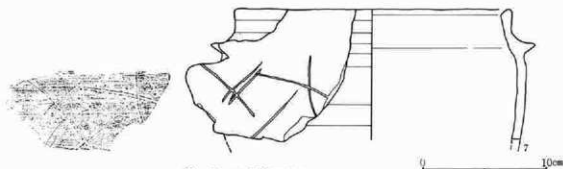


Fig.426 164号住居跡出土遺物(2)

第164号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ③胎土	②色調 ④残存
425-1 127	須恵器 埴	口-14.0	覆土	口縁部外湾する		①良好②灰色③2~3mmの 砂粒含む④口縁部破片
425-2 127	須恵器 埴	口-14.0	覆土	口縁部弱く外湾する		①良好②灰白色③1~2mm の砂粒含む④口縁部破片
425-3 127	須恵器 埴	底-5.6	No 3	付高台底部回転調整		①良好②灰色③細砂粒含む ④高台部残存
425-4 127	灰釉陶器 皿	口-12.3 高-2.7 底-6.0	No 4	付高台底部回転調整底部高台部に集付着		①良好②灰色③密④欠残 存
425-5 128	灰釉陶器 埴	口-13.2 底-6.5	No 5	口縁部緩やかに内湾する付高台底部回転調整		①良好②灰色③密④欠残 存
425-6 128	灰釉陶器 埴	口-20.0 高-6.4 底-8.7	No 6	口縁部縦線状残る付高台口縁部内湾して立ち上がる		①良好②灰色③密④口縁 ~底部欠残存
426-7 128	羽釜	口-22.0	覆土	口縁部直立ぎみ鈎状を向く外面へラ記号		①良好②よい褐色③細砂 粒含む④口縁部破片

165号住居跡 (Fig. 427・428・429・430, PL. 34・128・129)

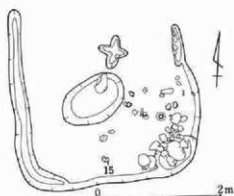


Fig.427 165号住居跡

G区北西部に位置し64・65G34・35の範囲にある。171号住居跡の北西にある。他の遺構との重複はない。住居跡の北壁は明確に確認できなかったが一边約3mを測る。平面形態は隅丸方形を呈するものと思われ、主軸方位は不明である。床面は平坦をなし、中央部に落ち込みが、北に接し炉が検出された。落ち込みの規模は約110cm×70cm、深さ約40cmを測る。西壁に周溝が検出され、規模は幅約20cm~30cm、深さ約5cm~10cmを測る。竈は検出されていない。当住居跡は中央の落ち込み、炉、台座に用いられたと思われる石が検出されるなど小鍛冶跡と考えられる。

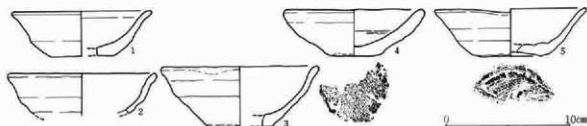


Fig.428 165号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物

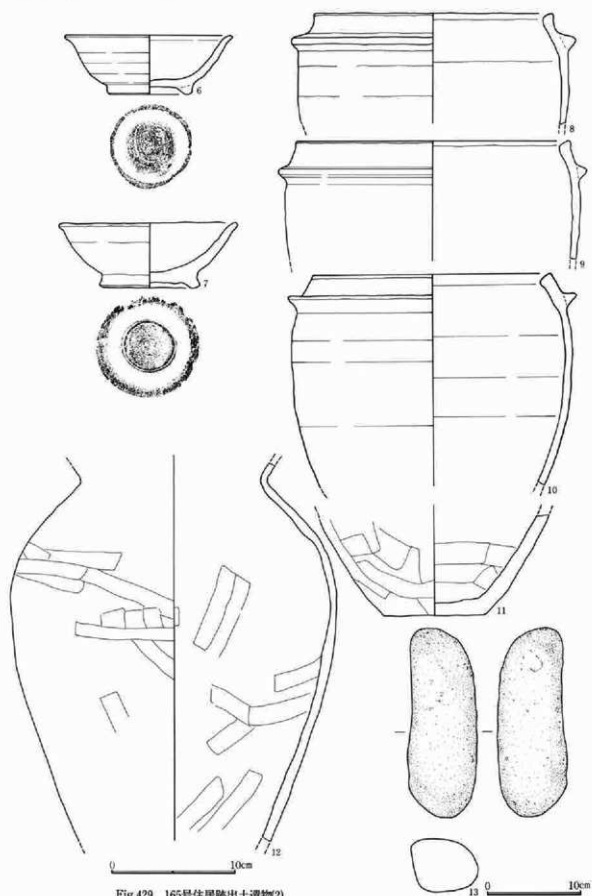


Fig.429 165号住居跡出土遺物(2)

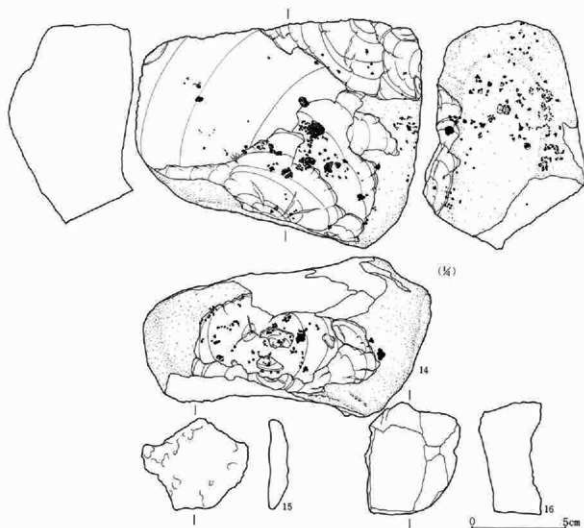


Fig.430 165号住居跡出土遺物(3)

第165号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①構成 ②胎土 ③色調 ④残存
428-1 128	須恵器 坏	口-11.2 底-5.0	高-3.55 覆土	口縁端部外側へ屈曲する	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含む④残存
428-2 128	土師器 坏	口-11.7	覆土	口縁部割く外湾する	①良好②にぶい褐色③1~2mm砂粒含む④残存
428-3 128	須恵器 坏	口-12.4 底-5.0	高-4.85 覆土	口縁部割く外湾する	①良好②にぶい褐色③1~2mmの砂粒含む④残存
428-4 128	須恵器 坏	口-11.0 底-4.2	高-3.7 小穴覆土	口縁部器壁厚く外傾する底部回転糸切痕極小さい	①良好②にぶい褐色③1~2mmの砂粒含む④残存
428-5 128	須恵器 坏	口-12.0 底-6.0	高-3.75 覆土	口縁部短く外湾する	①良好②灰白色③細砂粒含む④残存
429-6 128	須恵器 埴	口-13.3 底-6.6	高-4.85 覆土	付高台底部回転調整口縁端部外湾する	①良好②灰色③2~3mmの砂粒含む④残存
429-7 128	須恵器 埴	口-14.2 底-7.8	高-5.1 覆土	付高台底部回転調整口縁端部外側へ屈曲する	①良好②にぶい褐色③1~2mmの砂粒含む④残存
429-8 128	羽釜	口-19.0	覆土	口縁部短く脚横を向く	①良好②にぶい黄褐色③2~3mm砂粒含む④口縁部破片
429-9 128	羽釜	口-21.8	覆土	口縁部深く内湾する脚低く横を向く	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
429-10 128	羽釜	口-18.9	覆土	口縁部深く内湾する脚上を向く	①良好②灰色③3~4mmの砂粒含む④残存

第2章 検出された遺構と遺物

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
429-11 128	土師器 甕	直径-8.0	覆土	外面ヘラズリ内面ヘラナデ	①良好②によい褐色③3 ~4mm砂粒含④底部に残存
429-12 129	須恵器 甕		小穴覆土	口縁部細くなり最大径上割部にある内外面ヘラナ デ	①良好②灰色③3~4mm砂 粒含む④側~下割部に残存
Fig. 429-13 PL. 128		石 長-20.8cm 幅-8.2cm 厚-6.0cm		粗粒安山岩	
Fig. 430-14 PL. 129		石 長-30.4cm 幅-24.3cm 厚-17.0cm		鍛冶跡の台石アブライト	
Fig. 430-15 PL. 128	鉄製品	長-4.9cm 幅-5.0cm 厚-10mm		鉄滓	
Fig. 430-16	鉄製品	長-5.9cm 幅-5.0cm 厚-34mm		鉄滓	

166号住居跡 (Fig. 431・432・434・435, PL. 34・128・129)

G区北西部に位置し53~55G32~35の範囲にある。150号住居跡の南に接して検出された。他の遺構との関係は北西部で169号住居跡、南西部で168号住居跡、南東部で167号住居跡、4号溝と重複している。新旧関係は167・168号住居跡より旧く、169号住居跡・4号溝より古い。規模は長辺5.4m、短辺4.2mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約10cmを測り、主軸方位はN-78°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南に検出された。竈の北半部は4号溝によって切り崩されている。残存部の規模は燃焼部幅約50cm、燃焼部長約50cmである。

167号住居跡 (Fig. 431・433・436, PL. 35・129・130)

G区北西部に位置し53・54G32~35の範囲にある。150号住居跡の南にある。他の遺構との関係は南東部で4号溝、北西部の大半は166号住居跡と重複している。新旧関係は4号溝・166号住居跡が新しく大半は遺存していない。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は検出されていない。

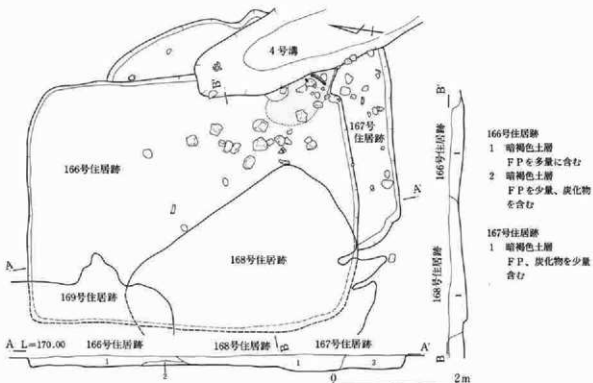
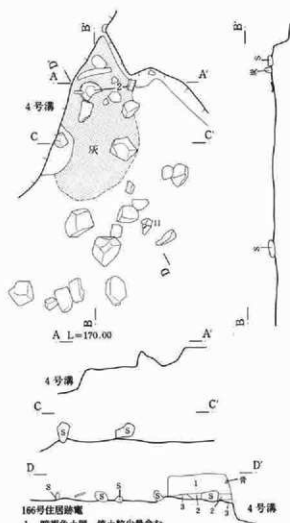
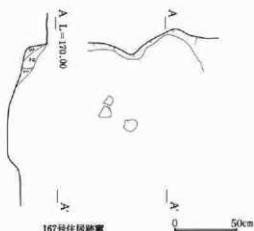


Fig.431 166・167号住居跡



166号住居跡
 1 暗褐色土層 焼土少量含む
 2 暗褐色土層 焼土ブロックを含む
 3 焼土

Fig.432 166号住居跡



167号住居跡

- 1 黒褐色土層 焼土、灰を含む
 2 黒褐色土層 灰を多量に含む
 3 黒褐色土層 焼土を含む

Fig.433 167号住居跡

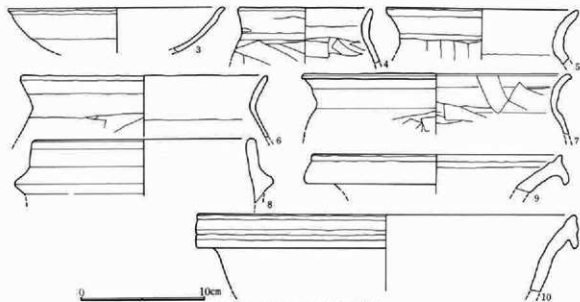
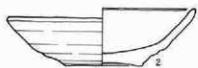


Fig.434 166号住居跡出土遺物(1)

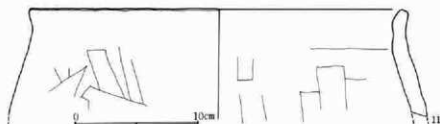


Fig.435 166号住居跡出土遺物(2)

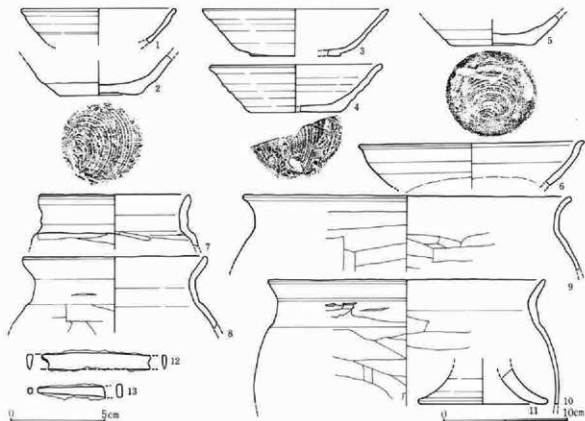


Fig.436 167号住居跡出土遺物

第166号住居跡出土遺物観察表

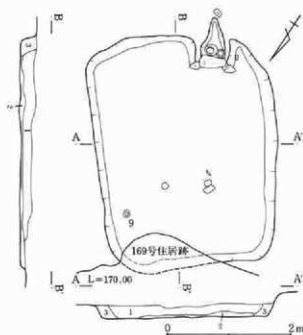
Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①構成 ②色調 ③胎土 ④残存
434-1 129	須恵器 坏	口-14.8 高-5.5 底-6.6	覆土	口縁部割く外側へ屈曲する底部回転未切	①良好②残黄褐色③1~2mmの砂粒含む④残存
434-2 128	須恵器 坏	口-14.6 高-4.55 底-6.0	No.2	底部回転の遅い未切底不明瞭口縁部内湾して立ち上がる	①良好②よい黄褐色③細砂粒含む④残存
434-3 128	灰釉陶器 皿	口-19.0	覆土	口縁部外側へ弱く屈曲する	①良好②灰白色③密④口縁部破片
434-4 128	土器 壺	口-10.5	覆土	口縁部直立ぎみに立ち上がる口縁部ココナデ割部ヘラケズリ内面ヘラナデ	①良好②よい橙色③細砂粒含む④口縁部破片
434-5 129	土器 壺	口-15.0	覆土	口縁部緩やかに外湾する口縁部ココナデ割部ヘラケズリ	①良好②残黄褐色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
434-6 129	土器 壺	口-19.4	覆土	口縁部外反する口縁部ココナデ外面ヘラケズリ内面ナデ	①良好②よい橙色③細砂粒含む④口縁部破片
434-7 129	土器 壺	口-21.0	覆土	口縁部弱くコの字状を呈する口縁部ココナデ割部ヘラケズリ内面ヘラナデ	①良好②よい橙色③細砂粒含む④口縁部破片
434-8 129	羽釜	口-17.4	覆土	口縁部直立ぎみ弱く横を向く	①良好②灰褐色③2~3mmの砂粒含む④口縁部破片

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
434-9	須恵器 壺	口-19.7	覆土		①良好②灰色③細砂粒含む ④口縁部破片
434-10 129	須恵器 壺	口-29.8	覆土	口縁部腹をもち外傾する	①良好②灰色③1~2mmの 砂粒含む④口縁部破片
435-11 129	土師器 壺	口-29.2	No11	外面ヘラケズリ内面ヘラナゲ	①良好②褐色③3~4mm の砂粒含む④口縁部破片

第167号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
436-1 129	須恵器 環	口-12.2	覆土	縦やかに内湾する	①良好②灰色③細砂粒含む ④口縁部破片
436-2 129	須恵器 環	底-6.2	覆土	底部回転未切	①良好②灰色③1~2mmの 砂粒含む④底部残存
436-3 129	須恵器 環	口-14.6 高-3.7 底-7.0	覆土	口縁部ハの字状に外傾する底部回転未切	①良好②灰色③2~3mmの 砂粒含む④破片
436-4 129	須恵器 環	口-13.4 高-3.75 底-6.8	覆土	口縁部弱く外側へ屈曲する内外面縦横腹明瞭に残る底部回転未切	①良好②褐色③2~3mm の砂粒含む④残存
436-5 130	須恵器 環	底-6.0	覆土	付高台穴落底部回転未切	①良好②黄灰色③2~3mm の砂粒含む④破片
436-6 130	灰輪陶 境	口-17.6	覆土	口縁部外側へ屈曲する	①良好②灰白色③密④口縁 部破片
436-7 130	土師器 壺	口-11.8	覆土	口縁部直立ぎみに立ち上がる口縁部ココナゲ胴部ヘラケズリ内面ヘラナゲ	①良好②よい褐色③細砂 粒含む④口縁部破片
436-8 130	土師器 壺	口-14.6	覆土	口縁部コの字状を呈する口縁部ココナゲ胴部ヘラケズリ内面ナゲ	①良好②よい黄褐色③細 砂粒含む④口縁部破片
436-9 130	土師器 壺	口-25.8	覆土	口縁部コの字状を呈する口縁部ココナゲ胴部ヘラケズリ内面ヘラナゲ	①良好②よい褐色③細砂 粒含む④口縁部破片
436-10 130	土師器 壺	口-21.8	覆土	口縁部コの字状を呈する口縁部ココナゲ胴部ヘラケズリ内面ナゲ	①良好②よい褐色③細砂 粒含む④口縁部破片
436-11 130	土師器 台付壺	底-10.0	覆土	内外面ココナゲハの字状に開く	①良好③よい褐色④1 ~2mm砂粒含む④台部残存
Fig. 436-12 PL. 130 鉄製品 長-5.7cm 厚-3mm 刀子					
Fig. 436-13 PL. 130 鉄製品 長-3.6cm 厚-4mm 不明					

168号住居跡 (Fig. 437・438・439・440, PL. 35・130・131)



G区北西部に位置し54~56G32~34の範囲にある。150号住居跡の南にある。他の遺構との関係は北部で169号住居跡、東部で166号住居跡と重複している。新旧関係は166・169号住居跡より古い。規模は長辺3.8m、短辺3mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約25cm~30cmを測り、主軸方位はN-142°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は南壁西寄りに検出された。規模は袖幅約50cm、燃焼部長約80cmを測る。竈両袖部からは石が検出された。袖土の上にさらに石が検出された。

168号住居跡

- 1 暗褐色土層 F Pを含む
- 2 暗褐色土層
- 3 淡褐色土層 黄褐色土ブロックを含む

Fig.437 168号住居跡

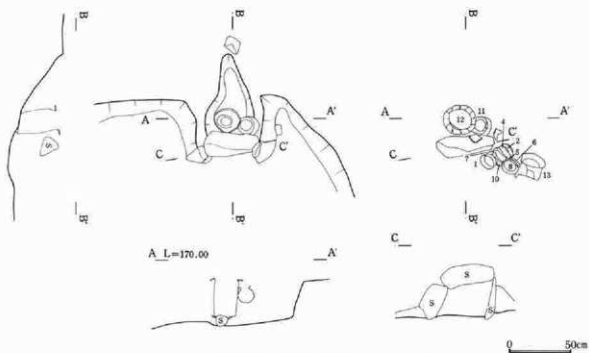


Fig.438 168号住居跡地

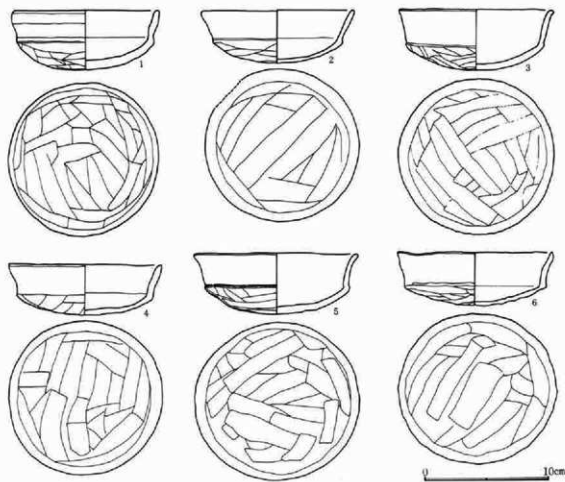


Fig.439 168号住居跡出土遺物(1)

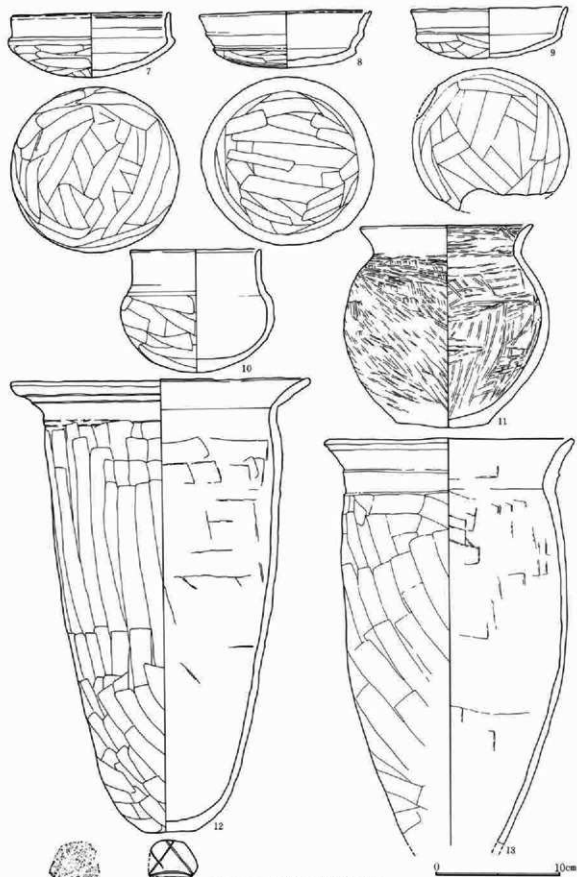


Fig.440 168号住居跡出土遺物2)

第168号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器 種 器 形	計 測 値(cm)	出土位置	成 形 及 び 調 整 の 特 徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
439-1 130	土師器 杯	口-11.7 高-4.6	No.1	口縁部やや肥厚し弱く内湾する口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②明褐色③1~2mmの砂粒含む④完形
439-2 130	土師器 杯	口-12.1 高-4.2	No.2	口縁部外側へ弱く口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②明褐色③1~2mmの砂粒含む④完形
439-3 130	土師器 杯	口-12.0 高-4.8	覆土	口縁部外傾する口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②明褐色③細砂粒含む④完形
439-4 130	土師器 杯	口-12.2 高-4.0	No.4	口縁部外湾する口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②明褐色③1~2mmの砂粒含む④完形
439-5 130	土師器 杯	口-13.1 高-4.85	No.5	口縁部外湾する口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②明褐色③細砂粒含む④完形
439-6 130	土師器 杯	口-12.4 高-4.1	No.6	底部浅く口縁部外湾する口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②明褐色③1~2mmの砂粒含む④完形
440-7 130	土師器 杯	口-12.4 高-5.1	No.7	口縁部直立する口縁部内面に沈線入る口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②ふい赤褐色③細砂粒含む④完形
440-8 130	土師器 杯	口-13.7 高-4.5	No.8	口縁部中に線をもち外側へ弱く内湾する口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②ふい赤褐色③細砂粒含む④完形
440-9 130	土師器 杯	口-12.2 高-3.9	No.9	口縁部外傾する口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②明褐色③細砂粒含む④外残存
440-10 130	土師器 壺	口-10.4 高-9.7	No.10	口縁部直立する底部丸底口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②明褐色③1~2mmの砂粒含む④完形
440-11 131	土師器 壺	口-13.6 高-16.0 底-7.0	No.11	口縁部弱く外反し胴部球形を呈する口縁部ヨコナデ胴部刷毛調整後ミダキ内面ミダキヘラナデ	①良好②黒褐色③1~2mmの砂粒含む④完形
440-12 131	土師器 長壁	口-23.7 高-35.6 底-3.8	No.12	口縁部くの字状に屈曲し蓋部へラ記号状に残る口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ヘラナデ痕残る	①良好②褐色③1~2mmの砂粒含む④完形
440-13 131	土師器 長壁	口-19.3	No.13	口縁部弱く外湾する胴部は長脚化する口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ヘラナデヘラ痕残る	①良好②ふい褐色③2~3mm砂粒含む④下部欠損

169号住居跡 (Fig. 441・442・443, PL. 36・130・131)

G区北西部に位置し55°57'G 34°36'の範囲にある。151号住居跡の南にある。他の遺構との関係は北東部で150・184号住居跡、東部、南東部で166・168号住居跡と重複している。新旧関係は166・168号住居跡より新しく、150号住居跡より古い。184号住居跡との新旧関係は不明である。規模は長辺3.8m、短辺3.5mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約20cm~30cmを測るが西壁は約5cm~6cmを測る。主軸方位はN-

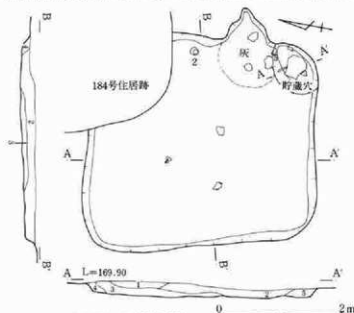


Fig.441 169号住居跡

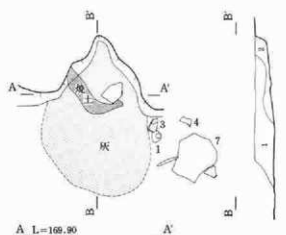
73°Eである。床面は平坦をなし、南東コーナーに貯蔵穴が検出された。規模は約100cm×65cm、深さ約15cmを測る。

壁周溝は検出されていない。竈は東壁南寄りには検出された。規模は燃烧部幅約80cm、同長約60cmを測る。



169号住居跡

- 1 暗褐色土層 F Pを含む
- 2 暗褐色土層 F Pを含む
- 3 暗褐色土層 F Aを含む
- 4 暗褐色土層 F Aをブロックを含む
- 5 淡褐色土層 黄褐色土粒を含む



A L=169.90

169号住居跡遺

1 暗褐色土層 FPを含む

2 暗褐色土層 炭土を含む

Fig.442 169号住居跡遺

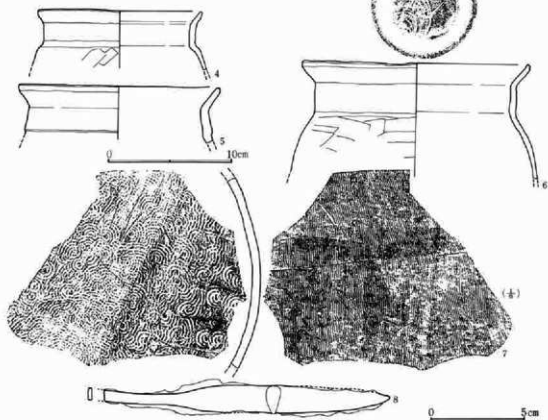


Fig.443 169号住居跡出土遺物

第169号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
443-1 130	須恵器 坏	底-5.5	No 1	底部から口縁部に向い緩やかに外傾しながら立ち上る底部回転糸切	①良好②灰色③織紗粒含む ④底部残存

第2章 検出された遺構と遺物

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測 径(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②胎土	③色調 ④残存
443-2 131	須恵器 皿	口-12.4 底-2.6	No.2	高台助付縁槽凹形を呈す底部回転糸切付高台	①良好②灰色③1~2mmの 砂粒含む④残存	
443-3 131	須恵器 坏	口-16.2 底-8.4	No.3	体部輪縁成形痕残り口縁部弱く外湾する付高台底部 回転糸切	①良好②灰白色③細砂粒含む ④残存	
443-4 131	土師器 甕	口-7.0	No.4	小形甕台部の付くものとみられる口縁部コの字状 を呈する口縁部ココナダ胴部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②ふい橙色③細砂 粒含む④口縁部残存	
443-5 131	土師器 甕	口-16.0	覆土	口縁部コの字状を呈し胴部下はハの字状に広がる 口縁部ココナダ胴部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②ふい橙色③細砂 粒含む④口縁部破片	
443-6 131	土師器 甕	口-18.0	覆土	口縁部コの字状を呈する口縁部内外面に沈線が 入る口縁部ココナダ胴部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②橙色③細砂粒含む ④口縁部残存	
443-7 131	須恵器 甕		No.7	外面叩き目内面アテ目痕を残す	①良好②灰色③細砂粒含む ④胴部破片	

Fig. 443-8 PL. 131 鉄製品 長-15.3cm 厚-2~8mm 刀子

170号住居跡 (Fig. 444・445・446, PL. 36・131・132)

G区北西部に位置し52・53G31・32の範囲にある。172号住居跡の南にある。他の遺構との関係は東半部を4号溝、南部を40号溝と重複している。新旧関係は40号溝より新しく、4号溝より古い。このため住居跡の

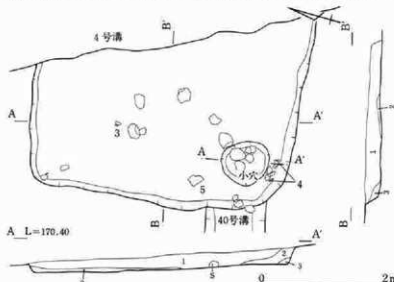


Fig.444 170号住居跡

約2分の1は切り崩されている。このため規模その他は不明であるが西壁は4.5mを測る。壁高は約10cm~30cmを測る。床面は平坦をなし、南西コーナーに小穴を検出した。規模は径約80cm、深さ約15cmを測る。壁周溝等の諸施設は検出されていない。竈は検出されていない。

170号住居跡

- 1 暗褐色土層 FP、炭化物を含む
- 2 暗褐色土層 FPを含む
- 3 黒褐色土層 FP、黒色土を含む

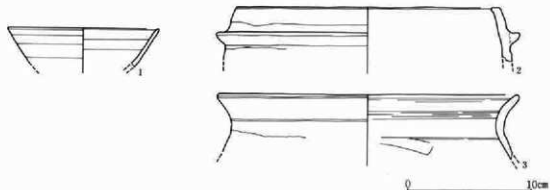


Fig.445 170号住居跡出土遺物(1)

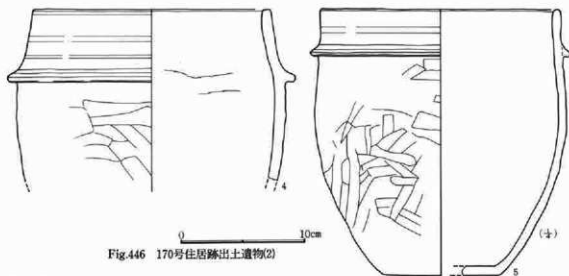


Fig.446 170号住居跡出土遺物(2)

第170号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ③胎土	②色調 ④残存
445-1 131	灰輪陶器 坏	口-12.0	覆土			①良好②灰白色③密④破片
445-2 132	羽蓋	口-21.0	覆土	口縁部弱く内湾する筒状上を向く口縁部内外面 ヨコナデ		①良好②赤褐色③5~6mm の砂粒含む④口縁部破片
445-3	土器 壺	口-24.0	No 3	口縁部弱くコの字状を呈する口縁部ヨコナデ割部 ヘラケズリ内面ヨコナデ割部ヘラナデ		①良好②よい橙色③細砂 粒含む④口縁部破片
446-4	羽蓋	口-19.0	No 4	口縁部直立きみ脚下に最大径がくる口縁部ヨコナ デ脚下を向く割部ヘラケズリ内面ナデ		①良好②よい赤褐色③3 ~4mm砂粒含む④口縁部破片
446-5 132	羽蓋	口-25.6 高-28.1	No 5	口縁部直立する脚低く下を向く口縁部ヨコナデ割 部ヘラケズリ後ナデ内面ナデ		①良好②よい橙色③ ~4mmの砂粒含む④残存

172号住居跡 (Fig. 447・448・449, PL. 36・133)

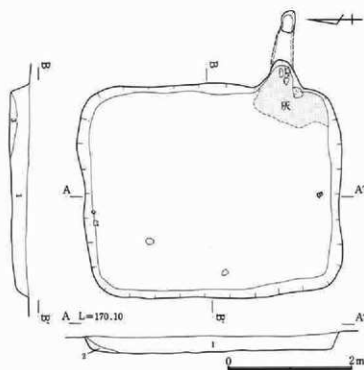


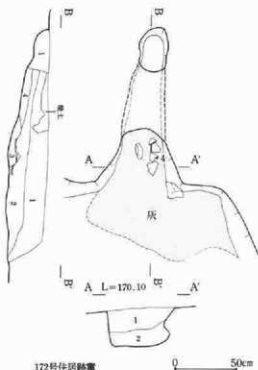
Fig.447 172号住居跡

G区北西部に位置し50~52G33~35の範囲にある。154号住居跡の南にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺4.3m、短辺3.5mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約20cm~30cmを測り、主軸方位はN-87-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約20cm、同長約30cm、煙道部長約80cmを測る。右側袖部に石が検出された。煙道部先端には煙り出しの小穴が検出され天井の一部が検出された。

172号住居跡

- 1 暗褐色土層 FAを含む
- 2 暗褐色土層
- 3 暗褐色土層 FA、黄褐色土ブロックを含む

第2章 検出された遺構と遺物



172号住居跡電
 1 黒褐色土層 F P、F Aを多量に含む
 2 黒褐色土層 灰土、炭化物、灰を含む
 3 黒褐色土層 灰土、灰を多量に含む
 4 黒褐色土層 灰土、灰を含む

Fig.448 172号住居跡電

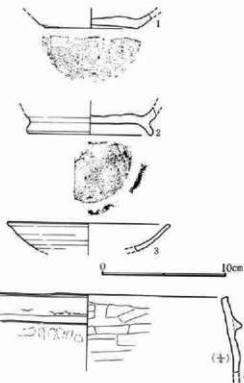


Fig.449 172号住居跡出土遺物

第172号住居跡出土遺物観察表

Fig. No Pl. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①構成 ②色調 ③胎土 ④残存
449-1 133	須恵器 坏	径-7.4	覆土	底部回転糸切底部中心上へ盛り上がる	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④底部片残存
449-2 133	須恵器 埴	径-10.0	覆土	付高台底部回転糸切	①良好②灰色③密④底部片残存
449-3 133	灰釉陶器 皿	口-12.8	覆土	口縁端部弱く外側へ屈曲する	①良好②白色③密④口縁部破片
449-4 133	羽釜	口-30.0	No 4	口縁端部外側へ屈曲する際低く下を向く口縁部コナテ跡下に指頭痕残る内面ヘラナテ	①良好②橙色③3~4mmの砂粒含む④口縁部破片

173号住居跡 (Fig. 450, PL. 36)

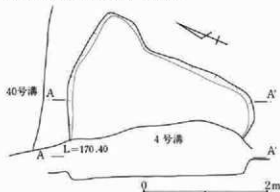


Fig.450 173号住居跡

G区北部に位置し49・50G30・31の範囲にある。170号住居跡の南西にある。他の遺構との関係は4号溝と重複している。新旧関係は4号溝が新しい。このため住居跡の大半は切り崩されている。壁高は約10cm~20cmを測り、規模、主軸方位等は不明である。床面は平坦をなし、竈は検出されていない。

174号住居跡 (Fig. 451・452・453, PL. 37・133)

G区北部に位置し43~45G28~30の範囲にある。127号住居跡の東にある。他の遺構との関係は北西部で175

号住居跡と重複している。新旧関係は174号住居跡が新しい。規模は長辺4m、短辺3.6mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約10cm~20cmを測り、主軸方位はN-85°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約60cm、同長約60cm、煙道部長約50cmを測る。煙道部先端には煙り出しの小穴が北に軸が振られて検出された。

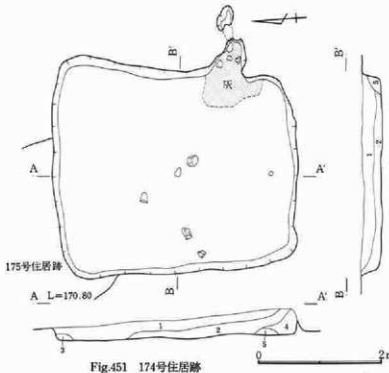
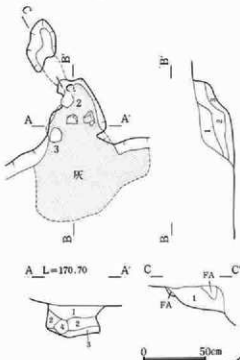


Fig.451 174号住居跡

174号住居跡

- 1 淡褐色土層 FA、FPを含む
- 2 淡褐色土層 FAブロックを含む
- 3 淡褐色土層 砂質土
- 4 淡褐色土層
- 5 淡褐色土層 FAを多量を含む



174号住居跡竈

- 1 淡褐色土層 FA、FPを含む
- 2 淡褐色土層 FAブロックを含む
- 3 淡褐色土層 焼土、灰を含む
- 4 FAブロック

Fig.452 174号住居跡竈

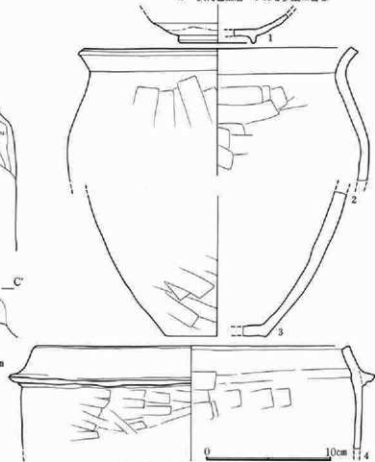


Fig.453 174号住居跡出土遺物

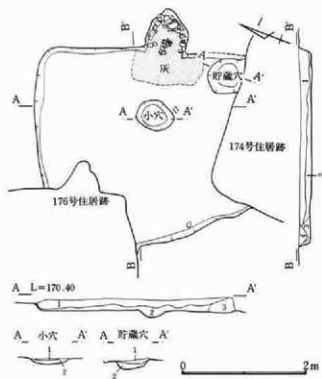
第2章 検出された遺構と遺物

第174号住居跡出土遺物観察表

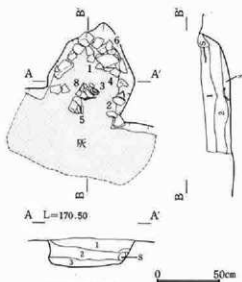
Fig. No. PL. No.	器 種 形	計 測 値 (cm)	出土位置	成 形 及 び 調 整 の 特 徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
453-1 133	灰輪陶器 坏	底-5.8	覆 土	付高台高台内面半月形を呈す	①良好②灰白色③赤④底部 破片
453-2 133	土 師 器 罍	口-21.1	No.2	口縁端部平坦面をもつ口縁部ココナダ割部ヘラケズリ内面ヘラナダ	①良好②によい赤褐色③4 ~5 mm砂粒含む④口縁部破片
453-3 133	土 師 器 罍	底-5.0	No.3	外面ヘラケズリ内面ナダ	①良好②によい赤褐色③2 ~3 mm砂粒含む④底部破片
453-4 133	羽 蓋	口-24.8	覆 土	口縁部狭く内湾する脚貼付下面凸凹が明確脚下面色外面ヘラナダ内面ヘラナダ	①良好②によい褐色③1 ~2 mm砂粒含む④口縁部破片

175号住居跡 (Fig. 454・455・456, PL. 37・133・134)

G区北部に位置し43~45G30~32の範囲にある。177号住居跡の東にある。他の遺構との関係は南部で174号住居跡、北西部で176号住居跡と重複している。新旧関係は174・176号住居跡が新しい。重複のため規模は不明であるが平面形態は隅丸方形を呈するものと思われる。壁高は約15cm~20cmを測り、主軸方位はN-71°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈前面に小穴が検出された。規模は約60cm×50cm、深さ約10cmを測る。竈は東壁に検出された。規模は燃焼部幅約70cm、同長約80cmを測る。竈の内壁には構築材と思われる石が多数検出された。



- 175号住居跡
- 1 淡褐色土層 F P、炭化物を少量含む
 - 2 淡褐色土層 F Aを含む
 - 3 淡褐色土層 F Aを多量に含む
 - 4 淡褐色土層 F Pを含む
- 貯蔵穴
- 1 暗褐色土層
 - 2 暗褐色土層 黒色灰、炭化物を含む
- 小穴
- 1 灰褐色土層
 - 2 炭化物、灰層
- Fig.454 175号住居跡



- 175号住居跡竈
- 1 黒褐色土層 F Pを多量に含む
 - 2 暗褐色土層 F Aブロックを含む
 - 3 暗褐色土層 雑土、灰を含む
- Fig.455 175号住居跡竈

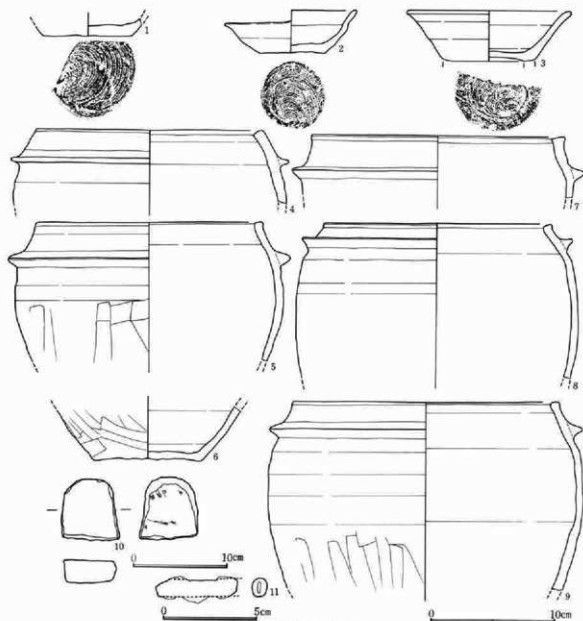


Fig.456 175号住居跡出土遺物

第175号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①構成 ②色調 ③胎土 ④残存
456-1 133	須恵器 坏	底-7.0	No.1	底部回転未切	①良好②濃褐色③2~3mm の砂粒含む④底部残存
456-2 133	須恵器 坏	口-10.5 高-3.4 底-5.3	No.2	体部に稜をもち立ち上がる口縁部ゆがみがひどい 底部回転未切右廻り	①良好②淡黄褐色③細砂粒 含む④完形
456-3 133	須恵器 埴	口-13.0	No.3	口縁部外側へ屈曲する底部回転未切付高台欠落	①良好②濁灰色③1~2mm の砂粒含む④与残存
456-4 133	羽蓋	口-18.0	No.4	口縁部内湾する脚縁を横を向く	①良好②よい褐色③1 ~2mm砂粒含む④口縁部破片
456-5 134	羽蓋	口-18.0	No.5	口縁部内湾する脚縁付箱で横を向く割部ヘラクスリ	①良好②濁灰色③2~3mm の砂粒含む④口縁部破片
456-6 133	土師器 壺	底-8.5	No.6	外面ヘラクスリ内面ナデ	①良好②よい褐色③2 ~3mm砂粒含む④底部破片
456-7 134	羽蓋	口-20.0	覆土	口縁部内湾する脚縁を向く	①良好②よい褐色③1 ~2mm砂粒含む④口縁部破片

第2章 検出された遺構と遺物

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
456-8 133	羽蓋	□-18.0	No. 8	口縁部内湾する蹄横を向く	①良好②ぶい橙色③1~2mm砂粒含④口縁部残存
456-9 134	羽蓋	□-21.0	覆土	口縁部内湾する下割部ヘラズリ内面ナデ	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含④口縁部残存
Fig. 456-10 PL. 134 石 長-7.2cm 幅-6.4cm 厚-2.8cm 流紋岩(砥沢?)					
Fig. 456-11 PL. 134 鉄製品 長-4.3cm 厚-2mm 不明					

176号住居跡 (Fig. 457・458・459・460, PL. 37・134・135)

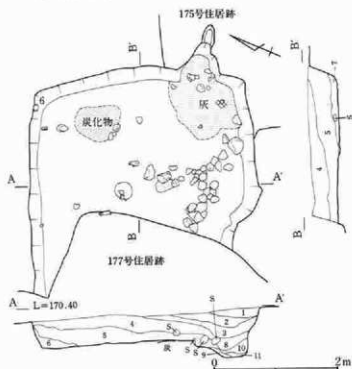


Fig.457 176号住居跡

176号住居跡

- 1 暗褐色土層 泥炭土を含む
- 2 暗褐色土層
- 3 暗褐色土層 泥炭土ブロックを含む
- 4 暗褐色土層 炭化物を多量に含む
- 5 暗褐色土層 FA粒、炭化物を少量含む
- 6 暗褐色土層 泥炭土を含む
- 7 暗褐色土層 黒色土を含む
- 8 暗褐色土層 FAブロックを含む
- 9 暗褐色土層 黒色灰層
- 10 暗褐色土層
- 11 淡褐色土層 FAを多量に含む

176号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 FA粒を少量含む
- 2 暗褐色土層 FA粒、焼土粒を含む

G区北部に位置し45~47G30~32の範囲にある。179号住居跡の南にある。他の遺構との関係は東部で175号住居跡、西部で177号住居跡と重複している。新旧関係は175号住居跡より新しく、177号住居跡より古い。このため規模は不明であるが、東壁は3.9mを測る。壁高は約30cm~40cmを測り、主軸方位はN-59°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝等の諸施設は検出されていない。床面上には多数の石が検出された。竈は東壁南よりに検出された。規模は燃烧部幅約60cm、同長約50cm、煙道部長約60cmを測る。



Fig.458 176号住居跡竈

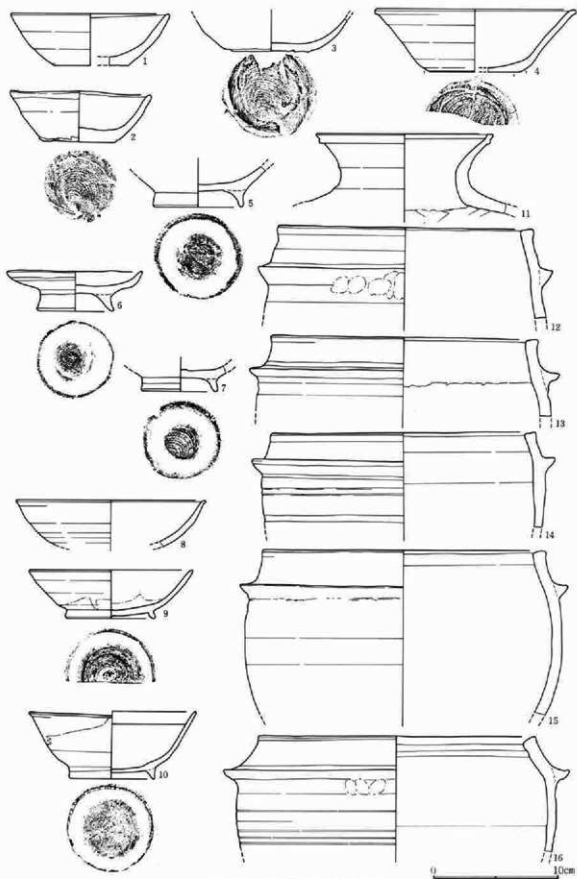


Fig.459 176号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物

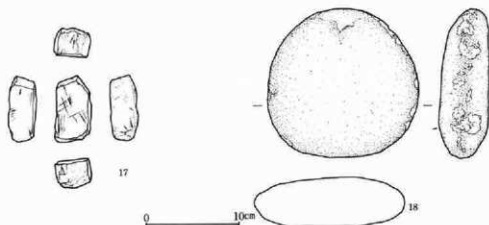


Fig.460 176号住居跡出土遺物(2)

第176号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器 種 形	計 面 積 (cm ²)	計 高 (cm)	出土位置	成 形 及 び 調 整 の 特 徴	① 焼成 ②胎土 ③胎土 ④残存
459-1 134	須恵器 罎 坏	口-12.5 底-6.0	高-4.1	覆土	底部から弱く内湾して立ち上がる底部回転余切	①良好②褐色③細砂粒含む④残存
459-2 134	須恵器 罎 坏	口-11.2 底-5.5	高-4.0	覆土	底部回転余切内面底部輪軸痕明顯	①良好②よい黄褐色③細砂粒含む④残存
459-3 134	須恵器 罎 坏	底-6.1		覆土	底部回転余切右寄り	①良好②褐色③細砂粒含む④底部残存
459-4 134	須恵器 罎 坏	口-15.5		覆土	口縁部外湾する底部回転余切高台欠落	①良好②灰色③細砂粒含む④残存
459-5 134	須恵器 罎 坏	底-6.8		覆土	付高台底部回転余切	①良好②よい褐色③1~2mm砂粒含む④底部残存
459-6 134	須恵器 罎 坏	口-10.7 底-6.0	高-3.2	覆土	足高台底部回転調整口縁部内湾する	①良好②よい黄褐色③細砂粒含む④突起
459-7 134	須恵器 罎 坏	底-6.0		No7	付高台底部回転余切	①良好②褐色③1~2mmの砂粒含む④底部残存
459-8 134	灰釉陶器 罎 坏	口-15.0		覆土	口縁部弱く屈曲する	①良好②灰白色③密④口縁部破片
459-9 134	灰釉陶器 罎 坏	口-13.0 底-6.9	高-3.8	覆土	付高台底部回転調整口縁部内湾して立ち上がる	①良好②灰白色③砂粒含む④密④残存
459-10 134	灰釉陶器 罎 坏	口-13.2	高-5.4	覆土	付高台底部回転調整	①良好②灰白色③密④残存
459-11 134	須恵器 罎 坏	口-14.0		覆土	口縁部後をもち薄くなる口縁部外湾する	①良好②灰色③密④口縁部残存
459-12 134	羽釜	口-20.2		No12	脚低く上を向く脚の下に指頭状残る	①良好②よい褐色③細砂粒含む④口縁部破片
459-13 134	羽釜	口-21.0		覆土	脚横を向く口縁部弱く内湾する	①良好②明褐色③細砂粒含む④口縁部破片
459-14 134	羽釜	口-21.0		覆土	口縁部弱く内湾する脚上を向く	①良好②灰白色③細砂粒含む④口縁部残存
459-15 135	羽釜	口-22.4		覆土	口縁部内湾する脚上を向き脚貼付下面に残る	①良好②灰黄色③3~4mm砂粒含む④口縁部残存
459-16 134	羽釜	口-22.0		No16	口縁部内湾する脚上を向く	①良好②明褐色③2~3mm砂粒含む④口縁部破片
Fig.460-17	PL.135	石	長-7.3cm 幅-3.3cm 厚-3.6cm	砥石	波紋有(砥沢?)	
Fig.460-18	PL.135	石	長-16.8cm 幅-12.0cm 厚-5.6cm	粗粒安山岩		

177号住居跡 (Fig. 461・462, PL. 37・38・135)

G区北部に位置し31~33G30~32の範囲にある。174号住居跡の西にある。他の遺構との関係は北東部で176号住居跡、南部で178号住居跡と重複している。新旧関係は176・178号住居跡より新しい。規模は一辺3.5mを

第1節 竪穴住居跡

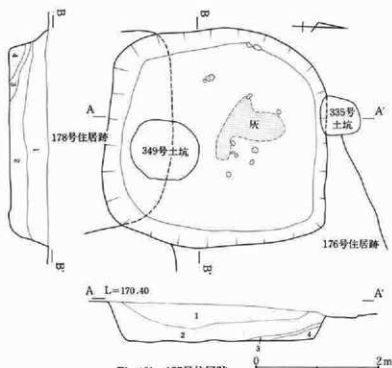


Fig.461 177号住居跡

測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約50cm～60cmを測る。床面は平坦をなし、床面上には灰が散布した状態で検出された。壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は検出されていない。

- 177号住居跡
 1 暗褐色土層
 2 暗褐色土層 FAを少量含む
 3 灰褐色土層 FAを含む
 4 黒褐色土層 FAを多量に含む

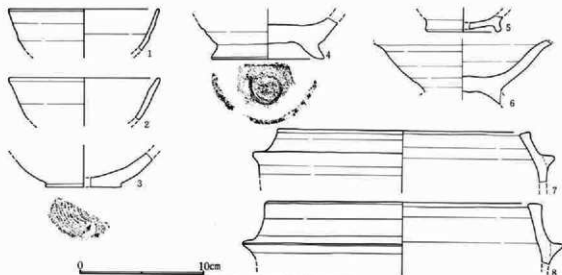


Fig.462 177号住居跡出土遺物

第177号住居跡出土遺物観察表

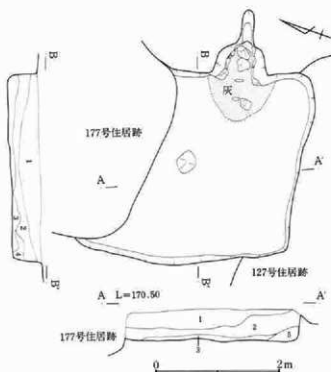
Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測 値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
462-1 135	灰物陶器 埴	口-12.0	覆土	口縁部弱く屈曲する	①良好②灰白色③部④破片
462-2 135	須恵器 坏	口-12.0	覆土	口縁部弱く外反する	①良好②灰白色③細砂粒含む ④口縁部破片
462-3 135	須恵器 坏	底-6.0	覆土	底部回転余切	①良好②に多い橙色③細砂 粒含む④破片
462-4 135	須恵器 埴	底-9.0	覆土	付高台底部回転調整	①良好②褐色③1～2mm の砂粒含む④底部残存
462-5 135	灰物陶器 埴	底-6.0	覆土	付高台底部回転調整	①良好②残黄色③部④底部 破片

第2章 検出された遺構と遺物

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②胎土	③色調 ④残存
462-6 135	須恵器 埴		覆土	口縁部外反する高台部欠落	①良好②よい	③橙色④細砂粒含む⑤写残存
462-7 135	羽蓋	□-20.0	覆土	脚上を向く口縁部内傾する	①良好②灰色③	④1~2mmの砂粒含む⑤口縁部破片
462-8 135	羽蓋	□-22.0	覆土	脚上を向く口縁部内傾する	①良好②灰褐色③	④細砂粒含む⑤口縁部破片

178号住居跡 (Fig. 463・464・465・466, PL. 38・135)

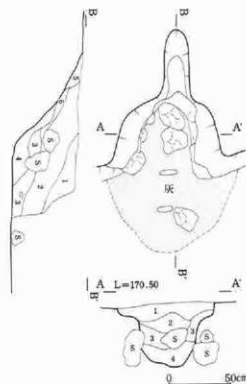
G区北部に位置し46~48G29・30の範囲にある。174号住居跡の西にある。他の遺構との関係は南部で127号住居跡、北部で177号住居跡と重複している。新旧関係は127号住居跡より新しく、177号住居跡より古い。規模は長辺3.9m、短辺3.1mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約20cm~30cmを測り、主軸方位はN-70°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁に検出された。規模は燃焼部幅約70cm、同長約60cm、煙道部長約60cmを測る。燃焼部から煙道部にかけて急な傾斜で立ち上がる。両袖部、燃焼部内から石が検出された。燃焼部内壁には石が2段状に積んだ状態で検出された。



178号住居跡

- 1 暗褐色土層 FPを少量含む
- 2 暗褐色土層 FAブロックを多量に含む
- 3 暗褐色土層 FAブロックを少量含む
- 4 暗褐色土層
- 5 暗褐色土層 黒色土を含む、FAブロックを含む

Fig.463 178号住居跡



178号住居跡竈

- 1 暗褐色土層
- 2 暗褐色土層 FA粒を多量に含む
- 3 暗褐色土層 焼土粒を多量に含む
- 4 暗褐色土層 焼土ブロック
- 5 淡褐色土層 FAを多量に含む
- 6 淡褐色土層 FAを含む

Fig.464 178号住居跡竈(1)

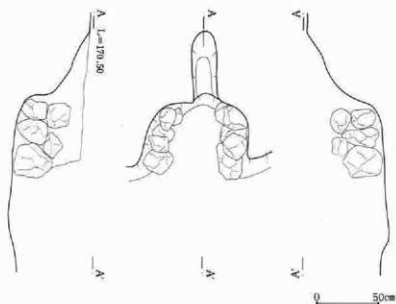


Fig.465 178号住居跡(2)

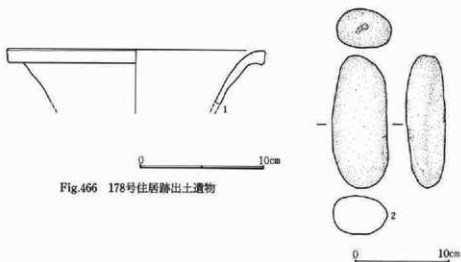


Fig.466 178号住居跡出土遺物

第178号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
466-1 135	須臾器 壺	口-20.4	覆土	口縁部稜をもち外反する	①良好②灰黄褐色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
Fig. 466-2	PL. 135	石 長-15.2cm 幅-4.0cm 厚-4.5cm	粗粒安山岩		

179号住居跡 (Fig. 467・468、PL. 38・135)

G区北部に位置し45・46G33~35の範囲にある。176号住居跡の北にある。他の遺構との関係は南部で40号溝、北部で160号住居跡と重複している。新旧関係は40号溝・160号住居跡より古い。規模その他は不明である。床面は平坦をなし、壁高は約10cmである。竈は検出されていない。

第2章 検出された遺構と遺物



Fig.467 179号住居跡

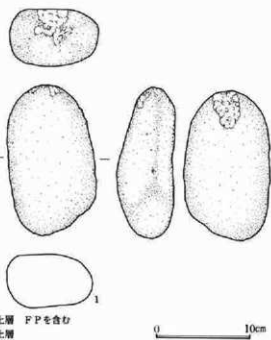


Fig.468 179号住居跡出土遺物

第179号住居跡出土遺物観察表

Fig. 468-1 PL. 135 石 長-16.4cm 幅-9.6cm 厚-5.8cm 粗粒安山岩

181号住居跡 (Fig. 469・470、PL. 38・135)

E区に位置し50・51E45・46の範囲にある。調査区内の南にある。北東部、南壁の一部を新しい川により削平されている。壁高は約5cm~10cmと遺存が悪く床面はほぼ平坦をなす。竈は検出されていない。

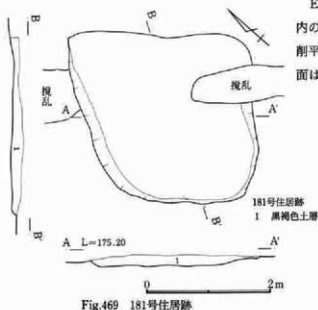


Fig.469 181号住居跡



Fig.470 181号住居跡出土遺物

第181号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
470-1 135	須恵器 坏	口-14.4	覆土	器高低く直線的に外傾する	①良好②灰色③細砂粒含む ④破片

182号住居跡 (Fig. 471・472・473, PL. 38・135・136)

E区に位置し40・41E 2・3の範囲にある。西半部は検出されていない。規模は東壁で3.1mを測る。壁高は約5cm~10cmを測り、主軸方位はN-59°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝等の諸施設は検出されていない。南東コーナーに貯蔵穴が検出された。規模は約90cm×30cm、深さ約20cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約70cm、同長約70cmを測る。

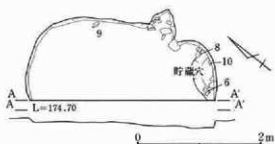
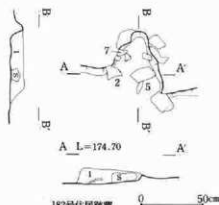


Fig.471 182号住居跡



182号住居跡竈

1 暗褐色土層 焼土を含む

Fig.472 182号住居跡竈

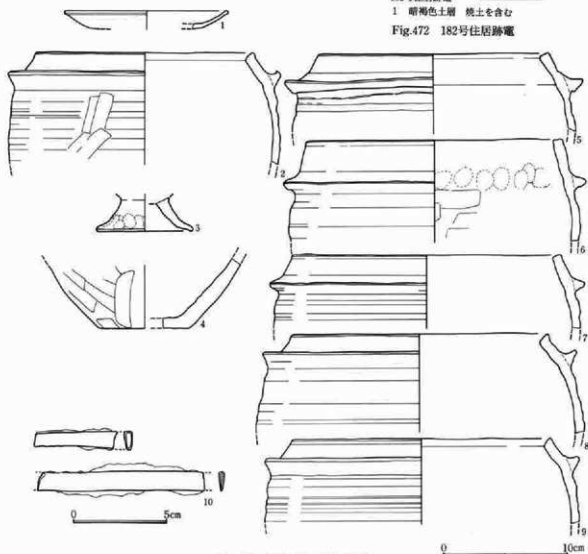


Fig.473 182号住居跡出土物

第2章 検出された遺構と遺物

第182号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①構成 ②胎土 ③胎土 ④残存
473-1 135	灰軸陶器 皿	口-7.0	覆土	口縁端部向く屈曲する	①良好②灰白色③④口縁部破片
473-2 135	羽釜	口-17.4	No. 2	口縁部内湾する胴部に割いナゲ	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部破片
473-3 135	土師器 台付壺	底-7.6	覆土	外面指頭痕	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④脚部破片
473-4 135	土師器 壺	底-7.0	覆土	外面ヘラケズリ	①良好②にぶい橙色③1~2mm砂粒含む④底部破片
473-5 135	羽釜	口-18.2	No. 5	口縁部内傾し脚貼付ゆがみ横を向く	①良好②にぶい橙色③1~2mm砂粒含む④口縁部破片
473-6 135	羽釜	口-20.3	No. 6	脚横を向く内面指頭痕ヘラナゲ	①良好②にぶい橙色③1~2mm砂粒含む④口縁部破片
473-7 136	羽釜	口-11.4	No. 7	口縁部内傾し脚横を向く	①良好②橙褐色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
473-8 136	羽釜	口-20.4	No. 8	口縁部内湾する脚上を向く	①良好②灰褐色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
473-9 136	羽釜	口-20.5	No. 9	口縁部内湾し脚上を向く	①良好②にぶい橙色③1~2mm砂粒含む④口縁部破片

Fig. 473-10 PL. 136 敷製品 長-13.1cm 厚-3mm 不明

183号住居跡 (Fig. 474・475・476, PL. 39・136)

E区に位置し55~57E.32・33の範囲にある。北半部の大半は新しい川に削平されている。規模は南壁が2.7mを測り、平面形態は隅丸方形を呈するものと思われる。壁高は約10cmを測り、主軸方位はN-90°-Eである。床面は平坦をなし、南東コーナーに小穴が検出された。規模は径約60cm、深さ約20cmを測る。竈は東壁に検出された。規模は竈焼部幅約80cm、同長約60cmを測る。

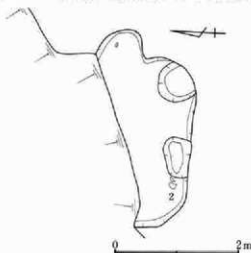
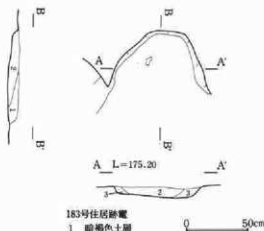


Fig.474 183号住居跡



183号住居跡竈

- 1 暗褐色土層
- 2 暗褐色土層 焼土粒、黒色灰を含む
- 3 暗褐色土層 焼土を含む

Fig.475 183号住居跡竈

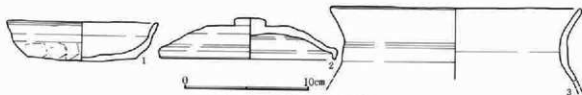


Fig.476 183号住居跡出土遺物

第183号住居跡出土遺物観察表

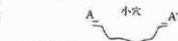
Fig. No. PL. No.	器 種 形	計 測 値 (cm)	出土位置	成 形 及 び 調 整 の 特 徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
475-1 136	土師器 坪	口-12.0 高-3.1 底-8.6	覆土	体部弱い種を持つ体部弱いヘラナデ底部ヘラズリ内面ナデ	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④残存
475-2 136	須恵器 蓋	口-14.2 高-3.3	No.2	ボタン状つまみ上面回転糸切	①良好②にぶい橙色③2~3mmの砂粒含む④残存
476-3 136	土師器 壺	口-20.0	覆土	口縁部ヨコナデ割部ヘラズリ内面ナデ	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部破片

186号住居跡 (Fig. 477・478・479, PL. 39・136)

G区北東部に位置し37~39G28~30の範囲にある。187号住居跡の南に接して検出され、187号住居跡の竈と接するか新旧関係は不明である。他の遺構との重複はない。規模は長辺4m、短辺3.3mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約10cm~20cmを測り、主軸方位はN-88°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約80cm、同長約90cmを測る。



Fig.477 186号住居跡



186号住居跡

- 1 暗褐色土層 FAを少量含む
- 2 暗褐色土層 FAを多量に含む
- 3 暗褐色土層 FA、溝を含む
- 4 暗褐色土層

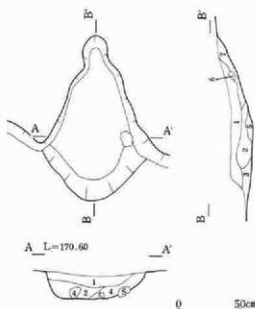


Fig.478 186号住居跡竈

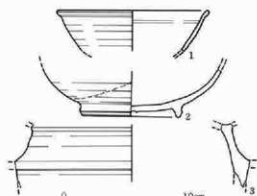


Fig.479 186号住居跡出土遺物

186号住居跡竈

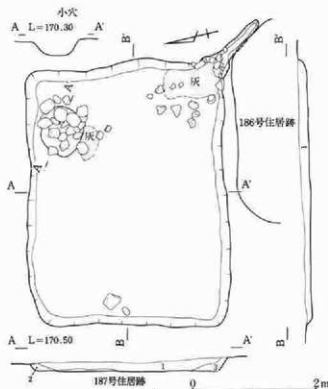
- 1 暗褐色土層
- 2 淡褐色土層 焼土、FAを含む
- 3 暗褐色土層 焼土を含む
- 4 暗褐色土層 焼土、FAを含む
- 5 焼土ブロック
- 6 焼土、灰層
- 7 黒色灰層

第186号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②胎土 ③胎土 ④残存
479-1 136	須恵器 坏	口-12.0	覆土	口縁部外側へ屈曲する	①良好②黒褐色③1~2mm の砂粒含む④破片
479-2 136	灰胎陶器 埴	底-7.8	覆土	付高台高台部外側に横をもつ	①良好②灰白色③密④底部 破片
479-3 136	羽蓋	口-16.0	覆土	口縁部ヨコナデ内面ナデ	①良好②灰色③細砂粒含む ④破片

187号住居跡 (Fig. 480・481・482・483, PL. 39・136・137)

G区北東部に位置し37~39G30~32の範囲にある。186号住居跡の北に接して検出され、竈が一部接するが新旧関係は不明である。他の遺構との重複はない。規模は長辺4.3m、短辺3.3mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約10cmを測り、主軸方位はN-145°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝等は検出されていない。北東コーナーに石が多量に検出された。石の下には小穴が検出された。規模は約80cm×70cm、深さ約25cmを測る。竈は南東コーナーに検出された。規模は燃焼部幅約50cm、同長約50cm、煙道部長約70cmを測る。竈燃焼部内から多量の石が検出された。

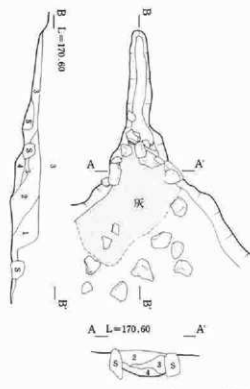


187号住居跡
1 暗褐色土層
2 暗褐色土層
3 暗褐色土層 FAを多量に含む

Fig.480 187号住居跡



Fig.482 187号住居跡出土遺物(I)



187号住居跡竈
1 淡褐色土層 黄褐色土粒を多量に含む
2 暗褐色土層 黄褐色土粒を含む
3 暗褐色土層 黄褐色土粒を少量含む
4 暗褐色土層 焼土粒を多量に含む
5 焼土ブロック

Fig.481 187号住居跡竈

第1節 竪穴住居跡



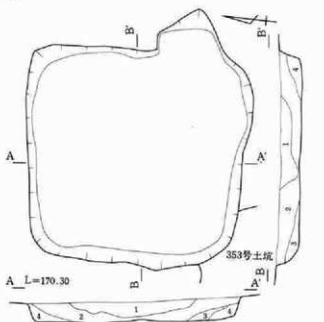
Fig.483 187号住居跡出土遺物(2)

第187号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②胎土	③色調 ④残存
482-1 137	須臾器 坏	底-6.5	覆土	底部回転承切	①良好②よい	③褐色③細砂 ④含む④底部破片
482-2 136	灰釉陶器 埴	底-6.3	覆土	付高台底部回転調整	①良好②灰白色③密	④底部 破片
483-3	羽釜	口-22.0	覆土	鈔薄く横を向く口縁部内傾する	①良好②灰褐色③密	④砂粒含む ⑤口縁部破片
Fig. 483-4 PL. 137	石	長-10.4cm 幅-3.2cm 厚-2.6cm				

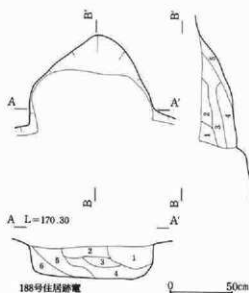
188号住居跡 (Fig. 484・485・486, PL. 40・137)

G区北東部に位置し39~41G33・34の範囲にある。187号住居跡の北西にある。他の遺構との関係は南西部で353号土坑と重複している。新旧関係は住居跡が新しい。規模は長辺3.6m、短辺3.5mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約25cm~35cmを測り、主軸方位はN-85°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約110cm、同長約70cmを測る。



- 188号住居跡
- 1 暗褐色土層 FAを含む
 - 2 黒褐色土層 FA、小礫を含む
 - 3 暗褐色土層 FAを多量に含む
 - 4 暗褐色土層 FA粒を多量に含む

Fig.484 188号住居跡



- 188号住居跡竈
- 1 淡褐色土層 黄褐色土を含む
 - 2 淡褐色土層
 - 3 淡褐色土層 黒色土を含む
 - 4 淡褐色土層 黄褐色土粒を少量含む
 - 5 淡褐色土層 黄褐色土粒を多量に含む
 - 6 淡褐色土層 黄褐色土、黒色土を含む

Fig.485 188号住居跡竈

第2章 検出された遺構と遺物

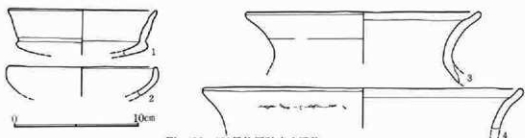
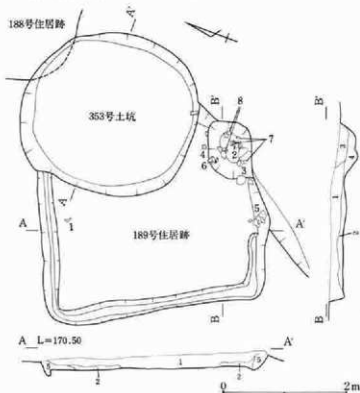


Fig.486 188号住居跡出土遺物

第188号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②胎土	③色調 ④残存
486-1 137	土師器 杯	口~11.8	覆土	口縁部稜をもち外傾する	①良好	②明褐色③細砂粒含む④口縁部破片
486-2 137	土師器 杯	口~12.0	覆土	口縁部直立ぎみに立ち上がる口縁部ヨコナデ	①良好	②褐色③細砂粒含む④口縁部破片
486-3	土師器 甕	口~18.7	覆土	口縁部内面に稜をもつ口縁部ヨコナデ外反する	①良好	②ぶい褐色③細砂粒含む④口縁部破片
486-4 137	土師器 甕	口~25.6	覆土	口縁部内面に稜をもつ外面接合痕口縁部ヨコナデ	①良好	②ぶい褐色③細砂粒含む④口縁部破片

189号住居跡 (Fig. 487・488・489, PL. 40・137)



- 189号住居跡
- 1 暗褐色土層 FAブロックを少量含む
 - 2 暗褐色土層 黒色土を含む
 - 3 暗褐色土層 FAブロックを多量に含む
 - 4 暗褐色土層
 - 5 黒褐色土層 黒色灰、FAブロックを含む

Fig.487 189号住居跡・353号土坑

G区北東部に位置し40~42G31~33の範囲にある。187号住居跡の西にある。他の遺構との関係は北東部で353号土坑と重複している。新旧関係は土坑が新しい。このため竈は切り崩され検出されていない。規模は西壁で3.75mを測る。壁高は約20cmを測る。床面は平坦をなし、周溝が検出された。規模は幅約20cm~30cm、深さ約5cm~6cmを測る。南東コーナーに小穴が検出された。規模は約90cm×70cm、深さ約35cmを測る。

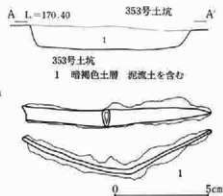


Fig.488 189号住居跡出土遺物(1)

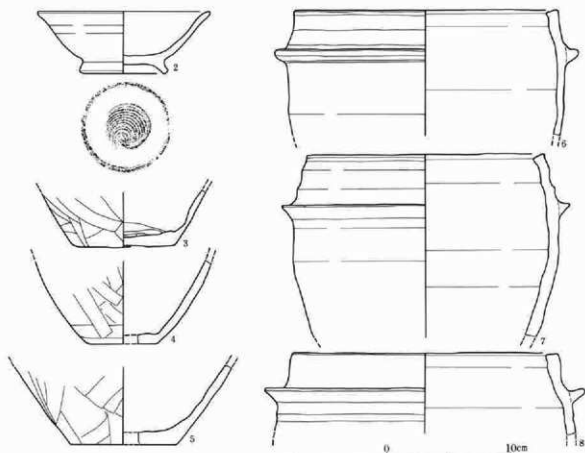


Fig.489 189号住居跡出土遺物(2)

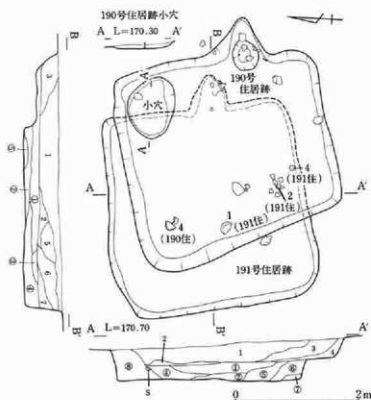
第189号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②胎土	③色調 ④残存
Fig.489-1 PL.137	鉄製品	長-9.9cm 厚-2mm	刀子			
489-2 137	須恵器 埴	口-13.7 底-7.0 高-4.9	No.2	口縁部割く外反する付高台底部回転糸切		①良好②にぶい黄褐色③1 ~2mmの砂粒含む④与残存
489-3 137	土師器 埴	底-8.2	No.3	外面ヘラケズリ内面ヘラナダ		①良好②にぶい黄褐色③2 ~3mm砂粒含む④底部破片
489-4 137	須恵器 埴	底-5.4	No.4	外面ヘラケズリ内面ナダ		①良好②灰黄褐色③1~2 mmの砂粒含む④底部破片
489-5 137	須恵器 埴	底-8.4	No.5	外面ヘラケズリ		①良好②にぶい黄褐色③2 ~3mm砂粒含む④底部破片
489-6 137	羽蓋	口-21.0	No.6	口縁部割く内傾し脚横を向く		①良好②灰色③細砂粒含む ④口縁部破片
489-7 137	羽蓋	口-18.8	No.7	口縁部内傾し脚上を向く		①良好②灰褐色③細砂粒含む ④口縁部分残存
489-8 137	羽蓋	口-21.0	No.8	口縁部内傾し脚上を向く		①良好②にぶい褐色③細砂 粒含む④口縁部破片

190号住居跡 (Fig. 490・491・493, PL. 40・137・138)

G区北東部に位置し33~35G28・29の範囲にある。186号住居跡の東にある。他の遺構との関係は西半部で191号住居跡と重複している。新旧関係は190号住居跡が新しい。規模は長辺3.6m、短辺2.65mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約10cm~20cmを測り、主軸方位はN-80°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝等は検出されていない。北東コーナーに小穴が検出された。規模は約100cm×80cm、深さ約10cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約70cm、同長約80cmを測る。

第2章 検出された遺構と遺物



190号住居跡

- 1 暗褐色土層 F Pを含む
- 2 暗褐色土層 黒色土を含む
- 3 暗褐色土層 炭化物を含む
- 4 暗褐色土層 黒色土を多量に含む
- 5 暗褐色土層 炭化物を多量に含む
- 6 暗褐色土層 FAブロックを含む
- 7 黄褐色土層

Fig.490 190・191号住居跡

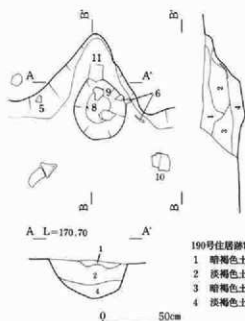


Fig.491 190号住居跡竈

190号住居跡竈

- 1 暗褐色土層
- 2 淡褐色土層 FAを多量に含む
- 3 暗褐色土層 焼土、炭化物を多量に含む
- 4 淡褐色土層 焼土、FAを多量に含む

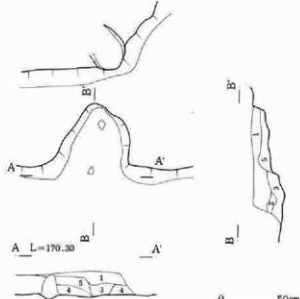
191号住居跡

(Fig. 490・492・494, PL. 40・138)

G区北東部に位置し34~36G28・29の範囲にある。186号住居跡の東にある。他の遺構との関係は東半部で190号住居跡と重複している。新旧関係は190号住居跡が新しい。規模は長辺3.3m、短辺3.2mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約30cm~40cmを測り、主軸方位はN-81°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は痕跡が認められている。規模は燃焼部幅約60cm、同長約60cmを測る。

191号住居跡

- ① 淡褐色土層 FAを少量含む
- ② 淡褐色土層 FAブロックを少量含む
- ③ 淡褐色土層 FAを含む
- ④ 暗褐色土層 FA、黄褐色土を含む
- ⑤ 淡褐色土層 FAを多量に含む
- ⑥ 淡褐色土層 FAを含む
- ⑦ 暗褐色土層 FA粒を含む
- ⑧ 暗褐色土層 小穴を含む



191号住居跡竈

- 1 暗褐色土層
- 2 暗褐色土層 淡褐色土粒を含む
- 3 暗褐色土層 炭化物を多量に含む
- 4 暗褐色土層 焼土を多量に含む
- 5 暗褐色土層 焼土ブロックを多量に含む

Fig.492 191号住居跡竈

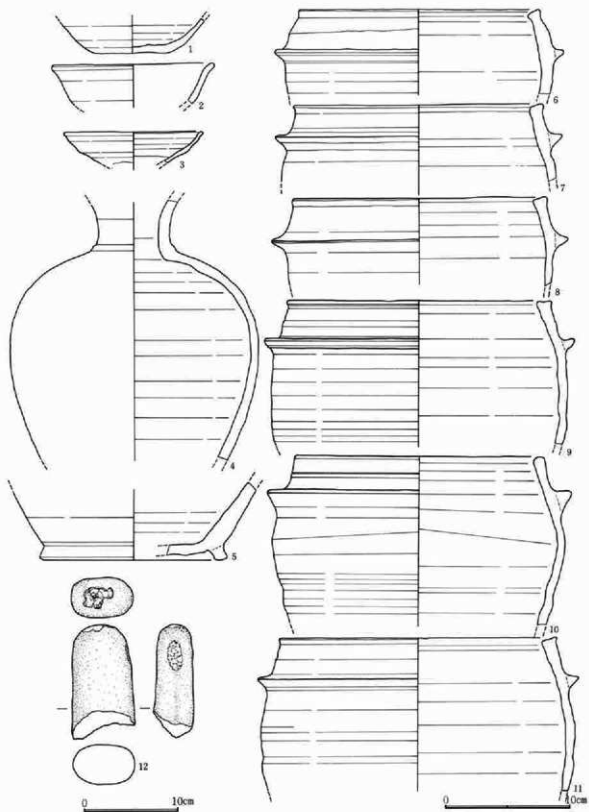


Fig.493 190号住居跡出土遺物

第2章 検出された遺構と遺物

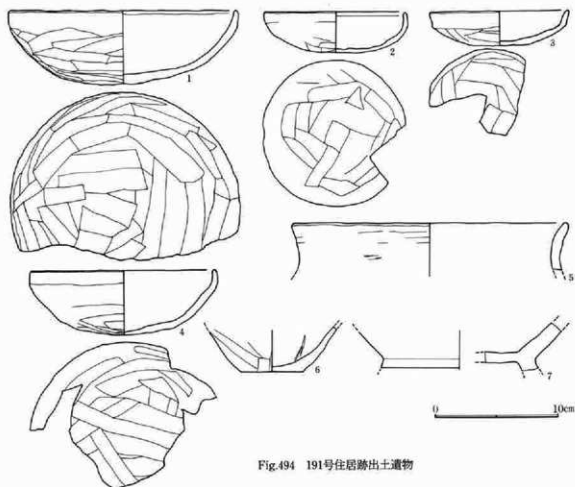


Fig.494 191号住居跡出土遺物

第190号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①構成 ②色調 ③胎土 ④残存
493-1 138	須恵器 坏	底-5.6	覆土	底部回転糸切	①良好②灰色③細砂粒含む ④底部残存
493-2 137	須恵器 坏	口-12.8	覆土	口縁部外湾する	①良好②にぶい黄褐色③細 砂粒含む④口縁部破片
493-3 138	灰物陶器 皿	口-10.8	覆土	口縁部内湾し屈曲する	①良好②灰白色③密④口縁 部破片
493-4 137	須恵器 壺		No.4	外面上唇部自然胎内面輪轆痕残る	①良好②灰色③1~2mmの 砂粒含む④口縁-胴部破片
493-5 137	須恵器 壺	底-14.2	No.5	付高台内面輪轆痕残る	①良好②灰色③密④底部破 片
493-6 138	羽釜	口-18.8	No.6	口縁部内湾し胴上を向く	①良好②褐色③細砂粒含 む④口縁部破片
493-7	羽釜	口-19.6	覆土	口縁部内湾し胴横を向く	①良好②灰黄色③1~2mm の砂粒含む④口縁部破片
493-8	羽釜	口-20.0	No.8	口縁部弱く内傾する胴横を向く	①良好②灰黄褐色③1~2 mmの砂粒含む④口縁部破片
493-9 138	羽釜	口-20.8	No.9	口縁部内湾し胴上を向く	①良好②にぶい赤褐色③1 ~2mm砂粒含む④口縁部破片
493-10 138	羽釜	口-19.4	No.10	口縁部内湾し胴上を向く	①良好②にぶい褐色③1 ~2mm砂粒含む④口縁部破片
493-11 138	羽釜	口-21.8	No.11	口縁部内湾し胴横を向く	①良好②にぶい赤褐色③2 ~3mm砂粒含む④口縁部破片

Fig. 493-12 PL. 137 石 長-12.8cm 幅-3.6cm 厚-4.8cm 粗粒安山岩

第191号住居跡出土物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
494-1 138	土師器 坏	口-17.9 高-5.8	No.1	口縁部直立ぎみに立ち上がる口縁部ヨコナデ ヘラケズリ内面ナデ	①良好②明褐色③細砂粒含む ④瓦残存
494-2 138	土師器 坏	口-11.3 高-3.2	No.2	口縁部内湾ぎみに立ち上がる口縁部ヨコナデ口縁 部と体部の間置いたナデヘラケズリ内面ナデ	①良好②褐色③細砂粒含む ④瓦残存
494-3 138	土師器 坏	口-11.0	覆土	口縁部体部の境に明瞭な稜をもつ口縁部ヨコナデ 体部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②よい褐色③細砂 粒含む④瓦残存
494-4 138	土師器 坏	口-15.0 高-5.1	No.4	口縁部直立ぎみ口縁部ヨコナデ口縁部体部の間置 いたナデ体部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②褐色③細砂粒含む ④瓦残存
494-5	土師器 甕	口-22.0	覆土	口縁部ヨコナデ	①良好②よい褐色③細砂 粒含む④口縁部破片
494-6 138	土師器 甕	底-5.0	覆土	外面ヘラケズリ内面ヘラナデヘラ痕残る	①良好②褐色③1~2mm の砂粒含む④底部残存
494-7 138	須恵器 甕		覆土	付高台	①良好②灰色③2~3mmの 砂粒含む④底部破片

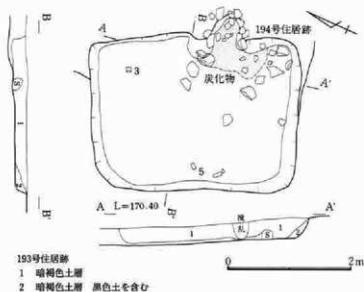


Fig.495 193号住居跡

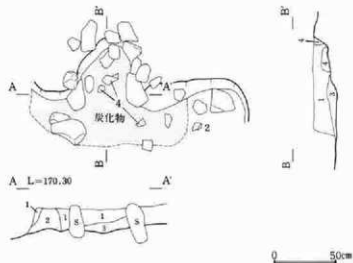


Fig.496 193号住居跡竪穴

193号住居跡

(Fig. 495・496・497, PL. 40・41・138・139)

G区北東部に位置し35~37G 33~35の範囲にある。188号住居跡の東にある。他の遺構との関係は東半部で194号住居跡と重複している。新旧関係は193号住居跡が新しい。規模は長さ3.4m、短辺2.5mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約20cm~30cmを測り、主軸方位はN-66°-Eである。床面は平坦をなし、壁溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約70cm、同長約50cmを測る。竈壁面、燃焼部内から石が多数検出されている。

193号住居跡竪穴

- 1 淡褐色土層 炭化物を少量含む
- 2 淡褐色土層 Fを含む
- 3 淡褐色土層
- 4 淡褐色土層 焼土を含む

第2章 検出された遺構と遺物

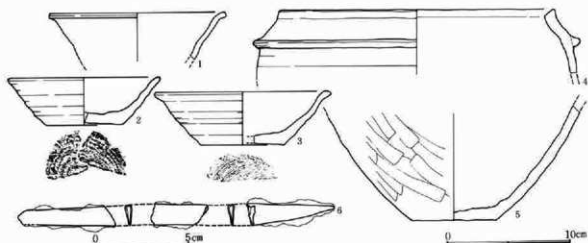


Fig.497 193号住居跡出土遺物

第193号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②胎土	③色調 ④残存
497-1 138	須恵器 埴	口-14.0	覆土	口縁端部屈曲する	①良好②灰白色	③2~3mmの砂粒含む④口縁部片残存
497-2 138	須恵器 坏	口-12.0 高-3.7 底-6.0	No 2	口縁部弱く外開する底部回転未切	①良好②灰白色	③細砂粒含む④片残存
497-3 138	須恵器 坏	口-14.0 高-4.2 底-6.6	No 3	口縁部外開する底部回転未切	①良好②灰白色	③細砂粒含む④片残存
497-4	羽釜	口-21.8	No 4	口縁部内湾し脚短く横を向く	①良好②灰白色	③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
497-5 139	土師器 埴	底-6.6	No 5	外面ヘラケズリ	①良好②よい褐色	③3~4mm砂粒含む④底部残存

Fig. 497-6 PL. 138 鉄製品 長-12.6cm 厚-2mm 刀子

194号住居跡 (Fig. 498・499・500, PL. 41・138・139)

G区北東部に位置し35・36G33~35の範囲にある。188号住居跡の東にある。他の遺構との関係は西半部で193号住居跡と重複している。新旧関係は194号住居跡が古い。規模は長辺4.35m、短辺2.5mを測り、平面形

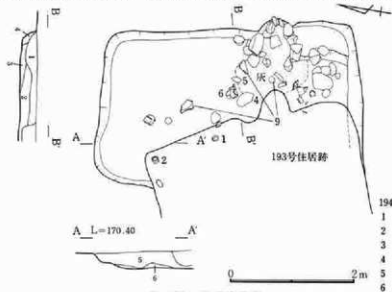
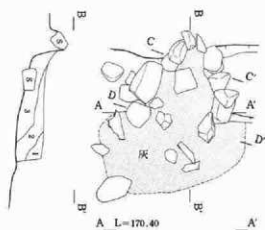


Fig.498 194号住居跡

態は隅丸方形を呈する。壁高は約20cm~30cmを測り、主軸方位はN-78°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約70cm、同長約30cmを測る。

194号住居跡

- 1 暗褐色土層 小礫を含む
- 2 暗褐色土層 FAブロックを多量に含む
- 3 黒褐色土層 FAを含む
- 4 黒褐色土層
- 5 暗褐色土層 黒色土を含む
- 6 暗褐色土層



194号住居跡竪

- 1 暗褐色土層
- 2 暗褐色土層 焼土、FAを含む
- 3 暗褐色土層 焼土、FAを多量に含む

Fig.499 194号住居跡竪

0 50cm

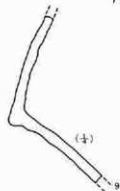
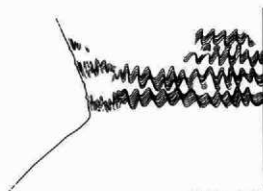
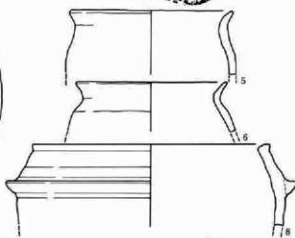
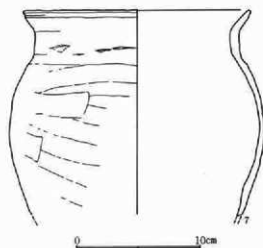
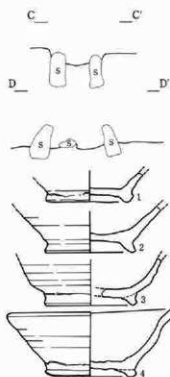


Fig.500 194号住居跡出土遺物

第2章 検出された遺構と遺物

第194号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
500-1 138	須恵器 埴	底-6.9	No 1	付高台底部回転未切	①良好②淡黄褐色③2~3mmの砂粒含む④底部残存
500-2 139	須恵器 埴	底-7.2	No 2	付高台底部回転調整	①良好②淡黄灰色③1~2mmの砂粒含む④底部残存
500-3 139	須恵器 埴	底-7.3	覆土	付高台	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④底部破片
500-4 139	須恵器 坏	口-13.1 高-5.4 底-7.1	No 4	横により内外面黒色口縁部外側へ屈曲する付高台底部回転未切	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④完形
500-5 139	土師器 甕	口-13.0	No 5	内外面ヨコナデ口縁部外開する	①良好②におい褐色③細砂粒含む④口縁部破片
500-6 139	土師器 甕	口-12.0	No 6	口縁部ヨコナデ口縁部外反する	①良好②におい褐色③1~2mm砂粒含む④口縁部残存
500-7 139	土師器 壺	口-18.0	覆土	口縁部コの字状を呈する端部外面に沈線が走る口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ヘラナデ	①良好②赤褐色③2~3mmの砂粒含む④口縁部残存
500-8	羽釜	口-18.8	覆土	口縁部内灣し肩を上を向く	①良好②灰色③細砂粒含む④口縁部破片
500-9 139	須恵器 甕		No 9	口縁部波状文が四段確認内面ナデ部分的に船により黒色	①良好②におい褐色③細砂粒含む④胴部残存

第2節 土 坑

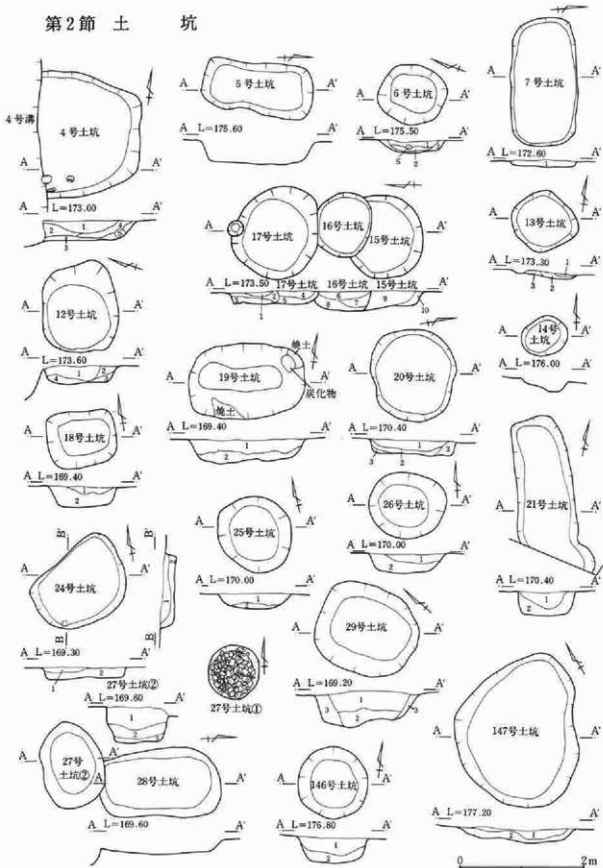


Fig.501 土坑遺構(1)

第2章 検出された遺構と遺物

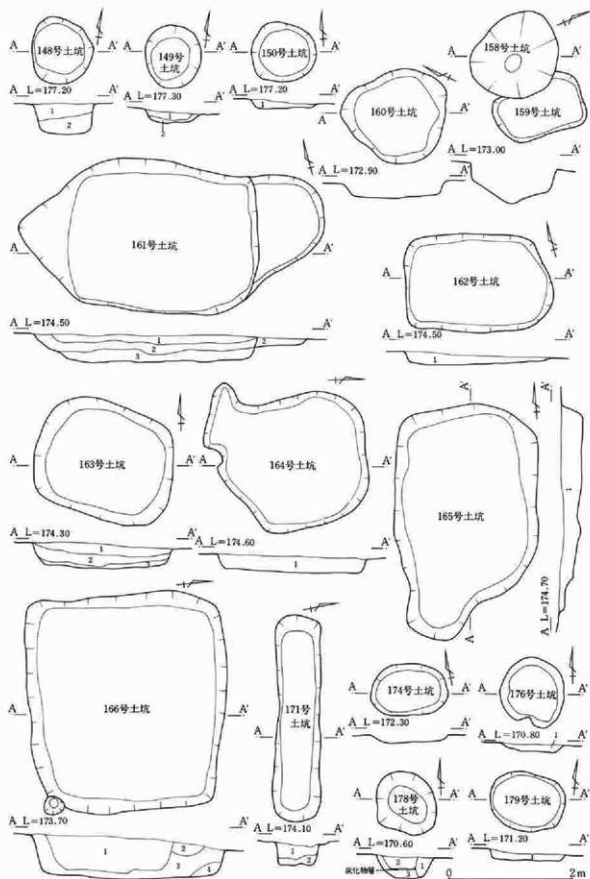


Fig.502 土坑遺構(2)

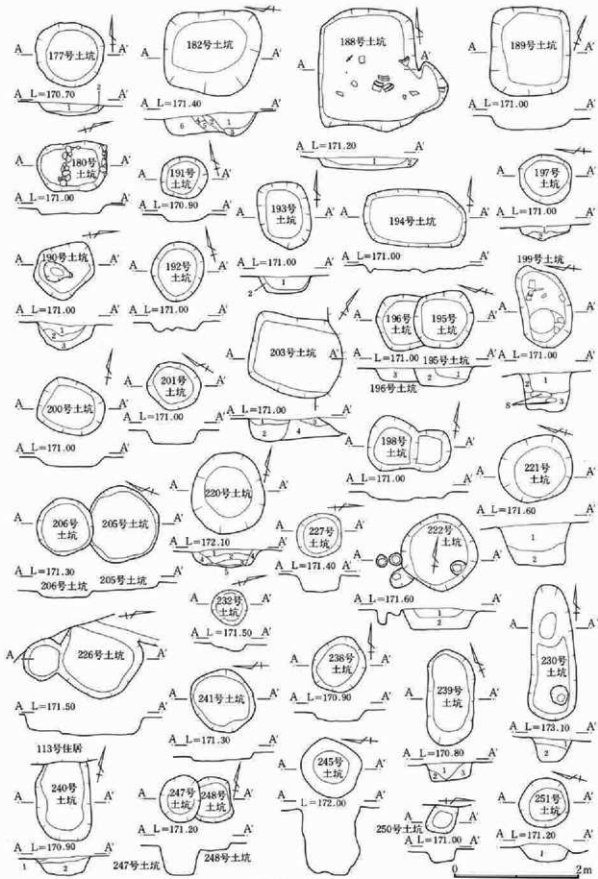


Fig.503 土坑遺構(3)

第2章 検出された遺構と遺物

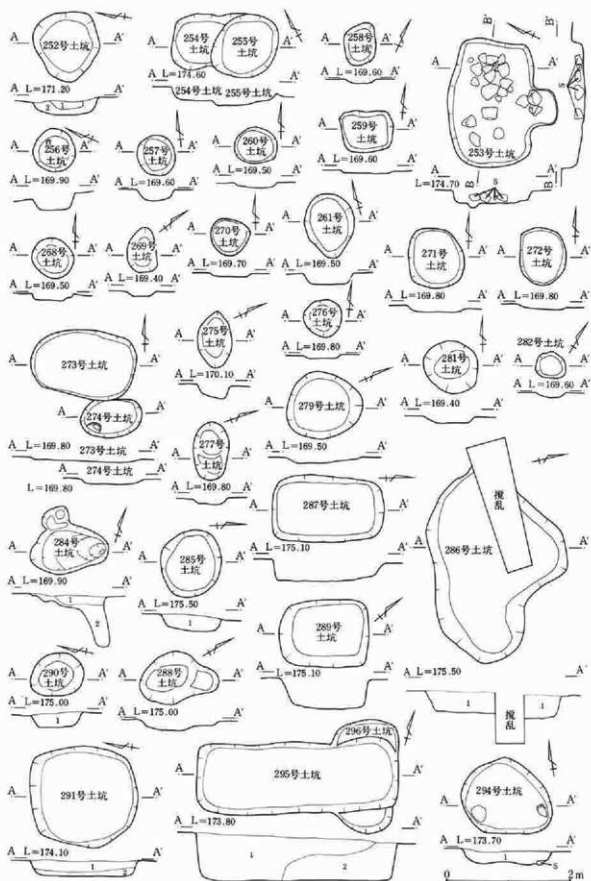


Fig.504 土坑遺構(4)

第2節 土 坑

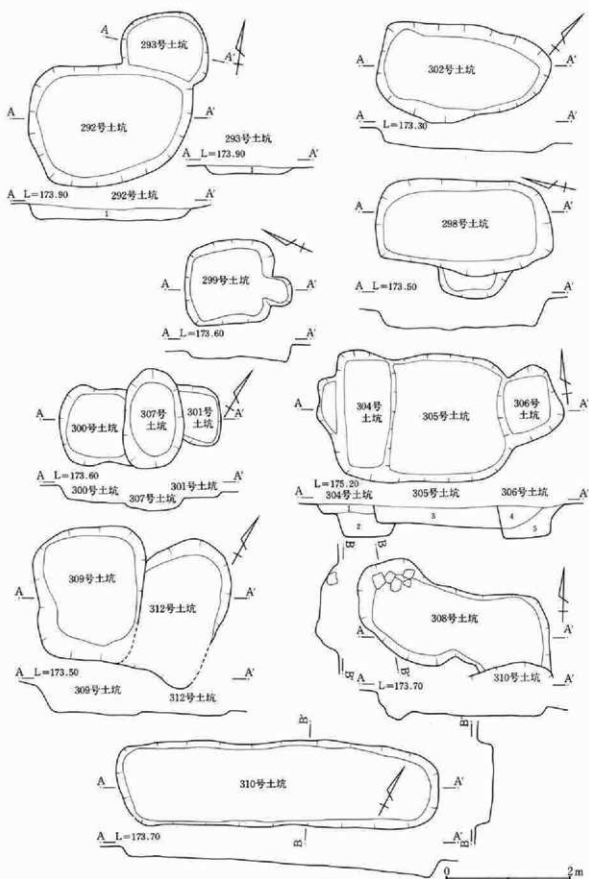


Fig.505 土坑遺構(5)

第2章 検出された遺構と遺物

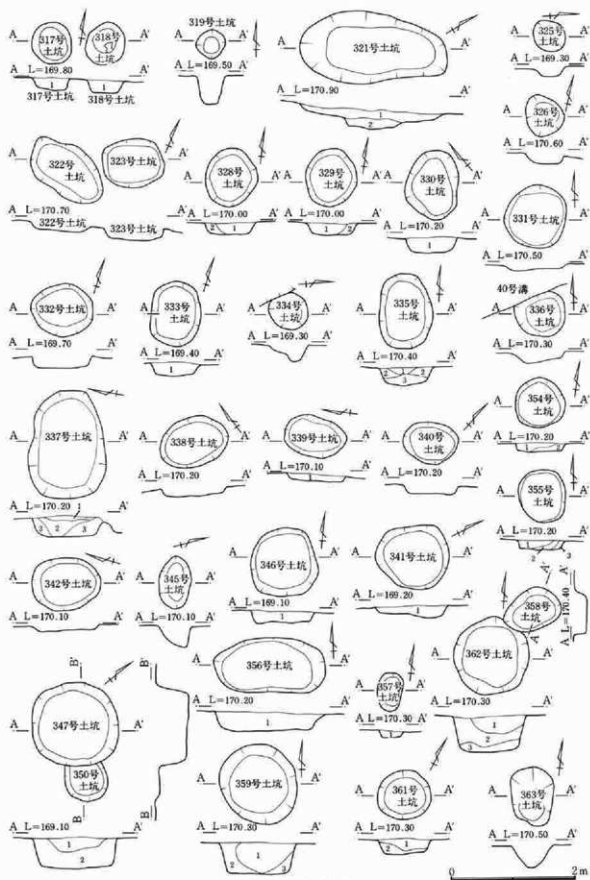


Fig.506 土坑遺構(6)

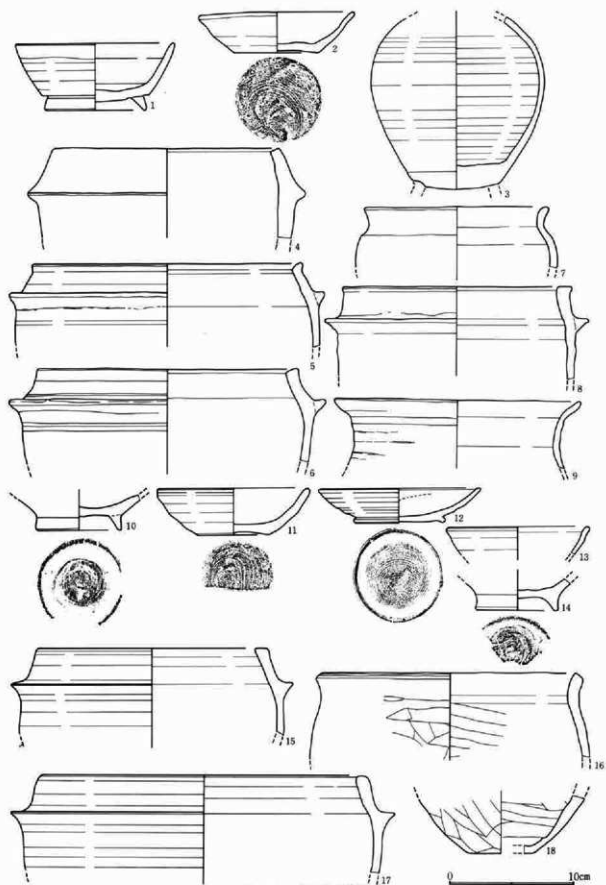


Fig.507 土坑出土遺物(1)

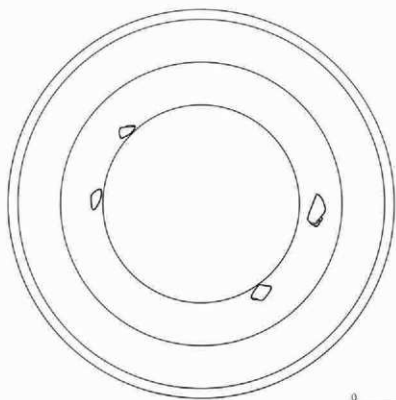
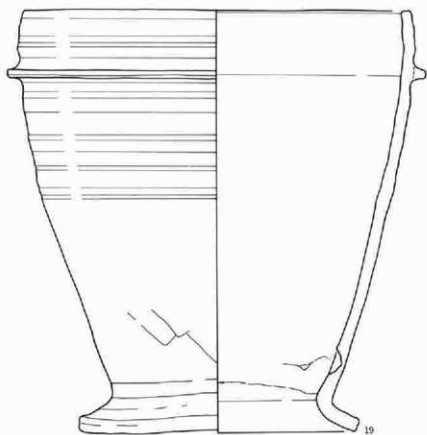


Fig.508 土坑出土遺物(2)

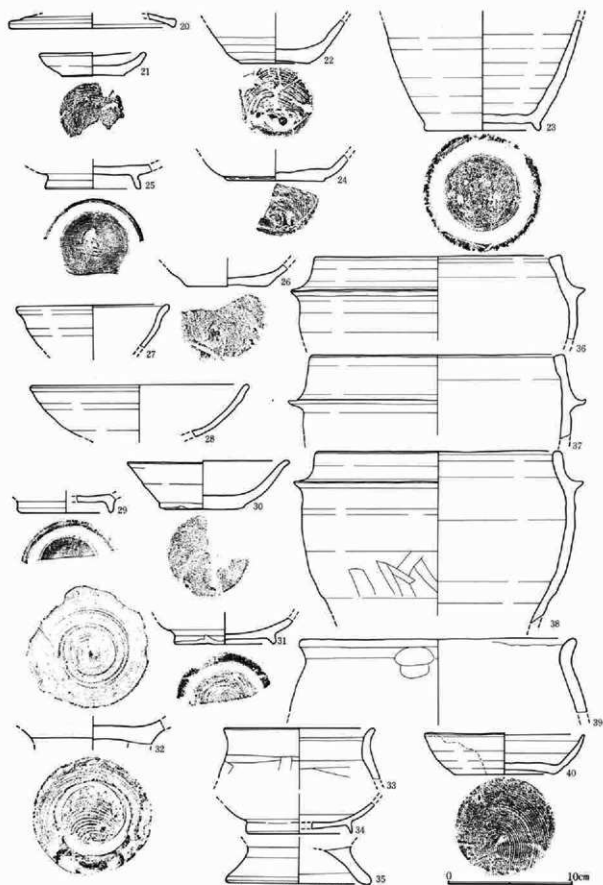


Fig.509 土坑出土遺物(3)

第2章 検出された遺構と遺物

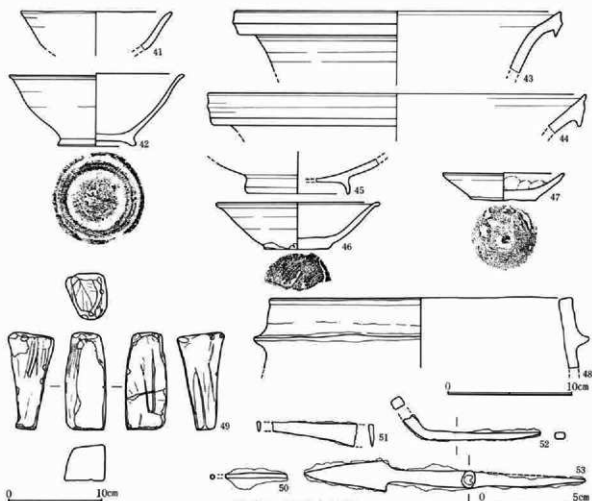


Fig.510 土坑出土遺物(4)

土坑出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測 値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②胎土 ③残存
507-1 140	須恵器 埴	口-12.6 底-8.0	4号土坑 覆土	付高台口縁部弱く内湾し立ち上がる	①良好②灰色③密④片残存
507-2 140	須恵器 坏	口-12.45 底-6.8	4号土坑 覆土	底部回転糸切右廻り口縁部弱く外反する	①良好②灰色③1~2mmの 砂粒含む④完形
507-3 140	須恵器 長頸壺	胴-13.65	4号土坑 覆土	胴部内湾して立ち上がる底部付高台欠落	①良好②灰色③密④片残存
507-4 140	羽蓋	口-17.8	26号土坑 覆土	口縁部内傾し脚短く下を向く	①良好②いり褐色③1 ~2mm砂粒含む④口縁部破片
507-5	羽蓋	口-21.4	18号土坑 覆土	口縁部内湾し端部外傾する脚上を向く	①良好②灰色③細砂粒含む ④口縁部破片
507-6 140	羽蓋	口-22.8	18号土坑 覆土	口縁部内湾し脚上を向く	①良好②褐色③細砂粒含む ④口縁部破片
507-7 140	土師器 壺	口-14.5	18号土坑 覆土	口縁部の字状に外傾する口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②いり褐色③細 砂粒含む④口縁部破片
507-8 140	羽蓋	口-18.0	18号土坑 覆土	口縁部直立ぎみ脚やや上を向く	①良好②灰色③細砂粒含む ④口縁部破片
507-9 140	土師器 壺	口-19.6	18号土坑 覆土	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ口縁部コ の字状を呈する	①良好②いり褐色③細砂 粒含む④口縁部破片
507-10 140	土師器 埴	底-6.8	18号土坑 覆土	底部回転糸切付高台	①良好②いり褐色③細砂 粒含む④底部残存
507-11 140	須恵器 坏	口-12.0 底-5.6	19号土坑 覆土	底部回転糸切口縁部内湾して立ち上がる	①良好②灰色③細砂粒含む ④片残存

第2節 土 坑

Fig. No. PL. No.	器 種 器 形	計 測 値 (cm)	出土位置	成 形 及 び 調 整 の 特 徴	①焼成 ②胎土 ③胎色 ④底面	⑤色調 ⑥残存
507-12 140	灰釉陶器 埴	口—12.6 底—6.8	高—2.7 199号土坑 覆土	底部回転糸切付高台口縁端部弱く外反する口縁部 内外面施釉	①良好②灰白色③密④底面	⑤残存
507-13 141	灰釉陶器 埴	口—11.0	199号土坑 覆土	口縁端部外側へ弱く屈曲する口縁部内外面施釉	①良好②灰白色③密④口縁部 破片	
507-14 140	須恵器 埴	底—6.2	199号土坑 覆土	底部回転糸切付高台内外面黒色釉	①良好②灰色③細砂粒含む ④底面⑤残存	
507-15	羽蓋	口—18.2	199号土坑 覆土	口縁部内傾し脚横を向く	①良好②灰黄色③細砂粒 含む④口縁部破片	
507-16 141	土師器 壺	口—20.0	199号土坑 覆土	外面ヘラケズリ内面ヘラナゲ口縁部弱く外反する	①良好②褐色③細砂粒含む ④口縁部破片	
507-17 140	羽蓋	口—25.6	199号土坑 覆土	口縁部内傾し脚横を向く	①良好②灰黄色③1～2 mmの砂粒含む④口縁部破片	
507-18 141	土師器 壺	底—5.0	199号土坑 覆土	外面ヘラケズリ内面ヘラナゲ	①良好②灰褐色③細砂粒含む ④底面破片	
508-19 140	甌	口—31.2 底—22.5	高—31.0 188号土坑 覆土	口縁部弱く外傾し脚短く横を向く内面下部にく ぼみあり	①良好②明褐色③2～3mm の砂粒含む④⑤残存	
509-20 141	蓋	口—13.0	221号土坑 覆土	外面回転ヘラ調整	①良好②灰色③細砂粒含む ④破片	
509-21	須恵器 皿	口—8.2 底—4.8	高—1.8 221号土坑 覆土	底部回転糸切	①良好②灰黄色③細砂粒含む ④⑤残存	
509-22 141	須恵器 坏	底—5.4	221号土坑 覆土	底部回転糸切	①良好②にぶい褐色③細砂 粒含む④底面残存	
509-23 141	須恵器 壺	底—9.0	227号土坑 覆土	付高台割部直線状に外傾する	①良好②灰白色③細砂粒含む ④⑤残存	
509-24 141	須恵器 坏	底—7.6	227号土坑 覆土	底部回転糸切右廻り	①良好②灰色③3～4mmの 砂粒含む④底面破片	
509-25 141	須恵器 埴	底—7.4	242号土坑 覆土	底部回転ヘラ調整付高台	①良好②灰白色③密④底面 残存	
509-26 141	須恵器 坏	底—6.2	256号土坑 覆土	底部回転糸切	①良好②灰白色③細砂粒含む ④底面⑤残存	
509-27 141	須恵器 埴	口—11.8	261号土坑 覆土	口縁端部外反する	①良好②灰白色③細砂粒含む ④口縁部破片	
509-28 141	灰釉陶器 埴		267号土坑 覆土	口縁端部外側へ弱く屈曲する内外面施釉	①良好②灰白色③密④口縁 部破片	
509-29 141	灰釉陶器 埴	底—7.0	271号土坑 覆土	付高台底部回転調整	①良好②灰白色③密④底面 破片	
509-30 141	須恵器 坏	口—12.8 底—6.2	高—3.8 288号土坑 覆土	底部回転糸切口縁端部外反する	①良好②にぶい褐色③細砂 粒含む④⑤残存	
509-31 141	須恵器 埴	底—7.7	288号土坑 覆土	底部回転糸切付高台	①良好②灰色③1～2mmの 砂粒含む④底面⑤残存	
509-32 141	土師器 壺		274号土坑 覆土	底部回転糸切付高台欠落	①良好②にぶい褐色③細砂 粒含む④底面残存	
509-33 141	土師器 埴	口—11.8	256号土坑 覆土	口縁部コノガテ割部ヘラケズリ内面ナゲ口縁部外 傾する	①良好②褐色③細砂粒含む ④口縁部⑤残存	
509-34 141	灰釉陶器 埴	底—8.4	288号土坑 覆土	底部回転調整付高台	①良好②灰白色③密④底面 破片	
509-35 141	須恵器 埴	底—11.2	278号土坑 覆土	脚ハの字状に開く	①良好②にぶい褐色③細砂 粒含む④脚部⑤残存	
509-36	羽蓋	口—19.4	199号土坑 覆土	口縁部内傾し脚横を向く	①良好②にぶい褐色③細砂 粒含む④口縁部破片	
509-37 141	羽蓋	口—19.8	227号土坑 覆土	口縁部内傾し脚先端上を向く	①良好②にぶい褐色③細砂 粒含む④口縁部破片	
509-38 141	羽蓋	口—19.2	250号土坑 覆土	口縁部外側より内傾する割部ヘラケズリ	①良好②暗赤灰色③1～2 mmの砂粒含む④⑤残存	
509-39 141	土師器 壺	口—21.6	288号土坑 覆土	口縁部コノガテ指あて痕口縁端部外反する	①良好②灰褐色③1～2mm の砂粒含む④口縁部破片	
509-40 142	灰釉陶器 坏	口—12.6 底—7.8	高—3.3 308号土坑 覆土	底部回転糸切右廻り底部盛り上がる口縁部弱く内 湾ぎみに立ち上がる	①良好②灰色③密④ほぼ完 形	
510-41 142	土師器 坏	口—12.0	318号土坑 覆土	内黒土器口縁端部弱く外反する	①良好②灰色③2～3mmの 砂粒含む④口縁部破片	

第2章 検出された遺構と遺物

Fig. No. PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
510-42 142	須恵器 埴	□-13.9 高-5.7 底-6.2	318号土坑 覆土	底部回転糸切付高台口縁端部外反する	①良好②褐色③3~4mmの砂粒含む④残存
510-43 142	須恵器 壺	□-26.0	317号土坑 覆土	口縁部稜をもち外側へ張り出す	①良好②褐色③1~2mm砂粒含む④口縁部破片
510-44 142	須恵器 大壺	□-41.0	318号土坑 覆土	口縁部稜をもち外側へ張り出す	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
510-45	須恵器 地	高-8.0	347号土坑 覆土	付高台	①良好②灰色③底面破片
510-46	須恵器 坏	□-13.0 高-3.7 底-5.6	347号土坑 覆土	底部回転糸切口縁端部外反する	①良好②灰色③細砂粒含む④残存
510-47 142	須恵器 灯明皿	□-9.7 高-2.2 底-5.1	359号土坑 覆土	底部ナブ調整内面指頭痕口縁端部一部にケール状行着物	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④完形
510-48	別差	□-24.0	353号土坑 覆土	口縁部内傾し脚上を向く	①良好②ぶい褐色③2~3mm砂粒含む④口縁部破片
Fig. 510-49		石 長-10.0cm 幅-4.5cm 厚-3.6cm	磁石 斑紋岩 (紙沢)		
Fig. 510-50 PL. 140	鉄製品	長-3.4cm 厚-3mm	不明		
Fig. 510-51 PL. 140	鉄製品	長-4.6cm 厚-2mm	刀子?		
Fig. 510-52 PL. 142	鉄製品	長-7.5cm 厚-5mm	不明		
Fig. 510-53 PL. 142	鉄製品	長-15.2cm 厚-20mm	鏃		

第3節 墓 墳

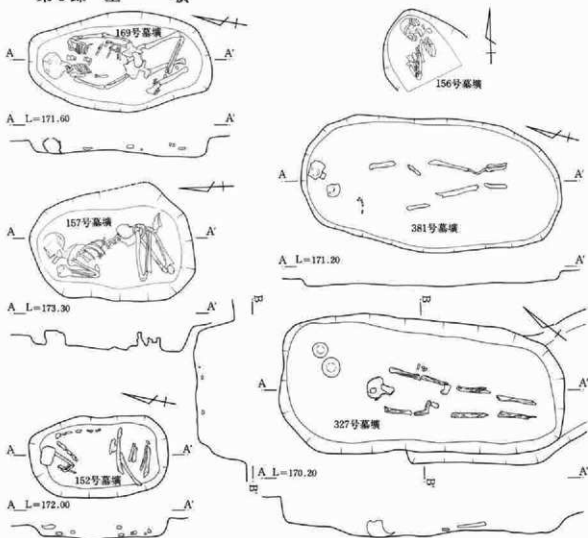


Fig.511 墓墳遺構(1)

第3節 墓 塚

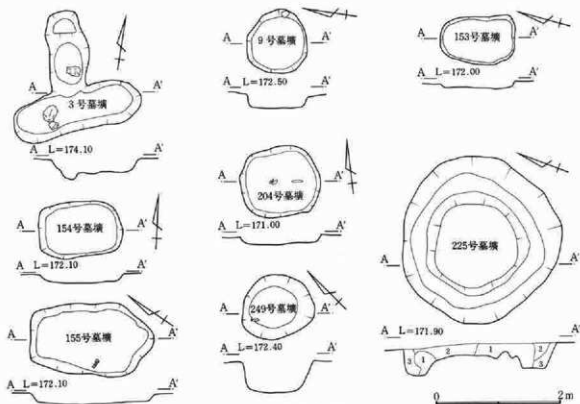


Fig.512 墓塚遺構(2)

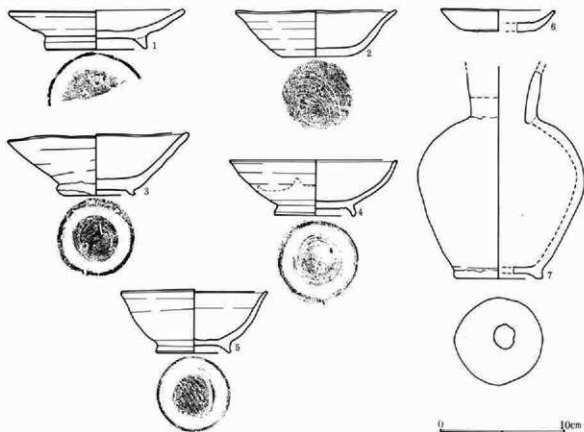


Fig.513 墓塚出土遺物(1)

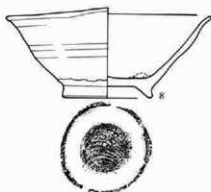


Fig.514 墓壇出土遺物(2)

墓壇出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ③胎土	②色調 ④残存
513-1 142	須恵器 皿	口-13.9 底-7.8	高-3.1 204号土坑 覆土	底部回転糸切付高台	①真好②明褐色③1~2mmの砂粒含む④残存	
513-2 142	須恵器 坏	口-12.8 底-5.3	高-3.7 327号土坑 覆土	底部回転糸切口縁部外反する	①真好②灰白色③2~3mmの砂粒含む④完形	
513-3 142	須恵器 埴	口-14.4 底-5.8	高-5.0 327号土坑 覆土	底部回転糸切付高台内外面部分的に備付着	①真好②灰色③1~2mmの砂粒含む④完形	
513-4 142	灰輪陶器 埴	口-13.4 底-6.3	高-4.4 381号土坑 覆土	底部回転調整付高台縁部内湾し口縁部外反する	①真好②灰白色③密④完形	
513-5 142	須恵器 埴	口-11.5 底-5.7	高-5.0 381号土坑 覆土	底部回転糸切口縁部内湾して立ち上がる	①真好②灰白色③細砂粒含む④残存	
513-6 142	須恵器 小皿	口-9.0 底-5.8	高-1.6 225号土坑 覆土	底部回転糸切	①真好②ふよい赤色③1~2mm砂粒含む④縁部破片	
513-7 142	須恵器 壺	底-7.0	325号土坑 覆土	底部付高台穿孔胴部内湾する外面割落著しい	①やや軟質②灰黄褐色③3~5mm砂粒含む④縁部欠損	
514-8 142	須恵器 埴	口-16.3 底-7.0	高-7.1 381号土坑 覆土	底部回転糸切付高台口縁部外反する	①真好②灰白色③2~3mmの砂粒含む④残存	

第4節 溝

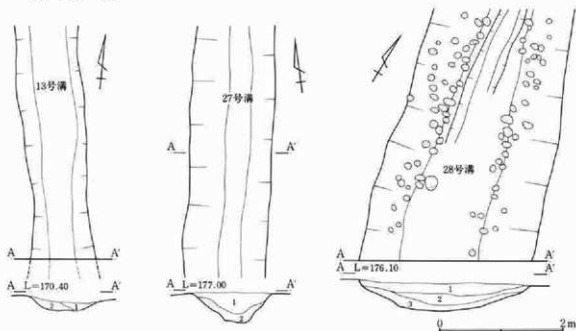


Fig.515 溝遺構(1)

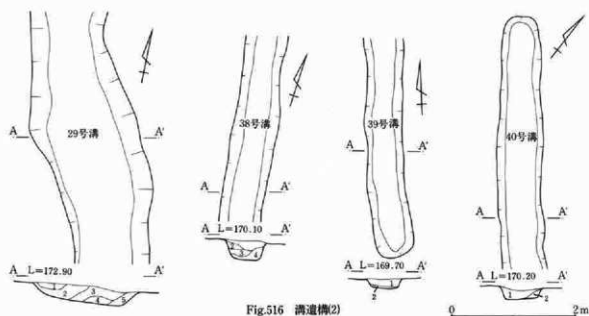


Fig.516 溝遺構(2)

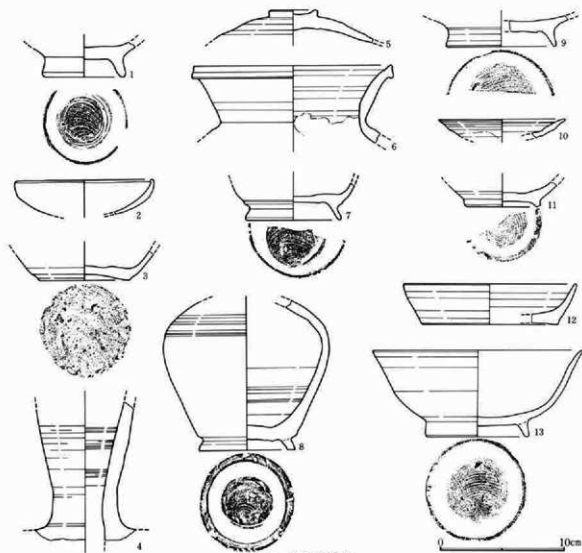


Fig.517 溝出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物

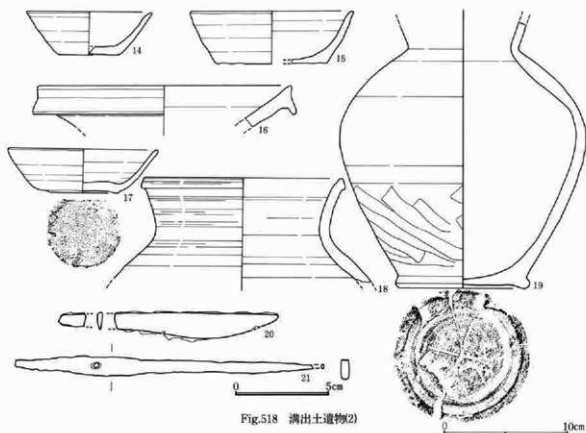


Fig.518 溝出土遺物(2)

溝出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①構成 ②胎土 ③残存
S17-1 143	須恵器 埴	底-6.2	4号溝 覆土	底部回転糸切付高台	①良好②浅黄褐色③細砂粒 含む④底部残存
S17-2 143	土師器 坏	口-11.0	17号溝 覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部 内側に屈曲する	①良好②褐色③1~2mmの 砂粒含む④口縁部破片
S17-3 143	須恵器 坏	底-7.0	17号溝 覆土	底部回転糸切	①良好②灰色③1~2mmの 砂粒含む④底部残存
S17-4 143	須恵器 長頸壺	17号溝	覆土	口縁部外反ぎみに外傾する	①良好②灰色③密④底部残 存
S17-5 143	須恵器 蓋	17号溝	覆土	外面回転ヘラ調整	①良好②灰色③細砂粒含む ④破片
S17-6 143	須恵器 壺	口-16.0	17号溝 覆土	口縁部横をもち外側に張り出す	①良好②灰色③密④口縁部 瓦残存
S17-7 143	須恵器 埴	底-7.4	17号溝 覆土	底部回転糸切付高台	①良好②灰色③密④底部瓦 残存
S17-8 143	須恵器 壺	底-7.7	17号溝 覆土	底部回転糸切付高台胴部内側に立ち上がる	①良好②灰白色③密④瓦残 存
S17-9	須恵器 埴	底-8.8	17号溝 覆土	底部回転糸切付高台高台薄くハの字状に開く	①良好②灰色③密④瓦残存
S17-10 143	灰釉陶器 皿	口-10.0	28号溝 覆土	内面段をもつ内面施釉	①良好②灰白色③密④口縁 部破片
S17-11 143	須恵器 埴	底-5.6	28号溝 覆土	底部回転糸切付高台	①良好②浅黄色③細砂粒含 む④瓦残存
S17-12 143	須恵器 坏	口-13.6 底-10.8	高-3.2 28号溝 覆土	口縁部直線状に外傾する	①良好②灰白色③細砂粒含 む④破片
S17-13 143	灰釉陶器 埴	口-16.6 底-8.0	高-6.9 1号溝 覆土	底部回転糸切付高台胴部から内側に立ち上がる	①良好②灰白色③密④瓦残 存
S18-14 143	須恵器 坏	口-10.0	29号溝 覆土	底部回転糸切口縁部直線状に外傾する	①良好②灰色③密④瓦残存

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
518-15 143	須恵器 環	口—13.0	29号溝 覆土	腰部から弱く内湾ぎみに立ち上がる	①良好②灰色③密④破片
518-16 143	須恵器 壺	口—20.0	29号溝 覆土	口縁部稜をもち外へ張り出す	①良好②灰色③密④口縁部破片
518-17	須恵器 環	口—12.0 高—3.5 底—5.4	31号溝 覆土	底部回転糸切右廻り腰部弱く内湾する	①良好②灰色③密④残存
518-18 143	須恵器 壺	口—16.2	40号溝 覆土	口縁部稜をもち外側へ張り出す	①良好②褐色③密④口縁部残存
518-19 143	須恵器 壺	底—10.0	28号溝 覆土	胴下部ヘラケズリ付高台底部記号状痕	①良好②褐色③密砂粒含む④残存
Fig. 518—20 PL. 143 鉄製品 長—12.5cm 厚—3mm 刀子					
Fig. 518—21 PL. 143 鉄製品 長—16.0cm 厚—2mm 鏝					

第5節 井戸

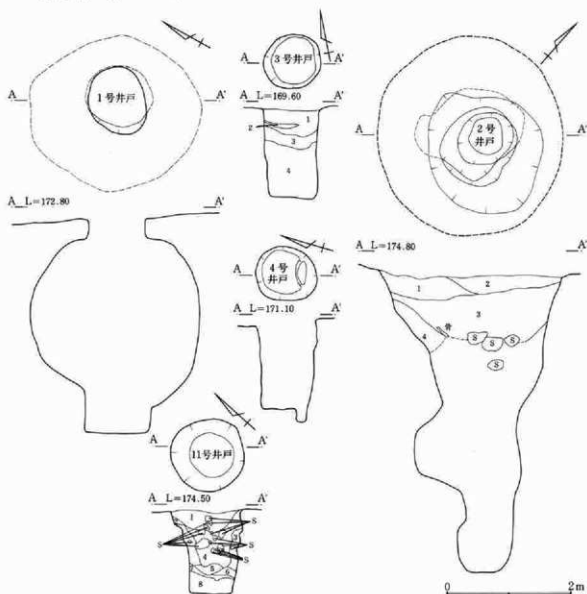


Fig.519 井戸遺構(1)

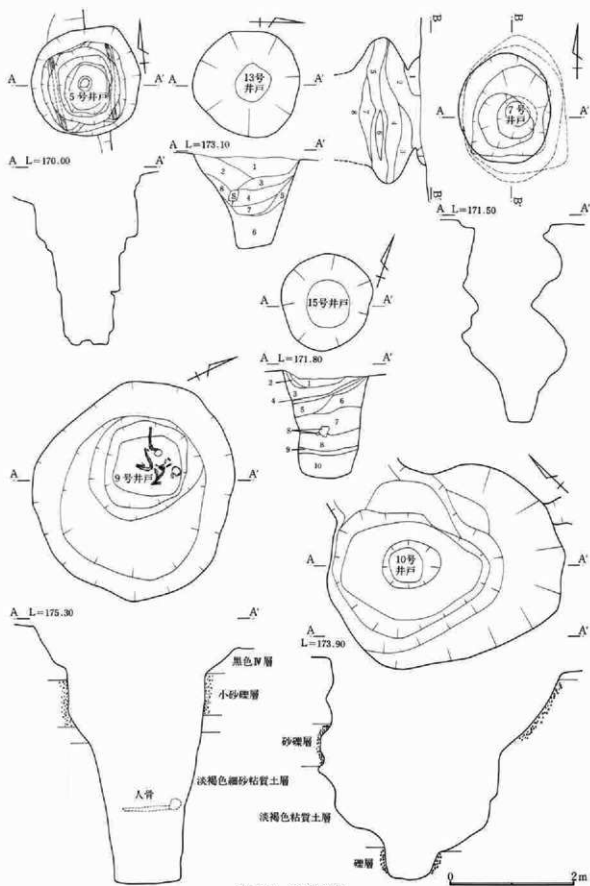


Fig.520 井戸遺構(2)

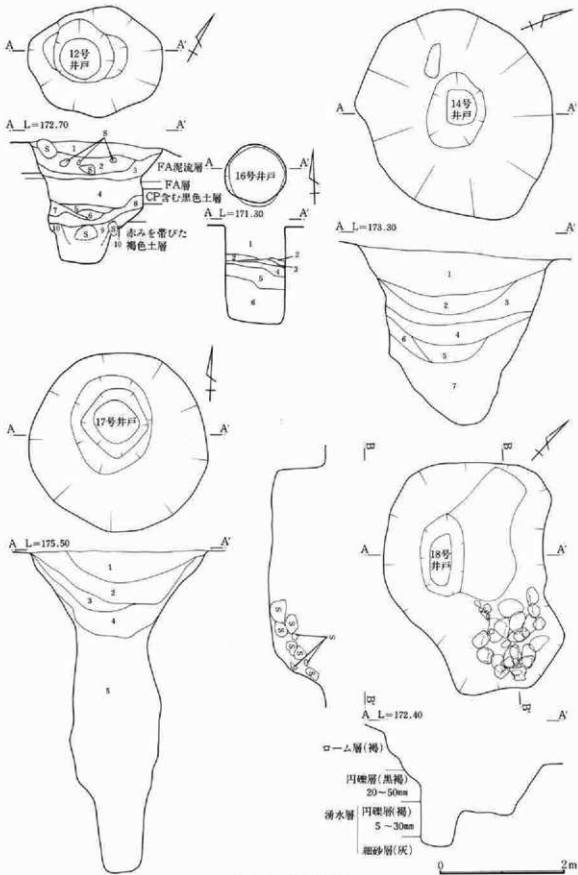


Fig.521 井戸遺構(3)

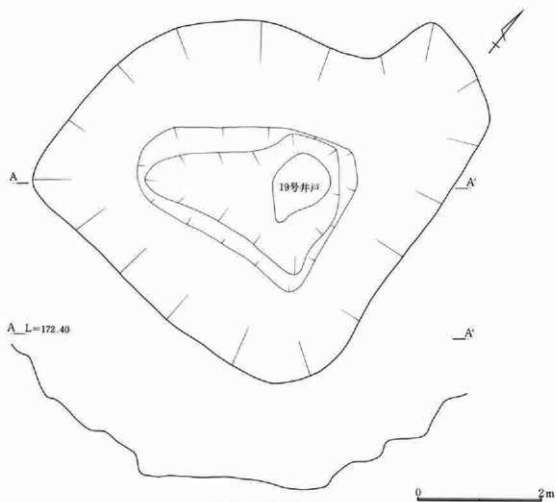


Fig.522 井戸遺構(4)

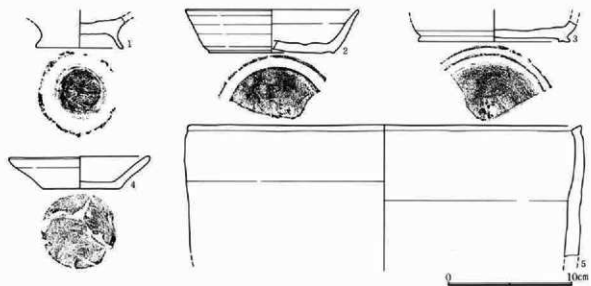


Fig.523 井戸出土遺物(1)

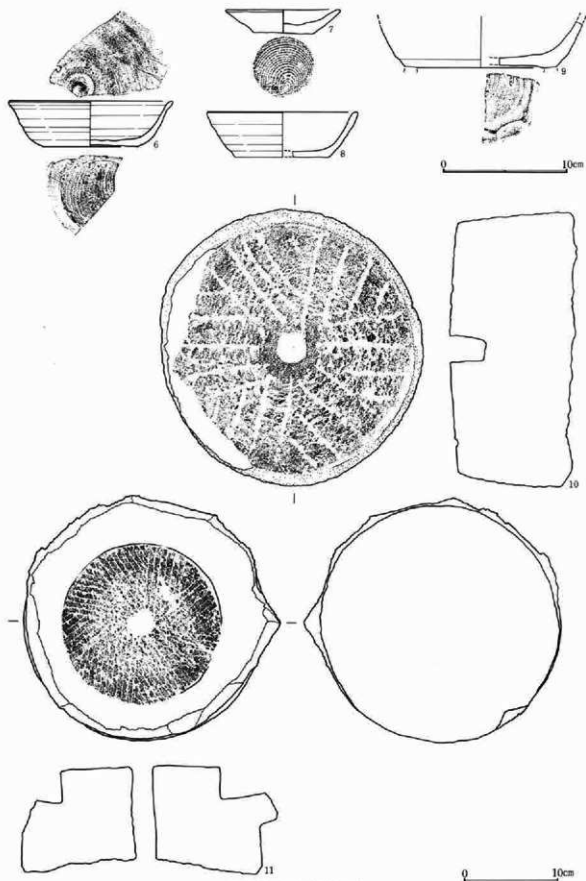


Fig.524 井戸出土遺物(2)

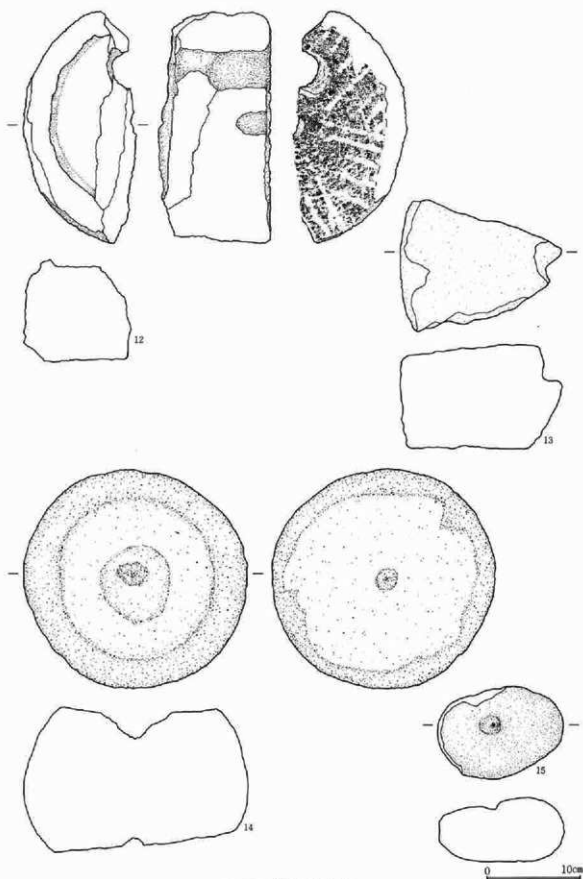


Fig.525 井戸出土遺物(3)

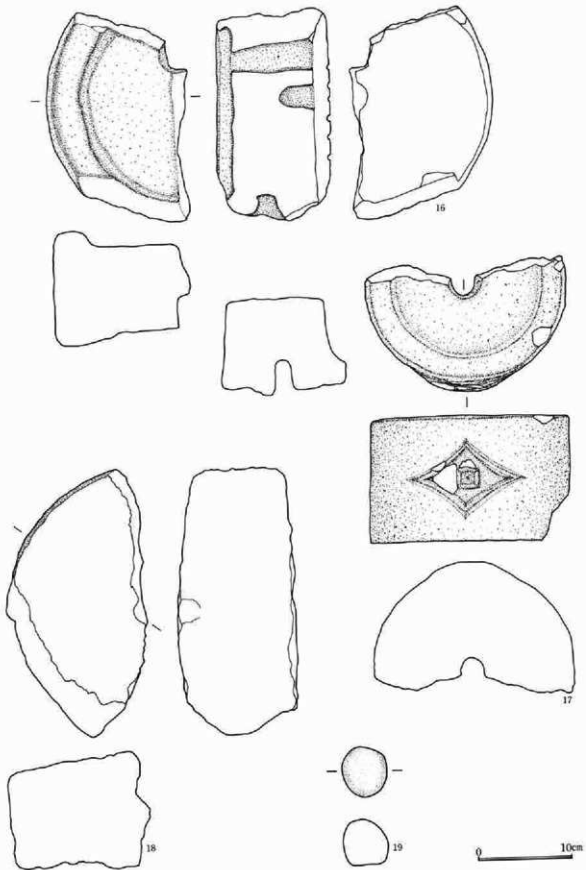


Fig.526 井戸出土遺物(4)

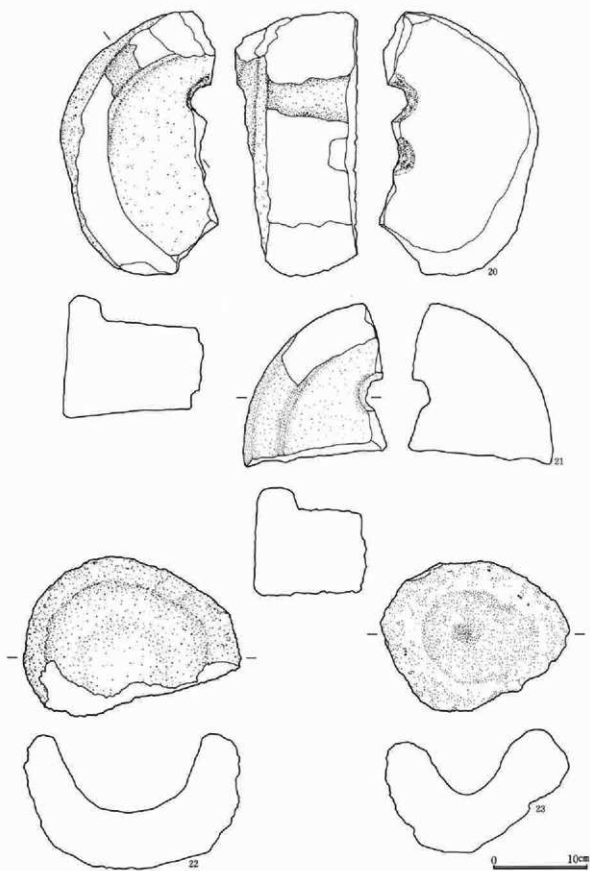


Fig.527 井戸出土遺物(5)

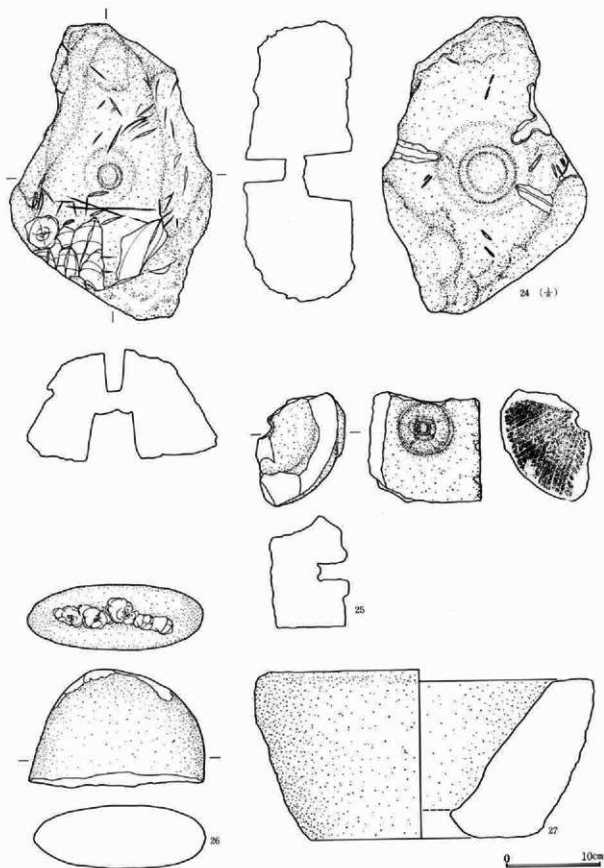


Fig.528 井戸出土遺物(6)

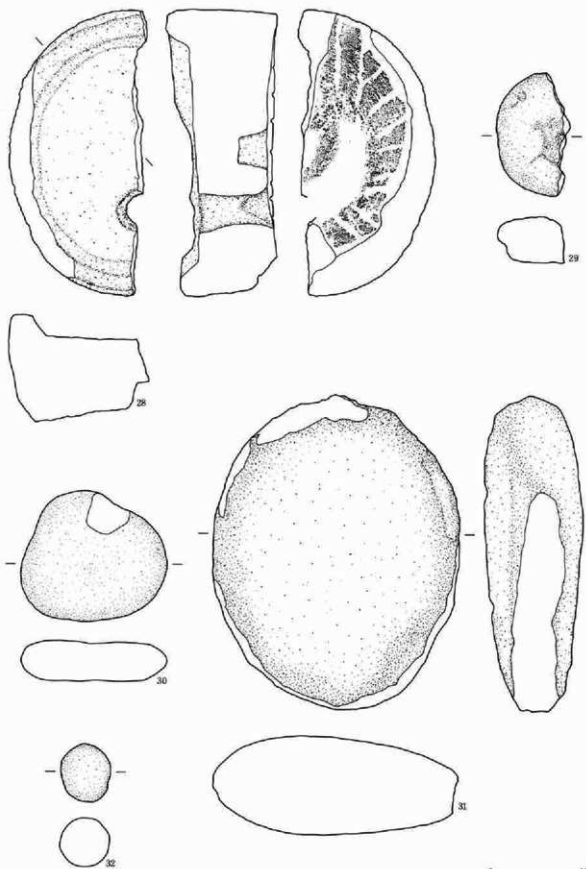


Fig.529 井戸出土遺物(7)

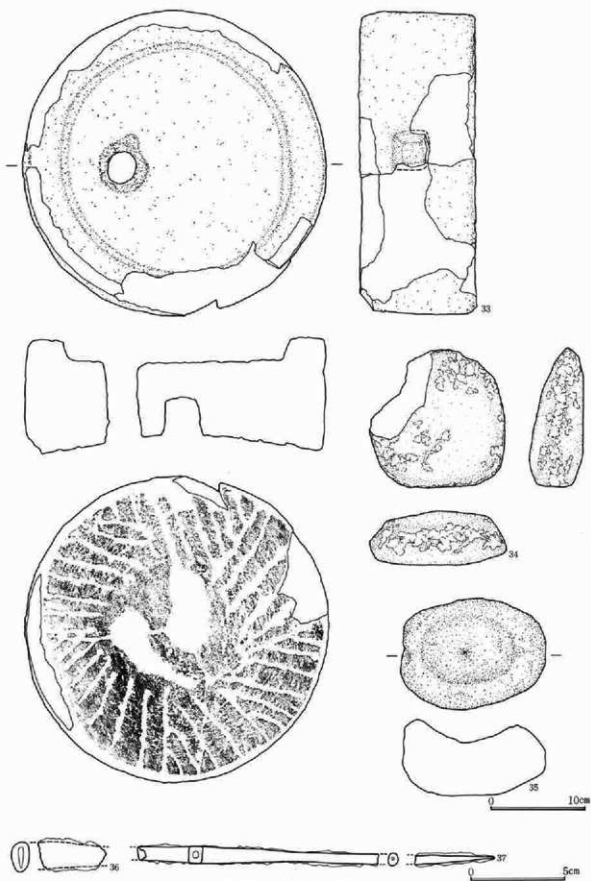


Fig.530 井戸出土遺物(8)

井戸出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	遺物 器形	計測 値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②胎土 ③胎土 ④残存
523-1 144	須恵器 埴	底-7.0	8号井戸 覆土	底部回転糸切付高台	①良好②褐色③細砂粒含む④底部残存
523-2 144	須恵器 坏	口-13.8 底-10.0	10号井戸 覆土	底部回転へう調整削り出し高台口縁部直線状に外傾する	①良好②灰白色③細砂粒含む④片残存
523-3 144	須恵器 坏	底-12.0	10号井戸 覆土	底部回転へう調整付高台	①良好②灰色③密④底部片残存
523-4 144	須恵器 坏	口-11.2 底-6.0	10号井戸 覆土	底部回転糸切口縁部直線状に外傾する底部外面に保付帯	①良好②におい藍色③細砂粒含む④完形
523-5 144	土製	口-29.0	1号井戸 覆土	口縁部段をもつ	①良好②褐色③密④細砂粒含む⑤口縁部破片
524-6 144	須恵器 坏	口-13.0 底-7.6	10号井戸 覆土	底部回転糸切口縁部外反する	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④片残存
524-7 144	須恵器 皿	口-9.1 底-4.8	12号井戸 覆土	底部回転糸切右廻り口縁部直線状に外傾する	①良好②黒褐色③細砂粒含む④ほぼ完形
524-8 144	須恵器 坏	口-12.0	12号井戸 覆土	底部へう調整口縁部弱く内湾ぎみに立ち上がる	①良好②灰色③密④片残存
524-9 144	須恵器 坏	底-12.0	14号井戸 覆土	底部回転糸切付高台	①良好②灰色③細砂粒含む④破片
Fig. 524-10 PL. 144	石白	径-28.0cm	厚-13.5cm	粗粒安山岩	
Fig. 524-11 PL. 145	石白	径-25.6cm	厚-9.6cm	粗粒安山岩	
Fig. 525-12 PL. 145	石白	長-24.5cm	厚-10.5cm	粗粒安山岩	
Fig. 525-13 PL. 145	石白	長-17.5cm	厚-11.5cm	粗粒安山岩	
Fig. 525-14 PL. 146	石白	径-23.2cm	厚-15.6cm	角閃石安山岩	
Fig. 525-15 PL. 144	石	長-13.4cm 幅-9.8cm 厚-6.9cm	くぼみ石	粗粒安山岩	
Fig. 526-16 PL. 146	石白	長-22.8cm	厚-12.0cm	粗粒安山岩	
Fig. 526-17 PL. 146	石白	長-21.0cm	厚-13.5cm	粗粒安山岩	
Fig. 526-18 PL. 151	石白	長-28.5cm	厚-12.4cm	粗粒安山岩	
Fig. 526-19 PL. 144	石	長-4.8cm 幅-4.8cm 厚-5.2cm	アプライト		
Fig. 527-20 PL. 148	石白	長-28.0cm	厚-12.8cm	粗粒安山岩	
Fig. 527-21 PL. 146	石白	長-22.0cm	厚-11.8cm	粗粒安山岩	
Fig. 527-22 PL. 145	石製品	径-20.8cm 深-14.5cm		粗粒安山岩	
Fig. 527-23 PL. 145	石製品	径-20.0cm 深-12.8cm		軽石(ニツ岳)	
Fig. 528-24 PL. 147	石製品	長-32.0cm 厚-11.6cm		粗粒安山岩	
Fig. 528-25 PL. 149	石白	長-12.5cm	厚-11.0cm	粗粒安山岩	
Fig. 528-26 PL. 151	石	長-19.0cm 厚-6.5cm		石英閃緑岩	
Fig. 528-27 PL. 149	石製品	径-36.0cm 厚-17.6cm		角閃石安山岩	
Fig. 529-28 PL. 149	石白	長-31.5cm	厚-12.0cm	粗粒安山岩	
Fig. 529-29 PL. 151	石	長-12.8cm 厚-5.2cm		粗粒安山岩	
Fig. 529-30 PL. 148	石	長-15.6cm 厚-4.2cm		石英閃緑岩	
Fig. 529-31 PL. 148	石	長-33.5cm 幅-10.5cm 厚-10.0cm		石英閃緑岩	
Fig. 529-32 PL. 151	石白	径-32.5cm 厚-12.5cm		粗粒安山岩	
Fig. 530-33 PL. 150-151	石白	径-32.8cm 厚-12.5cm		粗粒安山岩	
Fig. 530-34	石	長-14.5cm 幅-3.5cm 厚-5.8cm		石英閃緑岩	
Fig. 530-35 PL. 149	石製品	径-15.0cm 深-8.5cm		粗粒安山岩	
Fig. 530-36 PL. 148	鉄製品	長-3.8cm 厚-4mm		不明	
Fig. 530-37 PL. 148	鉄製品	長-17.0cm 厚-2mm		不明	

土坑一覽表

番号	形状	規模(cm)	土 層
4	方形	170×130×73	1, 暗褐色土層 2, 灰褐色土層FAを含む 3, 黒褐色土層黒色灰を含む 4, 暗褐色土層
5	長方形	178×85×12	
6	円形	113×95×16	1, 黒褐色土層軽石、炭化物を含む 2, 黒褐色土層軽石を含む 3, 暗褐色土層軽石を含む
7	長方形	201×108×11	1, 暗褐色土層軽石、糞土、炭化物を含む
12	隅丸方形	143×123×30	1, 暗褐色土層FAブロックを多量に含む 2, 暗褐色土層FA、FPを含む 3, 暗褐色土層FAブロックを含む 4, 暗褐色土層FPを含む
13	隅丸方形	95×94×7	1, 雑土 2, 黒褐色土層焼土粒、FAを含む 3, 暗褐色土層FA、FPを含む
14	円形	75×60×21	
15	円形	130×—×27	1, 淡褐色土層FA、FPを含む 2, 淡褐色土層砂質土 3, 黒褐色土層FA、炭化物を含む 4, 黒褐色土層FPを多量に含む 5, 黒褐色土層炭化物を少量含む 6, 暗褐色土層FA、FPを含む
16	円形	105×90×30	7, 淡褐色土層FPを含む 8, 暗褐色土層FAを含む 9, 暗褐色土層FA少量、FPを多量に含む
17	円形	153×140×20	10, 黒褐色土層炭化物を含む
18	方形	110×92×32	1, 黒褐色土層FAブロック、炭化物を少量含む 2, 褐色土層FAブロック、炭化物を多量に含む
19	横円形	187×121×37	1, 褐色土層炭化物を多量に含む 2, 褐色土層炭化物層
20	円形	145×140×23	1, 黒褐色土層炭化物を少量含む 2, 暗褐色土層FAを含む 3, 暗褐色土層炭化物、FAを含む
21	長方形	260×90×37	1, 黒褐色土層炭化物を含む 2, 暗褐色土層FAを含む
24	長方形	160×117×17	1, 暗褐色土層炭化物、FAブロックを含む 2, 暗褐色土層炭化物、FPを多量に含む
25	円形	125×117×28	1, 暗褐色土層FA、FPを含む砂質土 2, 暗褐色土層FAブロックを含む
26	円形	123×105×31	1, 暗褐色土層炭化物を少量含む 2, 暗褐色土層FPを含む
27①	円形	86×82×18	
27②	長円形	138×98×47	1, 暗褐色土層炭化物、糞を含む 2, 炭化物を含む 3, 炭化物を多量に含む
28	長方形	193×110×24	
29	円形	168×145×42	1, 暗褐色土層FP、炭化物を含む 2, 暗褐色土層炭化物を多量に含む 3, 暗褐色土層炭化物を少量含む
146	円形	115×112×38	1, 黒褐色土層FPを含む 2, 暗褐色土層FPを多量に含む
147	長円形	245×200×18	1, 黒褐色土層FPを少量含む 2, FPを多量に含む
148	円形	165×98×47	1, 褐色土層FA、FPを含む 2, 黒褐色土層FPを少量含む
149	円形	109×88×37	1, 黒褐色土層FPを少量含む 2, 褐色土層
150	円形	105×95×15	1, 黒褐色土層[158 円形 145×130×67 159 長方形 140×—×9 160 円形 165×153×30
161	横円形	490×243×43	1, 暗褐色土層FPを多量に含む 2, 暗褐色土層FPを含む 3, 黒褐色土層
162	長方形	238×158×20	1, 暗褐色土層FPを含む
163	長方形	230×182×32	1, 暗褐色土層FPを含む 2, 暗褐色土層FAブロックを含む 3, 褐色土層FAブロックを多量に含む
164	横円形	265×215×25	1, 褐色土層FPを多量に含む
165	長方形	370×230×35	1, 暗褐色土層FPを含む
166	方形	340×320×63	1, 黄褐色土層FP、炭化物を含む 2, 黒褐色土層FAブロックを含む 3, 黒褐色土層FA、FPを含む 4, 黒褐色土層FAを含む
171	長方形	330×70×35	1, 暗褐色土層FAを含む 2, 暗褐色土層FAを含む砂質土
174	横円形	123×88×10	
176	円形	108×102×10	1, 暗褐色土層FAを含む
177	円形	108×102×20	1, 暗褐色土層FAを含む 2, 黒褐色土層FA、黒褐色土を含む
178	長円形	110×90×35	1, 暗褐色土層FAブロックを多量に含む 2, 暗褐色土層焼土ブロックを含む 3, 暗褐色土層炭化物を含む
179	長円形	120×92×10	1, 暗褐色土層FAを含む 180 長円形 116×80×13
188	方形	210×195×20	1, 暗褐色土層FAを含む 2, 黒褐色土層炭化物、黒色灰を含む 189 方形 193×125×20
190	円形	98×88×42	1, 淡褐色土層FA、炭化物を含む 2, 淡褐色土層FAブロックを含む 3, 淡褐色土層
191	円形	75×68×10	192 円形 95×85×15
193	長円形	105×85×26	1, 褐色土層FA、FPを含む 2, 褐色土層FAブロックを含む
194	長方形	167×92×15	
195	円形	95×90×30	1, 暗褐色土層FAブロックを少量含む 2, 淡褐色土層FAブロックを多量に含む 3, 淡褐色土層FAブロックを含む
196	円形	90×—×20	
197	円形	85×78×22	1, 暗褐色土層FAを含む 2, 暗褐色土層FAブロックを多量に含む
198	円形	133×88×13	200 長円形 185×105×15 201 円形 186×177×23
203	方形	148×125×35	1, 暗褐色土層FA、炭化物を少量含む 2, 暗褐色土層FAを含む 3, 暗褐色土層 4, 淡褐色土層炭化物を含む
205	円形	120×113×14	206 円形 90×90×15
220	円形	130×115×30	1, 暗褐色土層FAを少量含む 2, 暗褐色土層FAを含む 3, 暗褐色土層FA、炭化物を含む 4, 暗褐色土層FAブロックを含む 5, 灰層
221	円形	118×100×68	1, 暗褐色土層FAブロックを含む 2, 暗褐色土層 炭化物を少量含む
222	円形	120×120×30	1, 淡褐色土層FAブロックを含む 2, 淡褐色土層FAを含む
226	方形	130×—×30	227 円形 68×68×27
230	横円形	215×75×42	1, 暗褐色土層 2, 暗褐色土層FPを多量に含む
232	円形	37×35×10	238 円形 88×88×18

第2章 検出された遺構と遺物

土坑一覧表

番号	形状	規模(cm)	土層	層
239	楕円形	145×75×27	1. 黒褐色土層 F P を少量含む 2. 暗褐色土層 FA、F P ブロックを少量含む	3. 暗褐色土層 F A ブロックを多量に含む
240	長方形	100×88×30	1. 黒褐色土層 F P を含む	2. 暗褐色土層 FA、F P を含む
241	円形	100×95×13	245 円形 100×95×55 247 円形 75×64×49 248 円形 73×100 250 円形 45×45×20	
251	円形	80×78×30	1. 黒褐色土層 炭化物を多量に F P を含む	
252	円形	112×106×23	1. 淡褐色土層 FA を多量に含む 2. 淡褐色土層 FA ブロックを含む	254 円形 100×100×27
255	円形	90×106×22	256 円形 68×68×23 257 円形 65×60×18 258 楕円形 63×50×10 259 円形 83×67×5	
260	円形	70×60×10	261 円形 108×80×19 268 円形 68×60×12 270 円形 65×58×6 271 円形 95×90×10	
272	円形	62×49×5	273 楕円形 173×110×5 274 楕円形 98×60×5 275 楕円形 90×55×22 276 円形 62×60×7	
277	楕円形	92×58×19	279 円形 120×168×10 281 円形 88×85×8 282 円形 48×42×7	
284	楕円形	125×108×80	1. 淡褐色土層 FA を含む	2. 淡褐色土層
285	円形	110×160×10	1. 淡褐色土層 F P を多量に含む	
286	不整形円形	350×212×39	1. 黒褐色土層 F P を多量に含む	
287	長方形	183×100×36	288 ホウタン形 125×87×18 290 円形 85×68×24	1. 淡褐色土層 F P を含む
291	円形	170×163×24	1. 暗褐色土層 F P を多量に含む	2. 暗褐色土層 F P を含む
292	楕円形	280×190×28	1. 黒褐色土層	293 円形 140×120×10 1. 暗褐色土層 F P を含む
294	円形	150×125×24	1. 暗褐色土層 F P を含む	
295・296	長円形	325×115×77	1. 暗褐色土層 F P を含む 2. 黄褐色土層 ローム粒を含む	297・298 長方形 295×140×52
299	方形	175×115×27	300・301・307 方形 265×160×41 302 楕円形 280×160×37	
304・305・306	方形	385×20×54	1. 暗褐色土層 F P を含む 2. 暗褐色土層黒色ブロック土を含む	3. 暗褐色土層 4. 暗褐色土層 F P を含む 5. 暗褐色土層 FA を含む
308	長方形	310×125×40	309・312 方形 265×180×50 310 長方形 505×140×26 317 円形 65×65×20 1. 淡褐色土層	
318	円形	70×60×22	1. 淡褐色土層 319 円形 48×44×45 321 楕円形 235×116×30 1. 暗褐色土層 2. 淡褐色土層	
322	楕円形	132×78×14	1. 淡褐色土層 FA を少量含む 323 長円形 95×78×13 325 円形 55×48×15 326 円形 65×60×20	
328	円形	99×83×18	1. 暗褐色土層 FA を少量含む 2. 暗褐色土層 330 長円形 110×88×35 1. 黄褐色土層 FA を多量に含む	
331	円形	100×98×13	332 楕円形 106×85×22 333 長円形 102×80×18 1. 淡褐色土層 FA ブロックを含む	
334	円形	63×68×25		
335	長円形	120×85×28	1. 淡褐色土層 FA を含む 2. 淡褐色土層 FA 炭化物を含む	3. 淡褐色土層 336 円形 80×75×14
337	長円形	173×125×30	1. 淡褐色土層 FA 粒を含む 2. 淡褐色土層 FA ブロックを少量含む	3. 淡褐色土層 FA ブロックを多量に含む
338	楕円形	105×78×15	339 楕円形 98×65×14 1. 淡褐色土層 FA を含む	340 楕円形 90×65×14
341	円形	118×104×18	1. 淡褐色土層 FA を含む	342 楕円形 110×85×10 345 楕円形 85×53×30
346	円形	108×105×22	347 円形 140×135×50 1. 淡褐色土層 FA を含む	2. 淡褐色土層 FA ブロックを含む
354	円形	80×80×16	1. 淡褐色土層 FA を少量含む	2. 淡褐色土層 FA ブロックを含む
355	円形	84×74×17	1. 淡褐色土層黄褐色土粒を含む 2. 暗褐色土層黒褐色土、黒色土を含む	
356	楕円形	180×86×33	1. 暗褐色土層 FA ブロックを含む 357 長円形 63×40×13 1. 暗褐色土層 358 楕円形 95×65×22	
359	円形	125×123×50	1. 黒褐色土層炭化物を多量に含む 2. 黒褐色土層	3. 黒褐色土層厚層を多量に含む
361	円形	87×78×25	362 円形 125×120×60 1. 暗褐色土層	2. 暗褐色土層層を含む 3. 暗褐色土層炭化物を含む
363	長円形	93×70×40		

墓壇一覧表

番号	形状	規模(cm)	土層	層
3	不整形円形	210×192×32	9 円形 103×98×36 152 楕円形 110×65×10 153 楕円形 120×78×12 154 楕円形 135×88×14	
155	楕円形	200×118×19	156	157 楕円形 130×110×20 169 長円形 145×80×16 204 楕円形 65×65×9
225	円形	285×250×38	249 円形 115×100×50	327 長方形 227×103×27

溝一覧表

13溝	1. 砂層 小礫を含む 2. 粒石 3. 次層積層 27溝 1. 黒褐色土層 F P を含む 2. 黄褐色土層 F P、砂粒を含む
28溝	1. 黒褐色土層 赤土の F P を含む 2. 暗褐色土層 F P を少量含む 3. 暗褐色土層 29溝 1. 暗褐色土層 2. 暗褐色土層 赤土の F P を含む 3. 暗褐色土層 暗砂粒を含む 4. 暗褐色土層 砂を多量に含む 5. 黒褐色土層 粘質土 38溝 1. 暗褐色土層 2. 暗褐色土層 黒色土粒少量含む 2. 淡褐色土層 黄褐色土粒少量含む 3. 暗褐色土層 黄褐色土粒少量含む 4. 淡褐色土層 黄褐色土層 黒色土層 F P を含む 39溝 1. 淡褐色土層 黄褐色土層 黄褐色土粒少量含む 2. 粘質黒褐色土層 黄褐色土粒を含む 40溝 1. 淡褐色土層 黄褐色土層 黄褐色土粒少量含む 2. 淡褐色土層 黄褐色土粒 FA を含む

井戸一覧表

1井戸	1. ナョウタン形 105×90×340 2井戸	1. 2段段状 3井戸	1. 円筒状 90×90×140	1. 淡褐色土層 砂質土 2. 淡褐色土層 F P を含む 3. 淡褐色土層 砂質ブロックを含む 4. 淡褐色土層 砂質ブロックを多量に含む	4井戸 円筒状 95×85×160
5井戸	1. ロート状 172×172×248 7井戸	1. 段状 173×147×315	1. 黒褐色土層 C P を含む	2. 炭褐色土層 砂質土 3. 淡褐色土層 4. 淡褐色土層 5. 灰色砂質土 6. 淡褐色土層 黄褐色土層 F P を含む	7. 淡褐色土層 8. 褐色粘質土 9井戸 変形ロート状 345×315×383 10井戸 1. ロート状 370×300×345 11井戸 円筒状 117×116×132 3. 暗褐色土層 砂を多量に含む 2. 暗褐色土層 炭褐色土層を含む 3. 淡褐色土層 4. 淡褐色土層 内安を多量に含む 5. 淡褐色土層 FA 泥層を含む 6. 淡褐色土層 FA 泥層主体層 7. FA、FA 泥層層 8. 暗褐色土層 12井戸 ロート状 215×175×195 1. 淡褐色土層 砂を多量に含む 炭化物を少量含む 2. 暗褐色土層 砂、炭化物を含む 3. 淡褐色土層 泥流を含む 4. 黒褐色土層 5. 黒褐色土層 6. F P 粒石層 7. 黒褐色土層 8. 暗褐色土層 9. 暗褐色土層 10. 黒褐色土層 13井戸 ロート状 170×168×145 1. 暗褐色土層 2. 暗褐色土層 FA ブロックを多量に含む 3. 暗褐色土層 褐色土層 F P を多量に含む 4. 暗褐色土層 FA を含む

第5節 井 戸

5. 暗褐色土層 粘質土	6. 暗褐色土層 FAを多量に含む	7. 暗褐色土層 FAを含む	8. 暗褐色土層 砂質土	14井戸	ロー ト状	350×290×292
1. 暗褐色土層 FPを含む	2. 暗褐色土層 FPを多量に含む	3. 暗褐色土層 FPを少量含む砂質土	4. 暗褐色土層 FP大粒多量に含む	5. 暗褐色土層 砂、礫主体層	6. 黒褐色土層	7. 暗褐色土層 FAブロックを多量に含む
15井戸	円筒状	155×145×157	1. 灰褐色土層 川原石を含む砂質土	2. 砂層	3. 灰褐色土層 黄褐色土 炭化物を含む	4. 暗 褐色土層 砂質 炭化物を含む
5. 暗褐色土層 川原石 炭化物を含む	6. 暗褐色土層 川原石を含む砂質土	7. 暗褐色土層 黄褐 色土粒を含む	8. 暗褐色土層 黒色土を含む	9. 暗褐色土層 炭化物を含む砂質土	10. 暗褐色土層	16井戸
円筒状	98×95×157	1. 暗褐色土層FA、BP少量含む砂質土	2. 黒褐色土層 褐色砂質土	3. 褐色土層 黒色土を含む	4. 灰褐色土層 FAを少量含 む	5. 灰褐色土層 黒色土、FAを含む
6. 灰褐色土層	17井戸	ロー ト状	285×280×510	1. 暗褐色土層 FP細粒を含む	2. 暗 褐色土層 径20cm前後のFPを多量に含む	3. 暗褐色土層
4. 暗褐色土層 FP粒を多量に含む	5. 暗褐色土層 黒色土ブロック を含む	18井戸	不定形	365×253×170	19井戸	不定形
735×585×175						

第6節 掘立柱建物跡

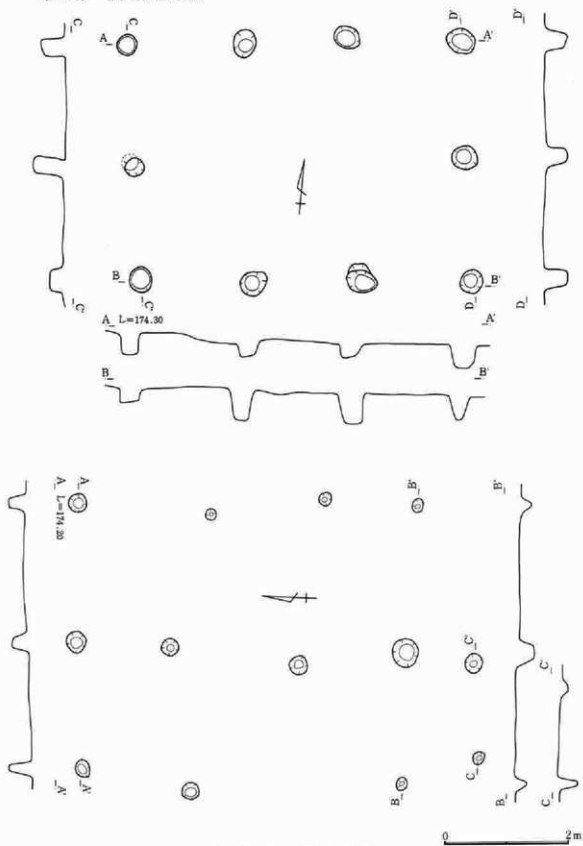


Fig.531 1・2号掘立柱建物跡

第3章 渋川市有馬遺跡出土の平安時代および 中世人骨について

森本岩太郎
吉田 俊爾

1 はじめに

この人骨は、昭和57年1月～59年1月の財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団による渋川市八木原所在の有馬遺跡発掘調査より発見されたもので、平安時代に属するもの6体（SK-3号、SK-9号、SE-9号、SK-225号、SK-327号、SK-381号）、中世に属するもの4体（SK-152号、SK-156号、SK-157号、SK-169号）の合計10個体分である。人骨は同事業団の発掘調査によって取り上げられ、後日鑑定のため筆者のもとへ届けられた。ここにその鑑定結果を報告する。

なお、以上の人骨のほかはこの有馬遺跡からは弥生時代後期の人骨が58個体分出土している。（別報）。

2 人骨の出土状態

(A)平安時代人骨

出土図から埋葬姿勢を推定すると、1体（SE-9号）が北東頭位で左側臥屈位、ほかの2体（SK-327号、SK-381号）が北頭位で仰臥伸展位のように見える。3個体とも各部分の骨は完全に保存されていないが、骨の配列具合からみればいずれの個体も人骨の解剖学的位置関係に乱れはないと思われる。また、1個体（SK-225号）は長頸の壺に納められた火葬骨である。残りの2個体（SK-3号、SK-9号）についてはよく分らない。

(B)中世人骨

出土図を見ると4個体（SK-152号、SK-156号、SK-157号、SK-169号）とも北頭位の右側臥屈位である。いずれの個体も人骨の解剖学的位置関係に乱れない。

3 人骨所見

平安時代・中世人骨はともに保存状態が不良である。したがって身体各部の骨は、部分的に崩壊し骨粉状態を呈していたり、崩壊寸前にあるものが少なくない。このため人骨はパラフィンで固定し、土塊と一緒に取り上げてある。以上のような人骨について、できるだけ慎重にパラフィンを融解して土塊から分離することに努めたが、完形を保つ人骨は少ない。したがって、人骨の形質人類学的特徴を完全に把握することは不可能である。以下、判明した範囲内で人骨所見を述べる。

なお、人骨名については和名を用いたが、歯の種別については記号を用い、アラビア数字で永久歯を、アルファベットの太文字で乳歯を示した。また、●印は歯槽閉鎖、()内は未萌出歯、×印は欠損のため状況不明のことをそれぞれ表している。計測はすべて Martin 法に従い、推定身長は大腿骨最大長から藤井の式を用いて算出した。ただし、計測値のうち左右のあるものについては原則として左側の値だけを示し、右側の値を示すときはその旨特記してある。

(A)平安時代人骨

(1)SK-3号人骨

残っているのは遊離歯⁶だけである。咬耗度は Martin の第2度である。おそらく成人のものであろう。性別は不詳。

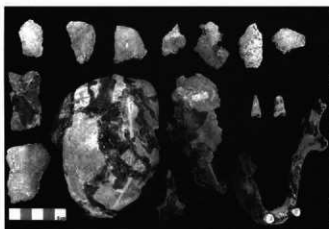


写真1 SE-9号平安時代人骨



写真2 SE-9号平安時代人骨の四肢骨（左上）と
下肢骨（左下・右）

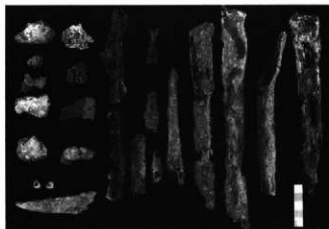


写真3 SK-327号平安時代人骨の頭蓋骨片（左）
上肢骨片（中）および下肢骨片（右）

(2)SE-9号人骨（写真1、2）

熟年期の女性人骨1個体分である。全身の骨が比較的良く残っている。頭蓋は左の側頭骨下顎窩周辺、左右の頭頂骨、前頭骨の前頭鱗・右眼窩上縁、左の頬骨および下顎骨の各破片が主なものである。下顎骨は左右の下顎角と左下顎体を欠く。部分的に残る冠状縫合は内・外板とも一部に骨結合化が認められる。同じく矢状縫合では内・外板ともに骨結合化は見られない。最小下顎枝幅は31mmである。

歯および歯槽の状況を次に示す。

× × × 5 × × × × ×	× × × × × × × × 8
● × × 5 × × ● ●	● ● 3 × × ● ● ●

咬耗度は5 | 5 | 3がMartinの第3度、8 | 8 | が同じく第1度で、咬合様式は缺状咬合型である。

なお、5 | 8 | は遊離歯である。3 | の歯冠にはエナメル質減形成が見られる。

椎骨の破片が若干残っている。上肢骨としては、左右の上腕骨体片と左橈骨体中央部がある。骨盤は右の腸骨体片がある。自由下肢骨は左大腿骨体片と右大腿骨の骨頭・骨体片、左脛骨体片と下脛を欠く右脛骨、左腓骨体片が残っている。上腕骨体、大腿骨体、および脛骨体はいずれも細く作りもきゃしゃである。また、右大腿骨頭は小さい。

(3)SK-9号

長骨の細片で、性別、年齢とも不詳である。

(4)SK-225号人骨

長頸の壺棺に埋納された成人の火葬骨が約30gある。後頭骨の内後頭隆起周辺と長骨片が確認できる。性別は不詳である。

(5)SK-327号人骨（写真3）

壮年期の男性人骨1個体分であるが、残存する骨は少ない。頭蓋は脳頭蓋の破片と左の下顎骨片および遊離歯8 | 3 | だけが残っているに過

ぎない。咬耗度は3 | 3 | がMartinの第2度、8 | 8 | が同じく第1度である。3 | の歯冠にはエナメル質減形成が見られる。上肢骨は左右の上腕骨体片と左尺骨体片がある。下肢骨としては左右の大腿骨体片、脛骨体片およ

び左の腓骨体片が残っている。大腿骨の粗線の発達は比較的良好い。

(6)SK-381号人骨(写真4)

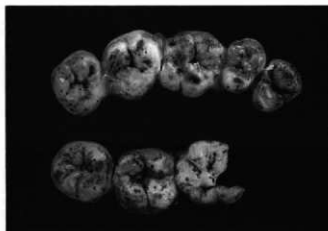


写真4 SK-381号平安時代人骨の遊離歯 $\overline{87654}$ (上)と $\overline{876}$ (下)

壮年期の性別不詳人骨1個体分である。残存する骨は少ない。頭蓋は骨粉状となっている。ほかに遊離歯 $\overline{87654}$ ・ $\overline{876}$ が残っている。咬耗度は $\overline{6}$ ・ $\overline{6}$ がMartinの第2度、他は同じく第1度である。上肢骨は所属部位不明の長骨体片がある。下肢骨は左右の大腿骨体片、左右不明の脛骨・腓骨体片が残っている。

(B)中世人骨

(1)SK-152号人骨(写真5)

年齢不詳の女性成人骨1個体分であるが、残存する骨は少ない。頭蓋は後頭鱗、左右の側頭鱗、右の側頭骨乳突部、前頭鱗の各破片が残っている。

乳様突起は小さい。椎骨の破片が若干ある。上肢骨としては、左右の上腕骨体がある。骨盤は左右の腸骨体片がある。自由下肢骨としては、左右の大腿骨体と脛骨体および左右の腓骨体片が残っている。上腕骨体、大腿骨体および脛骨体は細く作りがきゃしゃである。

(2)SK-156号人骨(写真6)

6歳前後の小児人骨1個体分である。ほぼ全身の骨が破片の状態で残っている。頭蓋は脳頭蓋と顔面頭蓋の右半分が比較的良好に残っている。

歯および歯槽の状況を次に示す。

$$\frac{6 \times E D C \times \times \quad \times \times C \times \times \times (2) (3)}{6 (1) E D C B \times \quad \times \times \times \times (1) (2) \times}$$

$\overline{6}$ ・ $\overline{6}$ には若干の咬耗が認められる。

以上のほかに、肋骨、上・下肢骨の破片が残っている。

(3)SK-157号人骨(写真7、8)

壮年期の男性人骨1個体分である。全身の骨が良く残っている。頭蓋は頭頂部、前頭部および顔面の左半が欠くほかは比較的良好に残っている。矢状縫合とラムダ縫合の外板では部分的に骨結合化が見られる。乳様突起は大きく膨隆している。外後頭隆起の膨隆度はBrocaの第1度である。右の下顎体厚は13mm、最小下顎枝幅は34mmである。

歯および歯槽の状況を次に示す。

7	6	5	4	3	2	1		1	2	3	4	5	6	7
●	6	5	4	3	2	1		1	2	3	4	5	6	7

咬耗度はMartinの第2度で、咬合様式は鉛字状咬合型である。上下の小白歯の歯冠にはエナメル質減形成が認められる。 $\overline{8}$ ・ $\overline{8}$ は未萌出であるが、歯槽内に埋伏しているのか先天的に欠如しているのか分

からない。脊柱および胸郭の骨については、環椎・軸椎を含む椎骨片と肋骨片がある。上肢帯は左右肩甲骨の肩甲棘・外側角がある。自由上肢骨としては、骨頭を欠く左上腕骨とほぼ完全な左腕骨がある。また左尺

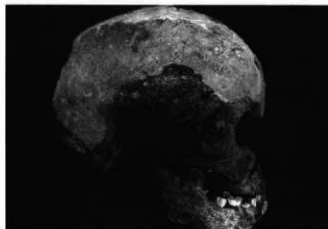


写真6 SK-156号中世人骨の頭蓋右側面観

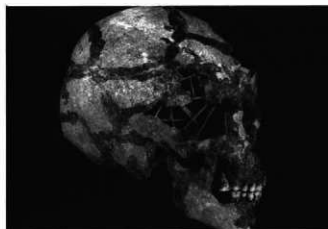


写真7 SK-157号中世人骨の頭蓋右側面観

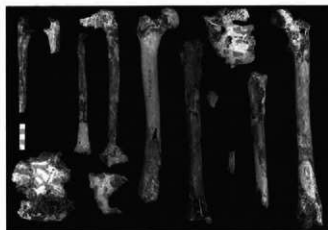


写真8 SK-157号中世人骨の上肢骨(左上)、骨盤(左下・右の中上)と下肢骨(右)

骨の肘頭および右尺骨の上 $\frac{2}{3}$ も残っている。上腕骨体はそれほど頑丈には見えないが、前腕の骨は太く頑丈である。骨盤は左の腸骨・座骨片、右の腸骨片および仙骨がある。自由下肢骨は左右の大腿骨、脛骨および左右の腓骨片が残っている。ただし、右大腿骨は下端を欠き、右脛骨は上・下端を欠く。大腿骨の殿筋粗面の発達は良く、脛骨は太く頑丈である。大腿骨最大長は418mmである。大腿骨体の横断示数は上部が83.9で広型に属し、中央部が115.4で中等度のピラステル形成がある。脛骨体中央の断面型はHrdličkaのV型を呈する。大腿骨最大長を用いて推定身長を算出すると158.1cmとなる。以上の下肢骨のほか左の距骨片を含む足の骨が若干あるが詳しいことは分からない。

(4)SK-169号人骨(写真9、10)

壮年期の女性人骨1個体分である。全身の骨が良く残っている。頭蓋は頭頂孔周辺と右の上顎骨を欠損しているだけであるが、土圧により著しく変形している。冠状縫合の外板は大部分骨結合化しているが、ほかの縫合についてはよく分からない。外後頭隆起の膨隆度はBrocaの第2度である。下顎体厚は13mm、右の最小下顎枝幅は33mmである。

歯および歯槽の状況を次に示す。

×	6	5	4	3	2	1		1	2	3	4	5	6	×
●	6	5	4	3	2	1		1	2	3	4	5	6	●

咬耗度はMartinの第1～2度、咬合様式は狭伏咬合型である。ほとんどの歯の歯冠にはエナメル質減形成が認められる。8 $\overline{8}$ は未萌出と思われるが、歯槽内に埋伏しているのか先天的に欠如しているのか分からない。胸郭の骨は肋骨片がある。上肢帯は左右の肩峰と左の鎖骨片がある。自由上肢骨としては、左右の上腕骨体、同じく橈・尺骨体が残っている。骨盤は左右の腸骨片がある。自由下肢骨としては、左右の大

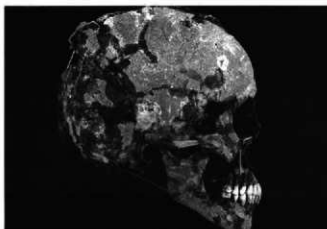


写真9 SK-169号中世人骨の頭蓋右側面観

腿骨、同じく脛骨が残っている。ただし、左大腿骨は上・下端を欠き、右大腿骨は上・下端の一部を欠いている。また、左脛骨は骨体の下部を欠き、右脛骨は骨体中央部と下端を欠いている。右大腿骨の最大長は392mmである。また、右大腿骨体の横断示数は上部が78.6で広型に属し、中央部が113.0で中等度のピラステル形成がある。右大腿骨の最大長を用いて推定身長を算出すると148.9cmとなる。以上の下肢骨のほかには足の骨として左の踵骨と距骨があり、距骨にはいわゆる踵跡面が認められる。上記の上・下肢骨はいずれも細く、作りがきゃしゃである。

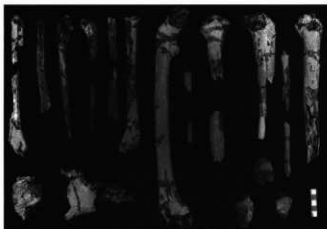


写真10 SK-169号中世人骨の大腿骨(左上) 骨盤(左下)および下肢骨(右)

4 若干の考察

以上の所見から出土人骨の性別、年齢をまとめたのが第1表である。これによれば出土人骨は、平安時代に属するものが男性1体・女性1体・性別不詳4体計6個体分で、その年齢構成は熟年期1体・壮年期2体の割合であり、中世に属するものが男性1体・女性2体・小児1体計4個体分で、その年齢構成は壮年期2体・年齢不詳(成人)1体・小児1体の割合である。年齢構成について、平安時代・中世人骨を合わせてみると、老年期のものはなく熟年期1体・壮年期4体・年齢不詳1体である。このことは

古代末・中世の人々が現代日本人と比べて短命であったことを裏づける。

エナメル質減形成については、平安時代・中世人骨を合わせて、歯の観察が可能な5個体のうち4個体(平安時代人骨のSE-9号・SK-327号・中世人骨のSK-157号、SK-169号)、80%に認められた。エナメル質減形成は、個体が永久歯形成進行中の幼児期に飢餓、蛋白質・ビタミンの欠乏、および消化器疾患・伝染病・内分泌異常などの疾病に見舞われるとエナメル質の形成が一時的に阻害され、その時期に相当するエナメル質の表面に歯冠をとりまく溝や小孔が生じ、これは生涯修復されることなく残存すると言われていいる。以上のことから、古代末から中世にかけてこの地に住んでいた人々の苛酷な生活の一端をうかがうことができる。

次に大腿骨についてみると、中世の男(SK-157号)と女(SK-169号)各1体につき、最大長と骨体の上・中央部横断示数が得られた。男女とも骨体上部の示数は比較的小さく、やや扁平であり、中央部には中等度のピラステル形成が認められた。大腿骨最大長から算出した推定身長は男が158cm、女が149cmであり、当時としては、男は標準、女はやや背が高いと言える。

5 まとめ

有馬遺跡から出土した平安時代・中世人骨は、平安時代人骨が6体分(壮年期男性1・熟年期女性1・社

第3章 波川市有馬遺跡出土の平安時代および中世人骨について

年性性別不詳1・成人性別不詳2・年齢性別不詳1)、中世人骨が4体分(壮年期男性1・壮年期女性1・年齢不詳女性1・小児1)で、総数10個体分である。平安時代・中世合わせて4個体の歯にエナメル質減形成が認められた。中世人骨男女各1体の大腿骨は上部が扁平で、中央部にはピラステルの形成がある。この中世人骨の推定身長は男性が158cm、女性が149cmである。この女性の距骨にはいわずの踵面が見られた。

第1表 出土人骨の性別および年齢など

時代	人骨番号	性別	年齢	備	考
平安	SK-3号	不詳	成人		
	SE-9号	女	熟年	エナメル質減形成あり。	
	SK-9号	不詳	不詳		
	SK-225号	不詳	成人	遺棺に埋納された火葬骨。	
	SK-327号	男	壮年	エナメル質減形成あり。	
	SK-381号	不詳	壮年		
中世	SK-152号	女	成人		
	SK-196号	不詳	小児		
	SK-157号	男	壮年	エナメル質減形成あり。大腿骨はやや扁平で、ピラステルあり。推定身長158cm	
	SK-169号	女	壮年	エナメル質減形成あり。大腿骨はやや扁平で、ピラステルあり。推定身長149cm	

第4章 有馬遺跡出土天部形立像

本金銅製像は、有馬遺跡平安時代遺構確認精査中に出土した。このため明確に伴う遺構は認められていないが81号住居跡付近より検出された。本像は全長5.9cm、像高5.3cm、顔長は1.5cm、重量43.1gを測る。

本金銅製品は天部形立像であり、主に経塚等の遺構から検出される事が多い。しかし、本遺跡内あるいは周辺にはそのような遺跡の確認はない。また本品は三尊像等の脇侍の可能性もある。顔面・体部前面には薄い金が認められるが、鍍金とは認められず後段の化学分析の結果からも箔押しである事が確かめられた。背中・足部裏面中央に2ヶ所の突起が認められるが、光背を止めた柄（てら）とみなされ、その光背は拳身光であるものと考えられる。鋳造は割形鋳造であり、台座と本体とも一鋳で造られ、製作時期は10世紀前半中頃と考えられる。なお、県内では他に国分僧寺・尼寺中間地域遺跡で男神立像が出土している。下図はその実測図である。(本文をまとめるにあたり、東京国立博物館主任研究官浅井和春氏よりご意見をうかがい、東京国立文化財研究所化学室長平尾良光氏には化学分析でお世話になった。)

註1 「上野国分僧寺・尼寺中間地域」③ 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 群馬県教育委員会 1988

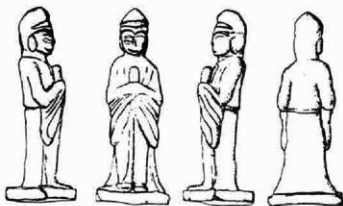


Fig.532 国分寺中間地域遺跡出土男身立像

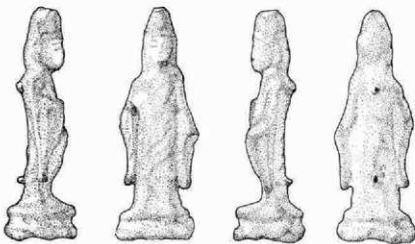


Fig.533 有馬遺跡出土天部形立像

非破壊蛍光X線分析法による 有馬遺跡出土天部形立像

東京国立文化財研究所 平尾 良光

1 はじめに

群馬県埋蔵文化財調査事業団からの要請で群馬県 渋川市八木原 有馬遺跡から出土した天部形立像について化学組成を蛍光X線分析法で非破壊的に調査し、資料の材料組成に関する情報を得た。

2 分析法

蛍光X線分析はフィリップス社製波長分散型蛍光X線分析装置PW1404LSで行なった。

機器の使用条件はスカンジウム管球を用い、60kV、50mAで一次X線を発生させ、資料に照射し、二次X線を空気圧下でシンチレーションカウンタとガスフローカウンタの併用で測定した。測定範囲は10度から50度までで、25分かけて走査し、スペクトルを得た。

3 蛍光X線分析の結果

測定場所は顔前面と光背つけねのある背中部分の2ヵ所で、両箇所とも錆でかなり覆われており、金属部分は見えなかった。蛍光X線分析法では、表面約5~10マイクロメートルの深さまでの情報を得られるだけなので、測定された化学組成は、必ずしも本体組成を反映しているとはいえない。顔前面から得られたスペクトルを図1で示す。(東文研測定番号：XFL365) 顔の部分と背中部分では本質的に組成の違いは見られないので、顔の部分で代表した。

この図から判別できることは、銅が主成分で、かなりの量の砒素が含まれている。また鉛も多い。測定部分が錆で覆われていることから、錆に濃縮された両元素が強調されているかもしれないが、砒素と鉛は人為的に加えられている可能性が強い。他に微量のアンチモン、スズ、銀が含まれている。スズは含まれてはいるが、微量であり、スズを意図して加えてあるようには見えない。

鍍金部分からは金のピークが見え、水銀は見えない。一般的に、水銀による鍍金の場合、蛍光X線強度で金の約1/10程度の水銀が存在する。ここでは1/20も見えないので、水銀を使用していないかもしれない(但し、金の強度が弱いので、強くは言いきれない)。銀のピークが鍍金部分では、背中部分よりも強いので、金に銀が多少混じっていると思われる。金の強度が鍍金の面積に比して低いのは金の薄いことを意味しているかもしれない。

図1a 天部形立像の蛍光X線スペクトル

図1a 天部形立像の蛍光X線スペクトル (図1aを20倍に拡大)

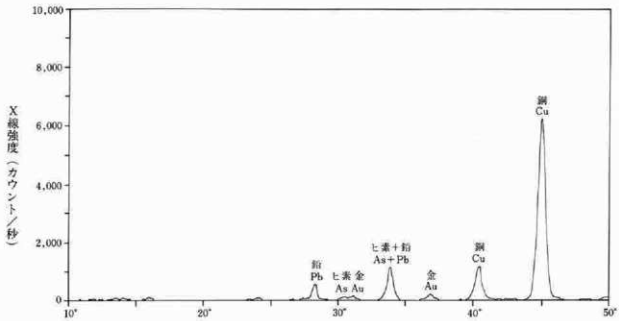


図1 a 天部形立像の蛍光X線スペクトル
角度(度)

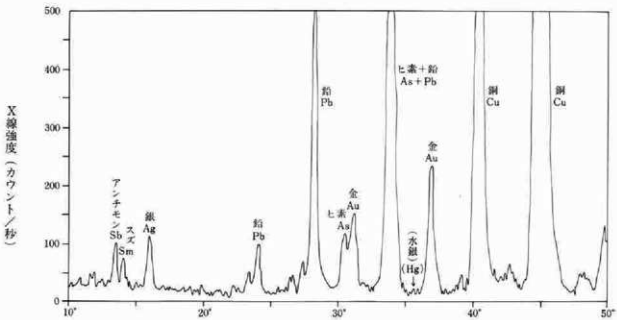


図1 b 天部形立像の蛍光X線スペクトル (図1 aを20倍に拡大)
角度(度)

第5章 有馬遺跡出土の陶磁器

大西 雅広

1 はじめに

有馬遺跡からは、中世を主体とした総数122点の陶磁器が出土している。資料の選択にあたっては、緑釉陶器と貿易陶磁は総てを、中世国産陶器と軟質陶器は体部細片を除き図化した。近世陶磁器は、表土出土の細片が殆どであるため遺存度の高い個体のみ選択した。なお、有馬遺跡出土陶磁器の内訳は表のとおりである。

2 古代陶磁器

出土地点の判明する緑釉陶器はすべてG区出土で、西半に集中している。唯一東寄りから出土している12は、細片である。G区西出土の緑釉陶器のうち115・116号住居、61G-22グリッドの間には接合関係があり、この付近での使用を示している。また、9(42G-02)と11(164号住居)は同一個体の可能性がある。緑釉陶器の特徴は9-11は胎土が硬質で濃緑色の釉を施し、器表にはヘラミガキ調整を行わない。14、15は同一個体の可能性が高く、胎土は淡黄色で軟質である。釉は黄緑色に近く、器表にはヘラミガキ調整を行っている。13は胎土はやや硬質であるが器表にはヘラミガキ調整を行ない、釉調も黄緑色がかっている。本遺跡出土の緑釉陶器は2箇所の製作地から供給されていたと考えられる。

G区北側遺構外からは、中国製白磁碗(8)が出土している。この白磁碗は、太宰府分類の白磁碗Ⅱ類に分類され、本県では越州窯系青磁以上に希少性の高い製品である。この白磁碗は、前代の緑釉陶器の集中傾向や10世紀の銅製小仏と共に古代末の有馬遺跡を考えるうえで重要な資料である。

3 中世陶磁器

中国製磁器は12世紀後半～13世紀前半の竜泉窯系刻花文青磁碗(1・6)、13世紀代の竜泉窯系鎮蓮弁文青磁碗(3・4)と15～16世紀の青磁碗(6)などは総てG区出土である。また、14世紀後半～15世紀の白磁皿・杯(28・29)はG区17号井戸、16世紀の白磁(7)はG区161号土坑から出土している。28・29の白磁は、量的には少ないものの県内各地から出土しており、県内に広く流通している。⁽²⁾中世陶磁器の主体は、在地製の内耳鍋と鏝鉢といった調理用具であり、使用痕も顕著であるうえ、2・9・17号井戸には石臼(粉挽き臼)が伴っている。これらは14～16世紀の所産と考えられ、同時期の飲食器である中国製磁器や瀬戸・美濃系施釉陶器、貯蔵容器の国内製焼締陶器も存在する。13世紀代の在地製軟質陶器は確認されないが、焼締陶器に13世紀代に属する可能性の高いものがあるうえ、竜泉窯系青磁碗がG区のみから出土していることから13世紀から16世紀の約300年間はG区西半以西が居住域となっていたと考えられる。

4 近世陶磁器

近世陶磁器は表土出土の細片が殆どで、遺構も検出されていない。このことから、調査区内に屋敷地は存在しなかった可能性が高い。

注

1 白磁碗Ⅱ類に先行する越州窯系青磁や白磁Ⅰ・Ⅱ類は、推定上野国府城や国分宮・尼寺中間地域を中心に出土量は増加しているが目録の確実な例は本遺跡が初例である。この時期の白磁は、一部の人名のみが所有したと考えられるため、古代末の有馬遺跡に有力者の居住

有馬遺跡出土陶磁器集計表(緑釉陶器は除く)

出土地点	陶磁器				不図磁器		小計	合計
	軟質陶器	国産陶器	中国製陶器	小計	陶磁器	小計		
1号井戸	2	0	0	2	0	0	2	
2号井戸	3	0	0	3	0	0	3	
7号井戸	1	0	0	1	0	0	1	
9号井戸	5	2	0	7	0	0	7	
10号井戸	9	3	0	12	1	0	13	
17号井戸	3	0	2	5	0	0	5	
18号井戸	4	0	0	4	0	0	4	
4号土坑	0	0	0	0	4	0	4	
22号土坑	0	0	0	0	1	0	1	
154号土坑	0	0	0	0	1	0	1	
157号土坑	0	1	0	1	0	0	1	
163号土坑	0	0	1	1	0	0	1	
308号土坑	2	1	0	3	0	0	3	
36～39E-30	0	1	0	1	0	0	1	
36～39F-30	0	1	0	1	0	0	1	
F区2層	0	1	0	1	0	1	2	
F区田々層	0	0	0	0	5	0	5	
G区田々層	0	1	0	1	0	0	1	
G区	0	0	7	7	0	0	7	
表	0	0	0	0	65	0	65	
総計	29	11	10	50	77	1	128	139

や10世紀代の割製小仏の存在から付近に寺院が存在し、この時期まで継続していた可能性も考えられる。有馬遺跡の付近には「有馬鹿寺」があるが、浜川市教育委員会の調査では8世紀代の瓦が確認されたのみであった。

- 2 森田 勉 「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究2』日本貿易陶磁研究会 1982 には「日本各地から出土の報告があることから、かなりの量が輸入されたことと思われる。」とされている。県内においてもこの種の白磁は、1遺跡からの出土量は少ないものの報告例は増加しており、本県にもかなりの量がもたらされていたと考えられる。

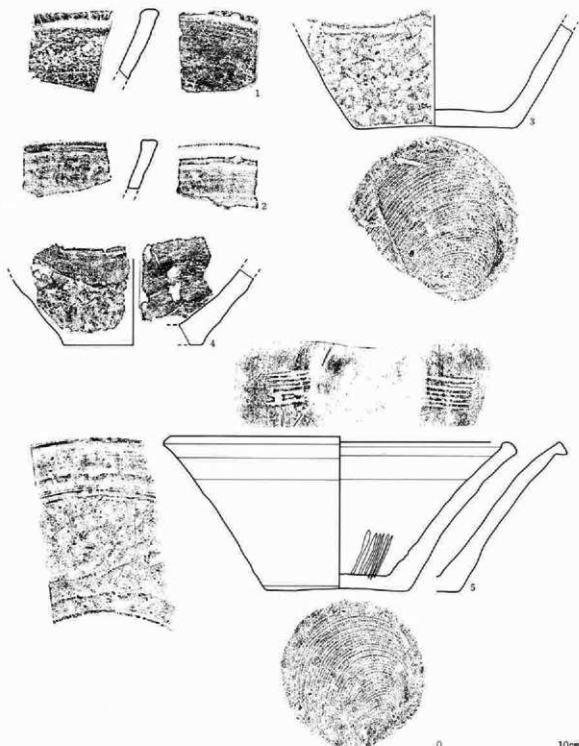


Fig.534 陶磁器(1)

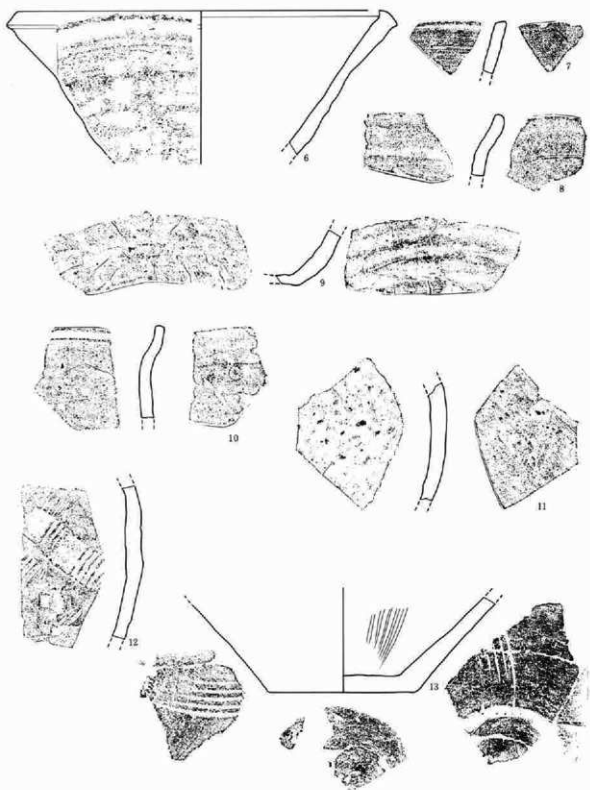


Fig.535 陶磁器(2)

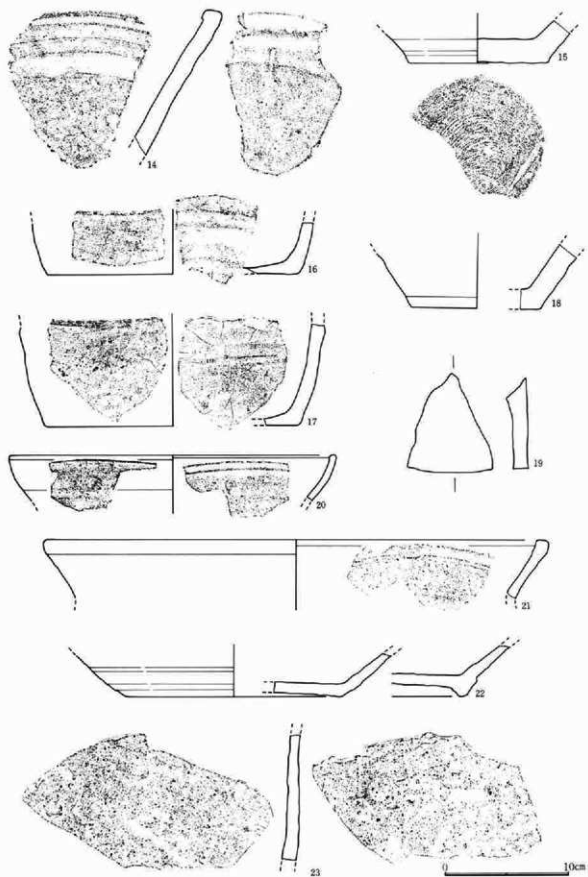


Fig.536 陶磁器(3)

第5章 有馬遺跡出土の陶磁器

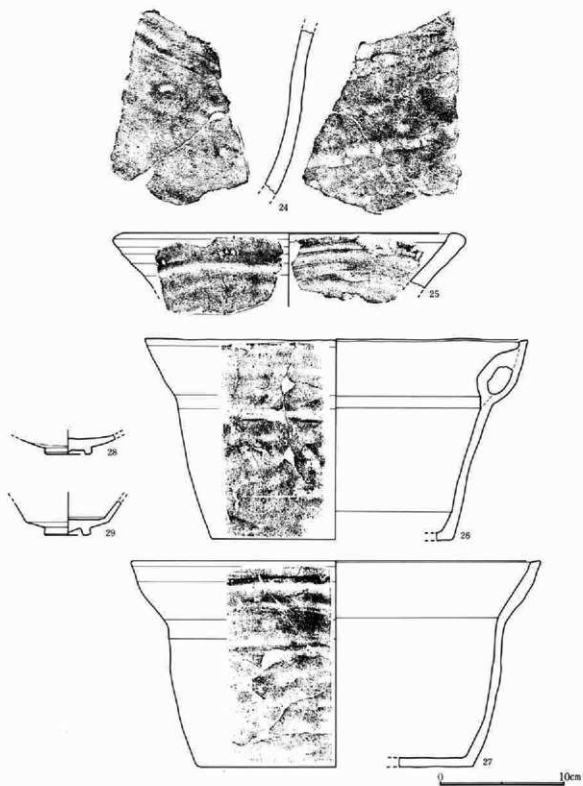


Fig.537 陶磁器(4)

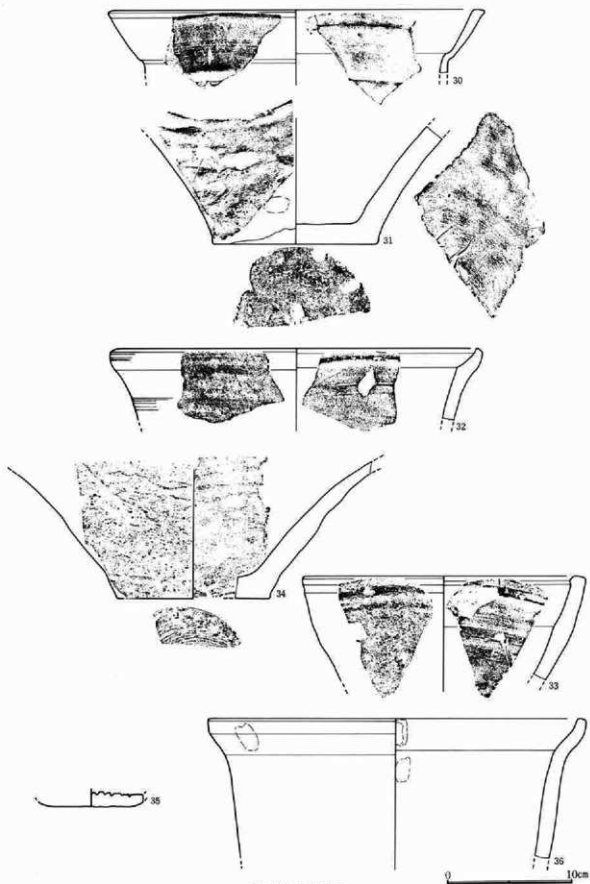


Fig.538 陶磁器(5)

第5章 有馬遺跡出土の陶磁器

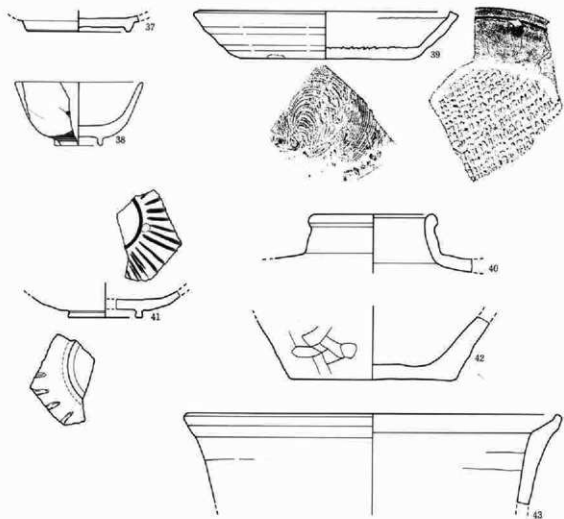


Fig.539 陶磁器(6)

0 10cm

青磁・白磁・緑釉陶器

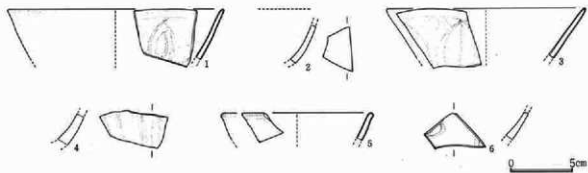


Fig.540 青磁・白磁・緑釉陶器(1)

0 5cm

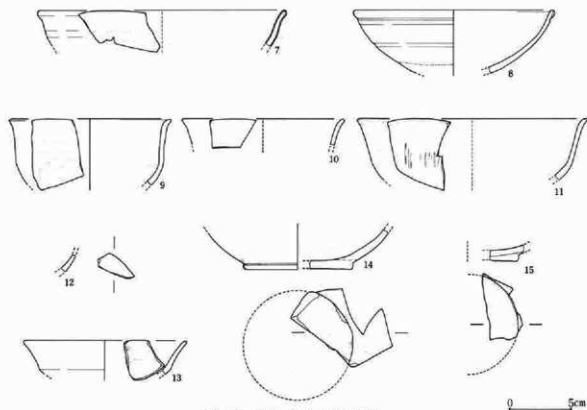


Fig.541 青磁・白磁・緑釉陶器(2)

有馬遺跡出土陶磁器観察表(1)

番号	器種・種別	出土位置	口径・底径・器高	胎土の特徴	器形などの特徴	軸画・絵付けなどの特徴	備考
1	瀬 鉢 軟質陶器	1号井戸	-×-×-	灰黄色。	口縁端部は丸みを帯び、内に小さく折り返す。		在地製。 15C。
2	瀬 鉢 軟質陶器	1号井戸	-×-×-	器表は灰黒色。断面は灰色。	口縁端部は平坦で、内側に小さく折り返す。		在地製。 15C。
3	瀬 鉢 軟質陶器	2号井戸	-×(12.7)×-	褐灰色。白色砂を多量に含む。	底部外面は左回転糸切り。底部周縁と体部下位は、使用により摩滅する。		在地製。 14~16C。
4	瀬 鉢 軟質陶器	2号井戸	-×(11.0)×-	灰白色。白色砂を多量に含む。	体部外面下縁はヘラナデ。内面は使用により摩滅する。		在地製。 15~16C。
5	瀬 鉢 軟質陶器	7号井戸	28.0×11.5×12.0	器表は灰色。断面は灰白色。白色砂を含む。	体部は外反する。内面に6本1単位の欄目を4箇所に施す。片口を1箇所造る。口縁端部内面と底部周縁・体部下位内面は、使用により摩滅する。		在地製。 16C前半。
6	瀬 鉢 軟質陶器	2号井戸	31.0×-×-	灰色。白色砂を多量に含む。	口縁部はヨコナデ調整。体部内面の器表は剝離する。		在地製。 15C。
7	内 耳 鍋 軟質陶器	9号井戸	-×-×-	器表は黒灰色。断面は褐色。	口縁端部は平坦。		在地製。15C 後半~16C。
8	内 耳 鍋 軟質陶器	9号井戸	-×-×-	器表は黒灰色。断面は灰白色。白色砂を少量含む。	口縁部はヨコナデ調整を行う。		在地製。 14~15C。
9	火 鉢 軟質陶器	9号井戸	-×-×-	にぶい赤褐色。	体部外面下縁はヘラナデ調整を行う。		在地製。 15~16C。
10	内 耳 鍋 軟質陶器	9号井戸	-×-×-	器表は褐色。断面は灰白色。白色砂を少量含む。	口縁部はヨコナデ調整を行う。口縁端部は平坦。		在地製。 14~15C。
11	壺 焼締陶器	9号井戸	-×-×-	器表は黒灰色。断面は灰白色。粘土が縮状をなす。		外面上部に灰釉が掛かる。	常滑系。 14~15C。

第5章 有馬遺跡出土の陶磁器

有馬遺跡出土陶磁器観察表(2)

番号	器種・種別	出土位置	口径・底径・器高	胎土の特徴	器形などの特徴	胎調・絵付けなどの特徴	備考
12	壺 焼締陶器	9・10号 井戸	-×-×-	灰白色。白色鉱物粒を含む。		体部上半に自然釉が掛かる。	製作地不詳。中世。
13	罎 鉢 軟質陶器	9号井戸	-×(10.7)×-	灰色。白色砂を多量に含む。	内面に5本単位の耀目を施す。体部外面下縁にヘラケズリを行う。底部内面周縁と体部内面下位は、使用により摩滅する。		在地製。16C。
14	罎 鉢 軟質陶器	10号井戸	-×-×-	器表は黒褐色。断面はよい褐色。	口縁部内面を内側に小さく折り返す。体部内面下位は使用により摩滅する。		在地製。15C後半～16C前半。
15	罎 鉢 軟質陶器	10号井戸	-×10.9×-	よい黄褐色。	底部外面左回転未切り。底部周縁と体部内面下位は使用により摩滅する。		在地製。15～16C。
16	内耳 鍋 軟質陶器	10号井戸	-×(20.0)×-	器表は黒褐色。断面は灰白色。			在地製。15～16C。
17	内耳 鍋 軟質陶器	10号井戸	-×(20.0)×-	器表は黒灰色。断面は灰白色。	体部外面下縁はヘラナゲ調整を行う。		在地製。15～16C。
18	罎 鉢 軟質陶器	10号井戸	-×(10.0)×-	灰白色。	内面に5本単位の耀目を施す。内面は使用により摩滅する。		在地製。15～16C。
19	壺 焼締陶器	10号井戸	-×-×-	赤灰色。		無釉。	常滑系。14～15C。
20	内耳 鍋 軟質陶器	10号井戸	(26.0)×-×-	褐色。	口縁部は内湾する。器壁は薄い。		在地製。15C後半～16C前半。
21	内耳 鍋 軟質陶器	10号井戸	(40.0)×-×-	灰色。白色砂を含む。	口縁部は外反する。口縁端部はヨコナゲ調整。		在地製。16C。
22	灰 輪 鉢 陶器	10号井戸	-×(17.0)×-	淡黄色。	底部周縁と体部下縁はヘラケズリを行う。脚を貼り付ける。	内面から体部下位まで灰釉を施す。	瀬戸・美濃系。15～16C。
23	壺 焼締陶器	10号井戸	-×-×-	褐色。			製作地不詳。中世。
24	罎 鉢 軟質陶器	10号井戸	-×-×-	器表は黒褐色。断面はよい褐色。	体部外面下縁はヘラケズリを行う。		在地製。15～16C。
25	罎 鉢 軟質陶器	10号井戸	(26.3)×-×-	器表は黒褐色。断面はよい赤褐色。	口縁部は内側に小さく折り返す。		在地製。16C前半。
26	内耳 鍋 軟質陶器	17号井戸	30.4×(19.2)×15.8	よい褐色。	口縁部は外反する。体部外面に保付着。		在地製。16C。
27	内耳 鍋 軟質陶器	17号井戸	(32.3)×(21.8)×16.2	器表は黒褐色。断面は褐色。	口縁部は外反する。体部下位から口縁部外面には保付着する。		在地製。16C。
28	白磁 皿	17号井戸	-×3.7×-	淡黄色。焼成不足。	削り出し高台。	細かい買入の入る白磁釉を施す。高台部以下は無釉。	中国製。16C。
29	白磁 椀	17号井戸	-×(3.7)×-	淡黄色。焼成不足。	削り出し高台。	細かい買入の入る白磁釉を施す。高台部以下は無釉。	中国製。16C。
30	内耳 鍋 軟質陶器	17号井戸	(30.0)×-×-	灰色。	口縁部は外反し。内面には段を有する。		在地製。15C。
31	罎 鉢 軟質陶器	18号井戸	-×(13.0)×-	よい赤褐色。	内面は使用により摩滅する。		在地製。15～16C。
32	内耳 鍋 軟質陶器	18号井戸	(28.7)×-×-	灰白色。	外面には保付着する。		在地製。15C。
33	罎 鉢 軟質陶器	18号井戸	(22.4)×-×-	器表・断面中央は黒灰色。器表付泥は灰白色。	口縁端部は小さく内面に折り曲げる。体部内面は使用により摩滅する。		在地製。16C前半。
34	罎 鉢 軟質陶器	18号井戸	-×-×-	器表は黒灰色。断面はよい褐色。	体部下縁はヘラナゲ調整。		在地製。15～16C。
35	おろし 皿 土 器 瓦	157号土	-×(6.6)×-	灰白色。	内面に櫛状工具でおろし目を施す。底部外面は回転未切り。	無釉。	瀬戸・美濃系。15～17C。

有馬遺跡出土陶磁器観察表(3)

番号	器種・種別	出土位置	口径・底径・器高	胎土の特徴	器形などの特徴	釉面・絵付けなどの特徴	備考
36	内耳 銅 炊 買 陶 器	308号土坑	(30.4)×××	胎土の特徴 器表は灰白色。断面はふい橙色。	器形などの特徴 口縁部は短く外反した後、肩部は内傾する。外面には僅が付着する。	釉面・絵付けなどの特徴	備考 在地製。 14~15C。
37	志野丸皿 陶 器	F区II層	×(8.6)×	灰白色。	高台は遊台形を呈する。	志野釉を厚く施す。粗い貫入が入る。	瀬戸・美濃系。 17C。
38	染付陶器 磁 器	36~39E 30	(10.2)×(3.8)× 5.0	灰白色。		外面に草花を描く。呉須は暗青灰色に発色する。	伊万里系。 18C。
39	灰釉おろし皿 陶 器	G区IIIa層	(21.0)×(13.2)× 3.8	灰白色。	底部は右回転糸切り。底部内面には5本単位の柳状工具でおろし目を施す。	粗い貫入の入る灰釉を施す。底部外面は無釉。	瀬戸・美濃系。 16C。
40	壺 洗鉢陶器	308号土坑	(9.8)×××	褐色。	頸部はやや内傾し、口縁部は外方に折り返す。	外面には自然釉が掛かる。	製作地不詳。 15~16C。
41	灰釉菊皿 陶 器	36~38F 30	×(5.8)×	淡黄色。	内外面に丸ノミで花卉を表す。張り付け高台。	灰釉を施す。内面に細かい貫入が入る。高台脇以下無釉。	瀬戸・美濃系。 17C。
42	唐 鉢 炊 買 陶 器	鉢表土	×(13.2)×	灰色。白色鉱物粒を多く含む。	底部外面は左回転糸切り。底部中央と底部と体部の境を削ぎ、使用により摩滅する。		在地製。 15~16C。
43	内耳 銅 炊 買 陶 器	308号土坑	(30.3)×××	灰白色。白色鉱物粒を多く含む。暗赤色粘土粒を少量含む。	器表は厚い。口縁部は外反し、肩部は僅かに直立する。		在地製。 14C。

青磁・白磁・緑釉陶器観察表

番号	器種・種別	出土位置	口径・底径・器高	胎土の特徴	器形などの特徴	釉面・絵付けなどの特徴	備考
1	龍泉窯系青磁碗	G区南	(17.3)×××	灰色。磁化していない。	内面に片切り彫りで花卉を描く。外面は無文。	粗い貫入の入る青磁釉を施す。	中国製。 12C中頃~13C前半。
2	龍泉窯系青磁碗	G区北	××××	灰白色。		青磁釉を施す。外面のみ粗い貫入が入る。	中国製。 13~14C。
3	龍泉窯系青磁碗	G区表土	(16.6)×××	灰白色。	外面に、片切り彫りで縁蓮弁文を描く。開弁を有する。	青磁釉を施す。	中国製。 13C。
4	龍泉窯系青磁碗	G区南	××××	灰白色。	外面に、片切り彫りで縁蓮弁文を描く。	青磁釉を施す。	中国製。 13C。
5	龍泉窯系青磁碗	G区表土	(12.6)×××	灰白色。	口縁部は丸みを有する。	青磁釉を施す。外面には粗い貫入が入る。	中国製。 14~15C。
6	龍泉窯系青磁碗	G区南	××××	灰白色。	内面には、片切り彫りで蓮弁文を施す。	青磁釉を施す。	中国製。 12C中頃~13C前半。
7	白 磁 皿	161号土坑	(20.6)×××	灰白色。粗い。	口縁部は外反する。外面は口縁部下までヘラケズリを行う。	灰色を帯びた白磁釉を施す。	中国製。 16C。
8	白 磁 碗	G区北	(16.6)×××	灰白色。	口縁部は小さい玉縁をなす。体部外面中位以下はヘラケズリを行う。	黄色味を帯びた白磁釉を施す。高台脇以下は無釉。	中国製。 11C後半~12C前半。
9	緑釉陶器碗	45G-62 III b層	(13.6)×××	灰色。硬質。細砂粒を少量含む。	体部は屈曲し、口縁部は外反する。体部下位以下はヘラケズリを行う。	光沢のある鉛緑釉を施す。	
10	緑釉陶器碗	164号住居	(12.8)×××	灰色~灰白色。硬質。	体部は屈曲し、口縁部は外反する。体部下位以下はヘラケズリを行う。	光沢のある鉛緑釉を施す。	11と同一個体か。
11	緑釉陶器碗	G区北西側道	(18.2)×××	灰色~灰白色。硬質。	口縁部は外反する。ヘラミガキ調整は行わない。	光沢のある緑釉を薄く施す。	10と同一個体か。
12	緑 釉 陶 器 碗?	189号住居掘り方	××××	灰白色。硬質。	ヘラミガキ調整の有無は不明。	光沢のある緑釉を施す。	
13	緑釉陶器皿表裏	(13.6)×××	(13.6)×××	灰色。硬質。	体部は屈曲し、口縁部は外反する。口縁部内面に陰刻花文を描く。ヘラミガキ調整を施す。	光沢のある緑釉を施す。	

第5章 有馬遺跡出土の陶磁器

番号	器種・種別	出土位置	口径・底径・器高	胎土の特徴	器形などの特徴	釉調・絵付けなどの特徴	備考
14	緑釉陶器瓶	115・120 号住居、 61G-25	-×(8.6)×-	淡黄色。軟質。	体部は外方に広く開く。器 面調整は丁寧である。	淡い緑釉を外面に施す。	15と同一個体 か。
15	緑釉陶器瓶	115・120 号住居	-×-×-	淡黄色。軟質。	体部は外方に広く開く。器 面調整は丁寧である。	淡い緑釉を外面に施す。	14と同一個体 か。

表採遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②胎土 ③色調 ④残存
542-1 155	灰釉陶器 皿	口-13.2 高-3.5 底-5.7		内外面口縁部に施釉口縁部外側へ屈曲する底部 回転糸切付高台	①良好②灰白色③密④完形
542-2 155	灰釉陶器 埴	口-15.2 高-5.2 底-7.0		底部回転糸切付高台腰部から弱い内湾で立ち上 がる	①良好②灰白色③密④残 存
542-3 155	灰釉陶器 埴	口-13.1 高-4.0 底-6.7		底部回転調整口縁部内外面施釉つがけ口縁部 外側へ屈曲する	①良好②灰白色③密④ほ ぼ完形
542-4 155	須恵器 坏	口-14.0 高-3.8 底-6.4		底部回転糸切付廻り口縁部弱く外湾	①良好②灰色③細砂粒含む ④残存
542-5 155	須恵器 坏	口-11.0 高-3.5 底-5.5		底部回転糸切付廻り口縁部弱く外反する	①良好②にぶい褐色③密 ④残存
542-6 155	須恵器 埴	口-12.0 高-5.5 底-6.5		付高台口縁部直線状に外傾する	①良好②にぶい褐色③1 ~2mmの砂粒含む④残存
542-7 155	須恵器 埴	底-6.5		付高台底部回転糸切付高台薄くハの字状に開く	①良好②にぶい黄褐色③密 ④底部残存
542-8	須恵器 埴	口-10.5 高-5.0 底-7.0		底部回転糸切付高台口縁部直線状に外傾する	①良好②灰色③密④残存
542-9 155	須恵器 長頸壺			刺突文巡る	①良好②灰色③密④破片
542-10 155	須恵器 坏	口-13.0 高-3.4 底-6.6		底部回転糸切付口縁部弱く外湾する	①良好②灰色③密④残存

表探遺物

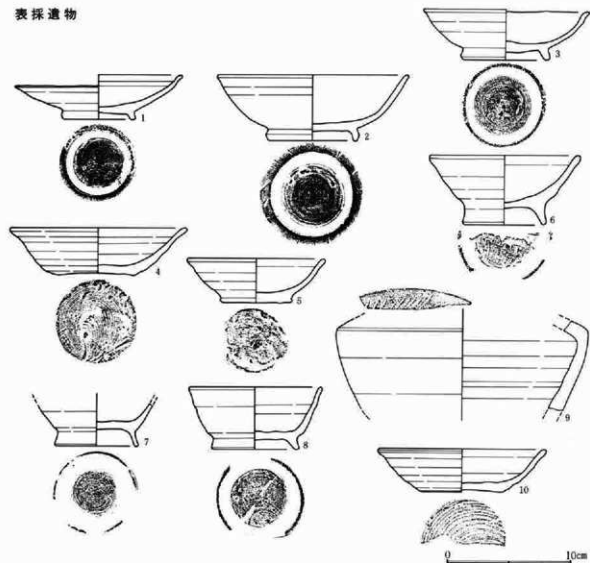


Fig.542 表探遺物

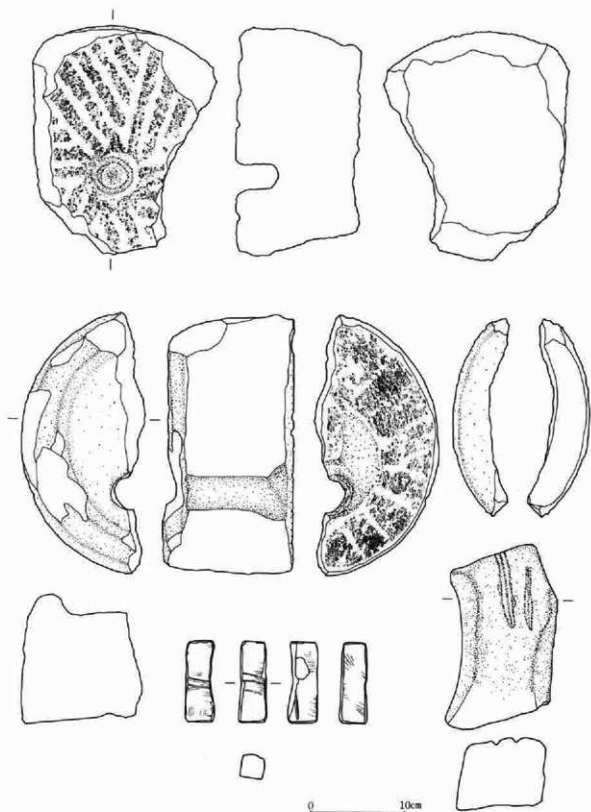


Fig.543 表採遺物

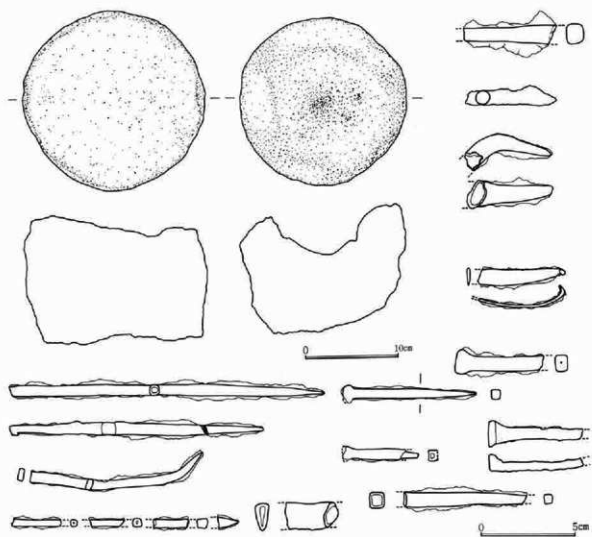


Fig.544 表採遺物

大久保B遺跡

第1章 検出された遺構と遺物

第1節 竪穴住居跡

1号住居跡 (Fig. 545・546・547, PL. 157・161)

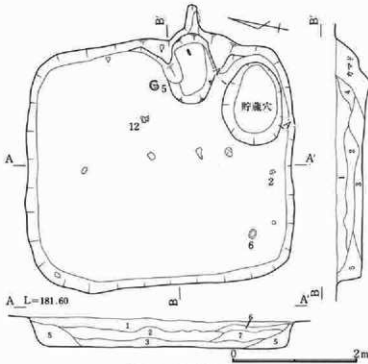


Fig.545 1号住居跡

B区北部に位置し52~54B41~43の範囲にある。2号住居跡の北にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺4.4m、短辺4.1mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約30cm~40cmを測る。主軸方位はN-82°-Eである。床面は平坦をなし、南東コーナーに貯蔵穴が検出された。規模は約1.2m×90cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。規模は袖幅約80cm、燃焼部幅約1mを測る。袖部は地山が掘り残されて検出された。

1号住居跡

- 1 暗褐色土層 軽石を少量含む
- 2 暗褐色土層 軽石多量、焼土少量含む
- 3 暗褐色土層
- 4 暗褐色土層 軽石多量を含む
- 5 暗褐色土層 軽石を少量含む
- 6 暗褐色土層 焼土を多量を含む
- 7 暗褐色土層 軽石を含む

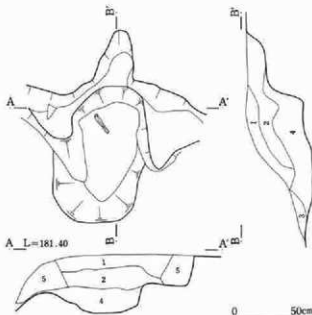


Fig.546 1号住居跡竈



1号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 軽石を少量含む
- 2 暗褐色土層 焼土を含む
- 3 暗褐色土層 焼土粒、炭化物を多量を含む
- 4 暗褐色土層 焼土を多量を含む
- 5 暗褐色土層 軽石を多量を含む

第1章 検出された遺構と遺物

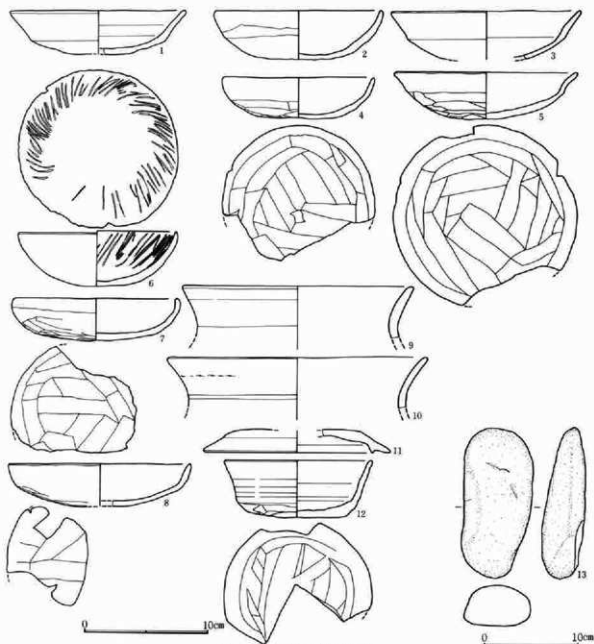


Fig.547 1号住居跡出土遺物

第1号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
547-1 161	土器器 杯	口-13.8 高-3.5	覆土	口縁部ヨコナダ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部横をもち外傾する	①良好②よい橙色③1~2mmの砂粒含む④残存
547-2 161	土器器 杯	口-13.0 高-3.85	No.2	口縁部ヨコナダ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部内湾ぎみに立ち上がる	①良好②よい橙色③1~2mmの砂粒含む④残存
547-3 161	土器器 杯	口-15.0	覆土	口縁部ヨコナダ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部横をもち外傾する	①良好②よい橙色③1~2mmの砂粒含む④残存
547-4 161	土器器 杯	口-12.1 高-3.4	覆土	口縁部ヨコナダ体部ヘラケズリ体部口縁部の間開いた内面ナデ口縁部直立き	①良好②褐色③細砂粒含む④残存
547-5 161	土器器 杯	口-14.4 高-3.7	No.5	口縁部ヨコナダ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部横をもち外傾する	①良好②褐色③細砂粒含む④ほぼ完形
547-6 161	土器器 杯	口-12.5 高-4.35 底-2.1	No.6	口縁部ヨコナダ体部開いたヘラケズリ内面暗文口縁部内湾して立ち上がる	①良好②よい橙色③細砂粒含む④完形

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
547-7 161	土器 器形	口-12.8 高-3.3	覆土	口縁部ココナデ体部ヘラズリ口縁部体部の間弱いナゲ口縁部直立ぎみ	①良好②ぶい橙色③細砂粒含む④残存
547-8 161	土器 器形	口-14.4 高-3.4	覆土	口縁部ココナデ体部ヘラズリ内面ナゲ口縁部直縁状に外傾する	①良好②ぶい橙色③細砂粒含む④残存
547-9	土器 器形	口-16.2	覆土	口縁部ココナデ口縁部外反する	①良好②淡黄褐色③細砂粒含む④口縁部破片
547-10	土器 器形	口-20.4	覆土	口縁部ココナデ口縁部外反する	①良好②ぶい橙色③細砂粒含む④口縁部破片
547-11 161	土器 器形	口-14.6	覆土	外面回転ヘラ調整内面返りをもつ	①良好②灰白色③密④破片
547-12 161	土器 器形	口-11.6 高-4.5 底-4.5	No12	底部ヘラズリ口縁部直縁状に外傾する	①良好②灰色③密④残存

Fig. 547-13 PL. 161 石 長-15.9cm 幅-7.6cm 厚-4.5cm 砂岩

2号住居跡 (Fig. 548・549・550・551・552, PL. 157・161・162・163・164)

B区北部に位置し50~52 B.36~39の範囲にある。1号住居跡の南にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺5.9m、短辺4.8mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約50cm~70cmを測る。主軸方位はN-73°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・柱穴・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。電は東壁南寄りに検出された。規模は、燃焼部幅約80cm、同長約40cm、煙道部長約1mを測る。電前面上には広い範囲で焼土が散布した状態で検出された。燃焼部中央、煙道部先端煙り出し部から土器片が集中して検出された。

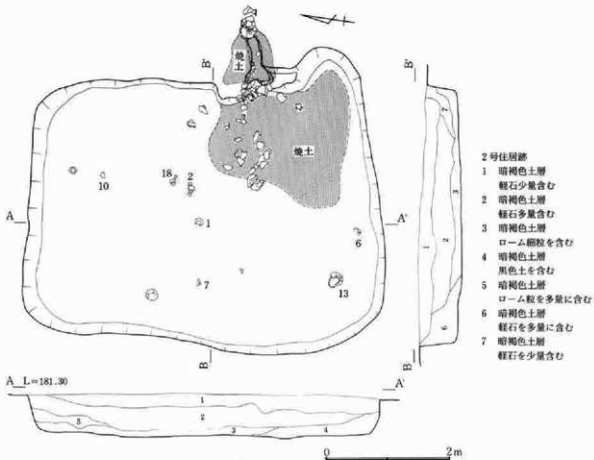
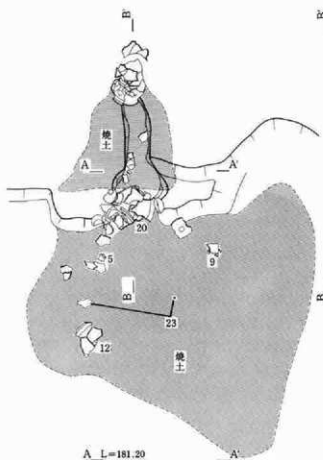


Fig.548 2号住居跡

第1章 検出された遺構と遺物



- 2号住居跡電
- 1 暗褐色土層
 - 2 暗褐色土層 ローム粒を含む
 - 3 暗褐色土層 焼土粒少量含む
 - 4 暗褐色土層 焼土を多量に含む
 - 5 焼土ブロックを主体とする層

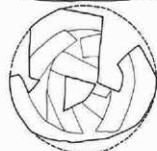
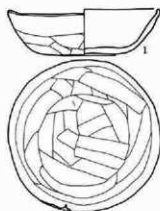


Fig.549 2号住居跡電

0 50cm

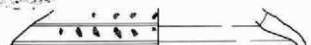
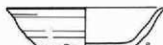
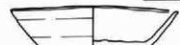


Fig.550 2号住居跡出土遺物(1)

0 10cm

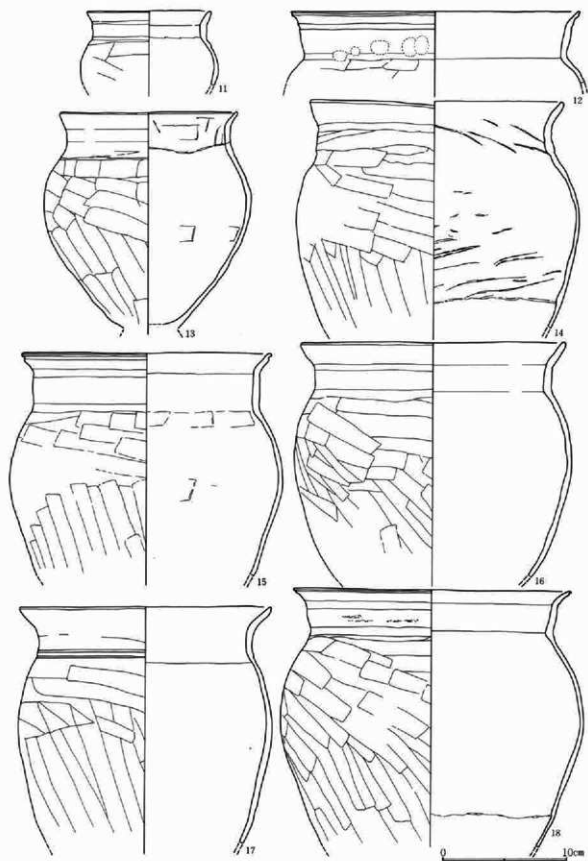


Fig.551 2号住居跡出土遺物(2)

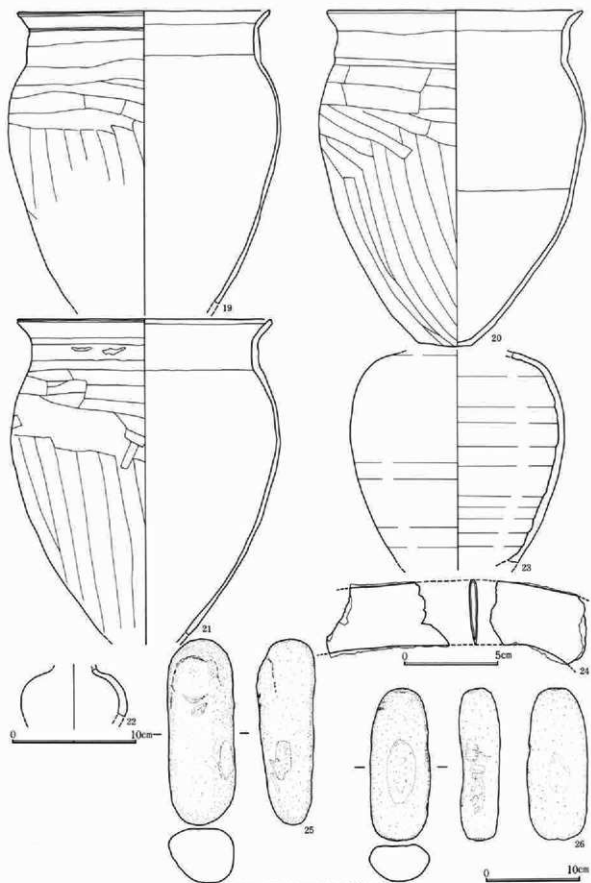


Fig.552 2号住居跡出土遺物(3)

第2号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値 (cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①構成 ②色調 ③胎土 ④残存
550-1 161	土師器 環	口-12.2 高-3.7	No.1	口縁部ヨコナデ体部側面ナダ底部ヘラズリ内面ナダ口縁部内側へ内屈する	①良好②ぶい褐色③1~2mmの砂粒含む④完形
550-2 161	土師器 環	口-11.6 高-2.8	No.2	口縁部ヨコナデ体部ヘラズリ内面ナダ口縁部直線状に外屈し端部弱く外反する	①良好②ぶい褐色③細砂粒含む④残存
550-3 161	須恵器 蓋		覆土	内湾しながら開く	①良好②褐色③密④破片
550-4 161	須恵器 皿	口-16.1 高-3.1 底-7.1	覆土	底部回転糸切り廻り	①良好②褐色③1~5mmの砂粒含む④残存
550-5 161	須恵器 環	口-13.6 高-3.9 底-6.8	No.5	底部回転糸切り廻り端部から内湾ぎみに立ち上がり口縁部弱く外反する	①良好②褐色③2~3mmの砂粒含む④残存
550-6 161	須恵器 蓋	口-18.4 高-4.3	No.6	外面回転ヘラ調整端部内曲するつまみ部糸切り痕残る	①良好②灰白色③細砂粒含む④完形
550-7 161	須恵器 環	口-13.3 高-3.6 底-7.2	No.7	底部回転糸切り廻り口縁部直線状に外傾する	①良好②褐色③密④残存
550-8 161	須恵器 環	口-12.6 高-3.4 底-7.5	覆土	底部回転糸切り廻り口縁部弱く外反する	①良好②灰白色③細砂粒含む④残存
550-9 161	須恵器 蓋	口-15.2 高-2.4	No.9	上面回転糸切り廻り	①良好②灰白色③2~3mmの砂粒含む④残存
550-10 162	須恵器 長頸壺		No.10	肩部刺突文沈線が通る	①良好②褐色③密④破片
551-11 162	土師器 壺	口-9.8	覆土	口縁部ヨコナデ胴部ヘラズリ内面ナダ口縁部コの字状を呈する	①良好②赤褐色③細砂粒含む④残存
551-12 162	土師器 壺	口-22.8	No.12	口縁部ヨコナデ胴部ヘラズリ頸部指頭内面ナダ口縁部コの字状を呈する	①良好②ぶい褐色③細砂粒含む④口縁部残存
551-13 162	土師器 台付壺	口-14.1	No.13	口縁部ヨコナデ胴部ヘラズリ内面ナダ口縁部にヘラ痕口縁部外反する	①良好②ぶい褐色③細砂粒含む④台部欠損
551-14 162	土師器 壺	口-20.2	覆土	口縁部ヨコナデ胴部ヘラズリ内面ナダヘラ痕口縁部だれたコの字状を呈する	①良好②赤褐色③細砂粒含む④残存
551-15 162	土師器 壺	口-20.0	覆土	口縁部ヨコナデ底部沈線通る胴部ヘラズリ内面ナダヘラ痕残る	①良好②褐色③細砂粒含む④残存
551-16 162	土師器 壺		覆土	口縁部ヨコナデ胴部ヘラズリ内面ナダ口縁部コの字状を呈する	①良好②赤褐色③細砂粒含む④残存
551-17 162	土師器 壺	口-20.0	覆土	口縁部ヨコナデ胴部ヘラズリ内面ナダ口縁部コの字状を呈する	①良好②赤褐色③細砂粒含む④残存
551-18 163	土師器 壺	口-22.0	No.18	口縁部ヨコナデ胴部ヘラズリ内面ナダ口縁部コの字状を呈す端部外屈する	①良好②ぶい褐色③細砂粒含む④残存
552-19 163	土師器 壺	口-20.2	覆土	口縁部ヨコナデ胴部ヘラズリ内面ナダ口縁部コの字状を呈する	①良好②赤褐色③細砂粒含む④残存
552-20 163	土師器 壺	口-20.3 高-26.5 底-4.4	No.20	口縁部ヨコナデ胴部ヘラズリ内面ナダ口縁部コの字状を呈する	①良好②赤褐色③細砂粒含む④完形
552-21 164	土師器 壺	口-20.2	覆土	口縁部ヨコナデ胴部ヘラズリ内面ナダ口縁部コの字状を呈する	①良好②赤褐色③細砂粒含む④残存
552-22 162	須恵器 小壺		覆土		①良好②黒褐色③細砂粒含む④肩部破片
552-23 163	須恵器 壺		No.23	内湾ぎみに立ち上がる	①良好②褐色③密④破片
Fig. 552-24 PL. 163	鉄製品	長-11.5cm 厚-4mm 鏢			
Fig. 552-25 PL. 163	石	長-19.6cm 幅-7.1cm 厚-6.2cm 凸ん岩			
Fig. 552-26 PL. 163	石	長-16.0cm 幅-6.4cm 厚-3.85cm 粗粒安山岩			

3号住居跡 (Fig. 553・554・555, PL. 157・164)

B区北東部に位置し43~45B48~50の範囲にある。1・2号住居跡の東にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺4.2m、短辺3.7mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約10cm~20cmを測る。主軸方位はN-84°Eである。床面は平坦をなし、南西コーナーに小穴が検出された。規模は径約50cm、深さ約30cm~40cmを測る。竈は南東コーナーに検出された。規模は燃焼部幅約80cm、同長約70cmを測る。

第1章 検出された遺構と遺物



Fig.553 3号住居跡

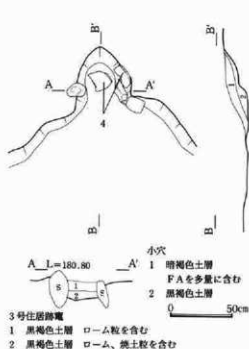


Fig.554 3号住居跡

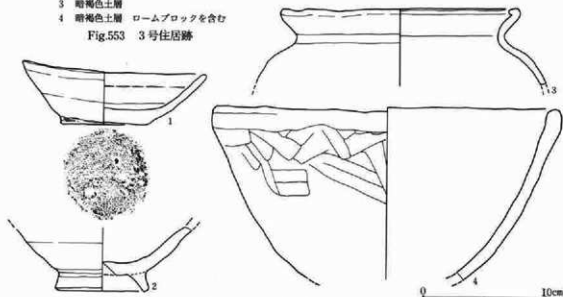


Fig.555 3号住居跡出土遺物

第3号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
555-1 164	土師器 坏	口-14.7 高-4.2 底-6.8	覆土	底部回転糸切	①良好②によい橙色③2 ~3mmの砂粒含む④残存
555-2 164	土師器 埴	底-7.4	覆土	底部回転糸切付高台への字状に開く	①良好②によい橙色③細砂 粒含む④残存
555-3 164	須恵器 罍	口-19.0	覆土	口縁部ヨコナデ内外面ヘラナデ口縁部内側に屈 曲する	①良好②灰白色③細砂粒含 む④口縁部残存
555-4 164	土師器 鉢	口-27.2	No.4	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部肥 厚し立ち上がる	①良好②赤褐色③5~6mm の砂粒含む④残存

4号住居跡 (Fig. 556・557・558・559, PL. 157・158・164・165)

B区中央部に位置し15~18B22~24の範囲にある。6号住居跡の東にある。他の遺構との重複はなく南東コーナーは調査区域外、西部の一部には電信柱があり、未発掘である。規模は長辺5.2m、短辺4.7mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-88°-Eである。床面は平坦をなし、北半部に柱穴が2基検出された。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約70cm、同長60cmを測る。

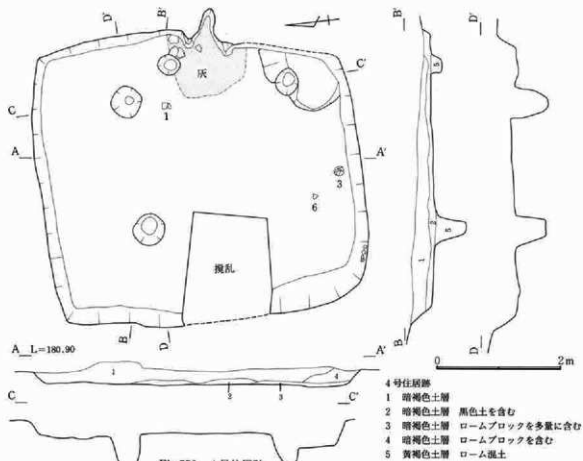


Fig.556 4号住居跡

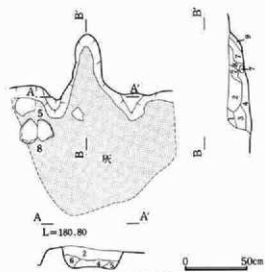


Fig.557 4号住居跡竈

4号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 焼土粒を含む
- 2 赤褐色土層 焼土粒、焼土ブロックを含む
- 3 黒褐色土層 焼土粒、炭化物を少量含む
- 4 暗褐色土層 焼土粒、黒色灰を含む
- 5 暗褐色土層 焼土粒を少量含む
- 6 黒褐色土層 黒色灰を多量に含む
- 7 赤褐色土層 焼土ブロック
- 8 暗褐色土層 焼土粒を多量に含む
- 9 黄褐色土層 ローム粒を多量に含む

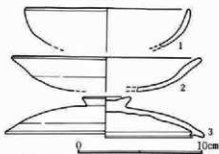


Fig.558 4号住居跡出土遺物(1)

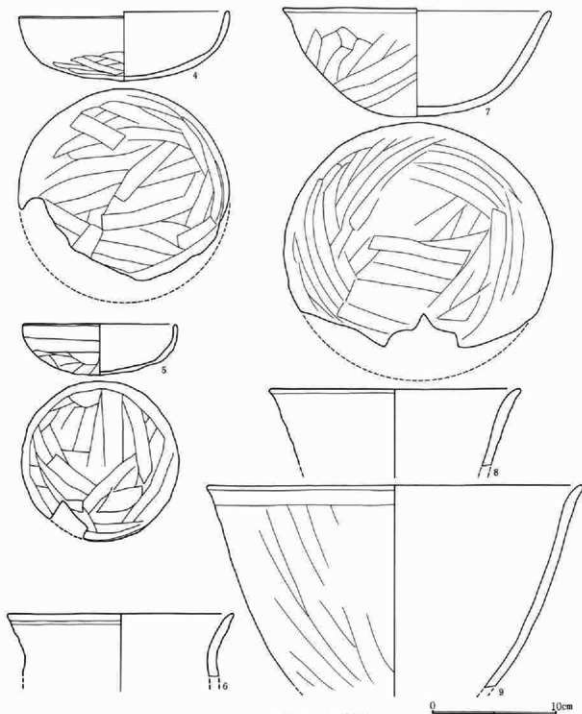


Fig.559 4号住居跡出土遺物(2)

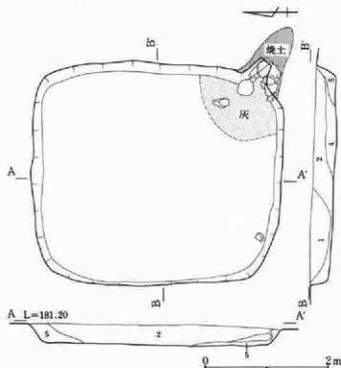
第4号住居跡出土遺物観察表

Fig. No Plt. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
558-1 164	土師器 杯	口-12.8	No 1	口縁部ヨコナデ口縁部体部の境弱いナデ内面ナデ口縁部直立ぎみ	①良好②よい褐色③細砂粒含む④口縁部破片
558-2 164	土師器 杯	口-14.8	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部様をもち外反する	①良好②褐色③細砂粒含む④口縁部破片
558-3 164	須恵器 蓋	口-3.7 高-3.2 底-15.7	No 3	外面回転ヘラ調整内面返りをもつ	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④完形
559-4 164	土師器 杯	口-16.6 高-5.5	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部内潤して立ち上がる	①良好②よい褐色③細砂粒含む④片残存

Fig. No PL. No	器 種 器 形	計 測 値 (cm)	出土位置	成 形 及 び 調 整 の 特 徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
559-5 164	土師器 坏	口-12.2 高-4.0	No 5	口縁部ヨコナゲ体部ヘラケズリ口縁部と体部の境 面いナゲ内面ナゲ	①良好②褐色③細砂粒含む ④ほぼ完形
559-6 165	土師器 壺	口-17.8	No 6	口縁部ヨコナゲ口縁部外反する	①良好②よい褐色③細砂 粒含む④口縁部破片
559-7 165	土師器 鉢	口-21.2 高-8.5	覆 覆 土	口縁部ヨコナゲ体部ヘラケズリ内面ナゲ口縁部や や外反する	①良好②よい褐色③細砂 粒含む④残存
559-8 164	土師器 鉢	口-19.8	No 8	口縁部ヨコナゲ体部ヘラナゲ内面ナゲ口縁部短く 外側へ屈曲する	①良好②よい褐色③細砂 粒含む④口縁部破片
559-9 165	土師器 鉢	口-29.8	覆 覆 土	口縁部ヨコナゲ体部ヘラナゲ内面ナゲ口縁部弱く 外反する	①良好②黒褐色③1~2mm の砂粒含む④口縁部破片

5号住居跡 (Fig. 560・561・562, PL. 158)

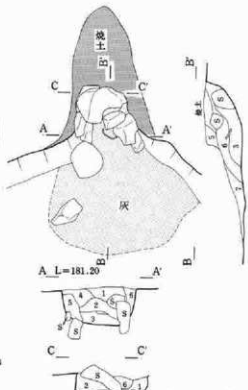
B区中央部に位置し51~53B27~29の範囲にある。6号住居跡の北に接し、他の遺構との重複はない。規模は長辺4m、短辺3.5mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約20cm~30cmを測る。主軸方位は、N-90°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は南東コーナーに検出された。規模は燃焼部幅約60cm、同長約50cmを測り、煙道部は確認できなかったが付近から焼土が集中して検出された。



5号住居跡

- 1 暗褐色土層 軽石を多量に含む
- 2 暗褐色土層 軽石を少量含む
- 3 黒褐色土層
- 4 暗褐色土層
- 5 暗褐色土層 褐色土ブロックを含む

Fig.560 5号住居跡



5号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 ローム粒を含む
- 2 暗褐色土層 焼土粒、炭を含む
- 3 暗褐色土層 黒色灰、焼土を含む
- 4 暗褐色土層 ローム粒を多量に含む
- 5 暗褐色土層 焼土粒を多量に含む
- 6 暗褐色土層 ローム粒、焼土粒を含む
- 7 暗褐色土層 黒色灰を多量に含む

Fig.561 5号住居跡竈

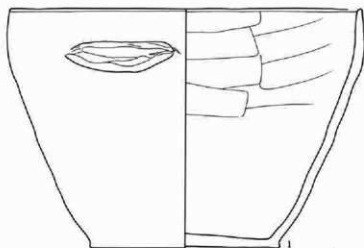
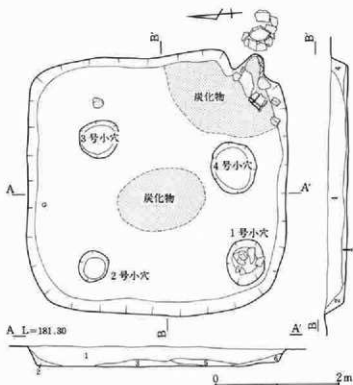


Fig.562 5号住居跡出土遺物

第5号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
562-1	土器 土盤	口-28.0 高-18.8 底-15.2	覆土 あり	口縁部ヨコナデ内部ヘラナデ口縁部に脚状の站付 あり	①良好②によい褐色③2 ~3mmの砂粒含む④片残存

6号住居跡 (Fig. 563・564・565, PL. 158・165)



6号住居跡

- | | | |
|---------|------------|---------|
| 1 暗褐色土層 | 軽石を多量に含む | 4 褐色土層 |
| 2 暗褐色土層 | ロームブロックを含む | 5 暗褐色土層 |
| 3 黒褐色土層 | 黒色灰を含む | 6 黒褐色土層 |

Fig.563 6号住居跡

B区中央部に位置し51~55B24~26の範囲にある。5号住居跡の南に接している。他の遺構との重複はない。規模は一辺4.3mの隅丸方形を呈する。壁高は約30cm~40cmを測る。主軸方位はN-90°-Eである。床面は平坦をなし、中央部に炭化物が検出され、さらに小穴が4基検出された。規模は1号が径約75cm×60cm、深さ約50cm、2号は径約50cm、深さ約20cm、3号は径約50cm、深さ約16cm、4号は径約85cm、深さ約15cmである。小穴1号覆土より石が検出された。規模は燃焼部幅約60cm、同長約60cmを測る。電前床面上には炭化物が広がって検出された。

第1節 竪穴住居跡

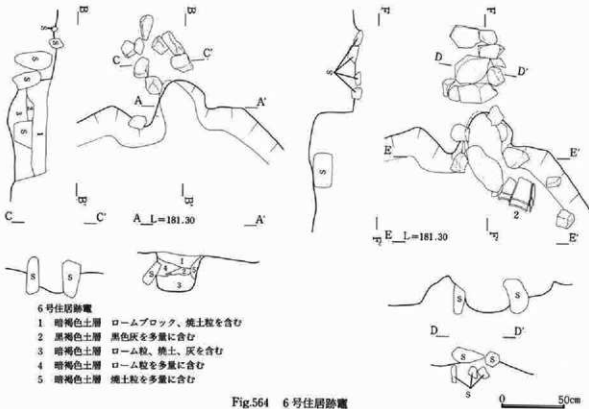


Fig.564 6号住居跡圖

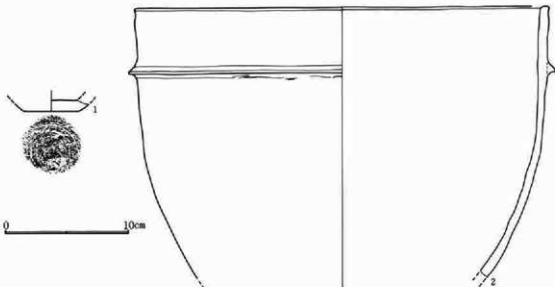


Fig.565 6号住居跡出土遺物

第6号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ③胎土	②色調 ④残存
565-1	土製器 皿	底-4.4	覆土	底部回転糸切	①良好②よい褐色③細砂粒含む④底部残存	
565-2 165	皿 飯	口-12.8	No.2	踵短く下を向く口縁部弱く外傾する	①良好②赤褐色③2-3mmの砂粒含む④残存	

第2節 土坑・溝・井戸

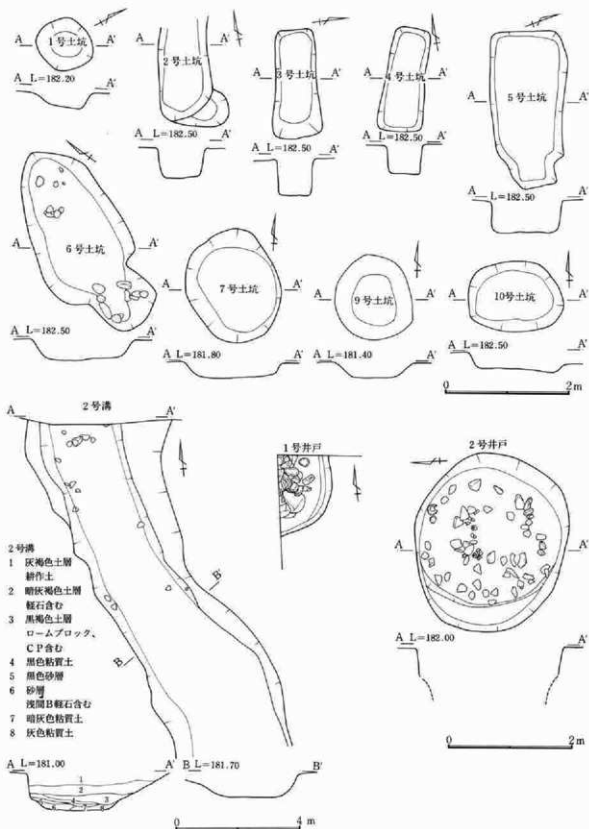
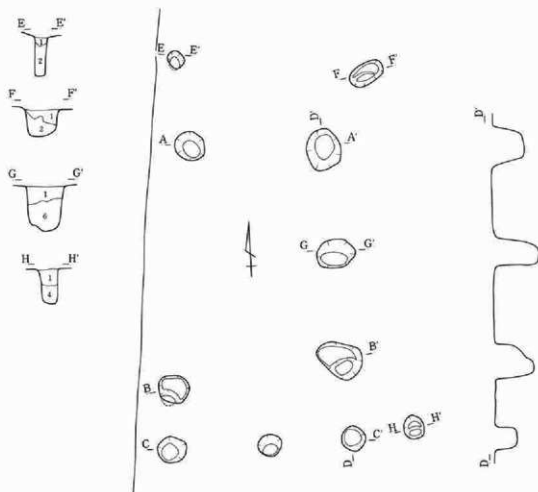


Fig.566 土坑・溝・井戸遺構

第3節 掘立柱建物跡



1号掘立柱建物跡

- 1 茶褐色土層 FAブロックを含む
- 2 暗褐色土層 軽石を少量含む
- 3 茶褐色土層 軽石を多量に含む
- 4 暗褐色土層
- 5 黒褐色土層 ロームブロックを含む
- 6 暗褐色土層 ローム粒を含む
- 7 茶褐色土層 軽石、FAを含む

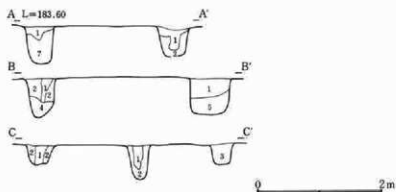


Fig.567 1号掘立柱建物跡

第2章 陶磁器

大西 雅広

はじめに

大久保遺跡からは、総数400点の軟質陶器を含む近世陶磁器が出土している。これらの陶磁器総てを報告書に掲載・報告することは時間的制約から行い得ないため、口縁部・底部を中心に遺存度の高い個体を選択した。なお、調理・貯蔵容器は、全体に遺存度が低いため細片をも選択し、17世紀に属すると思われる物もこれに含めた。このような基準で約4に当たる104点の陶磁器を選択した。出土地点毎の内訳は表に示したとおりである。先の選択基準からすれば、この表に表れた不掲載率の高さと出土個体数の少なさは、間接的に2

大久保B遺跡出土陶器集計表

	掲載遺物			不掲載遺物			総計
	陶磁器	軟質陶器	小計	陶磁器	軟質陶器	小計	
1号井戸	3	2	5	0	1	1	6
2号井戸	40	6	46	26	9	35	81
1号土坑	1	0	1	0	0	0	1
3号土坑	2	0	2	2	0	2	4
5号土坑	0	0	0	4	1	5	5
6号土坑	3	0	3	1	1	2	5
1号溝	1	0	1	7	3	10	11
2号溝	0	0	0	0	2	2	2
51B-58トレ	0	0	0	0	1	1	1
28E-58トレ	33	2	35	24	11	35	70
60E-26~28	3	1	4	115	79	194	198
E区西側道	2	0	2	1	0	1	3
E区東側道	0	0	0	0	2	2	2
C区東側道	0	0	0	0	1	1	1
表土	4	0	4	3	2	5	9
2号住居跡	1	0	1	0	0	0	1
総計	93	11	104	183	113	296	400

次の廃棄などを示していると考えられる。ここで使用する陶磁器の年代観は、有田焼・波佐見焼などの肥前系については「肥前陶磁の変遷と出土分布」⁽¹⁾、「波佐見焼の変遷」⁽²⁾を瀬戸・美濃系については「美濃の古陶」⁽³⁾、「本業焼の変遷 (1)～(3)」⁽⁴⁾によった。なお、筆者は調査担当ではないため、遺物の出土状態や遺構については触れず、出土陶磁器についてのみまとめることとする。

陶磁器出土遺構及び出土地点

B・C区からは、近世陶磁器の出土量は5点と非常に少なく、図示し得たのは2号住居跡確認時に出土した燈明皿受け皿(109)のみである。遺構としてはC区東側に2号溝が検出されているものの、遺物は軟質陶器細片2点であり、明らかに2次的なありかたである。また、4・5・6号住居跡の間には、時期が確定できないが堀が確認されていることからB・C区は近世には畑地として利用されていたと考えられる。

E区は遺構・遺物共に多く、中でもE区北西部には井戸・土坑・交差する溝などの遺構が集中している。また、溝の区画内(東側)に設定されたと思われるトレンチ(28E-58トレ)からは、まとまって陶磁器が出土している。井戸は2基確認されているが、1号井戸は調査区外に続くために一部の調査となっている。1号井戸からは5点の陶器が出土している。時期的には1の陶胎染付碗が18世紀前半、3の塀系摺鉢が18世紀末～19世紀前半であり、時期的には単一ではない。2号井戸は1号井戸の東約5mに位置し、最も出土量の多い遺構である。陶磁器は「覆土・下部層」とに分けて取り上げられているが、両者は18世紀代を中心として19世紀前半の陶磁器を少量混じえ、時期差は認められない。2号井戸出土陶磁器碗(7)は、28E58トレンチ出土の破片と接合関係がある。土坑は6基検出され、このうち1・3・5・6号土坑から陶磁器が少量ながら出土している。陶磁器はいずれも18世紀代で54のみ19世紀前半に下る可能性がある。E区では、1カ所のトレンチ(28E-58)から70点の陶磁器が出土している。陶磁器は、全体に遺存率が高く遺構の存在を示唆している。このトレンチは土坑・井戸の東に検出された交差する溝の東約15mに設定されており、溝による区

画内の遺物と推定される。また、染付碗(7)の2号井戸との接合関係は、2号井戸と溝東側の空間との関わりを推測させる。

出土陶磁器

大久保遺跡出土陶磁器は、一部17世紀後半に入る可能性のあるものが存在するものの、ほとんどは18世紀代の所産であり、19世紀前半は徳利、播鉢などが認められる程度である。これらのうち碗類は、波佐見系の陶胎染付や磁器染付(1・7・9・14・57・58など)が主体を占め、瀬戸・美濃系陶器(11・12・16・17など)が客体的に、唐津系(13)が少量存在する。これは県内他遺跡の傾向と比較すると、いわゆる「尾呂茶碗」が少ないものの他の点については一致する。皿類は、量的に少ないが波佐見系の染付(24)と有田周辺の「墨弾き」を使用したやや高級品と思われるものが2点出土している。播鉢は瀬戸・美濃系は最も少なく、無軸・焼締陶器の罍系と思われるものが主体を占める。罍系と思われる播鉢は、近年県内各地で多く確認され始めている。これら以外には、製作地不詳であるが、信楽焼に似た胎土を有する播鉢(36・37・38)が少量出土している。この播鉢も少量ながら県内各地で認められ、県内全体に供給されていたようである。練り鉢・甕・片口に関しては、近県の地方窯割業以前のため、総て瀬戸・美濃系である。在地製軟質陶器は、内耳焙烙・火鉢・香炉・鉢形鍋がある。このうち鉢形鍋は取手や吊手が付かず、器壁が薄く体部外面に多量の煤が付着している。

まとめ

大久保遺跡出土陶磁器は、飲食器、調理・貯蔵容器、灯火具、仏具など日常生活用品がかなりまとまって出土している。また、出土地点も県道前橋・伊香保線以北のE区北西部に集中し、この部分には井戸、土坑、交差する溝が存在する。出土陶磁器の内容・出土地点や井戸の存在から交差する溝は、屋敷地の区画溝と考えられる。遺跡地内からは他にまとまった陶磁器の出土や遺構がなく、一部ではあるがB区に畑が認められることからE区北西部以外は畑地として利用されていたと考えられる。また、出土陶磁器には安価な大量生産品が殆どであり、高級品や嗜好品が認められないことから、周辺に広がる畑地の耕作を生活の糧としていた農村の一屋敷であったと推定される。

注

- 1 大橋康二 「肥前陶磁の変遷と出土分布」 『国内出土の肥前陶磁』 佐賀県立九州陶磁文化館 1984
- 2 大橋康二 「波佐見焼の変遷」 『長崎の陶磁』 佐賀県立九州陶磁文化館 1988
- 3 美濃古窯研究会 『美濃の古陶』 光華社出版 1976
- 4 藤原良祐 「本業焼の変遷(1)」 『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要VI』 瀬戸市歴史民俗資料館 1987
- 5 藤原良祐 「本業焼の変遷(2)・(3)」 『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要VII』 瀬戸市歴史民俗資料館 1988
- 6 現在旧大久保村は、畑作中心であるが明和4(1767)年の『村明細帳』によれば「金田惣兵衛組 反別 七五町六反六歩」の内訳が「六町三反九畝二四歩 田方、六九町二反〇畝一二歩 畑方」、「金谷九兵衛組 反別 二五町二反一畝十歩」の内訳が「一町三反三畝十歩 田方、二三町八反八畝〇〇歩 畑方」、「栗原源右衛門組 反別 一八町六反四畝一四歩」の内訳が「一町六反七畝一八歩 田方、一六町九反六畝二六歩 畑方」、「高橋幸右衛門組 反別 一八町五反二畝〇六歩」の内訳が「一町六反一畝二四歩 田方、一六町九反〇畝一二歩 畑方」、「榊沢佐吾衛門組 反別 六五町九反五畝一四歩」の内訳が「三町一反五畝二三四歩 田方、六二町七反九畝二一歩 畑方」とあり、18世紀後半にも畑作中心の村であったことがわかる。また、佐渡奉行街道は東約1kmを南北に通っているため、大久保宿との関連は考えられない。

第2章 陶磁器



Fig.568 陶磁器(1)

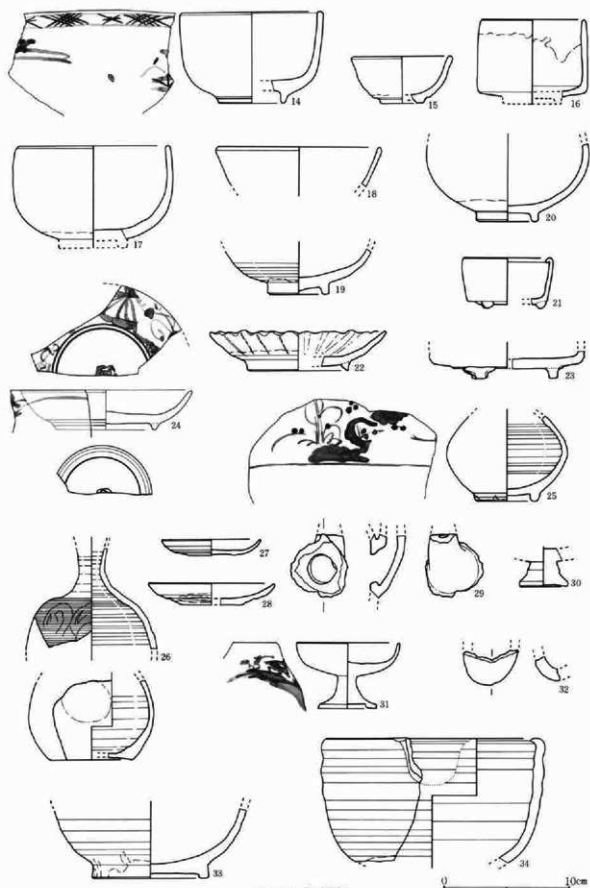


Fig.569 陶磁器(2)

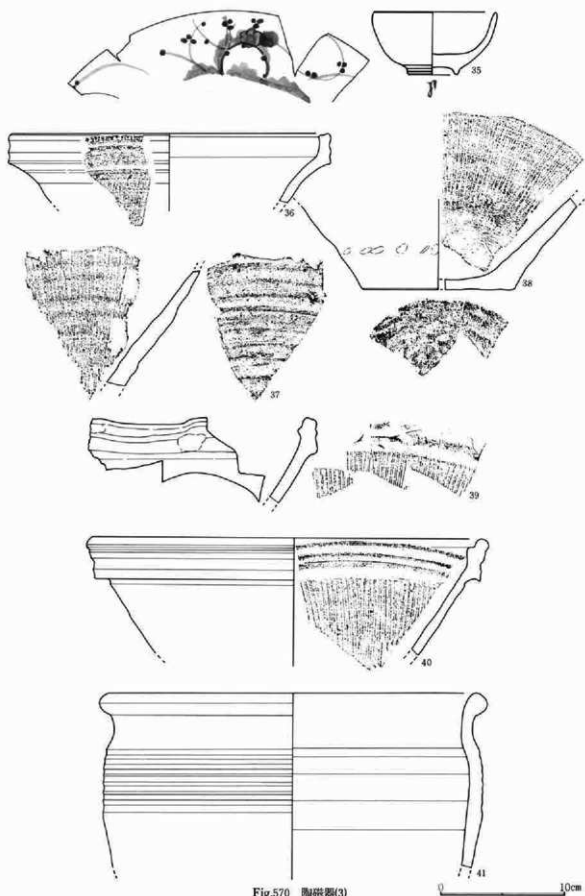


Fig.570 陶磁器(3)

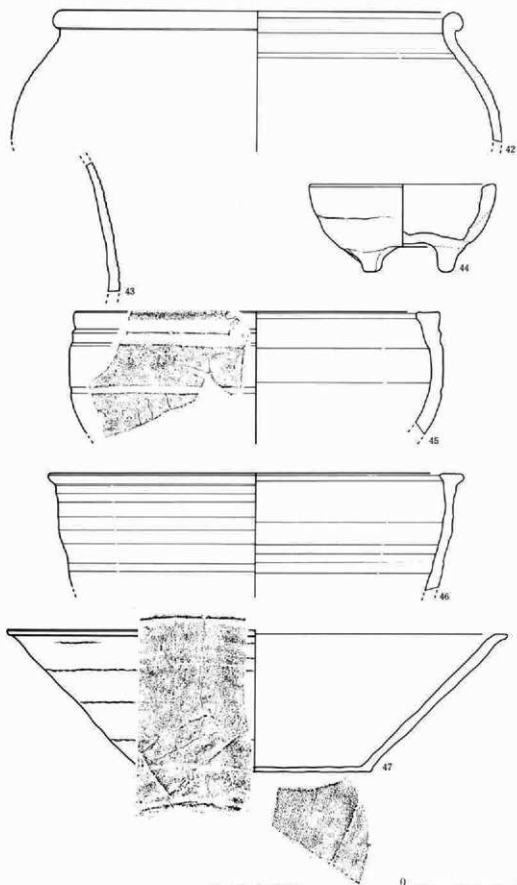
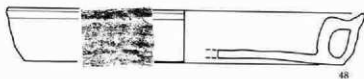


Fig.571 陶磁器(4)



0 10cm

Fig.572 陶磁器(5)

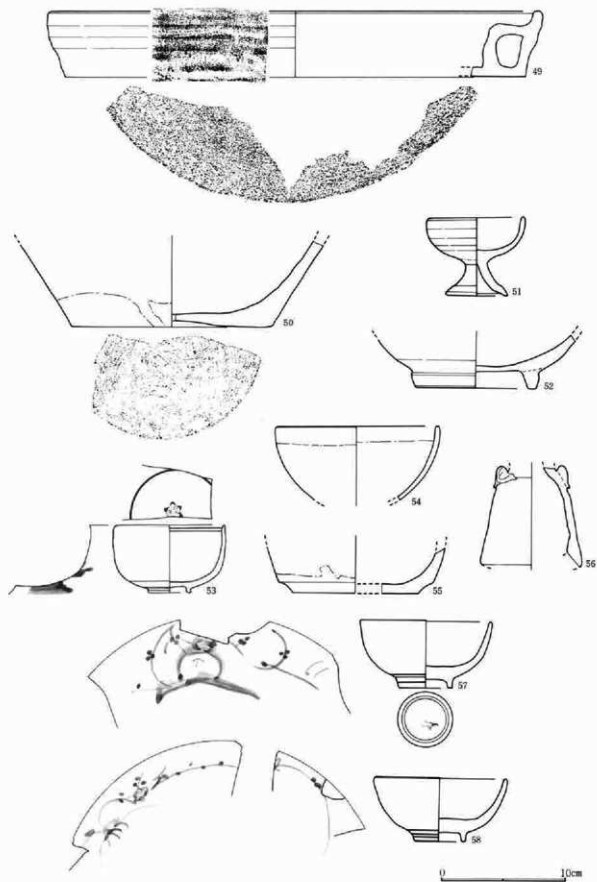


Fig.573 陶磁器(6)

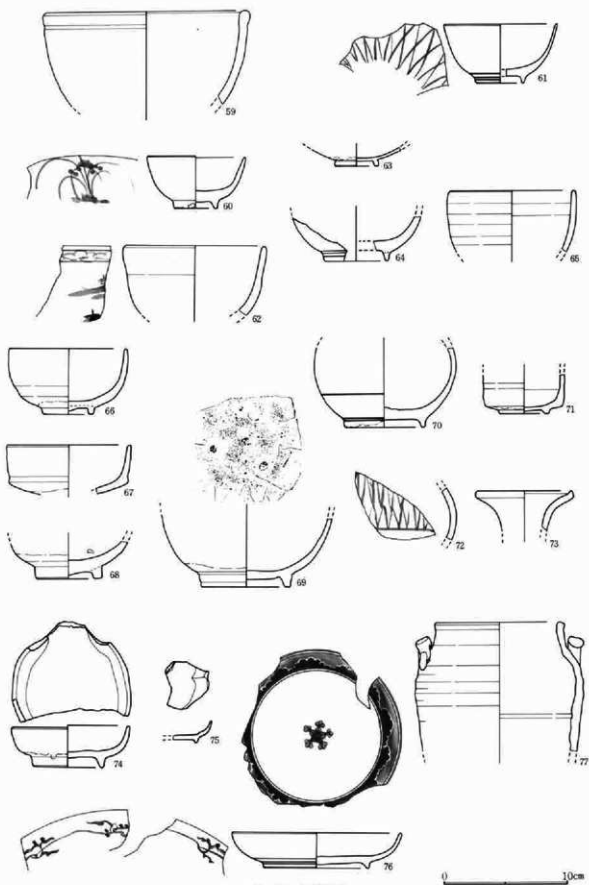


Fig.574 陶磁器(7)

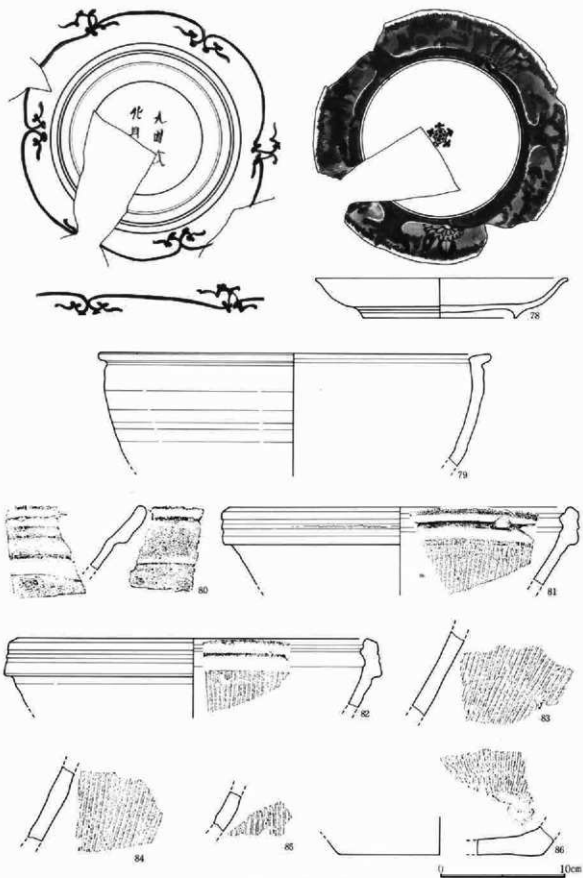


Fig.575 陶磁器(8)

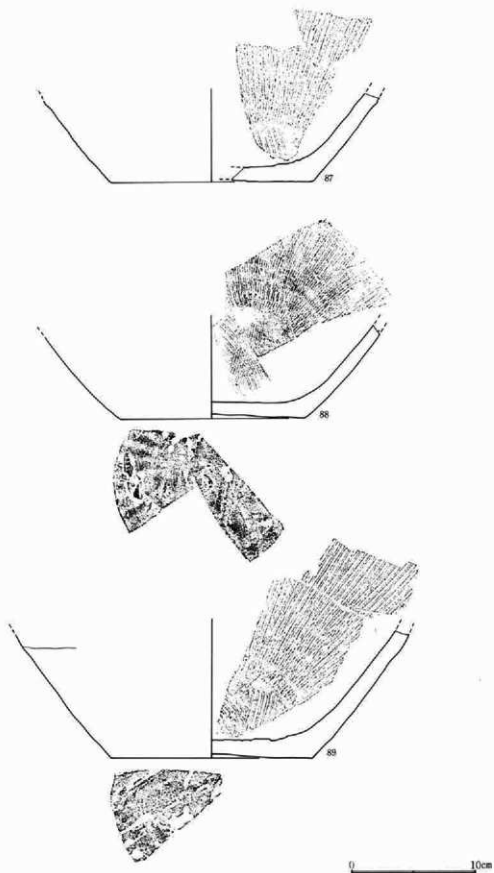


Fig.576 陶磁器(9)

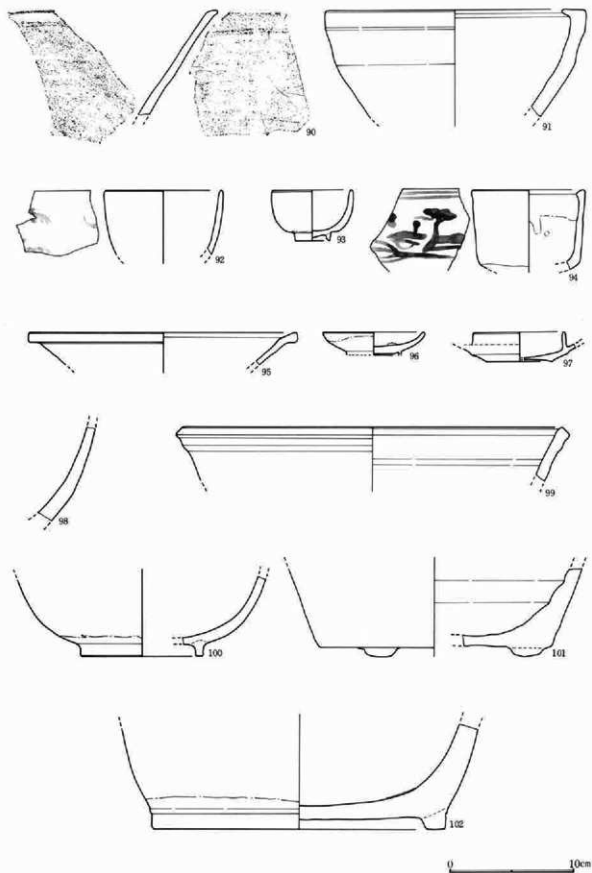


Fig.577 陶磁器08

大久保遺跡出土陶磁器観察表(1)

番号	器種・種別	出土位置	口径・底径・器高	胎土の特徴	器形などの特徴	胎調・絵付けなどの特徴	備考
1	陶胎染付碗 陶器	1号井戸	(10.2)×××	胎表は褐色。断面は灰色。	口縁部は直立する。	主文様は山水文。粗い買入の入る透明釉を施す。	伊万里系。 18C前半。
2	撰 陶器	1号井戸	×(12.8)×	淡黄色。粗い。	体部外面は同軸へラズリ。14本1単位の欄目を施す。	鉄軸を全面に施した後、底部へ体部下半は釉を拭き取る。	瀬戸・美濃系。 18C。
3	撰 陶器	1号井戸	(32.0)×××	赤褐色。	口縁部外面を3段に造る。口縁部内面に突き出らす。9本単位の欄目を浅く引き上げる。体部外面は口縁部下までへラズリを行う。	無釉。	専系。 18C後半～19C前半。
4	火 敷 買 陶器	1号井戸	(29.4)×××	にぶい橙色。赤色粘土粒・黒色鉱物粒多量に含む。	口縁部は内面に突き出す内面はナゲ。外面の胎表は剥離する。		在地製品。 18～19C。
5	火 敷 買 陶器	1号井戸	(26.3)×××	胎表は黒灰色。断面は灰白色～褐色			在地製品。 18～19C。
6	染付碗 磁器	2号井戸 下層	××3.7×	灰白色。	高台幅は狭い。	外面は二重網目文。内面は一重網目文。呉須は明るい青灰色。	伊万里系。 18C。
7	染付碗 磁器	2号井戸	(8.0)×2.7× (4.3)	灰白色。	口縁部は僅かに外反する。	体部外面に草花文を施す。呉須は暗青灰色に発色する。透明釉は僅かに白濁する。	伊万里系。 18C。
8	染付碗 磁器	2号井戸 下層	××3.0×	灰白色。		外面に草花文を描く。呉須は青灰色に発色する。透明釉は白濁する。	伊万里系。 18C。
9	染付碗 磁器	2号井戸	(7.8)×(4.4)× 2.9	灰白色。		体部の一方に草花文を描く。呉須は青灰色に発色する。透明釉は一部白濁する。高台脚部は鉄足状に発色する。	伊万里系。 18C。
10	陶胎染付碗 陶器	2号井戸	××××	灰色。		体部外面に呉須で文様を描く。呉須の発色は薄い。	伊万里系。 18C?
11	腰 錆 陶器	2号井戸	9.8×4.2×5.7	淡黄色。粗い。	口縁部と体部の境の凹転を利用して沈線を3条造らす。	内面から口縁部外面に灰釉、それ以下に鉄軸に近い鉄軸を施す。高台脚部のみ無釉。	瀬戸・美濃系。 18C中頃。
12	灰 軸 陶器	2号井戸	(10.1)×5.4×3.8	灰白色。やや粗い。	体部は外方に開き、口縁部は直立する。張り付け高台。	高台脇以下を除き鉄軸を施す。粗い買入が入る。	瀬戸・美濃系。 18C中頃。
13	刷毛目 陶器	2号井戸	(14.7)×5.8×5.7	にぶい橙色。断面。	体部は直線的に開く。口縁部は内湾する。漆喰さ。	内外面に白土を縦に施し、長石軸系の透明釉を掛ける。高台脇以下は無釉。	唐津系。 18C末～19C前半。
14	陶胎染付碗 陶器	2号井戸	(11.4)×(5.2)× 7.2	灰色。	口縁部はほぼ直立する。	体部に山水文?を描く。粗い買入の入る透明釉を施す。	伊万里系。 18C前半。
15	鉄 軸 小 陶器	2号井戸	(8.0)×(3.4)× 3.8	淡黄色。粗い。	口縁部は小さく外反する。	鉄軸を施す。高台脇以下は無釉。	瀬戸・美濃系。 17～18C。
16	掛分け 陶器	2号井戸	(8.0)×××	青灰色。	筒形を呈する。外面は体部中位までへラズリ。	黄褐色の灰釉を施し、口縁部のみ鉄軸を掛け分ける。	瀬戸・美濃系。 18C。
17	灰 軸 陶器	2号井戸 下層	(11.8)×××	褐色。	口縁部は内傾気味に立ち上がる。	灰オリーブ色の灰釉を施す。粗い買入が入る。高台脇以下は無釉。	瀬戸・美濃系。 18C前半。
18	灰 軸 陶器	2号井戸	(12.8)×××	灰白色。	口縁部は直線的に開く。	明るいオリーブ灰色の灰釉を施す。	瀬戸・美濃系。 19C。
19	灰 軸 陶器	2号井戸	×(4.6)×	灰白色。	幅の広い高台を張り付けける。	明オリーブ灰色の灰釉を高台脇まで施す。	瀬戸・美濃系。 18C。
20	灰 軸 陶器	2号井戸	××4.4×	灰白色。	外面は口縁部付近までへラズリを行う。	粗い買入の入る灰釉を施す。高台脇以下は無釉。	瀬戸・美濃系。 18C。
21	灰 軸 香 陶器	2号井戸 下層	(7.0)×××4.1	灰白色。	体部は内傾気味に立ち上がり、口縁部を内側に折り曲げる。底部に粒状の脚を貼り付ける。	外面に灰釉を施す。底部と内面は無釉。	瀬戸・美濃系。 18～19C前半
22	灰 軸 面 陶器	2号井戸	(14)×(6)×(2.9)	灰白色。やや粗い。	外面は丸ノミで花卉を表す。内面は磨押しで花卉を表す。貼り付け高台。	粗い買入の入る灰釉を施す。高台脇以下は無釉。	瀬戸・美濃系。 不詳。

大久保遺跡出土陶磁器観察表(2)

番号	器種・類別	出土位置	口径・底径・高さ	胎土の特徴	器形などの特徴	軸画・絵付けなどの特徴	備考
23	鉄軸香炉 陶器	2号井戸 下層	- × - × -	淡黄色。	底部に脚を貼り付ける。底部外面はヘラケズリ。	底部外面に隆き鉄軸を施す。内面には降灰がある。	瀬戸・美濃系。 18C。
24	染付皿 磁器	2号井戸 磁器	(13.6) × (8.0) × 3.1	灰白色。	高台はやや内傾する。口縁部は外方に開く。	体部内面に扇と蔓草文を描く。底部内面に五弁花。底部外面には渦巻を描く。	伊万里系。 18C。
25	染付徳利 磁器	2号井戸 磁器	- × (4.6) × -	灰白色。	最大径は体部中位にある。	体部に草花と老木を描く。口縁部は暗青灰色に発色する。高台部は鉄足状に発色する。内面無軸。	伊万里系。 18C。
26	納輪へこか 人徳利 陶器	2号井戸 陶器	- × (6.6) × -	青灰色。珫器質に焼き締まる。	体部をくぼませる。	外面に納輪を施し、底部のみ輪を拭い取る。	瀬戸・美濃系。 19C。頸部と底部は同一個体か？
27	燈明皿 陶器	2号井戸 陶器	7.9 × 3.6 × 1.2	青灰色。珫器質に焼き締まる。	底径は小さく、体部は内湾する。	鉄軸を薄く施す。外面の輪は拭い取る。内面の一部に降灰による自然軸が掛かる。	製作地不詳。 18C後半。
28	燈明皿 陶器	2号井戸 下層	(9.4) × - × 2.0	灰色。	底径は小さい。口縁部下までヘラケズリ。	内面から口縁部外面まで納輪を施す。	製作地不詳。 18C後半～19C。
29	灰軸汁注 器	2号井戸 陶器	- × - × -	灰白色。	器壁を丸く切り取り注口を張り付ける。	内外面に灰軸を施す。粗い買入が入る。	瀬戸・美濃系。 17～18C。
30	仏飯器 陶器	2号井戸 陶器	- × (3.8) × -	灰白色。	高台内面を浅く削り取る。	透明軸を施す。高台は無軸。	瀬戸・美濃系。 18C。
31	染付仏飯器 磁器	2号井戸 磁器	(8.2) × 4.6 × 5.2	白色。	軒部は大きく広がる。	外面に横間山水文を描く。口縁部は青灰色に発色する。	伊万里系。 18C。
32	不明 陶器	2号井戸 陶器	- × - × -	灰白色～褐色。	手づくね。	外面に降灰による自然軸が掛かる。	製作地不詳。 不詳。
33	灰軸片口鉢 陶器	2号井戸 下層	- × (9.0) × -	灰白色。	高台の内側は低く、外側は高い。体部外面ヘラケズリ。	明黄褐色の灰軸を施す。高台脇以下は無軸。	瀬戸・美濃系。 18～19C。
34	灰軸片口鉢 陶器	2号井戸 陶器	(15.8) × - × -	淡黄色。	口縁部は内側に折り曲げる。口縁部外面は浅い沈線を描らせ、口縁部下までヘラケズリを行う。	細かい買入の入る黄褐色の灰軸を施す。高台脇以下は無軸。	瀬戸・美濃系。 18C。
35	染付碗 磁器	26E-56 2号井戸	9.7 × 3.8 × 4.9	灰白色。	口縁部は外方に開く。	体部外面に雪輪と草花文を描く。高台内に不明文様を描く。口縁部は青灰色に発色する。	伊万里系。 18C。
36	撰鉢 陶器	2号井戸 陶器	(25.2) × - × -	明褐色。石英と長石を含む。	口縁部は外反し、頸部を直立させる。頸部外面に2条の沈線を描らす。	無軸。内面に降灰による自然軸が掛かる。	信楽系？ 18C。
37	撰鉢 陶器	2号井戸 陶器	- × - × -	にぶい黄褐色。石英と長石を含む。	口縁部の狭い7本単位の欄目を施す。体部外面下位はヘラケズリ。体部外面下位の欄目は網罟。	無軸。	信楽系？ 18C。
38	撰鉢 陶器	2号井戸 陶器	- × (11.8) × -	にぶい黄褐色。石英と長石を含む。	口縁部の狭い7本単位の欄目を施す。体部外面下位はヘラケズリ。体部外面下位の欄目は網罟。	無軸。	信楽系？ 18C。
39	撰鉢 陶器	2号井戸 陶器	- × - × -	赤褐色。	口縁部外面に2条の沈線を描らす。口縁部下に段を造る。幅の広い片口を有する。9本単位の深い欄目を口縁部付近まで引き上げる。	無軸。	堺系。 18C 後半～19C前半。
40	撰鉢 陶器	2号井戸 陶器	(32.0) × - × -	赤褐色。	口縁部は折り返し、外面を3段に造る。口縁部内面に段を有する。深い9本単位の欄目を口縁部まで引き上げる。	無軸。	堺系。 18C末～19C前半。
41	鉄軸蓋 陶器	2号井戸 陶器	(30.8) × - × -	灰白色。	口縁部は折り返して丸くする。肩部に7条の沈線を描らす。	鉄軸を施す。	瀬戸・美濃系。 不詳。

第2章 陶磁器

大久保遺跡出土陶磁器観察表(3)

番号	種類・類別	出土位置	口径・底径・器高	胎土の特徴	器形などの特徴	胎調・絵付けなどの特徴	備考
42	鉄輪 磁器 陶器	2号井戸	(31.4)×-×-	灰白色。	口縁部は外方に折り返し丸く造る。外面に沈線を送らす。	鉄輪を施す。	瀬戸・美濃系。 18C。
43	鉄輪 磁器 陶器	2号井戸	-×-×-	青灰色。	外面に沈線を施す。	外面に鉄輪を施す。	瀬戸・美濃系。 17~19C。
44	香炉 軟質陶器	2号井戸	14.8×-×6.9	器表と中央は黒色。器表付近は灰白色。	口縁端部の器壁は厚い。外面はヘラミガキ。3本の脚を張り付ける。	瀬戸・美濃系。 18~19C。	
45	火鉢 軟質陶器	2号井戸	(29.0)×-×-	淡褐色。	外面に3条の沈線を送らす。体部ナデ。	在地製。 18~19C。	
46	灰輪 磁器 陶器	2号井戸	(32.8)×-×-	淡黄色。	口縁端部を外方に折り返す。外面は体部中位までヘラケズリ。	瀬戸・美濃系。 18C後半。	
47	鉢形 銅 軟質陶器	2号井戸	39.4×18.3×11.2	器表は黒灰色。断面は灰白色。	体部は直線的に開く。口縁端部を外方に折り返す。体部外面に保付着。	在地製。 18C。	
48	内耳 焙烙 軟質陶器	2号井戸	38.2×34.0×5.6	器表は黒褐色。断面は褐色。	内耳は3カ所に貼り付ける。体部外面のみ保付着。	在地製。 18C。	
49	内耳 焙烙 軟質陶器	2号井戸 下層	(39)×(36.4)× 5.2	外面は黒褐色。断面はにじい褐色。	体部下位はヘラケズリ。	在地製。 18C。	
50	壺 鉢 陶器	1号土坑	-×(16.0)×-	灰白色。	15本単位の欄目を施す。体部下端と底部は使用により摩滅する。	銅輪を施す。体部外面下端と底部の釉を拭い取る。	瀬戸・美濃系。 18C。
51	灰輪仏飯器 陶器	3号土坑	(7.5)×4.9×6.2	淡黄色。	脚の上部は細く、器は広がり。杯部は口縁部外面までヘラケズリを行う。	杯部の下から脚部までは無釉。やや白濁した灰輪を施す。	瀬戸・美濃系。 18C。
52	刷毛目 鉢 陶器	3号土坑	-×(9.6)×-	赤褐色。 器表は暗赤褐色。		内面に白土を刷毛掛けする。内面のみ灰石軸系の透明釉を施す。	唐津系。 18C。
53	染付丸 銅 磁器	6号土坑	(9.0)×3.4×5.3	白色。	口縁部は直立し、器高は高い。高台は小さく低い。	外面の文様は不明。底部内面には簡略化した五弁花を描く。	伊万里系。 18C後半。
54	掛け分け 陶 器	6号土坑	(13.0)×-×-	淡黄色。 粗い。	体部は内湾する。	口縁部に貝須輪。口縁部以外に透明釉を掛ける。粗い貫入が入る。	瀬戸・美濃系。 19C前半。
55	鉛輪 徳利 陶器	6号土坑	-×(10.0)×-	淡黄色。	外面はヘラケズリを行う。	外面に鉛輪を薄く施す。内面と体部下端以下は無釉。	瀬戸・美濃系。 18C。
56	青磁 風 磁器	1号溝	-×-×-	灰白色。	肩部に取っ手状の文様を貼り付ける。	外面に青磁釉を厚く施す。	伊万里系。 18C。
57	染付 銅 磁器	28E-58	(10.4)×4.2×5.4	灰白色。	口縁部はやや外方に開く。	体部外面に雲輪と草花文を描く。高台内に不明文様を描く。呉須の発色は薄い。	伊万里系。 18C。
58	染付 銅 磁器	28E-58	10.2×3.8×5.0	灰白色。	口縁部は内湾気味に開く。	外面に密付管と梅の折れ枝文を描く。底部内面は蛇の目輪ハズ。	伊万里系。 18C。
59	灰輪片口 鉢 陶器	28E-58	(16.4)×-×-	淡黄色。	口縁部は肥厚する。口縁部外面には沈線を送らし、外面は口縁部下までヘラケズリを行う。	明黄褐色の灰輪を施す。輪は白濁する。	瀬戸・美濃系。 18C。
60	染付 銅 磁器	28E-58	7.7×3.2×4.1	灰白色。	口縁部は外方に開く。	体部外面に1ヶ所草花文を描く。呉須は暗緑灰色に発色する。透明釉は一部白濁する。	伊万里系。 18C。
61	染付 銅 磁器	28E-58	(8.8)×(3.6)× 4.7	灰白色。	口縁部は外方に開く。	体部外面に1重網目を描く。呉須は青灰色に発色する。	伊万里系。 18C。
62	黄鉛染付 銅 磁器	28E-58	(11.0)×-×-	灰色。	口縁部の下でやや縮れる。	呉須は緑灰色に発色する。粗い貫入が入る。	伊万里系。 18C前半。
63	灰輪 銅 陶器	28E-58	-×3.5×-	淡黄色。	体部は外方に開く。	細かい貫入の入る灰輪を施す。高台部以下は無釉。	瀬戸・美濃系。 18~19C。

大久保遺跡出土陶磁器観察表(4)

番号	器種・種別	出土位置	口径・底径・器高	胎土の特徴	器形などの特徴	胎土・絵付けなどの特徴	備考
64	染付陶磁器	28E-58	-×(4.9)×-	灰白色。	体部は外方に開く。	具須は青灰色に発色する。	伊万里系。 18C。
66	灰軸陶磁器	28E-58	(9.8)×-×-	灰白色。	口縁部はほぼ直立する。外面は体部中位までヘラケズリを行う。	灰軸を施す。	瀬戸・美濃系。 18C?
66	柿軸陶磁器	28E-58	(9.4)×4.0×5.2	灰白色。	口縁部は緩く内湾する。貼り付け高台。	柿軸を施す。高台脇以下は無軸。	瀬戸・美濃系。 18C中頃。
67	灰軸陶磁器	28E-58	(9.8)×-×-	灰白色。	口縁部はほぼ直立する。外面は高台脇までヘラケズリを行う。	粗い貫入の入る灰軸を施す。高台脇以下は無軸。	瀬戸・美濃系。 18C後半。
68	胎軸陶磁器	28E-58	-×5.3×-	灰色。	高台幅は狭い。	胎軸を施す。高台脇以下にも薄く施す。高台端部のみ無軸。内面に印の施軸が流れる。	瀬戸・美濃系。 18C中頃。
69	胎軸鉢陶磁器	28E-58	-×7.0×-	灰白色。	外面はヘラケズリを行う。目取は3つある。	胎軸を施す。軸は白濁する。高台脇以下は無軸。	瀬戸・美濃系。 18C。
70	染付徳利陶磁器	28E-58	-×6.1×-	灰白色。	胴部は張る。	体部下位と高台外面に墨線を巡らす。具須は青灰色に発色する。	伊万里系。 18~19C。
71	筒形香炉?陶磁器	28E-58	-×(4.9)×-	灰白色。	体部下側に襷線を有し。体部は筒形を呈する。外面に沈線を巡らす。	灰軸を施す。貫入が入る。体部外面のみ施軸する。	瀬戸・美濃系。 18~19C前半。
72	染付徳利陶磁器	28E-58	-×-×-	灰白色。		1重網目文を描く。具須は青灰色に発色する。	伊万里系。 17~18C。
73	瓶陶磁器	28E-58	(7.6)×-×-	白色。	口縁部は広く開き、胴部を上にして折り曲げる。	透明軸を施す。	伊万里系。 18C。
74	新深井軸皿陶磁器	28E-58	9.2×5.3×3.3	青灰色。	新深井軸による木瓜形の皿。貼り付け高台。	新深井軸を高台脇まで施す。貫入が入る。	瀬戸・美濃系。 17C末~18C前半。
75	白磁手塩皿陶磁器	28E-58	-×-×1.8	白色。	型押しによる木瓜形。	白磁軸を施す。	伊万里系。 19C?
76	染付皿陶磁器	28E-58	(13.2)×8.2×2.8	白色。	高台幅は大きい。口縁部は内傾して立ち上がる。底部にハリ支え一つあり。	体部内面は鳥弾きにより雲状の文様を描く。底部内面には五弁花。体部外面には唐草文を描く。口縁。	伊万里系。 17C末~18C前半。
77	鉄軸二耳煮器陶磁器	28E-58	(10.0)×-×-	灰白色。	肩はなで肩である。体部外面は緩なヘラケズリ。	外面は鉄軸を施す。口縁端部と内面は無軸。	瀬戸・美濃系。 18C。
78	染付皿陶磁器	28E-58	20.0×12.0×3.1	白色。	口縁部は外反する。平面には花卉をかたどる。高台は内傾する。	底部内面に五弁花。体部外面に唐草文。底部外面に「大明成化年製」銘を描く。体部内面の具須は流れる。焼成不足のため、不規則な貫入が入る。	伊万里系。 17C後半~18C前半。
79	灰軸縷り鉢陶磁器	28E-58	(31.0)×-×-	灰白色。	口縁部は外方に折り返す。	灰軸を施す。粗い貫入が入る。	瀬戸・美濃系。 18C。
80	縷鉢陶磁器	28E-58	(20.0)×-×-	淡黄色。	口縁部は折り返して厚く造る。内面には段差を有する。	縷軸を施す。	瀬戸・美濃系。 18C後半。
81	縷鉢陶磁器	28E-58	(27.0)×-×-	赤褐色。	口縁部内面に段を造る。8単位の深い罫目を口縁部まで引き上げる。外面は口縁部下までヘラケズリを行う。	無軸。	縷系。 18C後半~19C前半。
82	縷鉢陶磁器	28E-58	(30.0)×-×-	赤褐色。	口縁部内面に段を造る。8単位の深い罫目を口縁部まで引き上げる。外面は口縁部下までヘラケズリを行う。	無軸。	縷系。 18C後半~19C前半。
83	縷鉢陶磁器	28E-58	-×-×-	赤褐色。	深い罫目を施す。外面はヘラケズリを行う。	無軸。	縷系。 18C後半~19C前半。

第2章 陶 磁 器

大久保遺跡出土陶磁器観察表(5)

番号	器種・種別	出土位置	口径・直径・高さ	胎土の特徴	器形などの特徴	軸割・絵付けなどの特徴	備 考
84	壺 陶器	鉢 28 E-58	- × - × -	赤褐色。	深い窪目を施す。外面はヘラケズリを行う。	無軸。	帯系。 18 C末～19 C前半。
85	壺 陶器	鉢 28 E-58	- × - × -	赤褐色。	深い窪目を施す。外面はヘラケズリを行う。	無軸。	帯系。 18 C末～19 C前半。
86	壺 陶器	鉢 28 E-58	- × (16.2) × -	赤褐色。	深い窪目を施す。外面はヘラケズリを行う。	無軸。	帯系。 18 C末～19 C前半。
87	壺 陶器	鉢 28 E-58	- × (16.2) × -	赤褐色。	深い窪目を施す。外面はヘラケズリを行う。	無軸。	帯系。 18 C末～19 C前半。
88	壺 陶器	鉢 28 E-58	- × (14.6) × -	赤褐色。	深い窪目を施す。外面はヘラケズリを行う。	無軸。	帯系。 18 C末～19 C前半。
89	壺 陶器	鉢 28 E-58	- × (15.9) × -	赤褐色。	9本単位の深い窪目を施す。外面はヘラケズリを行う。底部外面に板状正痕残る。	無軸。	帯系。 18 C末～19 C前半。
90	鉢形 軟質陶器	鉢 28 E-58	(23.4) × - × -	器表・断面中央は黒色。器表付近は灰白色。	口縁部を外方に折り曲げる。体部は直線的に開く。体部外面に彫り筋。		在地製。 18 C。
91	火 軟質陶器	鉢 28 E-58	(2.06) × - × -	器表・断面中央は黒灰色。器表付近は灰白色。	体部は内湾し、口縁部は内側に折り曲げる。口縁部はヨコナデ調整。内面はナデ調整。外面はヘラナデ調整。		在地製。 18～19 C。
92	陶胎染付 陶器	鉢 28 E-58	(9.5) × - × -	灰色。	口縁部は内湾気味に立ち上がる。	具環の発色は鈍い。オリーブ灰色の透明釉を施す。粗い貫入が入る。	伊万里系。 18 C。
93	灰釉小碗 陶器	E区西側 溝道	6.2×2.7×4.0	灰白色。	口縁部はほぼ直立する。体部下半はヘラケズリを行う。	粗い貫入の入る。灰釉を施す。高台縁以下は無軸。	瀬戸・美濃系。 18 C。
94	陶胎染付火 入れ? 陶器	表土	(9.0) × - × -	灰色。 粗い。	口縁部を内面に折り返して厚くする。体部は直立する。	具環は青灰色に発色する。透明釉を口縁部内面から体部外面に施す。軸には貫入が入り、光沢はない。	伊万里系。 17 C末～18 C前半。
95	灰釉鉢? 陶器	表土	(21.0) × - × -	灰色。	体部は広く開き、口縁部は外反する。	貫入の入る灰釉を施す。	瀬戸・美濃系。 不明。
96	灰釉燈明 陶器	60 E 26～ 28	(7.8) × (4.3) × (1.7)	淡黄色。	口縁部は内湾する。内面に目皿一つ残る。外面には重ね脱き痕が残る。底部回転糸切り。	内面から口縁部外面に灰釉を施す。貫入が入る。	製作地不詳。 18 C後半～19 C前半。
97	燈明 受け 陶器	2号住居	- × 5.2 × 2.4	灰色。	受け部は高い。外面はヘラケズリを行う。	内面に轉軸を施す。外面は無軸。	製作地不詳。 19 C。
98	灰釉線り 陶器	60 E 26～ 28	- × - × -	淡黄色。	内面に目皿一つ残る。	灰釉を施す。	瀬戸・美濃系。 17～19 C。
99	壺 陶器	鉢 E区西側 溝道	(30.0) × - × -	灰白色。	口縁部は折り返し、やや厚く造る。口縁部内面に浅い沈線を2条巡らす。	磨釉を施す。	瀬戸・美濃系。 18 C後半。
100	灰 軸 陶器	60 E 26～ 28	- × (9.6) × -	灰白色。 粗い。	体部外面下位はヘラケズリを行う。	貫入の入る灰釉を施す。高台縁以下は無軸。	瀬戸・美濃系。 18～19 C。
101	手あぶり 軟質陶器	60 E 26～ 28	- × (18.3) × -	器表は黒灰色。断面は暗赤灰色。	体部は直線的に開く。底部に丸い脚を貼り付ける。		在地製。 18～19 C。
102	灰 軸 陶器	表土	- × (23.2) × -	灰白色。	目皿一つ残る。貼り付け高台。	鉄釉を施す。高台縁以下の軸を拭き取る。	瀬戸・美濃系。 18～19 C。

表採遺物

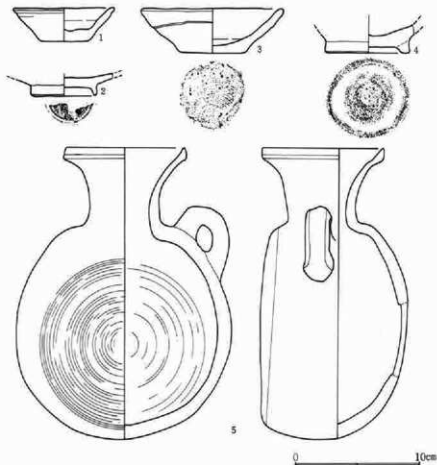


Fig.578 表採遺物

溝・三の宮・表採出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
578-1 165	土師器 小皿	口-8.0 高-2.6 底-3.8	溝		①良好②褐色③細砂粒含む ④%残存
578-2 165	須恵器 埴	底-5.1	溝	高部回転糸切付高台	①良好②褐色③1~2mmの 砂粒含む④底部残存
578-3 165	土師器 坏	口-11.4 高-3.5 底-5.2	三の宮 頂上	底部回転糸切外面ナデ	①良好②褐色③細砂粒含む ④%残存
578-4 165	土師器 埴	底-6.5	三の宮 頂上	付高台底部回転調整	①良好②よい褐色③細砂 粒含む④底部残存
578-5 165	須恵器 提瓶	口-9.7 高-22.9	表採	口縁部横をもつ取手が付く	①良好②灰白色③細砂粒含む ④%残存

写 真 图 版



1号住居跡



2・3号住居跡



4号住居跡



5号住居跡



5号住居跡壙



6号住居跡



6号住居跡壙

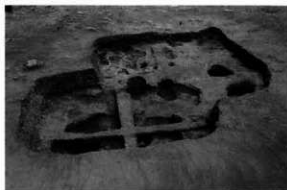


8号住居跡

PL - 2



8号住居跡壘



9・16号住居跡掘り方



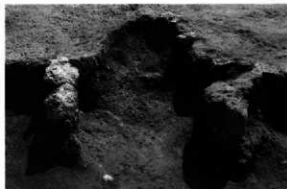
9号住居跡壘



10号住居跡



11・12号住居跡



11号住居跡壘



12号住居跡遺物



13号住居跡



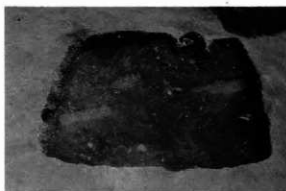
13号住居跡竈



14号住居跡掘り方



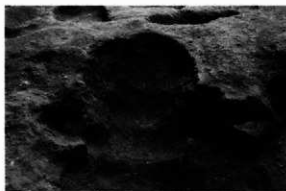
14号住居跡



15号住居跡



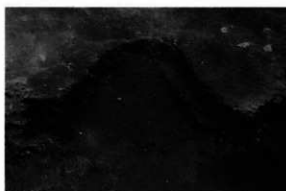
16号住居跡



16号住居跡掘り方



17号住居跡



17号住居跡竈

PL - 4



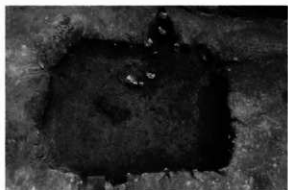
18号住居跡



18号住居跡竈



18号住居跡遺物



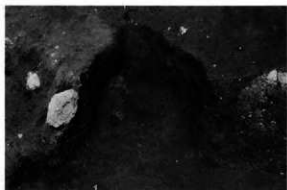
19号住居跡



19号住居跡竈



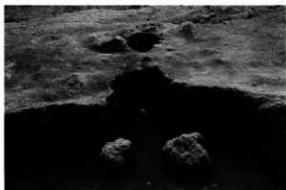
20号住居跡



20号住居跡竈



21号住居跡



21号住居跡竈



21号住居跡竈煙道部



21号住居跡馬の歯



22・24号住居跡



22号住居跡竈



24号住居跡竈



23号住居跡



23号住居跡竈掘り方

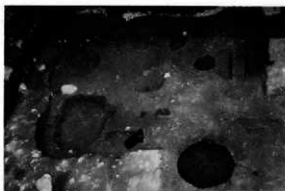
PL - 6



25・26号住居跡



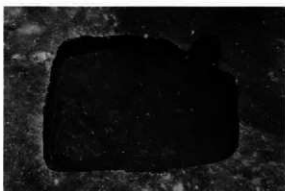
25号住居跡遺物



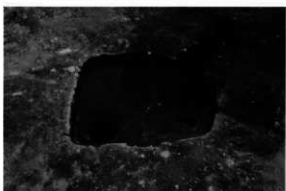
26号住居跡掘り方



27号住居跡



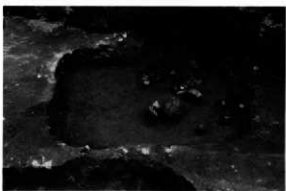
28号住居跡



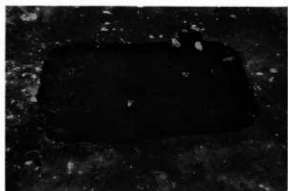
28号住居跡掘り方



28号住居跡竈



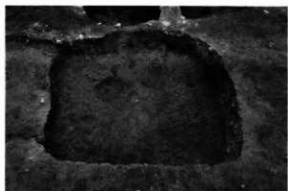
29号住居跡



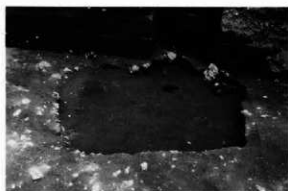
30号住居跡



30号住居跡竈



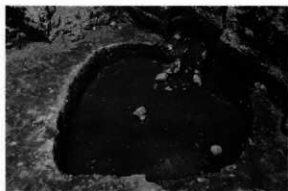
31号住居跡



32号住居跡掘り方



32号住居跡竈



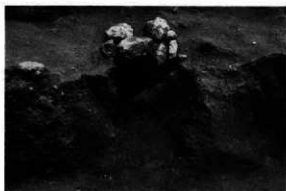
33号住居跡



33号住居跡竈



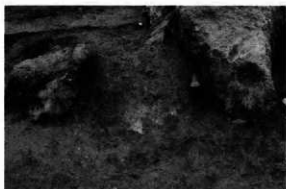
34号住居跡



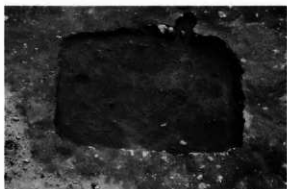
34号住居跡遺



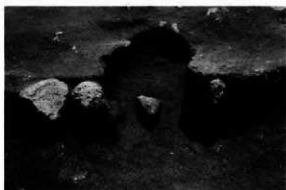
35号住居跡



35号住居跡遺



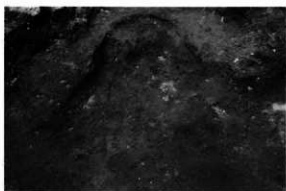
36号住居跡



36号住居跡遺



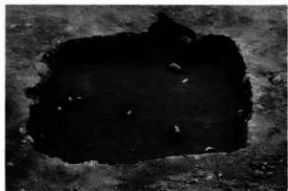
37号住居跡



37号住居跡遺



37号住居跡遺物



38号住居跡



38号住居跡竈



40号住居跡



40号住居跡



40号住居跡竈



40号住居跡竈



40号住居跡竈

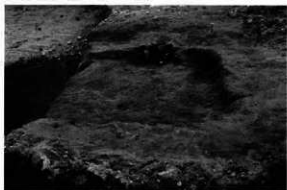


40号住居跡竈

PL-10



41号住居跡



42号住居跡



42号住居跡竈



43号住居跡



43号住居跡1・2号竈



43号住居跡1号竈



43号住居跡2号竈



44号住居跡



48号住居跡



50号住居跡



50号住居跡



51号住居跡



52号住居跡



52号住居跡

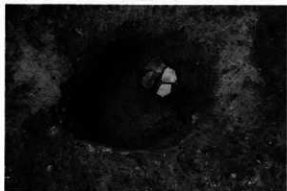


53号住居跡

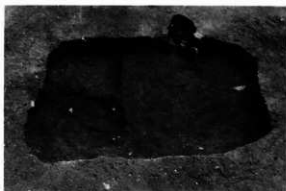


53号住居跡

PL-12



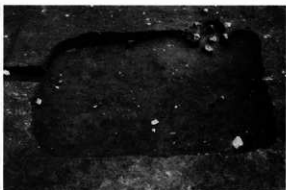
53号住居跡貯藏穴



55号住居跡



55号住居跡竈



56号住居跡



56号住居跡竈



57号住居跡竈



58号住居跡



58号住居跡竈



59号住居跡



59号住居跡壙



61・62・63号住居跡



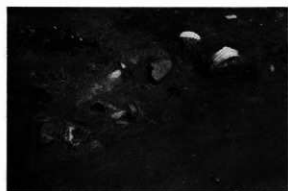
61号住居跡壙



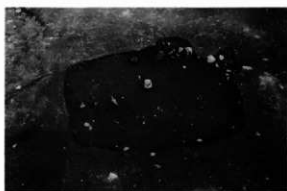
62号住居跡壙



62号住居跡壙



63号住居跡壙



65号住居跡

PL-14



65号住居跡遺



65号住居跡遺



65号住居跡鉄製品



67号住居跡



67号住居跡小穴



68号住居跡



69号住居跡



69号住居跡遺物



70号住居跡



70号住居跡



70号住居跡遺物



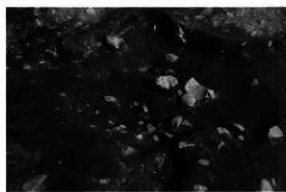
71号住居跡



79号住居跡



80号住居跡



80号住居跡



81号住居跡

PL-16



92号住居跡掘り方



92号住居跡竈



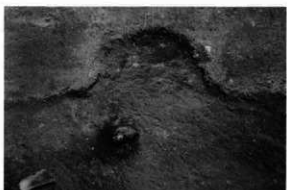
93号住居跡



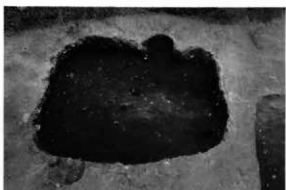
93号住居跡竈



94号住居跡



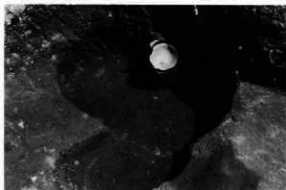
94号住居跡竈



95号住居跡



95号住居跡竈



95号住居跡貯蔵穴遺物



96号住居跡



96号住居跡壘



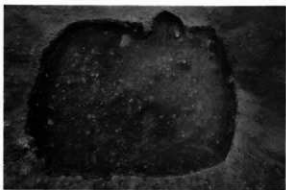
96号住居跡遺物



97号住居跡



97号住居跡壘

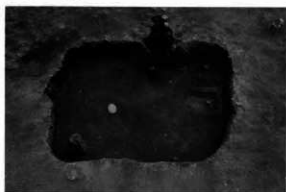


98号住居跡



98号住居跡壘

PL-18



99号住居跡



99号住居跡



99号住居跡



99号住居跡



100号住居跡



101号住居跡



101号住居跡



102号住居跡



102号住居跡庵



103号住居跡



103号住居跡庵



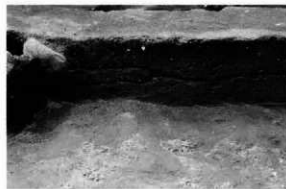
103号住居跡庵



104号住居跡



104号住居跡庵



104号住居跡セクションB軽石



104号住居跡セクションB軽石



105号住居跡



105号住居跡竈



105号住居跡小穴



106号住居跡竈



107号住居跡



107号住居跡竈



107号住居跡竈掘り方



108号住居跡



108号住居跡遺



108号住居跡遺



109号住居跡遺



110・111・112・143号住居跡



110号住居跡遺



110号住居跡遺



110号住居跡鉄製品



112号住居跡



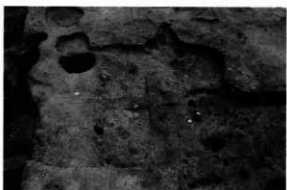
112・143号住居跡



112号住居跡



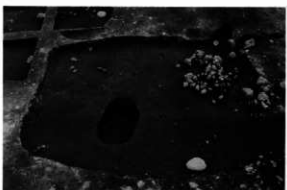
113号住居跡



114号住居跡



114号住居跡



115号住居跡



115号住居跡



116号住居跡掘り方



116号住居跡竈



118号住居跡



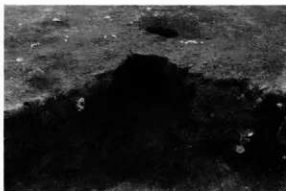
118号住居跡竈



119号住居跡



119号住居跡1号竈



119号住居跡2号竈



119号住居跡2号竈



120号住居跡



120号住居跡窠



121号住居跡



121号住居跡窠



122号住居跡



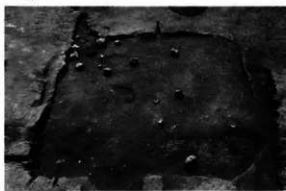
123号住居跡



123号住居跡窠



123号住居跡窠



124号住居跡



124号住居跡竈



125号住居跡



125号住居跡鉄製品



126号住居跡・228号土坑



126号住居跡竈



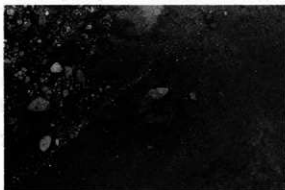
127・141号住居跡



127号住居跡竈



129号住居跡・226号土坑



129号住居跡鉄製品



130号住居跡



130号住居跡竈



131号住居跡



132・133号住居跡



134号住居跡



134号住居跡竈



135号住居跡



135号住居跡窠



136号住居跡



136号住居跡窠



137号住居跡・225号墓壙



137号住居跡南北セクション
(浅間B 榊石垣積状況)



225号墓壙遺物



138号住居跡



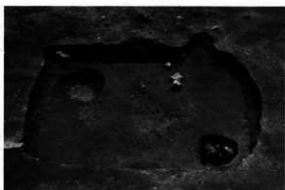
138号住居跡窠



138号住居跡竈周辺遺物



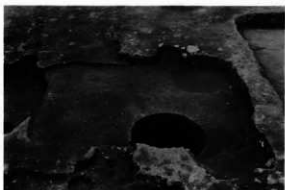
138号住居跡竈周辺遺物



139号住居跡



139号住居跡竈



140号住居跡



140号住居跡竈



143号住居跡竈



145号住居跡



145号住居跡竈



146号住居跡



146号住居跡竈



146号住居跡遺物



146号住居跡遺物



147号住居跡



147号住居跡竈



148号住居跡



148号住居跡



149号住居跡



149号住居跡



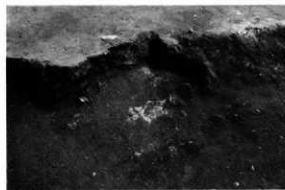
150号住居跡



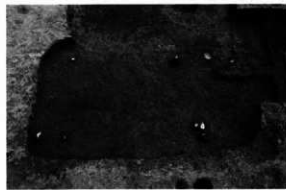
150号住居跡



151号住居跡



151号住居跡



152号住居跡



152号住居跡



153号住居跡



153号住居跡



154号住居跡



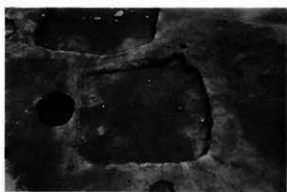
154号住居跡



155号住居跡



155号住居跡



156号住居跡



156号住居跡



156号住居跡



157号住居跡



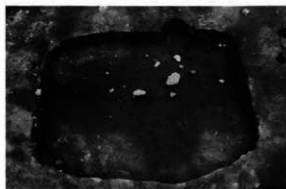
157号住居跡



158号住居跡



158号住居跡



159号住居跡



159号住居跡



160号住居跡



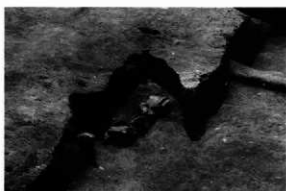
160号住居跡鉄製品



161号住居跡



161号住居跡1号壺



161号住居跡2号壺



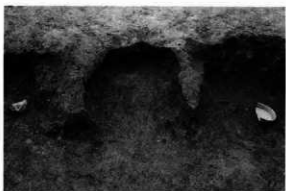
162号住居跡



162号住居跡壺



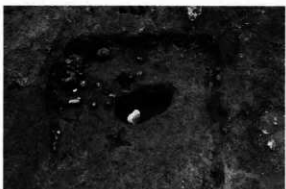
163号住居跡



163号住居跡窠



164号住居跡



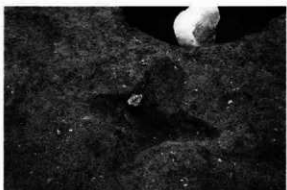
165号住居跡



165号住居跡遺物



165号住居跡遺物



165号住居跡小炉



166号住居跡



166号住居跡窠



167号住居跡



167号住居跡竈



168号住居跡



168号住居跡竈



168号住居跡竈周辺遺物



168号住居跡竈



168号住居跡竈周辺遺物



168号住居跡竈



169号住居跡



169号住居跡竈



170号住居跡



171号住居跡



171号住居跡遺物



172号住居跡



172号住居跡竈



173号住居跡



174号住居跡



174号住居跡竈



174号住居跡竈掘り方



175号住居跡



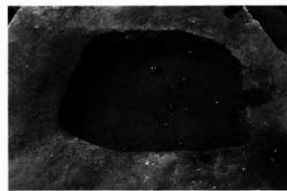
175号住居跡竈



176号住居跡



176号住居跡竈



177号住居跡



177号住居跡遺物



178号住居跡



178号住居跡竈



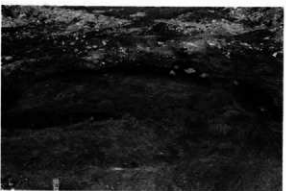
178号住居跡竈掘り方



179号住居跡



181号住居跡



182号住居跡



182号住居跡竈



183号住居跡



183号住居跡壙



184号住居跡



184号住居跡壙



186号住居跡



186号住居跡壙



187号住居跡



187号住居跡壙

PL-40



188号住居跡



188号住居跡竈



189号住居跡



189号住居跡遺物



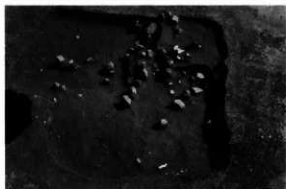
190・191号住居跡



190号住居跡竈



191号住居跡竈



193号住居跡



193号住居跡



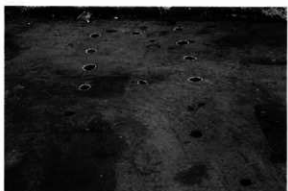
193号住居跡



194号住居跡



194号住居跡



F区東側獨立柱建物跡



1号井戸



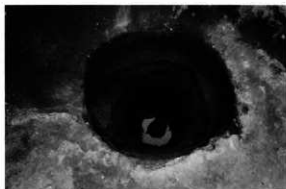
2号井戸



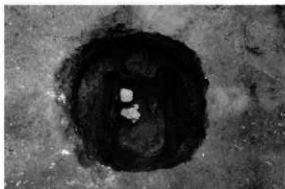
3号井戸



4号井戸



5号井戸



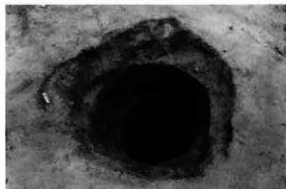
5号井戸遺物



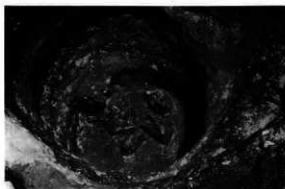
7号井戸



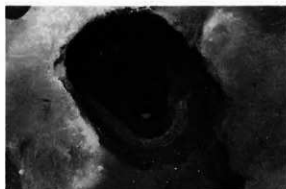
8号井戸



9号井戸



9号井戸人骨



10号井戸



11号井戸



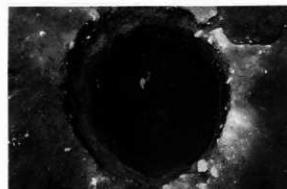
12号井戸



13号井戸



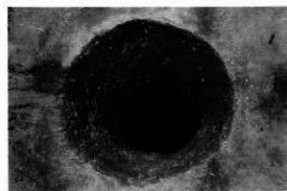
13号井戸遺物(獸骨)



14号井戸



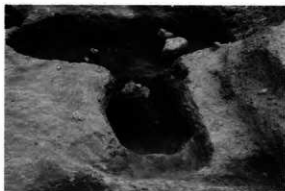
15号井戸



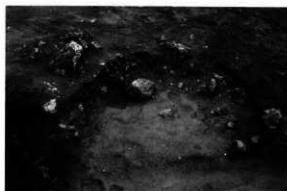
17号井戸



18号井戸



3号土坑



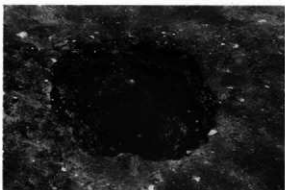
4号土坑



4号土坑遺物



5号土坑



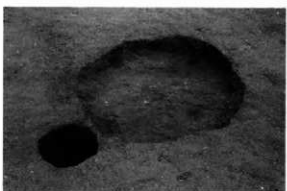
6号土坑



7号土坑



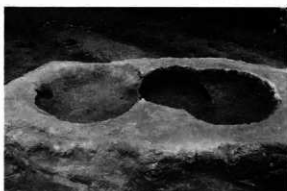
12号土坑



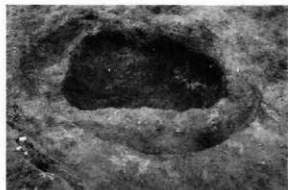
13号土坑



14号土坑



15·16·17号土坑



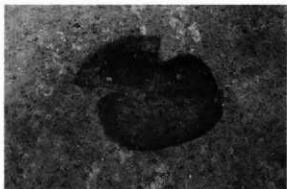
18号土坑



20·21号土坑



22号土坑



23·24号土坑

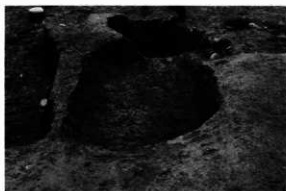


27号土坑①

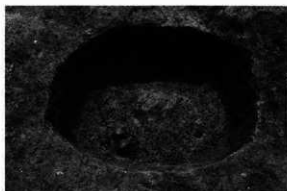


27号土坑②

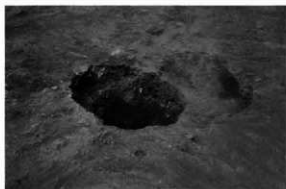
PL-46



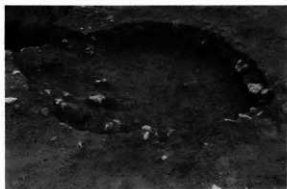
28号土坑



29号土坑



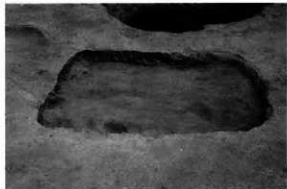
159号土坑



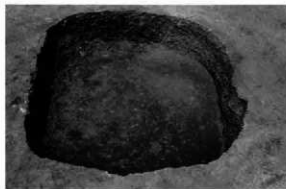
160号土坑



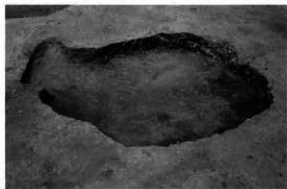
161号土坑



162号土坑



163号土坑



164号土坑



165号土坑



166号土坑



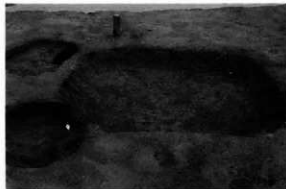
171号土坑



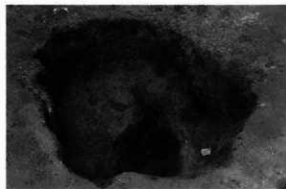
172号土坑



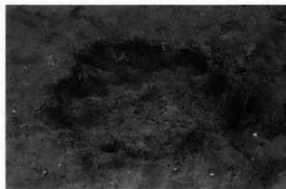
188号土坑



189号土坑



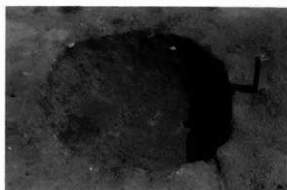
190号土坑



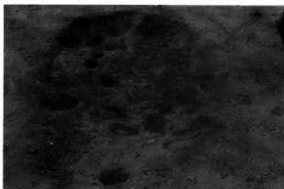
191号土坑



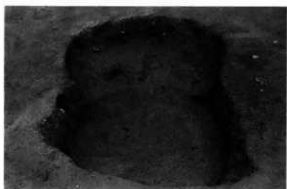
192号土坑



193号土坑



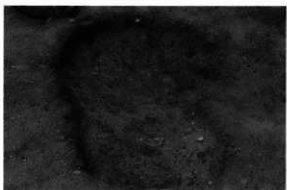
194号土坑



195·196号土坑



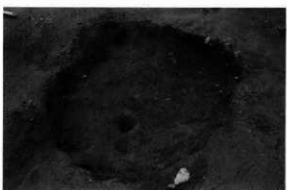
197号土坑



198号土坑



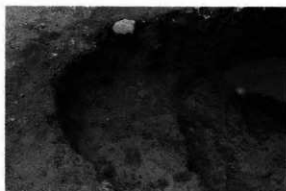
199号土坑



200号土坑



201号土坑



202号土坑



203号土坑



209·210·211·212·213·214号土坑



221号土坑



222号土坑



223号土坑



224号土坑

PL - 50



227号土坑



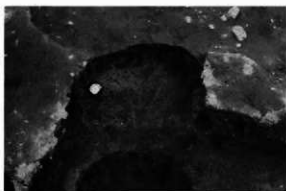
229号土坑



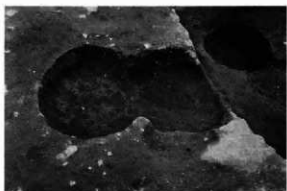
230号土坑



237号土坑



242号土坑



244·246号土坑



245号土坑



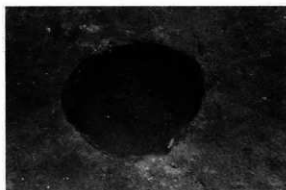
252号土坑



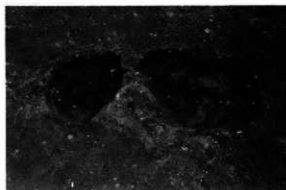
253号土坑



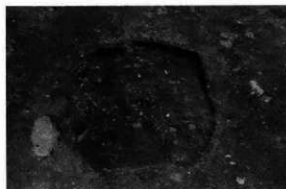
256号土坑



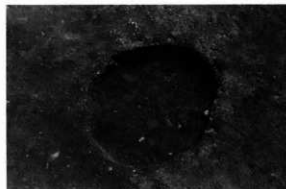
257号土坑



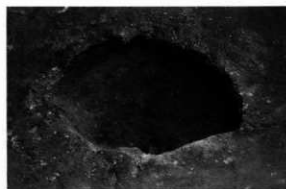
258・282号土坑



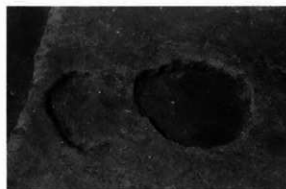
259号土坑



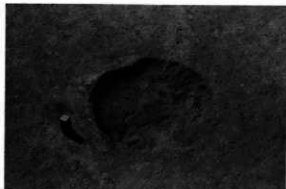
260号土坑



261号土坑



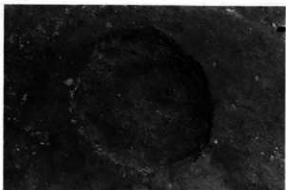
262・263号土坑



264号土坑



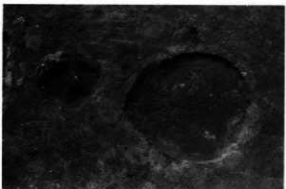
265 · 266 · 267号土坑



268号土坑



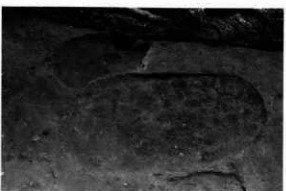
269号土坑



270号土坑



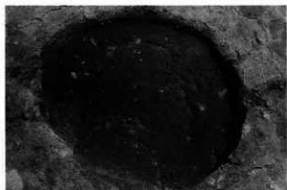
271 · 272号土坑



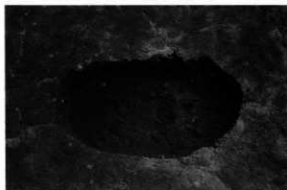
273 · 274号土坑



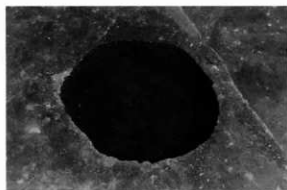
275号土坑



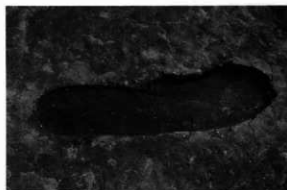
276号土坑



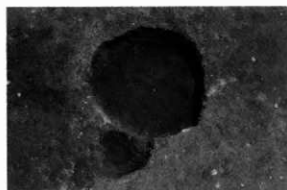
277号土坑



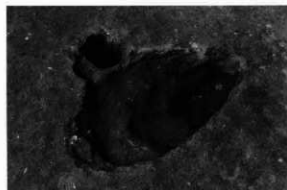
278号土坑



279号土坑



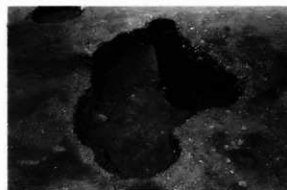
283号土坑



284号土坑



285号土坑

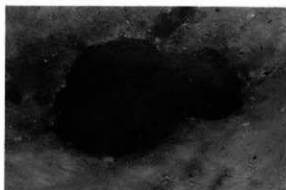


286号土坑

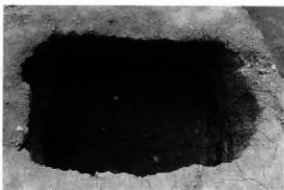
PL-54



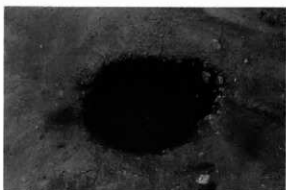
287号土坑



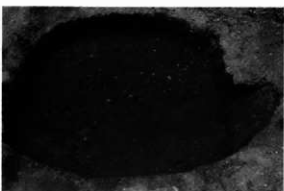
288号土坑



289号土坑



290号土坑



291号土坑



292号土坑



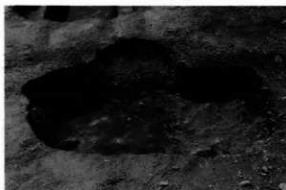
293号土坑



294号土坑



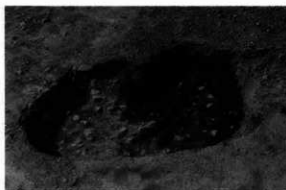
295·296号土坑



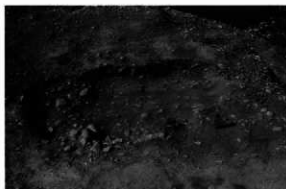
298号土坑



299号土坑



300·301·307号土坑



302号土坑



304·305·306号土坑



308号土坑

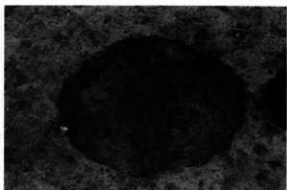


309号土坑

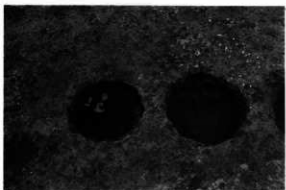
PL - 56



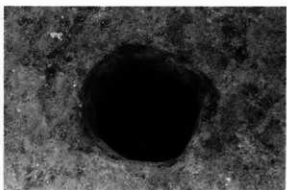
310号土坑



316号土坑



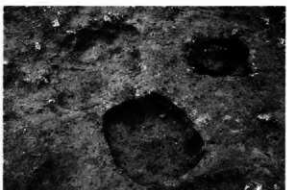
317·318号土坑



319号土坑



321号土坑



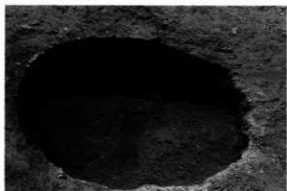
322·323·326号土坑



324号土坑



325号土坑



328号土坑



329号土坑



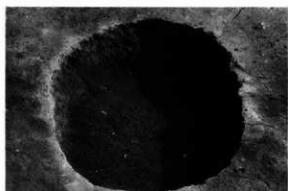
330号土坑



331号土坑



332号土坑



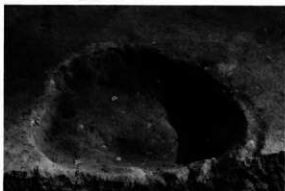
333号土坑



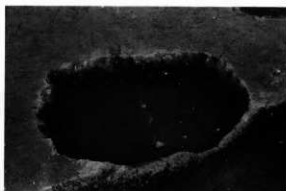
334号土坑



335号土坑



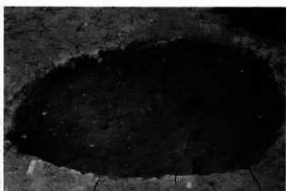
336号土坑



337号土坑



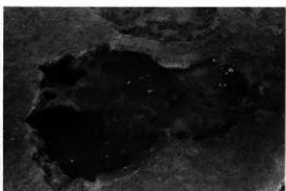
338号土坑



339号土坑



340号土坑



341号土坑



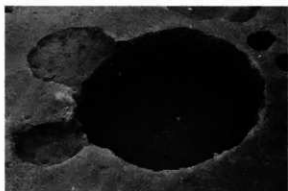
342号土坑



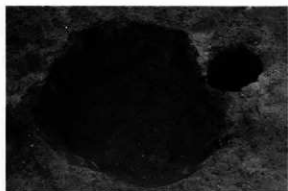
345号土坑



346号土坑



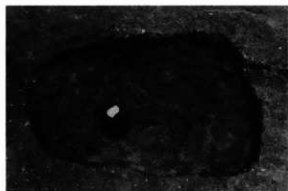
347号土坑



348号土坑



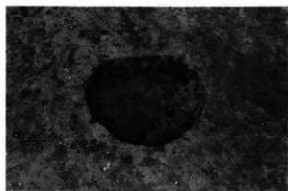
351号土坑



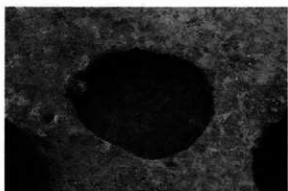
352号土坑



353号土坑



354号土坑

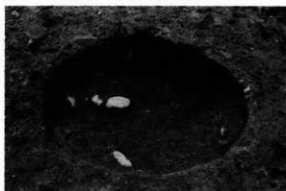


355号土坑

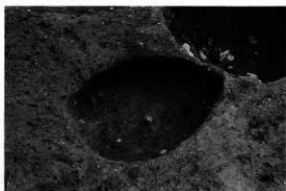
PL-60



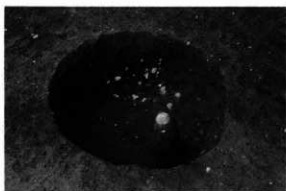
356号土坑



357号土坑



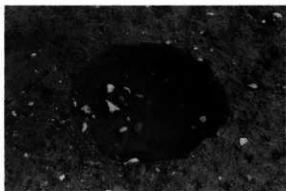
358号土坑



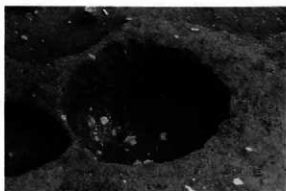
359号土坑



360号土坑



361号土坑



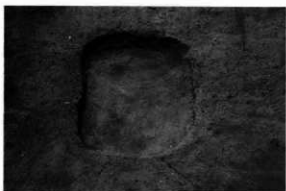
362号土坑



152号墓坑



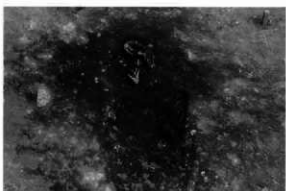
153号墓坑



154号墓坑



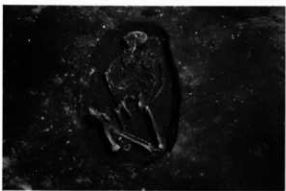
155号墓坑



156号墓坑



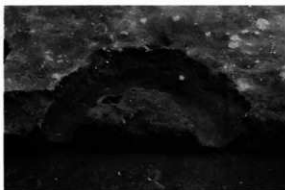
157号墓坑



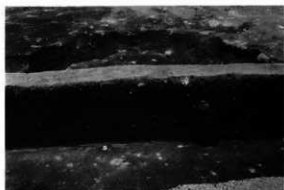
196号墓坑



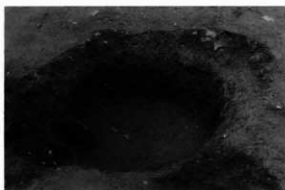
204号墓坑



225号墓墳



225号墓墳セクション



249号墓墳



327号墓墳



327号墓墳遺物



381号墓墳



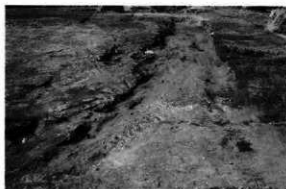
381号墓墳遺物



381号墓墳函



4号溝



4号溝



6号溝セクション



7・8号溝



8号溝



13号溝



14号溝



14号溝

PL - 64



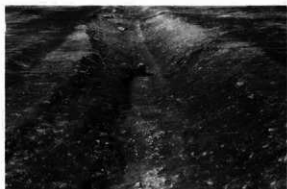
14号溝



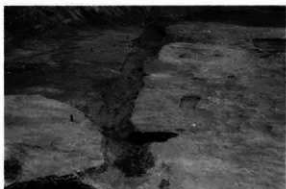
17号溝



27号溝



28号溝



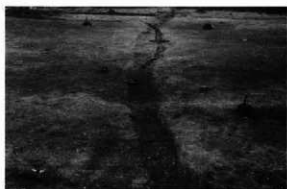
29号溝



32号溝



34号溝



35号溝



38号溝



39号溝



40号溝遺物



43号溝



41・42号溝



45号溝

PL - 66



北カルバート水田



北カルバート水田



水田内畦



北カルバートB水田及び畜境の溝



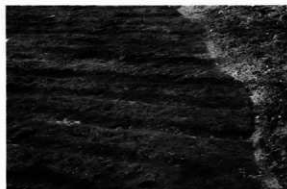
B水田及び畜境の溝



E区B轻石下高



E区B轻石下高



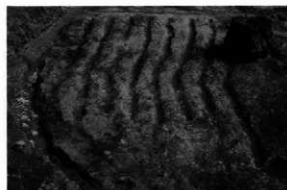
E区B轻石下高



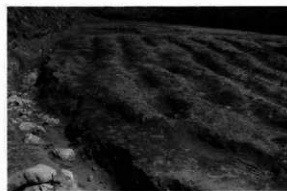
北侧道部B轻石下高



G区中世高



F区东侧道部中世高



G区中世高

PL -68



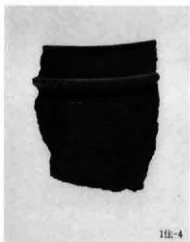
1E-1



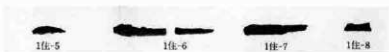
1E-2



1E-3



1E-4



1E-5

1E-6

1E-7

1E-8



2E-1



2E-2



2E-3



2E-4



2E-5



2E-6



2E-7



4E-1



4E-4



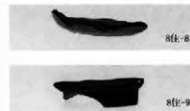
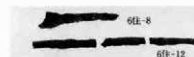
4E-2



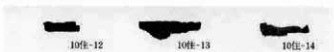
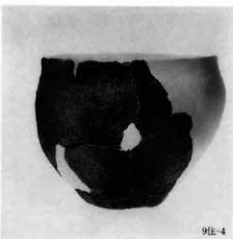
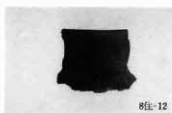
4E-3

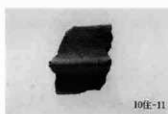


4E-6



PL - 70





PL - 72



12E-8



12E-9



12E-10



13E-1



13E-2



13E-3



13E-4



13E-5



13E-8



13E-6



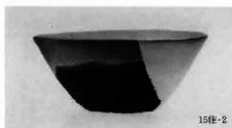
13E-7



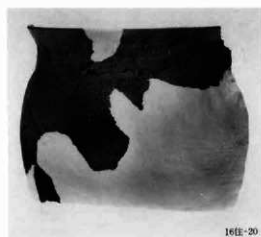
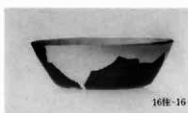
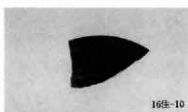
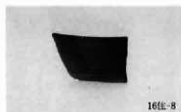
14E-1



14E-2



PL - 74





16E-21



16E-22



17E-1



17E-2



17E-3



17E-4



17E-5



17E-6



17E-7



17E-8



17E-9



17E-10



17E-11



18E-1



18E-2



18E-3



19E-1



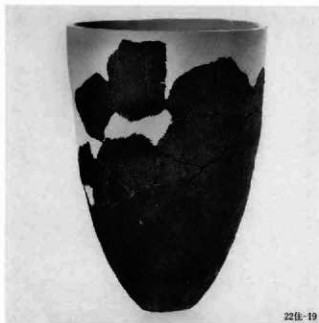
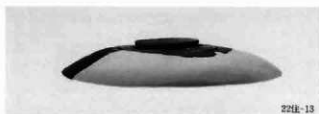
19E-2



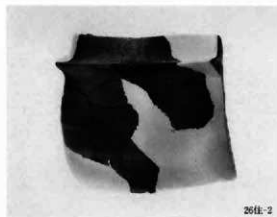
19E-3

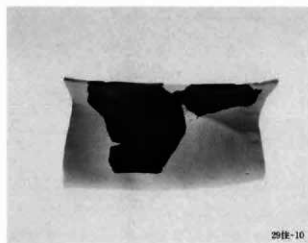
PL - 76





PL - 78









33住-3



34住-5



34住-3



36住-2



34住-4



36住-4



35住-1



35住-10

35住-9



35住-2



35住-3



35住-5



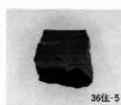
35住-4



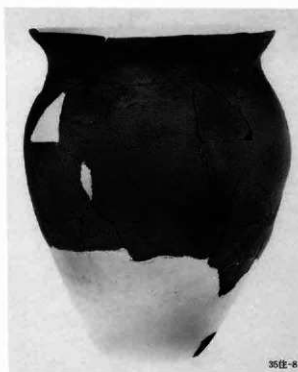
35住-6



36住-1

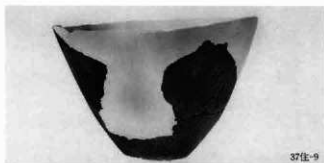


36住-5



35住-8

PL - 82

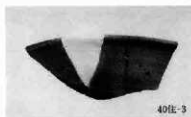




38住-3



40住-2



40住-3



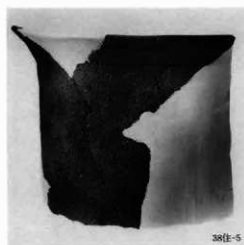
38住-4



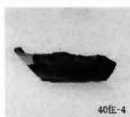
40住-1



40住-6



38住-5



40住-4



40住-7



40住-5



40住-8



40住-9



40住-11



40住-14



40住-10



40住-13



40住-12



40住-15



40住-16



40住-17



41住-1



41住-2



41住-3



41住-4



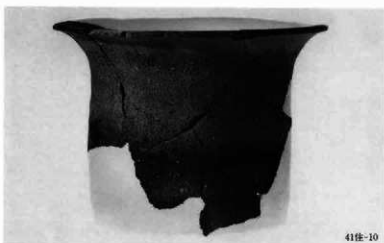
41住-5



41住-6



41住-7



41住-10



41住-8



41住-9



41住-12



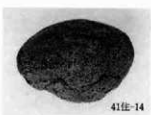
42住-2



42住-3



41住-11

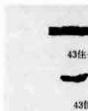
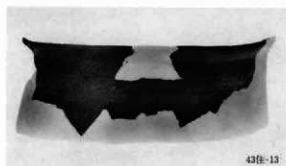


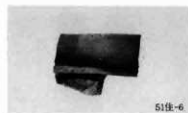
41住-14

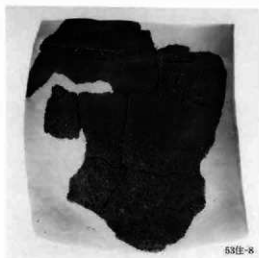


42住-5











53住-10



55住-1



55住-2



55住-3



55住-4



56住-1



56住-2



56住-3



56住-5



56住-6



57住-3



57住-2



56住-4



58住-1



59住-1



59住-2



59住-3



59住-9



58住-2



59住-4



59住-8



59住-10



59住-11



59住-6



59住-5



59住-13



59住-12



56住-7

PL - 90



59住-14



59住-15



59住-16



59住-19



59住-17



59住-20



59住-18



59住-22



59住-21



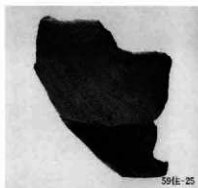
59住-24



59住-23



60住-1



59住-25



59住-28



60住-2



60住-3



60住-4



59住-26



59住-27



61住-1





63住-11



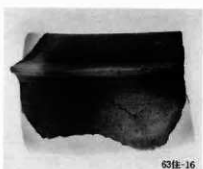
63住-12



63住-14



63住-13



63住-16



63住-15



63住-17



64住-1



64住-3



64住-4



65住-3



65住-1



64住-2



65住-4



65住-2



65住-5



65住-6



65住-7



65住-8



67住-1



67住-2



67住-3



69住-1



68住-2



70住-1



70住-3



70住-2



70住-5



70住-4



79住-3



79住-1



79住-2



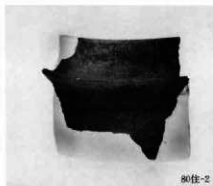
79住-6



79住-7



79住-4



80住-2



80住-4



79住-5



81住-1



80住-1



81住-2

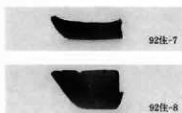


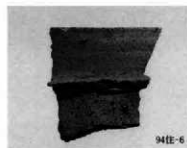
80住-3

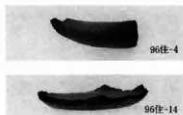
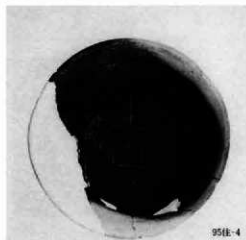


81住-3

PL -94









96住-15



97住-1



97住-2



97住-3



97住-11



97住-5



97住-4



97住-6



97住-7



97住-8



97住-9



97住-10



98住-1



98住-2



98住-3



98住-4



98住-5



98住-6



98住-7



98住-8



98住-10



98住-11

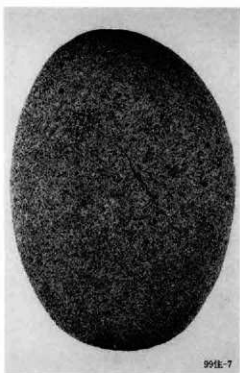
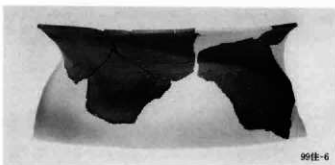
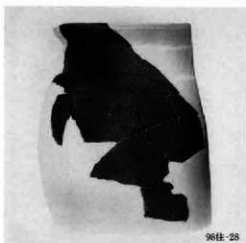


98住-12



98住-14

PL - 98





100住-1



101住-1



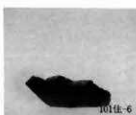
101住-2



101住-3



100住-2



101住-6



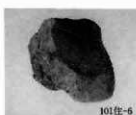
101住-5



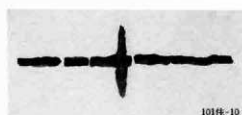
101住-7



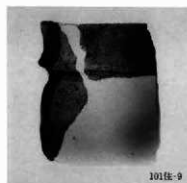
101住-8



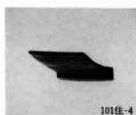
101住-6



101住-10



101住-9



101住-4



102住-6



102住-1



102住-2



102住-3



102住-5

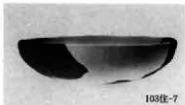
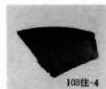
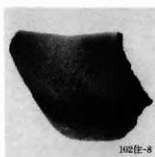
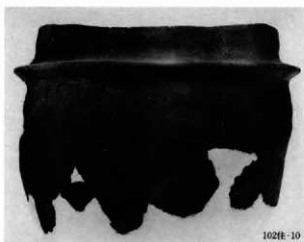


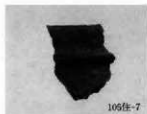
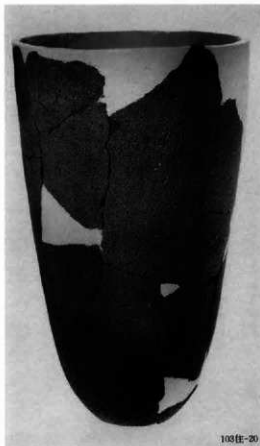
102住-4



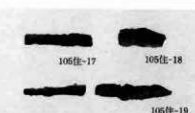
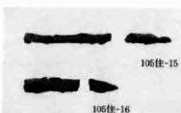
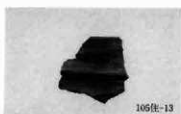
102住-7

PL - 100



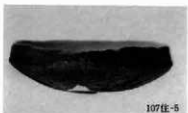
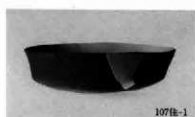


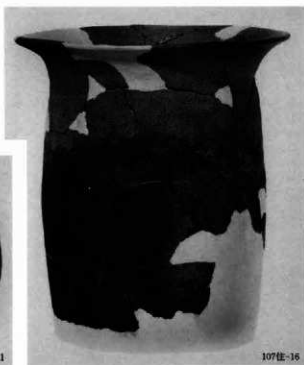
PL - 102

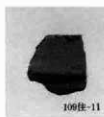
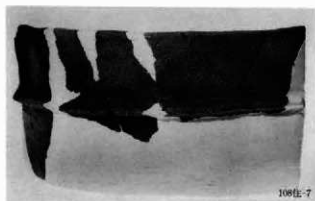


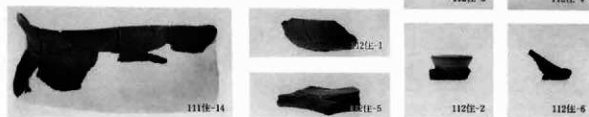
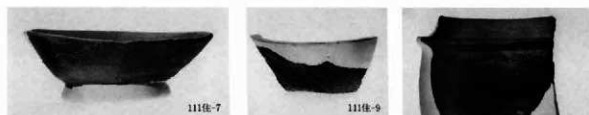
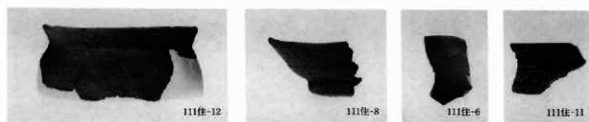
105住-18

106住-19





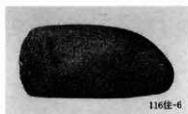


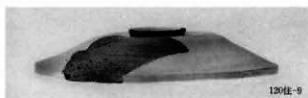
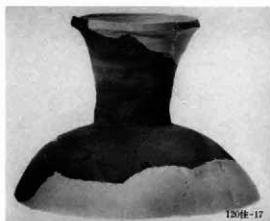




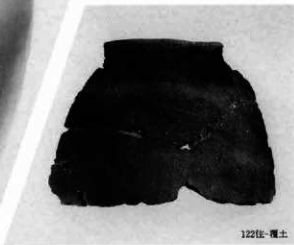


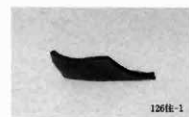
PL - 108



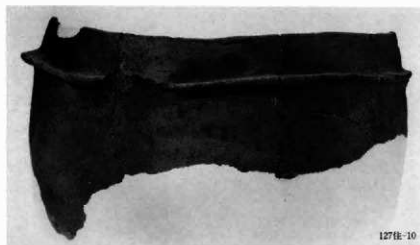


PL-110





PL - 112





127住-9



127住-12



127住-15



127住-14



127住-16



130住-1



130住-2



127住-17



130住-4



129住-1



130住-11



130住-3



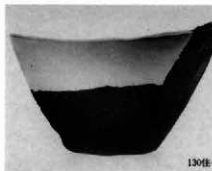
130住-5



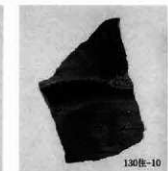
130住-9



130住-6



130住-7



130住-10



130住-8



131住-1



131住-2

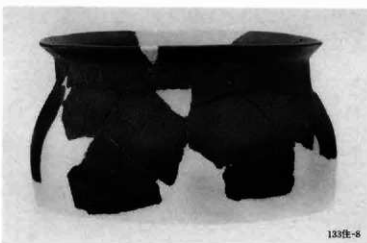
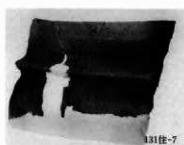


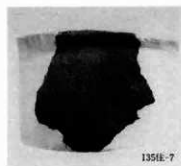
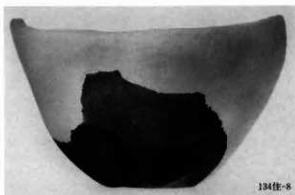
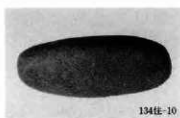
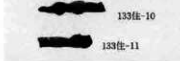
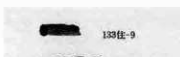
130住-13



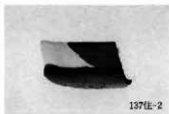
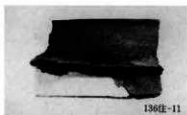
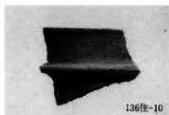
131住-12

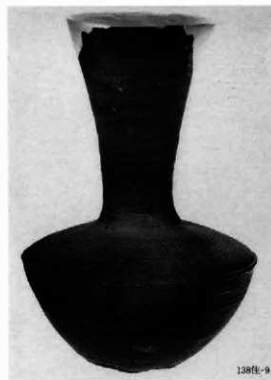
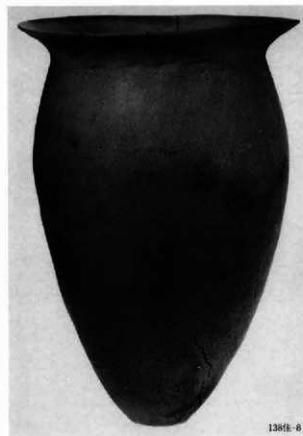
PL - 114

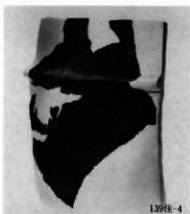
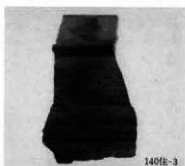




PL - 116

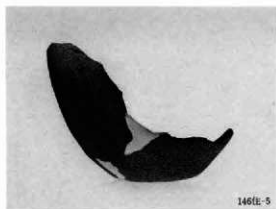
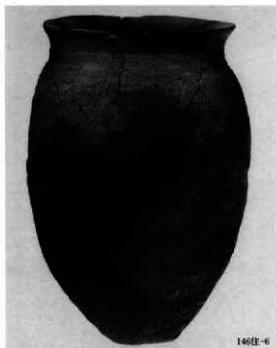








PL - 120





148住-1



148住-3



147住-2



149住-2



149住-4



149住-3



149住-6



149住-5



150住-1



149住-7



149住-8



150住-3

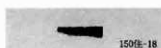


150住-4



150住-7

PL - 122

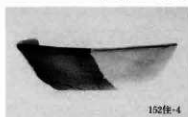




152住-3



152住-2



152住-4



152住-5



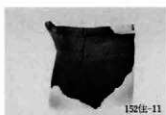
153住-8



152住-7



152住-6



152住-11



153住-1



152住-9



152住-12



152住-8



152住-13



152住-10



153住-2



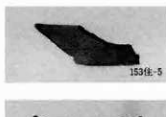
153住-6



153住-7



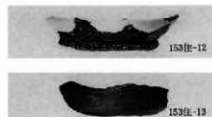
153住-15



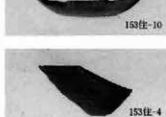
153住-5



153住-11



153住-12



153住-10



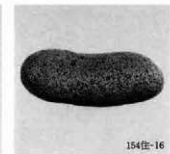
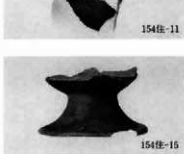
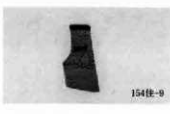
153住-14

153住-13

153住-4

153住-16

PL - 124





155E-1



155E-2



155E-3



155E-11



155E-9



155E-5



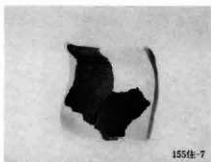
155E-6



156E-3



155E-12



155E-7



156E-10



155E-8



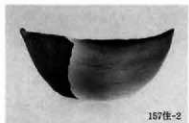
156E-1



156E-2



155E-4



157E-2



157E-1



157E-3



159E-1



159E-2



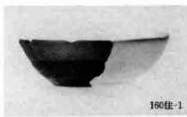
159E-3



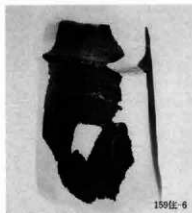
159住-4



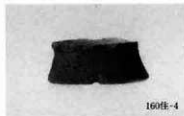
159住-5



160住-1



159住-6



160住-4



160住-3



160住-6



160住-2



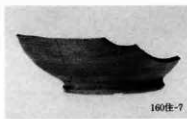
160住-14



160住-11



160住-8



160住-7



160住-12



160住-9



160住-10



160住-5



160住-15

160住-16

160住-17

160住-18

160住-19

160住-20

160住-21



161住-1



161住-3



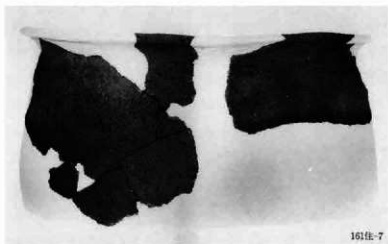
161住-5



161住-2



161住-4



161住-7



161住-6



161住-8



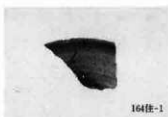
162住-1



162住-3



163住-4



164住-1



163住-1



163住-5



164住-2



163住-2



162住-2



164住-3



164住-4

PL - 128



164ft-7



165ft-1



165ft-2



164ft-5



165ft-3



165ft-4



164ft-6



165ft-15



165ft-5



165ft-10



165ft-9



165ft-6



165ft-11



165ft-13



165ft-7



165ft-8



166ft-2



166ft-4



166ft-3



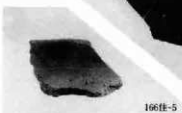
165住-14



165住-12



166住-1



166住-5



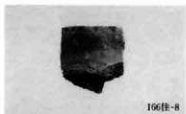
166住-6



166住-7



166住-11



166住-8



166住-10



167住-1



167住-2

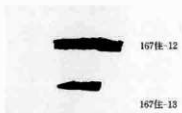
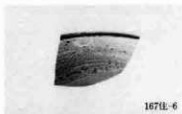


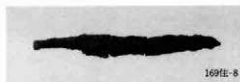
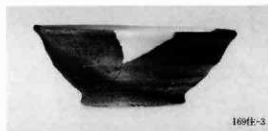
167住-3

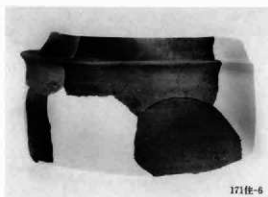


167住-4

PL - 130









171住-11



171住-12



172住-1



172住-2



172住-3



172住-4



174住-2



174住-3



174住-1



175住-1



175住-2



174住-4



175住-3



175住-8



175住-6



175住-4

PL - 134



175E-5



175E-11



175E-9



175E-7



175E-10



176E-1



176E-2



176E-3



176E-4



176E-5



176E-6



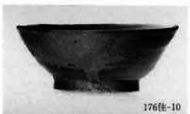
176E-7



176E-8



176E-9



176E-10



176E-12



176E-13



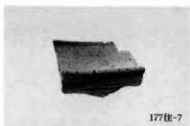
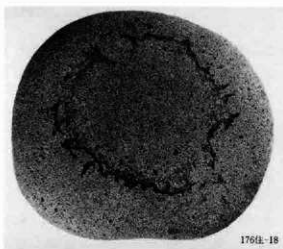
176E-16



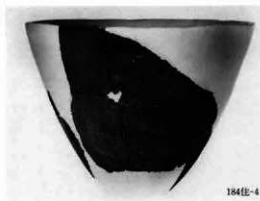
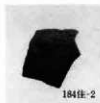
176E-11



176E-14



PL - 136





187住-1



187住-4



189住-2



188住-1



188住-2



189住-3



188住-4



190住-5



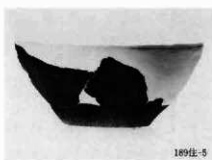
189住-4



189住-6



189住-8



189住-5



189住-1



190住-2



190住-12

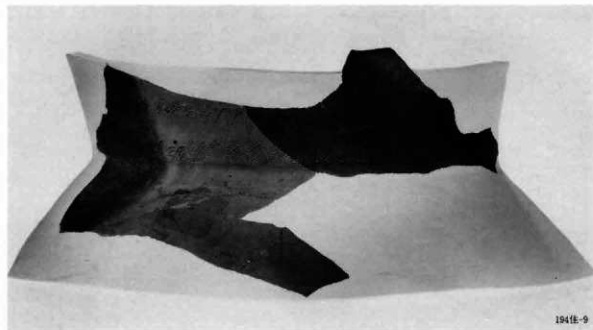
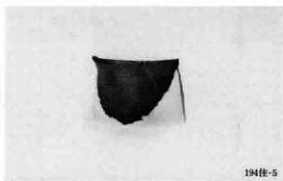
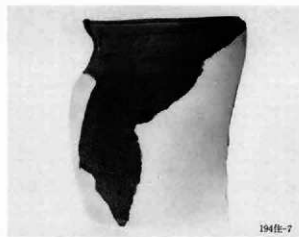


189住-7



190住-4









±-13



±-16



±-18



±-20



±-22



±-37



±-24



±-25



±-25



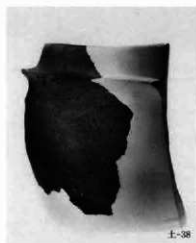
±-23



±-26



±-33



±-38



±-27



±-28



±-29



±-32



±-35



±-39



±-34



±-31



±-30

PL-142



土-33



土-52



土-40



土-43



土-42



土-41



土-44



351土



土-47



器-1



器-7



308土



器-6



器-2



器-3



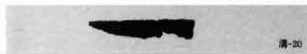
器-4



器-8

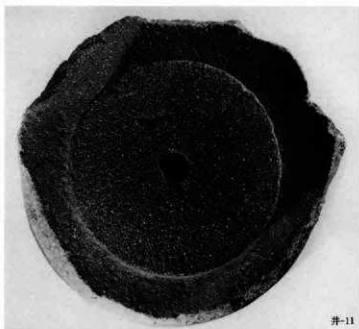


器-5



PL - 144





井-11



井-13



井-11



井-22



井-12



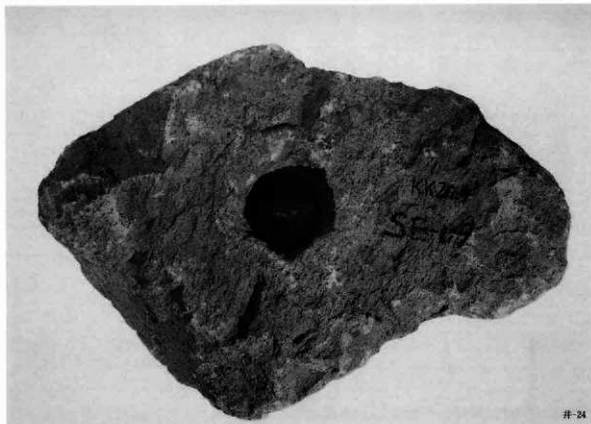
井-12



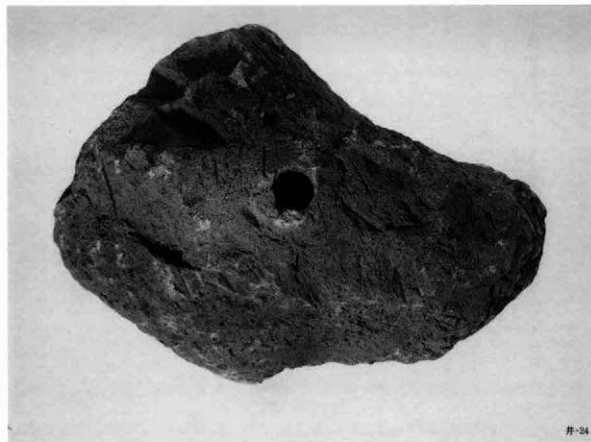
井-23



PL - 147

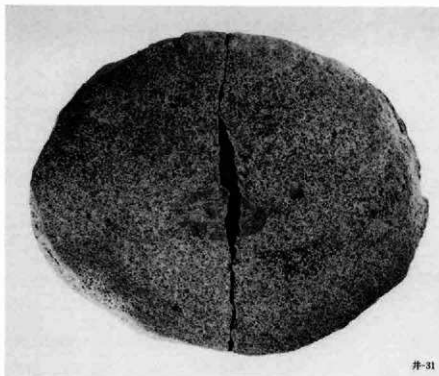


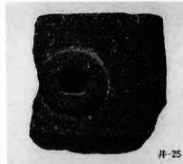
并-24



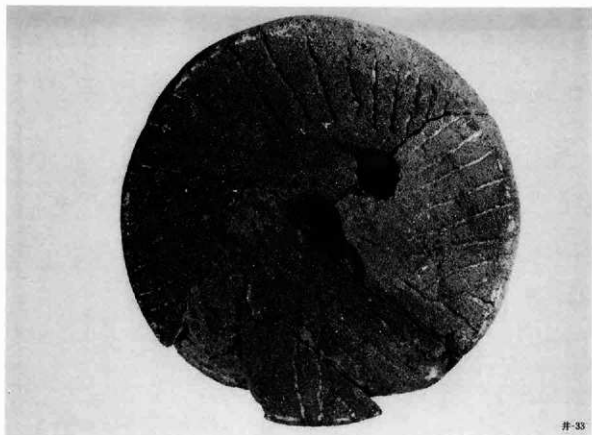
并-24

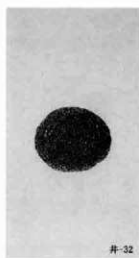
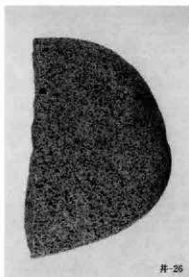
PL - 148

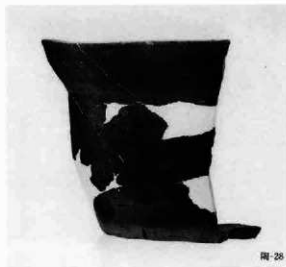
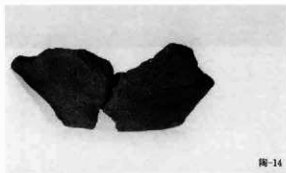
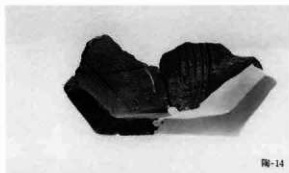




PL - 150







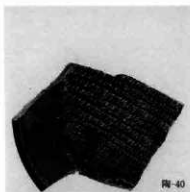




陶-29



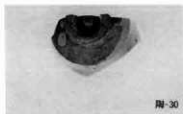
陶-30



陶-40



陶-29



陶-30



陶-40



陶-36



陶-42



陶-41



陶-35



陶-35



磁-1



磁-3



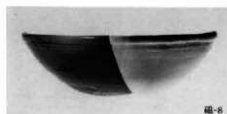
磁-2



磁-4



磁-5



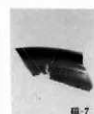
磁-6



磁-6



磁-12



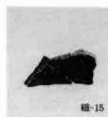
磁-7



磁-9



磁-11



磁-15



磁-10



磁-13



磁-14



表-1



表



表-2



表-4



表



表-3



表



表-7



表-6



表-10



表



表-9

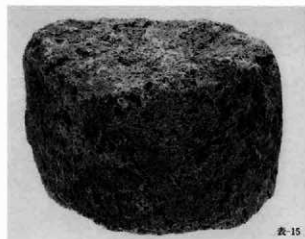


表-15



表-16



表-9



表-14



表-11



表-13



表-13



表探



表探



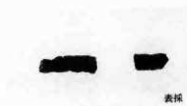
表探



表-12



表-12



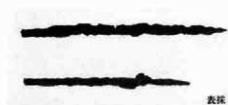
表探



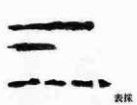
表探



表探



表探



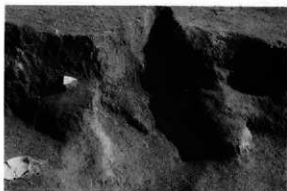
表探



表探



1号住居跡



1号住居跡竈



2号住居跡



2号住居跡竈



2号住居跡竈



3号住居跡



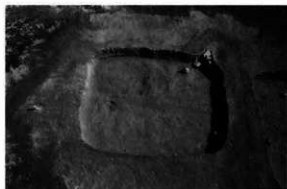
3号住居跡竈



4号住居跡



4号住居跡



5号住居跡



5号住居跡



6号住居跡



6号住居跡



1号掘立柱建物跡



1号井戸



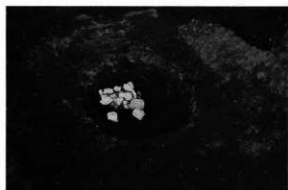
2号井戸



2号井戸



7・8号土坑



8号土坑



2号溝



3号溝



4号溝



6号溝



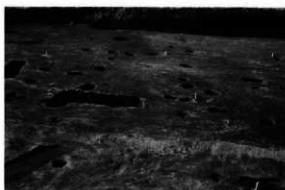
B区B 轄石下 窟



B区B 轄石下 窟



B区東側道 窟



E区西側側道部小穴 群



E区西側側道部小穴 群



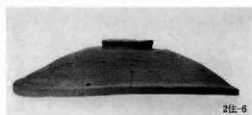
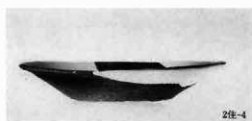
E区カルバート 窟



E区西側 窟

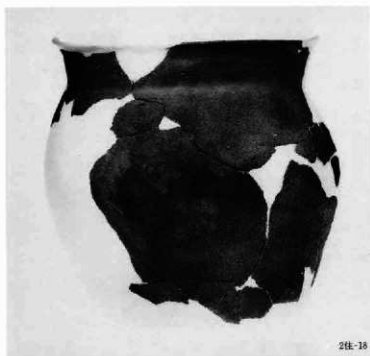


E区西側 窟

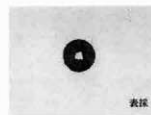


PL - 162











陶-4



陶-2



陶-2



陶-5



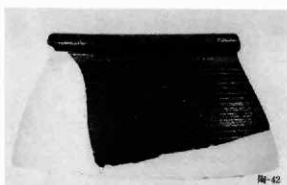
陶-3



陶-3



陶-40



陶-42



陶-38



陶-38



陶-37



陶-37



陶-45



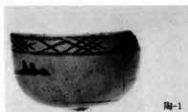
陶-34



陶-44



陶-1



陶-1



陶-44



陶-19



陶-7



陶-19



陶-7



陶-12



陶-27



陶-36



陶-36



陶-27



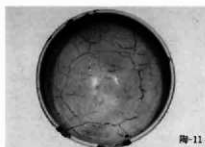
陶-12



陶-16



陶-16



陶-11



陶-25



陶-25



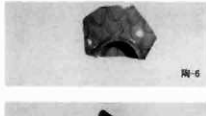
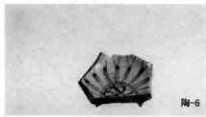
陶-11

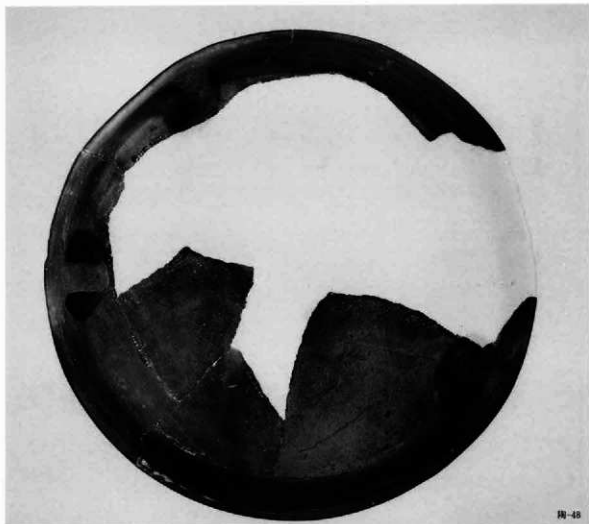
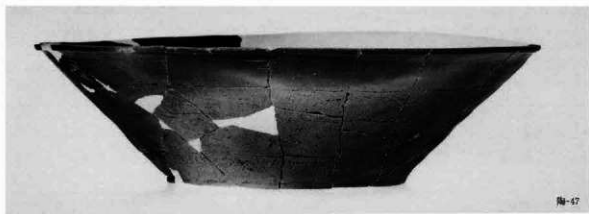


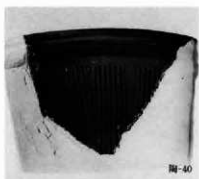
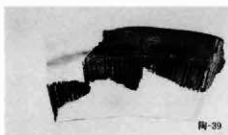
陶-9

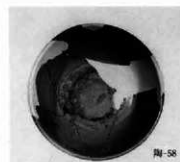
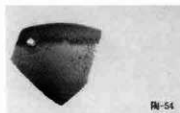
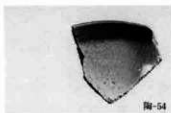
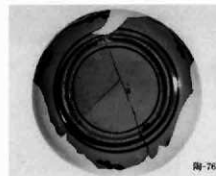
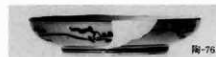
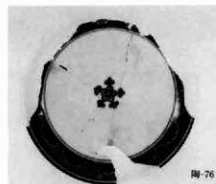


陶-26

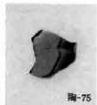








PL-172



陶-75



陶-75



陶-64



陶-71



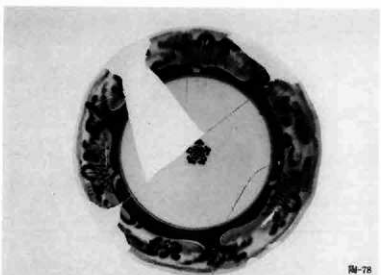
陶-69



陶-73



陶-68



陶-78



陶-67



陶-66



陶-78



陶-77



陶-78



陶-79



陶-80



陶-81



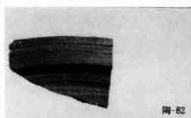
陶-81



陶-90



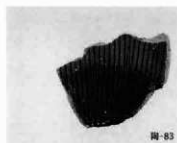
陶-82



陶-82



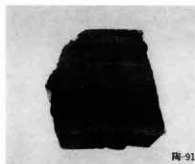
陶-102



陶-83



陶-83



陶-91



陶-89



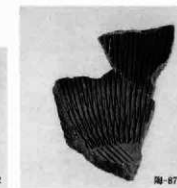
陶-89



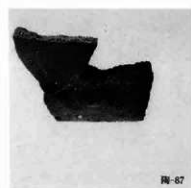
陶-93



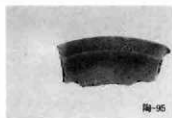
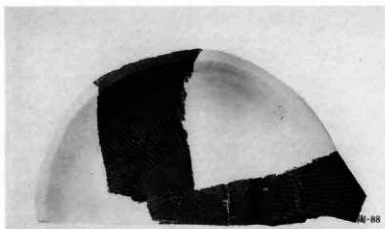
陶-102



陶-87



陶-87



群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告第94集

有馬遺跡 I 大久保B遺跡

一関越自動車道(新羽線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第26集一

平成元年8月25日 印刷

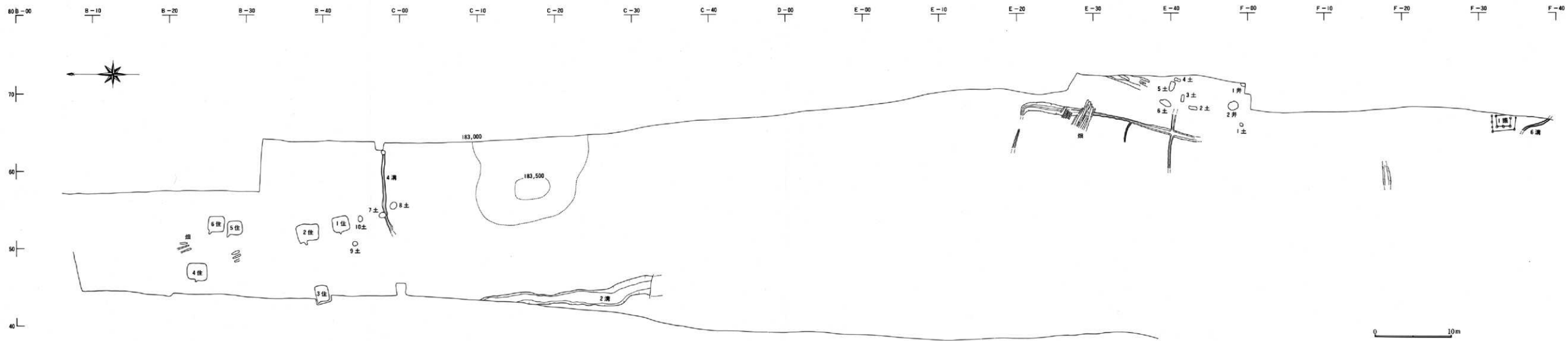
平成元年8月31日 発行

編集／群馬県埋蔵文化財調査事業団
勢多郡北橋村下箱田784番地の2
電話 (0279) 52-2511(代表)

発行／群馬県考古資料普及会
勢多郡北橋村下箱田784番地の2
電話 (0279) 52-2511(代表)

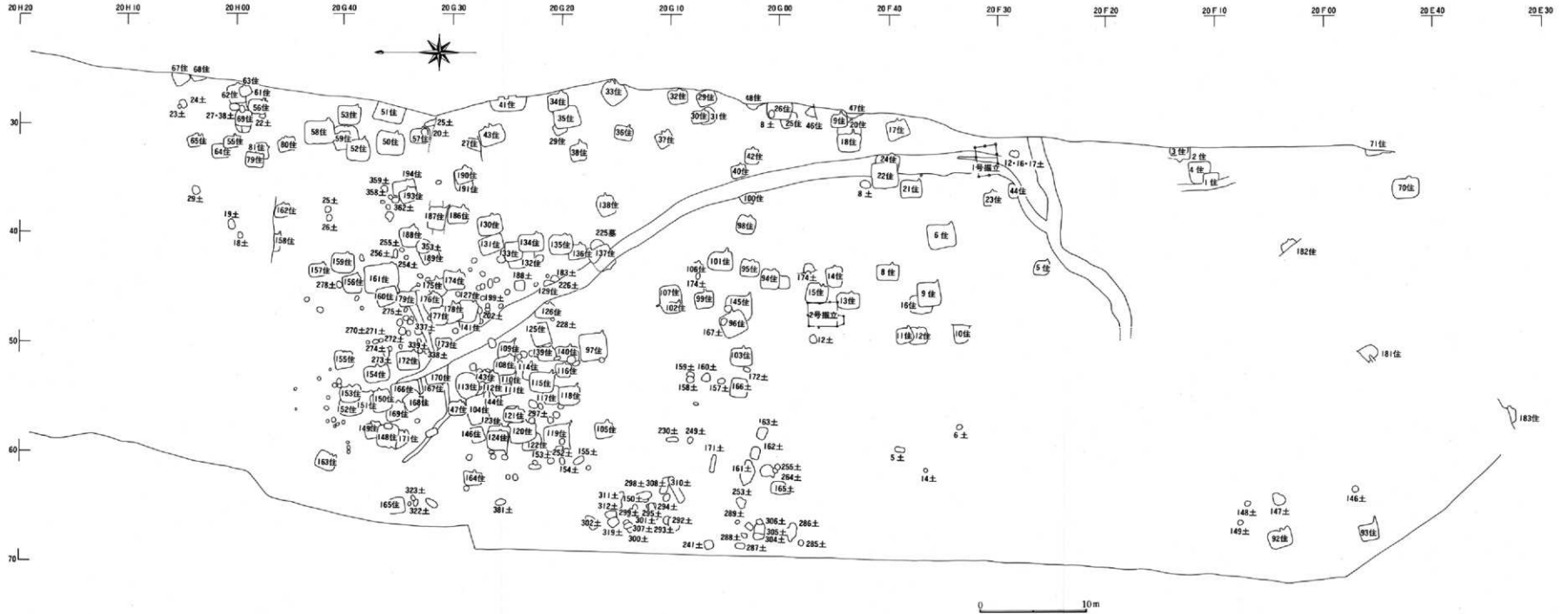
印刷／朝日印刷工業株式会社

大久保B遺跡全体図



0 10m

有馬遺跡全体図 1



有馬遺跡全体図 2

